

“序”原書缺第1面。

循其地觸目新眺雲
 白煙諸峯蒼翠如到凡
 紫洋河一水混混而東
 竊歎山川靈秘會有時
 而發而猥以才弱未克
 網羅放失勒為
 以
 脩輶軒職志用是歌取
 非一日矣歷下楊君寧
 是邑之三年政修人和
 始有事於撝葺乃於陳
 編去蝨鉉之餘得舊人殘
 冊黯湮躋駁剝斷橫決

若延名宿相與商略異
 同伴繫而寸度之更益
 以其所未備事取其覈
 實者辭汰其複重者凡
 三閱月書成計若干卷
 於是而一方之掌故翠
 然脩焉君於茲役可謂
 無負職業矣古之良吏
 其為治也必先知其習
 俗之所尚風土之所寓
 以及昔人得失之所存
 而後歸之於政無偏倚

違反之弊邑乘者亦掌
 古八官之距墨也逸詩
 云唐道挺挺我心局局
 講事不令集人來定天
 講事也而集人以定君
 子鑿之矧其援古以証
 今且信今即以貽後其
 為功也不益愈乎此邑
 志之所以不可不作也
 雖然有為君慶者昔鄒
 元公經一注析於北而
 清於南程大昌作雍邱

往往多傳聞之誤識者

不無遺議君幸宜

大平盛世牽絲邊邑簿書

之暇從容諮訪其論撰

皆履轍所經無耳食之

悞使後之讀君書者快

然無憾則君亦可以無

憾也而余於披對之下

亦資籍以慰夙昔未酌

之願其樂觀厥成又何

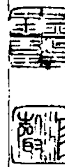
如也其為序

乾隆六年歲次辛酉冬

十月中澣分守口北道

按察使司僉事錢塘金

志章



序

乙考列國皆有史官掌記時事而後史官之
朝廷必方時之軒採之稍有遺漏則亦無所參
守土者慮及此題仿周官土訓謂讀遺逸各以其
所視記志於其書以守一方之籍以備輪軒之采
志亦甚矣哉懷安故國朔地上世印矣其發前明
始此為所錄京師

國朝康熙三十一年遷改邑為縣然百十年來政令
之官司賦粟籍之輿編主俗見之風語文章禮樂傳
之遺族之家凡在直省為一宗為省志為郡志為志

莫不朝石以書野有定本為懷邑之志圖焉未詳已
未之歲余自龍門臺移茲邑慨念是為邑所當務會
政之未同嘗與邑士大夫考之在復久之乃獲平生并

所研前宰殷氏志業於故牘中又獲晉武氏續志
後先展賜亦約畧有可表見然皆借以手訂梓去其

所遺棄日久漸且舛訛心越歲辛酉郡太守王公徵
下前志修志乘適余數以是請託奉敬欣然為某

所為志乘之錢塘李廉集軒錢君君君君君君君
以陳書君君君君君君君君君君君君君君君君
而或或或又本之八九已矣諸君志乘之君君君君

隣郡邑志綜影紛紜務之為疑考信斷以義例為
 二十四卷凡四閱而始而書以成於獻天下志之
 非難志之而可志之難也夫人於著作之林書下
 能以盡其職自謂振動易文難釋又非井此不能
 誠信之書渺不可得僅於零文斷簡竊取一二遺
 徵之編手別錄異地稗傳斤斤為之補苴為之雕鏤
 如且而欲訂其修鑿擇之精而語之詳豈不難哉豈
 不難哉然而於膏乾乾不改俾勞舉夫政令之章賦
 粟之籍風謠之紀文章禮樂之傳所為百十年未闕
 焉未詳者亦幾幾乎可以一方之籍傳國史之採
 突而獨有可重念焉者懷遠境近京師乃五百里
 教小易究昔文翁刺蜀澤以詩書便率武城治以教
 歌使密邇
 較補單且仍安朴儉詩書之澤不長絃歌之治未洽也
 或覽交急章以頌教訓也可乎哉方今
 蓋下蒸蒸禮樂查沛文思邇於海隅日出門不率作屬
 在親炙之地為合者方當與斯土斯民共游於涇
 燕陶之內於六明之化以庶幾仰副中天之治也
 高一則於斯志之豈不禁三致考焉若夫其錯
 乘之煩則周自知身為其難即以爲後此者之焉不

云爾是爲序
 乾隆六年歲次辛酉夏六月下浣之吉懷安縣知縣
 濟南楊大島玉峰氏題

纂修懷邑志序
 三西之嚴懷邑侯君介谷太谷王先生為
 耶先令先生與余叔學使者香樹先生約將延余
 長書院上不果行至是乃以其郡邑志相屬而物
 亟以聘來不獲辭適蒙臬臧事余惟志史類也人
 作一代之史必具有一代之識然後是非明而褒貶
 定作一邑之志必萃有一邑之觀然後得以徵往事
 而思來者古之學者嚴其擇博考信於六藝益不
 敢苟於著作若斯也以余弁鄙既觀無文而懷邑
 邊邑自以以來因循且數載掌故迄無可考庶
 四十六年而邑宰殷氏補敘又未經訂具其所
 存累日漸零缺其傳聞劉呂之誤益以匪鮮其後此
 著述終已無聞則所謂一邑之志於何事矣余自
 月始來志局早夜與場侯考訂惟恐忘已事之已出
 而又不取苟且云爾也恐恐者謂難也於諸聞見
 必本諸府志以求其合必參諸省志以觀其通必
 諸歷代文傳以徵信而考疑每一舉出與場侯參互
 往復必俟於凡四閱月二書成而志成書宋即
 立山有常州守之志而東河間以爲山道遠了八無
 以屬懷邑之志焉夫知境內山川則其志

可知朱文公渡南康用三轍向郡志君子謂其知所
 爲侯之爲志不也則其山川舉夫一邑之在而
 思來者一一見觀於此其侯之政之次第節目全
 日徵之公邑異日以炳史册即斯可觀矣侯誠知所
 元務者誠侯名大臯字三峰嘗令能明其惠政如
 在懷時太守王公名者輔字近顏清勤屬盤錯益
 堅厚之介於太守以屬筆於余茲亦可觀相與之致
 也已志九二十四卷錢依按諸邑篇

乾德六年辛酉季夏錢塘錢敦會拜序

楊公德政誌

有公諱大臯字玉山東海南歷城世胄也公任龍
 門豐碑阜阜丁循良聲馳隆已未歲其四月蒞臨
 土甫下虛懷若谷周諮民隱凡之當去之當
 與者無不次第舉行懷已舊有水患縣城與柴石最
 熾公曰度形勢築隄疏河水患以息云微禹吾
 其魚其此之謂乎修葺

聖廟設一亭及敬一書院建立之衛養正書院俱資膏火
 以誤讀辟雖鐘鼓之化於今再見也懷業未編保甲
 公力行之也夜嚴稽農安寧商安於市矣且才志

勤慎察其弊積吏不得舞一平無由生詐四境之內
 胥汰浴於光天化日之中其折獄也惟公則明性明
 則斷無煩言而民自不克勝者不勝者咸曰神明
 宰也循行阡陌補助兼行修築橋梁徒窮並濟被災
 者請貸以恤之流亡者捐棺以殯之款賑賑待火
 不止於五百施藥療疾刺普濟乎萬生噫溺已
 溺鐵由已饑念切民瘼痼疾在抱七聖王之下車而
 泣思又枯骨者等是意也今又纂集志業備載羅里
 山川搜羅古今人物從前未有之美自此而加公
 欲彰善以勸善等望恐極公之善於不彰乎

期列諸名宦承垂不朽公以職分宜然未允所勸

以俟來茲之續志者

丙子科人原任浙江紹興府鹽運使知縣人張



凡例

一 懷邑故無志乘中興四十五年縣台三轉... 始為初集等以武氏續之二稿俱未付刊日久漸缺茲業經參訂考信補正殊費蒐討覽者莫不建焉

一 舊志編為綱十四分目九十標舉大端茲約為二... 十匹卷不復繁稱而舊志經日半包其中

一 星野從宜府志屬尾歷代固有異同舊志稱兼列... 另有未知助於何書或者以借占驗聊仍兩存

一 沿革按門孫太史宣贊... 說舉一郡大畧于... 未無所傳志稿抄襲... 諺茲本孫志折異... 全元三史詳加參考雖未敢云悉備然于古今建... 革粗覓率然

一 疆域沿邊各界舊志目為外地我之... 治所轄則... 皆疆域內也... 附焉俾知... 饋所屬邊... 封尤重正不當域外行之矣

一 山川舊志僅列其名今採宣鎮志... 輿地通志... 增... 疏其... 支派... 及... 形... 附者知所... 邊... 關... 者... 可... 印... 也

一 城池創始重修必... 係... 慎... 封... 守... 也... 城... 堡... 渠... 系

一 地險所奇準以附入

一 公署舊志率多... 詳其方... 其修... 右... 庫... 場... 局... 依... 次... 登... 坊... 宇... 營... 房... 線... 額... 附... 入... 即... 舊... 署... 建... 暨... 不... 一... 亦... 並... 觀... 樓... 俾... 謝... 厥... 經... 營... 場... 外... 官... 邑... 之... 心... 身... 知... 不... 異... 之... 矣

一 學校師道所關典禮特隆他志列學堂入祠廟非... 並... 師... 禮... 今... 改... 登... 學... 校... 俾... 知... 舊... 世... 即... 表... 非... 常... 祀... 所... 存... 而... 同... 又... 詳... 其... 器... 數... 使... 不... 闕... 於... 祖... 且... 至... 名... 宦... 鄧... 賢... 隸... 亦... 說... 近... 不... 無... 緣... 飾... 然... 誠... 半... 猶... 有... 亦... 可... 顯... 著... 志... 義... 並... 臚... 其... 氏... 稱... 斯... 祀... 者... 安... 享... 之... 其... 不... 稱... 斯... 祀... 者... 自... 然... 其... 不... 安... 也

一 戶口田賦依照賦役全書載自順治年始前代故... 籍... 無... 或... 不... 復... 備... 及... 其... 代... 徵... 雜... 稅... 積... 貯... 則... 準... 田... 賦... 附... 冊... 戶... 口... 已... 均... 入... 田... 賦... 而... 仍... 分... 畧... 者... 民... 數... 至... 重... 故... 另... 卷... 云

一 武備邊方特重 本町屬地設兵因率不一... 志... 缺... 漏... 殊... 甚... 今... 悉... 按... 現... 在... 經... 制... 分... 條... 序... 列... 而... 以... 戒... 復... 舊... 制... 附... 注... 於... 下... 并... 類... 犯... 刑... 以... 備... 參... 攷

一 職官舊志未詳... 向... 當... 各... 要... 衙... 門... 達... 京... 外... 通... 遊... 貢... 供... 德... 恒... 應... 不... 時... 年... 增... 設... 夫... 鼎... 幸... 無... 製... 寸... 政

特列一卷而以...

一 祠與舊志於秩... 祠... 廟... 而... 祀... 以... 凡... 年... 一... 訂... 茲... 凡... 祠... 以... 自... 理... 壇... 次... 廟... 祀... 次... 附... 寺... 觀... 一... 一... 以... 存... 舊... 制... 不... 諸... 冊... 電... 錄... 從... 茲... 焉

一 古蹟舊志惟... 懷... 邑... 城... 九... 王... 城... 一... 書... 而... 已... 今... 志... 宜... 與... 志... 兼... 輔... 通... 志... 可... 採... 者... 增... 入... 間... 有... 一... 傳... 聞... 亦... 必... 為... 諸... 典... 故... 無... 稽... 者... 必... 次... 不... 敢... 傳... 曾... 以... 茲... 考... 古... 者... 疑... 也

一 職官自嘉靖宣鎮志後記載無傳即 本朝夫改... 縣... 之... 前... 亦... 復... 故... 陳... 散... 佚... 志... 業... 已... 未... 遑... 備... 考... 以... 今... 更... 越... 歷... 年... 遍... 加... 稽... 訪... 有... 得... 其... 什... 一... 分... 類... 次... 考... 並... 不... 及... 茲... 官... 以... 備... 掌... 故... 其... 已... 佚... 而... 無... 可... 考... 者... 亦... 付... 之... 無... 如... 何... 夫... 選... 舉... 率... 此

一 名宦未必皆賢然人才難得其間有... 一節取者... 汗... 諸... 簡... 端... 以... 勸... 將... 來... 人... 物... 幸... 此

一 人物論定始書其生卒者例不得錄故如左... 卷... 報... 孝... 子... 劉... 恒... 李... 天... 珍... 周... 德... 恩... 行... 唯... 可... 採... 未... 已... 厥... 終... 不... 及... 茲... 入... 以... 考... 史... 例... 謹... 識... 其... 姓... 名... 均... 漏... 以... 俟... 續... 考... 錄... 焉

一 列女按據宣志舊志... 地... 堡... 墓... 葬... 必... 擬... 行... 禮... 方... 內

一 列女按據宣志舊志... 地... 堡... 墓... 葬... 必... 擬... 行... 禮... 方... 內

一 列女按據宣志舊志... 地... 堡... 墓... 葬... 必... 擬... 行... 禮... 方... 內

一 列女按據宣志舊志... 地... 堡... 墓... 葬... 必... 擬... 行... 禮... 方... 內

一 列女按據宣志舊志... 地... 堡... 墓... 葬... 必... 擬... 行... 禮... 方... 內

一 列女按據宣志舊志... 地... 堡... 墓... 葬... 必... 擬... 行... 禮... 方... 內

一 列女按據宣志舊志... 地... 堡... 墓... 葬... 必... 擬... 行... 禮... 方... 內

一 列女按據宣志舊志... 地... 堡... 墓... 葬... 必... 擬... 行... 禮... 方... 內

有其人現存而已... 與牛例相符者... 詩已... 待備... 書... 心不與草木同腐... 一藝文以輔志所未達取其互相發明故有... 於山... 川風土人物政教事... 者文雖質必錄其詩... 關... 靡而於章故無涉則章從關云

懷安縣志

纂修趙氏

纂修

懷安縣知縣楊大... 山東... 南人

編修

陳暹知縣壬子科舉人錢啟曾... 浙江錢塘人

監修

懷安知守都司孫至剛... 元江西彭澤人

參訂

懷安縣儒學教... 運有直隸同... 人

校梓

懷安縣典史施有典... 浙江餘杭人

萬全... 丞胡鴻... 山東籍... 人

編寫

儒學武生... 岐... 邑... 人

採訪

王子科... 榜... 邑... 人

儒學... 員張如... 邑... 人

儒學... 員... 邑... 人

儒學武

生王之屏... 邑... 人

儒學附學

員陳天... 邑... 人

懷安縣志原稿姓氏

初稿

前清武進知縣王在英西原莊道殷邦翰 奉天鐵白旗人

同訂

歲 頁 生林 盛大湖廣楚人

增稿

前正原安縣知縣武一輝 山西太谷人

拾遺

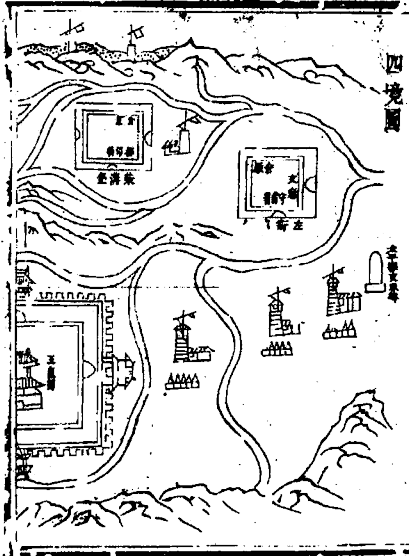
儒 學 武 生周昇邑人

懷安縣志

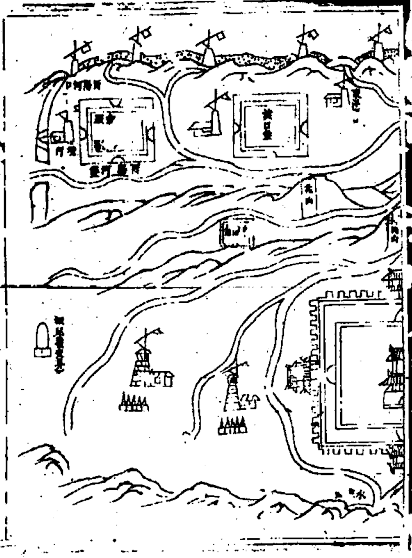
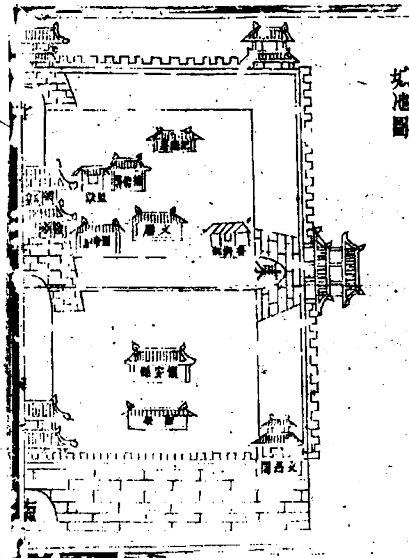
二

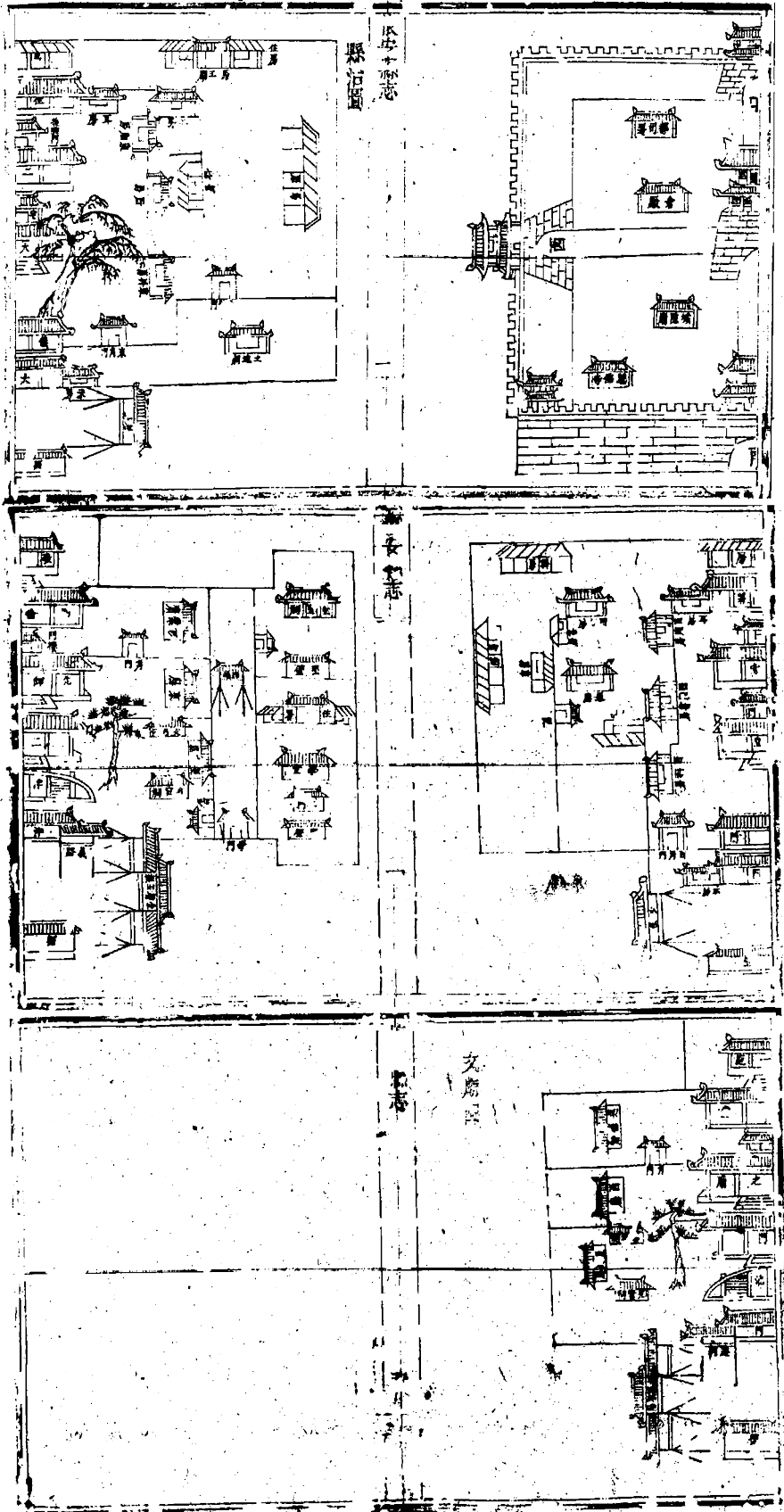
輿圖

四境圖



城池圖





八景

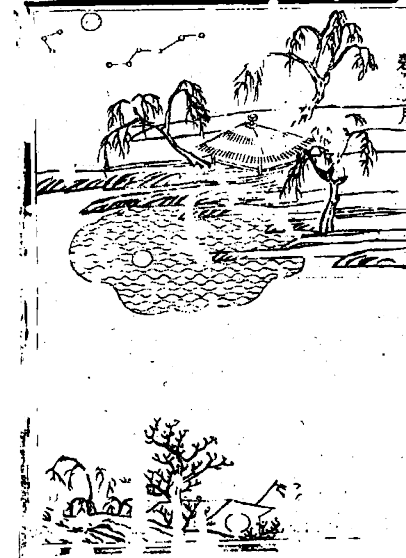




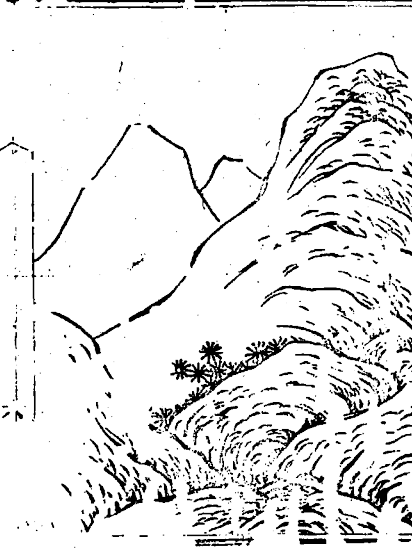
花汀舫

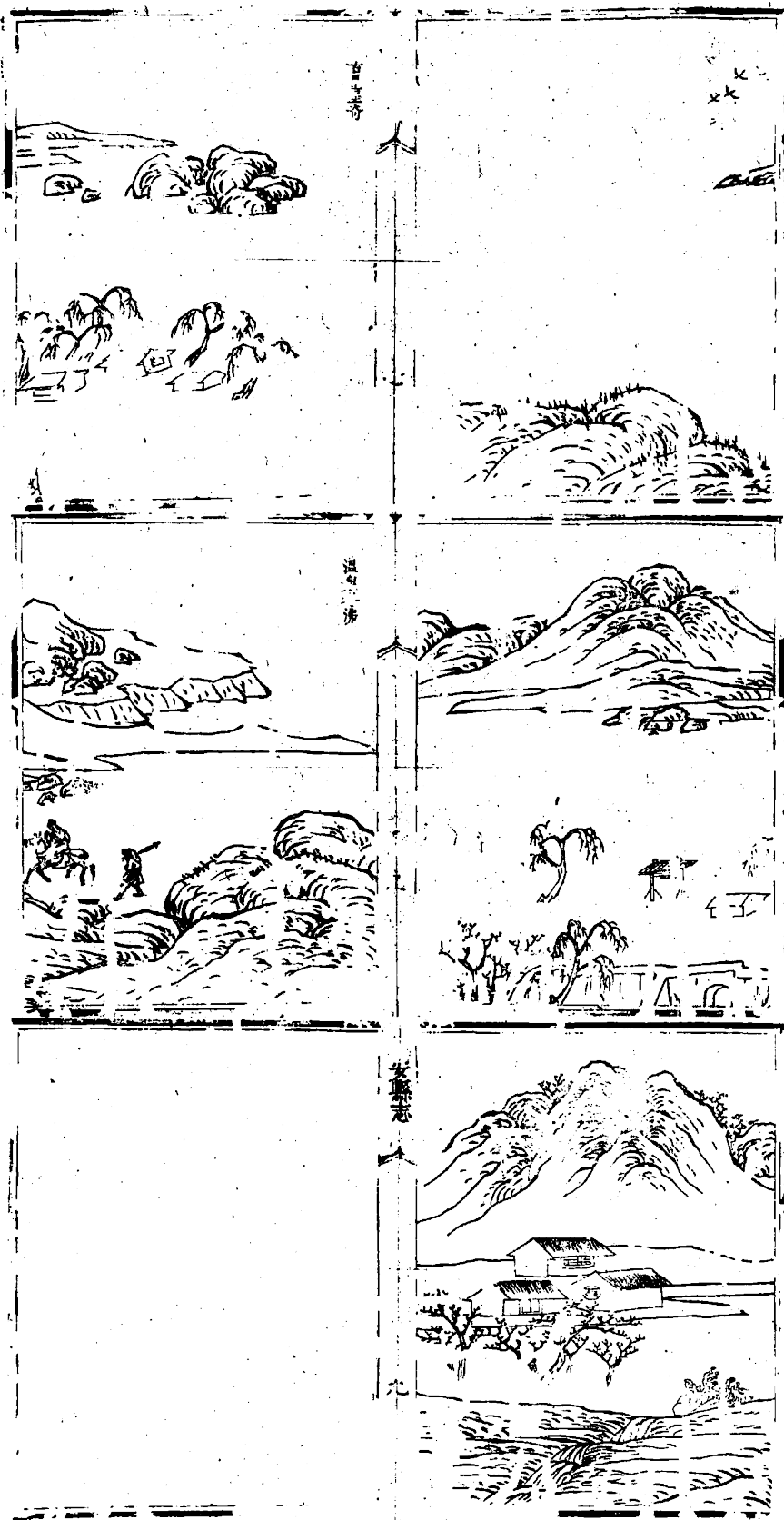


雁入峯



碧湖月





懷安縣志卷之

知事濟南楊大良其修

星野

封域分星久矣然書疑之及考宋鄭宗羅發星野引杜預主祀之義謂惟其人乃是星而為之祀則是星休咎亦隨其地而為之應乃恍然於理之可信而星家者流匪於歲星以封五星所舍命國之論沾沾自求不已殊不知懷安屬宣府燕分其星占尾舊在尾沿莫易後人乃稱兼次大梁夫以一邑而占二星地極不應若是之廣以二邑而舍一邑天經不

懷安縣志

星野

是之狹此其繆悠無俟深辨顧惟予非甘石識味

章不敢憑臆定論姑仍兩存以俾夫善言天者之商榷焉

黃史記尾箕幽州 張守節正義曰尾箕倉析木之

燕分野小考之顧天河間占尾箕宣府上尾

漢志燕地尾箕分

晉志自尾十度至斗十一度為析木 張衡云尾箕

幽州上谷入尾一度

唐志初尾七度餘二三百五十秒二十一分中箕五

度終南 八度自渤海九河之北得與廣陽上谷

宋志尾九

去極一百二十七度半 尾五星距南第一四度半入尾宿十度一星去極一百二十六度入尾宿十五度半傳 星法極一百八度半入尾宿

金史尾三度

九十七分九十二秒外燕分

元史尾三度一分一十五秒八析木之次

明一統志高全隆慶保安天文尾分野

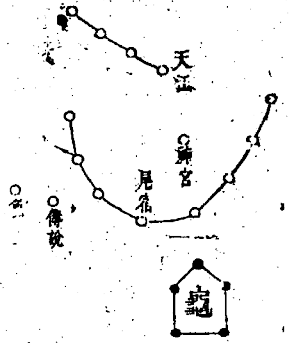
宜鎮志東方蒼龍七宿次六為尾於辰在實於州

幽

懷安縣志

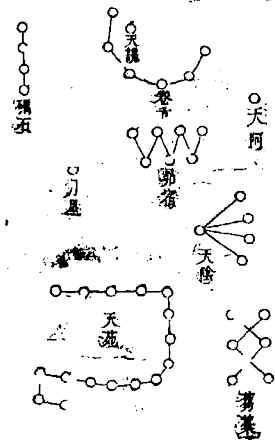
星野

尾宿圖



隋丹元子步天歌

為十果之次於辰在酉趙之分野



懷安縣志

星野

隋丹元子步天歌

尾宿

九星一鈞蒼龍尾尾下五星號龜星尾上四橫天

是尾東一星傳說名傳說東畔一魚子尾西一室

神宮所以列在后妃中

昂宿

七星一聚實不少阿西月東各一星阿下五黃天陰

名陰下六鳥鬚鬚營南十六天列形門六星名

卷舌舌中黑點天 石舌傍斜四丁

前 殷氏曰按步天歌言尾及諸雜座之名

與... 亦必不至兩失也
按唐一行以兩... 山河以斗為綱以雲漢為紀
析木居天之良得... 未派為北之... 而燕窮
北紀之曲故以未派之析木為燕唐法象志庸
十一葉嘗闡其... 上谷屬燕周秦以來未
懷安屬宣府宣府屬上谷上谷屬燕周秦以來未
之有改則以上... 谷統懷其為燕分析才
之古尾無疑矣... 若以其地按... 中舊晉更...
稱占舅殊不思... 更隸乃後人... 乾治起見荷... 其故
則其為燕之野... 固不可易也... 即如蔚州向... 隸掌中

懷安縣志

卷一

四

初辛晉湯武氏論三分之說不可拘也懷以...
考之以上察災祥... 稽考政... 徵驗得矣
於心具尾... 之外綴以... 宿庶使達觀者可...
聯若龍統屬... 為墟驗尾... 恐占變未必... 合也...
安為宣之屬... 邑宜占尾... 矣但觀... 一邑東北... 為宣
夫日在畢... 則月在尾... 故四月... 望月食... 亦主尾... 分
尾故十月... 朔日食... 則占主... 尾分... 五... 之... 日... 在畢
冬月占月... 有災... 孟夏... 月占... 孟冬... 之月... 日... 在
與

懷安縣志

卷一

五

今改隸宣府蔚縣志則... 為燕... 屬尾... 箕而... 州
之稱趙分未明... 扶其說... 漢書地理志... 雁門於天
文則屬燕... 燕地... 尾箕... 東有... 滎陽... 右北平... 遼西...
西有上谷... 代郡... 雁門... 南得... 涿郡... 之易... 容城... 范陽... 七
新城曰安... 涿縣... 良鄉... 新昌... 及渤海... 之安... 次皆... 燕分
也蔚州... 故代郡... 王城... 在焉... 則其... 為燕... 之分... 野已
不待深辨... 晰矣... 夫以蔚... 之素... 絳... 雲... 中者... 尚不可... 合
燕分而占... 趙分... 而謂... 倘爾... 更... 緯... 之... 懷安... 曰... 越... 燕...
跨趙占入... 大梁... 善夫... 杜預... 之注... 左傳... 也... 趙
伯於商... 即主... 辰... 遷... 實... 沈... 於... 大... 夏... 主... 參... 通

懷安縣志

卷一

六

印... 於辰... 大... 夏... 豈... 有... 當... 於... 參... 而... 主... 辰... 主... 參...
主祀也... 主其祀... 之... 占... 應... 為... 即... 分... 野... 之... 星... 於是...
平定而歲... 星所封... 五星... 所命... 命... 國... 之... 論... 可... 廢... 矣
是又豈... 僅... 為... 區... 區... 之... 燕... 之... 分... 野... 辨... 乎... 哉

懷安縣志

知事：林事濟南楊大昆纂修

沿革

懷之為縣建自

國朝其在前明一邊治耳縣之左衛柴溝西陽水入治

丙莖亦漢小倒狹矣訓明而上若元若金若宋唐漢

廢置益以狃莽中回或設鎮或設縣或稱懷安或稱

夸與乎其疆索均非確然今之縣治也顧景天禹

所經土有自啟域有自封造胎因必權其別酒歷

敘代自禹貢始志建置沿革

懷安縣志

禹貢冀州之域

商

周

八年到山後也六翟相身應屬趙按燕十五年八年

龍兌門廟樂於趙奇武不可考平舒在今廣

甯縣西俗呼平水城能兌漢書註曰即龍山龍門

即今遊化縣西北石門也隔

樂善善註曰在固關可安縣

秦 始皇二十六年分天下為三十六郡屬上谷郡

漢 初屬上谷郡 武帝元封元年為奇與屬幽州

部 故宜縣志元封一年分天下為十三郡與郡縣

部 故太守共屬縣以合上谷郡屬幽州郡領縣

察 此電縣之始

後漢

十五年復屬上谷郡縣尋省獻帝建

安十八年省幽州一州歸冀州 三十五年魏不

蔡漢復置幽并二州是時府地屬幽州地復於

武帝太康元年分上谷地置廣寧郡 咸帝咸康

四年漢於後趙石勒 穆帝永和六年沒於燕慕

容壽 帝奕太和五年沒於秦符堅 孝武太元

元年沒於後燕慕容垂 二十一年沒於魏拓

珪

宋 順帝昇明三年元魏合上谷廣寧為東燕州收其

縣下落日文德 按宜縣志下燕州領廣寧東史地理

懷安縣志

唐為州屬歸化州高勳鎮

武帝永定二年北齊改之燕州為北燕州

喜 太宗貞觀八年改北燕為媯州其武州西沒於

厥者咸取之媯州北道是時縣廢為墟荒涼故

理志安縣本漢奇與縣之遺墟至晉為 元宗

突厥所據唐克爾利縣遂廢為遺墟

天寶二載改媯州為媯州郡山後諸縣屬之其武

州仍領縣文德 穆宗長慶二年置為懷安縣屬

新州 故宜縣志長慶二年改媯州郡為媯州領縣

門懷安按此 宗會昌年置山北八軍新州

邑得名之始

縣屬武定軍

後漢

三年首石敬瑭 後諸州路契丹契丹建國就

日遷是時縣地入遼屬奉聖州 收屬二府府

西京道

宋 真宗祥符七年契丹分歸化地置德州 德州今領

縣四 懷安 即今一威寧 今縣左衛西北之按邊

遠以歸化 順德 後分文德地置懷安

屬奉聖州尋改 屬大同府其德州屬中

西門店置通開泰八年以漢戶復置懷安縣

懷安縣地遠地理志無分歸化地置德州及

懷安縣之文茲本宣 宗宣和四年金日契丹

皆武新媯等州以其地來歸 八年復陷於金仍

置西京路 孝宗乾道三年金以歸化州為宣化

州復更為宣德州省德以所屬縣屬之 故宜

城舊為文德縣即漢下洛縣 光宗紹熙三年

故地金大定二十九年更名 光宗紹熙三年

五燕州尋于為懷寧軍領縣四一集寧 今縣一或

寧今其東北 按金史明 三年以奉州屬懷

地理疑與今縣無涉 理宗景定元年元旌撫州

仍置鎮志書之懷安等縣屬之

為宣與府制宣德之懷安等縣屬之

元 初屬宣德府 中統三年改屬中和路

明 洪武二年取興利 二年宣德諸郡縣皆平徙其

改宣德曰宣府縣廢 二十六年置懷

安府縣之西二十里即今北平都指

揮使司領之天祐丁六年辛北午都指揮使司

銜隸京師 宣德五年置萬全指揮使司以懷

安諸衛所屬之隸京師如故 正統三年宣府設

巡撫都御史統轄朔外之諸衛地方 成化十年

置分西路察將於柴溝堡以張家口萬全左衛

居房新河口屬上西路沈馬林柴溝西陽河懷安

屬下西路 崇禎八年以上下西路並懷安

界之南山路隸分守道

明初成化八年以懷安衛屬萬全都司裁府邊懷安

懷安縣志 十一 沿革 四

洪堡參將等官 康熙四年收林山口寺仍舊

二十七年臺臣條奏衛歸併州縣部覆仍舊存

留 二十二年改懷安衛為懷安縣併左衛柴溝

西陽河所屬之屬宣化府隸直隸保定布政使司

懷安縣志

知懷安縣事齊南場入皇纂修

形山 山以糾紛地險而狹蓋統宣府全勢言之其在懷安

西路之餘壤王然以接鎮城於連雲幕裘積其襟

帶洋河以所奇鎮城焉馬寺人云李信屯交界

一馬公言兩鎮此互容已則其要害亦可知已今才

天一安寧分防若可無事然而職在司城敢忘故

義平志形勢

明都御史韓邦奇請城險要論畧曰全信屯宣府咽

喉其地兩山俱盡聚與大同攬無不惟止邊北兵

亦可潛消慮外

另都御史許 論防守要害畧曰宣府山川糾紛地上

分分已建將治於他鎮去京師不四百里鎖鑰所

要一等 知定路之柴溝沈馬林萬全諸城皆稱敵

三一等 焉馬寺信屯交界之堡以回兩鎮此宜

容一字

另一等 守將翁萬達擇要併守一宣府大同外

連極寨以捍殺平一西保一天時諸羅而藉庇乎

外一為重地而宣大急備宜天宜以戰為守

兵諸關亦以守代戰畫界限而聯成

又曰敵人場和則一村為一兵之所足以南邊屬

之驅西接天城之急又萬全一懷邑一兵則敵

不敢東而大同鎮兵自西出遊擊一奇也 又曰

宣府張家口沈馬林西陽河諸處為敵要衝一與大

同天城一西垣既成東垣不舉敵將避固攻毀一

之一大同者失之宣府矣 又曰宣府西路沈馬林

西陽河者兩鎮接壤也地不可棄兵必有後修宣

疆域而置大司成卒於絕一不惟大司也便一日

援一置宣府西陽河於境外不惟一是故守

懷安縣志 十一 形勢

成一備一大司一有警而宣府一以兵至

下一應一者一非一宜府

宜鎮邊垣形勢總論曰宣鎮險隘若北路之獨石口

之極衝至西路之張家口西陽河又稍次焉其餘

則衝緩石半蓋北路為延寧之藩而西路則宏聖之

屬也

前辛三韓股氏一近路形勢論曰沈馬林柴溝西陽

河一極衝衝一次之蓋云路管一北之一坪為東

北之屏障若李信屯一在偏營懷安城一達通衛距

與一西路與觀也 又曰明太祖既下

恭政傳有德都督劉其指揮使李彬等
審視宣地要害區詳寸驛東連京大爭北連開平與
亦區連大同設官守禦之今懷安併之於海西陽
以及舊衙所屬之李信屯基趾俱在形勢可稽雖中
外一家防禦可以小事然安不忘危控制之遺蹟不
可廢也

懷安縣志

三 形勢

三

懷安縣志

知懷安縣事李南揚大員纂修

一區之地唯分置在掌龍微抄涉千尋是以職之
所掌務在周知將上巡邏得緝賊若聚米成山然後
按籍而治可察也懷白聖縣以遠幅頓式郡且幸承
人民亦安土成俗非如向者烟火察察特其地
接邊變往來樑雜而長谷阻經界宜周嚴斯疆
得不重為申畫計哉志願

縣城

懷安縣志

之四 疆域

東云太平寨宣化縣界八十里
南至馮奈庄西寧縣界三十五里
西至枳兒嶺山西天鎮縣界三十里
三榮溝堡邊互分九十里
東南至北口堡宣化縣界三十里
東北至許家庄萬全縣界八十里
西南至馬家灣山西天鎮縣界五十五里
西至李信新屯山西天鎮縣界二十里
東西廣一百一十里

百二十五里

東至

方圓共四百五十五里

京口一百八十里

東南至保定府城八百一十里

東至宣化府城一百二十里

南至西寧縣治一百二十里

西至天鎮縣治一百一十里

北至張家口一百里

西至殺虎口四百四十里

東至獨口口三百八十里

懷安縣志

之四 疆域

東云屠備關三百五十里
西至山西大同府二百四十里
東北至萬全縣洗馬林口八十里
縣之北庄至縣里數
黃家灣 十里 邵家堡 十里
前所堡 十里 小屯兒 十里
俞家屯 十二里 韓家屯 十五里
曹家莊 十五里
塔兒村 十五里 朱家莊 十六里
磨泥溝 十八里

黃上微	十里	左所堡	十八里
邵欽大屯	十八里	明家屯	十八里
谷戶堡	二十里	耿家屯	二十里
一堵墻	二十里	何家窩	二十里
瓦窪口	十五里	楊家庄	二十里
灘泥溝	二十里	頭百戶	二十二里
莊子	二十五里	官莊子	二十五里
李家溝	二十五里	王益窩	三十里
湯家屯	十里	南家屯	七里
懷安縣志 之四 通城			
三橫屯	十里	王益窩	十五里
馬家窩	十五里	蓮花屯	十五里
香溝	十八里	蕭蔴溝	二十里
水家河	二十五里	富家寨	三十里
塔石寺	三十里	下水松溝	三十里
李家坡	三十里	董家溝	三十二里
瓜松溝	三十二里	董家平	三十五里
王會庄	三十五里	石岩溝	四里
便村	四里	同家梁	四十里

黃上微	十里	大庄科	四十里
倒回溝	四十五里	胡家屯	四十五里
辛家子	四十五里	十字河	四十里
喬子溝	四十五里	高家寺	四十五里
馮奈庄	三十五里	南灘泥溝	五十里
殷家窩	五十里	南高崖	五十里
家梁	五十里	李家梁	五十里
左所溝	五十五里	鄧家陽坡	六十里
大老溝	六十里	南刀溝	六十里
東四宜溝	七十里	馬家溝	六十里
懷安縣志 之四 通城			
縣西村中至縣里數		七羊店	五里
北瓦窰	四里	十里舖	十里
右所堡	八里	張把西屯	十里
家屯	十里	下羊房	十五里
暖店	十五里	羊房寨	十七里
榆林屯	十五里	中所堡	十八里
簪子頭	十七里	東寺溝	二十里
下上屯	十八里	黃家屯	二十里
王虎屯	二十里	西寺劉家溝	二十里
王泉德	二十里		

上下井	二十五里	團山堡	二十五里
李家庄	三十里	郝滿庄	三十里
枳石嶺	三十里	張家窩	三十里
李信新屯	三十里	李信舊屯	三十五里
白玉庄	三十五里	位寧庄	三十五里
王家庄	三十五里	史家庄	三十五里
懷安縣志 之四 通城			
縣西村中至縣里數		北顧家窩	八里
北黃家窩	五里	楊家窩	八里
第九屯	九里	郭家窩	十五里
武王寨	十五里		
趙家坡	十八里	安家溝	十八里
梁家窩	十八里	朱家夜	二十里
關家溝	三十里	小高崖	三十里
家庄	三十里	任家窩	三十五里
西沙城	三十里	王應庄	三十里
東沙城	三十里	唐家窩	三十里
張王窩	三十里	北高崖	三十五里
黃家溝	三十五里	張家場	三十五里
雙屯堡	三十五里	北庄堡	三十五里
花山堡	四十里	西溝裡	四十里

柳洞兒	四里	向陽村	四十里
水瀾屯	四十里	范慶屯	四十里
塔兒寺	四十五里		
縣治左衛東南村庄至縣里數			
岳家坨洞	二十五里	牛家庄	二十七里
三十里店	三十里	韓家屯	三十二里
平庄	三十五里	南九場	三十五里
夏家屯	三十五里	小鶴子水	四十里
黃家新寨	四十里	北一堡	四十里
朱家庄	四十里	香子溝	四十五里
假安縣志 卷之四 疆域 六			
趙家寨	四十七里	岳家庄	四十七里
岳家新寨	四十九里	陡一堡	五十里
纏道坡	五十里	牛心川	五十里
集園	五十五里	常家溝	五十里
中菓園	五十二里	下菓園	五十三里
陳家寨	五十五里	高家寨	五十五里
閻家嶺	五十五里	毛家坪	六十里
南家庄	六十里	殷房庄	七十里
形家寨	七十里	化皮嶺	七十里
夢家寨	七十五里	南康家寨	七十五里

正王庄	八十里	水泉梁	九十里
石坡堡	九十里	南寨庄	九十五里
縣治左衛西南村庄至縣里數			
南堡裡	二十里	二百戶	二十里
頭百戶	二十里	舊懷安	二十里
張英窩	二十里	張家寨	二十二里
泥溝	二十二里	趙家新寨	二十三里
謝家寨	二十五里	閻家溝	二十五里
泰家寨	二十五里	南家寨	二十五里
上王庄	二十五里	李家底	三十里
假安縣志 卷之四 疆域 七			
白河溝	三十里	葉溝寨	三十里
牛角堡	三十里	第 梁	三十里
西康家寨	二十五里	高家寨	三十里
八里溝	三十里	徐杜寨	三十里
第五寨	三十五里	第六寨	三十五里
劉家寨	三十五里	和尚溝	四十里
南李家庄	三十里	獅子口	四十里
段家庄	四十里	許家高山	五十里
流水溝	五十里	大鶴子水	五十里
魏家新寨	五十五里		

縣治左衛東北村庄至縣里數			
莫家庄	五十五里	別家屯	六十里
劉家堡	六十五里	東趙家寨	六十五里
兩旗屯	七十里	中間家堡	七十二里
窩站堡	七十五里	上開家堡	七十五里
下開家堡	七十五里	西家屯	七十五里
家寨	七十五里	張家房	八十里
辛庄子	八十里	太平寨	八十里
劉貴賢	八十里	卜六庄	八十里
山二庄	八十里	東康家寨	八十里
假安縣志 卷之四 疆域 八			
陳家堡	八十里	東王家寨	八十二里
鄭家溝	八十五里	許六庄	八十五里
前所寨	九十里	西庄子	九十里
小尙庄	九十里	水溝寨	九十里
乾庄子	九十五里	北李家庄	一百里
塔兒村	一百里	呂家庄	一百二十里
縣治葉溝堡所屬村庄至縣里數			
本 堡	五十里	張家寨	五十五里
桂家寨	五十五里	馬家新寨	五十五里
崩倫屯	六十里	五柳村	六十里

東洋河	六十里	羊營溝	六十里
孫家窩	六十里	北辛庄	六十里
紅溝溝	六十里	黃鑾庄	六十里
北沙城	六十里	老龍溝	六十里
東楊家窩	六十里	西楊家窩	六十里
于家堡	六十里	趙家新窩	六十里
沙家窩	六十五里	富民溝	六十五里
沙家屯	六十五里	良民溝	六十五里
阮家新堡	六十八里	閻家大寨	六十五里
皮宗梁	七十里	王家窩	七十里
懷安縣志 卷之四 疆域 九			
金家庄	七十里	馬家窩	七十里
阮家窩	七十里	八家庄	七十里
趙家窩	七十里	板山溝	七十里
廿海窩	七十里	甘庄子	七十里
縣治西陽河所屬村庄至縣里數			
本堡	九十里	渡口堡	七十里
扒齒溝	七十里	西平山	八十五里
盤道窩	八十五里	雙郎溝	九十里
總鎮臺	一百里	馬家窩	一百里
小桃溝	一百里	韭菜溝	一百里

瓦溝寨	一百里	秦兒嶺	一百里
治家庄	一百里	三道壕	一百一十里
大桃溝	一百一十里	邊界	
柴溝堡邊自平營四小墩起至橋桑墩長四十里			
渡口堡邊自牛心山空墩起至鎮山墩長三十一里			
可易河堡邊自制治勢起至南土山墩長三十二里			
荒地			
柴溝堡邊			
海之溝	離邊三里	秦兒嶺	離邊三里
懷安縣志 卷之四 疆域 十			
草坡山	離邊一百里	東西二土寨	離邊四十里
牛心山	離邊八十里	羅家溝	離邊六十里
渡口堡邊		康溝	離邊五十里
康溝	離邊五十里	乾沙河	離邊一百里
樺林背	離邊十里	柳溝庄寨	離邊五里
黃草梁	離邊二十里	西陽河堡邊	
古城川 離邊二十餘里 紅崖山 離邊二十餘里			
黃土溝 離邊二十餘里 頭道典河			
二道典河 離邊六十餘里 蘇草灘 離邊四十餘里			

懷安縣志 卷之四 疆域 十一			
同回寨 離邊四十餘里 青山 離邊一百里			

懷安縣志卷之五

知懷安縣事濟南楊大興纂修

山川

土之有山川也財用於是事生衣食於是乎成是以國民寶焉而登覽游沐其後也懷邑羣山週遭澗水奔瀾亦頗具高深之致然縉百砂積不任土壤而細流涑涑則資灌漑並無所為靈巖幽壑茂草叢陰足以樂漁漁而稱山澤之賦也者邑之寮涖或士然乎雖然山不在高水不在深以夫也秀逸三首易傳于

懷安縣志 卷之五 山川

雲頂山 城西南三十里雲覆其巔即雨邑人岳倫有

神石生靈詩

栲栳山 城北八里有松紋

石山 城南二十里許形如龍環繞兩峯對峙

下有飛瀑盤旋十餘里始出山

白巖山 城東北三十里孤峯插天腰有白土遠望如

帶土人取以壘壁

平頂山 城西三十里在懷安天鎮兩界間上有天宮

湖四圍廣一六而入可避兵

雙山 城北二十里形如雙虎因名

虎山 城西南二十里上青虎寺相傳為漢高祖

寺遺蹟明成化丙午九月僧德王車錫於此先為異

虎所據僧至而虎遽去尋故山與寺皆以虎名山有

二洞一洞在寺西南數十步冬時暖氣如蒸一洞在

寺北數百步盛時水從洞出凝結成冰入秋漸釋遂

為本縣八景之一

鴛子水山 城東二十里

水溝口山 城南十五里兩山繞時百丈有奇其陽有

海眼泉

熊耳山 城南二十里

懷安縣志 卷之五 山川

花山 城西北三十里春夏多花上有龍池歲旱取水

為雨輒應

北高山 沈馬林堡西二十五里

孤山 有二一東山在沈馬林堡北四十里獨出羣山

一西山在堡北三十里形如特立內產赤石土人

取之為繪畫用

芙蓉山 左衛東南五里以竹巒所在而名

洗馬林 西北四里山有小關洞洞外有泉流

華山 西衛河堡東

香爐山 左衛城內四里形如香爐

沒皮山 左衛西南十里山無草木故名

雙山 左衛西南十五里

紅塘山 左衛南十里下有河其地產西瓜甚佳上有

懸空寺

香水山 左衛南三里

青峰山 左衛西南六十里山有洞名曰雲巢

白雲山 左衛城南四十里山有白雲洞相傳洞內有

橫枕石而臥其石兩半合一中有蓮道遺遺四字

懷安縣志 卷之五 山川

胡湯山 左衛東南五十里山有二洞一名陽洞一名

滴水洞相傳常有神靈棲止其所

九龍崗 左衛城南十里

興亭嶺 左衛東南二十里山腰時多雲霧

寨兒嶺 沈馬林南五里其山合若案

枳兒嶺 城西三十里接界山西之天鎮縣為燕雲門

戶要塞

雪嶺 西衛河堡南八里

花皮嶺 左衛東十五里

黑龍洞 沈馬林堡西南

狹之洞 城西南與頭山中小水入人煉丹處

水溝口河 城西南源出天鎮東北流入縣西南折北

流至縣西北合柳河水又東北逕城北至左衛界入

洋河即古托台谷水也

東洋河 柴溝堡西北八里源出邊外自山西天鎮縣

界東逕柴溝堡西北合西洋又東至堡東五里合南

洋河又東逕左衛北又東合北來之清水河經府城

南至保安州東合桑乾河即古於延水也亦曰修水

西洋河 柴溝堡北城外自天鎮縣平遠堡流入逕西

陽河堡南又東至柴溝堡西北入東洋河即古之延

懷安縣志 卷之五 山川

浦水也

南洋河 柴溝堡西南五里東注東洋即雁門水也山

海經曰雁門之水出於雁門之山其水東北流大陽

門山謂之陽門水又東逕三會亭北又東逕西何道

城北又東逕大窰郡北修水注之

燕尾河 柴溝堡南七里許東南洋河合流處形如燕

尾因名

柳河 城西七里東流入洋河

鎮水河 城西二里東流注於東洋河

洋河

東河 左衛北一里流注於東洋河

北桃河 左衛南一里出水注於東洋河

水會六子清混歐之能飽

牛心川 左衛東南二十里

紅塘溝 城東二十里自舊懷安起至左衛長四十里

靈潭 在華山

沙城暖泉 柴溝堡東北八里其水冬溫夏涼

海眼泉 在水溝山陽上有石塔相傳建塔鎮水塔毀

動推之勿傾塔內有番書泉脈下出冬生款冬花

涼泉 左衛城西二里

水眼 城東角三官廟後傳有眼視之無跡遇大雨

半城水注之頃刻而涸

了 在萬全左衛城西八三十里流入洋河

懷安縣志 卷之五 山川

洞天 在城東十里

天 在城東十里

天 在城東十里

天 在城東十里

天 在城東十里

天 在城東十里

天 在城東十里

天 在城東十里

天 在城東十里

天 在城東十里

天 在城東十里

天 在城東十里

天 在城東十里

天 在城東十里

天 在城東十里

神石 城東十里

欲來 城東十里

波中 城東十里

班不長 城東十里

致錯 城東十里

虎窩 城東十里

珠如 城東十里

溫泉 城東十里

冬則 城東十里

花山 城東十里

地多 城東十里

雲 城東十里

傳常 城東十里

天 城東十里

天 城東十里

天 城東十里

天 城東十里

天 城東十里

天 城東十里

天 城東十里

天 城東十里

天 城東十里

天 城東十里

天 城東十里

天 城東十里

天 城東十里

天 城東十里

天 城東十里

天 城東十里

懷安縣志

卷之六 城池

固池以爲明是故

古邑之大防也周

營之職詳已蒙 明以來建設衛城又分城各屯
堡維城屹然相望今其規制亦在亦足稱邊防守禦

美于外之九輪 纒帶河流行在山木奔衝城右節

障之思此者稍補治均築隄防蓋亦庶幾古人遺

樹遺意焉若大明斥壤謹梁司城者皆所爲移也

爲清學職六無驚而縹緲未雨庸敢略敷志城也

懷安縣志

卷之六 城池

縣城 方九里三十步高三丈五尺頂闊二丈

厚三丈城樓四角樓四舖工十三門四東迎恩南永

安西思惠北寧暢池環四週明洪武二十五年築

城河隄 城南門外當水溝河東西下流乾隆五年知

縣人崔榮先是 未築河流淤塞山水無歸沖決

恒海及田盧知縣 車躬自度河身

係爲紳民 勸募築東西石隄

一八尺厚

二百步築 年復修

方六里一百八 丈六尺頂闊一丈

子八底厚二丈五 城樓三角樓四成樓一十六門

三東踏營南承恩西軍威明止統二年築景泰成化

隄城河隄 堡城西南山舊有崩崙屯渾河一道引南

洋河水下流日久沙淤水去西沙河橫決入 爲

縣五年知縣楊大崑捐俸疏濬通南河仍由故

懷安縣志

卷之六 城池

復於河西建石堤一百五十丈紳民相率樂効

防遂以永固焉

西陽河堡城 方四里一百一十三步高三丈六尺頂

闊一 五尺底八 二丈三二寸城樓二角樓四樓

制門二今地爲四東賈賜 爲瀾西遠馭北永靖明

工化五年都拓地 宏廣因舊基修築工未竟次年

手釀成之成化十 門尙書余子俊展

少 河無雨

里八十步 一丈五尺城樓一角

韓邦奇委指揮

縣治 接火墩二十五座 沿途墩五座

左衛 腹裡墩二十九座 沿途墩五座

永清堡 邊墩三十八座 腹裡墩一十一座

懷安縣志

卷之六 城池

渡口堡 沿邊腹裡墩 共四十二座

李信屯堡 墩八座

西陽河 邊墩二十三座 腹裡墩二十二座

本城 路墩五十二座

烽火墩三十一座

邊墩五十座 二十六座

十六座 三十六座

河上明宏台 建
在柴溝南十一

懷安縣志

卷之六

城池

四

懷安縣志卷之七

知懷安縣事濟南楊大島霖修

公署

不天成工不鬼役君子履堂皇而思經始蓋艱哉
其爲之矣今者 者依然棟隆無恙其他解宇倉庚
有盧學台差足蔽風雨而護其藏不可謂非在公之
幸也入物久必散未然而爲之所俾勿及壞毋修前
人毋廢後觀不亦 若視爲傳舍而勿邱邱或形
民之力而不知足焉 以就書曰若作室家其
余豈忘念之哉志公署

懷

卷之七

公署

縣署 在城東南明萬曆丙午年建 爲下西路
通判署 去修康熙三十二年改爲縣署

大門三間 東西坊二座 東西正示棚六間 儀

門三間 東西角門一座 大堂三間 東西六曹

房各三間 東西庫房二間 川堂一間 宅門一

間 一室五間 大書房三間 小書房三間 東

書房二間 正宅五間 東西廂房六間 廚房

二間 馬號一所 馬神廟一間 土地祠三間

儒學署 在城大東街學宮
之東正高二年建

大堂三間 大門一間 二門一間 東丹房二間

西班房一間 東西房各一間 正房五間

東西房六間 厨三間 後花園一間 書房

二間

典史廨 舊城民后康熙四十四年興史
起廨因舊衙廨址北材創建

堂三間 大門三間 二門一間 住房八間 土

樓一座 獄房 在大門內西偏坎地爲之刑
林增土築一單土另二間

萬全驛亦廨 在左衛東街舊無公廨康熙三十二年因
前明驛院行署址創建雍正十年驛丞
薛鴻鼎
薛增忠

大門一間 正廳三間 東偏書房一間 東西班

房一間 馬神祠一間 左右各房各一間 內住

房五間 內書房二間 東西廂房各三間 馬號

懷安縣志

卷之七

公署

七間
城守都司署 在城西北街明正統五年建舊設守衛驛
節 萬曆丙午之 正 改爲都司署

大門三間 牌坊一座 二門一間 大堂五間

東班房二間 馬班房二間 二堂五間 宅門

間 內宅五間 東廊房三間 西廊房三間 西

書房三間 東偏了地祠一間 馬王廟一間 箭

廳三間

城守把總廨 在城東北街
康熙三十二年建

大門一間 大堂三間 西班房一間 內宅五間

柴溝驛都司署 在星之東南街前明都司署建始年
月未詳 國朝初仍設署 所劉後城

恭將置守衛雍正十年
改設都司署為都司署

大門三間 二二三間 大堂三間 東西廊房各

一間 堂後房一間 宅門一間 內宅三間

左右廡房各三間 書房三間 箭廳一間 馬王

廟一間 儀門一間

崇寧營提督署 係東衙衛
建元年建

大門一間 正房三間 東廡房一間

南廳三間

左營守衛署

大門三間 二門二間 大堂三間 東廡房四間

懷安縣志 卷之七 公署

西廡房四間 宅門一間 正房五間 東書房

一間 西住房三間 西廡房一間

西陽河守衛署 在堡之東北街
建五年未詳

大門三間 二門一間 大堂三間 小西廳四間

小東廳二間 宅門一間 內宅五間 東西廡

房各三間 西廡房一間 大堂東廊二間 西廊

三間 一門外土地祠二間 馬王廟一間 大門

內軍牢房一間 大門外旗牌廳一間 照牆木柵

二座

舊總督府 係在舊衙署內
嘉慶間改總督行府今廢

舊巡按察院署 一在城東門內宣德五字壁今為懷安
衛大衙西南水六十八年
建一在宋德堡今廢

舊分司署 係在城東門內
建今廢

舊懷安指揮使司 係在城東門內宣德五字壁
建今廢

舊保安右衛指揮使司 係在城東門內
建今廢

舊河防行署 係在城東門內宣德五字壁
建今廢

舊巡撫衙門 係在城東門內宣德五字壁
建今廢

舊分守藩司行署 係在城東門內
建今廢

舊分守臬司行署 係在城東門內
建今廢

舊萬全左衛指揮使司署 在左衛東門南
建今廢

懷安縣志 卷之七 公署

教場 係城東門外廣袤七十畝明公泰二年置中構演
又崇寧堡舊有演武廳在左衛城東演武
廳一西陽河堡演武廳一始今俱未詳

神機庫 在縣城東南街隄武庫後明永樂
二年建正房一間門一間後以垣

軍器局

火藥局 係在城西南門外永樂二年建。按原版及神機軍器
火藥庫局舊在各城堡皆有建後今止本城僅存
餘俱廢

倉廩 縣城西北街廣德倉一座永樂十二年建天字版
五間地字版五間阜字版五間成字版五間字
版五間洪字版五間政字版五間裕字版五間倉廩
三間倉廩一間共計四十間立倉積穀倉一座永
樂五年建東南版五間東北版五間西版五間西北
版五間倉廩一間共計二十一間宋滿州城東七屯

糧倉 縣城始未詳天字版三間地字版七間元字
版三間黃字版三間文字版三間倉廩一間共計
十三間天字版三間地字版七間元字版五間
黃字版三間文字版三間倉廩一間共計
四座總共三十二間

營房 縣城汛九處一處汛河一處汛安一處汛一
石門灣一處汛各汛十一處一處汛一處汛一處汛
一處汛各汛各汛八處一處汛一處汛一處汛一
汛二汛左衛汛河汛八處一處汛一處汛一處汛
夏家屯一處汛一處汛一處汛一處汛一處汛一
許家莊一處汛一處汛一處汛一處汛一處汛一
示棚一處汛一處汛一處汛一處汛一處汛一
二道堡一處汛一處汛一處汛一處汛一處汛一
千庄堡一處汛一處汛一處汛一處汛一處汛一
一石頭臺一處汛一處汛一處汛一處汛一處汛一
臺及西陽河汛各汛十間汛八間入示棚一處汛
五座城臺一處汛一處汛一處汛一處汛一處汛
汛二十八處土瓦營房二百八十八間又沿邊汛
橋新建營房夾溝堡沿邊七處汛一處汛一處汛

懷安縣志 卷之七 公署

十五間土墩臺一座土煙墩一座土示棚一間馬棚
二間乾草房三間草房三間土示棚一間土示棚
馬棚一間土示棚八間土示棚三間土示棚三間
臺平頂六座瓦房三座土示棚三座土示棚
一間改臺一座城五座土墩臺九座一錢溝口
臺瓦營房一處汛一處汛一處汛一處汛一處汛
馬棚一間土示棚一處汛一處汛一處汛一處汛
房三間土示棚一處汛一處汛一處汛一處汛
西陽河汛一處汛一處汛一處汛一處汛一處汛
管房三間土示棚一間馬棚一間墩臺一煙墩五
總計及營房七十三間

坊表

都諫坊 城西北街為明建

龍章黃德坊 城東大街為明都給

恩榮坊 城南大街為明建

恩榮坊 城南大街為明建

恩榮坊 城南大街為明建

恩榮坊 城南大街為明建

恩榮坊 城南大街為明建

恩榮坊 城南大街為明建

恩榮坊 城南大街為明建

恩榮坊 城南大街為明建

恩榮坊 城南大街為明建

恩榮坊 城南大街為明建

恩榮坊 城南大街為明建

恩榮坊 城南大街為明建

恩榮坊 城南大街為明建

恩榮坊 城南大街為明建

恩榮坊 城南大街為明建

恩榮坊 城南大街為明建

恩榮坊 城南大街為明建

恩榮坊 城南大街為明建

恩榮坊 城南大街為明建

恩榮坊 城南大街為明建

恩榮坊 城南大街為明建

恩榮坊 城南大街為明建

貞節坊 在城大東街為縣民俞文妻氏

漏澤園 在東城一西城外一

養濟院 在城東門內雍正六年知縣吳

育嬰堂 在城東門內

懷安縣志

卷之七 公署

六

懷安縣志卷之八

學校

知懷安縣事濟南楊大鳳纂修

學者學也

士春秋禮樂冬夏詩書春秋俊良置學達於

用弟三英不年大其於學校何如也方人

聖入子崇儒重道加意作人為 子必宜益善

懷安縣志 卷之八 學校

家絃戶誦者果克稱其實 徒驚其名乎天教

不先者父兄之過也率不 者之子之責也

平哉若夫祖百 事則皆 司存矣志學校

儒學在縣治 周園地基 欽明正德三年

建初為備學

國朝康熙三十三 為縣學並教萬全左衛學歸此

按 治元年來 文壇諸 置學於舊

全左衛能將 天有學 左衛學 勸之

正德三年 國朝 欽明正德三年

也 國朝 欽明正德三年

教 嘉靖六年 欽明正德三年

道土 欽明正德三年

木榮修 欽明正德三年

五十六年 欽明正德三年

文廟

大成殿三間 東西廡二十二間 東西後角門一間

戟門三間 泮池 櫺星門三間 金聲玉振坊一

江漢秋場坊一 殿東北 聖廟三間 戟門外東

偏名宦廟 祠三間 省牲所三間 城

門外西偏鄉廟三間 土地祠三間 更衣所三

間 殿後明倫堂五間 西 聖後教

一亭三間 正房一間 東 二

懷安縣志 卷之八 學校

正殿安設

至聖先師孔子神位正位

考 聖賢交冠繪聖不古

制者悉改 聖賢大夫榜進

從祀嘉靖九年大學二殿 教言孔子 大學

合漢之皇帝 聖王唐之皇帝 欽明正德三年

成加 欽明正德三年

文為 欽明正德三年

於樂者 欽明正德三年

儒在後世 欽明正德三年

聖先師於禮為宜此先儒邱澤卓然之見而以像設為非尤至論也夫上古祀神以主惟佛教有像洪武初首建大學革去繪像今宜會海內俱遵臣又考庶宋廟制以顏曾思孟配享孔子堂上而四子之父皆坐廡下夫子雖尊不先父食而三代之學皆以明倫今使子坐於上父坐於下其於倫何借曰惟論道統如舍倫道統又何在也宜下所司將各處學宮別守一制中啓聖宮以路點經及子孫氏配至程子之父珣朱子之父世瑛並得左列先道統之傳有開必先而明倫之為虛具此又先儒懷安縣志 卷之八 學校 三

洪蓮熊永及先朝程敬政之臣臣深有取者疏上詔正先師祀典及作啓聖於學宮

四配

復聖顏子 惠子

在殿內東旁西向

宗聖曾子 西 聖子

在殿內西旁東向

十二哲

先賢關子 各規 先賢冉子 各兼

先賢端木子 各曲

先賢卜子 名商 先賢有子 名若

在殿內次東西向

先賢冉子 名求 先賢宰子 名予

先賢冉子 名求 先賢言子 名服

先賢端木子 名適 先賢朱子 名熹

在殿內次西東向

東廡

先賢遼瑗 名瑗 瑗明

先賢梁惠 名惠 梁明

先賢商瞿 名瞿 商明

先賢漆雕開 名開 漆明

懷安縣志 卷之八 學校 四

先賢司馬耕 名耕 司明

先賢冉雍 名雍 冉明

先賢冉季 名季 冉明

先賢漆雕曉 名曉 漆明

先賢任不齊 名齊 任明

先賢公肩定 名定 公明

先賢罕父黑 名黑 罕明

先賢左人鄗 名鄗 左明

先賢原兀 名兀 原明

先賢叔仲會 名會 叔明

先賢邴奚 名奚 邴明

先賢琴張 名張 琴明

先賢秦非 名非 秦明

先賢顏何 名何 顏明

先賢樂正克 名克 樂明

先賢周敦頤 名頤 周明

先賢獨雍 名雍 獨明

先賢伏勝 名勝 伏明

先賢董仲舒 名舒 董明

先賢蒯聶 名聶 蒯明

懷安縣志 卷之八 學校 五

先儒范仲淹 名淹 范明

先儒楊時 名時 楊明

先儒李侗 名侗 李明

先儒黃幹 名幹 黃明

先儒何基 名基 何明

先儒吳澄 名澄 吳明

先儒王守仁 名仁 王明

先儒羅欽順 名順 羅明

西廡

先賢林放 名放 林明

先賢公治長	先賢公晉哀
先賢高榮	先賢樊須
先賢商澤	先賢巫馬施
先賢顏辛	先賢曾御
先賢公孫龍	先賢秦商
先賢顏高	先賢瓌顯
先賢石作蜀	先賢夏首
先賢后處	先賢奚步
先賢顏祖	先賢句尹
先賢秦祖	先賢縣成
懷安縣志	卷之八 學校
先賢公祖句茲	先賢燕伋
先賢樂欽	先賢狄思
先賢孔忠	先賢石賦
先賢顏之儀	先賢之常
先賢申根	先賢左卿
先賢秦冉	先賢攸皮
先賢公都子	先賢公孫丑
先賢張載	先賢程頤
先賢公羊高	先賢孔安國
先賢毛萇	先賢馬堂生

先賢鄭康成	先賢馮亮
先賢王通	先賢司馬光
先賢歐陽修	先賢胡安國
先賢尹焞	先賢呂祖謙
先賢蔡沈	先賢陸九淵
先賢陳淳	先賢魏了翁
先賢王柏	先賢
先賢金履祥	先賢陳淳
先賢陳憲章	先賢胡居
先賢蔡清	先賢蔡清
懷安縣志	卷之八 學校
考明嘉靖九年釐王祀典四	于稱復聖會子稱
宗聖子思述聖孟子亞聖	哲以下及明第之七十
二人皆稱先賢	明引之二十九人皆稱先賢蓋
罷公侯伯	先賢林放董瑗先賢鄭元鄭
衆盧植張度范甯於其	若王述與段熲皆稱先賢
陸九淵於從祀罷祀祀公伯寮秦冉顏何荀况劉向	
賈遠馬融何休王肅王暢杜預吳澄凡二十二人	
五年詔以薛瑄從祀萬曆十二年詔以王守仁陳獻章	
章胡居仁從祀二十二年詔以宋羅從彦李	
崇禎一王在謙宋周鼎張宗六子進稱先賢	

十子下廣稱儒士	
國朝康熙四十一年	
持論優崇式子升配大成殿于哲之次五十四年議准以	
宋儒范仲淹從祀雍正二年	
諸從祀者六人林放董瑗秦冉顏何鄭康成范甯增祀者	
二十人縣置牧皮樂正子子都子萬章公孫丑諸葛	
亮尹焞	
謙陳浩羅欽順河陸陸其人崇聖祠者一人張迪	
乾隆二年	
詔復吳澄從祀三年	
懷安縣志	卷之八 學校
詔以有子陸哲	正位
帛一尺一丈	爵三
簋二黍稷	籩一稻粱
豆八	牛一羊一豕一
考明洪武十五年頒釋奠注縣用籩豆各十	
十三年從禮部尚書馬洪議奏縣加籩豆各十	
九年遵照初制仍用八籩八豆以縣正印官爲獻官	
縣佐教官爲分獻官	
國朝康熙二十一年國子監祭酒王士禛請酌成化宏	
治間籩豆份舞之數部議八籩八豆如舊制	

二十五年禮部覆提臣陳 凡春秋祭文廟各省府
州縣應令提鎮及副將以上照例以文左武右行禮
仍令地方正印官主祭 二十六年禮部覆臺臣趙
每年春秋二祭用上丁日各府州縣入選入豆舞
用六佾並樂審各員俱照會典其有殘缺未備者應
勅學臣及該管官照例修訂完備

四配位陳設
各帛一 爵二 飴二 和 簋二 黍二 稷二
籩六 形鹽 棗 栗 豆六 非 芹 芻 豕 羊 豕 豕
十二 暫陳設

懷安縣志 卷之八 學校 九
各帛一 爵二 劍一 俱和 簋各一 黍 籩豆
各四 形鹽 棗 栗 非 羊一 豕一

東廡陳設
各帛一 簋各一 黍 籩豆各四 形鹽
棗 栗 非 羊一 豕一

西廡陳設與東廡同
樂器
金鐘 玉磬 鼓 琴 瑟 簫 篳篥

慶 金鐘 玉磬 鼓 琴 瑟 簫 篳篥
右堂上之樂
編鐘 鈸 編磬 鈸 笙 簫 篳篥 管 笛 鼓 鼓 鈸

排簫 鈸 搏拊 塤 鈸 箎 祝 敔
右堂下之樂
舞 羽 籥 干 戚 節
祭器 鼎 俎 燭 壺 二 對 燈 屏 十七 對
爵 一百 七 上 登 一 劍 二十三 簋 九十
八 簋 二十八 簋 二百 二十 豆 二百 二十二
四十九
樂章

懷安縣志 卷之八 學校 十
大哉宣聖道德尊崇維持王心斯氏是宗典祀有常
精純並隆神其來格於昭 容 右 迎 廟
自生民來誰底其盛維 加 明德越前聖樂用成
禮容斯 舞 羊 勝之 聽 右 奏 節
大哉聖王賈天生德作樂 崇時祀無毀清酌惟馨
嘉牲孔碩屬羞神勇庶幾昭格 右 初 獻
百王宗師生民勿執禮之洋洋神其享止酌彼金盞
維清且旨登獻維三於樂成禮 右 亞 獻 終 獻
儀象在前豆籩在列以享以薦既芬既潔禮成樂備
神和人悅祭則受福於道無疆 右 徹 饗

附陳設圖
棟 麥 茨 盛 燭
簋 黍 稷 羊 獻 爵
爵 和 羹 黍 稻 牛 獻 爵 香 茅
爵 和 羹 黍 稻 牛 獻 爵 香 茅
非 簋 豆 簋 燭
非 簋 豆 簋 燭
非 簋 豆 簋 燭

懷安縣志 卷之八 學校 十一
四配十哲聖無品物遵禮儀以此
懷學舊於籩豆外增入木椽以辨門楹飾蓋仿爵人
功德錄為之然非制也故 靖 九 年 禮 正 祀 以 八 籩
入豆於是籩實之儀似粉 查 豆 實 之 飽 食 穆 食 遂 不
復用 屬 國 照 二 年 祭 酒 王 士 禎 請 酌 成 安
籩豆之數奉部議仍知定制八籩八豆各直省學典
祀可按今不遵時 意 增 設 未 可 為 訓 功 德 錄 補
取成化舊事亦惟國學增用籩豆十二 郡 縣 學 止 用
十若增八木椽儼然十二籩豆上干天子 借 執 禮 焉
爰為考正用八籩八豆如制一切木椽非禮 諸 者 皆
汰之并附陳設圖知禮者贊之掌故可也

懷安縣志 卷之八 學校 十二
大哉宣聖道德尊崇維持王心斯氏是宗典祀有常
精純並隆神其來格於昭 容 右 迎 廟
自生民來誰底其盛維 加 明德越前聖樂用成
禮容斯 舞 羊 勝之 聽 右 奏 節
大哉聖王賈天生德作樂 崇時祀無毀清酌惟馨
嘉牲孔碩屬羞神勇庶幾昭格 右 初 獻
百王宗師生民勿執禮之洋洋神其享止酌彼金盞
維清且旨登獻維三於樂成禮 右 亞 獻 終 獻
儀象在前豆籩在列以享以薦既芬既潔禮成樂備
神和人悅祭則受福於道無疆 右 徹 饗

懷安縣志 卷之八 學校 十三
四配十哲聖無品物遵禮儀以此
懷學舊於籩豆外增入木椽以辨門楹飾蓋仿爵人
功德錄為之然非制也故 靖 九 年 禮 正 祀 以 八 籩
入豆於是籩實之儀似粉 查 豆 實 之 飽 食 穆 食 遂 不
復用 屬 國 照 二 年 祭 酒 王 士 禎 請 酌 成 安
籩豆之數奉部議仍知定制八籩八豆各直省學典
祀可按今不遵時 意 增 設 未 可 為 訓 功 德 錄 補
取成化舊事亦惟國學增用籩豆十二 郡 縣 學 止 用
十若增八木椽儼然十二籩豆上干天子 借 執 禮 焉
爰為考正用八籩八豆如制一切木椽非禮 諸 者 皆
汰之并附陳設圖知禮者贊之掌故可也

崇聖祠 原額晉聖祠雍 正二年改今名	正中祀奉	肇聖王大金父公	裕聖王祈父公	詒聖王防叔公	昌聖王伯夏公	啓聖王叔梁公	配位	先賢顏氏 名無錄 先賢孔子 名無錄	先賢曾氏 名無錄 先賢孟孫氏 名以賢 即叔公宜	懷安縣志 卷之八學校 主	東西從祀 先儒周輔成 先儒蔡元定 先儒張迪	先儒程珦 先儒朱熹	正位陳設視先師減太炎太牟配位向十哲從祀	同兩廡	文昌祠 在戟門外東偏春秋丁祭 名宦祠 在戟門外東偏祀全機安合山東東路博運使 田承懷安分監察御史王漢明懷安衛守備 揮使朱實百總領列王之賢 關朝直隸總督 端于成總督三省都督總督朱自祥總督三 部院李高祖直隸總督黃白于威總督守通未宏 祥分守口北道王廣真總督總督吳口北道高監
----------------------	------	---------	--------	--------	--------	--------	----	----------------------	-------------------------------	-----------------	--------------------------------	--------------	---------------------	-----	--

爵秩春秋與文廟同日祭前 爵三員一儀一承一選四員四	鄉賢祠 在戟門外西偏祀唐李于廣濟明中書大夫 鄧賢祠 在戟門外西偏祀唐李于廣濟明中書大夫 司使李綸原任翰林院侍講經筵講 官張士範祭日祭品與名宦祠同	忠義祠 在城西大徐雍正年知縣吳琮奉 勅建祀唐孝子 周維 太常寺少卿岳 浙江布政使李倫陝西黃甫川 將楊茂春原任翰林院侍講張士範每春秋及日縣官致祭	節孝祠 在城西大街雍正八年知縣吳琮奉 旨建祀 秦氏生只張縉妻 氏生員白爾爾妻未氏生員 承芳妻馮氏邑民 氏邑民 氏邑民祭日祭品與忠義祠 同	敬一書院 在明倫堂後乾隆二年知縣薛天培周建未 租六十石以資膏火 知縣薛天培有記	懷安縣志 卷之八學校 主	本城義學 在城西武廟康熙四十年知 縣張民望建學租地八十畝 左衛義學 在衛城東門內路 即舊學宮廢址乾隆五 年間縣房大魁湖 改建工屋五間東廂房 三間西廂房三間東西耳房各二間大門一間顏曰 養正書院集子弟課讀其中約設學租米十五石 學宮書館	御養詩經一部 書經一部 易經一部 春秋一部 性理一部 四書外義一部	欽定吏部滿官品級考漢官則例一部 畿輔通志一部 學政全書一部	入學額數	國朝康熙二十三年題准懷安縣作大學定額入學十
-----------------------------	---	---	---	---	-----------------	---	--------------------------------------	----------------------------------	------	-----------------------

五名五十四年增額三名共十八名文童歲科兩試 每試取進十八名武童歲試一次取進十五名舉 增廣生員各二十名按年於廩膳生員內照例充員 每二年出貢一名
--

卷之八學校

四

懷安縣志卷之九

知懷安縣事濟南楊大良集

田賦

惟正之供率土皆然懷民寧有外焉雖然催科撫字有司難之余嘗周履田間察民疾苦約其為弊厥有二端蓋懷田皆沙土其所引澆大率溪湍一或渴奔沙徙不者成窪高者成澗間有稍存畝跡亦復被稜石骨矗立井疆莫能復其故業賦何所抵是以康熙十四年間巡撫清端于公 水衝必歷乞鑄之請在事可徵此其一也他省田賦類有編審清冊而懷田

懷安縣志

卷之九 田賦

一

向皆屯地且又邊荒沙漠不入寸量即有冊籍亦存舊衛康熙三十二年改縣 衛民無存之以歷任無可清釐其或權浮於地地浮於糧苦樂不均互相抵控若欲按糧清畝則以無籍可憑談何容易于清端所稱包賠之累昔僅天災今兼人偽此其一也以斯一弊加以十田殘瘠生殖鮮妙有若宜志所云年豐穀賤價不能償農之勞年餘穀貴食不能及農之腹如此欲民之不流亡不通賦豈可得哉今者幸登康阜不致坍塌歷時歲入稍稍償其動動賦籍告充然而下農寡收身甘朴比者亦伊比比矣為民父

母將取斯民而撫字之其得母思所以善催科也乎

志田賦

一原額

順治元年分

原額四城堡公務餘地稍糧屯團本折軍租均徭租

糧等項地九千二百九十一頃一十五畝二分五

釐五毫三絲八忽八微六纖各徵不等共徵銀四

千一十七兩七錢七分五毫三絲五忽五微九纖

八沙三塵一埃五渺九 本色糧一萬七千三百

四十三石八斗一升九合六勺六抄六撮八圭一

懷安縣志

卷之九 田賦

二

粟三顆八粒軍租米一石八斗穀一石二斗

康熙三十二年歸併後

原額地共八千二十九頃七十三畝四分一毫四絲

一忽八微各徵不等共徵地糧銀二千二百五十

三兩二分一釐六毫七絲六忽七微六纖一沙一

塵二埃一渺三埃共徵均攤丁匠銀四百六十六

兩五錢六分一毫一絲七忽六微六沙六塵七埃

四沙六漠四渺九塵一澄一淨遇閏之年共徵均

攤丁閏銀一十七兩八錢九分六釐四毫一絲二

忽一微九纖一沙六塵六埃五渺八漠二湖一虛

八澄六清七淨共徵本色糧一萬九百八十二石

八升三合九勺八抄六撮七圭九粟三顆四粒內

奉文收徵折色米一千九百八十八石折徵銀一千

九百八十四兩應徵本色糧九千二百八十八石九

勺八沙六渺之三九乘三顆四粒內

歸併五路應原額地共一百七十六頃二十一畝

四分九厘一毫六絲八忽八微徵銀三百四十四

兩三錢五分二釐九毫五絲八忽七微九纖七沙

六塵

歸併萬全左衛原額地共三千五百八十八頃七十八

懷安縣志

卷之九 田賦

三

畝二分七釐四毫除節年拋帶開除外雍正十一

年實在地二千七百八十七頃三十一畝六分四

釐一毫徵銀六百六十六兩三分二毫八忽二微

九纖四沙五塵二埃一渺三漠徵均攤丁匠銀一

百三十七兩八錢八分六釐一毫一絲五忽五微

六纖九沙五塵二埃八渺八漠八湖六澄五清八

尋適閏之年徵均攤丁閏銀五兩二錢八分九釐

六絲四忽八微一纖五沙一塵四埃一渺八漠七

湖九塵二澄三清九淨本色糧三千三百三十石

一斗八升五合四勺七沙一圭九粟三顆四粒軍

租米一石八斗穀二石二斗
 歸併懷安衛原額地四千二百六十四頃四十五
 畝二分二釐一絲六纖除節年拋荒開除外雍正
 十一年實徵地三千五百五十六頃一十六畝七
 分六釐七絲三忽科銀一千一百九十六兩六錢
 五毫一絲九忽六微七纖徵均攤丁匠銀二百四
 十七兩七錢二分八釐三毫九絲九忽五微三纖
 九沙三塵四埃一渺八漠九湖四虛六澄五清六
 淨遇閏之年徵均攤丁匠銀九百五錢二釐四毫
 一絲八忽四微一纖八沙一塵三埃六渺四漠一
 湖二虛四澄五清五淨本色糧四千八百五十四
 石三斗一升二合四勺一抄一撮六圭
 歸併柴溝堡原額地六百八十七頃八十二畝五
 釐餘節年拋荒開除外雍正十一年實徵地一千
 二十九頃九十六畝七分三釐徵銀一兩徵攤丁
 匠銀四錢一分五釐五絲三忽六微三纖八沙五
 塵六埃五渺四漠六澄遇閏之年徵攤丁匠銀一
 分五釐八毫八絲一忽三微五纖七沙一塵六埃
 四沙二漠五虛四澄八清本色糧二千七百七十
 石七斗六升六勺六抄五撮

懷安縣志

卷之九

田賦

四

歸併西陽河堡原額地六百五十四頃八十七畝
 二分一釐除節年拋荒開除外雍正十一年實徵
 地四百八十四頃五畝七分七釐七毫徵銀四十
 四兩六錢三分八釐徵均攤丁匠銀九兩二錢四
 分一釐二毫六絲三忽一微五纖九沙一塵四埃
 二渺五漠一虛七澄四清遇閏之年徵均攤丁匠
 銀三錢五分四釐四毫七絲八忽三微二纖九沙
 五塵四埃七渺九漠一虛一澄八淨本色糧一千
 一十六石八斗二升五勺三抄
 以上歸併原額各地共八千二十九頃七十二畝
 四分一毫四絲一忽八微各為不等共徵地糧銀
 一千二百五十三兩二錢一分一釐六毫七絲七忽七
 微六纖一沙一塵二埃一渺三漠共徵均攤丁匠
 銀四百六十六兩五錢六分一毛二絲七忽六微
 六沙六塵七埃四渺六漠四湖九虛一澄一淨遇
 閏之年共徵均攤丁匠銀一十七兩八錢九分六
 釐四毫一絲一忽一微九纖一沙六塵六埃五渺
 八漠二湖一虛八澄六清七淨共徵本色糧一萬
 九百八十二石八升三合九勺八抄六撮七圭九
 粟三顆四粒內奉文改徵折色米一千九百八十

懷安縣志

卷之九

田賦

五

石折徵銀一千九百八十八兩應徵本色糧九千二
 石八升三合九勺八抄六撮七圭九粟三顆四粒
 一新收
 乾隆三年
 宣化縣改歸地一萬六千六百六十二畝九分各征不等
 共徵銀一十兩八錢七分九毫本色糧七石五斗
 六升六合
 萬全縣改歸地三十五頃四十畝八釐各徵不等共
 徵銀二兩二錢三分九釐本色糧四十七石七斗
 七升九合五勺五抄
 通州改歸地二百九十六頃八分四釐五毫各徵
 不等共徵銀三百七十一兩五錢六絲七忽五微
 一開除
 乾隆三年
 改歸宣化縣入額徵收地一百七十一頃九十四畝
 三分八釐各除八毫共除銀三十兩九錢九分六
 釐三毫糧一百五十五石六斗九升六合四勺
 改歸萬全縣入額徵收地二百三十六頃八十畝一
 分八釐一毫六絲各除不等共除銀三十九兩八
 分八釐五毫糧四百七十三石三升九勺七抄六撮

懷安縣志

卷之九

田賦

六

改歸懷來縣八糧徵收地五十九畝一分二釐五毫	各除不等共除銀五錢九分一釐二毫五絲	一實在	乾隆五年	實在徵本色屯糧地七千九百六十八頃一十二畝七分三釐八毫八絲一忽八微各徵不等	共徵本色糧一萬四百七十七石七斗二合一勺六	共徵七圭九粟三顆四粒軍租米一石八斗穀二石	二斗共徵糧一萬四百一十四石七斗二合一勺	六抄七圭九粟三顆四粒內除奉文改徵折色米	懷安縣志	卷之九 田賦	七
一千九百八十石折徵銀三十九百八十兩實徵	糧八千四百九十四石七斗二合一勺六抄七圭	九粟三顆四粒實徵折色等銀二千五百七十七	兩五分六釐八絲九忽一微六纖二沙一塵二埃	一渺三漠又均攤丁匠銀五百三十三兩五錢一	分九釐六毫六絲三忽一微六纖五沙八埃二渺	三莫一湖三虛二涇二清九淨二項共徵銀三千	一百一十兩五錢七分五釐七毫五絲二忽二微	二纖七沙二塵三渺六漠一湖三虛二涇二清二	淨		

一存留	分防西路通判	皂隸一十二名食銀七十二兩	轎傘扇夫七名食銀四十二兩	本縣	知縣俸銀四十五兩	門子二名食銀廿二兩	皂隸九名食銀五十四兩	伴作三名食銀一十兩	馬快八名食銀一百三十四兩四錢	懷安縣志	卷之九 田賦	八
民壯五十名食銀三百兩	橋傘扇夫七名食銀四十二兩	庫子二名食銀一十二兩	斗級四名食銀二十四兩	禁卒八名食銀四十八兩	舖兵一十四名食銀八十四兩	吹手六名食銀三十六兩	更夫五名食銀二十四兩	火夫八名食銀三十八兩四錢	修理			

龍亭銀五錢	修理	文廟銀一十兩	文廟等春秋二大祭銀四十兩	關帝廟三大祭銀四十兩	社稷山川等春秋二大祭銀三十兩	三小祭無祀鬼神銀一十兩	朔望行香紙燭銀一兩	鄉飲酒禮銀一十兩	時憲書銀三兩	懷安縣志	卷之九 田賦	九
農夫工食銀一十二兩	孤貧冬衣布花銀六兩	典史	俸銀三十一兩五錢二分	門子一名食銀六兩	皂隸四名食銀二十四兩	馬夫一名食銀六兩	萬全驛	驛丞俸銀三十一兩五錢二分	皂隸二名食銀一十二兩			

備舉

教諭俸銀四十兩

齋夫三名工食銀三十六兩

門斗三名工食銀二十一兩六錢

廩生二十名銀六十四兩

膳夫三名工食銀一十三兩三錢三分三釐三毫

二系二忽

二年一辦

貢生花紅旗匾銀五兩每年帶徵銀二兩二錢

三年一辦

懷安縣志

卷之九 田賦

十

會試舉人盤費銀一十五兩每年帶徵銀三兩

新由文舉人每名牌坊銀八十兩每年帶徵銀二

十六兩六錢六分六釐六毫六絲六忽

新由文進士每名牌坊銀一百兩每年帶徵銀三

十三兩三錢三分三釐三毫三絲三忽

新由武舉每名坊銀五兩每年帶徵銀一

兩六錢六分六釐六毫六絲六忽

新由武進士每名花紅旗匾銀十兩每年帶徵銀

三兩三錢三分三釐三毫三絲三忽

懷安縣

馬捐夫七十七名每各月支工食銀九錢歲共

支銀八百三十七兩過閏加支銀六十九兩七

錢五分

驛馬三十六匹每五月支草折銀五錢四分歲共

支銀二百三十二兩二錢八分過閏加支銀一

十九兩四錢四分

以上存留工役雜站工折共支正銀二千五百

七十七兩五分三釐三毫三絲一忽過閏加支

銀八十九兩一錢五分

本縣額徵地丁各銀共三千一百一十四兩五錢七

懷安縣志

卷之九 田賦

十一

分五釐七毫五絲二忽四微一纖七沙二塵三

渺六漠一渺三虛二膏二清九淨除支左留外

該起運銀五百三十三兩五錢二分一釐四毫

二釐一忽四微零過閏加徵丁餉銀二十兩四

錢六分四釐八毫六絲二忽一纖九塵二埃五

渺八漠四虛九清四淨六過除過閏加支

外每週閏年該起運銀四百六十四兩七錢九

分七釐二毫零

一代徵 代徵撥補通州地三十七頃三十九畝八分八釐共

徵租銀併牛攤丁匠共銀五十六兩一錢八分八

釐二毫八絲一纖五沙八塵五埃四渺一洪五虛

四澄四清四淨七巡代徵租糧二百二十八石三

升三合又代徵船租糧一百九十三石三斗二合

八勺九撮共糧一千二百三十一石三斗三升五合八

勺九撮

查此項地畝坐落萬全左衛村堡於順治四年撥

給通民至十年會派剝船此地遂為船戶工食至

康熙三十九年剝船奉裁地則仍舊承業畝糧於

請更剝運等事案內造具科冊入通州奏銷四

懷安縣志

卷之九 田賦

十二

十四年戶部以錢糧宜歸案內行查通懷安萬全

宣化三縣民人控懇退地與通商民互有耕種四

十六年奉部咨乃查該地業其租有八徵船地

不等今在扎解藩庫轉撥通州抵交通州士民錢

糧嗣於乾隆三年欽奉 上諭事案內奉文改歸

寄庄寄糧准通商 據此該錢糧乃歸原撥州

縣即將此項代徵租銀扣抵通民應納改歸懷邑

地丁錢糧無庸起解轉發通州至於租糧仍照舊

代徵給發通民收領均按年造冊奏報 附船代租銀村庄

<p>附船代租糧村堡</p> <p>李家密 一堵塢 東北口 陡坡堡 劉家密</p> <p>李家密 李家密 五密 上王庄 第十樓</p> <p>南口堡 李家密 閻家溝 閻家寨 張家密</p> <p>高家寨 高家寨 胡家屯 後家屯 石坡堡</p> <p>殷家房 夏家屯 前後屯 太平庄 牛家庄</p> <p>陳家屯 李家屯 呂家堡 水泉樓 左衛城</p> <p>西家屯 許家庄 呂家庄 喬子溝 塔兒村</p> <p>四角屯 三十里店</p>	<p>康家寨 李家密 南堡</p> <p>東城 兩旗屯 夏家屯</p> <p>武家寨 塔兒村 左衛城</p> <p>西家屯 張家密 西家屯</p> <p>魏家新寨 葉家地溝</p>
--	--

懷安縣志 卷之九 田賦

額外不入地糧內各稅

當稅

牙帖稅

牛驢稅

房地稅

積貯

社倉穀一千七百九十三石五斗一升二合一勺六抄四撮

均貯穀一萬四千石

圭

懷安縣志卷之十

知懷安縣事濟南楊大崑纂修

戶口

兩露之濡無所不涵日月之輝無所不映聖人之心造化之心也往者不來之法行之盡一

國家彰周至隱重念民力不齊均丁錢攤入地故蓋有貧民無貧也通變彌善而其行未逮畿輔雍正元年

乃命直隸一體均於地糧於是懷安亦得勿割貧丁下戶有免追呼美哉何德之洋敷夫民邦本也料民古制也

懷安縣志 卷之七 戶口

遺遷

盛世制役幸以無煩然而閭閻滋耗有司者所宜加意則身膺牧寄敢忘民數之稽故志戶口

一原額戶口丁三千一百八十二丁

節年編增人丁六千三百一十八丁開除節年逃亡故絕外

康熙三十二年歸併後實在人丁四千五百八十八丁

一歸併後收除人丁

康熙三十五年編審出壯丁一千一百六十四丁開除逃亡故絕人丁八百六十三丁

康熙四十年編審出壯丁八百四十四丁開除逃亡故絕人丁六百八十九丁

康熙四十五年編審出壯丁一千三百六十四丁開除逃亡故絕人丁一千二百一十二丁

康熙五十年編審出壯丁一千四百四十四丁開除逃亡故絕人丁九百六十六丁

康熙五十五年編審出壯丁六百八十二丁開除逃亡故絕人丁五百九十六丁

康熙六十年編審出壯丁二百六十四丁開除逃亡故絕人丁二百三十七丁

懷安縣志 卷之十七 戶口

以上節年編審收除至雍正元年人丁五千二百九十八丁內除

盛世滋生補剩餘一千九百九十九人

恩詔永不加賦在徵行差人丁五千一百八十九丁

雍正九年編審仍實在行差人丁五千一百八十九丁

乾隆元年編審仍實在行差人丁五千一百八十九丁

丁內分

三等九則

上則九丁

上上則無

上中則五丁每丁徵銀四錢八分

上下則四丁每丁徵銀四錢二分

中三則二百丁

中上則十八丁每丁徵銀三錢六分

中中則四十二丁每丁徵銀三錢

中下則一百四十二丁每丁徵銀二錢四分

下三則四千九百七十八丁

下上則三百六十六丁每丁徵銀一錢八分

下中則一千五百四十七丁每丁徵銀一錢二分

懷安縣志

卷之十一

三

分

上下則三千六十五丁每丁徵銀六分

以上共五千一百八十九丁各徵不等共徵銀四百

百七十二兩六錢六分 雍正二年因直隸窮

民寸土全無備有丁銀運連阡陌丁銀獨少苦

樂不均象 巡撫督部堂李

題准授江浙等省例攤入地糧銀內徵收

懷安縣志卷之十一

知懷安縣事濟南楊大魁纂錄

武備

武以止戈為義古人慎言之然可百年不用不可一

日不備也昔者懷安之明之世邊烽屢警其時衛士

屯兵星羅棋布適卒以不振無他軍政弛耳夫冒濫

有兵而無兵多矣蓋弊是以我

國家鑒明此失次其浮冗裁以經制於是軍實足而武

備修百年之間不見兵革所請購之儀儀鳳之師師

非其至乎大雅曰詰爾戎兵用戒不虞思患預防尙

懷安縣志

卷之十一

一

武備

候旃哉志武備

參將一員 按明洪武二十六年置懷安衛是年又置萬全左衛

設衛指揮等員並隸西路是時未設參將景泰二年

始設鎮守參將一員駐劄米溝堡協理西路軍政成

化八年改稱分守

國初因之順治八年裁雍正十年復設駐防參將一員十

二年仍裁

城守都司一員

按明懷安為衛設衛守備一員掌衛事城守備一員

分理軍政

國朝康熙三十一年改衛為縣置知縣一員主縣事城衛

守備其城守備一員仍設至雍正十年併裁城守備

改設都司一員駐劄本城掌理城守

崇溝營都司一員

按明崇溝堡原設守備一員

國朝因之雍正十二年改設營守都司一員駐劄崇溝營

理營改

左衛守備一員

明正統年設今因之

懷安縣志

卷之十一

二

武備

西陽河守備一員

明正統年設今因之

把總 按明制左衛城設把總二員崇溝營千總一員把

總四員渡口堡把總二員西陽河把總二員李信

也把總二員 崇溝營千總一員 崇溝營千總一員

四員 崇溝營千總一員 崇溝營千總一員

國朝順治初設營頭把總懷安城一員左衛城一員崇溝

堡一員西陽河堡一員

附政宣志明懷安衛指揮使五員可知三員僉事七

員經歷一員衛鎮撫三員正千戶五員副千戶三

員副千戶二十四員署副千戶五員所鎮撫三員實

授三百五十七員試百戶二十二員總旗五十八名

小旗四十八名萬全左衛都指揮令事一員指揮使三員同知三員僉事十員經歷一員正千戶十六員副千戶十六員所鎮撫十員實授百戶四十員試百戶十九員總旗三十二名小旗三十五名永樂十三年增置保安右衛於門里東城等徙附於今縣之東城內設指揮使一員同知四員僉事一員經歷一員衛鎮撫二員正千戶二員副千戶七員所鎮撫四員實授百戶二十八員試百戶九員總旗十名小旗二名及各衛俱有合史二名典史六名司吏六名外增分守河路參將城守備衛守備各員其崇濬西陽除

支縣志 卷十一 武備 三

設守備外餘員并未詳洪武初指揮使正三品月支米二十五石同知從三品二十六石僉事正四品一十四石經歷從七品七石鎮撫從五品十四石正千戶正五品十六石副千戶從五品十四石署副千戶與實授百戶正六品十石參將守備總旗小旗未詳令史典史司吏米八石以五斗禾樂間自指揮使至副千戶三分支米七分支鈔自百戶下四分支米六分支鈔每鈔二十五貫折米一石正統初令萬全都司所屬衛所官折俸上半年支鈔每鈔十五貫折米一石下半年支蘇木胡椒嘉靖間增指揮使以下至總

旗小旗俱歲折大小俸春夏季折米大俸秋冬季折支小俸令史典史司吏俱實支米五斗所典史司吏、司、經制兵

本城一百三十名

按順治初懷安城舊額馬守夫驛軍兵二百名內除河間府抽調馬守兵六名節次裁汰馬守夫驛軍兵五十名改歸縣管夫驛軍八十四名康熙三十二年改縣後僅存舊額馬兵十二名守兵四十八名嗣於雍正二年撤涼管見等事案內設馬兵八名守兵

懷安縣志 卷十一 武備 四

二十二名雍正十二年邊旨裁奏等事案內官保尚書總督部院李 疏請照馬四共六例於市官裁存兵內添撥馬兵十六名步兵二十四名新舊共馬兵三十六名步兵二十四名守兵七十名總共一百三十名

柴溝堡營二百名

順治初無考康熙改縣後舊額馬兵十五名守兵七十三名雍正十年新增馬兵八十名步兵一百二十名十二年裁馬兵四十二名步兵六十六名實在新舊共馬兵五十二名步兵五十四名守兵七十三名

舊兵二十名總共二百名

順治初無考康熙改縣後舊額馬兵十二名守兵四十七名雍正二年添設馬兵八名守兵二十三名雍正十二年又添設馬兵十一名步兵十八名新舊共馬兵三十二名守兵七十名步兵十八名總共一百一十二名

西陽河營一百五十名

順治初無考改縣後舊額馬兵十二名守兵七十五名舊兵二十七名雍正三年派撥張家口理事同知

懷安縣志 卷十一 武備 五

衙門馬兵四名雍正十年新增馬兵三十二名步兵四十八名十二年裁新增馬兵十一名步兵二十八名現在新舊共馬兵二十八名步兵二十名守兵七十五名舊兵二十七名通共馬步守臺兵一百五十五名以上四營通共馬步守臺兵六百名

按明洪武初設衛時以兵一百一十二名為一百戶所一千一百二十名為一千戶所合五千戶所為一衛每衛兵計五千六百名後漸耗減至嘉靖時實在存籍官軍懷安城一千九百五十九員各內撥備官軍一千一百九十五員各雜差官軍七百六十四員

名新增一千四百六十六員名左衛一千八百九十七員名內撥備一千一百五員名雜差七百七十員名新增一百四十二員名柴溝堡一千九百四員名內撥備一千四百九十九員名雜差三百六員名新增七百二十八員名所屬河堡一千九百四員名內撥備一千七百六員名雜差一百九十六員名新增一千四十七員名又渡口堡官軍六百八十員名內撥備四百七十五員名雜差一百八十四員名新增三百三十五員名李信屯堡新增二百四十二員名通上總計實在存籍官軍九千八百七員名合共萬

懷安縣志 卷十一 武備 六

全左衛沈馬林新開口新河口張家口膳房堡寧遠堡並隸下西路設分守西路參將一員通共下西一路存籍官軍總一萬六千一百九十五員名實在官軍總一萬五千五百七十五員名

經制營馬
 派守營馬二十六匹
 明衛額撥馬九百八十七匹正德間九百七十二匹嘉靖三十七年二百四十五匹
 國朝順治初額營馬八百匹節次裁汰至康熙三十二年改縣後僅存馬十二匹雍正二年添八匹三十二年

又添十六匹實共三十六匹每匹春冬季日支乾銀四分夏秋季日支乾銀二分

柴溝營馬五十二匹
 明原額撥馬一千三百八匹正德間一千二百二十四匹嘉靖三十七年一千三百八十八匹
 國朝舊額馬十五匹雍正十年新增八匹三十二年裁四十二匹除裁實存現馬五十三匹每匹折支乾銀與城守營同
 左衛營馬三十二匹
 明衛額撥馬八百七十一匹正德間八百五十五匹嘉靖三十九年一百五十五匹
 國朝康熙節次裁汰僅存舊額馬十一匹雍正二年添八匹三十二年添十二匹計共三十二匹每匹折支乾銀與城守營同
 西陽河營馬二十八匹
 明原額撥馬六百七十二匹正德間六百四十四匹嘉靖三十七年二百八十七匹
 國朝改縣後僅額馬十八匹雍正三年派撥張家口理事衙門四匹僅存實馬十四匹雍正十年新增三十二匹三十二年裁十八匹除裁實存現馬二十八匹每匹

懷安縣志 卷十一 武備 七

折支乾銀與城守營同以上四營計共馬一千四百九匹歲共支乾銀一千六百九兩二錢

按宣志每年四月初旬馬在諸草場牧放朝出暮歸隨便採取備冬草束秋盡方止謂之採青放料豆支給僅及六月大至三月每馬支料二石七斗小盡三月每馬支料二石六斗一升每石折銀六錢五分照現馬數開支嘉靖間懷左柴西共支月料八百三十一石九斗各草場牧地俱係洪武初年額設成化元年都御史葉盛題開種條律擇衛所軟弱無為不堪出戰軍人官以官牛俾於近

懷安縣志 卷十一 武備 八

城堡官田耕種有遺還者亦許免兌換本年種地收糧除各項公用外餘糧買與兒馬云

兵餉
 新舊馬兵共一百四十九名內舊馬兵六十九名每月支餉米三斗餉銀二兩歲共支米二百四十八石四斗銀一千六百五十六兩新馬兵八十名每月支米折銀三錢支餉銀二兩歲共支米折銀二百八十八兩餉銀一千九百一十兩步兵共一百一十六名每月支米折銀三錢餉銀二兩歲共支米折銀四百一十七兩六錢餉銀一千七百八十四兩守

兵共三百三十五名每名月支餉米二斗餉銀一兩
 歲共支米一千二百六十石銀四千二百兩以上四營
 歲共支米一千四百五十四石四斗米折銀七百五
 兩六錢餉銀一萬零三百八十八兩

國朝順治初米從衛倉支領從宣府萬餘庫支領改縣
 後米仍從縣倉支領銀之額自宣府者亦同縣正印
 官監放

按宣志洪武二年令衛所馬軍出塞三次馬匹不
 倒斃者月支糧二石步軍總旗一百五斗小旗一
 石二斗步軍一石正統十二年令衛所旗軍月支

懷安縣志 卷十一 武備 九

糧一石者米與折色銀布間月支如遇閏月全
 支米景泰三年令口外旗軍照舊月支糧一石兼
 効舍餘有冠帶者月支米一石無冠帶有家小者
 八斗無家小者六斗老幼殘疾屯兵把守城門者
 三斗宏治三年令沿邊征哨并按伏備保等項官
 軍出百里外者俱日支糧一升五合都指揮與把
 總等官日支糧米三升備禦官軍日支行糧一升
 七合 又嘉靖馬西路官軍共一萬二千三百九
 十三員名內有支三石官有支二石官軍支一石
 八斗官軍支一石七斗官軍支一石五斗官軍支

一石三斗官軍支一石二斗官軍支一石官軍支
 六斗軍支五斗軍支四斗五升軍支三斗軍管總
 一路計之其在懷左柴西者不能得其詳也

兵器

明懷安城大將軍礮六十五盃字礮十八位盃口礮二
 十個盃甲九千副銃二十桿快鎗五十桿金鎗六十
 桿鎗統八十二桿鐵佛郎機四十桿五色旗礮全左
 衛礮礮三百三十三桿鐵佛郎機四十桿鈔盛一百一
 十頂礮盃盃二百一十頂銀佛郎機五桿虎尾礮五
 位快鎗三十桿演箭九十枝架號礮礮機一具柴溝

懷安縣志 卷十一 武備 十

堡大將軍礮九位破廣礮九個佛郎機六十八桿礮
 鎗七十六桿鳥銃八桿虎尾礮十個神鎗二百一十
 三桿流星礮十個盃口礮八個旗礮二十五桿西陽
 河堡將軍礮一個礮字武字畫字礮各一個無敵手
 三桿佛郎機二十一副子母礮十一個大小銃六十
 桿神快鎗六十七桿新大小礮六十五個盃甲弓
 刀弩袋各一千二百件副以上各城堡器具

國朝康熙十九年遣工部司官查勘銅礮畫數解京量留
 若三城礮礮後當鑄燼無存今據各營核開現貯
 實數條列於左

懷安城

馬兵盃甲三十六頂副 步兵盃甲二十頂副
 守兵盃甲七十頂副 虎衣四身 鳥鎗四十七桿
 母礮一位 子礮五位 大小礮四百七十一位
 弓二十張 官礮箭七百六十二支 火藥一千三十
 九勛箭

左衛

生鐵翼虎礮一位 西洋礮二位 環礮二位 礮
 雷礮一十七位 湧珠礮三十二位 減空礮一十
 一位

懷安縣志 卷十一 武備 十一

柴溝堡

大將軍礮二位 鐵礮五百四十四位 弓四十一
 戰箭一千五百二十枝 鳥鎗六十五桿 鎗斧五
 十六把 藤牌一百三十二面 牌刀二十二口

西陽河堡

馬兵盃甲二十頂副 步兵盃甲一十三頂副 礮
 兵盃甲一百二頂副 虎衣一十四身 弓二十七
 張 礮袋一十七副 腰刀二十七口 牌刀一十
 四口 鳥鎗五十一桿 鎗斧五十一把 鐵斧
 四把 鐵礮一十六位 母礮四位 子礮二十位

大橫槍八個 小橫槍一十二個 朝天燈四個
礮星四個 礮鏢四個 鐵鏈四個 礮架三副

按宣志洪武二十年合都官衛所置官製造軍器
以軍士不堪征差者習習管軍等官又令各邊
合用軍器俱於各衛所衛所歲造軍器支派來

一二年今成造軍器合馬標料係軍衛者軍衛自辦
係有司者有司支撥不許以破漆等項高貴之物
科擾害民景泰二年令衛所成造軍器每季盔甲
鎗刀弓各四十件副牌二十面鎗八十條箭一千
二百枝撒袋四十副銃箭四百枝承為定例仍令

懷安縣志 卷十一 武備 三

巡按御史及按察司官五年一次冊卷查盤如有
成造不如法及侵欺等項就便追問成化二年兵
部奏准各邊衛所照原定期例按季成造後會
同原辦物料有司掌印官查點現數試驗如法仍
油漆護於於軍器者書寫某衛某年某日成造
字樣候五年後巡按御史查盤去治十二年兵部
奏准各處巡按御史並守備官查盤軍器若衛所
官旗人等有侵欺物料那前被後虛數報及二
年不行造冊奏繳者官警一級帶俸差操軍旗極
邊充軍其各該都司及守備官怠慢誤事者參究

治罪

普汛烽墩

明嘉靖間懷左柴西渡口李忠屯各烽墩共一百九
十九座分撥守墩每沿邊墩官軍五名夜不收三名
腹裏墩官軍三名夜不收一名通計官軍一千二百
九十六員名

國朝新添烽墩連舊設共三百二十八座內縣城東西驛
站大路汛撥九處每處派撥馬兵二名守兵三名左
衛汛撥七處內北僻路汛止用馬兵一名守兵三名
餘俱馬兵二名守兵三名柴溝營汛七處內水關臺

懷安縣志 卷十一 武備 五

汛保次要隘口派撥外委把總一員馬兵四名步兵
三名守兵五名臺兵三名其餘封禁小口壘靖臺止
用馬兵二名守兵一名餘俱馬兵二名臺兵三名西
陽河營汛撥九處內鎮口臺係次要隘口派撥外委
把總一員馬兵二名步兵一名守兵四名臺兵三名
其餘八處封禁小口俱臺兵三名守兵一名
按宣志腹裏接火墩衛要處所照依沿邊墩例每
墩軍人五名夜不收三名軍人專管瞭望夜不收
專管走報險阻處所每墩止用軍人三名夜不收
二名每墩兩班上班二月初一日起至七月終滿

下班八月初一日起至次年正月終滿嘉靖四十

年兵部尚書楊博請築各路墩臺各為腹裏接火

墩臺一方耳目關係匪輕除原設不堪即令督修
外仍應添設空心墩臺宣府西路共添二百三十
座而懷左柴西渡口李信屯凡添七十座昔即文
莊曰烽燧之制古人晝則燧燧夜則舉烽然遇風
動則炬斜而不能示遠僅霖雨則火暗而不能大
明宜於墩臺之上立長竿分為三等上懸紅燈以
炬數多寡為緩急衆寡之候所謂紅燈者蝦子角
幼魚就為之而染以紅遇夜則懸以示遠雖數百

懷安縣志 卷十一 武備 西

附武畧

里之遠舉目可見矣

明

洪武七年李曹國公李文忠擊故元將珍珠驢於陽門

鎮敗之陽門等地遂平

按陽門在左衛西今為萬全縣

永樂十二年禮部尚書趙祖來輯遷民

按是時遷於初定民無編戶至是始遷內地

之此重臣行邊之始有事即遷事竣即還者為令

甲

成化十九年秋蒙古入寇

蒙古由西陽河兒嶺入寇順聖東西川古宏州地也明初為牧廠內臣領牧事者居之景泰間如罷而軍所雜處未有官守至是一城被寇極險兵部尚書余子俊因請設兵千餘以添將領之並蔚廣屬焉

成化二十年兵部尚書余子俊來督軍務

子俊至鎮上疏請倣初任通撫延緩時規制修築長城斷心為牆立墩挑重今柴溝西陽等處皆經營之地

懷安縣志 卷十一 武備 五

宏治十三年平江伯陳銳兵部侍郎許進並總兵務

是年秋蒙古由萬全右衛入寇東西順聖等處因命銳及進來督軍務整理糧餉為禦備計遍歷雲朔寧鴈地方今柴溝等處有遺愛焉

正德八年秋蒙古入寇總兵官劉淮引兵擊却之

八月初蒙古由白溝口入寇鎮城西及萬全左衛等處總兵官劉淮合遊擊白春倪鎮二將禦之又令副總兵馬杰為援仍自率師往應敵見有備引遁

嘉靖十九年秋蒙古入寇過李信屯屯人擊助之

時由左衛紅塘口入總兵白得敵不利敵至大掠而南進薄蔚廣逼過李信屯屯人以白挺出禦敵棄輜重而奔自是宣鎮稱信屯挺手

嘉靖二十一年秋蒙古入寇副總兵官都指揮郭都死之

時敵騎五六萬餘入張家口逼懷安抵順聖東西川南及蔚廣殺掠甚眾折而東將犯保安至宣鎮東南之谷村都率兵二千餘相值眾寡不敵與千市主兩刃戰刀箭遍體遂沒於陣事聞詔褒婦之都遼人國宜人

懷安縣志 卷十一 武備 六

隆慶四年少保兵部尚書王崇古來督軍是年十月順

義王之孫那吉降崇古乞之圖上便宜遂賈可不絕

崇禎七年

大兵破左衛城守備常如松死之

崇禎十七年三月流寇李自成陷懷安設偽官五月

國朝定鼎燕京懷地以平

順治元年以口外蒙古分隸八旗

蒙古歸命顯傳外藩乃分旗統之其柴溝西陽等外地皆為牧放御馬牛羊之所蒙古各歸本旗駐

割至康熙三十二年改縣牧地遂入縣治焉

按懷處邊徼武備素重 國家舊地設兵三營 為詳善往時張家口與邑治之各營並設 收縣後通於張家口設協鎮副將一員分轄各汛 懷邑營守屬馬乾隆四年前任保定府督標中軍副將楊大立以幹才舉充協鎮善於其職邑之文武協恭兵民相安軍政稱克副云

懷安縣志 卷十一 武備 七

懷安縣志卷之十一

知懷安縣事濟南楊大昆纂修

驛站

懷安當燕雲孔道北接邊衝羽檄之便在來絡繹不絕兵戎乘傳大至供應浩繁

國家念邊疆之設驛遞軍以驛丞續又節次增置大馬驛濟其不逮所以為驛監者計至周矣夫秣馬膏車容之境上一芻一牧莫非經費所供有司者尙當飭芻牧無滋紛擾無侵漁庶幾置郵之速研頁德行之意乎志驛站

懷安縣志

卷之十一 驛站

萬全驛 舊係驛站康熙三十二年改為民驛設驛丞掌之

驛丞一員

舊額馬三十三匹每匹日支豆七倉升草折銀一分八釐麥麩二倉升每升價銀三釐六毫歲共

支豆八百三十二石五斗二升草折銀二百一十三石八錢五分麩價銀八十五石五錢二分六釐

釐

新增馬二十四匹續增馬二十四匹共四十四匹每匹日支草二束每束價銀一分一釐七毫豆七倉升每升價銀七釐二毫麥麩二倉升每升價

銀三釐六毫歲共支草豆麥麩價銀一千二百八十三兩四分

舊額馬夫三十九名半損夫三十一名共七十名半每名日支工食銀二分米一倉升歲共支工食銀七百六十一石四錢米二百五十三石又舊額項下雜用馬夫一十九名每名日支工食銀五分日支歲共支工食銀四百六十九兩三錢六分買補倒糞馬價銀八十九兩一錢柴薪藥材等項雜支銀一百三十九兩一錢一分

新增馬夫三十三名每名日支工食銀五分四釐

歲支之工食銀六百八十八石五錢馬牌子二名每名日支工食銀一分一釐歲共支工食銀五十一石八錢八分歲警二名日支工食銀四分五釐歲共支工食銀一十六兩一錢買補雜支銀共二百一十二兩二錢四分

以上萬全驛舊額增續增馬共七十七匹馬損夫等共一百二十七名半通共支工料銀四千一十五兩二分六釐存倉米二百五十三石存倉豆八百三十三石五斗一升

懷安驛 舊係驛站康熙三十二年改為民驛設驛丞管理

懷安縣志

卷之十一 驛站

懷安驛 舊係驛站康熙三十二年改為民驛設驛丞管理

舊額馬三十六匹每匹日支豆七倉升草折銀一分八釐麥麩二倉升每升價銀三釐六毫歲共

支豆九百七石二斗草折銀二百三十三兩一錢八分歲價銀九十三兩三錢一分一釐

新增馬二十一匹續增馬二十四匹共四十一匹每匹日支草二束每束價銀八釐一毫豆七倉升每升價銀七釐二毫麥麩二倉升每升價銀七釐二錢八分八釐

舊額馬夫三十名半損夫四十七名共七十七名半每名日支工食銀三分米一倉升歲共支工食銀八百三十七兩米二百七十九石又舊額項下雜用馬夫二十二名每名日支工食銀五分四釐歲共支工食銀四百八十八兩八錢買補雜支等項銀二百四十八兩七錢

新增馬夫三十三名每名日支工食銀五分四釐歲共支工食銀六百四十一兩五錢二分馬牌子二名每名日支工食銀七分一釐歲共支工食銀五十一兩八錢五分歲警二名日支工食銀四分五釐歲共支工食銀一十六兩二錢買

銀四分五釐歲共支工食銀一十六兩二錢買

補雜支銀共二百九兩七錢

以上懷安縣舊額新增增馬共七十七匹馬

損夫等共一百三十五名半通共取支工料銀

三千九百九兩一錢六分存倉米二百七十九

石存倉豆九百七十二斗

左等共六匹懷安城快兒領四車站每站馬二十四

共馬八十四

太平庄快兒領一腰站每站快馬十五匹共馬三十

匹

以上車站腰站二項通共馬一百一十四匹每匹

懷安縣志

卷十一 驛站

四

日支草一束每束價銀一分一釐豆七倉升每

升價銀七釐一毫麥一倉升每升價銀三釐

六毫歲共支草百麥錢銀三千一百五十二兩

一錢六分

懷安縣志卷之十三

知懷安縣事濟南楊大島集像

典祀 壇壝 祠廟 附寺觀

昔者爰居之祀孔子非之以為不知今之祀知爰居

者多矣非之烏可盡非無已則以祭禮正之祭禮曰

有功德於民則祀之以死勤事以勞定國則祀之能

禦大災捍大患則祀之其外雲雨風雷山川社稷城

隍先農則國之祈報繫焉非此族也不在祀典若夫

老莊之學釋迦之徒雖曰神道設教乎知者觀之恐

不同於爰居之祀者幾希矣志典祀

懷安縣志

卷十三 典祀

一

壇壝 先農見於禮部特牲八蜡之一所謂田畯者也

先農壇 鄭康曰田畯古之先農田者謂之田畯也

其特舉焉者曰耕藉祀先農是也雍正三年

皇上親行耕藉因

詔郡縣各設藉田以藉田所入供先農祀事壇在城東

門外左右二尺一寸廣二丈五尺直二丈五尺神厨三

間左右神庫各一間外墻以垣南為門周圍六十四

步計地一畝一分道南墻用四畝九分并一口共地

六畝五年知縣吳家奉

勅建祭用羊一豕一帛一爵三爵一簋二簋四豆四

祭舉行藉藉禮額設

祭器農具附議於左

祭器 供卓一張 香爐一個 花瓶一對 燭臺

一對 劍一 簋四 豆四 簋二 簋一

農具 牛一 犁一 鐵鍬鐮一 拉套紅繩一副

紅繩籠頭一副 木杵一 六齒木杵一

鐵鋤二 砲地石二 輪木架 荆蓋一 鐮刀一

種斗二 木杈二 簸箕二 糞箕二 紅鞭一 皮

稍挽 大簸籬二 水桶一副 柳筐一

社稷壇 社土神也共工氏有子曰蓺為后土左傳所

社稷壇 謂五祀之一也禮記社田正也然山氏有子曰

社為后稷自夏以上祀之周東亦為后稷自商以下

祀之壇在城西門外西二尺一寸廣二丈五尺直二

丈五尺中埋石主分總以垣東南西南各一小門正北

一大門周圍四十八步計地六分雍正十一年知縣

武一韓李

肯建祭用春秋仲月上戌日羊一豕二帛二爵三爵一

四豆四

風雲雷雨山川城隍壇 風師雨師雲師雷師天神也山

風雲雷雨山川城隍壇 川城隍地也壇在城西門外高

二尺一寸廣二丈五尺直二丈五尺中埋石主外墻

以垣東南西南各一小門正北一大門周圍四十八步

計地六分雍正十一年知縣武一韓建祭用春秋仲

月上戌日設三神位雲雨風雷居中山川左城隍石

羊三豕三爵三爵三爵

一簋二簋二簋四豆四

厲壇 祭鬼神之無祀者壇在城東門外舊歷十五年建

壇周圍三百六十步計地三畝祭用清明日七月十

五日十月初一日先期主祭官齋戒一日請本處城

隍廟發告文至朔迎城隍神位於壇上設舞龍鬼神

位於壇下左右兩旁列祭用羊一豕三案半 一

果四飯羹饗錢隨用又一在城西門外地基同

懷安縣志

卷十三 典祀

二

祠廟 城隍廟 在城西南街洪武二十六年建正殿三間東西

三間二門房各五間殿後二間東西神庫各一間大門

三間二門房各一間殿後一間鼓樓一間碑樓一座牌坊

於風雲雷雨山川壇新宮溢任以羊一豕一 祀奉

縣應祀神位於廟後西階左衛榮講西陽二祭冬

有城隍廟今俱存茲上
 祀本城廟祀餘不備載

開帝廟 在城東南街萬曆四十二年建祭用香火上戊
 五月十三日 國朝雍正五年封帝君位
 祀為光昭公祖為縣邑公文為成忠公即於廟內建
 三代祭室行宮日并祭春秋祭帶殿牛一羊一豕一
 廟一爵三登一雞一鶩二雞十豆十香案廟半
 一豕一爵三爵三鶩一鶩二雞八豆八五月十
 三日祭帝用牛一羊一豕一帶一爵三果品五香案
 廟半一豕一爵三爵三果品五一在城東大街成化
 十四年建

居民修祀

武廟 在城東南隅
 神像庫南
 龍王廟 在城北大街洪武二十六年建邑最敬龍神每
 彌盛其尤者花山龍神祠正德間承寧侯輝興建
 萬曆甲寅邑紳閻守素等重修仍舊文勒石記之

馬王廟 在城北街龍王廟後康熙三十六年建忠禮春
 祭馬祖夏祭先牧秋祭馬社冬祭馬步鄰元曰

懷安縣志 卷十三 典祀 三

馬祖天關也先牧謂始養馬者馬社謂始乘馬者馬
 步謂馬為文者皆交共武初春秋遺太僕寺官合
 祀之而於社皆為立憲軍衛資馬
 尤意故祀典重焉今講殿營兵祀之

火神廟 在城東南大街正德五年
 建康熙五十五年重修

八蜡廟 在城西北隅外里
 許嘉靖年建

真武廟 一在城西北隅一在
 東城 在城西北隅一在城東北隅
 東嶽廟 在城西北隅
 武二十六年建

北嶽廟 在崇溝堡嘉靖初山水暴沖水涇中若有怪物
 患以息焉歷二
 十五年重修

聖母廟 有三一在城正西平頂山南麓年建邑人張士
 內西南俗呼
 西奶奶廟

白龍廟 城北楊樹山九
 聖龍廟 在城西北隅
 黑龍廟 在城東大街祀明太常卿岳公倫舊有賜祠久
 表忠節 嘉靖五年街口北道岳公倫舊有賜祠久
 五十七年重修

三官廟 在城東南隅
 三官廟 在城東南隅
 三官廟 在城東南隅
 三官廟 在城東南隅

昭孝寺 在城東南隅
 昭孝寺 在城東南隅
 昭孝寺 在城東南隅

虎窟寺 在城東南隅
 虎窟寺 在城東南隅
 虎窟寺 在城東南隅

永慶寺 在城東南隅
 永慶寺 在城東南隅
 永慶寺 在城東南隅

華嚴寺 在城東南隅
 華嚴寺 在城東南隅
 華嚴寺 在城東南隅

地藏寺 在城東南隅
 地藏寺 在城東南隅
 地藏寺 在城東南隅

安靜寺 在城東南隅
 安靜寺 在城東南隅
 安靜寺 在城東南隅

觀音寺 在城東南隅
 觀音寺 在城東南隅
 觀音寺 在城東南隅

臥佛寺 在城東南隅
 臥佛寺 在城東南隅
 臥佛寺 在城東南隅

紅交寺 在城東南隅
 紅交寺 在城東南隅
 紅交寺 在城東南隅

懷安縣志 卷十三 典祀 四

三大寺 在城東
 萬聖寺 在城西
 延聖寺 在城西
 崇陽寺 在城南二十里
 竹林寺 在城南四十里
 水口寺 在城南
 文巨聖 在縣城東南角跨雉堞為閣南向奉文帝北句
 三年此殿試一轉重修每年撥給官租十石為收焚
 之費

玉皇閣 在城中迎恩街萬歷
 年建康熙十年重修

懷安縣志 卷十三 典祀 五

三元宮 在城東北隅
 萬壽庵 在城西南相傳金
 正覺庵 在城西南永
 鎮水塔 在城西南水塔山陽相傳建塔鎮水塔毀則
 水溢每年六月六日縣令備牲致祭
 千佛塔 在城南十丈
 塔高可十丈

懷安縣志卷之十四

知懷安縣事濟南楊大崑纂修

古蹟

天下有形者皆蹟也已往者皆古也古人不作而遺蹟僅存乎可懷口况其地皆在風雨節節邱墟秦松漢栢在在烟銷楚館梁臺變草蔓局勝或乎懷安地僻遐荒遠遺蓋寡焉於地再得其一二或亦會傳聞然五缺考信與其遠而廢之也毋寧過而存之以庶幾稽古之一助焉若夫釋里之墳要辭之墓足亦行道者所行徑也蘇秦也陳根之翳庸盡載乎志古蹟

懷安縣志

卷十四 古蹟

十一

蹟

懷安故城 縣東二十里在傳唐時舊縣遺址猶存
 九王城 左齊城東北五里相傳遼築遺址尙存九王今不可考又去里許有九王墓
 馮城故城 在縣北魏遺志漢置縣晉廢水經注修水東流馮城縣故城水二三所志三馬城在商柳東一百四十里
 宣平故城 在縣東北魏輜通志金置縣元屬宣德府明廢輜舊志元移治於辛辛莊明洪武初縣廢
 十六年改置萬全左衛故城在衛西十里

鎮城七十里明熊傳有宣平晚照詩

高原故城 在縣無考輜輜通志注高原縣城在懷安衛北百六十里

宣平城

宣平城 在縣東北水經注於延水東逕宣城南按史記蔡澤燕人謝病歸相秦流宣城君疑卽此邑俗名武

宣城

威寧縣城 按金置威寧縣在今懷安縣東北宣鎮志全永安中城之初屬宣德府後屬隆慶與路今廢

陽門廢縣

陽門廢縣 在縣北金置元廢金史地理志宏州鎮陽門貞佑二年尹爲縣宣鎮志今鎮城西百二十里後

懷安縣志

魏聖武田於山澤神女自天降之會後期一歲復至生一男卽神元留之上昇而去卽此處遠爲鎮金貞祐初城焉元廢

建勳樓

建勳樓 在萬全左衛城中崇臺上明成化十年建託台亭 在縣西南託台水南其東又有馬頭亭

李晉王寨

李晉王寨 在左衛城南十里地名九龍閣相傳後唐李存母北討契丹駐蹕於此今壁壘畧存

得勝嶺

得勝嶺 在左衛城南十里紅松溝之湯俗傳楊六郎與遼人戰於此勝之嶺名茂失楊彰昭真宗時知保安州邊人呼爲六郎州之樺槎路平六郎城

疑此亦其遺蹟歟

墳墓

明都督李剛墓

明都督李剛墓城東北第九屯

明副總兵陶杰墓

明副總兵陶杰墓城西北四十八墩

明參將五靈墓

明參將五靈墓

明參將周環墓

明遊擊將軍張雄墓城東南前所堡

明榮祿大夫川貴總兵楊登山墓

明榮祿大夫川貴總兵楊登山墓李信屯新堡西南明襄贈太常寺少卿工部郎中岳倫墓城東廟山架

懷安縣志

卷十四 古蹟

三

明誌贈通奉大夫浙江布政使李繪墓城西南二里許

明原任翰林院侍講張士範墓城東四里

明新平路參將王虎山墓榮濟堡西門外

國朝榮濟堡守備劉豹墓堡南門外故堡西

懷安縣志卷之十五

知懷安縣事濟南楊大昆纂修

風俗

民俗醇樸隨時而易人情侈儉視上而行故開雅禮
趾儉變為車馬四鐵之奢秦桂子荷花競侈於斷髮
文身之兩土化之曰風習之曰俗地氣不與焉禹貢
所以紀其物產而不紀風俗也宜屬本燕趙故地
古稱多慷慨悲歌之士其俗與鄭魯殊而懷民嚮古
朴少文動於耕耨忠厚曰好深耻講張較諸鄭衛之
驕淫青齊之詭詐不啻霄壤矣豈偶然哉蓋以地近

懷安縣志 卷十五 風俗

神京觀光易易而蘇家

聖人之教化者深也志風俗

漢地理志愚悍少慮輕薄無威然亦有所長敢於惡人

唐地理志習俗可歷西

宋夏鍊曰山後諸州人性勁悍閉於戎馬純尚氣節可

以義勸 蘇軾曰勁勇而沉靜

元上都志習俗樸茂人好禮義

明一統志人生號罕不習戰陣服食儉畜勤力耕藝

宜鎮志西路氣岸甚高不尚含容喜則傾心怒則思

剛 舊志土著之人習於井開不慣 農家

村居情甚親昵有無相通老少相愛 禮人作
助有上世遺風

春秋所報長者歛貨少者趨事備牲禮祀神優人作

戲互邀親戚聚觀祀畢生賽神鼓吹喧闐醉飽

歌舞而散 俗尚龍神凡村堡城市多建廟祀秋

熟讓饒演戲慶神歲有旱各戴柳枝具幢幡鐘鼓

冠禮在坊啓虛問已不知舉

婚禮在坊啓虛問已不知舉

之物擇吉用鼓樂迎娶男不親迎止央親牽女往

迎親朋備禮慶賀 新婦入門拜天地行合巹禮

次日拜翁姑編戶之家亦皆如此惟貧乏者議明

財禮多寡方允其親每有典賣田產而後婚娶者

習俗之薄可嘆焉

喪禮父母歿小殮畢乃行大殮好作佛事或三日或

一日即士大夫未免俗近今守禮之家略知場

正其非云

祭禮多居筵食菓食其菓品亦隨市之清明七月望

十月朔至墳祭菓

歲時正月元旦五更起祭天地祖考畢 以次拜

專長親友亦互相饋贈 禮人作
三日祭菓矣之 上元作燈推一人為首曰燈官

執役人皆備各備其具以爲樂二日爲度

大屯堡立竹木設九曲黃河圍擊燈三百六十一

盞名九曲燈男女中夜穿燈謂之走百病又圍燈

演戲踴躍高呼秋家節節高以爲樂二日爲度

二月十五日爲花朝節村民以五穀瓜果徑相遺

謂之獻生 清明前日爲寒食節插柳於門男女

亦各戴之謂之清明不戴柳紅顏成白首是日假

城上墳祭掃士女喧填享饒之餘固有醉歌而返

者矣 三月三日習者以酒食聚會各奏所精之

技竟日乃散謂之赴王母蟠桃會 四月八日僧

家浴佛建道場飲布施 五月五日爲天中節人

多植艾或貼紙畫虎蝎親友亦用銀頭纏鬚 五

六月士民多戶酒殺野遊名曰耍奇 七月七夕

列香案陳瓜果於庭婦女穿鍼乞巧 十五日俗

謂中元節多持齋誦經或上墳祭奠祖考僧家建

盂蘭會 八月十五日謂之中秋人家製月餅以

相餉遺至晚煎瓜賞月 九月九日爲重陽節製

棗糕菊酒亦或彼此餽送 十月一 先寒

十五日俗為

至祭先祖 十一

寒為臘八對郊祭

為戲晚各持水以歸

餅糖酒果祀竈口是修歲事除舍于剝門神桃符

整辦活板寫廷款賀客而僧道作疏送之檀越

警二宅座遠六屠殺袋送之素所交在亦奔趨不

息云 除夕祭先祖爆竹鼓樂徹夜長初兒女終

夜博戲謂之守歲亦有夜靜禱匍匐繞廳市以下

吉函者

懷安縣志

卷十五 風俗

四

懷安縣志卷之十六

知懷安縣事濟南楊大昆纂修

方產

唐禮可徒土會之法詳矣然洪範八政獨以食為先

蓋民天所繫於此尤亟亟也懷邊沙漢氣候苦寒三

月水方穰土八月霜已暮秋計耕及獲之時中習月

僅待五民之謀食滋歎矣夫室如懸罄野無青草何

恃以不恐今幸非不毛稍有所產則愛茲土物念厥

民俟教一日忘生阜哉志方產

穀屬

懷安縣志

卷十六 方產

一

黍 爾雅黍有赤黍黑黍黏者別名秫

稷 五穀之長也粒大而色黃關西謂之糜奧北謂

稻 本草稻名一日秈昔程邈之說也粘者為

粱 毛穗俗謂之粟穀類會小浦云粟類廣祥

麥 有大小二種一曰楚麥小

蜀黍 俗謂之高梁紅白二種本草釋名古不

蕎麥 一作花似五粒錢粉紅有麥殼詩禮不如庶

油麥 俗謂之油尾一名蕎麥宜種寒求之地

豌豆 出西戎則稱也夏取有綠白二色

豇豆 赤白二種本草名豇豆

小豆 赤白二種多穀子九穀之數小

黃豆 亦可名黃

黑豆 有大小二種

蠶豆 本草名胡豆張壽得丙抄以此名也

豇豆 曰狀如老蠶又曰蠶豆

扁豆 曰狀如老蠶又曰蠶豆

胡麻 穀類也其日巨勝非也按式志考胡麻種出西

沙米 苗如麻葉類又而稍圓有刺高尺許生于成

蔬屬

慈 實謂之慈菜也懷遠夜種

蒜 小蒜中國種也入蒜類西

茄 一名落葵紫白二

芥 一名楚葵有水芹早

非 本草名

菠 稜 唐會要太宗時尼波羅國獻

菜 即此一名赤根今俗呼為菠菜

高旨 卽典果也空如
 芡麥 芡麥也芡麥
 薔薇 薔薇曰薔薇肥那薔薇注為薔薇薔薇大根本草
 薔薇 曰薔薇有紅白二色長圓二類又名土薔薇
 薔薇 薔薇
 若蓬 本草作葶菜
 若蓬 謝味甜也
 若蓬 薔薇云薔薇麥冬薔薇有
 若蓬 之撰故名薔薇白薔
 同蒿 本草形氣同
 同蒿 於薔薇名
 茄蓮 俗名玉蔓菁
 茄蓮 俗名玉蔓菁
 蕨 蕨初生曰蕨蕨陸佃云以
 蕨 赤白二種又
 蕨 有野蕨狀
 懷安縣志 卷十六 方產 三

馬蘭兒 本草一名五行草以其葉青根赤花黃根
 馬蘭兒 白子黑也又曰懷命草又名九頭獅子草
 芍藥 山中所生春
 芍藥 二三月採收
 磨菇 卽菌也其種不一藥性書志木生者如芝草
 磨菇 生者如蓋土生者如丁土人雖名曰磨菇
 瓜屬
 王瓜 一名瓜瓜有
 王瓜 夏秋二種
 西瓜 出西域故名五代
 西瓜 輸彼則說得種
 南瓜 種出南番陸機賦有
 南瓜 黃瓜白瓜之名即此
 菜瓜 廣雅芳譜北方名若瓜色青
 菜瓜 實脆可生食者若瓜加一
 瓠瓜 瓠瓜也按本草瓠瓜一
 瓠瓜 者為瓠今俗呼為瓠子
 瓠瓜 作兩屬又約瓠為瓠瓠瓠合乘亦屬也

果屬
 榛 有大小二種
 榛 榛多
 李 味甘
 杏 有二種大如梨實如梅有曰含杏長安客話
 杏 仁苦一極甘者名曰杏或謂之八達杏
 沙果
 無花果
 花紅 酸不
 花紅 可食
 木屬
 松 本草有二針三針五針之別
 松 三針者為樅五針者為松
 桑 山桑曰桑
 桑 和冰似桑
 懷安縣志 卷十六 方產 四

榆 爾雅云榆曰榆
 榆 世美為無莢
 榆 也從木聖字小樹也從沐即聖
 柳 說文楊柳也從木易聲理河柳
 柳 也從木聖字小樹也從沐即聖
 楊 陸佃云白楊葉闊青楊葉長赤楊葉剛
 楊 葉赤木理赤木又黃楊木性堅緻長
 楊 爾雅從反者音假楊木從反者音假木槎之別名
 楊 又音反曰板也樹似白楊今此地板木盡爾
 楊 之
 花屬
 芍藥 有紅紫白諸色唐宋人呼為芍藥春朝詩
 芍藥 廣雅數枝葉尾春今北方地寒五月始開
 丁香 白藥
 丁香 二種
 迎春 迎春日即開
 迎春 花小而黃
 鳳仙 卽海潮花南宋宮人選
 鳳仙 連宗后津呼好女兒花

榴 榴實使外園得
 榴 榴實使外園得
 蜀葵 有五色葉小不為及葵葉花
 蜀葵 葉為葵葉又滿葵葉可作食
 菊 一名月精月令
 菊 有紅黃各三種紅
 菊 有九香乾可作藥
 珍珠 一名木錢重似木夫
 珍珠 葉似松石花無子
 鸞粟 江南呼為鸞粟
 鸞粟 一種小者名鸞粟
 玉簪 推源考樂治二種樂者傳毒
 玉簪 一名鹿尾俗作蓮
 石竹 一名石竹又名浴陽花
 石竹 實生花也有數十種
 山丹 有二
 山丹 有二
 懷安縣志 卷十六 方產 五

杏 蓬地氣寒春夏之交始發
 杏 蓬地氣寒春夏之交始發
 鷄冠 有三
 鷄冠 有三
 水紅花 一名紅梅又名紅夏花杜
 水紅花 荷鵝時紅夏花如蓋
 金盞花 實生結實花如蓋
 金盞花 故名或呼為南
 刺梅 出北口花帶
 刺梅 曰紅玫瑰也
 草屬
 萬 本草青蒿白蒿可
 萬 食臭蒿可以為薪
 稗
 麻 經者曰苴經者曰稗有麻
 麻 大麻子可榨油可作紙
 苧麻 本草曰苧牛也子形有葉
 苧麻 如蟻故名取其油可入印色

地椒細葉紫花其實辛香如椒不可食
刺沙尖葉細葉其葉長楚客收發表
矣黃沙行游供草具調雖兩非良
馬蘭呼為馬蘭草又呼馬蘭
萬蒲本草有五種生於池澤曰泥白舊生於溪澗
石舊

禽屬
鴉 鴉屬火德之
鴉 鴉屬火德之
鴉 鴉屬火德之
鴉 鴉屬火德之
鴉 鴉屬火德之

雄 雄也漢書曰雁各呼為雁
雄 雄也漢書曰雁各呼為雁
雄 雄也漢書曰雁各呼為雁
雄 雄也漢書曰雁各呼為雁
雄 雄也漢書曰雁各呼為雁

石鷄 石鷄屬火德之
石鷄 石鷄屬火德之
石鷄 石鷄屬火德之
石鷄 石鷄屬火德之
石鷄 石鷄屬火德之

半痴 半痴也漢書曰雁各呼為雁
半痴 半痴也漢書曰雁各呼為雁
半痴 半痴也漢書曰雁各呼為雁
半痴 半痴也漢書曰雁各呼為雁
半痴 半痴也漢書曰雁各呼為雁

鳥 鳥也漢書曰雁各呼為雁
鳥 鳥也漢書曰雁各呼為雁
鳥 鳥也漢書曰雁各呼為雁
鳥 鳥也漢書曰雁各呼為雁
鳥 鳥也漢書曰雁各呼為雁

鵲 鵲也漢書曰雁各呼為雁
鵲 鵲也漢書曰雁各呼為雁
鵲 鵲也漢書曰雁各呼為雁
鵲 鵲也漢書曰雁各呼為雁
鵲 鵲也漢書曰雁各呼為雁

鷹 鷹也漢書曰雁各呼為雁
鷹 鷹也漢書曰雁各呼為雁
鷹 鷹也漢書曰雁各呼為雁
鷹 鷹也漢書曰雁各呼為雁
鷹 鷹也漢書曰雁各呼為雁

鳴鶴 鳴鶴小正田賦化馬為鶴也
鳴鶴 鳴鶴小正田賦化馬為鶴也
鳴鶴 鳴鶴小正田賦化馬為鶴也
鳴鶴 鳴鶴小正田賦化馬為鶴也
鳴鶴 鳴鶴小正田賦化馬為鶴也

獸屬
虎 虎也漢書曰雁各呼為雁
虎 虎也漢書曰雁各呼為雁
虎 虎也漢書曰雁各呼為雁
虎 虎也漢書曰雁各呼為雁
虎 虎也漢書曰雁各呼為雁

牛 牛也漢書曰雁各呼為雁
牛 牛也漢書曰雁各呼為雁
牛 牛也漢書曰雁各呼為雁
牛 牛也漢書曰雁各呼為雁
牛 牛也漢書曰雁各呼為雁

羊 羊也漢書曰雁各呼為雁
羊 羊也漢書曰雁各呼為雁
羊 羊也漢書曰雁各呼為雁
羊 羊也漢書曰雁各呼為雁
羊 羊也漢書曰雁各呼為雁

豕 豕也漢書曰雁各呼為雁
豕 豕也漢書曰雁各呼為雁
豕 豕也漢書曰雁各呼為雁
豕 豕也漢書曰雁各呼為雁
豕 豕也漢書曰雁各呼為雁

犬 犬也漢書曰雁各呼為雁
犬 犬也漢書曰雁各呼為雁
犬 犬也漢書曰雁各呼為雁
犬 犬也漢書曰雁各呼為雁
犬 犬也漢書曰雁各呼為雁

兔 兔也漢書曰雁各呼為雁
兔 兔也漢書曰雁各呼為雁
兔 兔也漢書曰雁各呼為雁
兔 兔也漢書曰雁各呼為雁
兔 兔也漢書曰雁各呼為雁

狐 狐也漢書曰雁各呼為雁
狐 狐也漢書曰雁各呼為雁
狐 狐也漢書曰雁各呼為雁
狐 狐也漢書曰雁各呼為雁
狐 狐也漢書曰雁各呼為雁

鼠 鼠也漢書曰雁各呼為雁
鼠 鼠也漢書曰雁各呼為雁
鼠 鼠也漢書曰雁各呼為雁
鼠 鼠也漢書曰雁各呼為雁
鼠 鼠也漢書曰雁各呼為雁

石屬
斑石 斑石也漢書曰雁各呼為雁
斑石 斑石也漢書曰雁各呼為雁
斑石 斑石也漢書曰雁各呼為雁
斑石 斑石也漢書曰雁各呼為雁
斑石 斑石也漢書曰雁各呼為雁

磁石 磁石也漢書曰雁各呼為雁
磁石 磁石也漢書曰雁各呼為雁
磁石 磁石也漢書曰雁各呼為雁
磁石 磁石也漢書曰雁各呼為雁
磁石 磁石也漢書曰雁各呼為雁

藥屬
黃芩 黃芩也漢書曰雁各呼為雁
黃芩 黃芩也漢書曰雁各呼為雁
黃芩 黃芩也漢書曰雁各呼為雁
黃芩 黃芩也漢書曰雁各呼為雁
黃芩 黃芩也漢書曰雁各呼為雁

甘草 甘草也漢書曰雁各呼為雁
甘草 甘草也漢書曰雁各呼為雁
甘草 甘草也漢書曰雁各呼為雁
甘草 甘草也漢書曰雁各呼為雁
甘草 甘草也漢書曰雁各呼為雁

艾 艾也漢書曰雁各呼為雁
艾 艾也漢書曰雁各呼為雁
艾 艾也漢書曰雁各呼為雁
艾 艾也漢書曰雁各呼為雁
艾 艾也漢書曰雁各呼為雁

艾 艾也漢書曰雁各呼為雁
艾 艾也漢書曰雁各呼為雁
艾 艾也漢書曰雁各呼為雁
艾 艾也漢書曰雁各呼為雁
艾 艾也漢書曰雁各呼為雁

艾 艾也漢書曰雁各呼為雁
艾 艾也漢書曰雁各呼為雁
艾 艾也漢書曰雁各呼為雁
艾 艾也漢書曰雁各呼為雁
艾 艾也漢書曰雁各呼為雁

懷安縣志 卷之十七

知縣安輝

南穆大昆纂修

秩官

設官以分治也命之朝廷在之民上照其庶幾稽其里居詳其姓氏授之掌故所以儆官箴昭治典也歸安守土秩官故庶教亡率難傳考問從寬簡所得歷為學之至今昔異制官守異職分額以詳其設次舊設之員以備稽覽雖其間不無窮公之之疑然存什一於千百亦庶幾數典不忘之意亦秩官表

國朝現設文員

懷安縣志

卷十七 秩官

知縣

校諭

典史

監丞

蔣大猷

江西南昌府李世芬山東東魯侯英浙江杭州府臨安人

葉士康

廣東人

葉士康

廣東人

葉士康

廣東人

葉士康

廣東人

葉士康

廣東人

葉士康

廣東人

葉士康

廣東人

葉士康

廣東人

葉士康

廣東人

葉士康

廣東人

葉士康

廣東人

葉士康

廣東人

葉士康

廣東人

葉士康

廣東人

葉士康

廣東人

張氏

廣東人

李

廣東人

王

廣東人

趙

廣東人

吳

廣東人

孫

廣東人

李

廣東人

張

廣東人

王

廣東人

趙

廣東人

吳

廣東人

孫

廣東人

李

廣東人

張

廣東人

王

廣東人

趙

廣東人

吳

廣東人

孫

廣東人

李

廣東人

張

廣東人

王

廣東人

趙

廣東人

吳

廣東人

孫

廣東人

李

廣東人

張

廣東人

王

廣東人

趙

廣東人

吳

廣東人

懷安縣志

卷十七 秩官

莫應斌

廣東人

蔣

廣東人

白受矣

廣東人

沈琪

浙江人

施

浙江人

施

浙江人

施

浙江人

施

浙江人

施

浙江人

施

浙江人

施

浙江人

施

浙江人

施

浙江人

施

浙江人

施

浙江人

施

浙江人

施

浙江人

吳琮

四川成都人

武

山西人

薛天培

雲南人

水州人

安徽人

乙未進士

初任密雲縣知

縣大計車

吳開州知州

懷安縣志

卷十七 秩官

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

<p>王化南 陝西武功人 咸寧人 監已未科 監林院庶吉士 散館二等 改授廣西 縣知縣 乾隆九年 任</p>	<p>孔傳 河南府 監已未科 監林院庶吉士 散館二等 改授廣西 縣知縣 乾隆九年 任</p>	<p>王聖高 已未科 監林院庶吉士 散館二等 改授廣西 縣知縣 乾隆九年 任</p>	<p>懷安縣志</p>
---	--	--	-------------

卷十七 秩官

<p>武員 懷安城守都司 舊為守備雍正十年改設都司 高銓 正定府人 雍正十二年 設</p>	<p>榮濟營都司 舊為守備雍正十二年改設 高銓 正定府人 雍正十二年 設</p>	<p>西彭澤縣人 雍正五年 高銓 正定府人 雍正十二年 設</p>	<p>懷安縣志</p>	<p>卷十七 秩官</p>	<p>四</p>	<p>左衛 明 洪武 始今 現 衛 守 衛 把 總 明 無 考</p>	<p>辛廷 正統四年任 王國臣 字少泉 綏德 魏家屏 保定人 行伍 七年任</p>	<p>齊清 正統十四年任 廣四維 字持世 綏德 武進 宣府人 廣 七年任</p>	<p>保安衛人 永泰 區 衛 官 備 明 五 始 然 三 聘 五年任</p>	<p>王國棟 宣府人 廣 二十五年任</p>
---	--	-----------------------------------	-------------	---------------	----------	-------------------------------------	---	--	--	------------------------

<p>楊文 美縣所人 天 宣 四年任 姜 康 三十一 年改 後 朱 拱 垣 廣 三十二 年任</p>	<p>刁剛 蔚州衛人 成化 二年任 郭之雄 陝西蒲城人 白鹿 廣 三十四 年任</p>	<p>施忠 宣府左衛人 成 化十五年任 牛宿 陝西榆林人 廣 改 廣 三十三 年任</p>	<p>張 保安右衛人 成 化二十一年任 張 陝西甘肅人 廣 李 口 陝西人 行 伍 十四年 後 延 季 更 名 進 忠</p>	<p>懷安縣志</p>	<p>卷十七 秩官</p>	<p>五</p>	<p>曹琮 宣府右衛人 宏 治三年任 蘇士 康 五十八 年任</p>	<p>王唐 宣府前衛人 宏 治十五年任 王 康 六十年 曹 宜 化人 康 四 十五年任</p>	<p>王忠 蔚州衛人 正 德 二年任 王 陝西榆林人 廣 鄧 世 河南 廣 十三年任</p>	<p>李 龍門衛人 正 德 五年任 李 奉 天海 廣 沈 芳 宣化人 廣 五 十年任</p>	<p>李 奉 天海 廣 沈 芳 宣化人 廣 五 十年任</p>
--	---	---	---	-------------	---------------	----------	--	---	--	--	---------------------------------

蘇國恩 陝西人 國子監丞	劉澤 陝西眉州人 嘉慶十五年任	羅翰 陝西鳳州人 嘉慶四十八年任	李傑 陝西定邊人 嘉慶四十九年任	懷安縣志 卷十七 秩官	蕭能 四川人 嘉慶五十二年任	王岐 陝西人 嘉慶五十八年任	李朝 陝西人 嘉慶四十四年任	苗通 天津人 嘉慶十二年任
				九				

劉正德 年設 嘉初 明正德年設 國朝 明正德年設 國朝	明 明	王文通 成化十四年任	張時奇 嘉慶二年任	懷安縣志 卷十七 秩官	楊世 嘉慶三年任	程時 嘉慶三年任	高 嘉慶十五年任	張恩 嘉慶十八年任
朱濟 堡倉通判	萬全 左衛倉通判	張進 嘉慶元年任	南陽 嘉慶五年任	十	李忠 明 河南開封府 嘉慶九年任	日 陝西西安府人 嘉慶十四年任	楊 嘉慶元年任	米 嘉慶六年任
		郭 嘉慶元年任	葉 嘉慶五年任		楊 嘉慶元年任	楊 嘉慶元年任	張 嘉慶元年任	劉 嘉慶六年任

程 嘉慶十四年任	趙 嘉慶二十四年任	高 嘉慶三十八年任	孔 嘉慶四十二年任	懷安縣志 卷十七 秩官	屈 嘉慶三十二年任	程 嘉慶三十年任	白 嘉慶七年任	張 嘉慶元年任
郝 嘉慶十二年任	仇 嘉慶十四年任	張 嘉慶二十一年任	彭 嘉慶二十二年任	十一	何 嘉慶二十二年任	賈 嘉慶二十六年任	魏 嘉慶二十八年任	沈 嘉慶三十年任
朱 嘉慶十二年任	孫 嘉慶十七年任	宋 嘉慶二十三年任	宋 嘉慶二十三年任		周 嘉慶二十六年任	馬 嘉慶二十八年任	王 嘉慶三十年任	邊 嘉慶三十年任

王之震 朱蘭年任	國朝	路光魁 平陽府舉人 順治年任	劉訂 順治年任	郭佳柱 山西人 賈履 治年任	懷安縣志 卷十七 秩官	劉允衡 補建溫陵人 崇禎九年任	錢永猷 武進人 賈履 崇禎十八年任	黃鳴鳳 垣縣人 康照 二十一年任	李鼎 河南人 拔貢 崇禎二十四年任
羅士英 晉安衛人 崇禎元年任		劉希舉 陝西舉人 萬曆二年任	耿繼武 沂水舉人 萬曆七年任	任茂乾 陝西舉人 萬曆十一年任	主	劉必紹 文登舉人 崇禎十七年任	甲安 日照縣人 崇禎二十年任		

高有基 江寧人 廣照 二十一年任	懷安衛學教授	初正德三年設 明正德三年設 明初因之改縣後裁	明	時亨 山東人 國子生 首任教事 九年任	懷安縣志 卷十七 秩官	李元 河南磁州人 國子生 嘉靖二年任	王灝 清苑縣人 國子生 嘉靖十二年任	黃顯祖 山東日照縣人 國子生 嘉靖二十七年任	何福 山東高苑縣人 國子生 嘉靖三十二年任
萬全左衛學	懷安衛學訓導	明	孫寬 遼東定襄右衛人 國子生 正德九年任	丁俠 陝西慶陽衛人 國子生 嘉靖六年任	三	郭聖 山東肥城縣人 國子生 正德七年任	丁藥 山東高唐州人 國子生 正德三年任	湯永 山東鉅野縣人 國子生 正德五年任	劉永芳 山東濟南府人 國子生 正德九年任

李東奎 山東莘縣人 國子生 隆慶元年任	張維新 山西安邑縣人 國子生 嘉靖三十年任	李存 山東章邱縣人 國子生 正德三十年任	丁偉 山西夏縣人 國子生 嘉靖三十年任	劉應瑞 景州舉人 崇禎元年任	懷安縣志 卷十七 秩官	王聯 通州人 舉人 崇禎三十二年任	王學 正定府寧晉縣人 國子生 崇禎二十七年任	王學 正定府寧晉縣人 國子生 崇禎二十七年任	王學 正定府寧晉縣人 國子生 崇禎二十七年任
李存 山東章邱縣人 國子生 正德三十年任	李存 山東章邱縣人 國子生 正德三十年任	李存 山東章邱縣人 國子生 正德三十年任	李存 山東章邱縣人 國子生 正德三十年任	李存 山東章邱縣人 國子生 正德三十年任	四	王學 正定府寧晉縣人 國子生 崇禎二十七年任	王學 正定府寧晉縣人 國子生 崇禎二十七年任	王學 正定府寧晉縣人 國子生 崇禎二十七年任	王學 正定府寧晉縣人 國子生 崇禎二十七年任

<p>張林景泰五年任 是以字傳任 是年置鎮守 年改稱分守</p> <p>張林龍門衛人 正統四年 歷西路參將</p> <p>吳汝珍虎賁左衛人 正統四年 萬曆三十二年任</p> <p>文宏廣宣府人 正統四年任 萬曆三十二年任</p>		<p>張林龍門衛人 正統四年 歷西路參將</p> <p>吳汝珍虎賁左衛人 正統四年 萬曆三十二年任</p> <p>文宏廣宣府人 正統四年任 萬曆三十二年任</p>		<p>張林龍門衛人 正統四年 歷西路參將</p> <p>吳汝珍虎賁左衛人 正統四年 萬曆三十二年任</p> <p>文宏廣宣府人 正統四年任 萬曆三十二年任</p>		<p>張林龍門衛人 正統四年 歷西路參將</p> <p>吳汝珍虎賁左衛人 正統四年 萬曆三十二年任</p> <p>文宏廣宣府人 正統四年任 萬曆三十二年任</p>	
<p>張林龍門衛人 正統四年 歷西路參將</p> <p>吳汝珍虎賁左衛人 正統四年 萬曆三十二年任</p> <p>文宏廣宣府人 正統四年任 萬曆三十二年任</p>		<p>張林龍門衛人 正統四年 歷西路參將</p> <p>吳汝珍虎賁左衛人 正統四年 萬曆三十二年任</p> <p>文宏廣宣府人 正統四年任 萬曆三十二年任</p>		<p>張林龍門衛人 正統四年 歷西路參將</p> <p>吳汝珍虎賁左衛人 正統四年 萬曆三十二年任</p> <p>文宏廣宣府人 正統四年任 萬曆三十二年任</p>		<p>張林龍門衛人 正統四年 歷西路參將</p> <p>吳汝珍虎賁左衛人 正統四年 萬曆三十二年任</p> <p>文宏廣宣府人 正統四年任 萬曆三十二年任</p>	

<p>陳安嘉靖八年任 天順元年 以都指揮使 事任</p> <p>宋辰本衛人 正統十四年 嘉靖三十五年任</p> <p>孫素萬全右衛人 成化八年 景泰二年 年任</p> <p>周隆永寧衛人 景泰二年 萬曆三十六年任</p> <p>金應祥保定府人 進士 萬曆三十六年任</p> <p>孫安正統十一年任 按察使 孫安正統十一年任</p>		<p>孫素萬全右衛人 成化八年 景泰二年 年任</p> <p>周隆永寧衛人 景泰二年 萬曆三十六年任</p> <p>金應祥保定府人 進士 萬曆三十六年任</p> <p>孫安正統十一年任 按察使 孫安正統十一年任</p>		<p>孫素萬全右衛人 成化八年 景泰二年 年任</p> <p>周隆永寧衛人 景泰二年 萬曆三十六年任</p> <p>金應祥保定府人 進士 萬曆三十六年任</p> <p>孫安正統十一年任 按察使 孫安正統十一年任</p>		<p>孫素萬全右衛人 成化八年 景泰二年 年任</p> <p>周隆永寧衛人 景泰二年 萬曆三十六年任</p> <p>金應祥保定府人 進士 萬曆三十六年任</p> <p>孫安正統十一年任 按察使 孫安正統十一年任</p>	
<p>孫素萬全右衛人 成化八年 景泰二年 年任</p> <p>周隆永寧衛人 景泰二年 萬曆三十六年任</p> <p>金應祥保定府人 進士 萬曆三十六年任</p> <p>孫安正統十一年任 按察使 孫安正統十一年任</p>		<p>孫素萬全右衛人 成化八年 景泰二年 年任</p> <p>周隆永寧衛人 景泰二年 萬曆三十六年任</p> <p>金應祥保定府人 進士 萬曆三十六年任</p> <p>孫安正統十一年任 按察使 孫安正統十一年任</p>		<p>孫素萬全右衛人 成化八年 景泰二年 年任</p> <p>周隆永寧衛人 景泰二年 萬曆三十六年任</p> <p>金應祥保定府人 進士 萬曆三十六年任</p> <p>孫安正統十一年任 按察使 孫安正統十一年任</p>		<p>孫素萬全右衛人 成化八年 景泰二年 年任</p> <p>周隆永寧衛人 景泰二年 萬曆三十六年任</p> <p>金應祥保定府人 進士 萬曆三十六年任</p> <p>孫安正統十一年任 按察使 孫安正統十一年任</p>	

<p>郝鎮嘉靖八年任 陳廣宣府前衛 人宏治二年 天啟七年任</p> <p>寧乾龍門衛人 嘉靖十年 高敏</p> <p>侯銘沂州人 崇禎二年任</p> <p>司進和陽衛人 崇禎二年任</p>		<p>侯銘沂州人 崇禎二年任</p> <p>司進和陽衛人 崇禎二年任</p> <p>張順成化九年任</p> <p>張順成化九年任</p>		<p>侯銘沂州人 崇禎二年任</p> <p>司進和陽衛人 崇禎二年任</p> <p>張順成化九年任</p> <p>張順成化九年任</p>		<p>侯銘沂州人 崇禎二年任</p> <p>司進和陽衛人 崇禎二年任</p> <p>張順成化九年任</p> <p>張順成化九年任</p>	
<p>侯銘沂州人 崇禎二年任</p> <p>司進和陽衛人 崇禎二年任</p> <p>張順成化九年任</p> <p>張順成化九年任</p>		<p>侯銘沂州人 崇禎二年任</p> <p>司進和陽衛人 崇禎二年任</p> <p>張順成化九年任</p> <p>張順成化九年任</p>		<p>侯銘沂州人 崇禎二年任</p> <p>司進和陽衛人 崇禎二年任</p> <p>張順成化九年任</p> <p>張順成化九年任</p>		<p>侯銘沂州人 崇禎二年任</p> <p>司進和陽衛人 崇禎二年任</p> <p>張順成化九年任</p> <p>張順成化九年任</p>	

<p>陳仲學 字... 嘉慶元年任 衛指揮萬應 建武廟兩廉 二十四年任</p>	<p>張公徽 字... 嘉慶九年任 衛指揮萬應 建武廟兩廉 二十四年任</p>	<p>張士顯 字... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>楊愈 字... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>楊元吉 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>王之麟 天啟... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>李國梁 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>林衛 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>孫秉乾 字... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>
懷安縣志 卷十七 秩官								
<p>天國祚 字... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>劉勳 字... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>諒友才 湖廣... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>王進 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>常正綱 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>王進 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>秦簡 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>尤尚忠 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>孫秉乾 字... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>
懷安縣志 卷十七 秩官								
<p>張世忠 字... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>王景 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>呂傑 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>明指 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>左衛指揮 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>保安右衛指揮 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>楚英 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>楚英 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>楚英 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>
懷安縣志 卷十七 秩官								
<p>王毅 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>李茂 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>李敏 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>顧佐 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>張嘉 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>傅慶 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>王珏 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>周原 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>	<p>吳信 號... 任因... 城縣自坤來 改水東門外 年任</p>

李英 咸化二十二年以錢濟民承領新入武王諭嘉靖三十年任 以指揮人等任	胡長 咸化二十二年以錢濟民承領新入武王諭嘉靖三十年任 以指揮人等任	張綱 宏治元年任 李相 隆慶衛人武舉嘉靖三十四年 以指揮人等任	朱珍 宏治六年以捐奉賜 二十年任 李相 隆慶衛人武舉嘉靖三十四年 以指揮人等任	李珍 宏治九年任歷 王堂 指揮同知嘉靖 二十年任 李汝諫 萬歷三十年 任 李汝諫 萬歷三十年 任 李汝諫 萬歷三十年 任	懷安縣志 卷十七 秩官	徐宜 宏治十二年任 王尙文 嘉靖二十九年 高居敬 萬歷三十二年 任 高居敬 萬歷三十二年 任	宋贊 宏治十七年以 楊義 嘉靖三十四年 以指揮人等任 張正 萬歷二十年 任 張正 萬歷二十年 任	沈采 正德四年任 廉儀 嘉靖三十九年 顧尊得 萬歷三十年 任 顧尊得 萬歷三十年 任	楊威 正德十年以捐 馮守中 隆慶二年以 張啟正 萬歷三十年 任 張啟正 萬歷三十年 任	張鑑 正德十三年任 徐紀 王建德 萬歷二十年 以上六人見文廟
---	---	--	--	---	----------------	---	--	--	---	--

王敏 嘉靖二十二年以捐 徐彪 任 徐彪 嘉靖二十二年 任	周堂 嘉靖三十年任 劉世勛	李倫 嘉靖十五年任 陳三奇	陳武 嘉靖十七年以 許一龍 以指揮人等任 以上五員歷在年 月未詳	張惟 嘉靖二十一年任	懷安縣志 卷十七 秩官	潘俊 嘉靖二十三年 以指揮人等任	王漢 嘉靖二十六年 任	張承勛 嘉靖三十年 任 張承勛 嘉靖三十年 任	周官 嘉靖三十二年 任	李杰 嘉靖三十八年 以指揮人等任
---------------------------------------	---------------------	---------------------	---	---------------	----------------	------------------------	-------------------	----------------------------------	-------------------	------------------------

安國 嘉靖三十八年 任 安國 嘉靖三十八年 任	程虎	胡朝	劉欽 以上三員見奇氏 家譜	葛萬方 萬歷三十年 任 葛萬方 萬歷三十年 任	懷安縣志 卷十七 秩官	賈文都 萬歷三十年 任 賈文都 萬歷三十年 任	顧希隆 崇禎十五年 任 顧希隆 崇禎十五年 任	知安承教印明		
----------------------------------	----	----	---------------------	----------------------------------	----------------	----------------------------------	----------------------------------	--------	--	--

懷安縣志卷之十八

知懷安縣事潘雨揚大尊幕修

選舉

聖賢兼傑之生固不偶然亦不擇地詎問物產必有其方蓋此心此理之皆司無間於東南西南朔也懷處

絕塞百餘里者鮮知名不盛說多誇地氣貫之夫天

不測地塞云吞生八既生八故釐天假使與科各

無緣宜為生此地者感類載質矣在岳太常李通奉

二先生者文章義舉冠絕一時何得不為地限耶故

列叙起田諸公歲改貢士與孫孫吳平博躬會之盛

懷安縣志卷之十八選舉

者君乃行陸天嘗為人定志考無窮也

安見諸季二先生不可學也復不可學也之哉是

在人之自存清三作選表表

進士

明

岳倫字大氣安給字德言懷安環二號字伯敬
士午舉天順
詩經
科進士
部郎中
郎即太
則祀

舉人

明

趙良字元之
宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

宏治乙卯科
監生

孫步 順治二年 閻允登

陳在新七年 恩貢

李忠吉 恩貢

王性和 恩貢

牛應捷 恩貢

恩貢

恩貢

恩貢

恩貢

恩貢

恩貢

恩貢

恩貢

恩貢

恩貢

恩貢

恩貢

恩貢

恩貢

恩貢

恩貢

恩貢

恩貢

恩貢

恩貢

恩貢

恩貢

懷安縣志卷之十八選舉

王汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

李汝楨 字山任 天曆年拔

<p>關 肅 雍正元年拔 魏鳳 雍正元年由 刑部貴州司員 刑部聖本部湖 廣司郎中</p>	<p>楊爾謙 雍正 阮相元 乾隆五年</p>	<p>副貢 韓文印 崇禎乙卯 國朝任浦江縣 知縣陞蕪州同 知</p>	<p>明 張文英 字勝中 學原生 雍正壬子科副榜</p>	<p>國朝 張文英 字勝中 學原生 雍正壬子科副榜</p>	<p>懷安縣志 卷十八 選舉 四</p>	<p>明 韓鳳 宣德三年貢 孫麟 懷安衛人附 宣時 衛人附左衛 二年貢 學宏 弘治十二年貢</p>	<p>岳英 安治二十一年貢 孫麟 懷安衛人附 宣時 衛人附左衛 二年貢 學宏 弘治十二年貢</p>
--	------------------------	------------------------------------	------------------------------	-------------------------------	----------------------	---	---

<p>郭吳 字汝浩 正德 朱縉 字崇正 正德 正德九年貢 任南 年知 宋賢 正德九年貢 任南 年知</p>	<p>亢 弼 字員佐 正 馬 璣 字國儀 正德 李 仁 字天賦 正德 中 都 知 縣 吹 西 莊 派 縣 知 縣 山 東 當 化 縣 知 縣</p>	<p>侯 國 字 中 甫 嘉 靖 元 年 貢 授 都 司 斷 事 西 莊 派 縣 知 縣 西 安 化 縣 丞</p>	<p>徐 球 嘉 靖 七 年 貢 任 懷 仁 縣 知 縣 宋 綱 字 振 之 嘉 靖 九 年 貢 未 仕 用 容 字 國 儀 嘉 靖 十 一 年 貢 仕 山 西 澤 州 同 知</p>	<p>馬 文 熙 嘉 靖 十 三 年 貢 任 南 直 隸 寶 應 縣 主 簿 邑 知 縣 齊 濟 州 知 縣</p>	<p>宋 經 嘉 靖 十 九 年 貢 任 大 同 府 岳 魯 字 古 伯 嘉 靖 二十一年貢 任 南 直 隸 知 縣 梁 繼 芳 字 汝 馨 嘉 靖 二十三年貢 任 南 直 隸 知 縣</p>	<p>王 宗 周 字 從 文 嘉 靖 二十一年貢 任 懷 仁 知 縣 三 萬 衛 同 知</p>	<p>康 節 嘉 靖 二 十 五 年 貢 任 南 直 隸 知 縣 王 激 嘉 靖 二 十 七 年 貢 任 南 直 隸 知 縣 劉 璣 嘉 靖 二 十 九 年 貢 任 南 直 隸 知 縣</p>
---	--	--	--	--	--	--	--

<p>張 應 亨 任 南 直 隸 知 縣 九 雲 龍</p>	<p>呂 子 芳 李 時 揚 任 陝 西 寧 州 通 判 閻 守 素 任 山 東 鄒 城 縣 知 縣</p>	<p>張 宏 猷 任 知 縣 張 士 第 字 魁 字 任 米 店 縣 柳 文 判 任 河 南 陳 州</p>	<p>白 爾 登 賈 維 雄 白 鶴</p>	<p>閻 慶 趙 輔 宣 任 山 西 太 谷 訓 導 王 邦 彥</p>	<p>白 麟 任 山 東 安 丘 縣 知 縣 張 化 鵬 師 仲 佐 任 講 導</p>	<p>李 維 謙 嘉 慶 二 年 貢 任 南 直 隸 知 縣 韓 景 琦 字 景 和 任 長 子 縣 知 縣 張 應 元</p>	<p>張 善 嘉 慶 二 年 貢 任 南 直 隸 知 縣 張 應 元 任 南 直 隸 知 縣 府 通 判</p>
--------------------------------	--	--	------------------------	--------------------------------------	--	--	--

葉英 任朝城縣主 見文獻齊	馬維	閻自成	馬珩 任朝城知縣 曹漢 任山東萊陵 王三聘 任壽張縣知縣	閻朝 國朝 馬士龍 順治元年 張興 順治元年 張興 字在文 順治 知州 廣東化州 有惠政	懷安縣志 卷十八 選舉 王性穆 出貢 年月 陳所學 順治十年 喬寓 順治十二年 在永清縣 有傳	邵承龍	杜逸 順治十六年 賀光澤	劉頴 康熙六年 王象陽 康熙十年 梁應龍 康熙十年 在無極縣 縣訓導	趙夢 字瑞溪 順治二十三年 曹慶 順治二十六年 劉芳遠 康熙八年
------------------	----	-----	------------------------------------	---	--	-----	-----------------	--	--

閻聯全 康熙三十一年 馬維 康熙三十一年 岳宗嗣 康熙三十四年	楊振武 康熙三十年 閻煥 康熙三十九年 張大綸 康熙三十九年 林繼 康熙三十九年	白景公 康熙四十年 張興業 康熙四十年 董繼舒 康熙四十七年	陳若遠 康熙五十年 趙煥昌 康熙五十九年 閻九春 康熙五十九年	懷安縣志 卷十八 選舉 郭學聖 康熙五十七年 高書 康熙五十七年 高書 康熙五十九年	阮民標 康熙六十年 白矣	劉銘遠	張心印	田裕國	李繩芳
---------------------------------------	---	--------------------------------------	---------------------------------------	---	-----------------	-----	-----	-----	-----

楊可培 任山東兗州府經歷 楊恒	張士麟 自白采以下至 此十一人出貢 年分未詳	曹大禮 雍正二年 張濟 雍正四年 楊天禮 雍正六年	任士傑 雍正八年 楊廷棟 雍正八年 馬建忠 雍正十年	李重 雍正十二年 張應慶 乾隆元年 任士偉 乾隆元年	懷安縣志 卷十八 選舉 何湘 乾隆五年	武進士 按武之中會試今稱武進士其在前列未 此稱也宜錄其化宏治間每科武舉取 人正德成辰始其類迨至嘉靖武舉 於中兵部會試者俱各與舉宣志劉傳 考定也故府州志於武進士武舉故列之 武科不稱進士也第以明史記事本末 四年夏五月太監汪直奏稱武舉故試 進士制夫日如進士即進士也其制同 亦不得武舉又兼習志其制同其有 武進士之制者如左
--------------------	------------------------------	---------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	------------------------	--

田定 南全左衛人 正德庚辰科 中兵部會試 守備	懷安縣志 卷十八 通判	光純 萬曆未科 兵部會試 守備	江懷忠 萬曆壬辰 科兵部會試 守備	陳珍 萬曆乙酉 科兵部會試 守備	凌信 萬曆乙酉 科兵部會試 守備	田定 南全左衛人 正德庚辰科 中兵部會試 守備
孫三奇 順治乙未 科中式官 守備	李應乾 官恭洲 辰歲	李花柱 官山海關 守備	陳文範 官嘉靖 守備	陳文範 官嘉靖 守備	陳文範 官嘉靖 守備	孫三奇 順治乙未 科中式官 守備

任萬鈞 字平衛 順治辛丑 科中式官 守備	楊發雲 字冲霄 順治辛丑 科中式官 守備	師百世 順治辛丑 科中式官 守備	張自哲 順治辛丑 科中式官 守備	楊正心 順治辛丑 科中式官 守備	張士元 順治辛丑 科中式官 守備	張魁鉉 順治辛丑 科中式官 守備
孫枝華 順治辛丑 科中式官 守備	張問仁 字達吾 順治辛丑 科中式官 守備	張濬英 順治辛丑 科中式官 守備	任頌 順治辛丑 科中式官 守備	李時培 順治辛丑 科中式官 守備	楊爾儉 順治辛丑 科中式官 守備	楊爾儉 順治辛丑 科中式官 守備

段郁文 科分未詳 正統嘉靖 年間中式	王倫 嘉靖年	顧奇敷 嘉靖年	周綸 嘉靖年	白國卿 萬曆壬子 科官馬營 守備	王德徵	何明 崇禎年
李淮 嘉靖年	何大成 嘉靖年	白質 嘉靖年	周自洽 隆慶年	郝應麟	周主敬	李廷松 崇禎年
周邦選 嘉靖年	胡又新 嘉靖年	候官 萬曆壬子 科	郝應龍	周道	何守忠 以上八人 俱屬 未詳 崇禎 年間 中式 科分	

<p>張自成 科分未詳 俞永泰 順治乙酉 張鼎隆 順治乙酉 本朝武舉首及其名仍之俟考</p>		<p>李唐虞 順治戊子 趙紹祖 順治戊子 周道興 順治辛卯 順州府河南衛守備</p>		<p>趙紹英 順治辛卯 張自侯 順治辛卯 賈顯 字不達 萬全 順治辛卯科</p>		<p>王天錫 字福之 萬 郭安瀾 字若微 石之貞 字介 辛酉 順治辛卯科 順治辛卯科 順治辛卯科</p>		<p>懷安縣志 卷十八 選舉 三 于九 有字君一 懷 馮元鼎 字重器 順 王命旌 字君錫 順 辛卯科 順治辛卯科 順治辛卯科</p>		<p>王天合 字作之 萬 唐風樸 順治辛卯 岳崇芳 順治甲午 順治辛卯科 榜 科武選副榜 千總</p>		<p>徐祥吉 順治丁酉 焦燮 順治丁酉 李國麟 順治丁酉 順治辛卯科 官江南 官湖廣 順治丁酉 官湖廣 盧光府選糧千總 守備 永定守備</p>		<p>韓正心 順治丁酉 黃道淳 順治丁酉 馬政 順治庚子 科 科武選副榜 科武選副榜</p>	
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	---	--	--	--

<p>馬化龍 順治庚子 張自達 順治庚子 岳繩芳 科分未詳 都勻守備 科任</p>		<p>岳洪芳 科分未詳 楊扑 康熙癸卯 孫三晉 康熙己酉 康熙癸卯科</p>		<p>楊廷斌 康熙壬子 孫自省 康熙己酉 張爾信 康熙乙卯 康熙己酉科 東高州遊擊 科歷任廣</p>		<p>董昌 康熙乙卯 張三升 康熙戊午 楊增 康熙辛酉 科 康熙乙卯科</p>		<p>懷安縣志 卷十八 選舉 十四 孫延祚 康熙辛酉 馬世華 康熙辛酉 孫銅 康熙丁卯 康熙辛酉科</p>		<p>程恒望 康熙丁卯 韓莊 國 康熙庚午 李吉 康熙庚午 科 康熙丁卯科</p>		<p>董御辰 康熙癸酉 楊爾溫 康熙戊子 馮務本 康熙辛卯 康熙癸酉科</p>		<p>馬佐世 靳紹教 楊特秀 乾隆丙辰 乾隆丙辰科</p>	
---	--	--	--	--	--	---	--	---	--	---	--	---	--	-----------------------------------	--

<p>張孟詰 不樂 順 由 李信 順德五年任 朱貴 成化九年以 沙城操守 知歷歷全將 保安州城守</p>		<p>徐劉 萬全左衛人 湯玉 成化十四年 趙玉 保安衛守備 任 任 任 任</p>		<p>張雄 以指揮同知 李琮 正德元年 由 高 保安右衛人 充宣徽遊擊將 官遊擊將軍 任 任</p>		<p>懷安縣志 卷十八 選舉 十五 閔林 正德七年 以 張昇 正德十一年 李彬 嘉靖元年 以 一 鷓鴣堡守備 任 堡守備 任 任</p>		<p>閔仁 武舉 嘉靖十 侯憲 萬全左衛人 張珍 武舉 嘉靖三 五年 以 任 任 任 任</p>		<p>張楷 嘉靖三十六 張元寶 萬曆二年 劉承恩 萬曆十八 年 以 任 任 任 任</p>		<p>許承式 萬全左衛 楊登山 由把總歷 孫光廷 由世職指 會事 任 任 任 任</p>		<p>傳 任 任 任 任</p>	
--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	------------------	--

牛顯奎	李全民	劉國柱
張德	李名魁	吳學亭
李名魁	王振乾	盧可重
王得良	趙培仁	尚天信
張安縣志	卷十八	九
魏林明	白爾紹	耿址
鄭錫鑑		
國朝恩縣		
張明		

懷安縣志卷十九

名宦

余聞之召公封燕懷固燕之屬邑也為之循行阡陌昔日之甘棠猶有存乎夫自今去周更幾年所矣或其人其在其風習興起者正若此比也乃上下夾之記載我如聞有傳者又多是其事實吁美人不作可
以風焉謹著其有遺愛斯土者於篇以庶幾甘棠之未遂云志名宦

懷安縣志卷十九

王擴 永平人明昌五年進士博學多聞初任鄂州參政擴到官執中奉家避去邑人畏服遷知德州防禦使或至鐵奉詔與活錄奏決者章宗駭然死擴自題之生者免取地下之冤云何是時置三公以授擴也

王 聖恩之旨為戶部財用成三攻置在得人也今三

李 承先言戶部舊式亦戶部舊官而易之豈愚哉

李 承先於三司子則而三司竟置故人張輝職據

李 承先於三司子則而三司竟置故人張輝職據

李 承先於三司子則而三司竟置故人張輝職據

懷安縣志卷十九

李 剛 懷安世襲指揮使正統四年任崇慶堡守備歷陝西河東等處所至皆克彌厥職云

宋 辰 懷安衛千戶明遠攻通州人以疾卒於官子選

周 隆 字世安永舉衛人由指揮進都指揮兼守備

賀 能 直隸保定人宣治四年以官欽守備懷安

張 進 言山西韓州舉人正德元年朱澤壁者

宋 贊 其先四川人祖辰由千戶在懷安指揮遂著籍世

李 榮 守備正德元年官進軍將軍以功

兵員授都督同知

行取總理都督

都英 府務而剛直不撓後致仕歸子林驥指揮使

王經 龍門行、嘉靖初官至都指揮同知充恭將分守萬

率部兵赴援至華家營逆眾成空知故進營而

下其鋒為士卒信因中流矢死事聞數十次經首

上賜諡忠節仍加二官俸其子世襲云

李激 萬全衛人少有勇果於殺敵果官都指揮僉

禦至李信屯對敵斬首一級虜獲益兵圍

之獲刃而死事聞詔贈官賜一褒忠祠

史譽 將嘉靖壬子秋七月北遼山野堡人掠衛城西

南粵率師禦之敵預伏其兵半於路分半以奪我

師伴敗我師前追伏起署典守備指任鎮守死營

人故里見喜與樂劫劫有生氣

義而葬之○在鎮宣府右衛人

懷安縣志

卷十九 名宦

三

李棟 號在菴直隸無為州人世襲山西都司太原右衛

指麾同知嘉靖三十七年任崇溝堡分守參將

攻改民與舉勝堡於沈馬林堡擊一八處

築營房五百餘間磚墩二十七座邊墻一百餘里

修建所城六城之公署城樓學舍令嚴捐置義學

田士民咸賴後調本鎮南將參將闔屬民悅其德

石紀

吳汝珍 西人萬曆間守衛與利全弊受民位

屈可賢 先有遺愛於民至今呼為屈

王之震 山東登州府人古義黃泉與百西路通判棟

風以振先是縣有私派差徭之弊震至乃為革除

田獲蘇其德建生祠至今呼為蘇

王國禎 左衛上王庄人由百戶風化擢廉三年之中

境安息軍民戴德建生祠

堡東門內至今香火不絕

衛女松 二里居下全空守衛也

大兵自大同入左衛城如松率

居民固守力竭城陷不屈死

劉文龍 崇禎初任下西路巡判闖賊寇懷安文龍悉力

守禦城破被執誘誘殺死終不屈賊獲而釋之

時文龍其弟有

辛性溫 山西武進士順治初任左衛守備時奮述功

多詔贈公為民請命心力俱瘁乃得安葬

衛民戴若父母以世任去任至副總兵

路光魁 字 山西平陽府人同敏有幹譽順治初由

大兵往來供饒浩繁人情皇皇魁則盡辛

能上不誤公下不擾民邑人懷其德祀祠視之

張朝臣 山海衛人丙辰武進士康熙二十二年任左

衛守備初築溝壑有 皇姑退還正地接壤左衛

懷安縣志

卷十九 名宦

四

之城南是時內務府遣官勸復給旗丁親

皆民力也三十二年

衛去任衛人立碑思之

社允斌 漢子豫州人康熙三十二年任懷安縣

私林手經調劑居黃勸中成二又普以形家

方文星所占符相條建城東南角文昌祠見

民生者靡不為典革去

之曰民立碑誌其遺愛

武一韓 號坤菴山西太谷人雍正五年進士任懷安

邑才楊木長朱之循積年派民為解為累即請捐

俸代輸民得免于役并立石示後至今為惠故後以

德道板木色被無邑人

王柄 字不謙宣府前衛人由武進士任崇溝堡守備

所到涉華成趨

有古名士風

晉裕後 真定府新河縣人領屬治屬初任完陽教

授為已任歸官祀捐俸修文

書治書四時講買士裕式焉

劉應瑞 河州人授懷安勸於道

公夏去後其子受其西澤

懷安縣志

卷十九 名宦

五

懷安縣志卷之二十

知懷安縣事濟南楊大崑纂修

人物

牛蹶之澤無尺之鯁塊阜之山無丈之材此以卑論
僻俗之見若夫豪傑之士不獲若是拘墟也蓋賢才
何地茂有且亦何時不生所慮有美不彰如伯夷雖
賢不遇孔子後世亦沒沒無聞况什伯不逮夷者乎
而無人焉以傳之耳懷安古燕趙地夙稱多傑儻非
常之士廼上世既莫可考見近如明代亦復闕達無
幾往疑記載之有遺憾及爲之遂稽傳訪遂得其卓

懷安縣志 卷二十 人物

一

然自命風節文章後先彪炳者若而人而他獨行重
於鄉評名德齒於月旦間亦有可稱述則約其一
亦足見人傑之不絕生若斯也論世者其無謂地無
傳人矣爾風者其無思無所更起矣志人物

名臣

明

岳倫 字學夫號雲石系出武關於舊無不遇尤長毛詩
嘉靖壬午貢入太學是年秋魁順天鄉薦丙戌成
行人奉命南見道經相室即請謁賦數賦活潑
民疾責轉司副抗疏論閩臣等擢調刑部郎中已而擢
辛滿臺章印滿川三縣丁再遷曲沃所至飭俸任勤
胥吏廉貧窮請子弟政廢壞然方同兵變倫在由沃
具城策征討大計則切詳明朝論避之召拜工部主

懷安縣志 卷二十 人物

二

李綸 字澄吉嘉祥平川學於鄉成武登進士第初授行
給事中累官浙江右布政使倭寇入犯躬自督師救
戰以勤事死詔贈通奉大夫光祿大夫○按通志
節烈傳載綸歿於陣今考其家業及妻時祭狀
均稱綸以疾卒於官通志書歿於陣或誤有據
政事
事涉匪類外對郡中時賊華幸至益發其黨計謀
工勿繁已亥世賊江漢或三三賊寇延延致下
詔獻未幾放還爲民延臣交章薦爲羅亞抑竟不來
起會宗家著詩文自賦入以游學術誘後廷每
萬寇竄行抵寧志在封復居有緝紳大夫過談邊
務無不盡其大明年五十二歲卒○頭置可及時行
惜未竟其大明年五十二歲卒○頭置可及時行
錄皆諸大帝寺少卿崇祀鄉賢于生著有奏疏及
試務篇什覽雲
石集傳於世

懷安縣志 卷二十 人物

二

九弼 字公翰家順聖州世初出懷安衛籍歲貢生
爲人練達有幹畧任中部時上憲知才委全委
較備倉者湖番民考德之又委署州軍戶未頃稷積
遠垣糧餉無不嚴明及署州軍戶未頃稷積遠
多垣糧餉無不嚴明及署州軍戶未頃稷積遠
之日又生好吟詠
遺篋有琴笙餘韻
九雲龍 字百川公嶼之孫懷安石籍貢生萬曆初
辛酉舉鄉試陞沂州府同知審通倫要等領邊兵悉索
易歸於九甫下車即慨合民瘼催科徵解弗改
三年而政成焉
追平李英盜有法

名臣

明

張士第 字可來汝授普之三子也博學多才由萬曆
進貢陝西米脂縣時米脂四奇危寇寇
斥疲蹙道前下車即力爲民講蹙蹙給牛種由
督郡登陝撫賑大計日夜不懈不遺餘力有獻
圍賊登陝撫賑大計日夜不懈不遺餘力有獻
史無縫無爲地方害慮得其真節日遺諸流任

懷安縣志 卷二十 人物

三

李汝楨 字孟山汝州有政給之簞子也少聰穎十三游
學不妄取錢一錢開釋解以早異其履夏縣知縣時
依儀屬官爲處置山骨架相持遂棄官歸行李蕭然
矣知也置出把家居務教行誼有兒子昭芳六歲而
背身生不取及幼分志遠翔方長舉步遠遊之封諸
忽然兒女適左衛指揮買末一官發二百餘金生駐
當於世職力爲代措充官買履免議天啟置政寇境
安濟無市集貿易爲牙骨才難申議立集三日一
安濟無市集貿易爲牙骨才難申議立集三日一
安濟無市集貿易爲牙骨才難申議立集三日一
安濟無市集貿易爲牙骨才難申議立集三日一

懷安縣志 卷二十 人物

三

柳文 字厚庵萬壽州以選貢任河南萊州府政選人
張慎 初失學年二十餘族人愛其幼始發憤讀書書
初授陽和兵衛守備張家口水達堡參將委氣傲
岸守正不可會率委進軍番番爲總兵時欲作而日劉
言言上未不爲之具呈力爲之進奏與宗黨終
言言上未不爲之具呈力爲之進奏與宗黨終
言言上未不爲之具呈力爲之進奏與宗黨終
言言上未不爲之具呈力爲之進奏與宗黨終

名臣

明

之俊 字聖化號善道人登順治己丑武進士性介直
不阿其於受及初任山海衛守備時澤州晉州
地欽民不賦實受受爲民請乃得清還汝澤亦
城衛會辦善於立人又爲之爲立生祠於
工西縣州左徐守官誇獎空知如夢之
德縣州左徐守官誇獎空知如夢之
德縣州左徐守官誇獎空知如夢之
德縣州左徐守官誇獎空知如夢之

口吾為此將以盡吾心也庶不虛
吾何意或竟不肯回至終乃已
王宗萬全左衛人也父則為衛指揮官有聲稱於府
醫者環視其傷無一敢任能療其問疾人無貴賤親
疎亦私相意曰此天必死神不能生也宗受其難
何別所焚香祝曰天之大德在好生爾不能生我
父耶因取刀割股肉為湯進食前哭告曰適得少鹿
肉醫以少藥入和謂可已次其強從爾盡爾心耳誠
舍更臥汝旬疾愈

李榮萬全左衛人也父質年老患疾眼失明歷十餘
醫不效宗乃通請諸神廟神之至一聽見其香一
道人自云某從西嶽華山來適爾爾驚惶狀其何為
宗告之故道人曰吾借爾一人因之老父得疾則肝
以何則其疾愈爾能然耶宗還欲如其言為之忽
左眉肉隱起起因遂取以為羹進食疾即愈後月餘
宗病皆醒高廟謝神問而嶽華山道人
無有也毋亦孝誠斯感神默相之歎

岳春世襲衛鎮廣額巨額號雄善戰尤格致至行弟
兄安自厨出阿其妻日兄不體易茲山乃萬廣勵
妻亦先姪後子其友愛如此
問者與兵子俱擇名家納隨迎
岳安世襲少孤育於伯氏伯愛之伯氏亡服於伯
岳安世襲乃出就外居約耕無怨意力勤所獲若鮮衣
美食必推以伯氏之子友之勿問於初與人謀而
有容終以身身清見慈色香拾遺金六錢曰我非所
有而歸之天賦人用急而大之納人立市中凡三陽
月而歸之其忠厚謹願類如此子雖亦有孝行孫倫
名臣

國朝
張邦良字商分授貢生七歲喪母父已年邁承顏頂志
周旋省問每歲食粥為課視如飢食不進為母出
教以手接碗忽自責更以美食進之父八旬外地盡

懷安縣志 卷二十八 人物 七

趙國愛 字春胡 孝廉 父老 不教忘兄
義行 事繼母 以孝稱

夜泣泣如嬰兒如此者三年子
榮祖亦有孝行登之
劉漢字子姓至孝事父至孝父老不教忘兄
趙國愛 字春胡 孝廉 父老 不教忘兄
義行 事繼母 以孝稱

孫光胤 眉邑之界溝堡堡懷德好義崇禎初官鴻臚寺序
務獲下部議行縣德之北城場百餘與參又嘗捐時
華樂義勇為保軍計鄉閭感年七十卒子三長枝
華太學生次枝秀官浙江寧波巡海道又次枝芳官
副總兵三長三奇乙未進士次三晉學士
尉堯 字重吉 李信屯人 樂善好施 崇禎年 奉差 辦銅 賦
尉堯 兩道 遇賊 身先 奮擊 中二 次 幾 於 死 免 以 功 加
左 都 督 管 軍 信 屯 守 寧 事 年 八 十 餘 卒
能 騎 射 有 子 八 人 孫 十 七 人 皆 能 武 藝

高珩 好義樂施 順治三年山西委選之 大兵征勦
民 師 擊 之 堡 中 皇 皇 瑞 廷 身 擄 手 亡 詔 營 門 跪 白 主
帥 曰 愚 民 無 知 乞 賜 宥 卹 乃 意 解 堡 獲 全 五 年 六 月
洪 瑛 十 數 堡 奮 矢 石 不 遺 誓 將 徵 師 來 有 小 茶 種
濟 而 種 之 約 兩 閱 月 不 遺 誓 將 徵 師 來 有 小 茶 種
歸 堡 速 種 是 始 運 遂 獲 有 秋 珩 亦 不 責 償 里 中
至今 珩 之 善 至 八 十 二 卒 保 與 會 元 皆 建 豐 費 序
李 銘 族 駟 之 義 氏 也 立 志 皎 然 不 欺 康 熙 二 十 一 年 間
嚴 伯 同 鎮 民 號 官 等 叩 謝 寬 榜 答
垂 死 無 易 辭 卒 出 榜 於 武 鄉 里 義 之
馮 繼 明 字 伯 民 寓 于 任 澤 有 蔚 州 人 王 守 福 者 挈 其 母
至 汝 助 之 沐 梓 又 為 坊 工
之 舉 垂 焉 其 好 義 舉 類 此
普 善

國朝
楊成志 字信屯 人 萬 歷 間 出 千 戶 任 本 堡 把 總 請 議
白 玉 珮 不 受 曾 兀 五 世 皆 親 見 之 鄉 里 慶 為 人 瑞 云

懷安縣志 卷二十八 人物 八

李懷春 樂善好施 嘗費財以全饑者康
楊振武 字德重 伊貢生 甲午鄉飲 孝友 成性 居 鄉
韓承業 田家庄 人 務本 力 農 和 睦 鄉 里 或以 非 義 相 加
悉 敢 請 償 之 又 善 造 橋 梁 平 道 益 修 廟 宇 年 八 十 二
翁 能 身 日 操 子 孫 有 別 宮 墻 者 率 教 以 辟 謬 云
王 前 惟 謙 善 年 與 鄉 人 處 頭 數 顯 陸 人 以 是 多 之 壽 八
十 四 卒 子 維 邦 邑
唐 生 亦 有 孝 行

林盛 字大 林 號 海 欽 楚 黃 人 也 以 明 經 客 遊 燕 市 喜 吟
青 來 游 官 鎮 諸 州 縣 送 多 况 定 斷 令 股
公 間 其 名 聘 修 懷 柔 稿 成 未 梓 為 可 惜 云

國朝
流寓
楊成志 字信屯 人 萬 歷 間 出 千 戶 任 本 堡 把 總 請 議
白 玉 珮 不 受 曾 兀 五 世 皆 親 見 之 鄉 里 慶 為 人 瑞 云

李懷春 樂善好施 嘗費財以全饑者康
楊振武 字德重 伊貢生 甲午鄉飲 孝友 成性 居 鄉
韓承業 田家庄 人 務本 力 農 和 睦 鄉 里 或以 非 義 相 加
悉 敢 請 償 之 又 善 造 橋 梁 平 道 益 修 廟 宇 年 八 十 二
翁 能 身 日 操 子 孫 有 別 宮 墻 者 率 教 以 辟 謬 云
王 前 惟 謙 善 年 與 鄉 人 處 頭 數 顯 陸 人 以 是 多 之 壽 八
十 四 卒 子 維 邦 邑
唐 生 亦 有 孝 行

國朝
流寓
楊成志 字信屯 人 萬 歷 間 出 千 戶 任 本 堡 把 總 請 議
白 玉 珮 不 受 曾 兀 五 世 皆 親 見 之 鄉 里 慶 為 人 瑞 云

懷安縣志 卷二十八 人物 九

李懷春 樂善好施 嘗費財以全饑者康
楊振武 字德重 伊貢生 甲午鄉飲 孝友 成性 居 鄉
韓承業 田家庄 人 務本 力 農 和 睦 鄉 里 或以 非 義 相 加
悉 敢 請 償 之 又 善 造 橋 梁 平 道 益 修 廟 宇 年 八 十 二
翁 能 身 日 操 子 孫 有 別 宮 墻 者 率 教 以 辟 謬 云
王 前 惟 謙 善 年 與 鄉 人 處 頭 數 顯 陸 人 以 是 多 之 壽 八
十 四 卒 子 維 邦 邑
唐 生 亦 有 孝 行

懷安縣志卷之二十一

知懷安縣事濟南楊六島纂修

列女

易著坤貞記稱內則聖門之地王化基焉是以形常... 已不淪者難易或殊于義妻歸一致視夫歸大節而... 脂膏者相去有間矣謹著於篇以為世教風志列女

懷安縣志

卷二十一 列女

明

李氏張氏妙聽 李氏保安右衛指揮張... 李氏張氏妙聽 李氏保安右衛指揮張... 李氏張氏妙聽 李氏保安右衛指揮張...

懷安縣志

卷二十一 列女

國朝

田氏 邑人黃泰妻泰早失怙母張氏撫育之至長為... 徐氏 李信忠前軍把總李應元妻年十七來歸事舅姑... 任氏 副千戶張希需妻年十九夫亡撫子... 李氏 萬全左衛人年十六歸懷安百戶鄧彪生子堂彪... 郭氏 懷安指揮楚順女適千戶王澤成化十二年溥卒...

懷安縣志

卷二十一 列女

李氏 明衛指揮徐應貞妻年十九夫亡無子有孀姑在堂... 王氏 子未週歲氏撫之成立養善事舅姑以孝聞... 閔氏 初適趙致... 楊氏 夫亡苦節... 朱氏 夫亡苦節... 秦氏 邑人朱秀妻年二十夫亡適... 衛氏 邑人朱秀妻年二十夫亡適...

懷安縣志

卷二十一 列女

清

張氏 生員梁士廉妻廉亡矢志撫孤事舅姑... 楊氏 賦賦生張心一妻心一且始語揚以烈事... 閔氏 生周天祐妻年十七夫亡適... 郭氏 自自旺妻年十七夫亡適... 衛氏 邑人朱秀妻年二十夫亡適... 秦氏 邑人朱秀妻年二十夫亡適...

懷安縣志

卷二十一 列女

衛氏 邑人朱秀妻年二十夫亡適... 秦氏 邑人朱秀妻年二十夫亡適... 衛氏 邑人朱秀妻年二十夫亡適... 秦氏 邑人朱秀妻年二十夫亡適...

官於薪米存活雍正十二年奉

官旌表
朱氏 廩生朱文熙女年十七歸地廣生白富聯舉一科
朱氏 王以甫遺妻夫亡年二十九薪水不給或
貧而欲立為各諸生至正十二年奉
官旌表

張氏 俞文妻年二十九夫亡遺孤方三歲甘貧矢志守
節四十一年雍正十二年奉
官旌表

張氏 韓忠烈妻年二十一夫亡遺孤始孩氏抱前
成 正雍正十二年奉
官旌表

李氏 王道年妻年二十八歲夫亡遺水不入口者三日
其何依乃勉稱未亡好孝養撫孤勇始發父每歲
奠其志以死自誓乃免雍正十二年奉
官旌表

懷安縣志 卷二十一 列女 四

官旌表
何氏 廩生何煒妻善事舅姑年二十八夫亡遺孤未週
歲矢志不改撫孤成立守節二十八年雍正十二年
年奉
官旌表

劉氏 王鳴瑜妻年二十八夫亡子嗣始孩氏德孝養生
事姑盡心力守節三十三年雍正十二年
官旌表

張氏 左衛民趙鼎選妻素賢有賢稱年二十一夫亡遺志
自守夫之兄嫂相繼早死遺孤僅存方三歲氏親
之如己出勤教課為母生
苦節五十四年壽八十四卒
宋氏 左衛民石奕妻年十七夫亡攜孤存穡志
不渝今年八十二歲乾隆五十年學院錄其門曰
松栢

石氏 左衛民鄒子瑜妻年二十九夫亡家貧子幼在勤
以改適者氏峻拒之者有數年虛其孤有成

年五十一

武氏 左衛民侯佐妻性節亂家赤貧力作以奉舅姑
病無負持節起瘵始終三十餘
年無怨色無惰容鄉黨咸以孝稱
岳氏 左衛民賈進妻年二十三夫亡
志不改現年五十二歲
王氏 左衛民王秉忠妻年二十二夫亡
苦節五十九年六十二歲卒
高氏 左衛民高守忠妻年二十六夫亡
夫亡守節五十六歲
張氏 左衛民張忠誠妻年二十一夫亡
不交苦節三十一
也年現年五十一歲
吳氏 社黃慶妻年十九夫亡
歷今古節五十七年
陳氏 生員陳學民妻年二十八夫亡遺子
尹秀全幼失志撫之今苦節三十三年
懷安縣志 卷二十一 列女 五

徐氏 武生張秉元妻年二十四夫亡無子歷今
苦節四十餘年學憲旌其節
吳氏 武生楊承方妻年二十五夫亡守
節不務各志堅忍始孩卒祀
泰門 子氏 左衛民集場人徐夫未滿一年夫亡始適
收遠逐日誓死相傳守節後年遠坊
從夫共
高氏 左衛民李元亮妻年二十四夫
亡苦節五十六年壽七十九卒
楊氏 左衛民趙世英妻年二十九
大元守節七十三歲
楊氏 生員李鳴鳳妻年二十八夫亡遺二子俱幼氏
奉飲藥養孤苦志不改今年六十三歲古
已三十一
李氏 左衛民王亨妻年二十九
夫亡守節五十二歲
喬氏 兩旗七人夏全妻年二十八
夫亡守節五十七歲

劉氏 左衛民胡才妻始年
卒年事其舅以孝
張氏 孫之妻年二十二夫亡遺子廷吉甫二歲
育成立苦節四十四年六十三歲卒
王氏 東時廣立李春妻風韻教年十六歸李甫三
身有遺孀若生男可延李祀過勉稱未亡越二月
子孫康遂矢志撫之學男始起敬起孝姑不殯
盡禮男娶妻至奉之益加不願得男始欲如未良其
子勇比 考終執喪未嘗見齒鄉黨咸以孝稱之今
年五十一歲苦節已三十餘年合例旌表

劉氏 其恩年二十五 子未週歲孀姑在堂
又撫其孤孫守節三
九年年六十四歲卒
三氏 生員牛寬妻年十八夫亡遺子生子行
然有南母與居四十年尚未速與與
安氏 楊極妻年二十七夫亡家貧遺孤皆幼始
勞以教以養歷今八十歲盡節蕭然乾隆五年學
懷安縣志 卷二十一 列女 六

院錄其門
日霜霜玉潔
氏 梁一正妻年三十夫亡一食如流幼勸以志
者後拒之備縫食活節滿今年五十五歲
汪氏 月生孫瑞妻年二十六夫
亡勵志撫孤今年六十六歲
倪氏 元秀妻年二十一秀
鄉氏周鳳年妻年二十三夫亡失志撫孤苦
四十一一年年六十三歲子周魁包慶勝生
郭氏 歷生年繼慶妻年十九夫亡苦志
歷今六十五歲守節已四十七年
張氏 李秀妻年二十三夫
守節七十歲卒
郭氏 守節六十三歲卒
薛氏 守節六十三歲卒
郭氏 守節六十三歲卒
朱氏 羅錦妻年二十七夫亡遺孤
守節撫孤子以成五十五

徐氏 補民壽王妻年十八夫亡守節五十年學於縣

趙氏 王維傑妻年一十大亡守志事舅撫孤以孝

李彌元妻李氏年十九夫亡守節今年五十七歲

常應鴻妻常氏年二十四夫亡守節今年七十七歲

按二氏同姓為禮所勿許然女子適人受命之

則與姓之嫌皆共少也 法使然一氏初不得自

因哀其節錄之

懷安縣志 卷二十一 列女 七

懷安縣志卷之二十二 知懷安縣事漢南楊大良纂修

災祥 祥莫祥於豐歲災莫災於凶年其餘草妖木瑞以其

不恒見也而異之非異也才祥柔雜雜著於商書

露甘泉繁於漢 彼果祥者祥而妖者妖耶君子之

學士公畏天苟有所 故恐懼修省之

也况身為民牧而不以風雨之咎咎 災異

不之懼歲凶而不之勞世世然委運於氣數

懷安縣志 卷二十二 災祥 一

志災祥 五十年秋大有年

十八年夏六月大水

二十年秋有年

宣德三年夏六月大水

四年春三月饑官賑之秋有年

正統四年夏六月大水官賑之

四年春正月地屢震

景泰四年夏大旱

六年夏六月大水

五月五日大風飄屋瓦拔木

成化六年夏六月大水次年春饑

十二年秋七月黑雷見其物黑小金剛修尾體狀

入過者觀之 疾如風多自戶隙

被等八乃夜微聲特乃勞之

十九年春三月地震冬旱無雪

二十一年春正月春旱 秋八月大有年

宏治 八年秋六月大旱饑

十八年春二月地震

懷安縣志 卷二十三 災祥 二

正德六年 嘉靖二年夏五月地震

十二年秋八月星貫九日地震

十五年秋七月蝗

十六年秋七月華人捕食之

二十年春饑

<p>二十四年春正月 七年秋有年</p>	<p>二十九年春三月十九日未時大風拔木黃砂蔽空晝昏晦不見至夜風少止 <small>同日京都風拔木兵內起大肆毀壞城百北垣塞所過地皆有傷殘</small></p>	<p>三十三年春二月癸亥六月大水壞屋廬湧天稼八畜斃溺死者十之九 <small>十塞其山石墜下塞其山石</small></p>	<p>三十四年春三月大饑人相食詔請帑 三十五年夏六月地震 三十七年秋八月大雨雪樹木多壓折死</p>	<p>三十八年春正月至夏五月不雨蝗蝻六雨 日餘三過合時災至八月雨雹深三尺禾稼全 萬歷九年五月地震二尺 十年秋頗 十一年春疫 十三年秋大水 二十九年夏積雪 四年大有年 三十五年大雨</p>	<p>三十七年夏秋旱 十八年大疫 四十三年冬十一月地震有聲如雷 四十六年秋九月地震 崇禎十六年春疫夏大旱秋又大疫 十七年正月大風日無光 國朝 順治十次七月飛蝗蔽天 五年甯生</p>	<p>九年西南二路多夜猴先是二路產黃鼠自是少 夜夜猴乃捕黃鼠之 宣亦此勝說 表望或然也 十四年九月地震 八年春二月至夏四月不雨閏四月北南二路 大雨雹大如鷄卵 無雪 康熙元年春二月地震夏五月大雨雹四郊人畜有傷 二年夏五月旱 三年春二月地震 春三月地震 七年春二月至夏六月 大雨水七月</p>	<p>夜城垣屋廬多 九三月至夏五月不雨麥多枯好蝻生 十二年秋九月九日地震 十三年秋八月地震 萬曆大水 十五年春三月二十六日大風覆蓋海 十八年夏六月旱 十八年秋八月地震 十八年冬八月地震 十八年春三月至夏六月大旱 是年八月朔七日 張原及西番回人二百餘 口人食古亦有凍死者 二十九年秋七月積霜冬大雨雪 二十九年春正月積霜夏四月朔日食晝薄見星 九月地震 二十八年春二月春分前雷電大雨二月恒風 康熙夏大旱秋七月九月九日六日 二十九年春二月二十六日味爽俱至夏四月 五月風連晝驟秋不雨小有秋一二月寒甚 一十三年霜早 三十三年霜災</p>	<p>懷安縣志 卷二十一 五 五</p>
--------------------------	---	--	---	---	--	--	--	----------------------------------

三十四年秋七月

五年春饑十一月地震

三十六年閏三月朔日食既九月大雪

三十八年秋霜災

五十七年大六年

五十八年夏、月地震

六十年閏六月初日

癸 午次八月霜

八年冬旱秋霜

九年夏麥熟十二月朔日食

懷安縣志

卷二十三 災祥

六

十年大有秋

十二年秋大水滂入城

三年九月初日食

乾隆二年秋七月北路河... 被災不支賑濟

三年秋大有年

五年大有年於八月地震

六年大有年

懷安縣志卷之二十三

知懷安縣事淮南楊大昆纂修

外記

言不必為經事不必為法志之不可以已乎然齊諧

山海經王為鴻... 考取實... 則夫見見聞聞遊於

往古而... 考其亦未可盡及之... 或事涉無

稽... 元... 夫... 婦... 之... 講... 也... 而... 以

勿辭... 登... 之... 齊... 臨... 海... 觀... 吳... 作... 錄

德玉不知... 許人... 傳... 成... 化... 單... 縣... 西... 南... 壽... 峯... 山... 林... 木... 甚

懷安縣志

卷二十三 外記

一

精有虎據之玉入山... 虎... 前... 日... 余... 欲... 與... 錫... 於... 此... 蓋... 且

... 虎... 據... 如... 故... 玉... 又... 日... 否... 能... 食... 我... 虎... 復... 如... 故... 玉... 至... 前

... 治... 玉... 虎... 虎... 日... 余... 身... 骨... 可... 食... 古... 則... 讓... 地... 宜... 虎... 毛

... 首... 飾... 之... 不... 云... 玉... 結... 繩... 與... 寺... 遂... 易... 今... 名

元史百官志... 亂... 染... 局... 提... 領... 王... 之... 宜... 鎮... 志... 萬... 全... 左... 衛

有虜房... 皆... 元... 代... 迹... 也... 今... 可... 考

英宗自... 大... 還... 軍... 駕... 甚... 萬... 全... 左... 衛... 金... 齒... 衛... 知... 事... 表... 敬... 請

留精兵... 其... 軍... 駕... 疾... 馳... 入... 關... 王... 振... 不... 納... 六... 師... 遂... 覆

日觀兵... 西... 郊... 見... 市... 梁... 千... 人... 聚... 沸... 喧

...

...

訊其故云舊俗元符

不足也諱明然

金約百兩餘於學宮東北置隙地建啟聖祠

李副將者亡其名戰被圍所乘之馬善調而出遂得生

遺後李卒其妻... 馬於... 廟... 道... 士... 馮... 清... 潔... 榮... 榮... 之

追馬死妻... 泣... 絕... 矣

郝貸... 者... 亡... 其... 名... 以... 貨... 名... 之... 狀... 貌... 魁... 梧... 年

有六... 衛... 官... 張... 天... 柱... 受... 其... 多... 壽... 衣... 食... 恩... 贊... 殺... 為

官錄

城西有火燒王進士里居相傳進士某係火燒禮閣

懷安縣志

卷二十三 外記

二

中式者為岳太常公之婿今後裔遺無可考

斌成化間新寧村人勿孤好釋教徒九上... 邊... 軍

之... 兵... 教... 者... 過... 山... 後... 無... 子... 有... 一... 女... 亦... 好... 善

行年五十日... 忽... 語... 人... 日... 某... 日... 長... 與... 諸... 君... 別... 矣... 伯

期果然... 本... 壘... 隔... 其... 壕... 然... 尚... 存

閩自治隆慶時人柴溝堡黃豐莊武舉繼娶婦張氏

有子芳... 萃... 茂... 皆... 前... 室... 出... 張... 鞠... 育... 成... 立... 不... 減... 親... 生... 萬

六月大雨城崩自治與萃茂俱被壓

無術... 號... 呼... 徹... 天... 芳... 自... 以後... 事... 畢... 亦

塋城死夫婦並棺而

與旌典者或

李瑞布政公綸之父貿易懷城歲杪買銀珠於宜鎮司

櫃者誤與一封倉卒携歸啟視則銀也時已除夕星

馳還之

張善等講公士範文官廣文新生貧以妻釵為贖善曰

汝秀才妻正好替此人之能無他愧乎不受

崇、年

板左肅信傳守備王某有良馬奔將乙不

禍一日托名查邊單騎逃赴東營其城鄉道者于

懷安縣志

卷二十三 外記

三

也王于妻子皆在懷城而左衛有風紀焉

城一十八家偶獲遺稿云崇禎七年七月初八日

大兵一安有教勇張士和張士華張士秀張振業張振

道率鄉兵襲於東屯山等處八月二十八

日又戰於竹林寺斬獲一頭目首級聞八月十六日

巡撫焦源清巡按米助國道范鎮總兵張全昌驗

賞叙功二十二日奉旨委查以斬獲頭目與敵級不

同張振業以功叙校尉將軍據此則人傳王其鄉導

又未確也

懷之左衛東有人阜上

鐵古器物亦聞

有金玉

此地自晉元而渡後為沙陀割據或為雙

為臺榭世遠年湮漸成高阜滄海桑田理有固然

也

康熙三十一年縣西北趙家坡民耕田得鐵雲板一

重二十餘餘錢諸書數行後有平陸二年造五字

歷代建元無平陸字完顏亮敗元正隆或

訛正為平抑或鐵入土阜為字畫模糊而不可

辦事未可知也

城西二十里趙家坡瓦石成累土人稱此如廟相傳曰

懷安縣志

卷二十三 外記

四

有女名花妮者居此親容以騎迎至為渴欲滯之

如躍入死人嘉其烈於所居立廟今此地而名存

左衛塘山水溪有一石碣古寺俗名為文殊觀

相傳常出怪異生持偶萌不正即不敢棲息其中

城東南北口山產刺梅春時馨香遠聞花亦艷

麗宜府賣花者帶來取之

南城門右扇嵌石一塊有天交二字潤則有雨不知其

也

北密溝有塔鐫統和六一

平頂山古刹不知建自

按神堯建祀祠宇委郭公監督者甚多今北土人

凡有營繕每注其名猶築壇垣之書姜太公也竟

目為郭公監謂誤矣

順治初苗倫公主次駐柴溝為家於堡城四牌樓西北

造府居並闢占民田居餘仍歸關東府基田

歸故上

柴溝二河洋河盤折灤河花山關於西溫

灤緣於東河秀之概甲於宣郡間遊石嘴河邊寺

懷安縣志

卷二十三 外記

五

戰野河入滹沱沿溪而西屬軍持青路石關瀆

曰小吹風然南國風景

懷安縣志卷之二十一

知懷安縣事濟南楊大昆纂修

藝文

文章天地之精氣也六經尚已下及百家人自為說
班孟堅漢書地理志藝文志藝文志而採其七略彼蓋
一代之工故每傳載焉本可以例巴乘也且夫燕幽

各
非方產後漢矣理是以茲編僅

前所地與人與事者傳
若夫各山雜錄閒憫始

生之

辛顯陵疏

明工 岳 論

陛下以顯陵遷在承天

行 臣民莫不仰嘆陛下之孝又重

陛下之行也臣聞之惟王盡制准聖靈倫大禮本
緣於人情孝由於天在年唐宗獻皇帝尊統

既定之後臣意以為大享之禮遷陵之議當必相繼
而行大小臣一若無異辭邇者大享已成徽號既定

禮官且

詳悉百

哀莫不私相稱

禮之成斷自淵衷符中外久矣今乃復有此

舉臣始不能無議焉何也孔子曰死葬之以禮斯禮

也是人之至情而不容已者也是天性之至親而

不容不盡者也陛下下謂途此之運體魄之危至欲躬

往是陛下今至孝慮慮慮所發臣愚以為使獻

若

可安脫離乎抑朕違教

陛下為天地神人之主獻皇帝

有

今陛下

不

祖廟之中乎然人心所未

禮

神宮何在承天耳今者

太

豈不危乎然陛下下孝之至而計之過也况遣官皆

德檢材是

之法量能詳悉當必不煩聖慮雖各躬自扶輿亦臣

子分所當為况今湖廣河南地方連年稱災民不堪

備之擾

宜大吉

陛下神御密

天受方學尚多失事今遠在承天而奏疏主來動

經前人家幾邊勞豈應遲久伏乞陛下聖北遷之舉

斷言望心不惑浮議使獻皇帝之靈與列聖之靈

皇終成陛下之孝宮不避與大抵父子至情形氣

在承天而獻皇帝太皇

陛下孝風成安之否乎臣知其

安

陛下

陛下

陛下

陛下

陛下

陛下

陛下

陛下

陛下

陛下

陛下

陛下

陛下

陛下

大臣所... 岳倫

請奮乾新裁好黨以清仕途疏

臣聞人之惡... 岳倫

在口背治... 岳倫

臣切曰... 岳倫

下誠心... 岳倫

下... 岳倫

更... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

所賜何... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

橫斥撫... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

... 岳倫

速之政謀國存存大寬之德而不傳於前著刻
 之為天下於禮樂教化之域而養之以忠厚求耻
 之風故曰大臣之道曰德曰望曰才夫身有之謂德
 聞而服之謂望德不喪去去德之謂才陛下試
 觀之德望其人是安一物失和宰相之責古人
 有以災異自事求免者故今一被論劾輒肆妄辯豈
 古大臣引咎責躬之意耶更願陛下鑒立黨之禍
 於於社而治亂之源莫於此矣陛下下之而不早
 璽舉亂之而有餘何也陛下一人治之而璽舉
 璽舉之惡斥群擠空人之國故時人亦以權方一
 懷安縣志 卷二十一 七

何以謀天下之政哉陛下陛下治天下之心成
 與之治其大本大源端在於此此外無餘策也如蒙
 准奏伏望以臣言下之內閣下之九卿下之科道下
 之部署有不如臣言者請斷臣之頭以謝璽舉以謝
 誤陛下之憂之臣實甘心焉
 請獨與璽舉 岳倫
 臣等竊謂七年十二月內禮部題准前往山西王
 蕭廷明倫大典由大同應門下太原府一春無兩千
 里亦地以過鄉村蕭然無鷄犬之聲雖奔女室婦身
 無完衣臣隨問吏皂皆言舊年因朝政之有亂璽舉
 懷安縣志 卷二十一 八
 所以秋冬不會上納及至今春催徵無處補辦多所
 逃移就各處臣自惟國之所賴考民今逃亡如此
 豈能備糧地欠地既拋荒新糧何從出納璽舉相繼
 恐復業之期矣至省城會和政司官臣問曰去冬
 稅糧認會出者民情乃朝廷於情已甚至意當時朝
 野歡騰賦無諸君何不仰承休德以惠此窮
 民耶眾皆曰各省之糧乃王糧邊儲所取足者今璽
 免則今年王府軍各邊皆當竭其口矣此戶部所以
 刁行不道也夫為此言者亦未為盡失但見戶部
 守經之言非敢寬通璽舉之布若只知糧自地追而

知糧從地產使今年軍民必民逃地荒將追諸地
 城知所言則是孤朝廷之意而坐視百姓之死矣及
 過路城武安涉縣河南一路見扶老攜幼相踵而行
 跡屍橫道嘆氣四屬行者避之野無衣甲耐無完膚
 號哭之聲有路者莫不流涕涉縣方知縣告臣云
 前日於縣審戶某人告云彼食我兄某又告云彼食
 我而彼民則云彼時亦曾同食許推官告臣云
 寶源鄉村間有司賑濟呼聚一城熟畜之間一時餓
 死數十日人縣官盡埋之城隍廟後街坑內臣聞此
 言泪下沾襟不能復視璽舉氣重得察疾屍氣
 懷安縣志 卷二十一 九
 重斯傳疫疾氣重得察疾三者皆凶年所必至
 也自惟誠非有司既不能承德意以法饑殍它非言
 責之不敢延民也延民延民延民而已過武安
 中必道途遠近足次日見以勞婦女皆拖傘以代
 午耕臣言及時秋尚可望須臾見備地拿人
 臣問之云王下殿下自縣追糧將去各戶追徵
 百姓見臣詢問皆呼聲動天擁不得行行至關洛驛
 得邸報見陛下憂旱出郊祀天臣仰而嘆曰桑林之
 禱何以加此聖人在上宜忍負之乃始敢以所見報
 陛下聽宜忍避出位之生視清整之民哉切

王禮遠儲雖不可缺而憂故荒亦自有處若奉
者以陛下免糧之心為心以陛下出禱之心為心以
陛下足崇高而憂驚屬之心為心則叩叩垂絕之民
無患其不更生也臣又聞彰德遼南並山東饑饉尤
甚伏望陛下臣親之荒心下該部於被災重大地
每每省左素右風力心計科道官一員星馳前去將
地錢糧照原額免使有力者尚得乘時務
為六歲貧富相資為生之地無力者設法周處復業
不使有空視流籍溝途之黎救荒之政既行然後徐
為蘇糧邊荒之議若復行文則新經累年而百

懷安縣志

卷二十一 藝文

十

姓奄奄垂死恐不可待矣况前時免糧詔旨文移豈
止一次陛下憂恤民困豈止一時而錢糧依舊追徵
窮民仍就博整使陛下愛民如子之心生於心而不
得遂於政發於九重而不得遂於閭閻所謂黃放有
催之才雖豫之而從處為行移也計今者所差之
官先出告示將免糧免徵告示務在文省字約不
過數句若只書聖旨免糧四字尤為簡切然後親詣
別縣查某縣欠過糧若干某縣錢糧可補若有不盡
足向州縣官商確設法轉運轉輸為賑不問二代
以前盡是豐年過荒之山是坐視其守巡守令言

能設法補完前項錢糧之戶部則數多而難處數之州
以下則愈大錢糧總之戶部則數多而難處數之州
縣則數少而勿元正如庶人之家平時則諸子群僕
取給於主翁雖多而不覺其難至賔時則諸子群僕
於主翁翁食而主翁於死主翁只取給於主翁而眾皆
袖手則以無所預外無所入其將何以為家耶行臣
之利在差官不差不官則有司無所督責陛下憂下
之憂雖切而不得達而差官又利在自願則樂於趨
事而志心堅不阻於難而事易集况今時勢皆難公
私並困非有才識者不能處非有仁愛者不肯處非
有力量者不堪處若只如常薦舉二三人有才或長
於他而短於此心或馳於大而忽於細力或安於逸
而之堪其勞政與心違事與人異乃望其困難就易
轉死為生亦亦亦濟矣此臣所謂差官又在自願也
不忍之心人皆在之而豪傑之人才所獨異况今堯
舜在上下執事以欲自効以拔出流俗必有具全才
者出而應陛下之望以上分陛下之憂者也其被災
州縣仍急選通達老成者督令作速起任庶得及
時以救災民生不必拘八月六月開選如在年亦不
必拘某起某止為內事也某止為外如常選也詩云

懷安縣志

卷二十一 藝文

十一

周爰詣諫言使臣當爭言上訪問也况今皆臣目所
見傷心而不忍訪問者乎又曰每懷靡及言使
臣當常若懷恐有所不及也况舉目盡可痛之人而
有不待思者乎此臣情迫於所難堪而言發於所不
忍也聖明試垂鑒焉

籌邊訂疏

岳倫

臣於本年十月二十一日日本國百姓郭鼎等在大小
買賣同縣報稱軍士作亂殺死總兵等情二十八日
復得邸報彼處撫巡等官奏報前情奉聖旨兵部便
上緊看了來說臣不勝憂惶臣聞大河軍士往年嘗
殺都御史張文錦矣既又砍傷總兵官桂勇並殺死
勇于伍家人矣今此舉是第三次作亂也聖人在上
聖神明睿乃武乃文廟堂有運籌帷幄之臣邊塞有
折衝禦侮之將猛士如雲謀臣如雨前是又嘗下司
行之詔以聖明江漢彼復不常妖孽再作罪惡實盈
神人其心天威一會共進六征討必矣臣九慮撫巡
鄉官在利害中猶為生死所構者鮮不恐或為後陳
乞又國家全盛士大夫鮮見兵革彼中地方人言多
不謂言利害者其難免錢糧者其勢費於宗
室良民者為玉石俱焚之憂有一於此皆足深慮

懷安縣志

卷二十一 藝文

十二

必拘某起某止為內事也某止為外如常選也詩云

感聖聽而阻撓大計者。復蹈在年故智殺無干。巧數十輩以緩王師則天下之事去矣。此臣所以不避疎遠之嫌願為陛下言也。恭惟祖宗開國內輕外重材官從卒環列九邊而內郡無兵其在畿輔者雖重不足恃。故不處者。而邊負恩效尤殺害大臣。易置將領異跡陛下將復誰討耶。伏乞天奮三威一意從伐。况總制侍郎劉源清都督御史巡撫都御史韓乃奇皆忠義謀畧不自辜負若一以委之必當克稱上意。誠爾大同不足平也。夫兵無常形應無常法。隨機奪得。迺度者失臣二千里外豈敢言兵但願陛下。下指天地之義嚴綱常之分銳意進兵志在必期而已。其征討之方攻圍之法臣前所調責在劉源清等。非臣所能逆料預定也。在年侍郎胡費用兵大同經臣原籍宣府時所為舉人官上書軍門下及以事抵巡撫御史王。臣大意謂處利害之內者其謀論不足採是。同鎮之鄉官父。臣之言不可聽除蛟龍之害者則網罟不足惜凡一切宗室官吏良民玉石俱焚之說不必講。漢高帝開楚烹太公即欲解成卒。圖云。夏良為分羹之說以給之項伯謂高帝不顧家太公得不殺使當時乞。乞請則愈求愈高而太公

懷安縣志 卷二十一 五

或未必歸是舍之乃所以攻之置之乃所以請之也。又謂。堅城之敵者其攻取不可急今時當隆寒官兵不必顧之。城下只於三五十里如聚落等。舉。一。等縣環而駐之以邊其機變使錫應滿之。一。月不入四方之。種三月不至可以坐待彼之蹙矣。然後索日則得。百索千則得。千技而誅之。擇而有之。門。之。在朝廷矣。昔。淵淵之盟。寇準謂以戰盟則。我。可。堅以求盟則盟在彼而易叛。今。不可使朝廷之敵在彼也。又謂大同一隅。九邊觀望。今日以請邊計。一。其。為。力。甚。易。萬。一。附。和。聲。相。為。羽。翼。勢必悉天下之力以討之。昔人謂失河北是失天下矣。討大同所以為他日九邊計也。計九邊所以計天下也。今日之舉當以理勢論。不。當。以。難。易。論。當。為。異。日計。當。為。目前計。又謂。雁門。之。近。大同。恐。諸。寇。窮。則。兩。掠。山。西。若。以。兵。以。守。雁。門。則。北。兵。不。能。入。而。遣兵東塞。兵。陞。西。北。滿。和。南。且。沙。湖。以。守。黃。河。之。險。則太原河東百萬生靈無以自存。緩急非歲月之兵可取也。若不能。過。為。門。是。西。向。則。榆。林。東。則。宣。府。保。彼無能為矣。將。贖。皆。不。能。聽。但。縛。其。二。命。史。祥。卿。等。數十人至宣府送馬數千。布數萬疋。銀數萬兩。即進

懷安縣志 卷二十一 五

師去。貽。嚴。冬。令。宣。府。軍。士。為。彼。解。送。錢。糧。軍。士。咸。振。旌。不。能。平。環。知。之。不。恤。也。時。臣。謂。食。事。王。謹。曰。此。屬。盡。為。身。謀。事。與。國。思。不。數。年。當。即。復。作。若。少。不。親。網。就。合。則。亂。速。而。禍。小。事。姑。息。焉。原。則。亂。遲。而。禍。大。今不幸而。言。中。矣。又。見。即。推。管。副。鎮。守。大同。督。其上。案。赴。仁。使。一。八。大同。城。便。為。彼。所。牽。制。不。可。不。符。印。合。駐。陽。和。城。得。便。宜。而。各。城。之。兵。亦。各。所。不。東。不。敢。携。貳。觀。望。仍。別。推。管。糧。郎。中。一。員。共。駐陽。和。以。代。軍。士。月。糧。以。明。示。童。大。同。城。於。度。外。則。進退。伸。縮。在。我。矣。疏。成。請。之。臣。妻。曰。今。宣。府。及。京。師。備皆大同。探。謀。萬。一。共。不。行。我。家。從。盛。矣。臣。叱。之。曰。我家世受國厚恩。享金紫。梁肉六世。我復登聖人朝。進。二。內。外。二。朝。祿。八。年。使。我。如。不。言。今。宣。府。無。京。官。士。非。無。知。大。同。消息。者。萬。一。從。中。撫。守。官。再。為。任。之。舉。得。始。身。尤。彼。朝。廷。無。大。同。也。無。大。同。也。無。九邊之漸也。尚何。以。家。為。伏。以。陛下。是在。討。之。議。牛。不。可。破。念。全。城。之。下。攻。圍。之。始。萬。一。少。有。劫。挫。無。使。書。生。輩。從。而。相。議。其。後。則。謀。者。當。自。出。奇。勇。者。當。自。効。死。節。彈。丸。大。同。之。地。如。太。山。壓。卵。矣。疏。成。滿。下。已。一。破。山。縣。無。知。顯。守。者。本。者。願。例。當。用。印。事。鈔。促

懷安縣志 卷二十一 五

迫告人謂軍中書不埋註子乃朕死如常書上陳伏惟陛下矜其愚孝下之廷備付之本兵則千里孤忠死亦不恨為此奏聞

請恩錄書心疏

郭岳 魯邑人

謹奏為 遵新例以廣天() 奏請恩以尤舉獲事臣於本年正月十七日恭迎先皇遺詔內開自門仕至今時言得罪請臣存者名月沒者即錄見監者即釋於復應臣一聞之涕淚交下伏地號慟又於本月二十五日恭迎皇上新詔內第一款開教自正德十六年四月以後至嘉靖四十五年十二月以前建言

懷安忠志

卷二十一

七

得罪諸臣遵奉遺詔不者用殺者即錄吏禮兵部作速查開職名議擬具奏臣哀泣之餘又感聖聖皇褒憫忠貞自致諄懇仰見先帝之至仁聖皇之至孝誠千載之奇逢願古之僅見也薄海內外愚夫愚婦莫不望言加罪臣揚恩恤况臣等受官食祿豈昌運者乎臣於正月十九日將臣父岳倫建言得罪罪畢節具奏並申吏部查錄去訖近見邸報吏部為開職事本部奏建言有罪諸臣家先帝即錄之恩道詔關載七州際聖主亨嘉之會新詔申諭更切雖身先朝露不幸殞歿九泉有知尚結草拊膺禮盛等分為

二等即錄又將熊汝霖與杖死者一體即錄以不傳其遺令聖明俯賜裁定勅下遵行此外如有遺漏聽兩京科道官並各處撫按官查明明白各另議奏奉聖旨是熊汝霖准贈少保遺與他議其餘依擬行臣又有以九部臣何體聖心行浩蕩天恩如雨露之潤物必無均而恐被之也臣復何言但痛念臣父倫緣本本介胥世受國恩釋褐初即誓以委身圖報

懷安忠志

卷二十一

七

為辦事進士於嘉靖五年六月內則論詹事霍船粉更獲章為行人司副於嘉靖八年七月內則劾大學士張孚敬桂萼立言亂政指陳數千言至欲斷頭以謝聖主是時二臣相回籍時科道諸臣交章論劾勅下吏部會同都察院分別黨與比因霍論論取回復相法司始擬臣父倫伊職奉聖旨降用添註

懷安忠志

卷二十一

七

齊州縣主簿在任一年監出以縣知縣於嘉靖十一年十月內開十局軍變放殺主將臣父倫不遠遠具疏議仁討大計下部議部覆謂自有大同之變以來其論奏對切未有如岳倫者本官所陳當應公議悉宜允行奉旨依擬遣丁父憂臣籍守制服滿赴部補工部主事尋員外郎中於嘉靖十八年二月內恭遇尤帝南巡一時立先帝臣未有奉召留老臣父倫

不避斧鉞首先具奏今臣交惡數百言止至先年臣父倫論劾字教與幕本內有憂言等期父與謀出入門下願指氣便何異鷹犬等語遂為憂言所啣嚴嵩時為禮部尚書為商人囑托臣父倫部其為人面此來使遂為嚴嵩所啣侍郎后曾論郭英不當配享祭

懷安忠志

卷二十一

大

獄臣父倫素其清直自沙河管工馳回上及具為申救遂為郭勛所啣各言具懷隱恨又一舉在顯位故臣父倫留駕疏入次日都御史王廷相亦上疏奉旨旬日之間九卿科道各先後具疏奉留時憂言嚴嵩郭勛以風未報適蒙先帝賜顧問言等

懷安忠志

卷二十一

大

遂乘機指對臣父倫倡議搗惑人心乃沽名好巧之徒在勅夫聽所以同時留駕諸臣皆得恩宥惟獨臣父倫等送領撫司打問來送法司監禁二百餘日之駕回京法司問擬公從從職奉旨革職為民許黃於威嚴用隨該監大山西紀功給事與翼翔御史光祖合薦境內八才山西張潤齋承賜高金宣府岳倫堪以起用比各權好與怪二臣之薦各假他事中傷事職臣父倫亦因向在禁日久棄席卧地感思風雨兩淚俱下以故請事發體即身故本處督撫巡撫臣等奉命查辦

案發才衛並本都可兩解子鄉賢祠春秋一體致祀
再志亞父倫生平以身許國前後京官僅四載內外
凡四上疏其論電箱之紛更也則重祖宗之成憲其
論大同之征討也則定軍國之遠猷其効辛辛也則
係治亂之大機其留乘輿也則關宗社之大本况皆
首倡正論不避干瀆之誣而言者相繼足徵其言之
常即使當時言出身楚亦自甘心焉况臣父仲
非言官既出而起竟以諫終一念朴忠百折不回自
可洞見其以禁疾杖傷遂至殞絕其親驚於殿廷者
又何劣耶臣痛父倫有一妻皆不存稱今本處誌
書傳記皆其大畧臣本處擬按雖不無憫忠之心
但臣家大官職有疏稿或亦無憑查議萬一使臣父
倫身歿而心隱豈惟臣人子之心有所不忍抑恐仰
辜先帝遺恩至皇新政以此正思維再三職驚悚
不遑罪戾冒干不聽今一疏係在該部一一可置伏
乞勅下該部查臣父倫四次封章危言激論是否忠
肝義胆深謀遠慮是否為國為民按迹以求心術各
而實實參之公論其與諸臣忠貞大節有無異同優
劣從公照例應請卹錄庶天恩不遺於枯骨忠魂下
慰於九淵錄死勵生青史流傳世道豈曰小補臣不

懷安縣志

卷二十一

九

勝感圖報之至錄保之遠新詔以廣天恩錄遺忠
以充京環事為此理合具本專差合餘說請謹具奏
聞
請壽官履衝壓地糧疏
臣等查得宣府西屬西城懷安蔚州等衝邊隅土
府逼近河乾等河有水可沙壓地畝小民包租承界
經前撫臣金世德於康熙十四年十月具疏請
部覆以歷年錢糧俱係報充不係未完拖欠仍合照
舊徵收在案但查糧從地出地既積荒而歷年錢糧
仍報全完者是皆小民勒盡脂膏以包賠者也自部
覆之後又歷五六年之塗有可墾者已陸續墾墾墾
種外其實實衝壓不毛之地人力有所難施勞費小
民包糧年久困苦益深漸至貧比不賣糧者莫應在
地方各官莫不以考成關切而無術補救屢以六
開報身請撫臣查知其亦第以時值軍需孔急改年
來未得門為覆請故於伏乞留留之際稍憐憫以此
為未了之餘長而遺疏乞憐仰邀
聖德也臣復任後屢詔民獲復種開墾方知宜屬窮黎
之宗莫過於包納荒糧是以微行查勘茲守道
參議兼委忠詳稱口耳實如柱公同履衝各官深

懷安縣志

卷二十一

十

處勘勘懷安衝實有可沙壓地一百九十一頃
十一畝零蔚州衝實有水衝沙壓地三百一十八頃
二十三畝零西城實有水衝沙壓地三百四十二頃
六十畝零又更城地方亦有水衝沙壓之地前從前
督望水思沙消力墾種以完正賦是以十四年未
經開墾乃年久衝壓若此勢勢無期故官民口呼
額亦經口北道親詣勘明實有荒沙地六百五
頃二十一畝畝畝取有該道屬軍戶結並送部送部
來臣思以之有地原籍所產以資生今地荒而糧存
不特無以資生而且為害也邊微窮黎精力幾何
奚堪永遠包賠比斯之荒糧一日不除則數處之
民生一日不遂雖目今師旅未息需餉浩繁但逆氣
殄滅殆盡臣遺然漢餘孽指口蕩平此後軍需似無
虞矣不足而合計四處荒地不包糧不包三千
銀僅一千餘兩免之則前之損似無關於
國計而數字戶貧民得免包賠實受惠於無窮仰祈
皇上特沛洪恩免其包賠沙壓地之日勸墾墾應
荒邊僻壤之民永駐其累項感
皇仁於生世世矣除冊結送部外理合具
題伏乞

懷安縣志

卷二十一

十一

物部議權施行

共濟堡城記

明史卷之

按堡屬宣府西路萬全右衛地當衝要正統二年都
指揮文去廣如築焉有司請勅置同參將一員即以
宏廣為之與萬全右衛參將領旗行事至都指揮張
順胡胡復增之勢云云其後有司以合口多門
不設哨罷協司止設守備一員統官一千九百

李安縣志

卷二十一

天

守備漸弛又兼雨水 填風沙擁積城池幾於湮廢
非一官一時所致也則通判何繼武至修築事未
就而還守云居人患之比歲邊臣失戒虜或入關此
堡守不完人無固志通判云一買一為憂
當道謀就厥職官堡人云如縣馬珩併城二十
餘人亦無室窳以請維行巡撫都御史王公儀巡
夜御史侯公茂志切保釐食口可而王公實王之適
選委安縣人參將完安為總督邊重務兼督役又
委安縣府巡捕指揮周堂董其事本堡守備不備
則公司焉各官效能不夫精力財無浪費復無備允

期有備而不亂勢固不難集勳勳者謀成維其地
人心大同而無承歡又以城下多沙土水不可行於

一二里之遠取土與築負百登危兵亦勞矣計經始
之日凡四閱月告成城周圍八里高二丈八尺根厚
三丈二尺六寸亦得是城門三座東曰清陽南曰承恩
西曰宣威明神三座戶門三座成樓一十六座
開之靡不完具規模修整整武嚴固人稱安之
外患矣是役也殫厥心以規畫者宋督責之勤教護
之善在凡多所可錄而張亦與有勞者也一堡軍力
不足又借思河南備軍二千名把總指揮張朴倫

懷安縣志

卷二十一

堯

允紹約束之執非勞至如本堡把總千戶郝賈則
提調軍力而監督指揮顧潮等與夫分營上官於幾百
人久暫有定回或慢事者工方與而巡按御史金公
城守李公天龍相繼至皆克於於是也
子軍民皆勸以師考績則王公固專任之
公勞心於上眾共事於此工既成保靖之遠圖
所預矣太史氏曰余讀書至勿之幸曰澤上於地幸
君子以除戎城不虞坎曰王公設險以守其國泰
日城復於難勿用師番言治之不可
也我國家興廢立華夷有萬國治邊據險設九大鎮

精兵駭馬無慮百萬矣猛將鼎列星馳而官府
避神不為國北門猶稱巨鎮百七十年

思澤朔洽傳聞世無疆之伏在是矣選者聖雖不請
之地廣深草木蕃茂焉或或蓋其野我師持
重有征戰比公擊放彼分氣伏句我休田適復
聚乘生於然不足為山也然而治安
上之幸盛矣戎器之陳復也戒設守
豈容已乎六保靖存乎會存乎人存乎政
立政存乎方施才存乎忠表忠存乎節嗚呼也之勢
也勢得則重人者焉之本也本聚則國政者物之知

懷安縣志

卷二十一

辛

也約張治治才者功一會也會選為成忠者慎之於
也府立心督者業之積也積存則者長此而後保
靖効時之功可致之獲不觀此城乎創立越百在矣
守一者旌旆相繼文之八城壁何也
故也館道助助而事也起故而才室而
人不字不發三小時矣何取於守也可慨也使
此守守者文宏廣張店取其人也則此城今日
固無勞矣
其人也則公雖勞而逸矣亦逸也
平夫民之永遠由於官節則國之永固本于臣之

忠節一城而九邊之多難也即九邊而天下之險
可獲也節與忠之不可廢也如此故是文自忠節
下之大防也而戒池之險與與節與忠之廢天下
之大患也節與忠之危弗與可畏也節與忠之廢
之於石以戒夫將來之當守者

重葺城城

歐陽文

懷安城唐之懷安縣也在城二十里
武二十五年因名設城於新縣改爲衛士築城垣流
石包甃九里三十步有奇建城角樓各四重城鋪
一百間其門西東曰鴻恩南曰永安西曰思惠北曰

懷安縣志

卷下

十一

鎮寧後西李爲樓少壯迄今未盡至陸慶二年逾據
御史王以建甌甌城垣不堅親石傾墜亦直人疲於
修築遇警不利戰守因而會議軍門總府請司派以
於形可謂慮及萬世而固不爲互任矣
特命入給祭以爲公命必當分兵伐石甌甌甌軍
包砌墜之廢畢一次出塞坊提師伐木萬千餘根以
補蓋西南角樓餘則分用備房滿守備都指揮孫公
獻策委心自任夙夜孜孜居人不擾室家安堵多官
勤勤工畢力彥文因入成事至閏六月十一日通完
其城南運梁口三丈八尺外口敞臺二十四百裏

舖寧五十座風門六百七十二處用過載三三二二
餘萬箇灰一萬五千餘石口糧八千五百石
二千七百餘兩是月紀之於石以告夫將來之當事
者

懷安何儒學記

岳倫

記曰在周分海內一氣也製達之窮樂舞教詩於
荒勿雁門接飛狐之險厄
遊乎莫之矣矣解於石晉始棄燕漢中原文運莫
斯極於後我高皇帝代運承極經款文教都藩循平
寰世艱舍遠於邊徵色學官廢自己巳升天鳴弓

懷安縣志

卷下

十一

不識粗豆先將軍諱就氏謝官家食謂武止戈弗
止則顯文以經道弗倡則喪茲文之典其在茲手商
之有司矣
盧誦譚公出拔上谷西巡塞內振廟形
會憲程石賈申行殿
青於魚魚環列一序登揮石埋敷陳道源若日爾
二子亦知學乎
簡唐鑒於宋
不後已又若日不爲圭璣璣玉不毀不
不敢不爲書采五色下也

建啓聖公廟
洪惟我皇上中興二十
而而與弗正
萬世而下
者曰子
門人子
氏與弟
者雖不
於世不
世者皆
享孔堂
顧從祀
子哲氏
子食於
者信於
氏朱高

建啓聖公廟

明口劉 珂 道淵

洪惟我皇上中興二十
而而與弗正
萬世而下
者曰子
門人子
氏與弟
者雖不
於世不
世者皆
享孔堂
顧從祀
子哲氏
子食於
者信於
氏朱高

懷安縣志

卷下

十一

洪惟我皇上中興二十
而而與弗正
萬世而下
者曰子
門人子
氏與弟
者雖不
於世不
世者皆
享孔堂
顧從祀
子哲氏
子食於
者信於
氏朱高

賈誼三子之神亦不中足認即中道也哉引故

蘆蒲深加以簾正謂道莫先於禮為禮必其於
而吾孔子與大賢之備之文視之尚非其所其於
禮以義制制詔天下學宮宜且別創啓聖祠講四大
賢三大儒之文苑亭焉上以協中道也併分其
在湖漢內羅虞保一衛其在江鎮益於益之
以不遠京師密邇王化多士要與不減於萬輔文

之邦但行在公邊豈玩之故儀部之劉味不及祠
議建良欲典也茲土章雖恒以為病青原譚公以

懷安縣志

卷二十一

蓋

應陵名儒蓋建柱史代遷上公將揭百雲中駐節
安聖曰焉廖進諸生於室下而授以中庸之學
動靜之功方竊微之理感位者以歸心推泰贊以
法既示諱之方必後乃能進德生光
益亦於於有者之聖考
待厚六六
沿信宿不嚴以實教金公慎然曰此浮靡之習修
隨之風不可以訓即置諸不度者於
室百餘兩公已與其於於於益若取以

行益不為愈乎於是合司焉士市材樹學宮之
北河拉揮張淮氏隙地一區甚為寬敞

之樂祠宇於上又以其羨為二坊於學宮之外屬大
講議張四山公名之曰修德不遠曰居賢善俗因錢
溪侍御張公善之楷書即始為書用示風教可作而
言曰修德於德為正法
之化焉制曠於久乃一起而新之可以觀公肅
廣之道焉為淪於晦遂發揮講明之可以觀公肅
訓俗之仁焉祠宇告成美輪美奐凡筮金萬艘慷慨
觀建且蓋其手有學足以致其成

春秋得令佈之宜異至別專與之分燕
乎彰孔子以下在天之靈不少慰乎夫一事與而
善舉悉用中也落成之日公
何暇說以即乎不深
屬吏也田辭不致敢備
二月日與夫規則之廣
匠役之名數於碑
按帝崇吳州白廣折

懷安縣志

卷二十二

蓋

別巍然中處
春秋得令佈之宜異至別專與之分燕
乎彰孔子以下在天之靈不少慰乎夫一事與而
善舉悉用中也落成之日公
何暇說以即乎不深
屬吏也田辭不致敢備
二月日與夫規則之廣
匠役之名數於碑
按帝崇吳州白廣折

印秦上谷郡也燕時
秦之店置懷安縣宋元之謙與各
改置守禦千戶所二六年乃置今衛署保安右衛
元樂十三年由天策衛調居
始附懷安天懷之地屬上谷各雖當時以異氣本於
工不殊其懷安趙作
武由共功名克用以威河北
朝俱建有正統己巳因以兵廢掌教劉飛王享
印赴天官部後乘輿北旋流移復業居人誦法孔
者繫籍左營儒學重家就社
公宏生員楊

通啓正德三年視衛家宋
視所蒙岳公雄三不耕藍田瓊瓊矣稷
蘭矣折吾儒學久廢士人業儒於左已與者古
遠和未與者惟難登天吾公儒學
成績世
光矣乃其既上
完岐山孟公醇嘉其志特崇
庫疏選良家子弟奇傑作
倫至而齋大成殿有
公屏規制草擬太監

懷安縣志

卷二十三

美

通啓正德三年視衛家宋
視所蒙岳公雄三不耕藍田瓊瓊矣稷
蘭矣折吾儒學久廢士人業儒於左已與者古
遠和未與者惟難登天吾公儒學
成績世
光矣乃其既上
完岐山孟公醇嘉其志特崇
庫疏選良家子弟奇傑作
倫至而齋大成殿有
公屏規制草擬太監

英也嘉靖元年冬岸土為...

學士二十六張...

於一三三六...

落成之乃啓...

分之二百...

一...

求人文...

外...

公...

學...

占...

恩...

其...

老...

崇...

李...

學...

秋...

是...

道...

道...

聯...

書...

離...

他...

不...

鬼...

且...

大...

疏...

然...

用...

設為左右翼兩峰對峙如揖如...類已怡僧...
說法倪首恭禪者前結案山兒孫盡...

激濤洞盤旋一餘里出山直瀉附郭灌漑者利之

內城郭山川皆一指數唾而狀景亦不同時有雲

色以半是非者自有山以爲隻眼才...知

交氣晤手再至三風世長因如投針芥類石上精

重來相訪而雙龍躍合有待...山符若乃示靈

君待山乃...於...是...
蓋出心計...建...神宮一區而中判之...向...
空王北向...三大帝曰...南極曰文昌曰伏魔皆伏

臺...建...伐石...房...精...舍...佛...門...行...雲...所...
金皆...於...以...色...之...
不忍...判者...賢...不...何...如...也...
空...王...三...帝...者...又...非...
今...同...
之...者...
大...
底...
世...

不忍判者賢不何如也...空王三帝者又非牽

今同...王...三...帝...者...又...非...
之...者...
大...
底...
世...

大...
底...
世...

底...
世...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

伏魔大帝於時...
伏魔大帝於時...

松於華芳亭之前乃向山而况一顧微懸於山...
 亭於是會不期月而...
 此十餘年來一植未能今則...
 也憫而祈之殿心也乃隨...
 龍門暗室電灼善端生發...
 山之靈未必不引而長也...
 牛羊恣牧山之靈未必不...
 至神松且...
 是為記

柳君諱寧字仲輝幽室記
 明布李 給邑人
 吾懷西十里許塔葉巽然生...
 之巧茂林森蔚諸果木皆...
 則柳仲輝氏之所為園也...
 奉上命冊封河...
 軍氏遊在觀焉其情行者...
 大東...
 意...
 示文者...
 之預設以...
 之預設以...

者之相等也子謂仲輝氏亦...
 墓...
 為之而不泥於時俗...
 而好從...
 宜其立身成守為子孫長...
 氏...
 故天地...
 後之人...
 之想...
 能以仲輝...
 將不謂...
 乃重...
 東...
 吳氏...
 蕃特...
 東沙城...
 朝陽...
 所...
 結...
 已定...

東沙城...
 朝陽...
 所...
 結...
 已定...

虧損遂致向賈之傳文不得...
 欲...
 許王...
 下...
 日...
 日...
 王氏...
 置...
 出...
 乃...
 子...
 適...
 有...
 注...
 十...
 節...
 天...
 在...
 建...

節...
 天...
 在...
 建...

生死而一節而不改，可易棄不，其難乎？吾鄉選貢，生心一其妻楊氏烈婦也。方張帥府味質，適見有扇州等，張女節婦兩受，復傳揚眾口，乃感歎於揚前。曰：人有如是妻，死復何恨！且感之曰：第願念痊，此言胡為別此易事？脫不幸，必從之為節。我心匪石，之句夫。張氏號泣，伊猶軍家人，察其心，刻盈前，經慰防守，球殿迫於夫亡，三日之脫，乘乘，遂乃溢於柩側。年二十有八，夫古之貞節，如齊姜之誓，舟也。叔姬之歸，絕也。曹爽之婦，婦感痛於盛衰之際，也。固以號無，而茲竟不惜其死，哀哉！氏手信以。

懷安縣 卷之二 人 善

貞志義以殉，剛果之節，正大之氣，不尤可以振。綱挽世風乎？本堡守備梁既已，扁旌堡之紳，於鄉眾公議，伐石，街之門，首謹畧而傳之，以勸諸不朽。

封榮祿入夫官，按昭，將軍平川，總兵楊公世，

乎切符記 明朝邑 卷之二 人 善

國家十城之寄，至鉅矣。士五而群居，與誦英，英意氣。文曰：我當機，而如此，此男也。如此及臨事，而舉勳，萬生朝廷，遂境所，自有者，未易舉見。豈一人，朋後，外易致，與蓋，手曹易，有肝，屬，被必其忠，義之，般傳於上，世而虎豹之，母鍾於地，遂於是，祖宗，欲洩，未。

施之未得，後以展之，才隆，未顯，之續得，後以昌之本。本源未可，遷，家也。公先，德，廣，貴，陽，元，戎，楊。公子，湖，其，而，印，籍，公，遷，處，懷，安，其，先，人，功，行。地，適，時，殊，若，子，所，能，遠，播，才，見，平，川，公，生，而，挺，異，虎。頭，獲，臂，少，樹，奇，也。公，以，知，鈴，取，金，印，者，或，錄，世，曾。而，公，其，然，志，存，義，不，藝，擅，穿，楊，勇，野，萬，六，刀。堪，以，急，節，枕，又，臥，甲，身，負，欠，有所，不，計，而，推，鋒，陷。陣，信，如，共，善，得，若，人，而，邊，處，遂，息，朝，廷，附，許，亦，何，辛。重，有，等，然，然，而，國，家，非，易，得，公，公，之，承，三，勳，而，受，顯。榮，亦，非，易，以，千，兵，而，歷，總，把，由，鎮，撫，而，守，禦。

懷安縣 卷之二 人 善

恭我始副，公，恐，今，眾，取，公，侯，如，珠，在，掌，無，俟，稱，在。且，以，其，復，歷，方，至，盡，於，東，南，西，北，也。威，信，所，服，盡，乎。倭，寇，醜，也。鷹，揚，旌，屬，盡，於，九，邊，臺，都，也。次，依，飲，錫。極，公，逾，甘，望，二，也。不，相，拒，于，赴，赴，乎，雄，而且，盛，視。彼，矣，意，氣，自，負，者，何，如，于，輕，也。方，今，以，勇，元，二，軍。之，各，功，而，八，路，之，望，佐，制，院，駐，節，巴，倫，以，賊，賊，之，餘。為，善，後，之，舉，凡，一，號，令，一，無，不，悉，經，商，確，藉，賴。傳，宣，巴，之，人，黃，章，白，文，也，行，旌，所，指，威，願，一，識，其，何。請，次，其，功，且，曰，楊，公，者，會，何，名，山，秀，水，鍾，何，朔，功，宗。德，丈夫，生，而，文，可，譽，濟，武，可，改，勳，如，斯，偉，壯，不。

類於嘗在朝廷，則朝，廷，重，在，邊，處，則，邊，處，重，行，且，國。賜，錫，標，于，古，羅，公，之，名，侯，矣。如，公，之，先，公，者，受，公，報。祀，尚，亦，知，公，為，中，公，而，重，其，欣，喜，亦，如，親，生，前，乎。謹。以，是，勒，之，公，先，人，善，表，之，心，以，揚，積，累，之，盛，以，傳，鄉。里，之，知，以，傳，史，館，之，錄，云。

懷安縣 卷之二 人 善

明，上，宗，南，巡，雲，石，岳，先生，倫，口，王，事，抗，疏，諫，止，下，詔。獄，廷，杖，制，籍，歸，歸，數，年，卒，穆，宗，踐，其，于，故，諸，節，符。授，遺，詔，賜，賜，場，中，慈，公，繼，盛，昔，正，一，體，道，如，謝，祀，鄉，賢。又，延，年，百，一，東，三，表，志，旌，重，節，也。歲，久，燬，死。

與，與，名，穴，一，似，豎，跪，踰，於，其，旁，先生，後，嗣，既，表，且。貧，而，其，士，者，俱，置，勿，顧，蓋，公，沒，不，彰，者，有，年，矣。康。熙，賜，賜，今，莫，君，應，斌，宣，化，郡，承，王，君，希，奎，先，後，皆，實。為，公，聲，計，想，上，飭，抄，標，於，公，前，人，去，以，故，規，模，粗。立，不，了，親，厥，成，主。

皇上，御，極，之，年，今，越，撫，山，東，大，中，丞，岳，公，方，以，藩，恭，分。守，口，北，而，適，為，展，史，公，先，生，同，出，忠，武，王，後，行。部，機，安，調，詞，與，歎，曰：此，前，直，臣，又，吾，亦，也。嗣，點，不。修，乃，捐，金，若，干，共，士，木，人，力，之，費，又，曾，祀，田，五，十，畝。帝，宗，其，事，球，雅，重，先生，真，節，節，傳，所，入，以，勳，厥，美。

初年丁巳今日之履身達字者前日之斷丘類垣也
 今日之粉壁漆砌者前日之鬼麥無多也今日之春
 秋祀吳潔潔厚而者言其前日之欹斜荒落為賦
 呼而風雪侵也然則公之才學不傳歟方正學有言
 國家可百年無才智之士不可一日無氣節之臣永
 良時時氣告警急際屢啟才應之獄舉朝為之上下
 可謂多故矣而復六飛南幸以修其心內棄根本外
 事盤游先生獨以部曹批逆鱗而擊殿楹言雖不用
 心則忠矣此節節之臣而國豈不可一日無者也諱
 省謂先生一匹夫與祭公所招之詩並羅史冊諒其
 表表顯

言也唯中亦八之修斯祠以崇先哲以發幽光以正
 來學有明於名教甚鉅而又以全王莫兩人之美豈
 區區私其宗者哉願祠成而公權方伯必曾秩既府
 麗儀之辭闕而未備亦不敢以無文謝也故為誌其
 平末伊國人於式者知重修所自且紀公功於不朽
 若懷邑好義紳士龔金為助者備書碑陰云

敬一書院學在記
 邑令 薛天培 建木
 昔漢文選通東魯登氏有堂觀其車服禮器皆在
 以所習禮其家低徊留之不忍去是古之學也皆聚
 於廟也今則不然廟堂遺天下郡邑皆師每逢朔望

不過率其屬啟門拜拜而退其餘則廢封閉備時
 結之聲茂如也世古者殿廟之會禮禮已不備
 重地字宜舊制軒殿殿於他邑後亦漸傾圮夫
 余同年友曹君遂乘鐫於甲申年與修由六殿兩廡
 兩坊樞屋西明堂等處次第修葺十載經營煥然
 新焉其兩廡易欹斜傾廢無以為諸生講訓之地
 曹君痛痛然詩以手竟厥焉為憂適余奉
 命今茲任茲士已足殆余之責也夫爰急捐俸為工步材
 全費片而竣事其後有敬一亭為立敬一書院遂
 修葺廡殿與之生童延師備課諒其中而余安
 四之有感也夫一事不難於創始而難於圓終惟
 地士庶皆士多舉舉使不為之計則膏火無資
 今雖生徒濟濟未幾而聚者旋散欲長聞詩書之訓
 之輝其可得也查邑三行官租八十倉石存儲學所
 以助薪水者固與助各意以六十石為館費其二十
 石則分送縣城城垣兩處以文目開為敬惜字紙之
 用倘緣此課誦有地而敬興舉群教學相長俾聖垣
 少積之區漸臻美於文之盛而人才蒸蒸日上
 起焉是則余之所厚望也云爾是為記

節婦朱秦氏小傳
 國朝 邑令 武一 贊
 節婦朱秦氏者國朝之女故名朱瑋之妻年十六歲
 歸朱宋妻八十氏體弱多病如也孝順舅姑克盡
 婦道無何絳神甫五載而夫失所天信是時氏年纔
 二十一耳遺子中中方在襁褓氏茹荼飲藥矢靡醫
 而育之提攜廢夜如是者十年嗣係中稍長與不能
 糊口覓食他神氏形單影隻日望其子之歸以支
 持門戶如是者亦有年嗣聞依中亦死並無其少叔
 麻之親可依惟恃女紅拮据度日者以自食其力鄉閭
 共稱其賢正十年余流茲土聞其苦節當以米遺
 之十年氏年七十才一余聞其事於學使者給以
 匾額又令同鄉給具題奉

自旌表堂
 建坊錄三千餘家巨室官家衣服飲食無不悉
 入右子若女在抱而卒不能及其室者所在多子
 風所由作也而民家固貧且乃心堅金石履五十六
 歲如一日可不謂難為哉其梗概以為當代亮節
 者勸

取
 太常寺卿雲石岳先生奏

王初山人

不佞少侍先文端公閣說上谷雲石岳先生之朝大
 節如以顯之在漢揚之在唐唐介之在宋蓋諸
 名臣也比不佞官京師奉命追先生里數徘徊不忍
 去者久之曾先生冢孫以高第守備吾邑獲先
 公奏疏始觀先生之大全先生稱稱正氣與公更
 化之初一二而進迎公當上均載不次准用大驗令
 平先生上血乳駁新貴人無不泫淚先生者追懷大
 行使三言值平早壽租而有可以藩祿備白催却
 故先生歸身一骸之狀為饑民請命時論建之

桂言講義卷之八 補屏諸賢登進者朋比相軋先生
 生沈章如其詩狀上放于公賜瑛一轡而諱先生
 為齊東村相選曲沃尹雲中軍變先生寸草餘生討
 賊轉直大司馬殺奏可尋擢起部郎駁駁何用適
 以皇后入行書皇帝躬奉梓宮相繼顯慶先上上
 疏留罪伴首下詔獄放為式繁繫困德業已不支矣
 苟離園土遽及易箝朝野十民無不知咸恨源也
 莊皇帝登極昭太常寺少卿使者採與論論視了言
 宗夜梓疏稿傳世許太保稱其昂胸奮激皆心義所
 上疏諒以適知先公之以汲黯著臣方先生也語同

不虛耳不佞更有對於受者今上臨御久所
 前已過其歷而時致紛紜類先朝者亦復不一極
 查有日稱五分爭一之說至空署寓內陳乾水
 置君問聞神稅採令中使而出銀夏脫巾非內訌幾
 失驚傳陳右迄今邊鎮日以兵戾交遊警一隅徵兵轉
 制軍助海內讓賊守者至了詭北較南渡軍利公先
 生日擊其狀以為帝流涕閉閣上章者激切又當
 何如哉不佞白首為郎與休備共飽一氣在白雲王
 恩而禪軍富為先生桑梓差、淺實有愧色於斯文

宣府之書 明見二百 明曹心簡

地據中原孟天堯大漢亂雲幾日白草不待秋更
 任水種魚鱉驚途何年自饑年四十年始歷茲方
 軍軍入郭突月俗風新七屋粧筒瓦中元過人
 事因前代舊業自近等食又漫愁影察生全在大臣
 邊地絕元 明都許宗魯

先皇武世宣同宣北北 駐節全飲馬幾番思湖
 海鈞功何止上燕然遊騎曉拂胡星落虎帳高漢
 小懸分同登壇諸將老至尊宵吁獨憂邊

天行辰丹靑龍劍佩雄兵虎豹屯上谷府軍新野
 姓爭陽妃子獨承恩錦屏歌吹天顏喜玉帳嚴
 合尊承水雲俱過傷甲第續千門
 許張將種人多識跋扈江神本世臣甲第峰巒開上
 國異土恩禮過周親丹符發券虛承龍繡珠博豈
 以春誦官可憐啼狂狷壯公擬畫麒麟

能耳峰 明石 珪

封龍山勢壯毅乘見熊耳高峙層霄間一觀幾千里
 威深魏虜避雷電起乃幻天降靈自與凡石異
 我思漢二老 勸遺屍人去事亦非荒池但秋亦

地靈應未說 一遙縱執邊邊白雲中何人舉高九
 宣平 明 能 借 自 附

討名乃故邑漏得照殘陽不共嘆 曉曉帝延僅燦光
 行琴 矯弄若松柏 欲浮邦地經過日桂花底事正

花山新月 熊 廣

新月天邊出花山頂上看誰將水露露斜照玉峰寒
 藥泥形猶憶河山影未寬 紅堪作釣海水正涉漫
 放行歌 明岳 倫

今年北海水千尺一夜惡風吹作雪樓頭鬢 催流
 今年三月得九月 雁才化旅給一月初 雁才化旅給

每車大裹身背無系多子香燈出門去雪風草苦
火不冷今冬車死香亦活不如一燒爐暖空而半返

馬駝穿風雪口先生古夜然二復嘆之三復已燒香
長發靈心室海風宵火靈靈爐鐵路阿霜凍欲折柳

兒焉就指台發
遊虎高寺
張士範

釋峰古列漢名辨次登臨共既盟天信元水寒六
尺佛從影石度群生遠公結社何妨酒松松乘早好
聽笙只恐世人多驚藏山盡下計數相驚

再游所寓
張士範

辨別山壁
重來風景半非前披苔澗破殘碑
識難沈在稀石可覆今古常如塵外剝陰陽也授洞

中興分明計得三生約曾是當初寺裏身
遊考姥山
張士範

行春其約宋道遊杖策看山島上頭近倚長可長玉
帶遙連天曾覆金旆觀風口境開為犬攬勝子峰入
生在古跡蒼烟空瓦覆誰誰鑄鑄鎖鎖

石公窺外
張士範

幽夕獨湧萬山隈石壁誰將鬼斧開定有神會
力故留以重此披香十分丹并笑滄海面傳水心

胎極取單持盛一勺况空塵現見如來
石山
張士範

芙蓉的葢許許登科得唱人到未會先鉢忽逢功
水看山如對聖賢僧掃空滄海通呼吸斗極高聳入

上乘分付閑雲郭掃却青上好駕白龍騰
懸空寺
張士範

仙路行回紀野遊野心忽被白雲留得將花鳥共詩
料疑却河山入望收身外頓償煙水信人語不知判

名愁學可悲口外清瀟洗到瑤臺最上頭
題白雲卷
張士範

物幻烟霞誰其歸日衣巷畔自禪冠處處遊烟蝶似支
枕松下仙殿一掃關仙林響空翠香石鐘聲渡野
雲間諸天清淨心如水成佛應歸歸息息

東坡晚照
周澤

鳥鳥西望下蒼苔胸隙光陰處處同北苑已下卷
影東崗猶映半山紅邊城鼓鼓春風裏遠寺松崖夕
照中來日影前鷄鳴曉曉雲穿翠碧玲瓏

西一車
周澤

風動雲散四野晴曉曉雲綠樹西半爭如月飄丹
八近似似源猴猶殘色帳乾坤句錦聚尤巫字山玉

大明天不戴就靈機巧亦有丹青畫不成
夏日西園
明張士範

地僻比深絕三應接冷烟柯陰山草風清翠砌無
掃樹隱柴扉不用扇日影勝移花向午茗烟雨歇

初歷情開韻龍象呈傳相對過筆幾來青
聖山小隔城
關

高壑蒼翠向七堵誰人計肯作香桑無等最是頭
鳥猶白高松噪夕陽

題虎高寺
明末張士範
只說吸龍龍倒口能知吐法虎發高果然只葉非凡

飄飄寫酒形
陸清庵
樹兒偏
懷安城上馬嘶嘶柳樹中行人小行行忽入萬川

中疊嶂圍天不頓八心嶺綠意新復運高下如煙霞
以繞迴行前路茫茫何必言探乃深宵嚴風
有炊煙築城驚起空山鳥
碧潭映月
岳倫

潭水清四澤盈存古今南溪清見影照月洞雲
弄萍翁自草時時鳴乳禽中秋時在黑坐尚几披裘

斑石長春
岳倫

不拍乾均秀靈吞日月... 秋曰流雲潤春山見晴晴何當竹房吟竹畔

有餘

岳倫

石洞何年鑿巖陰生碧無雲妨徑側引燭聽人呼

油石生雲

岳倫

奇石忽生高黑雲口... 變態仍生... 變態仍生... 變態仍生...

溫泉冬沸

岳倫

溫泉波滌雲... 氣長春笛風牛賦... 周歲仍下東山時... 虎窟夏不

僧定秋籠冷

岳倫

僧定秋籠冷... 一盤如... 一盤如... 一盤如...

花山鋪錦

岳倫

清... 落花開處春... 柳葉... 柳葉... 柳葉...

古壘呈奇

岳倫

古壘呈奇... 王侯... 王侯... 王侯...

行宮... 依然... 依然... 依然... 依然...

香澤映月

林盛

誰為... 一... 一... 一... 一...

斑石長香

林盛

丹... 萬... 萬... 萬... 萬...

洞天煉藥

林盛

入... 氣... 氣... 氣... 氣...

神石生華

林盛

靈... 雨... 雨... 雨... 雨...

溫泉冬沸

林盛

流... 開... 開... 開... 開...

虎窟夏水

林盛

古... 洞... 洞... 洞... 洞...

花山鋪錦

林盛

石... 何... 何... 何... 何...

愛... 王... 王... 王... 王...

古... 塔... 塔... 塔... 塔...

遺... 藉... 藉... 藉... 藉...

明... 承... 承... 承... 承...

林... 盛... 盛... 盛... 盛...

隨... 事... 事... 事... 事...

全... 日... 日... 日... 日...

於... 志... 志... 志... 志...

昔... 仁... 仁... 仁... 仁...

願... 傷... 傷... 傷... 傷...

八... 為... 為... 為... 為...

公餐飲夜燭優同... 節無差兩間大義光八極勿謂待... 勿誇平生奇... 時已三... 乃知不... 石嘴河

清溪一道... 在天台無... 浴臨惟... 沙嘴港

沙嘴港... 王柄

沙嘴港... 王柄

沙嘴港... 王柄

沙嘴港... 王柄

沙嘴港... 王柄

沙嘴港... 王柄

沙嘴港... 王柄

沙嘴港... 王柄

沙嘴港... 王柄

沙嘴港... 王柄

沙嘴港... 王柄

猶有持... 空... 暢觀... 外求... 入... 遊... 月... 淚... 神... 楊大昆

猶有持... 空... 暢觀... 外求... 入... 遊... 月... 淚... 神... 楊大昆

猶有持... 空... 暢觀... 外求... 入... 遊... 月... 淚... 神... 楊大昆

猶有持... 空... 暢觀... 外求... 入... 遊... 月... 淚... 神... 楊大昆

猶有持... 空... 暢觀... 外求... 入... 遊... 月... 淚... 神... 楊大昆

猶有持... 空... 暢觀... 外求... 入... 遊... 月... 淚... 神... 楊大昆

猶有持... 空... 暢觀... 外求... 入... 遊... 月... 淚... 神... 楊大昆

猶有持... 空... 暢觀... 外求... 入... 遊... 月... 淚... 神... 楊大昆

猶有持... 空... 暢觀... 外求... 入... 遊... 月... 淚... 神... 楊大昆

猶有持... 空... 暢觀... 外求... 入... 遊... 月... 淚... 神... 楊大昆

猶有持... 空... 暢觀... 外求... 入... 遊... 月... 淚... 神... 楊大昆

猶有持... 空... 暢觀... 外求... 入... 遊... 月... 淚... 神... 楊大昆

猶有持... 空... 暢觀... 外求... 入... 遊... 月... 淚... 神... 楊大昆

卷

宣化為古正蒙之地

神系隔限沙漠吾庸境

雲中固生者吾冥族

子學 若 一 亦雨極

一 亦雨極

夜以重兵拉選歲宜重而

董之獨為重然於向拉叙

方名輝煙攝擊未考立於

之有以相循至民也

國家神聖文書卷之三

於外履本長生至重而

十九國張家留石之

朝及孔是流車極擇也

亦雨極

亦雨極

亦雨極

亦雨極

亦雨極

亦雨極

十有八年免宿向教者云

五宜風沙考生望字之承體

深之似乃以之後去司承實也

為而象黃物臨夫宜早宜地

想入事一七日 日六情心之

亦一之 之中乃披探

應中形而之志隆以及去僅

在百靈之內控而宜之山川既

宜戶籍人物以及通財查備費

事身銀一兩之書而形之也

備馬士志之也廣而力也

大司燒學人民之初土地之圖之

洲拔才之屬必為之宜籍為之

因為九物之山厚川後物產謹保

與之之之 氏之之之

與甲之之 之之之之之

公舉而無若也之也之也

皇上是化方保一耐產然亦之也

之之之之之之之之之之

之史也之之之之之之之

表方輿海程以第一疏之

流古以東也而夾以

河為是也至之

之以故噴吉至宜也

次月北流之

禁

之紅曰

去之匯涉也

家古學季卯協月按德宣化

夾以志素為去都教之說

與此之廣而

以是漢也

時

大清康熙五十年仲冬

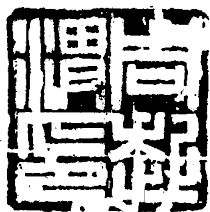
音學出

海

震

庚

本



凡例

一志者記也漢書有十志凡以記載為義今取其名
分類為志非敢僭擬漢書亦區來邑乘通義也舊
志及續編志皆名為考今不必強襲云

一志難憑應惟侍前有摭拾後有採訪而已宣自葉

興中馬天祿孫克庸諸先生雖修鎮志外近惟如

東甌留心文獻著有續志之志者郡人閭中

丞持法欲登梁棗未就而失今求得遺稿祇吉光

片耳此摭拾之難慰也至採訪雖勤固陋難免

宣化縣志 凡例

一自遺漏正多博雅君子藉茲隔矢以加補緝

一宜自 李為石晉割路始致淪沒然前此聲名文

物實唐虞三代之華風也 志必為遠溯

以此

一邑志準於史例史紀編年所以明國統也茲志于

歷代紀事必書以某朝某帝 則統制自明凡

歷代大一統俱依史例

一史重表年志亦祖述此體但時日猶多存明惟東

緯災祥乃天戒所關民命攸繫故月日皆詳

一志類多始有明者以近而有據且前此繁

一法令詳錄 本朝者王章赫赫宜信宜從茲在代

不必臆陳

一時地事宜每多分註者以規 丁亥俾閱者易為

檢尋

一志以備考原為垂示守示鑒戒故每志之末附以

論斷力為發明以存管見 勿以贅疏視

之為幸

一 蝗蝻近年常觀 宸衷憂慮視昔有加故儲

宣化縣志 凡例

一 志恩恤有志蓋因乎時重恤乎民瘼特起義

例耳

一 世際昇平刁斗弗聞自是 然地隣口外

處處要祈識微慮者當必安不忘危故武畧志

三致意焉

一 夕宜鄉賢斷自輿論之公非 是非其有遺

漏未登實錄未詳者統俟查補于後云

一 記序詩文藝苑之珍亦備徵之具也煌煌大篇固

不可遺即文藝類示疏引論說荷有關於士民

風及諸利弊者皆備錄之披覽之餘裨益甚

乎

一崇佛害正最傷風化今縱不效唐武宗魏道武等

一棄汪祠乃若宣城之首座汪文南之清泉寺一

則以佛像裝為交媾一則以權增侈其建造窺我

輝煌儼然不朽雖上激身不堪訓俗乃清泉僻野

踵舊未除而首座觀持互上小惠鎮志猶載之

茲為刪及聊示過蒙之義云

一示以圖界封疆也示官守也便觀瞻也經野之

宣化縣志

凡例

三

台方或可按圖起悟耳

一卷末附以景目亦緒餘必錄高雅君子諒不以為

濫云

目錄

卷一

建革志附街里

卷二

疆域志山川志附形勢封

卷三

詔命志上

卷四

言志下

宣化縣志

目錄

卷五

巡幸志 泉穉志 災祥志

卷六

思慎志附櫛實 孤貧

卷七

堡志附橋梁 堤堰

卷八

營建志附古蹟

卷九

賦役志 附諸稅

卷下

俸廩志 附歲給工料

卷十一

儲備志 附社會條約朱子社會記

卷一二

學校志 附社學 隊碑 訓飭士子文

卷十三

祀祀志

宣化縣志

目錄

二

卷十四

物產志

卷十五

風俗志 附習習土音

卷十六

法令志

卷十七

武畧志

卷十八

秩官志 上

卷十九

秩官志 下

卷二十

選舉志 上

卷二十一

選舉志 下

卷二十二

名宦志

宣化縣志

目錄

三

卷二十三

鄉賢志

卷二十四

人物志

卷二十五

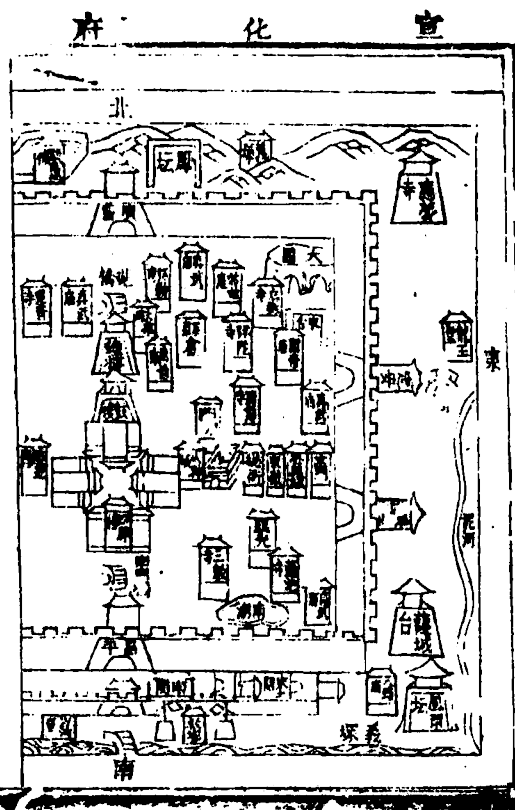
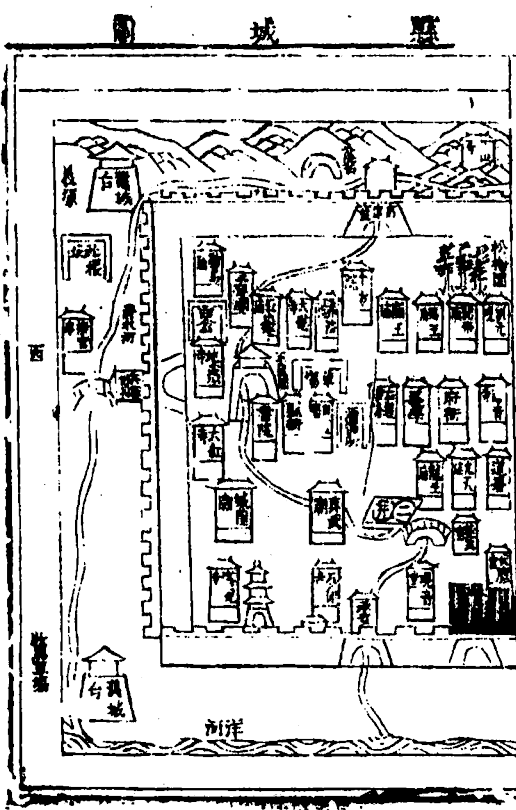
人物志

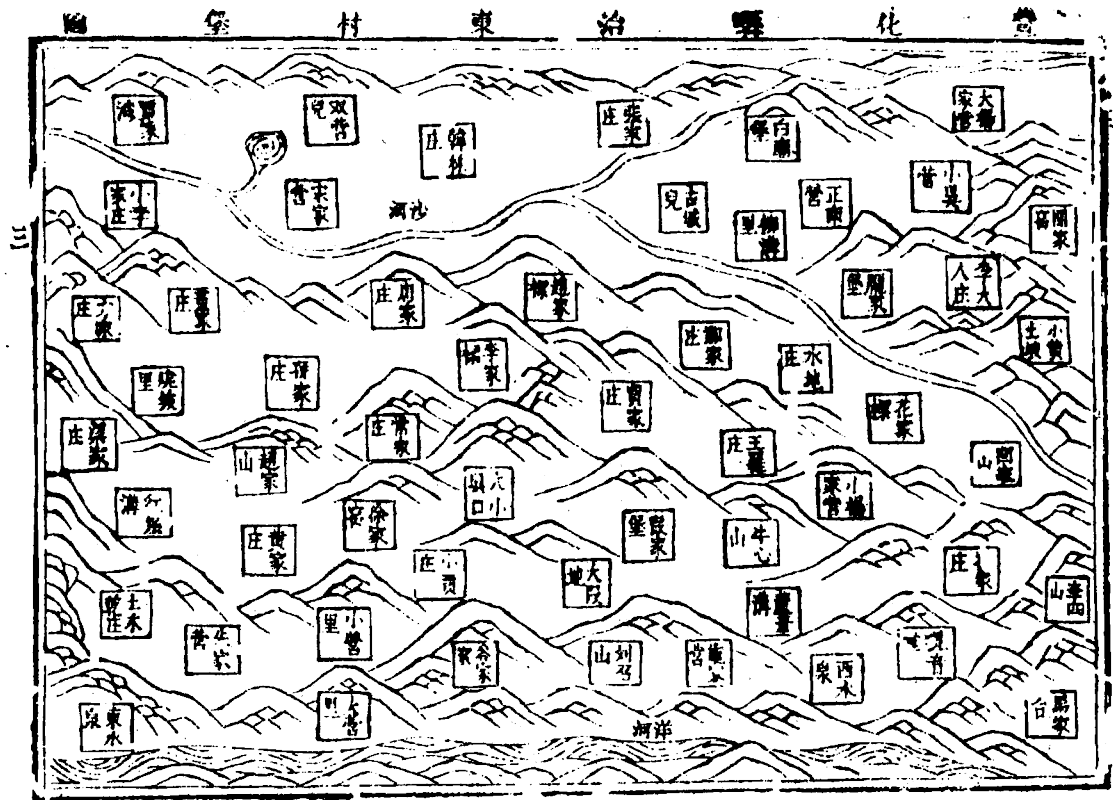
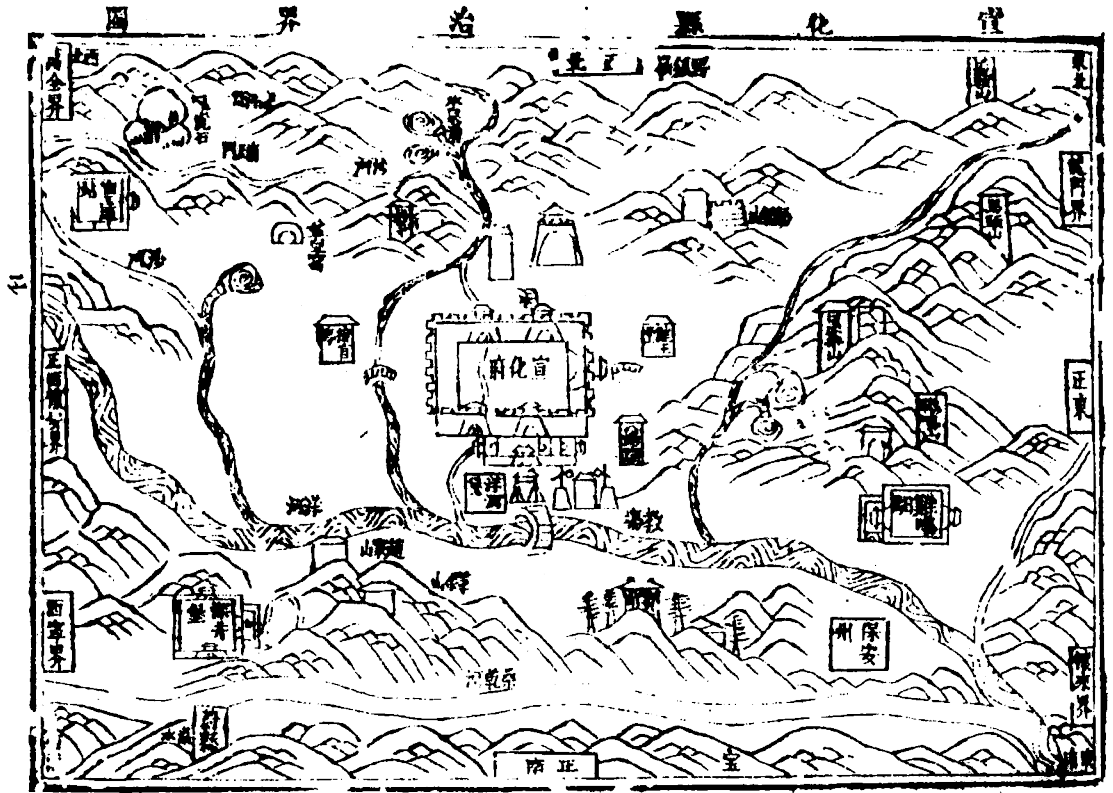
卷二十六

藝文志

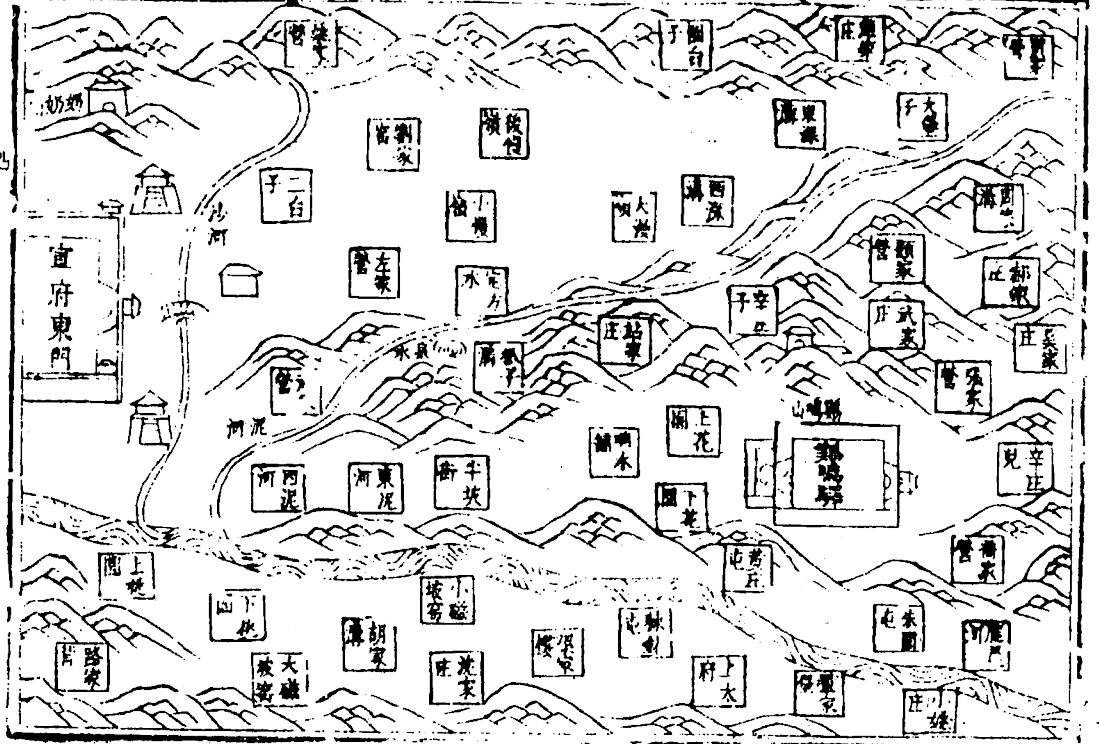
卷二十七

藝文志	卷二十八	藝文志	卷二十九	藝文志	卷三十	藝文志	化縣志	目錄	四
-----	------	-----	------	-----	-----	-----	-----	----	---

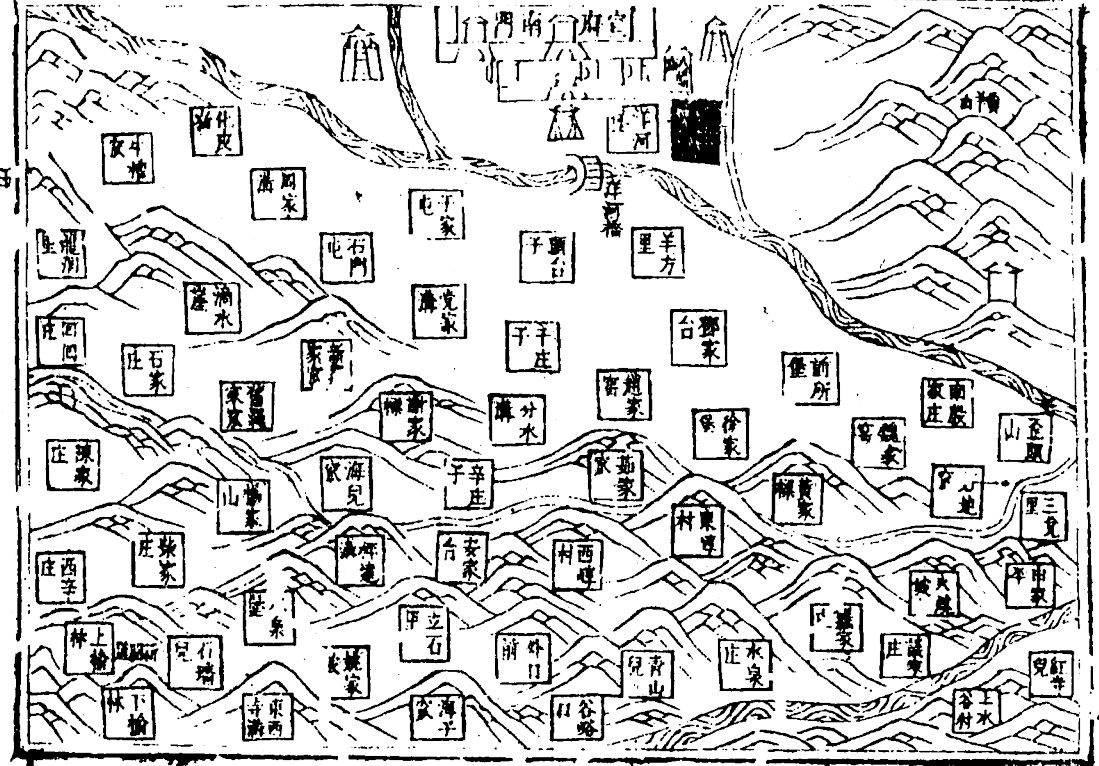




宣化縣治東村圖



宣化縣治南村圖



宣化縣南一村堡圖



宣化縣南一村堡圖

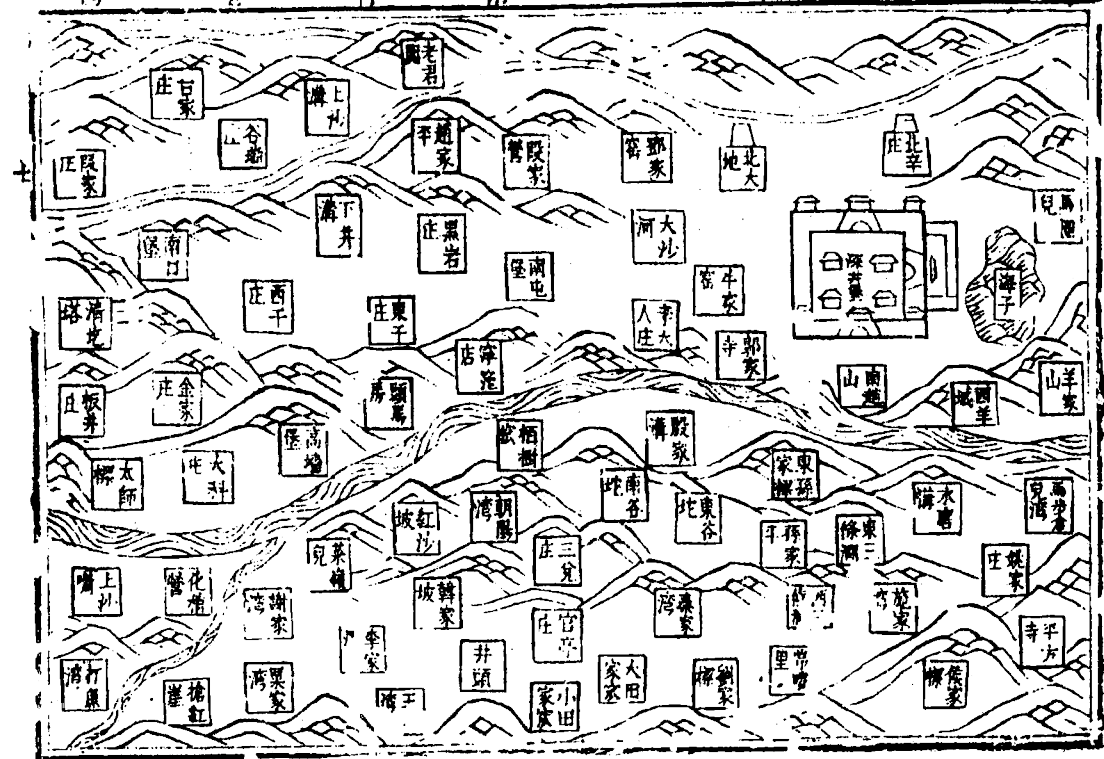


圖 堡 村 西 治 縣 化 一 次

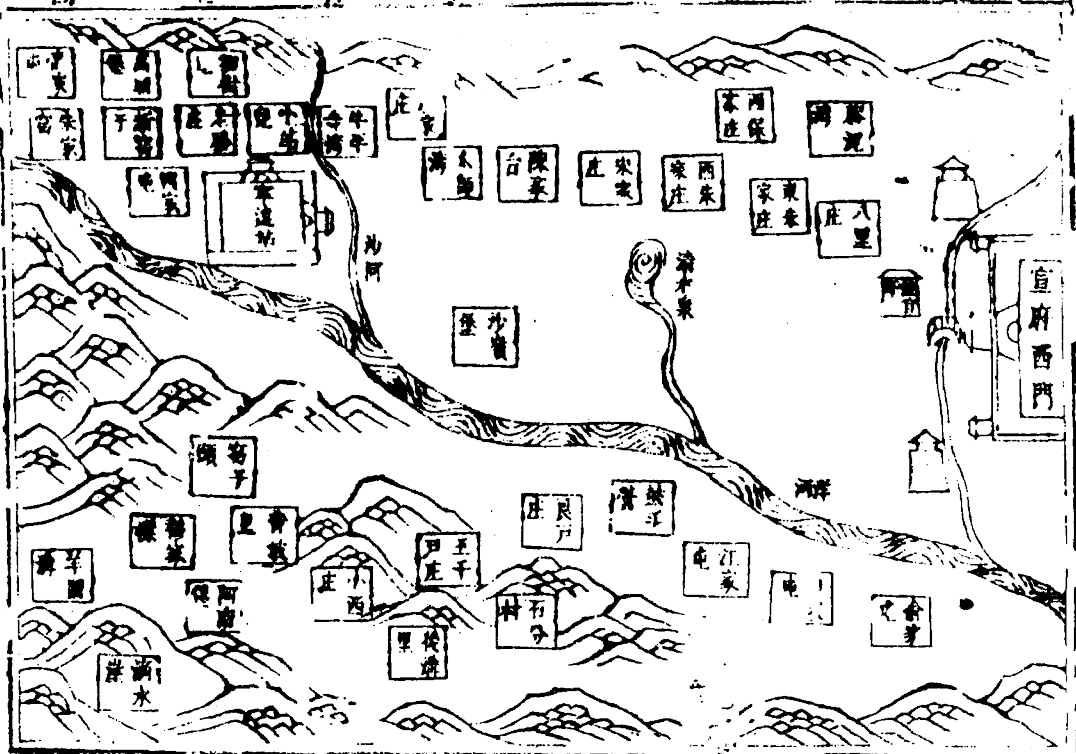
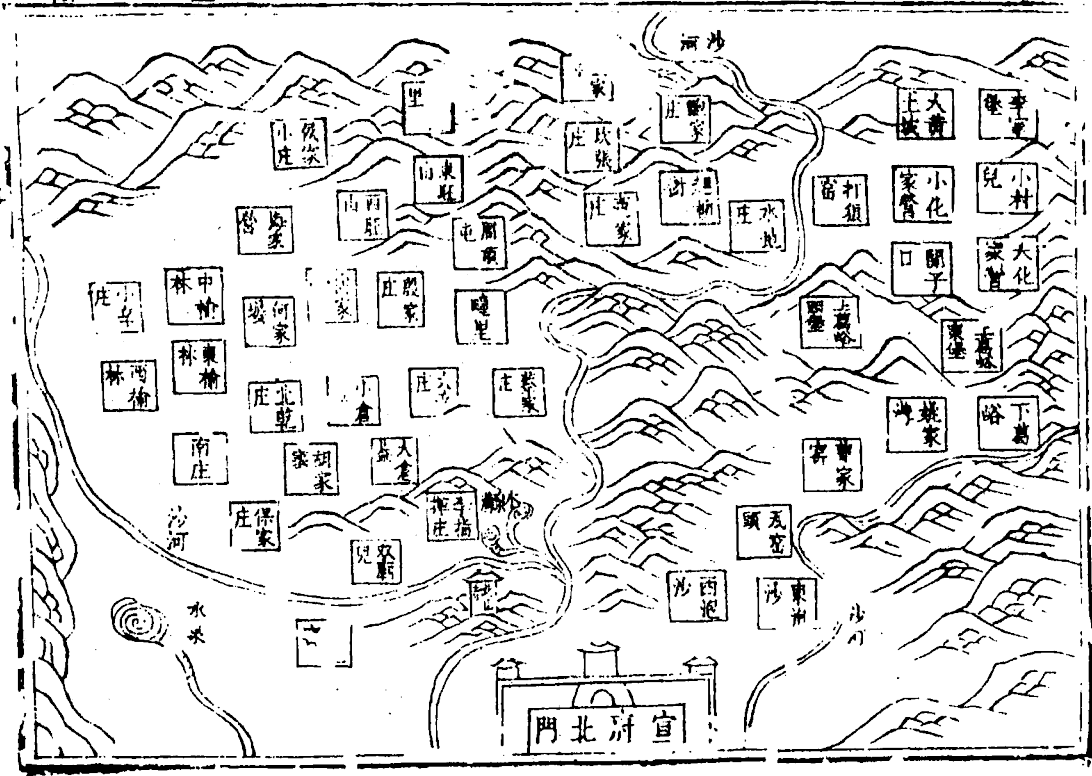


圖 堡 村 北 治 縣 化 一 次



宣化縣志卷之一

宣化縣知縣楚寶陳 垣修

建革志

宣郡十州縣為 神京之右臂而宣化一縣又為

諸州縣之中心如戶之有樞車之有

制關於全府之

古帝王代為經理或置州置郡置軍置縣置衛

不一而而國統之離合治化之汚隆亦隨時有異

不邪溯源竟委後將考鏡無由為作建革志

宣化縣志 卷之一 建革志

使禹分九州一曰冀州是時宣化地屬冀

虞夏十有二州一曰幽州置牧是時宣化地屬幽

夏王禹執玉帛者萬國乃復為九州是時宣化地

商王湯當夏之衰諸侯兼井湯既受命

好宣化地仍屬冀

周武王分九畿 成王復九州是時宣化地

赧王時燕置一谷郡築長城以制蒙古是時宣化

居一谷

秦治三十二年分天下為三十六郡其一上谷置

守尉監是時上谷仍屬上谷

漢高帝五年分上谷郡地為涿郡各置郡

曰涿北曰上谷是時宣化仍屬上谷

元年分天下為十三州部更郡守為

治以令是時宣化

下落縣即 獻帝時以蒙古大擾吏民流散省

宣化為冀是時宣化地屬冀

帝經畧邊土更分幽并是時宣化仍屬幽

宣化縣志 卷之一 建革志

帝分郡地置廣寧郡其郡守加將軍是時宣

化屬 愍帝時石勒襲幽州刺史王

浚殺之以尚書劉翰行幽州刺史事置諸守令

還翰乃以郡 成帝時後趙

禪郡降趙 穆帝時燕慕容儁破趙幽

好秦符堅伐燕滅之郡降秦

頒自號後燕郡降燕迨魏王珪攻燕上

郡降魏魏置一谷府領軍戎

後 始于一谷歷後趙慕容符秦

宋高祖劉裕上谷廣寧為東燕州置三刺史改其

縣下落曰文宣州以令文德即宣化也

陳武帝時北齊改東燕州為北燕州

文帝省北燕州以諸縣屬涿州

唐高祖改郡稱州太守稱刺史時高開道漢下燕州也入

寇劉世讓保武州即今武州武州即今元宗時罷刺史置守其武州仍領涿

之宣化也

武宗時置山北八軍武州曰雄武軍 昭

武特李光壽篡燕李克用破之取武及新媯備

宣化縣志 卷之一 建革志

三

表劉仁恭為節度使 昭宣帝時契丹入寇

媯備等州以次陷沒改武為歸化州晉王存

勗命李嗣源取復之

後唐潞王時河東節度使敬瑄割山後

丹宣化地亦在焉自是歷宋至

太祖命防禦使馬仁瑀署山後

年金陷契丹舊武州因尋盟以其地歸夕

疆堡守之下陷於金 孝宗時金改歸化州

歸化州縣宣德即今宣 寧宗時元陷宣德

文宣州山東路總管府理宗時元陞撫州

撫州今萬全為隆興府割宣德等縣屬名

興和路置宣慰司景定四年元陞宣寧州

府隸上都路罷總管府

元仁宗時割上都之宣德府及所屬州縣隸大都路

泰定帝以宣德府上都路留守順帝

以地震改宣德府為順寧府

明三年命湯和取宣德因徙其民如居庸諸郡

廢特遣將卒番守之名宣德曰宣府舊名稱之

宣化縣志 卷之一 建革志

四

二十六年置宣府前左右三衛于宣德領

使隸北平都指揮使司衛置使司撫五千戶所皆北內

地除丁實之其宣之左衛以晉府 永樂七年置

左護調充右衛以定州右衛調充 永樂七年置

鎮守總兵官宣德府駐鎮城自是始稱

公侯伯都十六年革北平都指揮使司詔衛所直

隸京師二十年棄興和徙宣德府先是

二年置有興和守禦所于戶部新軍伯宣德府

之適忠出守備王煥郊迎中酒北部河宣德府

衆掩至稱宣德府有煥從卒乘昏時門者稱之賊遂

陷被殺棄地宣德府是歲文皇親征阿魯台及還

日滅北宣德府守開平與和太寧遼東甘肅寧夏則

府... 然直... 宣德時命... 統三年置巡撫都御史... 天順元年罷... 御

置遊擊將軍 宏治五年置分巡按察使事備除

給勅列衛山... 八年置分守... 政司

議標分巡 萬歷元年置太僕寺少卿督理屯牧

改置理刑推官... 崇禎八年以上

宣化縣志 卷之一 建革志 五

南三路屬分守道十七年三月十三日流寇

陷宜府巡撫朱之馮及司學生姚時中死之

自成... 將... 金... 總... 武... 或... 平... 附... 孔... 至... 後... 皇清世

皇清世... 弘治三年裁宜府理刑推官 四年

夏... 八年裁宜府巡撫... 併... 兼... 理... 大... 九... 併... 宜... 戶... 部... 分... 司... 為... 一... 員... 初... 年... 宜... 大... 十... 年... 裁... 併... 衛... 所... 官... 併... 附... 衛... 充... 有... 三... 衛... 一... 員... 是... 又... 併... 後... 衛... 子... 前... 衛... 裁... 千... 一... 歷... 十... 一... 年... 裁... 分... 巡... 口... 北... 道... 十... 二... 年... 裁... 糧... 儲... 戶... 部... 分... 司... 事... 係... 宜... 府... 者... 併... 守... 口... 北... 道... 兼... 理... 按... 十八... 年... 永... 今... 上... 東... 元... 年... 裁... 宜... 府... 理... 刑... 推... 官... 四... 年... 諭... 令... 宜... 鎮... 更... 山... 西... 等... 有... 旨... 仍... 隸... 畿... 內... 戶... 部... 題... 為... 畿... 內... 人... 宣... 化... 縣... 志... 卷... 之... 一... 建... 革... 志... 六

九年併宜... 戶部分司為一員

十年裁併... 所為前衛

年裁分巡... 十二年裁糧儲戶部分司事

係宜府者併... 守口北道兼理

按十八年永... 今上東元年裁宜府理刑推官

山西等有... 旨仍隸畿內

宣化縣志 卷之一 建革志 六

天... 出... 九... 衛... 本... 九... 衛... 本... 九... 衛... 本...

九... 衛... 本... 九... 衛... 本... 九... 衛... 本...

本... 九... 衛... 本... 九... 衛... 本... 九... 衛... 本...

九... 衛... 本... 九... 衛... 本... 九... 衛... 本...

本... 九... 衛... 本... 九... 衛... 本... 九... 衛... 本...

九... 衛... 本... 九... 衛... 本... 九... 衛... 本...

本... 九... 衛... 本... 九... 衛... 本... 九... 衛... 本...

九... 衛... 本... 九... 衛... 本... 九... 衛... 本...

本... 九... 衛... 本... 九... 衛... 本... 九... 衛... 本...

九... 衛... 本... 九... 衛... 本... 九... 衛... 本...

本... 九... 衛... 本... 九... 衛... 本... 九... 衛... 本...

九... 衛... 本... 九... 衛... 本... 九... 衛... 本...

本... 九... 衛... 本... 九... 衛... 本... 九... 衛... 本...

九... 衛... 本... 九... 衛... 本... 九... 衛... 本...

宣化縣志

卷之一 沿革志

七

有... 欽... 該... 部... 會... 同... 兵... 部... 先... 獲... 欽... 奉... 上... 諭... 事...
 直... 隸... 今... 亦... 以... 等... 查... 得... 宣... 西... 兩... 府... 部... 會... 同... 兵... 部... 速... 議... 具... 奏...
 欽... 此... 欽... 遵... 亦... 不... 屬... 山... 西... 另... 設... 宣... 大... 督... 撫... 朝... 之... 初...
 俱... 不... 屬... 直... 隸... 亦... 不... 屬... 山... 西... 另... 設... 宣... 大... 督... 撫... 朝... 之... 初...
 兩... 鎮... 督... 撫... 奉... 裁... 宣... 府... 併... 直... 隸... 大... 督... 撫... 朝... 之... 初...
 查... 明... 下... 會... 與... 府... 州... 府... 併... 直... 隸... 大... 督... 撫... 朝... 之... 初...
 小... 炭... 銀... 兩... 解... 部... 又... 明... 季... 會... 計... 解... 部... 又... 明... 季... 會... 計... 解... 部... 又... 明... 季... 會... 計...
 解... 宣... 府... 口... 北... 道... 充... 餉... 其... 薪... 木... 錢... 糧... 解... 部... 又... 明... 季... 會... 計...
 既... 今... 奉... 諭... 歸... 併... 山... 西... 另... 設... 宣... 大... 督... 撫... 朝... 之... 初...
 二... 衛... 所... 先... 議... 歸... 併... 山... 西... 另... 設... 宣... 大... 督... 撫... 朝... 之... 初...
 安... 二... 州... 三... 十... 二... 衛... 所... 先... 議... 歸... 併... 山... 西... 另... 設... 宣... 大... 督... 撫... 朝... 之... 初...
 也... 等... 因... 本... 月... 十... 二... 日... 題... 二... 十... 四... 日... 奉... 旨... 宣... 府... 等...
 處... 仍... 著... 照... 舊... 併... 七... 年... 更... 給... 鎮... 守... 宣... 府... 統... 兵... 官...
 是... 原... 治... 初... 年... 仍... 稱... 鎮... 朔... 將... 軍... 至... 戍... 萬... 全... 都... 司...
 宣... 化... 縣... 志... 卷... 之... 一... 建... 革... 志... 七

宣化縣志

卷之一 沿革志

八

門... 一... 年... 來... 裁... 永... 寧... 縣... 僅... 存... 延... 保... 二... 州... 至... 於... 附... 郭... 前...
 與... 左... 衛... 右... 衛... 朔... 州... 等... 秋... 去... 各... 有... 原... 籍... 糧... 差... 土... 著...
 曠... 人... 稀... 處... 利... 不... 堪... 稱... 為... 里... 甲... 然... 有... 錢... 糧... 未... 著... 難...
 征... 地... 畝... 未... 難... 核... 逃... 盜... 未... 嘗... 難... 清... 者... 是... 皆... 相...
 征... 軍... 民... 相... 安... 之... 成... 效... 也... 伏... 乞... 俯... 鑒... 下... 清... 者... 是... 皆... 相...
 復... 部... 以... 安... 邊... 氓... 以... 固... 疆... 圍... 為... 此... 云... 云... 前... 衛... 掌... 印...
 守... 備... 張... 到... 查... 看... 得... 宣... 府... 原... 與... 山... 西... 大... 同... 之... 衛... 掌... 印...
 相... 地... 界... 俱... 係... 兵... 丁... 數... 萬... 有... 六... 七... 而... 古... 之... 數... 以...
 無... 多... 且... 居... 距... 零... 星... 又... 相... 距... 闊... 遠... 六... 七... 而... 古... 之... 數... 以...
 成... 一... 里... 之... 規... 不... 可... 得... 也... 即... 如... 前... 衛... 每... 戶... 所... 種... 地... 糧...
 多... 過... 成... 不... 敷... 斗... 每... 丁... 之... 銀... 多... 不... 過... 三... 二... 錢... 上... 民...
 分... 者... 謂... 之... 餘... 地... 所... 以... 邊... 方... 賦... 役... 全... 與... 易... 知... 由... 阜...
 宣... 化... 縣... 志... 卷... 之... 一... 建... 革... 志... 八

三十二年三月內奉 旨改前衛為縣設知縣

典史教諭各一員以附近之在城廂所屬及宜府

深井堡二處歸併其口北道仍舊外設知府一

員駐東城 員駐本城同知一員駐保安

管理雞鳴驛不同城設驛丞一員

三十二年七月內奉 旨允裁宜化

堡守備其雞鳴深井二堡把總

撫 疏稱商宜化鎮許增積驛倉 月內運

一員量為去留今查得宜化府驛把

鳴驛把總雖改設驛 相應裁去雞

鳴驛把總雖改設驛 相應裁去雞

鳴驛把總雖改設驛 相應裁去雞

鳴驛把總雖改設驛 相應裁去雞

鳴驛把總雖改設驛 相應裁去雞

鳴驛把總雖改設驛 相應裁去雞

鳴驛把總雖改設驛 相應裁去雞

鳴驛把總雖改設驛 相應裁去雞

鳴驛把總雖改設驛 相應裁去雞

鳴驛把總雖改設驛 相應裁去雞

宣化縣志

卷之一

土

絡繹應留巡防獲送... 守備把總二... 八盤大黑溝... 馬... 防... 守備似可裁去但查... 全縣錢糧民務知縣... 及汛地防禦應請添設... 守備調補其張家口... 安二城通衛孔道京... 口各設營衛有把總... 歸教巡檢該城守兵... 刑劍馬等關并山西... 官山險峻... 本堡把總... 總今驛通... 備各代徵...

宣化縣志

卷之一

三

垣之責均當存留... 知縣縣丞... 湯泉之責... 守備巡防... 均應存留... 營守備... 驛事務... 留部覆... 雲州長... 仍請添... 口... 鎮安龍... 員又深... 桃花堡... 營堡鎮... 總計... 案于康... 至本年... 併聲明...

附錄或內街是也

北門西順城街又東至李鎮撫街南至朝元觀觀
寺馬路後皆係宜府左衛地方其內街巷房

啓禎時而有門樓或一進房屋迨至己巳辛

荒世祿關給世官遂有行乞其屋多毀

圍睦其民居多係康熙年間蓋也

廟至觀音堂西至關王廟南至草場後

院之東為李百戶東為張一戶為趙百戶又

宣化縣志

卷之一 建革志

三

東為詹千戶之屋皆於順初賣更圍睦自

草場東至首座寺西及北皆係房屋

毀為睦其民屋猶有存者

草場西北自五嶽禪休南至玉皇廟其

舖店房屋此街原名菜市凡人家屋後所種

二饑荒又拆毀復于十三年庚辰饑荒遂盡毀

為園

五嶽廟北至一方院西至子孫廟又西至西城

坤有邑西會是其東西前後多有宜府右衛世職

住居亦因神體已巳庚辰兩次饑荒人民流離官

軍東去未回其遺屋塌毀宗親變賣皆成園

草場前街自書院東街槐樓一帶圍睦舊屬附

右衛地方亦多故明世職與軍民房屋

庚辰兩次饑荒又于順治已亥

家而往雖不盡係此衛住居之兵而此衛

軍衛軍居較多舊屬附

宣化縣志

卷之一 建革志

古

北門順城之東除官草場

附右衛地方亦皆房屋內有故明世官

軍丁死亡無人其老婦寡妻悉行

今城北之倫第對置縣附青嶺

實皆舊日房基也

迨後六月割據陳爾駱駝故引

盛乃初或遷徙民居後多紛更官

為衛其神廟化突殊畿內惟至我

皇朝始為郡縣其也 甲其人與中原樂土遠邇一轍

民生其間始復視唐虞三代之盛也

口致背負城人煙輻輳雖僻而小巷亦似通衢蓋

所之指揮千百戶鎮撫又八百餘員合計官軍戶

口殆三萬有奇于是官有第宅軍有房舍

商民與四方工役雜處其中氣象參差

迨月替頽而後饑饉師旅前後類仍其滿亦不疎

良可哀憫今幸

宣化縣志

卷之一

建置志

五

聖朝鼎革蒙古臣服宜府僅作了防 軍亦就裁減

而止宅寥落猶多荒原蔓草官斯土者撫循苟且

俾復曩時殷盛之舊則元氣內固邊陲 寧是乃

綢繆之至計也矣

宣化縣志 卷之二

疆域志

古建 郡都區各有分厥後廢封建置郡縣彼

疆此界尺寸森然蓋 於 謀 日

必問何守斥埃關於武衛則申盡慎固各有所司

况村落稽其早涉道里均其驛遞所繫 幅

頓無可素也為作疆域志

唐虞夏商周秦 宣化皆其州郡屬地界 與治 遠道里皆無確據

宣化縣志

卷之二

疆域志

一

落縣即今宣化地城在今 其界與都治處 近里亦無確據

晉廣寧郡治下落至晉都洛陽三千二十里

宋時魏收下落為文德陳隋因之 其界與 州郡處 道里亦無確據

唐武州治文德至河北道一千五百里

晉時契丹歸化州治文德至臨潢一千七百里至晉

郡晉陽一千餘里

金改 為宣化州領縣宣德即今宣化地至

金上都會寧府二千四百里

元宣德 為宣 州至大都三百五十里至上都

七百

明萬全都指揮使司治元宜德稱宣守其城所屬東

距雞鳴山 西距洋河 南距深井 北距東望

山附郭至北京三里五十里

百五十里

皇清世祖章皇帝感治初年萬全都司仍明

八年裁巡撫歸併總督其總督駐陽和都 治至陽

和二百四十里

十六年裁宜大總督宜鎮歸化直撫統轄其巡

宣化縣志

卷之二 疆域志

二

撫駐都保定府宜鎮至保之七

今上康熙七年裁併都司于附郭之前衛仍治宣府

十年併前左右三衛及興和所為前後二衛又併後

衛於前衛仍治宣府

宣府在城屬所屬 東距雞鳴山 西距洋河

南距東城東界 北距山片以

南今屬宣府在城

三十二年允直撫郭世隆題改宣府前衛為宣化縣

縣治 前衛舊

宣化系東北大家營與龍門縣關底交界距城

八十里 正東小定州營與懷來縣于子營交界

距城一百五十里 東南趙家棚與懷來縣保安

州牛角箭交界距城二百二十四

與懷來縣距家庄交界距城八十里西南三岔庄

與西寧縣馬圈子交界距城一百一十五里 正

西膠泥灣與懷安縣太平寨交界距城三十五里

西北高家屯與萬全縣營房里交界距城五十

五里 正北東墮與龍門縣之青邊交界距

宣化縣志

卷之二 疆域志

三

城四十里 其縣仍直隸巡撫其至保

論曰明疆域所以寄官守而宜以衝要更有宜清行

蓋獨石雖稱繁劇張家口殺虎口之往來絡繹較

獨石百倍故宜之驛則上下奔馳驛遞則四

互迎送則日夜供億而防禦則文武交營其以廣

袤濶遼縣為諸邑之首地居諸邑之

尚虞隕越也矧近例于雨雹蝗蝻命盜逃案積

查至重縣令日躬履村畝周環數百里痛切痼

不備若若頓不請責寄何人官斯土者

奮武之長或地以按地查省撫循尤區則疆域清而保茲疆域者難云瘁矣

川志

宣邑崇岡峻嶺蔽日遮雲疑若六坊其標諸水流淺浸微又于滋潤百畝效筆無幾非若名山大川有關封濟之典然屏蔽中華阻險要者恃此山宜蘇土膏灌溉羣生者恃此水豈體國經野而紀載弗詳乎為作山川志

天德山 在城西北三十里落日晚影燦然

宣化縣志

卷之二 疆域志

四

東望山 在城北三十五里

西望山 在城北三十五里上有遠圖百臺山舍利之碑

湯池山 在城東六十里溫泉出焉

燕然山 在城東南三十里相傳為實意紀功處山有香翠岩雨舞嵐氣青翠可愛

馬鞍山 在城東七十里

八寶山 在城東六十里

城東四十里土石多異

黃羊山 在城東南三十里雲霧則雨晴則觀此以候陰晴實無黃羊也

雞鳴山 在城東五十里相傳代王夫人磨笄自殺國人所之有雞鳴子河上一鏡志曰磨笄

北伐至山開鳴因名今考磨笄山在蔚州則此山之名以一事志為是

黑寨山 在城東四十里

斷雲嶺 在城東南八十里即今沙嶺在城西北二十里上有吟雲詩如阻斷然

鷓鴣嶺 在城東南三十里即古鷓鴣嶺唐李可舉破李克用兵于此

分水嶺 在城十里

烟洞山 在城北一十里

娘娘廟山 在城南十里

十八盤山 在城南八十里

宣化縣志

卷之二 疆域志

五

線廣洞 在城南六十里

石峯洞 在城北六里

聖音洞 在城北五里

四角洞 在城西北四十里

龍洞 在城西南六十里

新開坡 在城南五十里

洋河 在城南五里源出口外至此東流入乘乾河水

不來不揚百之待御別號湯泉故宣化諸景有湯泉浴馬之門

泥河 在城東十二里自關子口西南流四里與洋

清水河 在城西二里南流七里與洋河合

人底湯 在城東六十里冬夏水溫望之熱氣氣重疾者浴之立愈
龍潭 在白廟堡北七里許

東深溝

西深溝 二溝在城東二十里

深井 在城西南六十里深不見底因名

海子 在深井堡正南水無泉出皆合川兩集滙會中深數丈周圍可十數里許冬夏不涸亦巨浸也

宣化縣志

卷之二 疆域志

六

唐河東節度使王忠嗣以安祿山治扼塞告變

按安祿山以范陽為巢穴時欲叛唐將西犯長安恐河東兵搗其巢穴因城雄武扼飛狐寨忠嗣預測其機故告變焉夫飛狐即今廣昌之黑石嶺南通紫荊削馬西入大同雄武乃唐武宗罷山後八軍以武州為雄武軍即今宣化地也因大同天城由左衛來武大同從西寧亦皆經宣化入居庸車黑石嶺同為衝要

宋太宗論控扼山後險固

控山後重地自石敬瑭收契丹宋太宗銳意恢復省乘破漢餘威數道深入其勅諸將曰濬美但越雲朔曹彬米信以大衆聲言取幽州飛行持重不得貪利敵必悉眾救范陽不暇援山後矣此實得進取山後之法受彬輕進敗績山後淪沒乘四百餘年中原形勢長屬情哉

歐陽修言禦契丹

五代史云四州西北有居庸關又西北有石門關皆中國控禦契丹之險也按首之五京師者有居庸關而居庸之路必由雞鳴或控禦之法宜地宜謹也

明兵部尚書馬文昇備邊要地疏

翠曰蒙古山雁門三關則掠我太原山紫荆則掠我保定由白羊則入近京師故三者備蒙古要地也孫太史世芳云雁門三關警急當責之大同紫荆白羊警急當責之宣府

都御史周綱急備要疏

翠曰宣府至居庸止二程去蒙古邊垣百里而已麥川三者最急孫太史云此據鎮城南路言之

兵部尚書王瓊備邊事宜疏

翠曰宣府至居庸止二程去蒙古邊垣百里而已故其警急京師即當為備孫太史云威寧有警則宣鎮當備宣鎮有警則京師當備應援之策不可不講也

宣化縣志

卷之二 疆域志

七

都御史許論防守要害論

翠曰宣府山川糾紛地險而狹分屯建將倍于他處是以氣勢先固號稱易守然去京師不四百里鑽鑰所寄要害可知

兵部尚書徐萬達擇要併守議

各曰宣府大同外連極塞以宗敵手內山西保定內峙諸關而藉庇于外故四鎮均重而宣大急焉宣大宜以戰為守擇要而屯兵諸關則以守代戰之師是以南邊聖之驅西接天城之急又萬全左衛安衛也則蒙古不敢東而大同鎮兵自西

出塞遊擊之奇也又曰宜府西路流馬林西
洋河之鎮也地不可棄兵必有援備宜府
疆域而置天同戊卒于絕地不恤大同也便大同
應援而置宜府西陽河於境列不恤宜府也是故
居常戍不備罪大同有警而宜府西
命不以兵至垣下應援者罪宜府

一 統志宜鎮形勢論

萬全都司前望京都後控沙漠
左扼居庸之險右排雲中之固

鎮舊志形勢論

全鎮飛狐紫刺控其南長城獨石枕其北居庸吃
險于左雲中結固于右羣山疊障盤踞峙列足以
拱衛京師而彈壓蒙古賊北邊重鎮也 鎮城羣
山環洪于東北洋河崇積于西南居東西道里之
中實一鎮要
會之地也

宣化縣志

卷之二 疆域志

人

宣府鎮城形勢論

本城據鎮上遊稱都會之
地重兵屯聚頗足彈壓

附封爵

北齊下落縣侯詔武威王長子與爾朱兆戰兆軍潰

攻劉誕於鄴及韓陵之戰詔督所部先鋒陷陣尋

從高祖出晉陽追爾朱兆于赤嶽嶺平之以軍力

封

致上谷地甚遠瀾北齊以前所封之爵概稱上谷
或廣壽非必果在宣邑未可摭入若北齊之下谷
侯則直之舊名友
特北齊此侯始

唐北魏王暹襲宗室子貞觀十一年以幽州都督有

功封武郡王佩盛宣王琦子元宗孫廣德元年封

朱丹國歸化郡王完顏合住為鎮節度使系出

元祖簡獻皇帝左大相迭刺孫也以宗族封

元宣德王不答失里元宗族皇慶二年封

宣寧郡王帖木兒不花至大四年以戰功封

宣寧郡王阿憐帖木兒元宗族至順元年封

明谷王穗高帝第十九子洪武二十五年封三十二

年靖難兵克懷來宣府大震王道歸京師及成祖

宣化縣志

卷之二 疆域志

九

定鼎北都以宣為畿內重地遂遷國于長沙

王天瑞字君毓萬全都司人也祖朝家祖妣葛氏萬

歷六年選窠次女為才人九年誕皇長子晉恭妃

時窠先卒官其子長道亨錦衣僉事次道化亦授

錦衣千戶二十九年立妃子為皇太子嗣位是為

泰昌時妃薨追尊為孝靖溫懿敬誠貞恭恭天毓

至皇太后道亨亦歿子天瑞襲爵晉秩後軍都督

加太師封永寧侯仍賜第 末寧在 宣東路

墳墓

元宣使劉敏墓

明保國公朱永墓

宋昌伯陳玉墓

右都督白玉張俊墓

死忠都督周賢墓

都督僉事劉淮江桓張鎮墓

大同副總姚信墓

叅將孫成張翼陳雄高鉞李稭陳勳楊玉墓

遊擊將軍陳廣斯英余鎮董賜墓

宣化縣志

卷之二 疆域志

十

都御史王質熊偉墓

御史李經楊百之張濂墓

苑馬寺卿王敏墓

按察副史張鏗墓

兵科張廷槐墓

兵科胡載道墓

都督李延恩墓

都督梁秀墓

都督董一元墓

彰武伯楊信墓

左都督周玉墓

都督卻永墓

副總兵周宗魯墓

寧夏副總楊英墓

給事葛鳴墓

郎中崔璽墓

翰林孫世芳墓

御史王致祥景昇墓

總兵江烜墓

都督盧居智墓

都督黑雲龍墓

總兵郭增耀墓

都督王尚忠墓

都督黃明臣墓

都督韋子直墓

總兵劉三省墓

都督姚世卿墓

總兵馬劉壽墓

總兵倪龍墓

都督金國鳳墓

宣化縣志

卷之二 疆域志

十一

知府馬正午墓

翰林姚文光墓

附明回馬塚

懷來王大卿墓

馬院附旋繞

附漏澤

城西大路諸處

城東關外諸處

總兵馬士麟墓

總兵解一清墓

都督姚國忠墓

總兵張國往墓

總兵朱國梁墓

總兵馬孔英墓

殉難總兵滿柱墓

郎中雷湛墓

提督田雄墓

巡撫閻興邦墓

按公懷來都憲三公實之父相地于懷城西十里餘里將歸上之公此正德初年歸貴陽時有記

城北大路東側立有義塚石

論曰孫太史舊鎮志論宜之山脈西自恒嶽發綿亘

而東由石門至傍水峪是鎮之前屏東自開平

發縣亘而西由馬鞍至野狐嶺是鎮之後屏

大概言前後而燕然黃羊天德東望

宜邑之前後

由柴溝繞鎮城者曰洋是鎮之右界即宜邑之右

界若泥河以源短流淺不復齒為左界然于嘗親

閱龍門關下白陽白廟關子口諸泉騰沸出泥河

口以達洋河地凡數十里為宜邑左界脈絡分明

宣化縣志

卷之二 疆域志

十一

孫太史以總論宜鎮故畧泥河其實宜邑帶水左

石互來其交會有情亦與山之前後兩屏從左右

交互有情同余嘗以十州縣為京師之右衛而宜

之一邑又為各州縣之中心者職茲故耳至于山

川環繞具有

岡之資撫有山川考如更恃德

難與流峙並永哉

宣化縣志 卷之三

詔命志

宣揚德意曉諭臣民及夫冊封諸勅宸謨

甲必眾之邦國以示信從况邊

其遠猷宸告

于宜境堪垂簡策者次第登收俾後之覽者共遵

夫君無反汗永寶繪音之意為作詔命志

宣化縣志

卷之三 詔命志

一

賜元臣擴廓帖木兒詔

時擴廓帖木兒以元主命慰保安意圖恢復因詔

諭之各曰朕自起兵淮右收獲羣孽平定華夏惟

西北邊備未備

頒 幽朔詔

朕云朕瞻惟幽朔實元氏本根命將北伐列郡皆

願已於洪武元年八月二日駐取燕城元

捷來奏殊副朕懷今改燕城為北平府命官屯

守朔方百益及蒙古色目人民並仰各安生理

新作所司
存恤云云

三年頒應昌俘獲銘

左副將軍李文忠等遣使來奏五月十六日
至沙漢於應昌府獲元君之弟
其弟並實冊等知庚申之君
應昌其封買的里八刺為榮禮侯
同居用文
來朝或遣使歸
地方羊馬草
物從便牧養
與換給印信選領所都本居

四年賜故元遺臣聖書

元臣曠兒有衆萬餘數幾伺塞外至是入
居直德府之常峪太祀以聖書諭其來歸

三十一年文皇帝慎出邊塞聖書

宣化縣志

卷之三

聖命志上

二

成祖巡邊每以輕騎出關平數
百里上聞遣使齎諭止之

文皇帝永樂七年賜右都督章安鎮守勅諭

勅諭後軍都督府右都督章安今特命爾鎮朔
將軍印克德兵官鎮守宜府地方整飭兵備仍督
屯田糧草遇有賊寇相機戰守軍前有犯許以軍
法從事其有管軍頭目科站下人私役新種等弊
輕則量情懲治重則送彼處問刑衙門問理應奏
請者奏到
聽兵之始勅諭中事
來為重云云
揮以下俱聽節制此為設置

征本雅失理班師詔

暑日朕承大統撫治寰區志在安民惟懷不及獨
此殘孽孽克梗化屢使撫循輒見拘殺使邊將
擒部屬念其各有父母妻子豈得還鄉遣使送
之殺信使憤懣恚怒神人遂親領六軍往

五月十二日師至幹
即敗之本雅奔命不暇以七騎奔
其羊馬糧庫令各安生業乃封于山川振放班師

征兀剌班師詔

詔曰兀剌班師
使臣授邊境朕不得已討領六軍討之師至散
里怯兒之地北兵迎戰一鼓敗之追至土刺河發
長峇里巴馬哈才太平把禿字羅不度智
而來兵刃繼交如摧枯振朽殺其名王以下數千
人斬級無算餘衆皆遁遂班師而還歸至飲馬河
弔寧王阿魯台遣其酋長領衆詣軍門來朝推
誠待納以安反側勞休撫輯令回部落云云

宣化縣志

卷之三

聖命志上

三

二十年駕征阿魯台班師詔

詔曰往者阿魯台屢為兀剌門通妻子不保遂率
其部落來歸朕特加優恤授以封爵令其仍居本
土安生業永享太平豈意此類負德辜心殺戮
信使受罪殘虐朕聞之北阿魯台聞風震懼逃遁
日師抵滿蒙海之北阿魯台聞風震懼逃遁
窮迫累日使其謀者云阿魯台驚愕失拍致病延
羸為大地神鬼
率前鋒
餘黨無算獲其部落人口焚其
馬匹牛羊糶撫降附振旅

征兀剌班師詔

詔曰此以北部殘孽辜恩負德梗化形庭乃以
今夏四月躬御六師往討師駐應昌
出師門陝妻子遠窺山谷至冬兩雪連綿積深尋
出師門陝馬

至簡納木兒河窮搜極索直抵白昂山曠無人跡其務師東行始崩裂兒河復涉薄溫河擄賊輩班師還京成祖三駕北征俱在本鎮塞外故紀之

王 平陽都御史李儀巡撫勅諭

整飭邊備訓練軍馬防禦賊寇以時修治器械草弁操馬匹責令優養壯仍督軍管軍頭目科刻下人職官有犯輕則重懲治外官員權勢人等有侵欺賍賣糧草及沮撓屯糧者指實奏聞凡一應軍務邊務須與鎮守使官計議而行分守參將遊擊守備等官俱聽節制凡有益於邊備有利於軍民者聽爾便宜處置此為設置巡撫之始後來代者其勅諭俱與此同

宣化縣志 卷之三 詔命志上 四

賜中軍都督府左都督朱謙鎮守勅諭

勅諭中軍都督府左都督朱謙今特命爾掛鎮朔將軍印克總兵官鎮守宜府整飭兵備遇有寇冠相機戰守凡一應軍機之事須與巡撫等官從長計議停當而行毋得偏私執拗乖方誤事云云先是總兵官事權太重不無偏任之失至是以巡撫都御史參贊故其勅諭比前少殊後承代任者皆司此不

南都司都指揮使林祥走

南都司都指揮使林祥今命爾領所存班馬步官軍四千七十七員各前往宣府總兵官朱謙等分撥備禦不許在途延緩及下班回還取討衣鞋等項四散遺出該衛所揀選有疾功補依原定日期管領赴京仍往宣府備

即有警急調用即便星馳前來往回途中經行去人田禾砍伐人樹木占宿人店舍多項如貨物并拐帶人口奸淫婦女奪用車輛等項如犯者俱重罪不饒禾樂間備禦本鎮嚴遣河南山官軍三千員各至是罷去山水溝寨兵營

景泰元年見邊防士卒勅諭

勅諭宣府等處鎮守總兵寺官及各衛所城堡操守管軍頭目務要撫卹軍士整備盔甲弓箭刀劍等項軍器每二日統領聚於教場操習武藝巡撫都御史巡按御史所至必須提督量加懲勸仍戒所管官旗不許輕減糧餉私占軍餘耕種田土如有此等悉從舉奏處治若知而不舉者並治以罪

五年賜左軍都督府都督僉事楊信充副總兵官鎮

宣化縣志 卷之三 詔命志上 五

守勅諭

勅諭左軍都督府都督僉事楊信今特命爾充副總兵官鎮守宣府凡有邊務須與鎮守掛印總兵及巡撫都御史等官計議而行務在同心協力以安邊境不許互相矛盾乖方誤事此為設置副總兵之始成化十三年以前稱鎮守以後稱協守勅諭詞前後同

天順元年賜戶部徐敬總理糧儲勅諭

宣府等處地方錢糧數多權宜致前住彼處管理一應糧食米石屯種五種糧及私稅占用屯種軍丁違者聽爾量情處治奏請奏委來聞每歲引鹽丁發銀解買須將酌價備費歲用多寡及地方緩急從公坐撥分派取各衙倉庫數目隨收隨撥以革奸弊凡一

事行事宜悉與巡撫官會議而行不許偏執
要公同巡按御史權買以絕權豪包占
之獎前此部臣止因有警奉命木鎮督理
運京至是始專報一
年方代著為令云

賜鎮巡官營田勅諭

御其業盛近得... 奏稱買補官牛撥軍耕種今
年頗有收成就將餘糧買補官馬數多足見爾等
用心盡備但此法行之既長固宜著立定規以為
經久之計其見在官牛一千八百餘隻仍令爾盛
時常用心查點草牧有虧損者該法補足項收貯
失原數每年耕種所收餉糧會計見數另項收貯
行核戶部原差監督糧料官員知數收支明白止
許以為買補馬匹置辦軍裝等項公用不許官乘
勢要之家將官田官牛借貸占用此法永為定例

宣化縣志

卷之三 詔命志上

六

以後糧兵參將等官不許假公
循私因而阻壞違者罪之故勅

三年賜都指揮使許寧充遊擊將軍勅諭

勅諭都指揮使許寧今命爾充遊擊將軍領原
塞官軍三千員名整點馬匹器械齊備就於宜府
地方用心操練遇有賊寇侵犯即便統領官軍往
來截殺以靖地方如有報到緊急賊情須星馳
前去策應併力不許畏縮推避致貽邊患凡
是年始置遊擊將軍其勅諭凡
俱同此令解曰舊遊兵營

子賜太子太師保國公朱永總督軍務勅諭

勅諭太子太師保國公朱永總督軍務勅諭
人冠雖已暫回不可不嚴加保衛但宣
帶方寫遠各鎮兵馬權無統一倉卒調遣未免
推調致誤事機特命爾永同太子太保兵部

尚王越總督宜大偏傑等處軍務在於適中
要地方駐劄輕署各該鎮巡以下官員悉聽節制
官軍臨陣不用命者自都各該鎮巡官計議從
事地方事務有應與越等官商議軍用命爾理
議而行其一切兵馬用度錢糧並命爾同官員有
者總聽爾便宜區處此並用
務則出無警則
警則出無警則
勅諭不得備載

宏治三年令總兵官右都督馬儀巡撫都御史楊謙

焚荒勅諭

勅諭守宜府等處右軍都督府右都督馬儀巡撫
宣府等處都察院左金都御史楊謙即日秋深草
木枯稿正當燒荒以便瞭望勅至爾等須公同計
議各屬統領精壯價贖官軍各營地方分投布列

宣化縣志

卷之三 詔命志上

七

營陣且哨且行出於境外或二三百里或四五百
里仍將撥過官軍姓名并燒過地方
里數造冊奏繳 此勅命焚荒之始

五年賜山西按察司僉事趙縉分巡口北勅諭

勅諭山西按察司管中僉事趙縉宜府所屬地方
倉場政務繁冗奸弊多端近該鎮巡等官奏請設
官整理特命爾往該處專督一應糧草并稽查
各該鎮巡等項錢糧或遇關中川
職前預備等項錢糧或遇關中川
職前預備等項錢糧或遇關中川

委不許偏執違悞 此復置分巡
按倉事之始後來勅諭與此同

正德八年賜都指揮僉事李興充遊擊將軍勅諭

勅諭都指揮僉事李興茲特命爾充遊擊將軍統領領官軍三千員各營點馬匹器械齊備就於宣府用心操練分路按伏遇有賊寇侵犯即往殺以靖地方或有報到緊急務須即時討賊務獲賊首應併力進剿不許畏葸推諉

嘉靖十八年賜山西布政司右叅議劉珂分守口北

勅諭

勅諭山西布政司右叅議劉珂近該行邊兵部片著爾鑒奏稱宣府地方軍馬錢糧數多詞訟浩繁止有分巡官一員管理不周乞要照遼東甘肅事例添設分守官一員已允所請今特命爾前去彼處

宣化縣志

卷之三 詔命志上

八

地方分守撫安人民督徵各項錢糧兼理軍民詞訟在於宣府鎮城住劄每年分定分守官上半年分巡官下半年各出巡編歷城堡驛察倉庫錢糧多寡禁革一應奸弊詢訪各官賢否出巡回日將行遇事蹟開送據按官處以憑奏報所屬地方官員軍民人等敢有放違禁約徇私作弊者輕則量情責罰重則拿問如律應奏請者參奏來聞仍舊鎮巡官舊制

宣化縣志卷之四

詔命志下

三十一 一年賜兵部左侍郎翟鼎勳總督軍務勅

兵部左侍郎翟鼎勳等處軍務在宣化府總督軍務方駐劄經畧一應邊務巡警隨宜往來調度各鎮將官相繼職守以鎮巡以下官員悉聽節制官軍臨陣不用命者自都指揮而下許以軍法從事地方事情有應與各該鎮巡官計議者從長計議而行先期發去銀兩專為主客兵馬之用併命爾總理其事爾宜督令管糧郎中等官盡心調度整理軍衛有司官員有犯應奉問者就便奉問律處治勅內該職未盡者悉聽爾便左區處此為專設文臣總督軍務之始邊鎮連年兵患不息故自爾後皆令久駐地方經理如有遲擢必得代乃

宣化縣志

卷之四 詔命志

一

去職後任事者其勅諭與前畧同後俱做此嘉靖三十年折保定屬前邊總督而總督西北者改稱總督宣

四十年賜山西按察僉事孟官專理屯政勅諭

勅諭山西按察司僉事孟官近該巡按監察御史奏稱宣大二鎮屯政久弛必俟專官管理庶有責成今特命爾前去宣大二鎮屯政在於中住劄爾宜查照該部題准事理督同各路通判守操印管屯等官專意整理兩鎮屯政務須如法行不得有預有曠本務總督無技如前項空用此為專設屯政之意之始後代

皇清世宗章皇帝順治元年九月初三日攝政王勅諭

諭 著總兵官王應暉知道開賊黨盤踞太原今
起大兵 派流氛救 塗炭以安天下 王統領
前營兵將定于本月十一日起行爾定機 宣府
城池選撥價戰副將等官帶領驍捷士卒 應
匹前赴代州等處 古等兵亦奉調 王
宣大等處口外 古等兵亦奉調 王
諭 仍選調知路鄉導官丁引 王
許遲延有誤軍機 續後六帥征討
由潼關回關等 道並進特諭

十一年十一月十六日頒至 中外稱聖詔

朕恭膺 天命 續承 祖宗 鴻緒 統御 十有一年
兢兢業業 日勤 治而 治效 未臻 日務 安民 而民
生未遂 疆圉 多故 徵調 甚繁 水旱 頻仍 流離 道
中外之 欺諛 成習 朝廷 之膏澤 弗宜 法敝 民窮 于
和召 朕 天心 未格 地屢 屢閭 閭皆 朕不 德之 所致
也朕 以躬 躬躬 托于 王公 臣庶 之上 政教 不脩 救正

宣化縣志

卷之四

二

無術 一夫 不獲 咎在 朕躬 而內 外章 奏文 移動 輒
稱聖 是重 朕之不 德也 何以 自安 從今 以後 朕痛
加脩 省一 意安 民大小 臣工 各宜 洗心 改行 恪恭
職業 助朕 挽回 災變 保又 黎元 凡章 奏文 務以 不
得稱 聖以 昭朕 乾惕 至
意布 告中 外咸 使聞 知

十三年頒至 申飭巡方勅

國家 設立 巡方 以原 為察 吏安 民之 在懲
貪必 按臣 先能 以廉 持已 奉公 守法 然後 有司 有
民懼 不敢 貪婪 害民 乃初 遭頌 巡
至 殿 殿而 諭 按 止 恩 此
重吏 治貪 廉民 生利 病皆 由此 上
巡 直省 地方 朕即 倚為 耳目 手 至
深已 豈屬 與安 民一 爾者 定律 處死 至
常律 但得 銀一 錢一 兩者 定律 處死 至
冀門 再 諭 在 關 巡 按 官 初 至 地 方 亦 能 虛 傳
及 在 巡 按 官 多 貪 取 賄 物 爾 等 若 踏 此 弊

初 朕 聲 俱 置 不 問 必 照 貪 制 處 分 朕 屬 望 如 此
殺 切 戒 旨 如 此 嚴 明 旨 洗 滌 肺 腸 肅 清 積 弊 乃
顯 仁 輒 敢 背 旨 壞 法 收 囊 納 賄 朕 親 行 行 務 情 其
罪 著 已 經 正 法 訖 合 通 行 天 下 嚴 加 禁 飭 以 後
巡 方 御 史 及 巡 鹽 巡 漕 巡 捕 巡 緝 各 官 見 奉 各
道 等 違 去 受 賄 犯 罪 即 行 處 斬 定 不 寬 貸
傳 諭 是 時 巡 按 大
史 亦 風 在 申 飭 之 中 故 錄

十七年頒至 捐脩明慈帝陵勅

朕 惟 膺 圖 承 祚 統 緒 百 王 而 創 法 宏 模 情 以 勝 圖
歷 觀 史 冊 興 亡 之 迹 考 其 治 亂 得 失 之 由 會 以 啟
堯 遂 下 天 譴 邦 國 既 隳 士 民 罔 懷 惟 有 明 莊 烈 愍
皇 帝 實 治 理 之 究 圖 惜 養 襄 之 莫 遂 以 致 寇 讎 犯
關 宗 廟 無 維 追 念 喪 師 匪 匪 因 失 德 朕 每 念 及 此 未
嘗 不 惻 焉 傷 心 也 頃 者 兩 幸 昌 平 周 視 明 代 陵 隧
躬 親 監 奠 俯 仰 徘徊 以 後 諸 陵 規 制 咸 壯 慶 相 因
獨 愍 帝 之 陵 荒 涼 卑 隘 與 功 未 昭 原 彼 當 年 致 政

宣化縣志

卷之四

三

求 治 宵 旰 不 遑 祗 以 有 君 汪 臣 薄 海 鼎 沸 泊 乎 國
步 傾 危 身 殉 社 稷 祭 諸 正 終 之 例 豈 同 公 罔 之 君
朕 于 滄 水 之 餘 撫 往 輿 悲 不 禁 流 涕 因 欲 繕 治 陵
寢 并 至 几 楹 慰 靈 爽 于 九 原 彰 異 數 于 奕 禩 迺 核
少 府 金 錢 悉 皆 小 民 正 供 倘 增 工 徒 之 費 殊 乖 賦
式 之 經 然 終 不 忍 聽 其 闕 畧 用 是 布 告 方 州 開 導
忱 懼 交 相 論 助 聿
新 築 焚 以 肅 松 楸

今上康熙三年賜分 北道兼整飭懷慶為勅

北 道 方 端 士 效 命 爾 分 守 口 北 道 事 務 駐 節
口 北 道 方 端 士 效 命 爾 分 守 口 北 道 事 務 駐 節
及 裁 併 俟 陸 道 所 屬 東 路 北 二 道 事 務
衛 地 方 其 衛 所 經 管 錢 穀 各 項 務 須 嚴 密 稽 察
首 在 撫 綏 黎 民 勤 宣 德 意 約 束 衙 門 官 吏 胥 役
之 格 遵 法 紀 無 致 作 弊 生 事 擾 害 官 民 上 本 源
既 正 方 子 表 率 屬 員 以 循 職 業 宜 加 意 脩 濟 城 池
州 糧 餉 捕 緝 盜 賊 稽 查 逃 人 仍 議 諭 有 司 簡 訟

清源已愛民生聚教訓共圖保障凡係流移人戶須設法各復業不許奸人情端詐害如大兵征討經由地方糧車舟車皆當通以資備以特隨時支給事竣核毋容有司贖贖糧項小民所屬官員有貪殘溺職等事見督屬仍聽督撫制年終將通事心

榮業期得厥職如或貪黷乖張以亂心道之勅也先是八分巡赤城隆三勅各有專

七年頒至傳令內外大小文武各官確陳民生利病

論

上諭諭吏部等大小各衙門民為邦本必使家給人足安生樂業始可以稱太平之治今聞直隸各

宣化縣志

卷之四 詔命志

四

省人民多有失所疾困窮苦深可軫念或係官吏貪酷剝削生民或係法制未便致民失業今當何如而後始得遂其生計凡一切關係民生利病應行應革事宜着內外各衙門大小文武等官各抒確見陳奏勿隱以覓採擇施行但不許以泛虛文及無益于民之事借端塞責具奏着吏兵二部傳諭遵行特諭

停止口外巡幸論

論論吏兵二部朕頃以秋冬農隙肅武今歲災變甚多不宜出邊外致兵士臣抒陳忠悃直言進諫深可嘉已予諭停止邊外之行以後國家重大緊要事情如有當者務抒所宜直陳朕不憚更改爾二部即傳諭遵行

九年賜鎮守府總兵兼轄昌平石匣等處勅

勅諭都督僉事拜音達隆茲特命爾為鎮守府總兵官駐劄直府兼轄昌平石匣等處大小將領及守備等官務須各營大小將領兵馬妥為訓練不令有缺明兵燬防邊如俗游城地

保陣各營額兵務選精強毋容積弱心弱須嚴加鈐束秋毫無犯使兵民相安不得有放馬為名戮力勤捕無得觀望致誤軍機倘有警是馳赴援不得自分彼此失候機宜如有衆投誠察其真心向化即與安插如若有大妻請定奪所屬副將以下聽節制干已下如有臨陣退縮殺員功乘機搶掠使行一者以軍法從事對中開載六盡事宜參酌施行

宣化縣志

卷之四 詔命志

五

應錢糧詞訟民事俱係有司職掌不得干預文官遲悞稱餉及匿賊不報者爾務會巡撫指參從重治罪爾受茲委任須持廉秉公彈力奮勇職固斯爾稱職如貪黷乖張因循怠忽統統決貶

朕封疆國憲具存爾其慎之故勅

十月頒至尚德緩刑論

上諭諭部朕惟恐治世之世不專以法而此為先其時人心醇厚風俗淳樸刑措不用此可封長治久安度登上理蓋法不待而務求也近見風俗日微心不而教化不

爾多端租許之術日微或惡於出入衙香或根詐客善良產符之劫掠時聞快忿之傷查見昭法所必加其之則無知可憫有之則應典寬今茲刑辟之日繁良由化導之未善朕今

欲古帝王尚德履刑化民成俗舉凡敦孝弟以重人倫族以昭孝睦和鄉黨以惠爭訟重農桑以足衣食尚節儉以惜財用隆學校以端士習

十一年頒至酌定官人等服色之制論

禮部題為欽奉 上諭事該臣等公同會議得官穿用若奢侈違其本分不肖者廢產過費所以不足以致紊亂相應定例示為遵行並將順治九年

宣化縣志

卷之四 詔命志

六

及辦事人等並書辦外郎及僕止許穿紡絲絹綿細葛紗縐布毛青三梭布夏布狼狐貉羊

十七年頒至薦舉學行兼優文詞卓越之人以備親

試永用論 史潤色詞章以 觀明著 發服時遊心文翰思得博洽之士 才碩彥學問淵通文藻瑰麗不以追跡前誥者

二十一年獨免饑荒地方各項正賦并歷年拖欠錢糧 上諭戶部前因大同等處地方自去歲饑荒百姓無食流離失所已輕發銀二十萬兩遣官賑濟又

宣化縣志

卷之四 詔命志

七

將應征房稅悉與豁免務門小民家室復完不失 故荒棄耕種無資衣食失獲厥心深為惻憫所有

夏六月發京倉米運至宣府論

上諭近上下可無米價甚為緊要理應將米運至同宣府州縣京城道路為遠所需價銀多

停運至大同將在京老米二十萬石運至宣府
存倉備用大同需米晉省撥夫自宣府運至大
同不致有誤

二十一年命大臣巡察直隸及宣化等處地方勅

部尚書魏象樞等奏為宣化府屬各屬
地方密邇京師屯民雜處有紳民糾紛
及府丁劣惡人員併庄頭等類惡劣紳
有司畏葸無以整頓大吏徇情不能糾非
大臣巡察無以整頓大吏徇情不能糾非
特命兩等前赴會同該處巡歷地方親行
勸導要緊強盜人庄頭等類惡劣紳民
飭得實指各屬紳民糾紛不法官民
貪大憲事蹟井據實糾劾其無稽遊棍
詐害官民即行嚴拿懲究下止恐開報徒
具文

宣化縣志 卷之四 詔命志 八

毋寬縱巨奸苛摘細故勅開載未盡事左爾等
委辦施行爾等受茲委任須持廉秉公嚴絕情面
盡破積習不畏強禦不受請托務俾民隱得伸奸
頑敢欺始為克盡厥職如或玩忽從事致負汗使
責有攸歸爾等
其慎之故勅

二十四年奉 上蠲免地丁錢糧十分之三及二十

完錢糧盡與豁免論

諭戶部朕撫叙方夏受養黎元昨夜思勛求
疾苦無時不念
頻遇旱災小民價乏宜加恩地丁錢糧已輕
估地方應征康熙二十一年地丁錢糧已輕
豁免所有直隸八府二十三年未完地丁錢糧
與豁免直隸八府二十三年未完地丁錢糧
等項應征地丁各項正賦俱着免三分之一兩部

速行該地方官通行曉諭務使人人得被膏澤以
付吹動上意至意如有不肖有司借端濫混私
行重徵者或輕奏奏或被告發定
行從重治罪兩部即遵諭行特諭

二十五年四月差戶部司官來宣化府馬基

此戶部司官來宣化府馬基
會同口北道帶領地方官查丈
同口北道王騰同知汪宗濂守備張到將
鄉紳生監兵民人等所住房屋前後兩傍及寺廟
前後兩傍小園畦盡行查明共地四百二十六畝
隨問紳商劃宗馬瑞麟胡以炳軍民人等俱稱
俱係我等祖房年久倒塌不能重修開種者左據
情報部議此項地仍舊其原主耕種可也
二十五年五月十九日奉 旨依議到部轉行口
北道遵照出示曉諭有口北道看語附藝文志

宣化縣志 卷之四 詔命志 九

二十六年奉 上蠲免順永等府及宣鎮錢糧論

諭戶部朕撫叙方夏受養黎元昨夜思勛求
疾苦無時不念
培邦本而順永保河四府地方人民較之畿南差
役倍多繁苦故將康熙二十六年地丁各款
錢糧向湖南福建四川四省錢糧盡與豁免

二十八年秋七月差賢能司言同直隸巡撫來察旱

荒 賑救之法論

諭戶部今歲天氣亢陽雨澤鮮
為軫念加嚴着差兩部賢能司官會同直隸
縣等處通行親歷詳加察勘其有果係被災者
作何賑救使不罹患害著一併確議具奏特諭
九月奉 上二十八年才經徵完及二十九年上

年錢私盡行免論

上諭戶部朕勤求治理篤念民依欲使子幹寧用是類獨租賦至于時值流散倍切焦思賑贖之恩尤宜亟辦今歲歲輸尤陽為虛播重慶期年穀不登小民艱食早以情形朕所親見或人殷勞

地丁錢糧除已徵在官外其餘有本年該項通行曉諭務使均沾實惠以副朕拯窮黎至意如民人仍致流散或不肖官役朦混侵蝕及仍行私征者特該撫一併嚴加處分爾部即遵諭行特諭

二十四年十一月內免徵宣化本年被災等處錢糧及三十五年錢糧論

宣化縣志

卷之四 詔命志

十

上諭戶部宣化府屬地土瘠秋禾被災今年除已完納外未完納者俱免徵其三十五年錢糧仍照順天等四府通行蠲免

三十五年九月內令豁宣化三十六年銀米論

三十五年九月二十三日奉 上諭諭戶部宣化府發糧前已屢懇蠲免但上年以來所屬州縣軍前需用馬匹又大兵絡繹在在需資有支費而供億甚繁殊勞民力朕 念著將三十六年宣化府屬地土瘠秋禾全免其蠲免核撫俾民間均沾恩惠

四十四年三月內查核倉儲並摺奏雨澤預防蝗蝻

論

上諭戶部著直省查核倉儲以備賑濟並雨澤有無多少均摺奏聞且恐蝗蝻易生所在官吏宜各防預

日十二年三月十八日頒賜准黃告成親及回鑾大

朕為天下圖治凡國家之休戚與天下之休戚相注于天下之大

其幾南北用兵者不知其幾人心向背不能無有幾天變地震者不知其幾自黃京祿不能無有朕五旬與情朕切屢請加上尊號朕堅意固辭不允所請益朕不以名譽為尚惟以海內富

宣化縣志

卷之四 詔命志

十

慮心是以屢錫職役須約刑罰總欲使老安少成乃東南要務再授方舉望其善後朕不辭勞瘁心受艱難宜亦成歡欣驕仰是知民心若一益深慈念視切如保所以星夜回鑾特大沛宏恩普施恩惠凡民生咸登壽域和協滿堂區區所有應行事例則于後馬乎安民則惠宏使知康樂無給二年四月二十二日 欽此

四十四年頒鎮守宣化府等處總兵官勅

一萬米一石肉十斤九十以上者倍之三了歲者題名給與建坊銀兩欽此務使的沾恩惠

總兵官駐劄宣化府該管張家口張家口路萬全

營門房堡新河川堡萬全左衛城柴溝堡洗馬林
堡石路雲州堡赤城鎮安堡龍門所城廣昌城
路葛峪堡長安堡堡懷來路若山堡懷來城周
漢堡安堡四海冶堡等各營汛大小守備及守
軍等官俱照題定例制事例管轄兩項

申明紀律
城池治器械度地勢險
兵力團保各營額
一應本折糧餉
加乘秋毫無犯
兵民
相安不得借打草放馬為名騷擾農業如遇寇警
即被兵戮力勦捕不得觀望致誤軍機倘賊勢重
大會同巡撫發兵合勦務獲根株毋使滋蔓本省
倘有賊眾投誠察其真心向化即與安插如招撫事
節制千把總以下如有臨陣退縮殺良冒功乘此

宣化縣志

卷之四

詔命志

十五

節度使餉已者會同巡撫以軍法從事勦中開
載未盡事宜會同巡撫酌施行一應錢糧餉
民事俱係有司職掌不得干預文官違候糧餉及
聽臣賦情不報者兩移會巡撫指參從重治罪爾
定受並委任須持廉秉公彈力奮勇戮寇區區斯
稱厥職如或貪墨乖張因循怠忽縱殃殃民貽誤
封疆國憲其存
爾其慎之故論

役官之與曠職自古交讖乃今之
者又越以攬其奉
民至今感之宜

四十五年

月內豁免四十二三兩年未完逋賦諭

恩以爲開闢留餘之力直隸山東地方四十二

年偶遇災沴因特免山東四十三四年額賦並
四十四年額賦亦俱豁免今歲農年收穫民氣漸
舒而所有宿逋應納朕念黎元方有起色辦
空休養直隸自康熙四十一年至四十二年各
年正賦諭旨到日速行編曉諭有司漏征不與開
除明白者參劾
嚴加治罪特諭

論曰古聖人垂裳端拱與吏民形隔不啻萬里而遙
乃綸綍所昭天顏咫尺或則僉謀未協經年難決
者一語煌煌奉爲科律或則強臣悍將跋扈遐方
忽天使捧尺一詔威靈赫濯咸懾息無敢譁至堦
尺寸土傳之子孫拜一命之榮身名具顯者恩錫
光如日月他若君若臣傲望陛之上軫恤窮簷或
濫竭賑力避民命恩云渥矣典云重之嗚呼澳號
邀耶

宣化縣志

卷之四

詔命志

十五

者一語煌煌奉爲科律或則強臣悍將跋扈遐方
忽天使捧尺一詔威靈赫濯咸懾息無敢譁至堦
尺寸土傳之子孫拜一命之榮身名具顯者恩錫
光如日月他若君若臣傲望陛之上軫恤窮簷或
濫竭賑力避民命恩云渥矣典云重之嗚呼澳號
邀耶

宣化縣志卷之五

巡幸志

虞夏以來恐列侯曠厥職守爰為巡狩志民隱事

乃若宜居邊徼其歷來上履宸憂仰

以六師之張皇而關外攘之大計故翠華臨幸振

古已多非可以遊畧之為作巡幸志

黃帝有熊氏在涿鹿擊粥入寇自將逐出之

時帝巡幸至涿鹿位擊粥來故自將逐之後又幸

宣化縣志 卷之五 巡幸志

宣化縣志

卷之五

巡幸志

一

州境其自將逐寇當

虞帝舜以歲八月北狩

漢皇帝謂舜都濬即上谷地有遺跡司馬遷張

守節亦謂之蓋是狩每至此擊黃帝或北要之

都蒲坂為是茲以北狩載入者緣都濬則宜為畿

內巡幸乃所必及尋黃帝禹政故來北狩則五載

亦所必及也

漢武帝元封元年駕征匈奴自遼西歷北邊祠黃帝

橋山因出長城巡視迴歸甘泉

按橋山在今保安州境與鷓鴣山相壤上有黃帝廟如皇祠之遺經鷓鴣山地故祀之至秦時

帝元和三三年北巡狩出長城還省幽燕諸郡縣賜

唐太宗貞觀

年駕征突厥過鷓鴣山統志云太宗北伐至此

宋孝宗乾道二年

金主雍幸歸化 六年金主珣柳

理宗景定二年

元主忽必烈幸開平詔減免民差罷

宣化縣志

卷之五

巡幸志

二

守監諸軍因幸宣志

度宗咸淳三年元主幸鷓鴣山將獵于渾河馬蹶御

史大夫脫脫諫止

明文皇帝永樂八年春駕幸宣府因出塞大敗本雅

失里阿魯台等眾于幹灘河北師次燕然山勒銘

木及太平把禿孛羅等眾大敗之還勞將士

二十一年秋駕幸宣府因出塞官馬魯阿失帖

木及古納台等師次止莊王子也先土干領眾歸

順乃封為忠順王賜姓名全忠

宣帝宣德五年冬駕巡邊至宣府還

九年秋駕再巡邊幸宣府

宣帝正統十四年秋駕幸宣府伐虜本名統纂魯圍之遂奉帝北狩

師還土木俗訛稱此

景帝景泰元年秋帝至宣府因如京

敬帝宏治十五年魯寇宣府上謀幸宣府之

書劉大夏諫止

毅帝正德十二年八月駕出居庸幸宣府作行宮至

宣化縣志

卷之五 巡幸志

三

閏十二月還京終帝始罷

今上康熙七年冬 上將幸口外允科臣疏仍 諭停

止上諭吏兵二部欲于秋農隙講武之時一任

監學上能亦謀止

三十五年春 上率諸王暨八旗官兵躬討噶爾旦

按喀爾喀久為臣服外藩與噶爾旦無涉且主于

道經宣

三十五年九月 日 駕由京幸口外次日駐下花

門論見宣化一府錢次日駐宣化府文武紳士

按駕次日駐張家口

二月 日 駕回鑾次日駐張家口次日駐宣

化府次日駐保安州命庄頭隨駕圍獵時

九月至十二月二十日止共鑾輿六十輛每

費若

三十六年二月 日 駕由京幸口外次日駐下花

圍次日駐宣化府賜文武各官詩字有者

知府日 次日駐張家口口北道

五月十一日駕由張家口回鑾十二日駐宣化府

宣化縣志

卷之五 巡幸志

四

考射各官革獨石將署總兵印十三日駐下

花園選識路人引

三十八年九月 日 駕由板虎口回鑾

初九日駐宣化府次日駐下花園

三十九年五月 皇九阿哥由京出口二十三日駐

賜鳴朝二十四日駐宣化府

六月二十日 駕幸口外次日駐下花園

次日駐張家口 日由古北口

四十年六月 駕由京幸口外 日駐下花園初

五月廿三日宣化府初六日駐紮

九月由密雲

五月丙寅等侍衛等傳文沿途搭蓋

柴木席竿繩筋等項

傳沿途每車九十輛每車十匹馬共每站

四十四年九月初八日 駕由口外入張家口初九

按七月十二日

在口外

給發守道准給公捐銀五百兩幸

恩車輛盡免納費少寬云

宣化縣志

卷之五

巡幸志

五

論曰宣化內之遊豫四方

九代及盛威

華娛博封狼止在賢

川熊學士有日以馳聘

程苑園之日謀究道理

本朝奏議第一我

加宣付史館以垂示

宣化縣志

卷之五

巡幸志

六

皇上宸聽極聰納如

象緯志

供宗氏以星土辨九

正金湯之精其本在

實通理固然也為燕

尊融風雷之迅烈星

元宵

天方

漢史... 州 張守節曰... 野然順天河... 尾... 占尾... 之津燕分

尾... 占尾...

浮志自尾... 尾至斗... 度為析木

金史尾三度九十七分九十二秒外... 尾下

明一統志尾分野

尾... 辰在寅

尾於州為幽

尾於朝廷主后宮

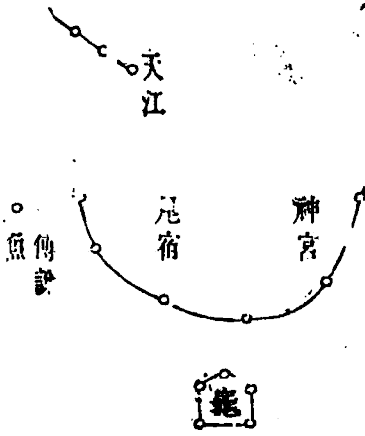
宣化縣志

卷之五 象緯志

七

占多主魯主兵

尾宿圖 附雜



竹丹

天歌

尾上四... 尾

尾上四... 尾... 尾東一星名傳說

傳說東... 一魚子... 龜... 一... 是神

行步天歌尾及諸... 座之名與形已具在是至其

... 占... 災變以... 冬月占月有災變以

... 占... 災變以... 冬月占月有災變以

... 占... 災變以... 冬月占月有災變以

... 占... 災變以... 冬月占月有災變以

宣化縣志

卷之五 象緯志

八

也

變... 占... 災變以... 冬月占月有災變以

周... 年冬十二月癸亥朔日食在尾

... 占... 災變以... 冬月占月有災變以

... 占... 災變以... 冬月占月有災變以

... 占... 災變以... 冬月占月有災變以

... 占... 災變以... 冬月占月有災變以

... 占... 災變以... 冬月占月有災變以

... 占... 災變以... 冬月占月有災變以

十二月六日寅辰小流星

象也流星走氣也後以變古

明帝永三年冬十月甲辰晦日食在尾十七度

才房五日王后壽命
後上谷有大水

順帝永和六年秋九月辛亥朔日食在尾十一度

繼嗣不繼之象

獻皇帝十三年冬十月丁亥日有彗

占日凶
在燕代

建安十二年冬十月癸未朔日食在尾

宣化縣志 卷之五 彙編志 九

占日仁義
不明主兵

後主延熙三年魏正始元年十月乙酉彗尾

一丈拂牽牛犯太白

主

平帝永康元年冬十月乙未日開黃霧四塞

其下常有拔
或星後謂亂

元帝永四年後趙四年冬二月辛卯日中有黑子

三時帝

穆帝永五年燕九厘冬十月日中有黑子大

如鳥卵

幼弱

永和十二年燕元豐五年冬十月癸巳朔日食在尾

燕元豐五年
燕元豐五年

升平三年燕光壽三年冬十月丙午日中有黑子大如鷄

燕光壽三年
燕光壽三年

孝武帝太元十八年燕元興八年春二月客星

九月乃滅

宣化縣志 卷之五 彙編志 十

占日地有喪兵
後慕容平應之

十六年燕元興四年夏四月掩歲星在尾

占日大機

陳文帝太建五年周建德元年冬十月壬子太白掩鎮星

在尾

星為女主
應在機宮

唐太宗貞觀二年二月並照

有三月並照
占此以爲常

元宗元寶六年秋八月五星

又亡夫

穆宗長慶二年二月丁亥月犯歲星在尾

占大臣

僖宗乾符二年夏五月丙戌有星孛于尾箕歷北斗

占

周太祖廣順元年契丹冬十一月辰星

占其地合有變
兼主饑饉疾疫

宣化縣志

卷之五

象緯志

七

宋真宗景德三年契丹和秋九月戊子太白見西

在尾

夏四月庚辰月食于尾冬

一月庚午水犯在尾十六度

占星成與太白合為
陰謀為兵憂在燕趙分

神宗熙寧元年契丹夏五月壬戌有星出尾東

占

兵喪

元皇四年契丹夏四月金子尾

哲宗元祐二年契丹春二月有星出心東如太

白彗九主尾南沒青白有彗亦明

占曰心為天王

氣自尾宿歷壁雙星宿止二月戊申夜白氣

自尾宿歷心房氏亢宿入天帝黃太

止

宣化縣志

卷之五

象緯志

七

占主兵火年
北流大入寇

元皇嘉泰三年金夏六月乙亥東

于尾宿青白色無芒彗大如漢甲子守尾

元皇嘉泰二十四年冬十月戊午朔日食在尾

事卯歲

占

事卯歲

占

申六白彗星辰星孛于尾

二十七年夏四月戊子月食

明... 宣化縣志

太宗天... 宣化縣志

六年... 宣化縣志

十五年... 宣化縣志

仁... 宣化縣志

宗正統九年冬十月丙寅朔日食在尾

宗安治七年夏五月宣府彗星隕

世宗嘉靖八年冬十月癸卯日食在尾

宣化縣志 卷之五 彗星

穆宗隆慶三年彗星出尾

宗萬曆四十四年七月宣府天鳴

宗天啓二年天鳴星隕

時蔚州有妖人乘德之變所聞星在理刑署庫

形... 宣化縣志

崇禎十一年夏四月己酉彗去月僅七八

寸至... 宣化縣志

順治

初度漸... 宣化縣志

康熙十五年... 彗星見西北

二十四... 宣化縣志

二十五年... 宣化縣志

十月十五日月食

二十七年夏四月朔日食既彗星見星

三月十六日月食 九月十六日月食七分

宣化縣志 卷之五 彗星

三十年二月初一日朔日食

三十一年正月初一日朔日食七分

三十三年五月十六日月食

三十六年閏二月朔日食

四十三... 宣化縣志

論曰人... 宣化縣志

察時... 宣化縣志

代... 宣化縣志

元... 宣化縣志

災祥志
災祥志
可多... 志子准以微湯者... 大而已

災祥志

明之三... 觀天五材辨... 氣以... 八物故夏... 董

欽問諸... 備攷... 聚驗得... 失說甚... 盤整而... 班固

亦祖述... 之... 訂取也... 宜... 三古... 以來... 災祥... 疊見

省驗... 滋多... 惟念... 邊警... 之應... 疾氣... 最苦... 者莫... 如司... 馬

晉氏... 因始... 自永... 熙為... 災祥... 志

晉惠帝... 永熙... 元年... 秋八... 月上... 谷地... 陷裂... 水泉... 湧出... 人

宣化縣志
卷之五
災祥志
五

有死者... 大饑

元熙四年... 二月上... 谷地震... 八月... 復震... 水出... 殺百... 餘

人
孝武帝... 寧康... 三年... 秦建... 元... 五

梁武帝... 天... 三年... 魏正... 若... 夏五... 月魏... 武川... 隕霜

魏武川... 隕霜

普通二年... 魏神... 夏四... 月魏... 上公... 郡入... 兩雪

唐元宗... 十三年... 秋八... 月北... 地... 星... 隕

憲宗元... 和... 二十... 年夏... 大雨... 無麥... 大

宋真宗... 大中... 五年... 十二月... 契丹... 奉... 聖

歸化州

五年... 金明... 夏... 歸化... 奉... 聖... 州... 大... 旱... 命... 侍... 臣... 補

雨

理... 示... 景... 二... 年... 元... 中... 秋... 七... 月... 元... 宣... 德... 府... 隕... 霜

三年... 元... 中... 八... 月... 元... 宣... 德... 府... 隕... 霜

元... 成... 宗... 元... 貞... 元... 年... 秋... 九... 月... 宣... 德... 大... 水

大... 德... 三... 年... 秋... 八... 月... 宣... 德... 雨... 雹

五... 年... 夏... 六... 月... 宣... 德... 奉... 聖... 大... 水

宣化縣志
卷之五
災祥志
六

英... 宗... 至... 治... 二... 年... 冬... 十... 一... 月... 宣... 德... 地... 屢... 震

文... 宗... 至... 順... 二... 年... 夏... 四... 月... 興... 和... 大... 雪

順... 帝... 至... 元... 元... 秋... 八... 月... 宣... 德... 地... 屢... 震

明... 高... 宗... 武... 三... 十... 二... 年... 秋... 八... 月... 地... 震

十... 八... 年... 夏... 六... 月... 大... 水

二... 十... 年... 秋... 有... 年

宣... 宗... 宣... 德... 二... 年... 夏... 六... 月... 大... 水

宣... 宗... 宣... 德... 二... 年... 夏... 六... 月... 大... 水

四年春三月官服之秋有年

英宗正統四年夏六月大水官服之

十四年春正月地震

四年夏大旱

五月積雪恒陰二月饑秋大有年

六年夏六月水

英宗天順八年五月五日大風飄瓦拔木

九年六月大水次年春饑

十二年秋七月黑骨兒

花縣志

卷之五

災祥志

七

其物黑小金剛尾體狀如犬行疾如風多自戶
竊入遇者輒昏迷驚擾或身而致傷人乃夜張

二十一年春正月星隕有聲秋八月大有年

孝宗安治二年夏大熱

八年六月大旱饑

八月地震

武宗正德十年秋九月地震

十六年大饑人相食

世宗嘉靖二十一年鎮城市樓災

三年夏四月地震

八年春二月鎮城御史行臺錄辦事監生書吏各

焚死一人

十五年七月地震闕六口鎮城大穴傷禾

十八年秋七月蝗

十九年春三月大旱

二十七年秋有年

二十七年春三月地震

盛志

卷之五

災祥志

六

二十四年春三月大饑人相食詔發帑金賑之

乃盡死自是雨暘百餘日廬垣多壞八月雨雹平

地深三尺未交一經

九年四月地震三次有聲

十三年秋七月

十八年春鎮城大風拔木

二十九年

三十四年 年

三十八年大疫

四十二年 湖

四十二年十一月地(辰)可辟如(辰)

四十二年三月鎮城大風盡晦如夜

四十二年九月地震

嘉慶天啓四年行入鎮城

震其聲如(辰)

乾隆保順元年夏旱(辰)為(辰)牙

九 縣志 卷之五 九

二年(辰)人相食 鎮城有狼

風書(辰)四(辰)年

十六年春疫 大旱 秋又大旱

清章(辰)順台(辰)年九月大(辰)

四(辰)月飛蝗蔽天

八(辰)月大(辰)雹

十四年九月(辰)

十六年春二月(辰)入鎮城 夏五月(辰)鎮城迅雷

風(辰)乃已(辰)振禾拔木

十七年(辰)地震 月不雨至夏五月(辰)燥

上康熙元年春三月(辰)地(辰) 夏五月大雨(辰)

人物

三(辰)月(辰)災

七年(辰)五月大旱 七月大雨七日夜城垣

房屋(辰)

十一年七月朔(辰)大風拔木大(辰)雹水深數尺

天(辰)

月初(辰)日(辰)城西北風暴作黃沙

卷之(辰) 九

地(辰)也(辰)

地震

十六年鎮城深(辰)有狼異傷人甚眾捕獲之

十八(辰)月地(辰)震 八月屢震

月至六月大旱 秋饑

二(辰)月鎮城(辰)燬(辰) 夏五月屢

風(辰)

二十五年五月(辰)大風盡(辰)刻(辰)星

閏六月(辰)泥神(辰)若汗 秋七月(辰)

二十四日見下 寺中梁繩頭致 乃去

二十九日 九月地震

秘饋

二月二十六日 味爽 夏五月

寒無麥 疫

霜火

二十四年七月

七日大風黃沙蔽空

三月二十七日入雪 縣火災屢見燬

二十九兩日

增其慈孝 以餉

一之風可以力致 瑞

六

勞心者食人勞力者食于人古今之理有然然
水旱火祲無時莫有卜之或則帝俄號寒或則流
亡離散又有老弱失獨雖年晝而束手待斃仁人
在上必念維慈是體天地好生之德父母鞠育之
恩也尸溺已修身之煌煌允宜垂慈千古為作恩

年令 租

文帝六年以部人入貢
時是部早詔毋貢并死山嶺之禁至十三年詔
日農下之本務莫大焉今動身從事而有租賦
之賦是謂本末無以
垂也其除田租毋賦

哀帝建元元年詔復郡

時上谷諸邊郡大水田苗各盡死
上民費不滿十萬百無出令
元帝初元元年各年賦
去見專為此也故聖之
十一年秋復租

主幸赤城親見長老同人疾苦復租一
幸 向百年訪賈復田租之半
永初三 郡租

魏主嗣幸承慶登極山使使爾黃帝至廣寧
登陸山使使爾爾凡所過郡邑俱
唐代宗大曆四年令邊郡王從輕輸稅

令大下每年稅錢上上戶四千文中上戶三千五
百上下戶三千中上戶二千五百中中戶二千
下戶一千五百下上戶一千下中七百下下戶
五百文見任官 同百姓例沿邊將士既緣防
禦勤勞並從 下等輸稅

晉高祖天福七年契丹嚴兵行傷禾之禁

方册主下 於 後 州兵
今日兵行有 賦者 兵

宣化縣志 卷之六 二

宋太宗太平興國 戶復歲

界山後南州給軍民力
田較多購 兵乃 復令

真宗咸平三年契丹 租

界丹王幸北燕州北燕民以年豐進
土產 吳 因 宿 惠 賦 復 租 一 年

孝宗軌道二年金命 除北邊賦稅

謂北邊州郡地廣人稀
三由歲什 處故 附根 深能 風旱
其新 畝 有 便 巧 用
力少而得 數多 邊民 便之

定十年 負

好多避而進負皆抑配見戶
免之已代納者給以恩

例或余池役仍減

元 延祐六年 歲租

春三月上都興和直德奉 昭復其 田租至
冬十二月諸府州貧民 歲路多 饑 又令有
司 故 金

順帝至正十四年詔復歲租

時大 上都所屬州郡大饑
民有父子相食 因復歲租

明高帝洪武二年 歲租

詔曰近者無都既平土地 疆宇 齊 有 其
人 被 兵 殘 困 於 徵 徵 尤 其 齊 之 民 七 子 等
友 新 附 地 可 將 洪 武 二 年 稅 亦 與 年
有 同 更 加 存 恤 思 復 歲 租 亦 與 年 賦 同 凡

宣化縣志 卷之六 三

有遺欠官錢者與
前代事理 行 律 伊

九年詔復歲租

召 各 省 府 悉 將 大 年 民 間 夏 秋 糧 盡 行 蠲 免
其 平 省 所 屬 方 已 免 洪 武 八 年 夏 秋 共 洪 武
九 年 夏 秋 稅 糧 照 各 省 府 行 蠲 免

十二年詔復歲租

謂 北 平 平 屬 地 方 大 不 雨 皆 有 司 差 役 不 均
有 傷 和 致 令 民 苦 特 有 政 使 見 行 取 同
其 北 平 所 屬 地 方 洪 武 十 二 年 夏 秋
秋 糧 盡 行 蠲 免 十 三 年 復 八 下 歲 租

正 一 年 詔 復 歲 租

令 者 屯 租 亦 有 餘 丁 多 亦 許 屯 種 是 年 釋 通 負

天順七年 詔通及

老行... 樹草有小... 樹欠未徵之數... 容商失... 引悉皆... 追

宏治十一年 詔... 傷五十

凡災傷處所及時委官... 秋失不得過九尺... 宛各... 小界沙... 等項... 稅... 負... 累... 戶... 賠... 納... 會... 經... 具... 奏... 活... 過... 巡... 按... 官... 查... 勘... 覈... 實... 除... 豁

宏治十七年 詔優恤貧民

宏治十七年以前各處莊田... 小民拖欠者悉與除... 務... 近... 來... 勢... 要... 之... 家... 以... 致... 貧... 苦... 六... 業... 者... 著... 令... 到... 日... 限... 一... 月... 以... 來... 退... 改... 正... 若... 係... 用... 價... 與... 者... 著... 令... 明... 白... 不... 在... 此... 例

宣化縣志

卷之六

恩恤志

四

正德五年 詔停查... 屯... 地

令各邊屯田錢糧... 歷年拖欠... 帶... 徵... 者... 悉... 皆... 停... 免... 待... 糧... 收... 年... 歲... 每... 季... 帶... 徵... 一... 次

九年 寬恤復業上

令各處... 逃... 移... 復... 業... 人... 戶... 該... 管... 官... 務... 須... 存... 恤... 仍... 免... 本... 戶... 該... 納... 稅... 糧... 一... 年... 雜... 泛... 差... 役... 三... 年... 糧... 食... 下... 戶... 仍... 量... 給... 牛... 具... 種... 子

嘉靖元年 詔... 恤... 災

各處抽分... 稅... 門... 俱... 有... 六... 額... 近... 年... 以... 凡... 抽... 派... 這... 路... 開... 津... 有... 引... 處... 所... 私... 自... 抽... 派... 無... 名... 抽... 派... 數... 多... 甚... 為... 害... 詔... 令... 行... 行... 禮... 地... 欠... 盡... 數... 歸... 免... 不... 許... 坐... 兌... 其... 各... 處... 稅... 糧... 地... 欠... 盡... 數... 歸... 免

六年 詔... 恤... 災

朝廷... 災... 傷... 覆... 行... 萬... 元... 但... 各... 該... 官... 司... 奏... 報... 藉... 避... 夏... 丁... 大... 災... 已... 經... 奏... 准... 免... 徵... 賦... 之... 計... 今... 夏... 丁... 大... 災... 已... 經... 奏... 准... 免... 徵... 賦... 之... 計... 今... 夏... 丁... 大... 災... 已... 經... 奏... 准... 免... 徵... 賦... 之... 計... 今...

隆慶二年 詔... 恤... 災

疏畧... 日... 上... 谷... 土... 地... 則... 山... 川... 蕪... 澤... 居... 十... 之... 七... 田... 野... 可... 任... 耕... 者... 止... 十... 三... 而... 蕪... 澤... 又... 居... 其... 二... 民... 多... 逃... 移... 失... 業... 冊... 籍... 無... 稽... 徒... 有... 籍... 籍... 非... 所... 以... 安... 邊... 民... 也... 見... 今... 蕪... 荒... 者... 尚... 欲... 勸... 之... 墾... 而... 免... 其... 徵... 賦... 之... 計... 今... 夏... 丁... 大... 災... 已... 經... 奏... 准... 免... 徵... 賦... 之... 計... 今...

萬曆二年 詔... 恤... 災

疏畧... 日... 上... 谷... 土... 地... 則... 山... 川... 蕪... 澤... 居... 十... 之... 七... 田... 野... 可... 任... 耕... 者... 止... 十... 三... 而... 蕪... 澤... 又... 居... 其... 二... 民... 多... 逃... 移... 失... 業... 冊... 籍... 無... 稽... 徒... 有... 籍... 籍... 非... 所... 以... 安... 邊... 民... 也... 見... 今... 蕪... 荒... 者... 尚... 欲... 勸... 之... 墾... 而... 免... 其... 徵... 賦... 之... 計... 今... 夏... 丁... 大... 災... 已... 經... 奏... 准... 免... 徵... 賦... 之... 計... 今...

九年 戶部題... 恤... 災

皇清世祖... 皇... 帝... 順... 治... 元... 年... 詔... 免... 糧... 三... 分... 之... 一

宣化縣志

卷之六

恩恤志

五

關稅宣府地土

八年免... 賦... 自... 五... 年

今... 一... 十... 詔... 通... 賦

詔內... 一... 款... 三... 直... 十... 六... 七... 年... 催... 項... 舊... 欠... 錢... 糧... 者... 照... 舊... 免... 十... 五... 年... 以... 前... 錢... 糧... 一... 體... 歸... 免

六年末... 撥... 地... 畝

直... 東... 道... 董... 秉... 忠... 詳... 稱... 東... 西... 二... 城... 存... 夏... 民... 食... 草... 根... 木... 芟... 途

十七... 命... 賜... 恤... 災

直... 東... 道... 董... 秉... 忠... 詳... 稱... 東... 西... 二... 城... 存... 夏... 民... 食... 草... 根... 木... 芟... 途

至秋冬根家不可復得近于二十餘日之間候外
 者不... 人... 每日亦... 口等
 皇... 議... 體...
 查有... 民每... 支倉糧... 二十
 其... 前... 左... 衙... 衙...
 賑... 賑... 賑... 賑... 賑... 賑... 賑... 賑... 賑... 賑...
 或不敷勸捐補之至各處饑民除目前賑濟之外
 其善後事宜容下酌議另 疏題請云云奉 旨
 該部... 議具奏

正月 允徵宣府前衛等五處併東西
 二城房稅
 該部議奏先是十五年頒至... 備架一年... 濟
 車需每門而房一間... 銀二... 方四錢十九年

宣化縣志 卷之六 恩恤志 六

夏四月蠲免宣府前衛等五處地丁錢糧六月
 命... 龍會... 部差葉倫來... 宣府前衛五
 處饑民
 共賑過大口饑... 四千四百二十八名小口九百
 一十一名共借... 倉米一千一百六十六石豆五
 石七... 楊... 捐

詔免徵宣戶加增錢糧
 詔... 十五年... 大... 自二十一年
 折色... 等會... 任官員及官戶
 不加... 三斗俟... 停止其餘民戶不徵

卷六原書缺第7面。

十一戶 免宣... 地城... 量
 十二月... 平定... 載有此款宣
 十一月八... 左... 右...
 賑... 賑... 賑... 賑... 賑... 賑... 賑... 賑... 賑... 賑...
 項錢糧又蒙發... 內... 三十萬兩交與撫臣星...
 塞外... 歷各處... 為補遺其分賑宣府在城等處
 饑民... 死... 縣知... 邵... 堯... 賑濟過饑民三萬口動
 川... 銀二千兩凡... 沿途
 賑... 賑... 賑... 賑... 賑... 賑... 賑... 賑... 賑... 賑...
 三十年 允重... 題定存貯... 米穀以存貯

宣化縣志 卷之六 恩恤志 八

直... 題定大中小... 存貯捐納米數
 四... 石之外餘米... 接時減價發糶
 秋收... 還倉
 十一月... 奉 旨蠲免宣化被災等處本
 年... 錢糧... 月... 又等四府
 通行蠲免
 宣化... 一十六... 地

九月... 二十八年... 徵完及... 十九年上

半年清查行御免

官分路

上諭三十六年宜州府之丁銀木全屬直隸于成龍疏題通州受補與宜民同災理應同歸戶都于三十一年七月奉旨依議其收補地畝俱在

四十年三月內上諭查核倉儲

無多寡具潛 癸丑 恐蝗蝻易生官

宣化縣志 卷之大 九

宜各防

按是年 備倉儲 稽查 嚴密 每 州縣 例 以 五 年 內 如 夜 捕 其 嚴 密 之 令 不 力 之 縣 降 三 級 留 任 其 典 史 革 職 處 分 已 有 例 民 牧 誠 宜 凜 凜

比年以 力朕親幸 深切 着 三十

六年宜州 屬地丁銀木全與都 行 民 間 均

宜無 題 裕 濟

未完題賦盡與免

查山 難代賠大物 有願 能免乎

宣化縣志 卷之大 十

明

毛乞

五兩六錢八分

銀

於在城廩庫或於各路屬

今上康熙十年

發倉糧賑濟

古

卷之六

恩慎志

十一

發倉糧賑濟蒙古

法

三月

運米救虎口賑濟蒙古

古

黎乃

古本

餘里

二十七

銀亦採買

附孤貧

賑治年間額定

食八十七名在養

十一

卷之六

恩慎志

十一

發倉糧賑濟蒙古

法

三月

運米救虎口賑濟蒙古

古

黎乃

古本

餘里

謂曰三... 用法用... 既無... 亦... 供不必另議... 不給省時補

助不... 餘... 耕九餘三... 保年

升... 盈... 年

則通乎貢額之... 矣且既屬民且多個種饑饉薦

至... 堪傷荷... 青黃不接能加賑濟則合乎補

矣或... 法或用社倉法俾民藏富以

待不時之急則無悖于餘一餘三之制矣若以

之... 移粟見晒孟氏遂拘牽王政迨井法立

卷之六 恩恤志 三

民... 朽曷若實心費政舉行近刻俾民果沾

惠澤亦拯救之良法也

九縣志

城呈志

攻之... 如... 燕... 城津詩歌... 他若

春秋... 城... 勝... 日

之防衛惟恃城... 乃老邊離重地城外有堡又或

有墩有臺屯營... 寨諸名於以烽火燧設瞭報為

六... 視度... 之化架為多前人棋置星羅之蹟

離離在望也為作城堡志

九... 德府

九縣志 卷之七 城堡志 一

洪武... 十七年展築方二十四里有奇南一關

四里 城門有七東曰定安西曰新南曰昌平

曰宣... 曰承安... 曰廣靈... 曰高遠... 永樂時止留

四門其宣德承... 高遠並室... 建城樓角樓四座

舖宇百七十二... 正統五年磚包其城厚四丈

五尺... 三... 磚... 二... 佳

堞崇七... 通... 二丈... 尺... 回瀾... 基之一... 二... 七... 尺

四門外各環建城... 城外... 又... 門設釣橋更

外又... 東... 高樓七... 崇

四丈... 五寸深四... 井深二丈五尺

五寸上置鼓角漏刻以司晷... 夜十二時之節

其唐二級有扁日鐘... 北扁日鐘... 隆慶二年

加修... 隆慶六年... 隆慶七年

城樓製四面塚

今上康熙十五年重

工部... 得直... 德... 稱宣府城垣... 日甚... 勸諭文武各官紳... 人民量輪修葺... 共估計工料... 銀八千四百二十一兩零... 照依五百兩修城之例... 鎮道各有加級

三十八年... 縣周德... 補修

宣化縣志 卷之七 城堡

六年... 縣陳垣... 請重修

雞鳴驛城

明成化八年... 登州七垣嘉靖四十二年仲秋敵詭

計鉤垣將城攻... 表隆慶四年二月內防守指揮王

懋賞監督起工... 包修完東南城二而五年修完

西北城二面大壇子高... 十丈... 牆五丈

城各二座更舊一十二間北... 中開玉皇閣一座

城各二座更舊一十二間北... 中開玉皇閣一座

冰井堡

正德二年... 指揮... 築... 請已未操守指揮

王漢修城高三丈五尺方三... 四十六步門樓三

角樓四

康熙三十八年... 知縣... 榮... 內修

合縣堡 共計

宋家莊 城西北十五里

牛平 城西北二十里

大倉蓋 城正北三十里

教堡 城正西三十里

宣化縣志 卷之七 城堡

小辛莊 城西北十五里

西旺山 城正北十五里

蔡家莊 城正北十五里

侯家小莊 城正北十五里

范家莊 城東北十五里

孟家密 城正北十五里

八里 城正北十五里

劉家密 城東北十五里

瓦密 城東北十五里

姚家莊 城西北四十里

寧遠站 城西北十五里

胡家寨 城正北十五里

大辛莊 城正北十五里

項家營 城正北十五里

雙廟堡 城正北十五里

李指揮莊 城正北十五里

南溝里 城東北十五里

城張莊 城正北十五里

四方 城正北十五里

二臺 城正北十五里

北家莊 城正北十五里

城正北十五里

城正北十五里

趙家莊	城十五里	左家營	城十五里
六堡子	城十五里	小湯水營	城十五里
宋家營	城十五里	賈家莊	城十五里
東李大人莊	城十五里	古城兒	城十五里
小吳營	城十五里	正南營	城十五里
柳溝里	城十五里	花兒梁	城十五里
張家莊	城十五里	白廟堡	城十五里
李家堡	城十五里	大楊家營	城十五里
宣化縣志	卷之七	龐家堡	城十五里
李家窩	城十五里	閔家山	城十五里
漫梁上	城十五里	小黃土坡	城十五里
顧家營	城十五里	小張家莊	城十五里
郝家莊	城十五里	方家莊	城十五里
周家溝	城十五里	一家莊	城十五里
徐家莊	城十五里	小李家	城十五里
		王羅莊	城十五里
		賈家莊	城十五里

孫家莊	城十五里	定坊水	城十五里
城家營	城十五里	下花	城十五里
奚家莊	城十五里	武家莊	城十五里
常家莊	城十五里	家莊	城十五里
劉召山	城十五里	大小填口	城十五里
牛心山	城十五里	觀音堂	城十五里
李家梁	城十五里	燒坡里	城十五里
李家窩	城十五里	趙官梁	城十五里
宣化縣志	卷之七	雞鳴驛	城十五里
二家屯	城十五里	申家屯	城十五里
姜家屯	城十五里	良戶莊	城十五里
鼓手營	城十五里	窑子頭	城十五里
羊圈溝	城十五里	吳家溝	城十五里
滴水崖	城十五里	王千戶莊	城十五里
背坡里	城十五里	峯村	城十五里
京四溝	城十五里	水泉	城十五里
石塘	城十五里	西四	城十五里
		小西莊	城十五里

党家海城十五里南	謝家梁城西南五十里	下榆小城西西南四十里	馬圍邑城西	地堡城西南	牛槽窠城西南六十里	穆家梁城西南三十里	楊方里城西南十五里	頭台子城西南八里	東嶧村城西南三十里	南乾莊城西南十五里	鄧家台城西南八里	楊家山城西南六十里	韓家坡城西南十五里	南李大人莊城西南七十里	上榆林城西南五十里	党家海城十五里南			
宣化縣志	卷之七	城堡志	六	立石里城西南四十里	青山兒城西南四十里	姚家坡城西南十五里	海子溝城西南十五里	柴家莊城西南十五里	羅家城西南七十里	梁家城西南十五里	南姚家莊城西南七十里	單家城西南十五里	陳家溝城西南十五里	上李家莊城西南十五里	馬舖里城西南十五里	谷峪口城西南十五里	嶧村城西南三十里	嶧村城西南三十里	宣化縣志

辛莊城西南三十里	站家莊城西南十五里	水磨城西南八十里	大莊城西南	朝陽溝城西南四十里	栢樹窠城西南三十里	孫家坪城西南四十里	侯家梁城西南三十里	長嘴里城西南六十里	東孫家梁城西南三十里	西孫家梁城西南五十里	殷家溝城西南二十里	小井頭城西南二十里	江魚灣城西南	狐子溝城西南十五里	宣化縣志	卷之七	城堡志	七	西潤里城西南四十里	劉家梁城西南三十里	紅沙坡城西南五十里	元駝里城西南二十里	邱林台城西南二十里	李寨城西南二十里	宋家城西南二十里	趙家莊城西南二十里	麻地溝城西南二十里	水長梁城西南二十里	南榆林城西南八十里	水谷村城西南九十里	平坊寺城西南	劉家溝城西南三十里	東潤里城西南三十里	九家灣城西南六十里
----------	-----------	----------	-------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	--------	-----------	------	-----	-----	---	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	--------	-----------	-----------	-----------

河家晏	城四十里北	梅家營	城四十里北
小倉蓋	城三十里北	北保家莊	城二十里北
榆林	城三十里北	東榆林	城二十里北
老鴉莊	城五十里西	柳樹屯	城五十里西
高廟堡	城五十里西	高家屯	城五十里西
閻家屯	城五十里西	膠泥灣	城三十里西
西保家莊	城四十里西	阿南堡	城三十里西
三坑塔莊	城二十里西	辛家莊	城十五里西
宣化縣志	卷之七 城堡志	十	
小溝	城二十里南	秤達溝	城三十里南
海兒窠	城四十里南	舊羅家窠	城五十里南
新羅家窠	城五十里南	龍洞屯	城六十里南
周家溝	城十五里南	麻子溝	城六十里南
北大地	城十五里南	北新莊	城十五里南
大溝莊	城六十里南	圪坨莊	城七十里南
史家窠	城六十里南	漾口莊	城八十里南
將李莊	城八十里南	石家莊	城八十里南

黃花窠	城七十里西南	回回莊	城七十里西南
老君關	城十五里西南	邢家梁	城十五里西南
道家山	城八十里西南	東羊城	城十五里西南
晉家泉	城十五里西南	史家溝	城八十里西南
大沙河	城九十里西南	王家灣	城十五里西南
栗家灣	城八十里西南	李家灣	城十二里西南
謝家灣	城十五里西南	蔡橫兒	城十五里西南
李家山	城二十里西南	李家溝	城四十里西南
宣化縣志	卷之七 城堡志	十一	
系家山	城百二十里西南	壽家寺	城百四十里西南
碾兒溝	城百四十里西南	南流水	城百四十里西南
石窠水	城百六十里西南	瓦窠溝	城百二十里西南
毛家坨	城百五十里西南	焦家溝	城百五十里西南
邢夾里	城百五十里西南	紅寺兒	城八十里西南
王家坪	城百五十里西南	王家書	城百五十里西南
武家溝	城百五十里西南	和家平	城百二十里西南
蒲桃灣	城百三十里西南	羊家窠	城百三十里西南

下井溝	城正南九十里	趙家莊	城正南一百里
元兌里	城正南一百二十里	歪頭山	城正南一百二十里
石字里	城正南一百里	蘆家莊	城正南一百五十里
范家坡	城正南一百里	李家堡	城正南一百里
呂家灣	城正南一百一十里	朱家玉	城正南一百三十里
板甫里	城正南一百一十里	羊樹底	城正南一百二十里
三白梁	城正南一百一十里	大石頭	城正南一百二十里
宣化縣志	卷之七 城堡志	趙家朋	城正南一百二十里
尖家莊	城正南一百二十里	附墩臺	城正南七十五里
李家圪塔	城正南七十五里	鎮城腹裏墩臺	十三座
附墩臺		深井堡接火墩	一十七座
			又云大路墩五十二座
			附橋
			惠橋 在城南洋河 康熙二十六年 恩王果
			橋人便之 四十五年 漢北河 橋廢 康熙四
			十四年 口北道李公發 甲倡修 于西易以木橋
			泥河橋 在城東南十五里 順治十五年 奏議 安世 鼎建

清水河橋	在城西門外 康熙二十二年 總帥問可 幾浸城 輿徒皆不能 行 至是完固如舊
北門外橋	毀於順治十二年 每值雨水 暴漲 水入 橋下 東流
南關內橋	名符 勝橋
外橋	
東門外橋	
安家臺橋	在城七十 三十里 要路 處東西 高中下 遇 局深 井人 故山 運 撫張 鳳儀 往省 其父 目擊 小勢 捐資 以建
宣化縣志	卷之七 城堡志
普渡橋	在城東二十里 地名深溝 明嘉靖丁未年 重建 康熙 已歷 百三十餘年 居人 武定 國 上諸 橋皆 係巨 垂虹 通衢 梁構 或歷 數十年 或 歷百 餘年 輪蹄 釋而 屹立 常存 外有 小橋 錯互 建于 城內 多為 沙土 湮沒 亦或 石砌 穹窿 城可 指 數附 載
廣靈橋	在城 北門
安定橋	在城 東
平橋	在城 南門
大新橋	在城 西門
桂林坊橋	在城 西門 萬曆三十 六年 巡撫 進德 橋

虎溪橋 在彌陀寺山門前

東巷口橋 在鐘樓北之朝天觀東

下巷口橋 在鐘樓西之舊後府處

鼓手橋 在關前

皇城大橋 在草場街東

小橋 在大橋北

丁字橋 在小橋北

東巷橋 在丁字橋北首座寺前

草場西橋 在玉王廟之北

西巷口橋 在書院西

城隍廟前橋

真武廟前橋

團營橋

道署西橋

亦脚堂前橋

卞家巷口橋

油店街東橋

盧家灣橋

宣化縣志

卷之七 城堡志

六

三教寺東橋

附堤堰

河南堤 順治十一年三月而決河泛致漫沒田畝

柳

清河北壩 先有石壩數十丈上附以柳所以防清

外可以渡川內可以引入城灌蔬畦遇有圯壞則

後官軍修築有萬歷間薛大中丞觀壩詩可考嗣

方設同知陳經請於守道蔡典周捐修完固至

康熙四十四年六月縣陳坦相視原堤役入河心曰

復決四十四年六月縣陳坦相視原堤役入河心曰

水責順性若干突處堵截作障是空挪金錢于

狂瀾也因白道南讓河岸又有餘另修藤篾堤

十丈石工堤十八年藤篾就朽復復加葺云

得無恙四十八年藤篾就朽復復加葺云

西南兩郊各稍異者多引泥河要皆民自開濬不

過控官俞允隨征糧耳乃民多私據

隣壤不得分沾又未若官濬為利溥也

雞鳴堡惠民洞 世開年幸晉李兵憲張經

波所以收水利免水患也宜化各村堡有溝有渠

及引者多免患更復修濬深井堡堤區一區四

通河行中處實地每至夏秋有海子望等區人

附湖

有湖地 方也

宣化縣志

卷之七 城堡志

七

南湖 郡城東南隅有水一區人呼為水滸沱邑人
鄉賢張國柱贊其於右因三面臨水說環溪
閣 本朝剛總鎮任始興後胡東曉修志因泮
泮名 俗謂園內有樹三片湖一片別之句遂改
湖云

論曰吾十室之城望墩蓋諸公而有感於刑人劫東

既先生之言也東既云修築所以自衛亦所以自
困所以保民亦所以病民明自隆萬以來保障之
功責之邊臣邊臣以功名之心加以督責遂舊工
未畢新工已議修未完後修復繼致財匱人疲
良可憫也又云墩堡苟完無益之虛堡不必設墩

宣化縣志

卷之七 城堡志

六

臺苟足無益之空臺不必加惟訓練士馬廣積芻
糧與民休息譬之人身元氣既固飲食自強雖有
小風邪不能侵乎善乎東既此論吾無以易之矣

宣化縣志卷之八

營建志

一者上巢下窟民無安足之棟宇有作締造漸興
于是雖正宮室寥寥在室宇亦有臺榭備有庫遊
觀偃息有亭有榭息宸旅標法式有郵戶有坊未
工役繁滋皆有記于國計宣自有明以前湮廢無
蹤惟明猶存亡殆半今紀載始于有明以及
本朝一以昭典革 以便修葺也為作營建志

府署

宣化縣志

卷之八 營建志

一

谷王府 洪武年建
正德十二年廢垣

鎮國府 正德十二年建即行宮
嘉靖初折舊官民家

樂堂 正德十二年建武皇
之駐贊御者今廢

總督府 正統九年武定侯郭玘建為總兵聽政所
名帥府嘉靖時居總督廟治三年折毀

巡撫都察院 成化十九年都御史秦敏以舊
改建 本府舊官後為廢署今於康熙

三十二年重
修

鎮府 總步公衝制去正統
內年嘉靖三十五年修

巡撫察院 宣德五年建嘉靖二年重修 本朝康熙
初年萬全司移治于此及裁都司在城

同知又移治
于此今廢

戶部行司

宣德年建在總儲坊初以山東奉政游事
名管糧道後置戶部郎中因易北名宏治
十五年郎中姚新立建後因焚糧儲戶
部廢為團駐今給武廟正持為香火

副總兵府

本朝順治十六年設

分守

奉命巡邊以宣府為重地請設布
政一員分守帶山西遂者為今使口北道
駐此康熙乙巳年監司桐城方端士于
建一閣又更放六方向且內有邪祟居人
公不祿嗣後俞錫趙之樓西又相繼捐
衛軍毀之今移置四牌樓西
王總鎮宅作為衙署廢

分巡臬司

宏治五年建初成化間尚書余于俊督理
邊務委山西副使俞事各一員辦事至嘉
靖時設專官作云署按前此副使李惟聰
衛山東大約伊時制尚未定故名為兵備
又或名

宣化縣志

卷之八

二

屯田正德後始為額設
相傳分守道駐此今廢

河間行司

萬曆十年建以居刑官在今槐樓之東
後刑官移居槐樓遂以行司為空署康熙
二年前衛守備治焉康熙三十二年改衛為
縣即作縣治康熙三十五年知縣周德榮重修

真定行司

明在城軍儲分理于隆慶保安二州判宏
治未以重權輕奏增輿輔通判八員分
五路理之在城則屬真定府判因建茲
本朝在城同知居之今右營遊擊寓此

舊遊擊署

成化年設在鐘樓西

兩營遊擊署

改為

新遊擊署

正德五年增添兵一營設
遊擊作公署於馬學南今廢

刑部行司

明制凡畿內地步遺刑部屬官一員會同
巡按御史審錄囚犯宏治八年則建行司

于察院之
東今廢

戶部官廳

戶部時道官屬運解官用宏治八年因
官廳于戶部行司之東嘉靖三十六年
折

萬全都指揮使司

建在麻
鐘樓之宏治二

宣府前衛指揮司

十五年建今廢

宣府左衛指揮司

元觀西宣德
三年建今廢

宣府右衛指揮司

崇禎二年更以鑄錢今廢

興和守禦所

崇禎二年更以鑄錢今廢

河南都指揮行司

明制歲遣河南都指揮二員春秋
領班軍四千餘名番戍本鎮宏治
三年因作行司嘉靖三十三年春
萬卒逃回都御史劉廷臣因折毀之

萬全都司

署任鎮西久廢

懷隆道行署

順治初年廢

赤城道行署

順治年

皇清公署

在大街四牌樓西康熙十二年
公守道新署在大街四牌樓西康熙十二年
十年

知府署

見前

知縣署

係明河間行司旋駐理刑
廳又為前衛治詳已見前

典史署 缺

儒學署

總署 即舊署

左營遊擊署

右營遊擊署 即在城 祠知署

倉庫

萬億庫 正統六年建于鐘樓側去治十三年即中姚府撤修今廢尚有遺房舊跡

神鎗庫 鐘樓西北

宣德倉 城長開洪武二

宣化縣志

卷之八 營建志

四

宣政倉 鐘樓東永樂二

宣化倉 城乾開宣

行荒倉 在各衛所為俱

清倉庫

北道庫 順治十三年建

在城庫 前誌縣庫在真北分司

宣府前衛庫 舊前衛治以錢征無收也國朝初

宣政倉 在鐘樓東即永樂二年所建前縣令周德榮

宣政倉 于康熙三十九四十年補修凡厥一十九

庄

宣化驛 永樂十八年定于南關去治六年改建嘉靖

去把總知縣帶管驛道

雞鳴驛 縣另設驛丞管理

深井驛 前隸東城今屬宣化城屬三十三年改

寧遠站 今隸為

草場

東草場 廣靈門內永樂元年建

西草場 宣府右衛後永樂三年

宣化縣志

卷之八 營建志

五

廠局

錢局 在書院東前制甚宏後廢

兵車廠 河南營北

軍器局 一在都司內一在真忠

造作軍器局 一屬前衛一屬左衛一屬右衛

造作大藥局 成化年書在兵車廠

演習所 在左營遊擊衛西

樓臺

鎮朔樓 正統庚申都御史羅亨信建五昌平廣靈門

臺級巖登見亭

清遠樓 成化壬寅都御史秦紱建直隸平廣重定安

者耕榜 種法詔勒石于遠四全今存

將臺 洪熙初築去昌平門里許上有演武廳嘉靖已

護城臺 景泰辛未築在城外艮隅同時于城東西十

鎮虛臺 廣靈門外里許嘉靖己丑築甃高四丈有奇戶部郎中程旦有記今存

宣化縣志

卷之八 營建志

六

城西北隅護城臺 崇禎五年築今圮

來紫閣 在撫院前崇禎十一年建

麒麟閣 在察院前崇禎八年建

文星閣 在城外東南隅崇禎十二年監何公建

奎星閣 在文廟東北萬歷二十六年建康熙二十六年

進士選知吉士 為之兆焉

玉皇閣 在城河南街其畧如鐘樓其下洞穴四

則永安門今水門北巨五款碑林又北則高遠

門萬歷四十五年建

藥王閣 在城北烈二里小廟歷四十六年赤脚僧明秀建閣高三丈

官店

仁店

禮店

信店

院

養濟院

館舖

宜化縣志

卷之八 營建志

七

柔遠館 昌平門東里許承樂年建待修賈魯使

霖字暖舖 城東南五十里

百字暖舖 城東南四十里

思字暖舖 城東南三十里

賢字暖舖 城東南十五里

佐字暖舖 城西南二十里

清子館

接官亭 城西門外清水河

坊表

南省春奎

上總秋薦

以上二坊係嘉靖己未巡按御史樂尚約查得本城鄉會進士中之無坊建此座于二谷書院左

其名

四備坊

王瑗 喬揚 楊輝 以上俱武職

武科得備坊

司傑 將胃名科坊張

武闈名彥

劉楫 會武坊亦御史尚約總建于武廟之前

孝行坊

何文玘 趙弼

貞烈坊

軍餘李鎮妻雷氏 軍人賀榮妻韋氏 張氏 郭氏 俱係陣亡

貞節坊

監生褚佐妻陳氏 子戶朱麟妻李氏 百戶霍文妻陳氏 舍人李清妻袁氏

宣化縣志

卷之八 營建志

十

冠帶總旗張鉞妻門氏 趙遜妻閻氏 舍人趙昇妻李氏 軍人武銘妻李氏

補遺

城隍廟前坊 曰都流 神祠

文廟西坊 曰桂 林

武廟前坊

曰武 馬神廟坊 曰靈司 廟

關帝廟坊

曰萬古 總鎮府坊 左曰附步 於昭古 右曰威嚴

都察院坊

左曰綬 右曰典司 外

貞節坊

在草市西 姓門 湖生員 魁妻楊氏 歷年 旨建

帥府坊

左曰為憲 右曰屏其 為憲坊後移分守道署西

書院前坊

曰文武為憲 為二谷書院其東一坊列 文鄉會試 夕第其西一坊列武鄉會

試中式名第自明萬 桂林坊之上乃易東 黃門都諫坊 兵科都給 事王致祥

二大崇塔坊 王致祥 聖不直臣坊 太常 少 以霜臺坊 御史 又至士坊 郭志

黃門都諫坊

兵科都給 事王致祥

二大崇塔坊 王致祥

聖不直臣坊

太常 少

以霜臺坊 御史

進士坊

兵部 土事 胡載道

又至士坊 郭志

南儀節孝坊

潘士奇 妻郭氏

旌節坊 在大街鼓樓南 西張鉞妻門氏坊

守道新署坊

左曰張綱 右曰肅紀

兩河節鉞坊 閩典邦

三朝大帥坊

元董一奎

六鎮雄藩坊 都督董一 元董一奎

兄弟父子都督坊

四世一品坊

三世官保坊 以上三坊 武職都督董 一元董一奎 董用文

宣化縣志

卷之八 營建志

十一

兩京樞府坊

黃明 臣

大節貞忠坊 黑雲 龍

提督元戎坊

都督 盧柱

四世忠節坊 滿 桂

父子都督坊

盧居智 盧抱忠

進士坊 王天鏗 陝西 分守兵備道

安烈女坊

在察院東巷口之北 康熙二十七年建

附碑記

督學董訥德政碑

老木 陶可權遺愛碑

口七道常明楊去思碑

口七道周士賢去思碑

知府范時崇去思碑

口府申時貴去思碑

口北道楊維喬望淚碑

三賢祠棠蔭碑

六賢祠德政碑

知縣周德榮遺愛碑

衛守備嚴宏德政碑

兵何拜音達禮去思碑

遊屠虎德政碑

巡按陳偉禁車官價行

並嚴禁差役害民二碑

奉 肯宣化永食黍鹽定界碑

口北道李如桂詳允永革米稅碑

口北道李發甲開除六堡法

文題名碑

武題名碑

宣化縣志

卷之八 營建志

十一

撫院題名碑

巡按題名碑

各廟建修碑

奉文刊刻交河縣許允永革橫征碑

口北道徐元珙去思碑

口北道潘超先去思碑

附古蹟

李陵臺

鎮唐志云元以雲中為邊郡有燕然山山在饒道

李陵臺

蓋陵不歸山以望漢者後人緣此遂以

都督府

故總綱雲中若繁于大同不可茲按狼

山在今懷來西去宣

色然山不遠唐地志既云

燕然自宣載入此臺

雞鳴古橋

雞鳴山右側羊可左岸石柱七十有五系

之元虞集云漢太守王欲作橋

契丹國歸化行宮

今同初

涼殿

契丹主賢納涼之所

上花園

城東四十里蕭

下花園

亦蕭后置

永安宮

在歸化州北金

蘇蘇

故凡類花園者繁不可畧也

宣化縣志

卷之八 營建志

十三

三槐亭

在縣署之後今廢明季宣撫張

論曰宣人在明時城堡墩臺築怨築愁而又公署行

司宅第坊表諸凡土木加侈前代其為罷財用竭

年數力役告哀良可憫矣詎其後兵燹所經頹廢

為多且有民居蕩然無力修復墜為園畦致以隱

糧受累幸蒙 睿 屏 獨 粉 口 為 業

宣化縣志卷之九

賦役志

邑之戶口田賦上世兵燹及經冊籍不詳至明多係官軍之舍人餘民言幾若糧分衛所有屯

田團種驛傳公務等名我

朝革去世官軍丁才身之外悉皆齊民編審定為三等

九則徭役最均近又改衛為縣頒以賦役全書及

易知由單一切雜項歸併丁使編戶完納其頭

緒免龐雜矣為作賦役志

宣化縣志

卷之九 賦役志

丁考

唐虞夏商周秦漢魏晉

宣化戶口皆無分數確據

晉拓跋魏

東燕州領三郡宣化戶口亦無分數

隋唐

武州戶口史亦無宣化無確據

晉契丹國歸化州文德縣一萬德州宣德縣戶二

千宣德縣在今縣城之西壤又兵衛丁文德縣丁二萬宣德縣

丁六千

宋金國宣德州所屬宣德縣二縣戶共三萬二千

一百四十七

按宣平堡今張家口堡契丹分歸化州置為縣其戶口亦兩縣言化分數確據

元上都路之宣德府宣德縣

戶口亦無分數惟上都路總數戶四萬一千六百三十一萬一千九百九十一

明萬全都指揮司宣府前衛官戶九百三軍戶九

八百一屯丁二千二百左衛官戶二百九軍戶

八百一屯丁二千二百右衛官戶二百軍戶一千二百屯丁一千二百

宣化縣志

卷之九 賦役志

五十軍戶三千八百屯丁一千一百興和

所官戶九軍戶一千屯丁三百八十一所皆係附郭其戶口之數故並載

之然此數亦惟嘉靖時如此

皇清萬全都司原領丁四百三十一康熙七年裁併

百八十七康熙十年丁七千八百三十三都司歸併丁四百六十二共丁八千二百九十三

深井堡原領丁一百十康熙十年丁二百二十

二年以前皆係備管糧與自為一處故丁亦

六百五十二以三等九兩不等共徵銀一千九百

八十四兩六錢外深井堡實在行差人丁二百編審實在行差丁八千六百五十二徵銀實數可

上深井堡實在行送人丁二百四十九共徵銀
 四十一兩二錢 按順治八年額定五年糧清之
 今分為三等九則三等上中下也九則者上戶
 分上中下中戶分上中下下戶分上中下也其徵
 則上上戶銀八錢上中戶銀八錢以下至下
 下戶止銀一錢又優免則列自進士以至舉貢
 生員止免半身一丁即本身免止免雜辦不得
 免正賦至親戚更不在此限
 本官及親戚等議弄

糧考

夏禹平水土定冀州賦

禹貢冀州厥土白壤
田惟中中厥賦上上

商湯定田制用助法

宣化縣志

卷之九 賦役志

三

始為井田之制

周成王酌夏商定制兼用貢力名徹

鄉遂用貢法 都鄙用助法

秦始皇帝三十一年令邊郡黔首自實田

見稅十五按通典曰秦舍地而稅人地數未盈其稅必備

漢高帝五年令有司勸山和

田租十五稅一

武帝征和四年教邊郡代田法

帝是時海征伐之事致民匱乏乃欲富民以趙過為搜粟都尉教民為代田

光武建武十五年詔郡吏檢覆墾田

先是令州郡收見田租三十而稅一至是又以州郡墾田多不以實乃下州郡檢覆

章帝建初三年詔吏用上產為賦

時邊郡谷賈給用不足尚書以林上言谷所以計山錢賤故池可盡計多一而阜土產為租以通

用從之

齊武帝二年魏定土賦

今上谷廣密以麻布充稅

陳後主至德元年隋與中日

突厥犯塞轉輸勞弊令幽燕長城以北大興屯田歲終課其所入論邊使殿最

宣化縣志

卷之九 賦役志

四

唐高祖武德七年詔置營田

今開軍府以扞要衝因隙地置營田收多者喪進歲冬籍來歲項以量其地會計之

太宗貞觀八年令州府歲市土所出為貢

窮州貢樵皮胡麻甲榆檮矢麝香安邊郡貢熊羆豹尾林實武新一州貢材尾鹿角膠儒州貢栗

按唐制土貢其價視絹之上下無過五十匹有加配則以代租賦

元宗開元十六年詔以土財名軍

凡庸調和資課任土宜其北燕桑少以菽麥供關中尋以河北為等處係邊地勿令土賦

造點涉使按比墾田徵

宋仁宗景祐四年契丹募民墾田

契丹主見灤河曠野肥沃募民耕墾十年於後
初令公田不輸稅賦開田計畝出粟以賦公上
後又詔山後末納稅戶
許自占田業以入稅云

景元六年金弛園禁令為田

先是禁使耕園地至是上詔侍臣曰往歲清暑
山後徭路皆木稼其下令使民五里外
乃得耕墾今聞其民以此去之他所
甚可矜憫其令依舊種毋致失業

淳熙七年金令有司括荒地

金主諭有司曰白石門至野狐嶺其間浹瀼多有
為民耕植者而官民有勃往來無收放之所可差
官括元荒地及胃佃家亦奪之是年大興
府平樂通等州大水免租惟山後熱命治懷來
道以來繼者
民被極無死

宣化縣志

卷之九 賦役志

五

明洪武八年詔勸農桑

詔曰朕嘗設置官司頒降條章使敦篤教化務欲
致民豐足食其令有無田桑學校者論
以違制降罰民有不奉天
時而負地利者如律究焉

十八年詔興屯田

大學士宋誦奏畧曰今海內久安蠶桑奉貢惟沙
漠未遵聲教若弗治恐歲久滋患陛下為萬世計
莫若善備邊備邊之道在於屯田今隨其遠
近高下分屯所須兵糧酌量田於塞下耕作
訓練遇賊則戰去則務長久安
之策也上納言是年復租

永樂元年詔墾荒田

令各處衛所屯田若官員軍餘家人自願耕種者
不拘頃畝任其開墾子粒內收官府不計比稅

各處拋荒田土除有人佃墾納糧外其無人佃種
荒田所司取勘明白開除稅糧免致拋荒損民
六年秋復申衛所墾田之
戶部行令畿內衛所屯原拋荒及空閒地
土不拘上客官軍民力開墾永不起科

八年令所司領官軍屯種歲冬課績

勅諭曰軍與民皆朕赤子要使其都得豐衣足食
共享太平軍士都着耕種自食若只教百姓供給
軍士安坐食用百姓轉見艱難軍士轉見驕惰兩
下都不便當可專委官管領為賞罰則例年終赴
京比
較

二十二年令鎮兵番閱方自無廢屯田

上從英國公張輔兵部尚書李慶之請領直隸諸
衛并萬全都司官軍更番於京師操備因諭之曰

宣化縣志

卷之九 賦役志

六

古者務農講武皆有定期故雨不偏廢今立畧
做此意令軍農事後來先農事遺歸庶為得之

洪熙元年令邊軍專力屯田

上諭戶部尚書夏元吉曰先帝立屯田之法甚善
蓋用心亦至但後來所司征撥失時儲蓄不及其
令沿邊衛所凡屯田軍士自今
不許擅差妨其農務違者罪之

宣德六年詔墾荒田

凡近京地方比照武定州山東河南事
例民間新開荒田才畝多寡不起科

正統四年詔墾荒田

今宣府沿邊空閒之處官軍戶下人
丁儘力耕種免納子粒是年釋道員

成化二年詔興營田

巡撫都御史葉盛奏請內帑金五百兩并贖贖之積市牛千餘犍戍卒不任職者課之耕歲收餘糧為買馬勞功之費省轉輸甚巨

二十二年始賦墾

總督尚書余子俊令慶陽府知郭智檢校宜領墾田凡一萬三千一百餘畝每畝賦糧三升得糧三萬二千一百石草一萬七千六百束至是民田悉賦矣

宏治元年詔覈屯糧

各邊空閒田地曾經踏勘丈量造冊在部為屯田徵納子粒者後又改將子粒為買補官馬花費戶部行令改正有賂納者勸除豁是年復歲租

嘉靖十二年詔禁欺隱田租之弊

宣化縣志

卷之九 賦役志

七

積年吏胥受賄將稅糧酒派藏影射弊端不一小民虛賠糧米致累家產今後擬按官務要嚴加禁治許諸人首告問發充軍其財產追出給

十五年詔墾荒田

各邊荒地小民豈無願開墾耕種者多因官吏旗甲逼其認糧當差不敢承當官司即便曉諭但係久荒田地許諸人首承種免差徭三年

萬歷年間地畝數

鎮屯屯田等地共 萬二千一十七頃三十二畝零
本色糧一萬八千三百一十九石四斗六升折色
銀四千五百七十六兩四錢零

皇清世祖章皇帝順治十一年與屯田

時直省及各邊鎮皆令屯田設有與屯道及屯田同知之官皆於地方見任官內督撫就近題補以事屯

刊易知由與給民

定例由單十一月初一日頒發直隸限十二月終到部如遲報一月至八月以上者罰俸降調有差若由單報部之後或增減改寫或將應徵錢糧款項不行填入新墾地畝錢糧款項不行填入或將不應徵之錢糧錯入由單或將由單割補者及刊刻模糊或字樣外錯遺濫用印者罰俸有差此宣鎮由單之始

十四年招民墾田

宣化縣志

卷之九 賦役志

八

各處屯田與荒地皆令有司開墾能與屯官

十五年詔錄用墾田人民

詔內一畝云凡各處屯田荒地已行歸併有司即照三年起科廣行招墾有殷實人戶能墾至二千畝以上者照遠陽招民事例量為錄用

今至康熙二年頒至更定在解各項錢糧名色皆為地

丁

巡撫都院憲票准戶部查種凡內外催提征解糧俱解為地丁錢糧名色至於易知由單內止開地丁銀米各若干頒發民間其餘別項名色一藥停止至于康熙二年以前歷年錢糧文冊俱在各該部寺仍令各部寺料理完結自康熙三年起外省兵餉每年正月全撥解剩全解戶部等因

首依

三年清丈地畝

九年命直無來勘入荒田

上諭諭戶部今歲水災順天等府所屬地方田禾淹沒虛舍傾圮頗多除災日即俟該督撫親行踏看將輕重分數具題酌量蠲免等語宣府前衛清裕河衝沙壓老荒等地一百四十三頃九十人畝零應徵本折銀兩俱行開除定例夏災不出六月終旬秋災不出九月終旬先將被災情形題報如遲報逾限半月以外者罰俸六個月一月以外者罰俸三個月三月以外者罰俸二個月六月以外者罰俸一個月將飢荒妄報或地方有異災不報者罰俸一年及報災之時未繳印結冊內不分晰明白者罰俸六個月

宣化縣志

卷之九 賦役志

九

十六年令民自首隱漏地糧及該管官陞降之法

民間從前隱地自行首報者免追花翎即以首報之年入冊征糧該管官能清理隱地多者紀錄加級卽陞再陞有差如被旁人告發該管官不行清理者罰俸降級革職有差

裁易知由單

康熙三十七年五月為再疏請首停刊由單等事奉文行刊

四十六年令民間錢幣五兩以上者交銅

欽奉上諭直隸地方明成錢糧亦如東省折收小銅器欽遵令為銀一兩折收小錢二千文完後即二千錢兩折收銅幣完後欲納銀者聽其交納將所收錢銅運送京師巡撫趙疏解民間錢銀並用舊錢者少蓄銀者多有錢之家將錢納完無錢之家必持銀向舖買錢似應將五兩以上者

今其完錢不及者銀錢難便至舖戶薄小使銀不盡用之錢盡行交官照議動帑收買既將小錢納大錢到日將現用之錢以兩個月買完其不備之仍酌量折除收奉首依議

宣化縣志

卷之九 賦役志

十

附全書

歸併宣府在城廳宣府前衛宣府驛

治元年分原額本折心園地畝驛軍餘地驛傳
 籽粒採實稻糧等地一萬四千六百四十四頃八
 十八畝四分二厘八毫九絲五忽五微三纖一沙
 又歸併萬全都司原額地三百九十七頃二十二
 畝一分七厘三毫二忽共地一萬五千四十二頃
 一十畝六分一毫九絲五忽五微三纖一沙共徵
 折色并預解銀一萬一千四百八十二兩六錢
 一分八厘八毫三忽三微二纖零共徵本色糧二
 萬一千二百五十八石八斗六升六分六厘三毫
 二忽九微五沙油麥一石其新收節年墾荒退回
 歸併及養廉改衛清出園地旗地退出餘地又開
 除節年開豁水冲沙壓圍廢與被災拋荒外實在
 一萬三千一百二十七畝二分九厘四毫七

宣化縣志

卷之九 賦役志

十一

絲五微三纖一沙各徵不等共徵銀三千八百三
 十一兩四錢一分六厘五絲一忽八微零共徵糧
 一萬四千一百八十八石八斗一升三合五抄二勺二
 圭零單租并加陞米一十二石五斗二升六勺二
 十一石一斗三升一合三勺油麥一石其折
 色中下地公務餘地稻糧地標實地籽粒地驛傳
 地木色驛軍地西協地俱在內順治元年分原額
 本折并收地共一千二百六十九頃八十七畝七
 分五厘二絲八忽九微零各徵折色銀七百七十
 九兩三錢八分四厘六毫六絲五忽零本色糧二
 千六百八十四石五斗七升八合五勺二抄零共
 新收節年墾荒退回清出民除等地又開除節年
 河泮橋補逃亡戶絕地荒外實在一千三百一十
 二頃八十九畝三分六厘三毫二絲零各徵不
 共徵銀五百七十九兩八錢二分二厘四毫一絲
 七忽零本色糧一千八百一十九石九斗六升四
 合三勺一抄零單租不九石 其折色中下
 地本色上中下驛軍地餘地驛傳地俱在內

附額駙地

順治十三年靖南王耿精忠圍撥宣府民人地兩園

共一百九十一頃四十畝計額駙安設人王

李仲賢將

附旗庄地

康熙二十年耿精忠叛命存原地一半九十五頃七

十畝付其子額駙收租收原地一半九十五頃七

十畝撥給十庄頭計十庄頭王家祿邢肇衡李

之翰張國

宣化縣志

卷之九 賦役志

十二

附鹽稅

康熙元年戶部覆准張家口夔鹽不便行引各照舊

定界限遵行

戶部為增引緣事山西清吏司案呈奉本部送
 准到察院咨據長蘆巡鹽御史張吉午呈前事等
 因到部奉批司查呈并發送司奉此又奉本部送
 據張家口舖商郝濟等呈為度上裁憲事奉批
 查送司奉此查兩案一專應一併呈堂查得張家
 口夔鹽一案每石先止稅銀一錢後因稅輕行查
 去後據長蘆巡鹽御史高爾明稱夔鹽納稅太輕
 無定數或議將夔鹽又引招商辦課或夔鹽納
 稅輕重與長蘆等分界首銷等因奉批查既夔鹽
 又難定數不便禁止如夔鹽行引非係一定行
 于無引城堡其煎銷通行禁革稅銀令蘆商上納

宣化縣志

卷之九 賦役志

七

等因覆奉 俞旨遵行 在案後據張家口舖商郝
濟等呈稱願認宣鎮等地方引目三千道照長隨
色課之例並運西路銅稅銀分爲四季交納領引
接買鹽本都查原案並無西路銅稅行令直撫
長隨巡鹽御史及口北道會查領引行鹽果否
裕國便河西路以另有無課速行報部去後續准
直撫口北道同稱領引輸課較前每石一錢五分
之議倍增誠屬裕國便商西路查前銅稅及運司
寫南路爲西路等因又據長隨巡鹽御史及運司
呈稱商承認似屬安便等語今又據口商郝濟
等呈稱具呈在先奏鹽近口亦認納四千引或不
足額情願照歲包納內稱情願認宣鎮鹽地方
爲停 旨裁部等因到部查奏鹽增引原以裕國
便引爲念故本部行令會查今巡撫及巡鹽御史
而議不合况邊口與內地不同且前經具覆不便
行引等因已遵遵行今難以行引其蘆鹽鹽地

康熙六年增定深井等處蘆鹽引額

戶部道覆長蘆巡鹽御史據運司呈稱商人張起
鳳認納三處行鹽到部呈查此三處原不係行引
地方今既行蘆引應將銅稅除豁計增宣引二千
引併保安州內有綱引二百道共計增宣引二千
五百道照舊永保河河每引納銀三錢一
分三厘六毫零共該納銀四百七十五兩
二十九年夏五月戶部允直撫于 疏請深井等處

設鍋煎鹽停止長蘆引課

直撫于題爲謹陳宣屬等事該臣看得東西二城
經臣題請設鍋包引部覆行臣會同鹽臣定議具

宣化縣志

卷之九 賦役志

十四

題行據丁憂運司剛廷極守道任機詳稱長隨行
鹽地方唯宜屬實爲最苦東西二城聽民設鍋包
引實爲通便至深井堡等處俱係邊方詳請一併
包引前來臣查深井堡等處從前皆實鹽每斤不
過清錢三四文而蘆鹽斤定價銀三四分不等
宣屬東西二城份深井等處共額引五千七百道
計鹽一百三十六萬八千餘斤每年共需鹽價銀
二萬三千餘兩正課二千餘兩之外每年多耗民
間鹽價銀二萬一千餘兩當地瘠民貧之所又當
登遭荒旱災民焉能照數疏銷地方官奉行不善
則計口派鹽勒限嚴比俱勢所必有是以紛紛控
告情願包引伏查恩詔一款直省地方有現行事
例不便干民者該督撫詳察開列具題該臣確議
酌量更正欽此今宜屬引鹽累民病商不便實甚
雖定制已久仍宜酌更臣請會同鹽
臣江合詞具題奉 旨該部知道

宣邑額征每年鹽稅銀四十二兩三錢六分四厘

五毫

知府奏有僻地難食鹽詳請復引招商之事後
鹽院批行 蒙知縣門力爲詳免至今宣民徯周
而怨 泰焉

附門稅

順治三年置管稅戶部于張家口其宣府額征門稅

銀七百六十三兩七錢六分于康熙十六年因兵

餉缺乏增銀一百五十二兩七錢六分于十七年

歸併張家口監督

原係前衛守備徵收時奉 際龍濫行倍徵至十七
年歸併張家口監督姜際龍以倍徵私例交送至

臣商受累又舊例直舖赴京對貨來宜在居庸關
報稅今又丁宜府報納門稅舖商一貨兩稅屢有
呈控其詳具在知縣陳
地請審門稅詳文內

附誌訪利弊詳文

口北道周 諱士賢為訪利弊以備採擷以資
政治事准 貴道關前專案查宣房五州縣乃係
鹽疏引納課改設歸併向係商人張起鳳等認定行
交鹽價錢便於買食并設鍋煎鹽以從民便是以
題請將宜房九處令民改食製鹽并設鍋煎鹽包
納引課等因奉 旨欽遵在案又于康熙三十四
年 貴道准本道據宣化府秦為詳地難食製鹽
等事民苦淡食請復引招商情由會詳 題鹽兩
憲木蒙批發全蒙撫憲批據本道條議 題鹽兩
課通融增入蘆商銷引之地但事關 國課未便
議免而商人又無不行鹽而代民包課之理本道

宣化縣志

卷之九 賦役志

五

再四圖維無如仍令舊商認課銷引聽民買食則
民無淡食之苦商無增課之累庶 國計商民均
有攸賴本道管見如斯是否可行應請貴道鴻裁
今准前因擬合關覆核為查酌見履施行 本道
為訪利弊以備採擷以資政治事康熙三十七
年四月十八日蒙總督部院于 憲牌前事等因
備行到道蒙 此隨行該府轉行各州縣確議到日
另詳外該本道查得宣化一府處于關塞之外介
在萬山之中砂多田少地瘠民貧入秋即降販不
春春尚無種植五穀百粟不產以致客販不
至百貨俱無間有一二駝馱零賣者數倍其價方
與之是稱最苦者無過宣化也尤為各口出入要
道差使往來兵馬雜音交應行權採買供億官既
重田民豈獨逸所幸荷蒙 應行權採買供億官既
上味思連年獨租免賦發借米谷減糶儲備窮村
僻壤方得糊口以事南 洵無大利之可與亦無
積弊之未除惟宣城門稅一項近為民等聞已蒙
憲臺特題革除則從此負販不至裹足去其積

與其利矣本道到任雖未匝歲尚未能有益于
國計民生而詰如禦異不啻三令五申民稍安甯
第閭閻尚有苦情若再為之加惠區區亦與利之
實意也一宜屬延慶保安西寧懷來宣化五州縣
之課仍令各州縣包納想當日之意以課鹽價
百姓便益故令食口外之鹽包長歲之苦又私兩
全或包賠課銀如延慶州每歲包銀七百四十六
兩二錢零保安州每歲包銀五百二十二兩三錢
零懷來縣每歲包銀四百六十六兩零宣化縣每歲包銀
四十二兩三錢零是民永受其害也夫以延保等
州縣民窮土瘠加之旱潦不時連歲歉收幸賴
聖主洞鑒編氓屢蠲額賦方苟存活今虛包之課仍
然道呼鞭朴不敢逾期人忍痛家家受累其何
以堪竊思課銀原應食鹽之地輸納宜屬既既不食
鹽鹽豈可常勒包課况五州縣所包之課僅二千

宣化縣志

卷之九 賦役志

五

三百六十餘兩以長蘆食鹽銷引之地殷富廣闊
何難通融增入而忍累此邊外鳩鵲之殘案也伏
乞憲臺電察批行守道查議詳會同鹽院 題
請開豁俾寒邊窮民免剝膚之苦世尸祝無疆
矣一蒙古及投順厄魯官兵并各差出口應支口
糧之用例係隨支隨印具冊移投守道詳憲奉部
請價採買運補不許遲延空缺其價銀短少不
敷時值官運補之州縣官賠墊不敷派派于民第
宣屬米谷稀少已不足本地贍養之需每歲採買
行糧驛夫及營路兵丁米不下數萬石又加運
補張家獨石二口新廠米萬餘石所出者少所用
者多其倘安得不貴是在關內可買一石之米在
關北尚不能買五六斗窮蒼隱隱坐困今所買補
運家獨石二口之米又必須備驛馬四錢此項採
買在州縣官每石米價必少不得令地方運送而
餘力自行願驛二頭如延慶保安懷來西寧皆難

宣化縣志

卷之九

賦役志

支

星無稅入門有稅出門無稅後于康熙十七年歸併張家口監督差役巡邏遂苛索額外任意橫徵無不論肩負手携入門既稅出門又稅積久成痼不堪破商民飲血吞聲不可枚舉今二月內鄉民張進元買奶猪三口出城每口價不過二錢監役每口索稅一錢二分因不遂欲鎗斃張進元若非憲駕日擊釋放幾致斃命嗟嗟窮黎何堪受此苦累常陳張進元告部中詳憲臺蒙飭確查詳覆仰見憲臺憐念不忍民荼毒之意今據閩邑紳士情願將商民所納之稅不產准藉商賈往來以通商情轉請憲臺俯准援照崇文門之例止許入門徵收不許出門重稅更祈頒示刊榜永除積弊不特往來商賈無礙無涯而宣屬紳士商民子孫承感永無憾不朽矣知縣陳坦看得宣府門星無稅入門有稅出門無稅名爲落地之稅非同關南鎮市通商貿易可比也于康熙十七年歸併張家口監督差役巡邏遂苛索額外誅求以致從

宣化縣志

卷之九

賦役志

辛

至于出京過橋則任其長行未期復索稅銀也各商賈裹足而邊地日益荒涼也不止草載驛站甚于手携肩負之物民問日用飲食以及往來饋送之徵出入城門悉皆需索稍不遂意鞭交加更可異者假借搜貨之名戲茶毒民婦乞其來既久習以爲常常此邊氓交受荼毒若民不請禁革小民遺累無窮今據該縣查明復據屬紳士商民公願且經卑府口擊弊情確難緘默相應據情轉請憲臺俯准援照崇文門之例止許入門徵收不許出門重稅更祈頒示刊榜永除積弊不特往來商賈無礙無涯而宣屬紳士商民子孫承感永無憾不朽矣知縣陳坦看得宣府門星無稅入門有稅出門無稅名爲落地之稅非同關南鎮市通商貿易可比也于康熙十七年歸併張家口監督差役巡邏遂苛索額外誅求以致從

門又復徵稅城內炳勵已經徵稅出門每包仍索錢四文與夫掃帚鋤頭羅雙蛋尺布斗粟手携至徵之物亦必勒稅尤可異者凡民間冠婚喪祭或婚省其姑女省其母每大出者必娶推下牲口假以搜稅戲美種種弊實不一而足且查崇文門止徵入門之稅不徵出門之稅何宜府不然出入兩賦豈塞外商民獨非

朝廷赤子手再如馬稅一項凡蒙古所帶馬匹既入張家口上稅矣行至宣府有山貨房交易者宜本縣居民所產之馬自赴城市由牙僧貨賣者宜本府抽稅三分久奉部例本縣經收解充兵餉名為落地稅之額徵也今凡馬入城監督巡攔人役無論賣與否每匹先索稅銀三錢但查監督門稅則例內止開納緞鹽布等貨監督收稅未開馬匹監督收稅是口外之馬已在張家口納稅到宣府不過六里豈有再稅之理今監督受困已極之控也茲蒙孫榮德等有一匹馬兩稅受困已極之控也茲蒙

宣化縣志

卷之九

賦役志

三

飭查相應備錄情由具文申請伏懇 憲臺俯賜轉詳頒示永禁監役無額外之苛商民有再避之虞過地窮民求沐再造之 洪恩矣

附當稅

每年額徵銀一百三十兩每帖五兩遇有開閉隨之加減

附釘地

每年額徵銀五十七兩六錢

附牙稅

每年額徵銀四十八兩二錢

附雜稅

凡牛驢馬田產稅銀收無定例

附永行豁免門稅部文

戶部為請免無益之門稅等事該臣等謹得總理事務和碩莊親三等謙履張定口監督塞爾登奏稱查歸併張家口之宜化廣門稅自康熙十七年定額二千兩嗣因該府前衛所徵落地稅歸併門稅一起征收復加額銀七百六十三兩二錢六分刻木榜懸掛四門與衆通知在案雍正十三年六月內戶部議覆原任兵科給事中尚養傑奏以本地出賣零星日用之物與小民肩挑背負者一槩免其征收等語具奏奉旨依議欽遵各在案但不榜所載多係小民零星日用之物半是肩挑背負之項悉遵部議一槩免徵其所徵者不過牛馬皮張油菓藤麵等物况賦載到府貨賣南來由居庸關報稅北來由張家口報

宣化縣志

卷之九

賦役志

三

稅亦係部議免其重征惟餘自張家口到府貨賣之驛鹽例應征收即該府本地所出烟筋亦係零星挑出貨賣不在征收之內計每年所收家參無幾更兼巡查人役又有工食之費歷任監督俱在張家口居庸關處盈餘項內補解是今到任一月所收宣府四門之稅僅四十餘兩是今到任一月有名無實可知請將宣化府四門稅除驛鹽仍歸張家口照例征收外其餘些須等物遊恩永行豁免所缺稅額二千七百六十三兩七錢六分仍于張家口居庸關處盈餘項內補足每年照例報解銀貳萬兩如此名實相符亦可免後任監督周折之煩抑臣更有請者居庸關地處關山險峻破木枋則例雖註有螺驢駝載之語而盤關之勢必折卸分擔方能過所北往俱係客貨並無及地出賣零星之物與宣府實不相同今歲部議內凡肩挑背負者仍照宣府一例免征等語若照部議遵行則居庸關竟無稅可收仍應舊例征收

宣化縣志

卷之九

賦役志

五

等語查宣府門稅向屬有名無實是以各監督俱
 于張家口居庸關貳處登餘項內補解足額今塞
 兩登請除門稅仍舊補關貨物因山路險峻拆卸
 定例不准收稅但居庸關貨物因山路險峻拆卸
 分担過關似于肩挑背負零星日用之物不同若
 一槩免正則無稅可收請 勅交該部定議具
 奏等語查宣府門稅原為張家口居庸關貳處或
 有走漏設此以為稽查所收稅課多係小民零星
 日用物件今既稱有名無實應照該監督所奏除
 尋鹽仍歸張家口照例征收外其餘肩挑背負等
 物請
 旨一槩永行豁免所欠稅額即于張家口居庸關貳
 處盈餘項內補解足額仍令監督出示通衢通行
 曉諭俾商民均被
 皇恩至肩挑背負定例不准收稅之處查先經臣部
 議覆直督李衛查 奏尚德魯 奏內凡有小民
 零星日用物件不在則例之內與宣府居庸關之
 例一槩免其征收倘有奸商將應上稅之貨物拆

卸分担担充肩挑背負至口希圖漏稅等弊請該
 監督稽查照例罰徵收等因行文在案是肩挑
 背負原指本地小民營生零星日用物件而言至
 于別處載到關分担之貨物尚許監督稽查前
 收並無因過關路險拆卸作為肩挑背負一例
 論應令該監督循例稽查抽收以完稅課倘有巡
 役人等留難勒勒并違例橫征侵擾商民等弊或
 彼受害之人告發或經地方官查報將失察之
 督交部議處巡役人等查拿治罪可也等因乾隆
 元年二月初二日 題本月初六日奉
 旨恩畢紳士姚之牧張珍黑常 張兆奇商賈下州
 蔣純白增興趙恩明王佐孫學義曹毓英于翰劉
 漢熙霍宗舜朱貴珍等隨勒石於南門寬城內永
 戴 皇恩併合詞呈請續刊志承以垂久遠蒙本
 道儲諱 龍光批奉 皇恩與情純切但止須開
 增入誌書具見感激 皇恩與情純切但止須開
 載知照部文續刊于縣志賦役之後便可垂之久

宣化縣志

卷之九

賦役志

五

遠不必文飾其詞返多刊刻費工也冊准存案水
 府蓋諱 怡曾批宜郡門稅奉 旨豁免爾等業
 經勒之貞現復請增入其乘具見 旨豁免爾等業
 本縣張諱 秉格批豁免門稅增人誌具見感
 戴
 皇恩殊屬可嘉仰候 本道 照 示 遵 行 開 於
 乾隆二年五月內 開 示 遵 行 開 於
 城無益之門稅仰蒙 皇恩永行豁免爾等業
 而部文所稱張家口居庸關兩處盈餘項內補解足額
 北來由張家口報稅則宜城貨賣之物已於居庸
 開張家口納稅其當日宜城所收門稅亦不過係
 小民零星日用物件且半是肩挑背負之項今
 一槩永行豁免是宜城上蒙 皇恩特邀
 皇恩並非卸肩於居庸關張家口兩處自茲以後荷
 吏人役自不得別生事端贖所司罔上違奸背
 旨行私云

論曰昔在姬周田賦有制其彙結絲粟之必辨庚秉
 官稷之必謹水旱耕歛之必省故農無匱而國賦
 亦裕至于司商協族姓司徒協卒司寇協姦又協
 職協革協出入離離有典而滋息以蕃今邊方春
 盡猶寒秋時即霜五谷所登惟恃夏炎而夏之雨
 賜多愁蝗電常厲致此離之衆多以賣妻鬻子爲
 常又或棄捐邱壠就填溝壑其于歲額取盈之中
 嗚乎念邦本厚民天奠倪耄于衽席躋婦子以盈
 宣化縣志 卷之九 賦役志 五

寧俾得上無積遺而下獲安全尚其勤于撫字多
 方體恤而後可哉

宣化縣志卷之十

俸廩志

金元以前宣曾設州設郡設軍設府縣官制不一
 俸亦靡定明時設衛衛則專授武職然巡撫以及
 道廳教授文職咸與共治其官吏支給按籍可攷
 我
 朝改衛爲縣祿精同於畿內大小文武官秩以違符
 史胥徒管長隊伍皆有庾廩糗糈以養其身資其
 力均爲恤下之恩因自明迄今作爲俸廩志

宣化縣志

卷之十

俸一 俸志

明高帝洪武元年定品官月俸

是年置開平衛指揮使正三品月支米三十五石
 副知從三品月支米二十六石僉事正四品月支
 米二十四石經歷從七品月支米七石知事正八
 品月支米六石五斗鎮撫從五品月支米十四石
 遊擊正五品月支米一十四石鎮撫從六品月支
 米八石正五品月支米一十四石鎮撫從六品月
 支米十石後漸添衛所二十有一品俸俱同承樂
 間置陞慶保安二州永安一縣知州俱從五品月
 支米一十四石判官從七品月支米七石宏治初
 革吏目從九品月支米五石知縣正七品月支米
 七石五斗丞簿革典史未入流月支米三石宣德
 五年置萬全都指揮使司都指揮使正二品月支
 米六十一石同知從二品月支米四十八石僉事
 正三品月支米三十五石經歷正六品月支米十
 石都事正七品月支米七石五斗斷事與經歷同

副廳事與都事同司獄從九品月支米五石後授
與同職同訓導與吏目同未入流月支米三石衛
學教授視都司學教視州學學正縣學教諭並訓
導俱視都司學訓導云 諸司職掌洪武十八年
令文武官吏俸給照例每米一石折鈔二貫五百
文按月於係官錢鈔內支給其支過數目通行歲
報戶部以憑查考

永樂元年令文武官俸本折兼支

是年令在外官俸舊全支米者米鈔中半十六年
奏准衛官俸一品至二品俱二分支米八分
支鈔十九年令文武官一品至五品俱三分米七
分鈔六品至九品俱四分米六分鈔每鈔二十
貫折米一石

正統元年令文武官折俸歲二給

宣化縣志

卷之十 俸一志

二

計令大寧萬全二都司所屬及北直隸衛所官折
俸每歲上半年支鈔照宣德八年所定每鈔十五
貫折米一石其下半年支鈔照宣德八年所定每鈔十五
州縣等衙門文職官乃支本色米一石餘折鈔又
奏准各教授俸見二石及一石五斗者俱增
三石學正教諭訓導見支一石五斗及一石者俱
增二石餘折鈔四年又令大寧萬全二都司並
北直隸衛所都指揮指揮初月加二石衛鎮撫千
百戶所鎮撫加一石
俱折布絹餘處照舊

景泰元年令暫減官俸

自正統已巳土六之變奏准文武官俸月給本色
一石餘俱折鈔各處教官饌米停支其俸亦給本
色一石生員五斗餘亦折鈔如例至景泰六年始
令教官照舊支給口外邊城及糧少處仍照舊
云支

天順元年令文武應襲子有功者給俸

凡宣府大同等處武職官應襲兒男有功陞官者
准支半俸又令納粟軍職官月支米一石俱令管
事差操若病故子孫替替一依父祖之例具有軍
功陞職者如獲功一級加與一旗二級加與總
旗三級加試百戶俸後子孫替替一依前例
陞授官加俸後子孫替替一依前例

成化六年罷外官分俸養親令

先是天順二年 詔在外官員有父母年老在家
願分俸養親者准與原籍關支後漸有變至是罷
之至十二年又令在京都指揮選調各都司管事
願分俸養親者以本色三分為定許存一分原
支關

宏治元年詔時給官俸

宣化縣志

卷之十 俸一志

三

奏准在外并各邊衛所軍官折色俸令各分巡分
守官督該掌印官按季造冊每歲上半年限送赴合
年六月以前存留下半年限次年十一月以前送赴合
年六月以前存留下半年限次年十一月以前送赴合
器血衣服頭口之類皆許鈔折支每銀一兩折
七十貫若該衛所軍官每遇春間米貴支與本色
十石間收成照時價支折色其餘月分銀米間支如
或米賤願折銀者亦不許過支六個月十三年奏
准官吏旗軍人等關過俸糧及預支應得糧米遇
有事故調用等項五斗以上失於
還官者事發止問不應追糧還官

三十八年蠲免文官俸工

四十三年蠲免文官俸工

以還倉救災河岸故
也知縣以上皆蠲

四十六年獨免文官俸工

以南巡需
用故也

官秩

萬全都指揮使司

都指揮使一員同知缺餘事九員承差四名知印
 一員典史二十一員 經歷司經歷一員都事一
 員吏目一員典史一名 斷事司正斷事一員副
 斷事一員司獄司司獄一員司吏四名獄典一員副
 儒學教授一員訓導二員 司吏一名萬德庫大使
 一員副使一員撰書一員 鎮城并獨石赤城
 溝趙川葛峪青邊常張家口西陽河洗馬林龍
 門所大白陽小白陽草場十有五場大使副使各
 一員撰典各一名張家口西陽河新河口順聖新
 城馬房舊城馬房共五倉倉大使副使各一員撰
 典各一名宣府驛吏
 雞鳴驛吏各一名

宣化縣志 卷之十 俸廉志

四

宣府前衛

指揮使一十二員 指揮同知一十四員指揮僉事
 二十員署指揮事五員經歷一員衛鎮撫一
 員三員實授百戶二百一員試百戶一百六員總
 旗一百二十一名小旗八十三名
 令史二名典史六名司吏六名

宣府左衛

指揮使一員同知三員僉事五員署指揮僉事一
 員經歷一員衛鎮撫一員正千戶一十二員副千
 戶二十九員所鎮撫六員實授百戶五十七員試
 百戶五十二員總旗六十二名小旗三十八名令
 史一名典史六名

宣府右衛

指揮使七員同知二員僉事九員經歷一員知事
 一員衛鎮撫三員正千戶一十一員副千戶三十
 一員所鎮撫四員實授百戶五十一員試百戶五
 十四員總旗四十六名小旗三十五名令史二名
 典史六名
 司吏六名

俸給

都司長貳

倉庫支給管糧職同
 一員俸銀米俱戶部管糧職同
 二錢八分二厘秋一季一十二兩六錢 都培
 同知每員歲折大小俸銀春夏季一十八兩九錢
 二分秋冬季十兩五錢五分 都指揮僉事每員
 歲折大小俸銀春夏季一十五兩一錢四分秋冬
 季八兩七錢署使職與同知同署同知職與僉事
 同 堂吏有承差有知印有令史有
 典史假月米五斗凡驛吏月米三斗

宣化縣志 卷之十 俸廉志

五

都司贊屬

經歷司經歷歲折 小俸銀春夏季四兩四錢一
 分秋冬季三兩都 歲折大小俸銀三兩五錢三
 分春夏季二兩一錢二分四厘秋冬季二兩
 二分五厘典史一名月米三斗 斷事司正斷事
 歲折大小俸銀春夏季四兩四錢一分秋冬季三
 兩副斷事歲折大小俸銀春夏季三兩五錢三分
 兩副斷事歲折大小俸銀春夏季三兩五錢三分
 秋冬季二兩六錢二分四厘司獄司獄歲折大小俸
 典史每名三斗 司獄司獄歲折大小俸
 銀春夏季三兩秋冬季二兩四錢獄典月米三斗

都司教職

教授月實支米五石訓導每員月
 實支米三石司吏月實支米三石

衛長二月俸銀米俱戶部管糧郎中

行令倉庫支給贊屬職同

凡宣府前左右萬全左右懷安懷來保安隆慶右保安右十衛指揮使歲折大小俸銀夏一十兩一錢四分秋冬季八兩七錢指揮同知歲折大小俸銀夏一十一兩九錢六分秋冬季七兩五錢二分指揮僉事歲折大小俸銀春夏一十一兩二錢八分秋冬季七兩四錢一分

衛贊屬

凡宣府等前十衛經歷司經歷歲折大小俸銀春夏二錢五分秋冬季二兩五錢五分知事歲折大小俸銀春夏三兩八分秋冬季二兩四錢七分五厘鎮撫一鎮撫歲折大小俸銀春夏六兩一錢六分秋冬季三兩七錢五分

衛教職

宣化縣志

卷之十

六

教授月實支米五石訓導月實支米三石司史月實支米三斗

所長

宣府前等十衛所分并與和美峪所正千戶歲折大小俸銀春夏六兩八錢七分秋冬季四兩一錢六分秋冬季三兩七錢五分

所贊屬

宣府前等十衛屬所吏目俱革興和美峪所吏目歲折大小俸銀春夏六兩五分秋冬季二兩二錢五分員歲折大小俸銀春夏四兩五分秋冬季二兩八錢五分實校百戶每員歲折大小俸銀春夏四兩七錢六分秋冬季三兩一錢五分試百戶每員歲折大小俸銀春夏三兩二分秋冬季七分五厘小旗每員歲折大小俸銀春夏七

七分秋冬
季三分

隆慶二年給將領養廉田

每墾十項內
給五十

萬歷二年查定將領養廉田

總兵官水地十項旱地十項副總兵各城半參遊旱地十項守備五項內水地一項折旱地三項俱免徵糧此外查係官田還官屯田給軍係開墾田照例納糧各該將官不得以情願納斤右總督方公奏

崇禎七年裁將領養廉田以充軍餉

從監視太監
王坤之請

宣化縣志

卷之十

七

八年頒定將領廉給制

副將每月支廉給一十八兩 參將每月支十兩八錢七分五厘 遊擊月支一十二兩 三道標三協中軍守備 支銀六兩 新兵坐營官月支銀六兩 千月支五兩 把總月支四兩 堡官俱照舊制

皇清頒定經費錄

分守道歲支心紅及衙役工食等銀二百三十兩 同知每員歲支心紅及衙役工食等銀二百六十兩以上 支通判每員歲支俸薪及衙役工食等銀二百六十六兩 衛守備每員俸薪及衙役工食等銀共一百九十三兩二錢九分四厘 衛教每員俸薪及衙役工食等銀共九十一兩五錢七分六厘 參將每員歲支俸銀二百四

十三兩三錢三分九厘六毫遊擊每員歲支俸銀二百三十一兩三錢四分九厘都司每員歲支俸銀二百一兩三錢四分二厘專城守備每員歲支俸銀一百二十三兩三錢九分三厘如加都司會書者加銀一十一兩九錢四分五厘中軍守備支銀三十一兩九錢四分五厘中軍守備支銀三十六兩以上

今上康熙十四年頒至文職滿俸等例

在外提督司道府廳州縣俸銀全指并心紅紙

十五年各衛守備

科臣條議有歸并衛地以清欺隱酌裁冗員以省糜費之疏晉撫達爾布因題衛守備俸互與文官

同暫裁奉

宣化縣志

卷之十 俸廉志

人

康熙三十二年改設郡縣裁扣官役俸食銀

俸給

分守口北道 先是掛山西俸銀坐支晉省近于賈

議僉事等街 照品支給 外役快手一十二名工

食七十二兩 轎傘扇夫七名工食銀四十二兩

聽事吏二名 工食銀一十二兩 舖兵二名工食

銀一十二兩 以上坐支宣化縣 門皂十二名

知府

俸銀一百零五兩 典史十六名工食例不支給

門子二名工食銀一十二兩 皂隸十六名工

食銀九十六兩 馬快十名工食銀一百六十八兩 以上坐支保安州 步快十六名工食銀九十六兩 轎傘扇夫七名工食銀四十二兩 舖兵二名工食銀一十二兩 以上坐支宣化縣 門皂十二名工食銀一十二兩 轎傘扇夫七名工食銀四十二兩 燈夫二名工食銀一十二兩 以上坐支延慶州

支薪縣

修理龍亭銀五兩

修理文廟銀二十兩

文廟等春秋二大祭銀六十一兩

社稷山川等春秋二大祭銀四十兩

朔望行香銀二十兩

宣化縣志

卷之十 俸廉志

九

鄉飲酒禮銀二十兩

歷日銀二十兩 以上坐支

同六

開載 典史六名工食例不支給 門子二名工

食銀一十二兩 步快八名工食銀四十八兩

以上坐支懷來縣 皂隸十二名工食銀七十二兩 轎傘扇夫七名工食銀四十二兩 燈夫二名工食銀一十二兩 以上坐支延慶州

通判

俸銀六十兩 典史六名工食例不支給 門子

二名工食銀一十二兩 步快八名工食銀四十八兩 以上坐支萬全縣 皂隸十二名工食銀七十二兩 轎傘扇夫七名工食銀四十二兩

燈夫二名工食銀一十二兩
以上坐支懷安縣

經歷司經歷

俸銀四十兩 贊典一名工食例不支給 門子一名工食銀六兩
皂隸四名工食銀二十四兩

司獄司

俸銀三十一兩五錢二分 典吏一名工食例不支給
門子二名工食銀一十二兩 以上坐支

儒學教授

俸銀三十一兩五錢二分 贊典一名工食例不支給
齋夫三名工食銀三十六兩 門斗三名

宣化縣志

卷之十 俸員志

十

工食銀三十一兩六錢 膳夫二名工食銀一十三兩三錢三分三厘三毫三絲三忽 廩生四十二名
以上坐支龍門縣

花紅旗扁銀一兩

辦年

中式文進士每人坊價銀八十兩

辦年

文舉會試盤費銀一十兩

辦年

新中武進士花紅旗扁銀五兩

辦年

新中武進士花紅旗扁銀十兩

辦年

武舉會試盤銀二十兩

辦年

以上坐支西寧縣 各項共支銀一千八百三十三兩六錢三分九厘 零動支各州縣 墾丁內俸工銀兩均應以官到任之日為始支給其祭服廉膳併二三年一辦等銀係額設之項

知縣

俸銀四十五兩 門子二名工食銀一十二兩
皂隸一十二名工食銀七十二兩 馬快八名工食銀一百三十四兩四錢 民壯五千名工食銀三百兩 輪傘扇夫七名工食銀四十二兩 燈夫二名工食銀一十二兩 庫子二名工食銀一十二兩 四名工食銀八十二兩 禁卒八名工食銀四十二兩 吹手六名工食銀三十六兩 更夫五名工食銀三十八兩四錢

典史

宣化縣志

卷之十 俸員志

十

俸銀三十一兩五錢二分 門子一名工食銀六兩 皂隸四名工食銀二十四兩 齋夫一名工食銀一十二兩

雜項

依例 門斗五錢二分 皂隸二名工食銀一十二兩 館夫二名工食銀一十二兩

儒學教諭

俸銀三十一兩五錢二分 齋夫三名工食銀三十六兩 門斗三名工食銀二十六兩一錢

縣廩生

廩銀六十四兩 膳夫銀一十三兩三錢三分三厘

歲給

龍亭修理銀五錢

文廟修理銀一十兩

春秋二季丁銀四十兩

社稷山川等春秋二季祭銀三十兩

無祀鬼神三小祭銀一十兩

朔望行香銀一兩

節飲酒禮銀一十兩

歷銀三兩

孤貧冬衣布花銀二十八兩二錢七分五厘

宣化縣志

卷之十

主

貢生花紅旗扁銀五兩一辦

合舉人盤費銀一十五兩一辦

中舉人每人價銀八十兩一辦

新中武舉每人花紅旗扁銀五兩一辦

新中武進士每人花紅旗扁銀拾兩一辦

順天府武舉賞盤銀五十六兩六錢六分零

占工折共銀四百三十二兩遇間加銀三百

六十兩

表箋銀共八十兩十州縣

明

本鎮官軍九萬四百員各月支糧九萬五千三百
六十八石四分五合每季布花銀九千一百
五百五十四兩二分七厘二毫五絲各衛所孤
老三百八十九名每月支糧一百一十六石七斗
每年布花銀一百三十六兩一錢五分按孤老
月糧當改支預備倉內布花銀兩改支都司公務
銀內

表

官軍二萬八千一百一十二名支二萬五千四十七石
石官二員糧八石支一石二斗官軍一千三百
四十七員名糧一千一百一十八石四斗

宣化縣志

卷之十

主

石官軍一萬八千四百一十二員支一萬八千四百一十二石
百二十石支七千二百一十五石六斗

又五斗官軍一萬一千六百七十八員支一萬一千六百七十八石
六斗

又四斗官軍一萬一千六百七十八員支一萬一千六百七十八石
五斗

又三斗官軍一萬一千六百七十八員支一萬一千六百七十八石
四斗

又二斗官軍一萬一千六百七十八員支一萬一千六百七十八石
三斗

又一斗官軍一萬一千六百七十八員支一萬一千六百七十八石
二斗

又無斗官軍一萬一千六百七十八員支一萬一千六百七十八石
一斗

又無斗官軍一萬一千六百七十八員支一萬一千六百七十八石
無斗

鎮城各營

本鎮官軍一萬九千九百五十五員各月支糧
折色銀七十七萬七千五百一十八兩一錢七分
賞賜冬衣花銀九萬七千八百五十五兩

官軍歲支折色銀一十六萬九千六百七十二兩
二錢七分零布花銀一萬四千九百九十八兩五
錢二分內
二十八兩

雞鳴驛

官軍歲支折色銀三千一百六十六兩五錢
五分 布花銀四百二十二兩四錢七分

皇清康熙十二年

鎮標兩營及宣防 雞鳴驛深井堡共銀三
萬八千四百一十兩
經制兵九千二百名 實在兵七千九百八十三
名 共銀米二萬六
千八百三十三石七
斗

宣化縣志

卷之十

左營

該銀一萬二千四百八十
兩 米一千九百二十六石八斗

右營

該銀一萬二千三百八十四
兩 米一千九百二十六石八斗

宣府驛

歲共該銀一萬二千三百八十四
兩 米一千九百二十六石八斗

宣府驛

歲共該銀一萬二千三百八十四
兩 米一千九百二十六石八斗

歲共該銀一萬二千三百八十四
兩 米一千九百二十六石八斗

康熙四十六年

鎮城

鎮標兩營及本城雞鳴驛深井堡共兵一千五百
零六名歲共該銀二萬二千零二十四兩八錢
共核米五千四百二十一石六斗四屯糧收納舊
本庫

宣化縣志

卷之十

右營

該銀一萬二千四百八十
兩 米一千九百二十六石八斗

左營

該銀一萬二千三百八十四
兩 米一千九百二十六石八斗

深井堡

歲共該銀一萬二千三百八十四
兩 米一千九百二十六石八斗

宣府驛

歲共該銀一萬二千三百八十四
兩 米一千九百二十六石八斗

雞鳴驛

步軍統領
銀二百四

附驛通工料

宣化驛

馬積夫一百八十六名每名月支工食銀一兩
該銀二千二百三十二兩 遇開加銀一百八
六兩 原額馬七十六匹每匹月支草折銀六兩
二兩六錢 新地 二十四每匹日支豆七升
二家歲共該料豆 百零四石草一萬四千

深井堡

每匹日支豆七升 二束歲共該料
一千零八十石草 萬八千八百束

馬夫二名 每名月支工食銀一兩歲共銀二十四
兩 馬四匹 每匹月支草折銀六錢歲共銀二十四
兩 八兩八錢 其夫與馬 共四及月建有添有扣
以上共原額馬一百三十四匹每匹日支豆四升每
升價四錢共銀五百三十四兩四錢其馬夫
乃原額馬料銀在本縣地丁開濟其馬夫銀在
定府道

論曰國家置官吏設算故皆仰食于農故一絲一粒

農之膏脂堪憫而或負冗役坐享其膏脂充當
老百之身其 屬民孰甚焉故費冗食而厚
精以養其必留別伐植有做矣練技勇而老弱
汰其虛冒則敵愾有恃矣若飾省致交謫而相蒙
罔下游情致虛僑而禦變無能豈裕國衛民之良
法哉

宣化縣志卷之十一

備備志

成王... 田軍... 之制... 地方... 呈為井井十

為通通十... 成... 為終終十... 同同十為封封

十為... 有稅有賦... 以足食賦以足兵兵民交裕

儲... 自為... 備也... 井制既連... 度廉易... 又... 以邊

... 火無... 處若弗... 多方儲蓄... 後將

也為

... 各... 馬... 月... 支... 權... 二... 石... 步... 軍... 總

... 病... 故... 者... 五... 年... 發... 內... 郡... 民... 丁... 轉... 餉

永樂十三年發內郡民丁轉餉

... 山... 西... 河... 南... 及... 鳳... 陽... 淮

... 至... 十... 七... 年... 又

... 罪... 十... 石... 流... 罪... 八... 不... 獲... 罪... 六... 石... 杖... 罪... 四... 石... 答... 罪... 二... 石

... 時... 以... 鎮... 倉... 缺... 糧... 罪... 法... 司... 囚... 人... 運... 糧... 贖... 罪... 雜... 犯... 死

各府州縣民運糧

召增食軍月廩

元年令... 兵入... 其... 除... 家... 給... 正

各三斗

正統十二年令歲運糧直給軍

令... 歲... 運... 銀... 十五... 兩... 於... 宣... 府... 糧... 買... 糧... 料... 未... 與... 折

...

糧赴

年年

天... 元... 均... 邊... 軍... 月... 餉

令... 都... 司... 所... 屬... 沿... 邊... 不... 收... 守... 墩... 旗... 軍... 布... 給... 布... 四... 疋

全... 支... 本... 色... 共... 餘... 三... 軍... 恩... 軍... 并... 旗... 手... 等... 衛... 調... 去... 入... 伍

軍... 匠... 該... 布... 疋... 者... 疋... 折... 紗... 綿... 花... 一... 筋... 八... 兩... 其

... 合... 餉... 軍... 月... 餉

... 令... 宣... 府... 各... 城... 選... 撥

... 五... 斗... 十... 九... 年... 令... 宣... 府... 各... 城... 選... 撥

宏治三年詔會計軍需

令萬全都司所屬衛所官軍軍糧折色撥解赴
管內各處六月令沿邊征討等項官軍出百里
外支口糧一升五合都指揮與把總等
原支口糧一升七合
原在營
任支如在百里
外起關隘支者聽撫按官奏奏又令鎮巡官巡
邊不得多帶人
馬溢支糧料

嘉靖二十一年詔運粟助邊

前尚書翟鵬以年饑軍太困乞運京粟二十
萬不濟宣大詔從之官府運十萬不又乞將宣
大
兵云

請定糧餉經久之

宣化縣志

卷之十一

儲備志 三

隆慶四年在兵年例十三萬五千兩嗣後
宣大用外軍糧
歲計十七萬
五千有奇
如留

四十一 年發帑金二十萬給宣鎮軍餉

從撫臣汪道
亨之請也

四十八年秋命官賣帑銀以給邊軍

七月二十一日神宗妥駕奉皇太子令旨
解赴九鎮先到

以真銀歷年增餉

增餉度又雜費乃遺科
助科而巨大共遣一員

八年宣府巡撫陳新甲疏請督饒民運

以天啓七年起至崇禎七年終止山東山西河
南三省真保等處
完民運一百一十一
萬人千九百八十三
未完確數勒令認限自解不
延其歷年

詔設倉米四萬石私軍

先是七年亦發米熟萬皆用車搬法大約以懷
交為適中之地然後各路分運于緊要城堡

十二年增練餉給軍

是年有增餉之增餉又言勦餉之派與此名為三
餉海內民不堪命時宣以邊地不在派中及奉
兵仰給司農焉

皇清順治十年奉

宣化縣志

卷之十一

儲備志 四

部差來查侵餉

總督佟養量疏奏情
刑部覆據疏稱散紀
千五十八十餘兩
坐外中軍餉銀
兵剛阿太侵餉銀
二兩餉司內書孫
後司陸元侵餉銀
二千五百一十五兩
旨侵餉有請
事計銀六萬七千
各軍及未招等項
各該營路印結俱
取各該營路印結
千兩委官金斌
植刑侵餉銀二千
太共交餉銀一千
五千中軍張世忠
律擬

年夏六月 上詔發京倉米運至宣府

存米作坊

戶部題該坊等查請奉
上諭近邊不可無米關
於結是緊要理應將米運至大同宣府大同相距

城道路遠脚價繁多停其運至大同將在京
老米二十萬石運至宣府存倉備防若大同需米
晉撫撥銀兩運至大同不至有誤云奉
旨定議奉旨交兩部賢能司官一員前往會
同定議奉旨交兩部賢能司官一員前往會
同定議奉旨交兩部賢能司官一員前往會

宣化縣志 卷之十一 儲備志 五
百餘石運至宣府存倉備防若大同需米
晉撫撥銀兩運至大同不至有誤云奉
旨定議奉旨交兩部賢能司官一員前往會
同定議奉旨交兩部賢能司官一員前往會

宣化縣志 卷之十一 儲備志 五
百餘石運至宣府存倉備防若大同需米
晉撫撥銀兩運至大同不至有誤云奉
旨定議奉旨交兩部賢能司官一員前往會
同定議奉旨交兩部賢能司官一員前往會

宣化縣志 卷之十一 儲備志 五
百餘石運至宣府存倉備防若大同需米
晉撫撥銀兩運至大同不至有誤云奉
旨定議奉旨交兩部賢能司官一員前往會
同定議奉旨交兩部賢能司官一員前往會

宣化縣志 卷之十一 儲備志 五
百餘石運至宣府存倉備防若大同需米
晉撫撥銀兩運至大同不至有誤云奉
旨定議奉旨交兩部賢能司官一員前往會
同定議奉旨交兩部賢能司官一員前往會

宣化縣志 卷之十一 儲備志 五
百餘石運至宣府存倉備防若大同需米
晉撫撥銀兩運至大同不至有誤云奉
旨定議奉旨交兩部賢能司官一員前往會
同定議奉旨交兩部賢能司官一員前往會

宣化縣志 卷之十一 儲備志 五
百餘石運至宣府存倉備防若大同需米
晉撫撥銀兩運至大同不至有誤云奉
旨定議奉旨交兩部賢能司官一員前往會
同定議奉旨交兩部賢能司官一員前往會

宣化縣志 卷之十一 儲備志 五
百餘石運至宣府存倉備防若大同需米
晉撫撥銀兩運至大同不至有誤云奉
旨定議奉旨交兩部賢能司官一員前往會
同定議奉旨交兩部賢能司官一員前往會

宣化縣志 卷之十一 儲備志 五
百餘石運至宣府存倉備防若大同需米
晉撫撥銀兩運至大同不至有誤云奉
旨定議奉旨交兩部賢能司官一員前往會
同定議奉旨交兩部賢能司官一員前往會

宣化縣志 卷之十一 儲備志 五
百餘石運至宣府存倉備防若大同需米
晉撫撥銀兩運至大同不至有誤云奉
旨定議奉旨交兩部賢能司官一員前往會
同定議奉旨交兩部賢能司官一員前往會

之類耳 此項捐納草
上並給京兵與陝西兵云
民諸
核自年額徵米豆
一石二千九百七十九石二斗

康熙 四十九年以前存倉米
四十九百六十五石 存倉七石 八千一百七十三
二升九合七勺零

四十四年以後
每三除左右兩營茶井雞鳴及塘撥等米一千八
兵丁又驛馬夫役孤貧等工食共用

宣化縣志 卷之十一 儲備志 六
一石豆三千二百七 其餘俱共前存倉
十六石外

一均貯康熙三十六年撥高陽縣庫將採買均貯米
時宣化分領銀一千一百
兩採買米一千一百石

四十年 三月內 上諭查核倉儲以備賑濟
周德榮覆結得存貯米一千一百四石一斗
今今三萬四千三百八十七石十三升五合

五十五年四月內巡撫題 題在借糶三分之一
內奉撥 價米五百四十八石六斗五升零所存
米谷照十分之三採米五百五十五石四斗四升每
減價糶大錢一百七十八文不等共錢九千

宣化縣志 卷之十一 儲備志 六
一均貯康熙三十六年撥高陽縣庫將採買均貯米
時宣化分領銀一千一百
兩採買米一千一百石

宣化縣志 卷之十一 儲備志 六
一均貯康熙三十六年撥高陽縣庫將採買均貯米
時宣化分領銀一千一百
兩採買米一千一百石

宣化縣志 卷之十一 儲備志 六
一均貯康熙三十六年撥高陽縣庫將採買均貯米
時宣化分領銀一千一百
兩採買米一千一百石

萬六千五百八十八文羅谷一千八百四十九石三斗每斗減價買大錢八十五九十文不等共大錢一萬六千二百三十三文借過真正銀二千作銀一兩共銀一千三百四十四分五厘九毫本年十月將保定之銀四十六年正月

一 宣統四年三月內 上諭戶部一切應

行事宜宜悉心講

縣令周德榮覆稱宜行社會直撫批允本年官民共捐一千二百五十八石七升一合

四十二年六月內部堂李 檄令勸捐為民救富之法

法

宣化縣志 卷之十一 儲備志 七

時安溪李公諱九地帶吏部尚書銜巡撫采定撤下府州縣限八月內應舉應停具文申 導行

宣化是年勸捐共一千一百五十五升

四十二年五月內部堂李再 檄勸捐

知縣胡介詳定置米谷各城堡寬固寺完公舉老人管理出納是年 捐六百六十三 九斗九升

又續捐一百七 六斗五升

四十四年四月內部堂李查社會米谷確數發到社

倉條約并朱子社記一本勸諭捐輸

止有三 餘石知縣陳坦詳九口北道李暫為通

本城所備四百餘石內奏借上葛峪趙柳等

四十五年三月內部堂李 檄令勸捐

是年共 五百四 石五 六升

宣統四年三月內部堂李 檄令勸捐

宣化縣志 卷之十一 儲備志 八
若千借還若干得息若干登記明白至次年亦將州縣此外官吏不得借端稽察以滋擾累一積地遠近務期散便民為要一司事之人不拘禮數倘有出納不實即屬平里所信重者為主如須建倉應俟大有煩書積貯繁多之時再為酌議

宣化縣志 卷之十一 儲備志 八
宣統四年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統五年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統六年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統七年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統八年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統九年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統十年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統十一年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統十二年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統十三年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統十四年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統十五年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統十六年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統十七年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統十八年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統十九年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統二十年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統二十一年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統二十二年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統二十三年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統二十四年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統二十五年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統二十六年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統二十七年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統二十八年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統二十九年三月內部堂李 檄令勸捐
宣統三十年三月內部堂李 檄令勸捐

附錄安朱子社倉記

乾道戊辰春夏之交建人大饑于居崇安之開耀
 文宇朝奉即劉侯之勤侯與民之善盡從事里人方
 歲寒下其直以賑之劉侯與民之善盡從事里人方
 派粟亦且獨而侯與子憂之不知所出則以書請
 上系于府時數文閣待制徐公喜知府事即
 鄉人行四十里受之黃步下歸籍口大小仰
 食者若于人以同受粟民行無饑以死無不
 泉手就食矣及秋公奉祠以去而直敷文閣東
 陽王公准繼之是冬有年民愿以粟償官貯里中
 民家將輦載以歸有司而王公曰歲有積里不可
 上其籍于府劉侯與予既奉教及明年夏人請于
 宣化縣志 卷之十一 儲備志 九

府曰山谷細民無益藏之積新陳未接雖歲不
 免曰倍稱之息貸食豪右而官粟積于無歲不
 後將紅腐不復可食願自今以來歲一散既以
 衛民之急又得易新以藏俾願貸者出息什二又
 可以抑僥倖廣儲蓄即不欲者勿強或不幸小
 亂則弛半息大股則盡歸之於以惠活縣寡塞禍
 而王公又去直龍閣管頂沈公度之劉侯意與
 子請日粟分貯民家於守視納之息宜可辦沈公
 為之且命以儲之不過出捐一歲之息宜可辦沈公
 從之且命以儲之不過出捐一歲之息宜可辦沈公
 也身且更材寫其役于是得藉坡黃氏廢
 而劉侯亦將什郎瑋復與其父皆有力於是倉
 修職郎瑋亦將什郎瑋復與其父皆有力於是倉
 上書禮請焉四人者遂皆就事方且相與籌謀

宣化縣志

卷之十一 儲備志

十

之利病具為條約會丞相清源公出鎮茲士
 問俗子與諸君因得具以所為條約者迎白于公
 公以爲則爲山教俾歸揭之相間以視來者於
 之制縣都百有委以有程可久而不壞矣所謂成周
 業至于深也長谷力稱遠輸之民則雖饑餓亦
 而之能及也又其爲法大密使吏之避事畏法者
 或累數十年不肯發往全其封饋通相付授至
 則已化爲浮埃聚壤而不及此然而未之有改者豈不
 至社不審其庶豈不及其人欲一聽其所爲則懼其
 計私以善公欲謹其出入同於官府則均校靡密
 上下相通其害又必有甚於前所云者以難之
 而不弗暇甘今幸數公相繼其幾民慮遠
 出乎法令之外又皆不鄙吾人以爲不足在故語
 宣化縣志 卷之十一 儲備志 十

人得以及是數年之問左提右挈上說下導遂能
 爲邦國立此無窮之計是豈吾力之獨能哉後
 取疑於上視其所遺之不易者如此無計之善公以
 心焉則倉上之利亦豈止於一時其視而徵之者
 不若告後之君子云淳熙
 午夏五月丙戌新

論曰古者田賦之制寓兵于農遐哉尚已明時國為

亦亦下達乃余公子俊稍變其法而圖種遂

亂軍之坐席支給以至今惜之若民儲夏法一則

耿壽昌之常平穀貴則賤糶谷賤則貴糶即李愔

平糶亦通輕重之權也一則取胃之糶倉私稅

二升收貯于倉荒歉散于民又未平之社倉民

自為貯之亦豐歉以收息米于鄉之窮民最有裨

益也 國家屯糧外均貯時為借糶實以常平社

倉之妙于社倉分藏各村堡每歲勸捐增直為

宣化縣志

卷之十一 儲備志

十一

藏富于民但青黃不接未得散濟合時出亦合法

于設倉之意似覺有辜願安得各鄉公舉得人實

心任事也方真其德哉

宣化縣志卷之十二

學校志

國尚文治 制為 毛虞夏以來厥興煌煌矣但宣

以荒遠無考惟魏道武置五經博士時吐谷廣寧

入六三者眾獻文帝又立鄉學契丹道宗設八州

學歸化其一金章宗元世宗皆有歸化與德興宣

化等學 漸詳 偏安草創難據為準茲溯自

有明以為考鏡之始為作學校志

明宣德七年詔置萬全都司學

宣化縣志

卷之十二 學校志

一

先洪武二年詔府州縣立學時宜鎮南經兵燹民

皆內徙故未有立是年令衛所官舍軍餘 秀者

許入附近府州縣學聽赴本處鄉試總兵都督議

廣奏請該鎮俱為兵衛無附近府縣宜別置學

正統元年詔以監察御史督 學校

是年奏准各省南北直隸 察御史各一員請勅

加考試時居庸關外等處地方俱 屬 其學校皆 是學御史管理

景泰五年 衛 學

法武至 統 鎮已立社學延師備以教民

子弟其經 斷不遇之人不許為師後令讓御製

大誥師範其徒赴禮部考較次第給賞復命 後

今後又令有俊秀向學者許補儒學生員

史樂尚約增置宣府鎮城社學凡三區

戊午年定新學制

正統四年、府一年貢一人州學三年貢二人

三衛以上軍生六十人二衛一衛軍生四十人不及者不拘有司儒學軍生二十人

宏治十四年定萬全都司學制

初成化、令軍民司衛府學例一年貢一人縣衛學每年各增貢一名至是年都指揮使王祥奏准萬全都司照府學例一年一貢其鈔都司所屬衛分少者不許監比又令歲貢生員願充教職人本監送吏部嚴加考試中者許廷試取中選用

宣化縣志 卷之十二 學校志

不中仍送回 本監肄業

嘉靖七年作上谷書院

真城中前教皇既為行宮因於其西建安樂堂處私之巡撫劉公源清巡按宗樞不可請作書院

八年詔立御製敬一箴亭碑于學宮

先是五年丙戌世宗御製敬一箴及宋儒程頤視

二年定各學固貢制

試務取文行兼優年力精壯者府學二人

一人似

恩貢 宣大巡按御史督理學政

萬曆二十二年

士止十有一人

二十三年大修萬全都司學

先是堂宇湫隘泮水滿門子巡撫王象乾百廢胥飭

建經閣 有司學官

有巡撫王象乾及翰林侍講葉向高記見藝文考

天啓元年詔選貢

宣化縣志 卷之十二 學校志

是將為十三學共得士十有二人

四年禮部覆准加宣鎮舉人類數

元是本真舉子每科不乏人如隆慶丁卯四人內卯科鉄名士子始屢此類

崇禎六年頒至孝經小學

材鮮少者皆學以教各官董戒稱方培養無術

不明前後童子入學過試必先查德行方
又教官為士子師長近皆以家庸充數教所全
院乃科舉禮的確具矣

八年召成貢

第一編試四書三篇經義二篇第二編試一表
一判一策一時合宜大兩鎮士子于直府城有
監提調官以兩鎮各道為之有考試同考試官及
受卷贈錄封讀彌封官
官州縣內取用而巡按御
合共二十八人仍存錄實于萬全都司

詔士子習射于學宮

時以流寇變亂欲得文
武兼資之材故有是詔

宣化縣志

卷之十二 學校志

四

十二年詔正文體

天啓以來文體漸僻蒙多不可解甚
至有叛往爭新者乃從朝臣請詔正之

皇清上祖章

順治元年詔拔貢

都司學二人州縣衛學各
人宜鎮十三學共十四

五年詔拔貢

選授通判
推官縣令

六年以畿內督學御史來校士

八年復以督學御史來校士

詔

九十頒至教士卧碑

詳見附錄在後

十年以畿內督學翰林院來校士

寺建方殿內
文用門林

召成貢

十二年復令巡按御史兼理學校

十五年以後仍以畿內督學
林院來校士至是遂永定焉

十四年裁減原糧三分之一

始全

十七年令歲科併為一考

北直學院遇科年
始一出科考試

宣化縣志

卷之十二 學校志

五

罷宣大鄉試武闈

自順治乙酉猶合宣武士或于宣府城或在
蔚州試之至丁酉而後令宣鎮赴京闈為試大同
人山西

省宣鎮舉人額數

宣鎮每科額例三
名自是科省一名

今上康熙三年裁去學訓導

停山房

各衛軍訓導皆為教授

鎮州龍門衛

上衛延慶衛

八 更萬全都司學為宜府前衛學

北 撫院題稱據護理口北道印務下北路
今裁去都 不便 鎮城之大學歸併州縣之小
衛學仍責令在 城同知提調

九年禮部頒至春秋取士之法

該臣等議得提督順天學 疏 秋一書目
俗儒初為傳題合題及脫 將 一洗從前詭僻
將 等語前才查各直省士子所編經書皆
遊舊例今該學院所稱春秋脫毋等題原屬扭合
與士子學業無益相應刪去以後考試止將單題
合題酌量均出何 命下之日行令各
學臣曉諭士子遵行可也奉 旨依議

宣化縣志

卷之十二 學校志

六

復歲貢

十一年禮部奏請拔貢從之

一鎮共 人前衛學 一名

十二年復科歲兩考

禮部覆臺臣張疏內止有立生 童准其兩考并未議及武生童

十四年復武生三考試技勇

刀 撮不馬 射 箭 射 小 把 射 馬 步 箭 外
鄉 會 相 應 照 舊 例 立 大 把 射 馬 步 箭 外
文 理 明 通 以 取 旨 依 議

十五年因錢糧匱乏准文童捐銀

文童生捐銀百兩得與考入童生一體
本年童生入學額數並將文童科歲兩試
暫派數目 學共 十名大 二名

十九年令捐納生

二十年復童生入學額數並停捐納生員

二十三年令各省修理文廟 有 留 以 供 登

二十五年頒至 御書匾額于學宮

御書萬世師表已昭懸于闕里廟庭仍允禮臣議頒行
天下學 摹勒匾額一如闕里式宜鎮九學屬在

宣化縣志

卷之十二 學校志

七

歲內而 郭先

命直隸督學翰林院來拔貢

禮部覆臺臣張疏內止有立生 童准其兩考并未議及武生童
二十六年命修理文廟祭器

禮部覆臺臣張疏內止有立生 童准其兩考并未議及武生童

禮部覆臺臣張疏內止有立生 童准其兩考并未議及武生童

文 理 明 通 以 取 旨 依 議

二十六年停止歲貢 廷試

准撫院咨稱歲貢已經停止
應以二十七年為始歸入起運
項下撥解至
旗匾花紅 兩仍存留支給查順
永等存歲貢
對支給其下列銀兩應照數歸入
起運項下解部咨回該撫知照可也

二十七年令修理學宮不許派累

禮部覆費撫臣 題嗣後
撥累於民者該督撫題奏
不行 被科道糾參或被傍人首
告將該督撫一併嚴行議處奉
旨依議

二十九年命經過文廟下馬並禁兵作踐

京口將軍張 題准官兵人民經過文廟務須
下馬併禁兵民不許在學宮內放羊馬汚踐

宣化縣志 卷之十二 學校志

八

三十二年改宣府前衛學為宣化縣學其儒學教授

改為教諭

昔有學士若干頃亂坐落花圍東據雞鳴山南至
收租租一百一十六石稻
六斗府縣兩學公分納糧

三十六年題定童子試令出四書題八股一道小學

題論一道 從撫李尤
地之請也

三十七年命 督 來拔貢

三十八年令學臣實行考試教官

二月行查頂冒

部覆臣鄭惟敬為敬陳頂冒事條奏一疏內開
入籍已經三十年以上人員者照例不議外凡
明以冒籍舉人 監生令其具呈自首禮部
行依議直撫李 稱 督學順天時已將冒籍之弊
考者今已查明籍貫報部另結疏內又條奏之內
原為南人而北籍混擾滋弊至于同省異府同
府異縣進學生員原未指名作為冒籍字樣從此
等人員多有籍者為隱匿之 產于降境納糧從
總禁其從前舊案恐報在 府借端生員從寬免查以安士類
皇 武舉 生鄭疏內原未有武舉武生員改歸條
奏之處但文武舉人專屬一體武舉武生員改歸籍
處亦照文舉生員許其具呈自首查明改歸原籍
肄業其出結等官亦于兩個月內開傳

宣化縣志 卷之十二 學校志

九

旨着交與九卿議奏原本發出欽此到部九卿會議將
已上各款俱照禮兵二部原議伺
命下之日通行各省遵行可也奉
旨依議

三十九年十二月九卿覆准有精熟經書小學及成

誦三五經者優錄其論題

九卿覆准直撫李條奏學臣考試之日有能將經
書小學真能精熟及真能成誦三五經者該學臣
酌量優錄其孝經論題原少嗣後考試將性
理中太極圖說通書西銘性理等篇命題

令府州縣才 生隔別同日

禮部准刑部咨
川 席之疏也

令逸拔貢將陪貢准作歲貢

亦從川書
府之請也

四十一年令舉子所作五經者額外取中至三名

鄉會試有五經者方備長卷照卷面原填本經
得過三名備准卷果多時期的量題明但四書
本留草稿不言開第二場令兼作詔語二題

宜化縣志

卷之十二 學校志

十

附社學

一在城坎位為宣府左衛社學 即今草場後街

一在兌立為宣府右衛社學 即今錢局西窪地

一在關廟中為南關社學 今橋西尚有遺址

一前衛社學附前衛治中 在鐘樓東街之地

附義學

府縣各建一所 府在府署西申公立呂公繼之

縣在鄉祠陳公立

一在南關康熙二十九年督學李公應為捐俸置

宜化縣志

卷之十二 學校志

十一

有水田一十六畝三分命生員石巖掌之 碑見

附訓士碑文

朝廷建立學校選取生員免其丁糧厚以廩膳設立
學院學道官以教之各衙門官以禮相待全要養
成賢才以供朝廷之用諸生皆當上報 國恩
下立人品所有教條開列于後 一非為之子既
母賢智者子當受教父母愚者或有非為之子既
讀書明理當再三懇告使父母不陷于危亡
生員立志當學為忠臣清官書史所載忠清事蹟
務須互相講究元利國愛民之事更宜留心
生員心術刻讀書必無成就為官必取福忠行
害人之事者往往自致其身常宜思省 一生員
不可干求官長交結勢要希圖進身若果心善德
全上天知之必加以福 一一生員當愛身忍性凡
有司官衙門不可輕入即有切已之事止許家人

代告不許干與他人詞訟亦不可牽連生員作証
一為學當尊敬先生若講說百須誠心聽受如
有不明從容再問毋妄行辯難為師者亦當盡心
教訓勿致怠惰一軍民一切利害不許生員上
書陳言如有一言起白以違制論熱革治罪鄉
生員不許妄行刊
刻違者聽提記官治罪

訓飭士子文

國家建立學校原以興行教化育人才典至渥也
朕臨御以來隆重師儒加意庠序近復慎簡學使
釐剔弊端務期風教修明賢才蔚起庶幾榘模作
人之意乃邇年士習未端儒效罕著雖因內外臣
工奉行未能盡善亦由爾諸生積錮已久弊難改
易之故也茲特親製訓言再加警飭爾諸生其敬
聽之從求學者先立品行次及文學術事功源
委有序爾諸生幼聞庭訓長列官墻朝夕誦讀寧

宣化縣志

卷之十二 學校志

十一

無講究必也躬修實踐砥礪廉隅敦孝順以事親
乘忠貞以立志窮經考業勿雜荒誕之談取友親
師悉化僑益之氣文章歸于醇雅毋使浮華執度
式于規繩最防蕩軼子衿佚達自肯所遊苟行止
有虧雖讀書何益若夫宅心非淑行已多愆或畫
語流言胥制官長或隱擢包訟出入公門或唆撥
姦狡欺孤凌弱或招呼朋類結社濫竊章回之
各教不容鄉黨勿爾會科名乃檢才大典關係尤
重上子果有真才實學何患困不逢年願乃探榜
虛名暗通聲氣賈綠泥遇周顧身家又或改竄鄉
貫希圖進取交騰沸網利營私種種弊端深可
痛恨且作奸犯科則異時敗檢瑜閑何所不至又
獻便已作奸犯科則異時敗檢瑜閑何所不至又
安望其秉公持正為國家宜樹積庸後先至疏附
之選哉朕用嘉真爾等故不其反復倦茲訓言
頒到爾等務共體朕心格遵訓詞一切痛加改省
爭自濯磨積行勤學以屬上進爾家三年登造束

帛引旌不特爾身有榮即爾祖父亦增光寵矣
時得志率俛他求哉若仍視為具文玩愒勿能
方躍冷泉棄自甘則是爾等真頑無知終不能
教也既負栽培復干咎戾王章具在朕亦不能
爾等竟敢自茲以心內而國學外而直省鄉校凡
學臣師等自有司之責者宜傳集諸生多方
董勸以副朕意爾等則職業勿修符亦難遣勿謂朕
言之不預也爾等尚做聽之哉

宣化縣志

卷之十二 學校志

十二

論曰學也者忠孝廉節之鵠也故設學官置師儒漸

摩體讓美為國家收養士之報士亦務期爭自濯

磨無媿于德行道藝之選是乃謂之真學此三代

盛時選賢舉能以奏邗隆也迨漢之策試唐之詩

律宋之經義漸以文詞相高而明之科場制莠習

于華藻近更流為奔競及一行作吏所用非其所

學致風雲月露祇以飾其食墨而謹廉端介眾共

嫌為迂腐學優無濟于仕仕優更不必學學之趨

向良可浩歎願安得講明正誼敦尚古處稟彛教

宣化縣志

卷之十二 學校志

古

以物躬本道德而同風使學之名實俱正哉

宣化縣志卷之十三

祠祀志

祀典調施膏澤黎民慮凡有功德于民者則祀之

故祀神原以禱且非黷于冥幻以神其教也宣自

漢唐以來諸祀壇場牲牢常式雖有傳聞實多湮

沒惟明之遺搆既廢其以行亦復燦然故斷自有

明及我 昭代業為正祀以光典禮至於先師文

廟宣化之源他若忠義遺魂宜馨俎豆是皆有闕

彛教者也為作祠祀志

宣化縣志

卷之十三 祠祀志

一

明洪武二年禁人毀撤祠宇

先王命申書省令各處訪求應祀神祇名山大川

凡有功德於國及惠愛在

民者具實以聞載於祀典令有司歲時致祭至是

又令祀典神祇有司依期享祀其不在祀典而書

有功德于民者隨時請祀其祠宇禁人

毀撤七年禮部書定城隍社稷之祭立配位各用

羊一豕一尤九年令在外祭祀典神祇

宜以馬敬尊卑為序十一年令在外祭祀典神祇

中祀俱用幣小祀止用牲禮十四年令在城祭山

川等神以文官一員行禮武官不預如軍民

從本司行之

二十七年立本鎮社稷壇

谷王命所司建宣德初總兵官承寧伯譚廣重修

壇制東西二丈五尺南北二丈五尺高三尺四出

陸各三級壇下前十二丈東南各五丈餘以周
垣四門紅油北門入石主長二尺五寸方一尺埋
甌南正中去壇二八五寸止露圓尖餘埋土中神
牌二以木為之殊漆青字身高二尺二寸闊四寸
五分厚九分座高一寸五分闊八寸五分厚四寸
五分臨祭設于壇上以鈹口盛頓祭畢藏之神廚
神庫宰牲房各一間鋪牲桶四隻祭期用
每歲仲春秋上戊日祝文曰惟年月日某官某等
敢昭告于府社之神府稷之神日品物資生蒸民
乃粒養育之功司土是賴維茲入禮宜告報祀
有壇嘉靖戊申巡按御史盛庶品式仍舊尚饗
修

二十八年立本鎮風雲雷雨山川城隍壇

谷上命所司建總兵譚廣重修每歲春秋仲冬上
節日同壇祭設三神位風雲雷雨居中山川居
左城隍居右風雲雷雨四山川居二城隍居一
俱白袍其祭物祭器獻官及齋戒省牲陳設正祭

宣化縣志

卷之十三 祠祀志

二

迎神並與社稷禮同但臨祭時執事者先以毛血
塗于坎奠帛初獻先詣風雲雷雨神位前次詣山
川神位前次詣城隍神位前次詣讀祝所讀祝畢
羊一腳徹饌送神望燎禮畢其祝文曰某官某等
敢昭告于風雲雷雨之神宣府境內山川之神宣
府城隍之神日惟神妙司神獲生育萬物奠我民
居足我民食其等飲承神守方百今當仲春
秋謹具牲醴庶品用伸常祭尚
增嘉靖戊申御史藥尚約重修

永樂八年置本鎮萬壇

歲清明日七月十五日十月一日祭無祀鬼神先
期主祭官齋戒詣處城隍發告文至期設其儀
位於壇上設禮祀鬼神位始置壇宜德行禮城隍
式具載洪武禮制是年鎮始置壇宜德行禮城隍
官譚廣修宏治八年徙置舊址東北義塚前其餘
州縣衛所城外俱各有壇建年不一府州名郡屬

縣衛各邑屬村堡各鄉屬邑祭物牲用羊三豕
二飯米三石香燭酒紙隨用若各物堡者老祭無
祀鬼神專祈禱民庶安康草書書盛
亦每歲三祭祭物牲酒隨鄉俗置辦

十七年作旗幟廟

宣德中總兵官廣重建廟設軍牙六豕神位春
祭用鶯鷲日秋祭用霜降日祭物用羊一豕一帛
一白色祝一香燭酒果先期各官齋戒一日至日
守禦長官武服行三獻禮若出正直無私指揮軍
班助揚威儀置於廟祭文曰惟神功等飲承上命守禦今按
准茲仲春秋謹以牲醴庶品用伸常祭尚饗茲土
庶廟正殿設軍牙六豕神牌仍塑昭烈武成汪
武廟除鶯鷲整霜降祭外其諸神未嘗有祭

宣德元年作本鎮城隍廟

宣化縣志

卷之十三 祠祀志

三

廟建於洪武二十八年規制頗隘至是重建正統
十四年都御史羅亨信修宏治四年復修皆加以
府日公州日侯縣日伯後又詔去封號止稱
州縣監察司民城隍之神其公解設公座筆
云山守令主祭新官到任則塑其與神誓不得厲
民按周禮有司民之祭月月初詔封
神為監察司民意或有其於此

七年詔萬全都司作文宣王廟

先代廟學毀總兵承寧伯譚廣請建詔從之宏治
八年都御史陳泰奏請設樂明初頒樂章云文宣
聖道尊崇格於昭祀斯有禮樂自生民來禮樂其
隆神其來格於昭祀斯有禮樂自生民來禮樂其
盛維王神明度越前聖象帛具成禮容斯稱黍稷
非馨性神之德有真帛大哉聖王實天生德作樂
以崇時祀無教清肅惟馨嘉牲孔碩薦修神明庶
昭昭格有初欽百工宗師生民物執瞻之洋洋神

八年勅脩彌陀寺

其停止酌彼金鼎惟清且自登獻于三於啓成禮
有亞終獻儀象在前互遷在列以享以薦既芬既
潔禮成樂備神和人悅祭則受福共遵無越右徽
候有嚴學宮四方來宗恪恭祀事威儀雍雍歌格
惟馨神馭遐復明斯
畢成廣百福右送

大學士楊
士奇有記

九年勅脩朝天觀

大學士楊

正德二年作北極真武廟

鎮城廣靈門內都督朱謙建正殿六楹搆土塑神
于正中殿凌冕秉圭為朝天之相侍以玉女天神

宣化縣志

卷之十三 祠祀志

四

皇極印劍各有所執水火則棟其足左右列以十
二神威赫然前作儀門塑六丁六甲神將後為
又絕銅鑄神披髮仗劍降魔之相左右亦侍
東西翼以長廊廣廉盤繪神功行之跡外關
神曰瑞垣周
發制甚宏備

五年夏重作火神廟

在神鎗庫內永樂初建至是重
修詳見國子監祭酒李時勉記

六年作馬神廟

廟在宣府左衛東祀馬祖之神先牧之神馬社之
神馬步之神皆木上歲以仲春秋守巨將事鄭注
曰馬祖者天駟也先牧謂始養馬者社謂始乘馬
者馬步謂神為馬災害者合而禱之蓋古今通禮
然云

七年作漢壽亭侯祠

明初南京漢前將軍壽亭侯關公廟因孟成慕建
應天府官祭五月十三日遣太常寺官祭宣鎮建
廟祭自明初迄正統年鎮守等官重作於定安門
內時享不忒其餘社人眾陰被捍禦舊忠之功
者無不建祠以報
之蓋成增而月仍云

景泰三年重作龍神廟

在彌陀寺街西正統年重作此外在廣靈
門外里許者天順年建在城隍廟東者成化年建
在南關者
之百年建

天順四年作文昌祠

宣德間廟附文廟至是都御史韓雍徙建撫臺西
後劉都御史源清易額祀死事武臣以神像置後

宣化縣志

卷之十三 祠祀志

五

成化二年作八蜡廟

殿嘉靖三十七年都御史張鏞于
書院東重作殿宇移其像祀焉
古史崑山葉盛
改古寺為之有記

宏治十七年作鄉賢名宦祠

時巡按御史臧鳳建祠以祀名宦公廣葉公盛
及鄉賢潘公澤而下諸人後為家所囑師生一
切鄉情漸致混淆無以昭示勸懲君子病之嘉靖
十年巡撫都御史劉源清痛加釐正今更三十餘
年而混淆之弊殆如昔矣嗚呼師生之狗情也
師主之玷於名教也而棄家子孫嗚呼其先
人意將以為孝乎抑古人謂先人無其美而子孫
稱之者為不孝其尚未之聞乎悲夫按劉公
潘澤朱永周賢江洪林春李經門寧宋傑張賢

四十六年作藥王閣

在鎮城北郊二里外赤脚僧明珠募建閣高三丈
穴其下為南北大道左右岡阜拱抱若關隘然西
南與眺遠臺犄角山北與北嶽行宮相望亦
鎮會之偉觀也赤脚僧者磁州人俗姓段氏

天啓三年建魏忠賢祠

祀權閣魏忠賢也熹宗時祠宇幾遍天下毅皇即位
命盡毀天下廟祠今廢址在米市街
西

崇禎二年詔作鎮守山海狗難總兵官贈少師滿毅

忠祠

滿公諱桂祠在鎮城南關
今被族人拆賣僅存廢址

宣化縣志

卷之十三 祠祀志

八

十一年重修屬壇

屬壇在鎮東餘房屋皆修理順治年間殿屋未
及有受神之所今惟餘四壁片瓦無存每歲三
祭則迎城隍位于壇西龍王堂內衰慢神祇于
斯為極將來壇費凋于亂塚惜無力修復奈何

皇清順治十年改作故總兵張公祠

祠本在鎮城朝元觀內歲久而不足蔽風雨
至是有需弗山人者寓觀內講學與同社生移修
焉講公號月庭明永樂時以承寧伯來鎮斯土鎮
城學宮及諸寺觀多其興建者有遺愛于民故沒
世不忘

十四年重修朝天觀及觀之九天殿

按前誌明大學士楊榮記宣德九年鎮帥承寧伯
譚廣修規制宏達繪塑精雅其九天殿神像後中

壁有白雲山水尤為生動相傳為仙筆順治丁酉
秋季竟燬于火是年道士募建殿成摹繪前景萬
不及一而于觀之垣室厨亦多整
理觀門內舊有松數株皆百年物

十八年夏作忠義祠

開鎮人民捐資祠殉難巡撫朱公之馮及文學姚
君時中有禮部尚書王公崇簡碑記見藝文志

今上康熙元年重修彌陀寺

按前誌明宣德八年鎮帥承寧伯譚廣修見大學
士楊士奇記寺內引水灌溉之餘從山門下南出
建有一橋曰虎溪蓋取廬山達公送客至橋則止
過橋則嘯之意云歷年既久周垣多頽人物雜踏
致頽圯是雖一切補葺然工程浩大非歲時可
為鎮城第一古刹
故書以待來者

宣化縣志

卷之十三 祠祀志

九

八年重修城隍廟泰山殿

見藝文志

十七年重修武成王廟

廟久頽敝至是鎮帥閻可權捐募加
修又罷廟西之閣以資焚修有記

十八年重修黃羊山朝陽寺之三元殿

殿建于明神宗萬歷丙申迄今八十三年而敝鎮
帥閻可權累因亢旱來禱而見之爰鳩工重建斯
舊增潤二丈有三尺深稱之高亦
不下二丈有胡以代撰碑記

二十二年重修大三元宮

邑八胡以撰
記見藝文志

二十五年直撫徽行崇祀名宦

從畿內士民之請也初祀前任直省總督蒞動愍朱呂維山東高唐人前任直隸巡撫陞兩江總督議清端于成龍山山承寧人續祀前任直省總督李蔭祖遼東人前任直隸巡撫文清格爾古德滿洲人四公皆節鉞中賢者其令德善政波及于宣鎮匪淺也允宜俎豆以風後賢

二十五年重修大悲寺

寺有都督問可權廟進士刻以濕記見藝文誌

三十五年 月內

賜永寧寺僧香火銀

寺多傾圮太師右丞相秦王伯顏答剌罕捐金修

宣化縣志

卷之十三 祠祀志

十

之

公山口外回 鑾經過此山 賜金五十兩付郡約 馬雲章世學等收作香火 章等公買水地五十畝 聖恩云

三十六年重修文昌祠

知縣周德榮 捐俸修之

三十九年重修東嶽廟

知府申 奇貴修

四十年作于公祠

祠在草市東邑人 公建肖像以祀之

附縣治內各寺

前已記 者不載

普濟寺 在城南廣惠橋內時恩寺 在府

首座寺 在五虎街北

地藏寺 在西門內

龍王廟 在地藏寺隔壁

小觀音寺 在皇城

大觀音寺 在觀音橋西

關王廟 在

彌勒庵 在水橋東

慈聖寺 在副橋

靈雲寺 在觀音橋後

五嶽廟 在西關北

馬神廟 在野東橋

泰山廟 在市街

慈寺 在東門橋

伏魔宮 在市街

財神廟 在戶部橋

關帝廟 在數手

宣化縣志

卷之十三 祠祀志

十一

鄉祠 在小橋東內有口 隆興寺 在街廟寺

太平庵 在錢局街

聖佛寺 在立輝街

關王廟 在城南門

觀音寺 在南關

真武廟 在南關

龍巖寺 在南關西

黃光寺 在南關

龍王廟 在南關

三官廟 在南關

八蜡廟 在東關

龍王堂 在東門外

龍王堂 在北門外

龍王廟 在洋河橋

真武廟 在西草場

新財神廟 在西關底

三官廟 在水橋

老君廟	鐵佛寺	大真武廟	靈侯廟	真武廟	禁約寺	藥王廟	祖宮	關帝廟	真武廟	皇廟	觀音堂	關帝廟	關帝廟	靈官廟	立化寺	睡佛寺	華嚴寺
在水門	在黎家街	在觀橋西	在昌平大街	在東水滸	在市東	在園營橋北	在市街西	在皇城	在大街	在開新街	在流水巷	在大街	在折角	在府街	在兒街	在	在大
三靈侯廟	關帝廟	東嶽廟	三清宮	石柱寺	靈官廟	九天廟	海會庵	眼光殿	三賢廟	真武廟	真武廟	觀音堂	地藏寺	十方院	善化寺	觀音堂	莊嚴寺
在城隍廟街	在西街	在林街	在內有七賢廟	在江家街	在觀橋西	在米市街重修	在廣城街	在林街	在街	在紅樓	在西街	在西街	在府街	在草廠	在城隍廟後街	在城西	在北

宣化縣志 卷之十三 祠祀志 十一

真武廟	萬善庵	普陀庵	清真寺	立禪寺	楊宮寺	碧霞寺	觀音堂	勒馬廟	關帝廟	真武廟	真武廟	觀音堂	觀音堂	觀音堂	觀音堂	觀音堂	觀音堂
在坑	在頭	在道署西	在道署西	在北角	在北門	在街	在街	在街	在院後	在街	在街	在街	在街	在街	在街	在街	在街
大子孫廟	小子孫廟	石佛廟	清真寺	崇善寺	千佛寺	觀音堂	觀音堂	龍王廟	瑞雲寺	真武廟	真武廟	觀音堂	觀音堂	觀音堂	觀音堂	觀音堂	觀音堂
在北角	在三賢廟街	在乾橋南	在回廊北	在街	在街	在街	在街	在街	在街	在街	在街	在街	在街	在街	在街	在街	在街

宣化縣志 卷之十三 祠祀志 十二

鎮城文廟先賢先儒序列位次

康熙十八年教授陳樾芳修補兩廡木主其名稱位次尚多未當至二十七年秋季有宋生者訪及錄如左

四配

顏子 名回字子淵魯人

曾子 名參字子輿魯人

子思 名伋伯魚孔子孫

孟子 名軻字子輿漢書子車都人

十哲

孔子 名損字子襄魯人

冉伯牛 名耕以字行魯人

冉仲弓 名雍以字行仲牛宗族

宰我 名予以字行魯人

宣化縣志

卷之十三 祠祀志

十四

端木子 名賜字子貢衛人

冉有 名求字子有仲弓族

子由 字子路一字季路魯之卞人

言游 字子游魯人

卜子夏 名商衛人

顓孫子張 名師陳之賜城人以字行

東廡先賢

澹臺滅明 字子羽魯武城人

原憲 字子思魯弓作仲憲宋人

南宮适 史記作括家語作紹字子容

商瞿 字子木魯人

漆雕開 史記作子開家語作子若

樊須 字子遲家語魯人鄭康成云齊人

公西赤 字子華魯人

梁鱣 字叔魚齊人史記注作鱣

冉孺 家語作備字子魚史記字子魯

伯虔 字子析魯人

冉李字子

漆雕徒父 家語作徒父字之文

漆雕俊 史記作俊字子敏

任不齊 家語字子逸史記字選楚人

商澤 字子季史記作子季

奚容蒧 史記字子偁

公良儒 史記作儒字子正陳人

句井疆 字子疆史記作句井史記正義作鈞井闕里志字子野

秦祖 字子南鄭康成云秦人

榮旗 家語作祈字子旗史記字旗

左人郢 家語作左郢字子行史記字行

薛邦 字子從史記薛為鄭又通漢高祖諱

為邦

廉潔 字子鹿衛人

原元 字子抗家語作元元字子籍史記作元元籍

宣化縣志

卷之十三 祠祀志

十五

狄黑 字子皙

孔忠 字子茂史記作孔字孟皮之子

西荻 字子尚

秦非 字子之

申棖 家語作績字子周史記作申黨字周魯人

顏喻 字子聲

東廡舊有顏何唐孔穎達以字畫相似去之

西廡先賢

宓不齊 字子賤魯人

公冶長 字子長史記作冶人

公析哀 字季沈史記作公析哀齊人

高柴 字子羔家語齊人史記字子

司馬耕 字伯牛家語作司馬黎耕宋人

有若 史記字子若魯人

巫馬期 字子斯史記作巫馬斯陳人

顏辛 史記作辛字子柳

曹恤	字子循 蔡人	公孫龍	字子龍 蔡人	秦商	字子丕 蔡人	公虞守	字子仲 蔡人	宰父黑	字子索 蔡人	縣成	字子模 蔡人	叔之僕	字子叔 蔡人	叔仲會	字子會 蔡人	宣化縣志	卷之十三	祠祀志	六
顏高	字子驥 蔡人	石作蜀	字子明 蔡人	后處	字子齊 蔡人	卽單	字子乘 蔡人	公祖句茲	字子無 蔡人	燕級	字子思 蔡人	樂款	字子聲 蔡人	却奕	字子致 蔡人	公西與如	字子如 蔡人	施之常	字子常 蔡人
高堂生	字子伯 蔡人	董仲舒	字子廣 蔡人	左丘明	字子明 蔡人	穀梁赤	字子始 蔡人	步叔乘	字子車 蔡人	其	字子其 蔡人	兩廡先儒	左丘明	公羊高	字子周 蔡人	伏勝	字子賤 蔡人	董仲舒	字子廣 蔡人

孔安國	字子國 孔子十一世孫	毛萇	字子康 趙人	后倉	字子康 海州人	王通	字子履 龍門人	胡瑗	字翼之 海陵人	邵雍	字堯夫 范陽人	司馬光	字君實 見獨人	程顥	字伯淳 洛陽人	程頤	字正 見獨人	張載	字子厚 邵州人	周敦頤	字茂叔 道州人	歐陽修	字永叔 廬陵人	韓愈	字退之 唐儒	杜之春	字上俱 襄陽人	啓聖公祠配饗四位	曾點	字子皙 魯人	顏無繇	字子路 魯人	孔鯉	字子皙 魯人	孟孫激	字子激 魯人														
朱熹	字晦翁 婺源人	張栻	字敬夫 衡州人	呂祖詠	字晦翁 伯恭人	蔡沈	字仲默 建陽人	許衡	字平仲 河內人	陳獻章	字公甫 新會人	王守仁	字伯安 餘姚人	陸九淵	字子靜 金谿人	真德秀	字景元 浦城人	薛瑄	字德溫 河津人	胡居仁	字叔心 餘干人	李綱	字愿中 相州人	胡安國	字康侯 崇安人	羅從彥	字仲素 劍州人	程頤	字正 見獨人	程頤	字正 見獨人	張載	字子厚 邵州人	周敦頤	字茂叔 道州人	歐陽修	字永叔 廬陵人	韓愈	字退之 唐儒	杜之春	字上俱 襄陽人	啓聖公祠配饗四位	曾點	字子皙 魯人	顏無繇	字子路 魯人	孔鯉	字子皙 魯人	孟孫激	字子激 魯人

從祀四位

程珣

溫伯

朱松

年

蔡元定

季通沈之父

周輔成

周子之父

二十年奉

上諭令武臣致敬文廟時又有修復廟樂之行按文廟

樂器大畧與太常樂制同但文廟樂六奏舞用六

佾耳

文舞用

羽

詩所謂左手執籥右手秉翟即羽也

武舞用

干

大斧也干盾也文武旌節各二

鼓 鐘

宣化縣志

卷之十三

祠祀志

大

磬 琴 瑟

此堂上之樂其樂章之歌法琴瑟之指法詳見

大成樂書

編鐘

編磬

其制亦詳見樂書

笙

排即書所謂箏也長者九寸短者四寸五分十

六孔共二架

塤

詩經註云土曰塤大如

六孔長一尺四寸

箎

竹曰箎長尺四寸圍

箠

柷

詩註云祝狀如漆箠以

之令左右以

敵

狀如伏虎背有二十七鉏鐸刻

起樂者也 以木長天操之以正樂者也

右自編鐘以下俱堂下之樂

附祭器

簋

凡八

豆

凡八 以上四配十皆俱六兩獻俱四

簠

見前

簋

爵

爵

簠

簋

樂章

鎮城學宮鄉賢祠碑

康熙二十九年致仕通判姚末康捐貲立有記

論曰虞書云典朕三禮今之祀風雲雷雨是天神之

禮也祀山川社稷是地祇之禮也祀城隍厲鬼關

帝文昌與夫名宦鄉賢忠臣義士是人鬼之禮也

宣化縣志

卷之十三

祠祀志

大

三禮畢而祭典昭他如二氏之教施塑神像競供

香火許衰導僻正道慕蕪乃茲彌陀朝元等寺觀

歷代勅建制甚巍表姑照舊志收載亦呵護一方

之意若喜佛等寺淫邪莫甚積志登載其為風俗

累者豈淺鮮哉宰斯土者虔修正祀嚴禁淫祠始

為勸左道爾先聖之大法書言絕地天通又曰隸

寡無益然則吏治修直道彰乃可與于斯旨已

草云陳倉胡荻薄皮多其葉五出者有栗花
 肥陰平胡荻大而皮脆子見一統志
 黃色東銀杏一名鴨卵見歐陽周氏花木記
 路出種密林檎花紅林檎木林檎金林檎山木瓜文官
 轉身林檎探林檎木瓜瓜宜州木瓜香木
 菓唐德宗有以此菓獻者遂官其人故名周花木
 瓜日木瓜有五山木瓜鞭條木瓜宜州木瓜香木
 橄欖一棗酸棗皮薄過處有之石榴盆內
 栽之有紅粉二色

木屬

松松脂入地不栢陸佃云梅栢性堅教有脂而槐
 化爲茯苓香故古人破爲日用以搗鬱槐
 淮南子曰槐之生也入季春椿有香穢二種穢
 五日而兔耳十日而鼠耳椿者其葉不可食穢

宣化縣志

卷之十四 物產志

三

梓榆爾雅云榆曰欒柳說文楊柳也從木易聲
 屬榆莖莢爲蕪莢柳極河柳也從木聖聲柳小
 揚也從楊陸佃云白楊葉圓青柳葉長赤楊霜降
 木卵聲楊則葉赤材理亦赤黃楊木性堅致難長
 棠棠梨也苦梨檣也在山曰梨杆樹
 東路出檣人植曰梨杆樹

蔬屬

葱爲五辛道家以韭蒜芸薑胡荻薤爲五葷張壽
 使西域得之一蒜一名葫張壽使大宛得之食茄
 俗菜山葱也之昏目保安州有獨集者
 紫白二種蘇凡瓠芥各一種多以春不老爲第
 一北京爲上南京青韭波稜有二種一苜蓿
 次之江南不建也青韭波稜有二種一苜蓿
 卽興芫荽胡荻也張壽蘿蘆蘆音匍爾雅云葵
 渠也芫荽使大宛得之蘿蘆今說爲蘿蘆性

製麪毒故名來服言來蓬白菓對也江南
 食心秋食薑蒿葷一葫蘆眉豆其子有赤刀豆
 草冬食根蓬蒿作藤葫蘆眉豆其子有赤刀豆
 類角豆茄蓮菜如藍草而肥厚種之畦陸根圖山
 而長藥善藥也程榮辨字曰避唐代宗諱豫甘露本
 菜改名薯蕷宋英宗名曙改名山藥甘露野
 玉環一嚼蕭爽齒牙間一名玉環族齊魯曰族
 以其初生似芫菜也灰芫高濂野藪請日熱食煎
 繁脚故名似芫菜也灰芫高濂野藪請日熱食煎
 雅云莖葉皆高大而見故名芫馬齒莧高濂曰坤
 又字說云芫除騎亦各灰條葦根地輦一名地踏
 焯過曬乾小蒜而細根蒲荷也葦根地輦一名地踏
 冬瓜在木耳雨芍藥山中所生春貫仲甜苣葉
 後生腋地上芍藥二三月採取貫仲甜苣葉

宣化縣志

卷之十四 物產志

四

黃花二三月間採食根亦佳苦苣花紫龍芽北路南
 出上人以爲即升麻沙苗北路諸葛菜多薯蕷
 也三月四月間採食沙苗北路諸葛菜多薯蕷
 其種木耳一名蕪黃芽白菜仍有安肅一種
 不一黃音軟黃芽白菜形同而味別

瓜屬

王瓜一名瓠瓠有番瓜形似南瓜倭瓜似南瓜西
 瓜出西城故名五代蕭東瓜秦邵平故東陵侯秦
 安城東謂之東陵瓜疑其甜瓜陸瓠瓜賦有蜜箭
 此一也或作東亦名瓠甜瓜之名又見廣雅
 南瓜陸瓠瓜賦有黃瓠白香瓜陸瓠瓜賦有免菜
 瓜陸瓠瓜賦有小
 青之名卽此

花屬

牡丹 歐陽永叔牡丹譜云牡丹初不載文字惟以
 卽今牡丹也貞元中始於汾州來香寺宜取牡丹
 蓋隋以前初不貴也山唐以來洛陽牡丹第一
 芍藥 東坡云楊州芍藥為天下魁彭丁香白紫迎
 芍藥城劉放有芍藥譜亦名將離丁香二種
 春黃 先春而開探春花似白丁香俗名月桂月
 仲夏木槿花 鳳仙 卽海納花染指甲榴張壽使外
 亦名舜華 其紅其紫可食 榴得塗林
 安石 蜀葵 一名戎葵一本草註云一名日精月
 榴種之云菊以黃為正有東坡詩又舒味薔薇
 朱遜之云菊以黃為正有東坡詩又舒味薔薇
 堂菊 請吳門老圃菊譜所列不下數十種
 有紅黃粉三種紅者尤香乾可作珍珠一名米殼
 糞又以沙柳同搗謂之玫瑰醬

宣化縣志

卷之十四 物產志

五

蓉葉似榆 鴛粟 一名米囊其果可作腐濕精物也
 白花無香 鴛粟 一種小者名蠟蠶頭江南呼為
 虞美 玉簪 花紫者 蕊 蕊 蕊 蕊 蕊 蕊 蕊 蕊
 人 雙色 山丹 有二 扁竹 雞冠 種 粉團 枝 名 經
 有數種 蓮 俗 金盞花 寸樣錦 卽雁 金蓮 黃色
 蓮 一名紅揚 俗 金盞花 寸樣錦 卽雁 金蓮 黃色
 似蓮北路金蓮川 荷 芙蓉也其根曰藕其花未開
 以此得名產甚多 日商者已發為美藥實曰蓮
 其中荷藕生 垂 絲海棠 李黃皇集云花木以海
 應一月一節 垂 絲海棠 李黃皇集云花木以海
 海棠記云惟紫錦心者謂之海棠餘乃棠梨花宜
 府亦有至於垂釋一種桑枝長香顏色淺紅垂英
 向下謂之海 錦荔枝 名懶葡萄 玉簪 荷包
 棠蓋強名耳 錦荔枝 名懶葡萄 玉簪 荷包
 剪紅羅 有紅黃蝴蝶花

草屬

艾 博物志云削木令圓舉以向日稗似稻而華字
 以艾承其影得火故號永臺 稗實細 華字
 云蓋謂之葭其小曰菴 地椒 葦麻 葛蒲 草
 云一寸九節粗者 線蒲 龍鬚 馬蘭 俗作 苦豆
 名苦陽一名葛歌 線蒲 龍鬚 馬蘭 俗作 苦豆
 茅香 茨菰 卽 離胡 苜蓿 漢使得之大 落黎
 正二月採頭 木蔥 生水中苗細翠蛾眉 藍花一名
 湯過可食 長不甚類葱 翠蛾眉 藍花一名
 扁垂盆 叢生其葉 蝎子草 俗名之痛 刷箭草
 野葡萄 若葡萄 蠅之高樹懸附可觀 藍 毋艾藍以
 染通志云藍有三種 藍 藍 藍 藍 藍 藍 藍 藍
 槐蓋如槐染青 藍 藍 藍 藍 藍 藍 藍 藍
 尚未之產嗣後射利之徒遍栽於園圃遂年滋一

宣化縣志

卷之十四 物產志

六

首 烟 其苗挺生如葵其葉光澤形如紅蓼不相對
 高數尺三伏中開花粉白色八月採其葉陰乾用
 油潤之切成絲用火燃之服之而醉謂之烟然其
 性熱味辛有毒止可禦寒濕消胸膈痞滿多食傷
 氣烟字一作薦俗作烟按是物在丁亥以前宜土
 藥屬 四十
 黃精 黃芩 扁竹 桔梗 牽牛 紫草 狼
 毒 藜蘆 蒼朮 芍藥 麻黃 甘草 防風
 薄荷 杏仁 升麻 柴胡 苦參 木瓜 木
 賊 菜本 細辛 遠志 枸杞 車前 地丁

之白豹有所程熊似豕山居冬蟄當心白脂如玉
度而食故名程熊好舉木引氣謂之熊經美在掌
庶夏至角解北日鹿壯曰鹿其仲冬角解者糜也
者揮焉鹿喜林麋性善驚一日鹿類甚多腐麝如
糜身有虎豹牛麋出兔有缺尻有九子從口狐
之文濟有香麝牛尾兔出兔有缺尻有九子從口狐
性善伏有香麝牛尾兔出兔有缺尻有九子從口狐
疑不立狼猯油可通結肉蝟身有野豬山獼
無狠不行猯似豕而飛蝟刺身有野豬山獼

青羊一名獐角黃羊一名羊無秋羊一名獐黃鼠
穴處作小土窟若床榻之狀秋穡黍稷及草木之
實以禦冬寒天晴出穴口坐見人拱前踈即窺入
是鼠惟地猴一名文猴形如鼠狼灰鼠狼大如艾
畏地猴地猴黑色蓄之可以拿鼠鼠狼大如艾

氣豚尾可為筆疑即應鼠孫氏云鼯鼯鼠倉質曰
懸有祭毒如鼠疑疑又是一物鼯鼯鼠倉質曰
可走以甚駛俗詭為吉靈遂兔鼠頭耳足前短後
其皮以佩小兒云避不祥會鼠無目黑色穿土而
稼俗稱跳兔斑鼠短毛俗會鼠無目黑色穿土而
疑印領鼠斑鼠短毛俗會鼠無目黑色穿土而
行天將雨則鳴行必成羣銜沙鼠形如鼠尾長
尾以日警懼跌也俗稱瞎老沙鼠荒年多有之

鯉春中鱗一道數至尾無大小皆三十六蓋亦
陰敷也猶龍鱗八十一蓋九陽數也見埤雅鮎
身滑無鱗一隨爾雅龍卵生形圓脊窮四周有
名鱗又各鱗一隨爾雅龍卵生形圓脊窮四周有
剖于陵此思化也易云鰕交鬚善游字從假水毋
辨為龍以骨在外也鰕不能動蝦附之而往

田難也

田難也

田難也

田難也

田難也

家畜

鴉一名野雁鴛鴨自呼其名李巡云雞積陽火德
出難鳴以鴉郊特狂之迎鴉為其食田鼠也故字
類應也鴉從苗其目睛且畫圓及午豎敏如線
鼻端長惟夏至一日暖蓋陰類犬有田犬守犬廣
也俗云鴉洗向過耳則客至犬有田犬守犬廣
雅云股虞晉教楚燕朝鮮之間謂之殺關東謂
鴉韓盧皆其良者鴉之彘或謂豕而楚謂鴉子謂
豚羊于文羊為羣大為獨羊以瘦為病故牛鴉
也鴉從羊貴大故羊大為美子日羔為馬鴉與
也鴉絕色也五月再生鴉勝則為病今養鴉之地少
而鴉方不產鴉則產馬畜馬乘午火火不能生
木故有鴉無勝麻俗作馬畜馬乘午火火不能生
且鴉別者死麻俗作馬畜馬乘午火火不能生

宜化縣志卷之十四物產志九

宜化縣志卷之十四物產志十

宜化縣志卷之十四物產志十一

宜化縣志卷之十四物產志十二

宜化縣志卷之十四物產志十三

宜化縣志卷之十四物產志十四

宜化縣志卷之十四物產志十五

宜化縣志卷之十四物產志十六

則位育難辭雖職一隅亦當修德讓和以迓物祥

一國之天地萬物一家有一家之天地萬物審是

之道而位天地育萬物者人之理先儒言一國有

其山川草木鳥獸魚鼈罔不咸若若是者何哉蓋

德盛則氣和氣和則生遂故四時行百物生者天

隨地而毓頌或有天有孔有瘳有瘳惟聖人在上

麟處此間氣所種而不必常有者乃若萬彙生

論曰水之珠石之玉草之芝木之瘳鳥之鳳凰獸之

假驪而小郭璞云驪即印印互文耳驪

則位育難辭雖職一隅亦當修德讓和以迓物祥

而不可徒恃其滋息也

宣化縣志

卷之十四 物產志

十一

宣化縣志卷之十五

風俗志

昔在成周命太史陳詩以觀風化又遣輶軒之使
 求異罰方言遷奏籍之蓋觀其奢儉而納于軌物
 也迨至秦漢俗尚漸散迄今讀賈誼遺書如言借
 父穰鋤慮有德色毋取其幣立而碎語抱哺其子
 與公併倨婦姑不相悅則反唇相稽忤戾之習良
 可深慨又云帝衣阜綈而富民墻屋被文繡后以
 緣其傾而庶人孽妾以緣其屨其奢僭尤復難言

君子察世變定民志端以移風易俗為務則採風
 尚以代省方轉流俗以便化導固濯磨舊染之至
 計也為作風俗志

宣化縣志

卷之十五 風俗志

一

漢上谷風俗論

其民朴
好射獵

晉廣寧風俗論

廣寧地險易其人
朴魯可恃以守

唐北燕州風俗論

左右山河古稱重鎮寄任之者必文武兼資焉自
古言勇俠者皆出幽并然亦多文雅之士 杜牧

之曰幽并之地其人
沉鷺多村力重許可

宋幽燕諸州風俗論

夏球曰幽燕山後諸州人性勁悍閑于戎馬悍尚
氣節可以義動 蘇軾曰幽燕之地自古號多豪
傑名 史又曰勁
勇而沉靜燕之俗也

元上都府州風俗論

劉因曰宣德晉尚
朴茂人尚禮義

明宣府風俗論

一統志曰人性驚悍不懼戰陣喜立功業勤儉務
農無浮末之習 鎮城士流以簡充自持武弁以
俊華 相競

宣化縣志

卷之十五

風俗志

二

政化紀畧

文武士皆持重不肯毀名節故見諸事業偉然可
觀 世祿之家用多僭侈日以肥甘適口綺穀飾
躬聲妓娛耳目積而富而久者鮮矣 農家村
居情甚親暱有無相通老少相愛耕獲以力相助
有上世遺風焉 歲春秋祈報里社則長者欽資
少者趨事備牲醴祀神召優人作戲劇娛之於是
各家邀親識來觀大小駢集其會中人竣事則依
輩序坐親神餘鼓吹喧闐醉飽而歸 歲值
旱人戴柳枝用旛幢笙鼓迎龍神像置大壘塲
祈得雨乃止亦往谷山龍潭請水老幼呼瀨其水
到壇亦有靈應不爽者菽麥稻禾熟則作食饋親
交納餘畢又釀酒設席待親友之來勞者日慶塲
歲晚先計公租待上令入城以納後而其餘易布
綿絮冬有婦孺亦藉此舉之故不能有益藏 農
人少有爭執則奸者誘之控告足及公門而胥吏
卒徒皆喜曰共佃戶米矣上官不肯頂借芻粟遇

客兵經過令商人隨以給銀乃客兵將銀自積在
在捨農獨粟商人妻女賤人性命連人所以不樂
生也年豐穀賤價不能償農之勞年儉穀貴食不
能及農之腹 工人學工藝諸色皆備其土木工
自山西來巾帽工自江西來他匠出外者甚
多 雖以利用而因之耗食者衆矣 先年商賈
冠之 魚服屨品不致僭擬 先年大市中賣店
比各有名稱如云南京紗線 綉舖蘇杭 羅棧舖
州細舖 州州帕舖之類治長四五里近者上官買
物抑價其跟從亦乘機為之於是大市之賈不知
流落何所矣

近日常有游惰擊粟關牌名為遊湖此倡彼和上
行下效間有誘買子弟其賤者或吹而誘之窩墜
取利大則傾資蕩產小亦廢生理失家計動輒關
不 可 實 官 長 廉 察 猶 以 自 首 為 能 其 習 染 之 污 牢
固 矣 夫 富 或 悍 姑 潑 婦 或 薄 倖 蕩 子 迷 致 淫 色 別

挽琴瑟更張往往有之俗之敝壞夫妻道喪非力
挽頹風不可 近例文武科取士每大小試學武藝者數與
俗尚武故制科取士每大小試學武藝者數與
文琦一遇武弁寬縱卒伍遂多鴟張鴉戾民以弗
寧或或詩禮之家閱閱之族其子弟樂引馬食糧
餉咸充營伍而觀題叙其時趨亦可駭也 以上
數條係 新撰

禮儀紀畧 新撰
冠禮在明中葉猶多舉行于啓頑間遂漸淪廢婦
冠禮 名後納采向舉食會慶賀擇吉鼓
樂迎娶然不啻士庶咸不親迎惟用一親眷女子
住娶而已入門拜天地及入室行合卺禮次日拜
見公姑 貧者論財禮之名寡然後遣嫁其財禮
至女家亦或加倍延僧誦經或三晝夜或五晝夜
喪禮殮畢入棺多延僧誦經或三晝夜或五晝夜
雖極貧亦一晝夜富貴之家卜墓照半費多無藝

宣化縣志

卷之十五

風俗志

三

宣化縣志 卷之十五 風俗志 三

祭之期如歲時佳節三月七月十月祀之甚謹其祭物或麩食葷肉菓品亦隨用之人家多于住宅供佛亦好持齋誦經俗為龍神多建龍神祠秋熱必醮錢作會唱戲賽神其祭比家神尤重

宣化縣志

卷之十五 風俗志

四

正終祭天地祖考或此寺於五鼓賀節又有友互相拜賀亦多酒食燕娛者立春先日向來令諸色人等裝演故事在市迎春猶覺繁重近將舊儀俱廢惟縣令備酒至春場同文武官齊至演戲二三四隨將春牛芒神擡至府堂其隨春牛者有五穀樓內置黍稷麥豆之類皆隨春牛者一座而已次日立春之日縣令偕屬詣府堂打春畢另將小牛芒神送各衙門及本城藉紳耆預令工先期備辦送縣待用者十五日為上元節文武各官揀授燈官給以劄付于十一日為始凡皂役職事竟擬真官到官衙投手本行廷象在街拜

附積纂

宣化縣志

卷之十五

風俗志

五

蒸花糕自食亦轉相餽送十月朔人多祭掃先菜十五為下元節俗傳水官解厄之辰入亦有持齋者十一月冬八日民間多用米交糗實家用祭先祖人食之餅排酒菓祀蠶送神多用拾糖者傳云蠶神昇天男女未婚嫁者無不舉行而驚蟄不絕或更造新衣首飾或備游桃符門神春帖門對等項光飾門戶整潔蔬菓殺蒸之品以待賓客而僧道作疏送之禮越醫士或作辟瘟丹送所交遊者除夕人多祭先祖爆竹敬樂徽液長幼男女終夜博戲謂自是夜起至初三日止

尸床之前案插三筋人棺之後即棄之苦之義苦
 宣俗於死者既置尸床必枕以土坯入棺後又必
 棄於宅門之前不知枕塊乃為入子而設非為火
 者也不知寢昔之義也又置一瓦盆于柩前以焚紙
 是凡有發引皆然不獨于父母也甚至無有子孫
 者弟侄代碎此盆致起爭訟之端尤異者并將此
 者生平所用之枕焚于門前以致人物踏之此風
 皆當革也 明旌之制理宜赤色所謂三尺紅羅
 一行粉字是也 近多濫用白色青藍以為新奇殊
 不知非禮矣 祭禮有內外之別內謂祭先祖也
 外謂祭外神也 皆吉祭也 有喪尚不與祭况敢言
 祭乎 不過家奠而已 故發引之前日謂之祖奠發
 引之當日謂之遺奠 近來宜俗樂以家奠為祭至
 於四仲之月宜祭先祖則櫛不知也 祭必用牲
 在必當潔潔而熟之然後合禮每見用牲之祭屠

宣化縣志 卷之十五 風俗志 六

祖奠即陳几案全體血淋汚臭至極以祭先祖
 內事殺禮不能備牲則用特羊此在北路猶有能
 行之者不然雞魚豕首古所為三物者今遂認三
 牲亦可祭祭則貴潔與熟爾不貴俊者 宜俗於
 夏秋季成酬神賽社常獻一羊即所謂特羊也但
 先於神前以酒澆其頸俟羊首搖毛動則謂之領
 羊雖領字不可以加于神然而適合下牲之意則人
 不察古者用牲必先于神然後用之若則不
 用如春秋所書免牛免牲免者放而不殺也若用
 牲不下而殺可乎哉 至于賽之義乃報也詩經幽
 所由來送以媾優演說雜劇謂之日賽此流傳外
 謬所當正者且賽必迎神宣俗于賽神前三日則
 廟門外令人焚香紙鼓吹導引拜謁者俗以為迎
 而不知其非也惟香紙時厲祭迎城隍從祠為迎
 壇前不過請別廟則得之矣 二月二日乃中和

節近有無知愚民訪中秋禮太隆之舉亦製月餅
 之形中印鳥形以相貿易若如中秋儀殊不知中
 秋治具月下所以散賞非禮太隆也况春仲朝日
 仲秋夕月惟
 天子得以行之臣下豈得僭妄乎此宜禁者 七月
 五月乃中元也宜人于是日普蒸麵為人給小兒
 守人焚以清明日七月望 十月初父子相向而
 哭于家門外蓋明時征戰之後遺戍者
 多而陣亡者亦眾也其俗至今亦然

附土音字義

暹暹上音先下音生俗呼瞽者之能巫卜也 猪
 猪上音客下音吃妻小猪也 噠亂說 圪塔小山
 炸起者 圪塆上音格 讀去聲山之窩處也 吉吉
 之不 圪塆下音格

宣化縣志 卷之十五 風俗志 七

上音格 蟻蝮即八蜡俗將八字加虫傍
 下音喇 蟻蝮 尹俗呼器具為家使作此字
 野蠖神名即野蚘 疥俗呼器具為家使作此字
 稼音然 俗以麥積和泥塗壁謂之稼草 并轄
 去聲 俗以麥積和泥塗壁謂之稼草 并轄
 同人入井也 來戲同三人不出頭也 冥音火
 炒豆則冥也 塚音蛙 山之污下也 踴音能自
 去聲 宋時有割身者 句懶 牛之耕地曰幾坳
 也 吉音 同土開口也 耒音鑽 水入土也 空同
 同水冒土上而流也 卡音 腹食在喉中不上下
 不下也 因音 同土入口也

論曰班固云凡民剛柔緩急聲音不同擊水注之風

氣故謂之風好惡取舍動靜無常隨君上之德歟

故謂之俗然周書云爾惟風下民惟草是民風歟

又曰之風也故也功而一夸秦尚強而民習

德尚高而民福上下相因如物斯應然則為民上

之道身累已民其然然則增美示民自新勸

民以教民之

民以教民之

民以教民之

民以教民之

民以教民之

民以教民之

民以教民之

民以教民之

民以教民之

民以教民之

宣化縣志卷之十六

法令志

胡東甌云古昔象魏之懸月吉之讀所謂法也道

人之狗始和之布所謂令也故似邱山如流水不

可移動而服從亦易蓋其警惕夫陽從陰悖者三

政心焉又以前志多紀邊務續志則採收衆法亦

自隋以後如余觀往蹟雖可備參要不如此

難歸

著聞才學

可用

禁武官賣文民間

人 禁武官賣文民間

九年頒至教民六論

孝則父母 尊則長上 和睦鄉里 教訓子孫 各安生理 勿作非為

十二年命大理寺副柯士芳來恤刑

頒定文武官貪罪律例

有犯贓十兩將該犯助 產後入官仍流徒遼東

十三至頒至飭行問擬衙役律例

大畧因恭劾貪官賍每盈千累萬及問結翻罪往往脫卸衙役官既以賍少追死役止無祿輕條至此以後內外問刑衙門審究盡役計賍定擬不許入律例

十四年頒定吏員納銀則例

十六年鎮城鑄錢

今上康熙五十年頒至更定文武官接見儀注

今上言武官

一今志

或停止考滿之法

京官三年一次考選軍機處鎮隨印自序至于都司衛所官經管各道記考奉旨提督自仍聽總督註考餘依議

六年 詔停秋決

七年頒至恤災修城事例

小民地畝難有濟臣等酌議滿漢文武各官紳捐賑銀一千兩米二千石加一級銀五百兩米一千石紀錄二次銀二百五十兩米五百石紀錄一次進士舉人貢士捐銀米者出仕之日加級紀錄

同生員捐銀一百兩米四百石及俊秀捐米六百石銀三百兩者准入監富民捐銀三百兩米六十石俊秀

頒至文武官員執事儀從例

禮部題為恭請酌定舊典以昭治典事禮部抄出該部題覆左都御史王熙題前奉 旨世祖皇帝時大小官員各有執事官民合于古制各官應有執事等項著詳查舊例再議具奏 今將鎮現在文武各官執事開列于後 各道執事共一 掌印都司執事十二對今各道掌印都司一 把旗四桿 扇一柄 銅棍一對 梁棍一對 迴避牌一對 知縣執事共一 銅棍一對 迴避牌一對 知縣執事共一 其餘執事俱停止 總兵執事共十六對今總志 卷之十六 法今志

九年頒至尚德緩刑論

十一年 詔開馬禁

治十八年詔禁民馬除文武職官及武進士武家許乘馬外禁不許養馬及駕車至是得自禁題為飲養馬上論事覆稱該臣等會同議得自禁在于養馬不養馬且民間養馬可以耕田拉車亦可于秋賦各處貿易不知不禁神益民生漸復停其

科臣因宣鎮年飢條奏燒鍋糜谷
章下九卿科道會議因通行禁止

二十年春奉 旨禁止販賣人口

戶部覆御史謝兆昌條奏議查得大同宣府已籍
人特差司官前往賑濟應請勅下核擬禁販
人等奉
旨依議

購求遺書

本 旨開列纂修明史所有不備書目自明初
御製 當時館閣文章明臣奏議與夫海內諸名
人集 不下七百部許令收藏之家各送該地
方官 內有宜屬蔚州耕之塞語及兩
鎮三關志 內有宜屬蔚州耕之塞語及兩
鎮三關志 採入各臣經濟中其兩鎮三關志與詹
湖所修兩誌皆有可
宣化縣志 卷之十六 法令志

二十一年安置庄頭子實城

為查詢地方利弊以備興除事惟巡道
開關 康熙二十一年五月十七日蒙撫院格批發
日此 旨 行道 議報 蒙批 仰巡 道將 原撥 取精 忠地
二款 行道 議報 蒙批 仰巡 道將 原撥 取精 忠地
行議 因到 道生 此該 本道 查得 前任 口北 道楊
議一 款云 宜屬 被撥 處所 約皆 殷富 之家 貧民
無指 戶伊 昔貸 云云 小民 含冤 何處 敢訴 伏乞 嚴
行 禁止 今本 道查 宜屬 地方 連歲 荒歉 貧民 乞
下庄 頭借 貸以 地土 作質 勢出 無奈 嗣後 貧民 有
將已 地帶 典旗 下者 令照 例三 分起 息年 滿取贖
不許 旗地 收管 地土 自無 挑渠 壟壟 俱備 勒者 如有
等獎 許地 主首 告地 方官 轉報 憲臺 以霸 佔吞 部
撥補 關內地 畝如有 違例 轉賣 旗人 應經 地方 官
嚴查 卽行 申報 遵照 定例 將原 地與 賣價 同追 入
官可 也又 一款 云宜 屬順 治十 三年 圍撥 與取 精
忠地 土云 云今 本道 查宜 屬屬 圍撥 取精 忠地 土

今部員并內務府查以經前口北道而會各部員
議前令原主耕種秋收如數交租如庄頭逼勒增
租奸民乘機奪種以致小民失業者應令該地方
官出示曉諭令原地主據實陳告立即轉報憲臺
嚴究以杜逼勒奪
種核奪批示遵行

二十四年國子監題

准混冒納監者該衙門題奏

部題查蘇石武巴武馬管佐領驍騎校將伊族
元馬子山拜元義軍不即裁去馬賽妻寡婦錢
崔狗 錢糧 珠屬 不合 爲此 情由 將蘇 布武 巴
武馬 子山 拜元 義軍 不即 裁去 馬賽 妻寡 婦錢
加一 級仍 照 二級 調用 查蘇 布武 巴武 馬
用 小撥 什庫 糧八
一奉 旨依 議

宣化縣志 卷之十六 法令志

九月內定驛站錢糧于起運內撥給之令

兵部題查驛站撥給地丁錢糧及均勾
應俱 驛站 撥給 地丁 錢糧 均勾
行賦 驛站 撥給 地丁 錢糧 均勾
撥給 驛站 撥給 地丁 錢糧 均勾
或各 州縣 撥給 驛站 撥給 地丁 錢糧 均勾
糧足 終兵 部亦 停解 驛站 撥給 地丁 錢糧 均勾
縣年 終兵 部亦 停解 驛站 撥給 地丁 錢糧 均勾
銷算 如有 用過 餘剩 小建 等銀 交與 戶部 今驛 站
既停 派地 丁照 前定 之數 撥給 錢糧 其兵 部于 年
結完 欠停 其考 成其 中解 冊應 移咨 直隸 各省 運
撫以 文到 之日 限一 個月 逐一 確查 速行 彙一 均
勾造 具沖 解冊 咨送 到日 兵部 再加 核定 彙造
黃冊 進呈 御覽 永爲 定例 刻遵 行奉
旨依 議

二十七年允各督撫提鎮議軍器有應禁之條鳥鎗

不在禁內之令

二十八年四月內允上元端午中秋重陽停刑之令

臺臣李倬奏四時節氣以及上元端午中秋重陽等日刑訊似宜暫停部覆俱不准行奉 旨依議

李時諒以奉行

二九下允常平倉穀不准撥兵米

戶部題查各州縣常平倉積貯米穀該倉久須從前欺捏以三年為期儘積米習已久須從前欺捏以三年為期儘積米則有司決不捏數以及狗情混結而倉儲無涸爛之患等語應如該部所題子反放兵米時儘常平

宣化縣志 卷之十六 法令志

會所有之米支給如有不仍照常支給至從前經管常平各官如有捏報私侵虧短之處應令嗣後乃有那虧短者該督撫指名題參未

三寸內改定撥使私錢治罪處分

戶部題查康熙七年御史達 條奏臣部議如每串錢內有攙和私錢十文以上者仍照前定例柳責流徒若每串錢九文以下者俱四

例治罪其該督官若于竟察亦將前定例處分

併詳議具奏欽此該臣等再議得嗣後私錢

首匠人如從及知情買使之人獲和私錢取

官知情任私鑄者不知失于覺察等罪仍照二

十三年所定之例處分外至獲和私錢行使之

人免其論發數多寡枷號流徙如有查拿被獲者

外責令下人鞭八十釋放係民責三十板釋放京城

行官員直隸省費令該州縣所屬各官員不時

行查拿若仍有私鑄私錢被督撫科道糾參或

以支到之日為始限六個月交錢局鼓鑄制錢在

支庫銀收取亦照限六個月交錢局鼓鑄制錢在

交布政司限日交錢局鼓鑄制錢在

入官為治罪者私鑄者俱在內各鄉村十家

流徒入官者不知者責四十板柳號一個月

賞給銀五十兩入新錢之內如有故意攙和行

係民責四十板柳號首者審實內則該部外則

部中再賞銀十兩入新錢之內如有故意攙和

在內再賞銀十兩入新錢之內如有故意攙和

宣化縣志 卷之十六 法令志

例治罪其該督官若于竟察亦將前定例處分併詳議具奏欽此該臣等再議得嗣後私錢首匠人如從及知情買使之人獲和私錢取官知情任私鑄者不知失于覺察等罪仍照二十三年所定之例處分外至獲和私錢行使之人免其論發數多寡枷號流徙如有查拿被獲者外責令下人鞭八十釋放係民責三十板釋放京城行官員直隸省費令該州縣所屬各官員不時行查拿若仍有私鑄私錢被督撫科道糾參或

紀舖戶販賣攬和者以州縣不能覺察或係上司
查出或被別地方人告發一起以上者交與該部
掌印兵馬司併各省知府直隸州若不能覺察二起
一起以上者交與該部知府以下或捕盜同知通判州
縣下吏日典史有捕盜責任者其罪各照例監印官
例監運司監運使照例責任者其罪各照例監印官
大使照典史例若營伍內有私鑄販賣等弊干
總守備都司各官俱照州縣例遊擊參將副將照
司道例在內責成五城御史在外責成該撫嚴
察訪如有私鑄及經紀舖戶販賣私錢者係何
官失察費察即行各題參照例議處若五城御史
名該撫失察即行各題參照例議處若五城御史
交與該部知府以下或捕盜同知通判州縣下吏
戶總辦工部七月十六日奉旨鑄錢所用之物
緊多鄰佑豈可謂為不知但專行鑄錢為從之人
處叙乃將鄰佑知府不知但專行鑄錢為從之人
宣化縣志 卷之十六 法令志

八月已定凡蠲免錢糧佃戶免三分

大過不必分別知板徒一年
既嗣後直隸省遇有特旨
蠲免之司業一應差徭將蠲免錢糧之數
分作十分以七為蠲免業戶以三分蠲免佃種之
此蠲免數目業戶若不蠲免或被地方官員查
出或私心人首告將業戶從重議處其佃種民蠲
租之處仍報明該地方官從重議處以定小民可
得均沾隆恩而不肯官役亦不能將
蠲免分數濫行輕重轉移奉旨依議

二十九年八月內允紳衿克惡擾害之令

刑部覆江督傳 題胡簡亮一案嗣後紳官監生
生員等倚仗勢力 許審地方騷擾百姓佔用房
強奪妻子致斃人命免自己之錢糧而令百姓代
納行究真正惡棍 訪即行題參照律從重治罪

有此等之事刑庇不產若被科道題參將不行呈
報之州縣官革職又查定例內其方面以下大小
官員貪婪之處司道府等官不行揭報被督撫訪
察題參將同城之司道府等官俱降三級調用不
同城之司道府等官各降一級留任將此等貪劣
官員不行揭報之司道府等官留任不題參者
亦俱照此例議處等語至紳官監生員等本
子弟本家人若以私事央求屬托詐欺銀兩等弊
知情縱使之入併聽行之人均
照律例治罪奉旨依議

九月內允民間任從養馬之令

兵部覆 上諭嗣後停其禁止養馬
仍照前例 馬匹奉旨依議
三十月三月內禁止紙牌骰子
刑部覆左副都御史 條奏嗣後將造賣紙牌骰子
嚴行禁止京師內所 紙牌骰子限一月

宣化縣志 卷之十六 法令志

內銷樓其直隸各侯文之日亦限一月內銷
煎若違禁仍造賣者地方官查拿將製並
月係旗人俱應照存留賭博之例枷號三個月
查拿子之器備賭博定例治罪查之時必有造
端訛詐奉旨依議 賭博及放頭定例 凡賭
不分旗民俱枷號兩個月係旗人將自己
銀錢放頭抽頭之人各枷號三個月係旗人將
一百係民責四十板 官員有犯賭博者革職
責不准折贖 如該管各官不行嚴查緝拿或
傍人拿首或被賭博中之人出首審實者若係官
員兵役開散另戶之人將佐領驍騎校俱與該部
小撥什庫不准折贖五十條所屬承犯三
有犯二次賭博者都統統副都統統所屬承犯三
次者俱交與該部若係民司坊官交與該部總甲
不准折贖責二十板于地方內有犯賭博二次

者該管城上官員交與該部巡捕營兵有犯賭博者將所管把總交與該部有犯二次者將遊擊亦示大亦照在外領驍騎校交與該部小驍騎校亦不准折贖鞭五十在屯居住之人有犯賭博者什庫及本主免議罪府佐領下人有犯賭博者都統副都統亦免交該部凡家僕賭博各有其主其該管人員亦免交該部其賭博人之主係官交與該部係平民者出首之人免罪銀錢一半與出首之人俱免凡以財物打馬手圍混江伊馬馬治罪係官交與凡以財物打馬手圍者照不應重治罪係官交與

三十四年三月內允解餉官合尋馬關稅停給之令

宣化縣志 卷之十六 法令志

兵部發臺臣內填糧銀人夫驛驛馬四五匹不從給與勒令內填糧銀人夫驛驛馬四五匹不各之應付停其驛驛須呈移督撫酌量撥兵護送後各驛設停給驛馬祇須呈送督撫酌量撥兵護送又疏稱直省解部錢糧及協濟各省兵餉自應畫一章程嗣後解部錢糧及協濟各省兵餉自應應川馬若干匹從減酌定永著為例通飭各省遵行等語直隸各省錢糧解部及送隣省協濟兵餉俱係本行巡撫等酌量給驛今既稱對後解送錢糧同知通判州縣佐二雜職應用馬匹若干定減酌定永著為例嗣後解送錢糧同知通判給馬三匹州縣佐二雜職等給馬二匹永為定例遵行可也奉旨依議

三十五年三月內允兵丁弟兄親屬悉行編丁之令

戶部覆臺臣呂條請酌量減省編審之法一疏內應令督撫除入伍經制外如有兵丁之弟兄親屬等餘丁悉行查出編入丁數輸納錢糧可也奉旨依議

三十六年改定失察私鑄煨銷販賣之例

上諭戶部尚書馬初十日又諭大學士伊等朕此審調陝沿途見用小錢者甚多前將制錢鑄小之時朕即諭制錢鑄小後日將小錢鑄引必多今應朕之前諭因此近經亦諭戶部作何設處之處會同九卿籌事科道于成龍確議具奏欽此該部等會議得今鑄私錢銷煨制錢與販私錢和使用者治罪之例甚嚴奸惡之徒仍敢私鑄私販私用之錢從重治罪仍照定例治罪外各官怠玩不察行嚴查拿獲之所至不可不再行重懲前鑄造私錢銷煨制錢事發仍照定例治罪外其私鑄私販私用之錢從重治罪仍照定例治罪三

宣化縣志 卷之十六 法令志

級上將地方官治伊等司官員不可不加以治罪嗣後內文武各官將該管地方鑄造私錢七不行查出被戶部察院至官查獲督撫差官查獲或皮穿入出首五城坊官及州縣衛所官員不知情者一起降三級調用二起革職掌印兵馬司直隸各省知府直隸知州不知情者一起降二級起降四級調用三起革職司道官員不知情者一起降一級起降四級調用四起革職御史直隸各省巡撫不知情者一起降一級起降四級調用五起革職御史直隸各省巡撫不知情者一起降一級起降四級調用六起降三級起降四級調用七起革職御史直隸各省巡撫不知情者一起降一級起降四級調用八起降三級起降四級調用九起革職御史直隸各省巡撫不知情者一起降一級起降四級調用十起革職御史直隸各省巡撫不知情者一起降一級起降四級調用

其奸惡之徒自別省買私錢船車裝載牲口馱帶販賣者或被看守關津之人拿獲或被旁人挈獲申首者將私錢入官拿獲之人照律賞銀十兩將來經查出該省官員及販賣私錢之人仍照律治罪其小錢在京城者限兩個月交送戶部免罪將小錢收取照買銅價值每兩月交送戶部免罪將布政使將小錢收取照買銅價值每兩月交送戶部免罪將各報戶部其攬和低鈔所鑄小錢不便照好銅給與價銀戶部所定限內各自銷燬者免其治罪在京城者戶部都察院差官不時嚴行查拿直隸各省督撫亦差官不時嚴行查拿十一月十九日奉

三十七年詔禁止菜馬坡煤窰

竊馬廐民等皆遂起大獄文武官員降革有差幸旨禁之後各縣區詳請定界云

宣化縣志 卷之十六 法令志

七

三十八年定司道府縣監兵餉

在各省令布道在府州縣之府州縣正印官將兵餉如數會封固按名散給仍令該督撫密委廉員不時查點如有短少扣剋該處

定小錢紅銅錢交送給價之例

戶部題請戶任保任等既稱情願減價交送寶泉局應照關差辨買銅筋原定每兩六分五厘給銀收取伊等交送之錢仍應照常令寶泉局監督臣部司官併科道官員公同在寶泉局監收其既減價部內收取錢應令崇文門監督停其收稅嗣後若有將小錢紅銅錢就近交送各州縣者照常交送州縣轉解布政使守道每兩給銀六分五厘解交寶泉局監督向部領銀亦每兩給銀六分五厘收取奉旨行議開七月停收紅銅小

錢限二月銷燬戶部覆錢法侍郎盧題請將紅銅小錢俱停其收取至各家所有小錢紅銅錢俱令其銷燬等因應將紅銅錢小錢停其交送寶泉局在京城者俟命下之日為始外省者以文到之日為始限二個月自行銷燬如逾限二個月不行銷燬仍照前例等俱實四十板柳號一個月流徙尚陽堡係民費四十板柳號一個月係旗人鞭一百柳號一個月再將失察該管地方官亦照九卿所定之例計起降級調用革職可也奉

旨依議

三十九年定鄉會試官員子弟另編字號分中之例

鄉試盛京甲字號取中三名直隸宣化府且字號名陝西甘肅字號取中二名貴州字號取中一名會試雲南有字號取中二名貴州字號取中一名

宣化縣志 卷之十六 法令志

七

廣西廣字號取中各省內文官京堂以上及翰林不與更部二部司官武官參領以上在外文官藩臬兄弟之干不說官貢廩監生員滿洲蒙古漢軍滿合字號之下直隸直隸員字號之下再各省卷面上俱編寫官字號另入號房考取會試滿洲蒙古漢軍滿合字號之下直隸各省南字號之下亦各編寫官字號另入號房考取若已故及降革者不編入查滿合字號大臣官員子弟居多如民漢人任官多寡不齊不便與民卷較數如定額十卷民卷取中九卷官卷取中一卷各以定額照數分別取中如零數不及一半者不在取中其副榜亦照此編取至各省鄉試官員子弟或止數人者不必另編字號再會試時將四川編入南卷內別編官字號照額取中其官字號不必分經

稱戶工二部現存制錢八十四萬串有零若將
現存制錢亦行銷燬則工價物料耗折甚多莫若
今新制重錢每串作銀一兩而舊鑄輕錢每串
作銀七錢民間輕重配搭行使等語應如科臣
所題新鑄錢一申作銀一兩舊鑄錢一申作銀七
應給之項配搭支足其新鑄錢務令照順治十
四年之例分量准足精工鼓鑄至銷燬新鑄錢
鼓鑄私錢將舊錢攪和使用者仍照定例議罪奉
議

古依 四十五年三月內復舊例考試之制

禮部覆江南學院張廷樞疏嗣後儒童正考時仍
做八股二篇覆該則四書文一篇小學論一篇可

古依 四十六年正月內頒收私錢銅器之令

宣化縣志 卷之十六 法令志 七

戶部衙門為欽奉 上諭 廣西清吏司案呈康
照四十五年十一月二十九日將九卿議覆東省
明 子 一 折 收 小 錢 銅 器 摺 子 并 趙 為 前 事 所
擬 亦 如 東 省 折 收 小 錢 銅 器 摺 子 并 趙 為 前 事 所
學 士 同 九 卿 啓 奏 欽 此 欽 遵 該 臣 等 恭 惟 我
皇 上 洞 鑒 東 省 有 私 鑄 之 徒 卽 將 小 錢 禁 止 不 用
恐 其 有 礙 民 生 特 下 諭 旨 將 東 省 明 歲 錢 糧
折 收 小 錢 銅 器 今 又 將 直 隸 地 方 明 歲 錢 糧 亦 如
東 省 折 收 小 錢 銅 器 之 處 甚 好 如 此 則 小 錢 可 絕
大 錢 流 行 而 銅 價 亦 貴 私 鑄 之 弊 不 禁 而 自 止 矣
俞 旨 甚 是 直 隸 地 方 明 歲 錢 糧 亦 如 東 省 折 收 小 錢
銅 器 可 也 附 山 東 原 議 查 得 侍 郎 恩 丕 等 帶
來 私 錢 有 重 一 錢 者 亦 有 重 八 分 七 分 六 分 者
明 歲 東 省 徵 收 錢 糧 之 時 將 一 錢 重 之 錢 二 千 文
作 銀 一 兩 徵 收 合 算 二 千 文 重 有 二 千 斤 八 兩 計
足 不 便 將 二 千 文 作 銀 一 兩 徵 收 此 等 錢 不 能

數每積成一勛作銀八分徵收再攤攤俸給
用之錢耗折甚多應再酌量折除在收將收完
之日收取銅器每斤亦作銀八分徵收若銅器
皿內有攤俸銀者亦酌量折除將私錢銅器一
之收則私錢自絕亦令該管各官尚不嚴行查拿以
致私錢甚多伊等俱屬有罪之人將此收過錢文
井銅器即交山東官員准釋前罪令運送京師交
與寶泉寶源兩局改鑄新制錢應行文來將收過
錢及銅器皿斤兩數目查明預先報部以便酌量
添設爐座
運鼓鑄可也

宣化縣志 卷之十六 法令志 七

戶部衙門為欽奉 上諭 廣西清吏司案呈康
照四十五年十一月二十九日將九卿議覆東省
明 子 一 折 收 小 錢 銅 器 摺 子 并 趙 為 前 事 所
擬 亦 如 東 省 折 收 小 錢 銅 器 摺 子 并 趙 為 前 事 所
學 士 同 九 卿 啓 奏 欽 此 欽 遵 該 臣 等 恭 惟 我
皇 上 洞 鑒 東 省 有 私 鑄 之 徒 卽 將 小 錢 禁 止 不 用
恐 其 有 礙 民 生 特 下 諭 旨 將 東 省 明 歲 錢 糧
折 收 小 錢 銅 器 今 又 將 直 隸 地 方 明 歲 錢 糧 亦 如
東 省 折 收 小 錢 銅 器 之 處 甚 好 如 此 則 小 錢 可 絕
大 錢 流 行 而 銅 價 亦 貴 私 鑄 之 弊 不 禁 而 自 止 矣
俞 旨 甚 是 直 隸 地 方 明 歲 錢 糧 亦 如 東 省 折 收 小 錢
銅 器 可 也 附 山 東 原 議 查 得 侍 郎 恩 丕 等 帶
來 私 錢 有 重 一 錢 者 亦 有 重 八 分 七 分 六 分 者
明 歲 東 省 徵 收 錢 糧 之 時 將 一 錢 重 之 錢 二 千 文
作 銀 一 兩 徵 收 合 算 二 千 文 重 有 二 千 斤 八 兩 計
足 不 便 將 二 千 文 作 銀 一 兩 徵 收 此 等 錢 不 能

論曰上古聖人畫地為獄而民弗犯後世刑之喪

法令滋章而滌衷悖戾之徒日趨囹圄况淫械

直上之罔民為此計大約德政不修則禁網徒

滋擾慈惠弗聞則羅織益以傷和也然積斥申

連紹實老將欲茂爾王章遂爾渾渾噩噩豈可

以生

諫是又與丁、作而驅驟警矣故立科條詳

誠俾民戒董燎如而導民軌物示民則儆者仍

本

之以道齊禮之心孔子曰君子之德風小人之

德草

宣化縣志

卷之十六

法令

二十



宣化縣志卷之十七

武畧志

宣邑大如彈丸然今郡諸衝皆經其地如張家

自萬全來殺虎口大同屬門自懷安西寧來獨石

自鵬鵠趙川來三面距敵而保蔚又視為屏蔽宣

人所係甚重丁才寔理置為重鎮其貔貅將士糧

積軍儲與畿南異即今改衛為縣而營伍驛傳亦

與他縣異臆陳往事固稟王章蒐羅近務益垂

後鑒留心衝地者邊謀皆公講也為作武畧志

宣化縣志

卷之十七

武畧志

十

明洪武二年春叅政傅友若入元脫列伯戰于宣德

收之

友德領步騎屯朔州遂巡太和嶺以北至宣德府

元將脫列伯南下遊擊遂敗之 太和嶺在馬

西門

洪武二十五年都督劉真指揮使李彬來行障塞

時北兵出塞未久不時出沒為邊患乃命真暨

彬來巡視度量城隍增設險隘分撥戍守畫示屯

永樂二十五年北都入寇車駕征之魯大敗

種邊人賴以無恐云

三月阿魯台寇興和城守將都指揮使王

意親征駕次鷓鴣山進至殺狐原阿魯台聞

親征盡染孽物... 逾乃野兵收孽物... 台為逆者兀良哈... 屈到兒河新敵... 斬酋長數十人... 人物十餘萬而還

洪熙元年孫政劉璉來理軍務

時朝廷以武臣疎于謀畧... 有大議者參贊軍務... 撫都御中... 參贊命之

宣德元年詔鎮兵番閱京師

天... 兵數從征代武... 以廢... 于是詔宣鎮兵分春秋二番較閱京師

正統十年秋詔恤戍兵

宣化縣志 卷之十七 武畧六

詔河南士卒番... 冬者人給布二疋絮斤餘

景泰二年詔留報效人于鎮城

總兵官朱謙... 和不可恃備不可忘... 以為圖... 之揣我強... 心留鎮城保備

夏六月揀閱鎮兵

巡撫都御史李秉... 兵分為三撥以次... 行再閱副其名實... 三撥以備調遣從之

成化三十年兵部尚書余子俊來督軍務

子俊至鎮選將練兵... 具乃上言臣先巡... 撫延緩時會築長城或制

壻或立墩挑壘西人至今賴之... 過於延綏築城為險尤不可緩... 成此大功詔許之... 令京營兵助役

二十一年夏詔京營兵來助塞役

總督侍郎余子俊... 發京營兵來助... 至了俊分佈就役... 勤兵息民均勞... 之意云

宏治九年... 兵官莊鑑副總兵官阮興

築邦之

鎮城... 七十餘奪回人... 口馬匹甚眾

宣化縣志 卷之十七 武畧七

十年兵部侍郎李介來督軍務戶部侍郎劉大夏來

介至敵已遁去... 九日... 糧草若... 中費于... 以上俱... 糶千石... 邊堡軍民... 勢亦無... 恐謫矣

十八年命保國公朱暉右都御史史琳統

禦寇

冬北部入寇總兵官江桓禦之引兵而還

敵入深井堡殺掠甚衆回至清水河桓禦鎮兵及
所謂大同遊擊營畢集列河上二萬餘人水新
合滑不可渡敵望見大懼棄所掠物如碎
議乘半渡擊之桓禦望不動敵分勁騎掠恒營
而動諸軍方議援之敵已魚貫而渡渡引手初
敵去被驅男女千餘人見官軍自分得生及渡皆
南向痛哭
登聞數里

十八年兵部尚書程璧

不行障塞

溫總督四鎮兵馬

詔勞將士

宣化縣志 卷之十七 武畧 六

時駕幸承天特令臣循行九道宣布德意
勞賞將士鑿以宣府密邇京都首至留數日竣事
去

二十一年兵部侍郎翟鵬來督軍務

時邊警臣督侍郎鵬奉命至鎮遂調延綏遼
東寧夏及兵臣兵凡十營分佈宣大險隘過
秋乃還而上兵
專令乘塞云

二十二年秋詔鎮兵乘塞

舊鎮兵皆團操鎮城有警出戰後分駐邊臣請
按伏至是總督鵬及撫鎮建議入秋悉令
分守謂之罷遣至九月終方令還鎮人皆
之云繼以勞費甚衆乃罷是後邊臣建議又築南
山墩墩入秋配兵乘守以為屏蔽
京陵大計亦無裨捍禦徒為勞費

二十四年秋詔頒乘塞節度

總督侍郎翁萬達上疏曰當今之急宜六宜以戰
為守務要而屯兵諸關宜以守待戰畫而
數年以來各鎮將臣力主擺邊已成故事
之年為未備舉志未同警若理繩急之則
事而稍為之臣而聊救其弊不惜臣用
思慮庶先聲可以臣人代謀足以制敵乃下令分
布諸將定所將多寡擺
守邊近及諸擺守節度

二十六年春軍更河南戌兵番期

初巡撫王儀總兵邵永議置職銜五營拔選各營
精銳以廢棄將官統之于是諸伍多空籍所選驍
萬達言其弊始罷河南戌兵舊春秋兩班至
鎮春班以二月初八月終代秋班以九月初二月
終代近北兵在秋塞足巡撫孫錦上言使

宣化縣志 卷之十七 武畧 七

諸軍一班以五月至終代一班以六月朔
至十一月終代是不失兩班之制無增一日之勞
而邊得全軍

三十年秋詔徵鎮兵入衛

二十九年臣北首俺達領眾由古北口入寇府
部大臣深以臣弱為慮因建議將各邊兵歲
番入居庸關南屯駐要害防禦不測於是
鎮兵選取三千餘名入衛遂為定制云

三十二年秋北部入寇副總兵都指揮郭郭死之

時敵騎由張家口入殺掠甚衆將犯保安至城
南地名谷村都領兵二十餘相值與領哨
戶王國血戰都都
遼人國宣人也

三十三年秋詔恤鎮兵

時宣鎮二年大水無麥禾總督侍郎徐論疏請京
通倉米豆空運十餘萬石轉輸糶來等倉分乞附
近城堡驛軍糧又遣刑部侍郎陳儒發內帑銀五
萬兩賫赴本鎮分委官司賑恤于是邊方兵士甯
得更

三十四年秋北部入寇延綏遊擊將軍都指揮張紘

死之

先是督府以延綏被兵患鎮兵寡弱不支檄召
延綏遊擊張紘紘七月敵十餘萬衆毀垣入
賊掠安東西川紘因領所部三千兵往擊之猝
遇於某家峯南敵衆來衝紘令我軍開壁縱千百
騎入敵軍所縱入敵人怒合衆圍四面者重
匝紘令十年毋取首第殊死力戰由是敵被挫
于刃歿者無數紘亦力盡死士卒盡覆殺云按
是役將卒全損十不遺一敵積寇死傷者衆也

宣化縣志

卷之十七

武畧

八

自後彼擄逃回人多述以追談是役猶咬指爲
懼辭則紘之死不爲無益矣紘陝西人忠勇素所
真無

嘉靖三十七年春詔實修軍政

先是督臣在延軍政鮮實北兵還輒下令限數索
首級因得掩其功于是部下士斃尋死屍捕行
路客縛被擄逃回人取其首以應邊人情愾不欲
生者數年上聞起終制尚書楊公博經畧救修實
政邊人于是
有生氣矣

隆慶四年兵部尚書王崇古來督軍務

崇古謚襄毅受順義王孫那降上便
左疏致崇古貢市不絕人至今稱之

蒙古允把都台吉及永詔卜諸部來通款互市

先是王襄毅諫款獨順義王可其弟老把都實位
宣鎮塞外不與會盟邊臣囑順義王要之且啖以
厚利乃與盟焉按老把都生五子長曰黃把都
二曰崑都倫三曰哈不慎四曰滿五素五曰七慶
朝庫皆稱台吉永邵下者我把汗燕喇台吉之營
名住牧大同邊外亦順義王之弟也順義王名
峇條元裔小三季住收豐州灘昭君墓夏國
暑空羣春秋冬三季往牧豐州灘昭君墓夏國
等九人隨孫那吉來奔入塞于願總督宣大山西軍務
方逢時巡撫王爵以金印此撫賞互市之所
許之于元封爲王爵以金印此撫賞互市之所
山如也宣府市于張家口大同市于新平堡山
西市于水泉堡按宣府之市雖在張家口其馬
匹或收宣邑云

萬曆十年順義王俺答卒

宣化縣志

卷之十七

武畧

九

王生九子長曰興元都曰次曰不彥台吉三曰
鐵背台吉四曰兵兔台吉其營名威兀慎五曰把
都台吉六曰哥力台吉其餘三子亦稱台吉皆封
將軍子所生按三娘子諡異聰俊超越流
品善言文崇禮晏款市之堅
娘子爲力居多封忠順夫人

十一年興克都峯合襲封順義王

王偏督善用兵有乃父風受喇嘛戒約婦一百八
口以數百八數珠生十四子長曰擄力良二曰五
路把都兒三曰補兒哈兔即青把都四曰哈木五
曰松木兒六曰七曰答賴八曰九曰安
兔十曰朝兔十一曰土中哈兔十二曰五力
把兔十三曰擺顏兔十四曰明暗皆稱台吉

十四年順義王興克都隆哈卒

十五年擄力良襲封順義王

王沉酒昏耗凡應酬番漢事務悉委三孃子理之
年未五十而鬚髮已皓生七子長曰朝免朝免生
四子長曰卜石
免即藩喇克炭

十八年停止安免互市及年例銀

先是未款之... 雖兒獨子史大... 附居近塞續有車部亦領眾來附塞款後徙居塞
內東路之黑峪口北道王象乾乃毅然身往
免刑刃民爭奪加之以塞捷罰之以倍償于是安
免乘其憤悉秀之遂與車部往奔而塞上稍稍用
兵矣巡撫王世揚守道王象乾與順義王議革其
賞令... 免乃... 井送... 車部仍許復市撫

十九年核減市撫銀數

宣化縣志

卷之十七

武畧

十

從閱視科臣議歲... 部賦集無敢與言者口北道王象乾乃毅然身往
更定... 之益... 四十一... 以白... 大台吉擁兵臨塞要挾歲增督臣

撫臣指陳利害乃解去

先是青把都要挾歲... 騎八千藉前為口實將吏洵洵以為與之便總督
余宗濬巡撫王道亨謝勿許且指陳利害乃解去
按白洪台吉... 把都生四子其三為... 都乃老把都之二子... 木洪大自此以後迄... 順言而邊臣不敢... 乘在山海關外講... 以市故噴有煩言...

路四海治下北路滴水崖邊外皆三封順義王...
力其次子阿洪之子其長曰七慶閉寨係哈喇慎
亦彼中頭目亦住喜峯口外

四十三年卜石免襲封順義王

初封順義王... 嫡屬遂停待七年
至是卜始嗣服

天啟三年王國棟來督軍務致仕兵部尚書王象乾

來定

六年毛乞炭台吉擁眾至龍門所塞挾賞參將張成

憲折之去乘夜從滴水崖墮入塞焚掠成憲力戰

宣化縣志

卷之十七

武畧

十一

死毛吉炭乞盟

七年二月潔汗擁兵塞外聲言與哈喇慎構兵起原

任薊... 王總督... 能了此... 侯乳而... 觀等于... 領小部... 地方于... 備虎... 男來洪... 上馬要... 你們邊... 語據此... 相及今...

如千鈞之壓卵勢必無幸又恐其聲東擊西等語
兵部題疏內稱癘汗與白言皆我所欵也癘汗向
以講討人口不遂生怪仇恨今一旦擁兵壓哈喇
之境哈喇諸部其能支乎今求助于我我若助之
則虎怒又肆螫于我不助則哈喇不能無怨合選
敏辨通官出口和解右得說而罷之此上計也不
然我亦有辭內各路文
武官兵仍當處處設備云

崇禎三年用兵于敖木台吉北路款市遂絕

九年兵部尚書盧象昇來督軍務

十年楊一來督軍務

十一年命宣撫陳新甲總督軍務

皇清世祖章皇帝順治元年以蒙古分隸八旗

宣化縣志 卷之十七 武畧志 三

本朝定鼎後各蒙古領眾臣服奉 旨分為四十
八國仍隸入旗其諸王貝勒公侯及護衛參領佐
領等章京制畧同而品級俸祿視內從殺糜給有
差 詔以 公主郡主嫁往來其每年終內十
八家 畜 一 京度歲俟賀元旦過燈節後始聽出
口凡 一 姻老彼此不拘時往來其駝馬牛羊皮
張絨毛等項亦出入無禁至四時正朔仍奉
本朝憲 歷計 日所載各蒙古如烏朱穆泰 科
爾沁 孔賴特 阿霸哈喇 蘇尼特 阿祿科爾
特 高齊特 毛明安 郭爾羅斯 阿祿科爾
沁 阿霸哈喇 四子部落 巴林 孔魯特 喀
爾喀 喀喇 翁牛特 歸 土默
特 奈曼 克西克騰 吳喇忒 鄂兒多斯
以上十四名又有分部散處凡四十有八亦封有
總領頭 目云

宣鎮邊外興和城一帶為收放御馬牛羊之地屬內

八旗

按宣鎮邊外東自昌鎮界火焰山起西至大同鎮
平遠界至去一千三百餘里今其切近邊口外
界蒙古入旗者亦山水盤繞耕養畜牧與內地同
無以蒙古為異 章京等官分管而各旗之牛羊馬
匹城數其地 京畿內地新庄 與宣邑
絕不相涉但因蒙古並各旗驛牧道必經宣故紀

吳學昌來督軍務

二年 命宣撫李鑑督理軍務

李鑑 宗時原任宣鎮巡撫後開居宣府愍宗
十七 三月三日宣府陷于闖賊中遭其酷
虐迨夏五月原任副總兵王應驥等擒戮偽職賊
官一乘成于鑑為愍帝哭臨三日合鎮忠義之氣
從此而奮旋聞 大清鼎革乃以地
方圖籍歸附故鑑有督理軍務之命

宣化縣志 卷之十七 武畧志 三

三年 命姑蘇朝道經宣府

是年歲以柴溝堡與之旋奉停
止自是來無常期不能備書

冬禁旅 城 張家口

六年兵部右侍郎佟養量來督軍務

八年裁宣府巡撫併于宣大總督

十年禁旅從鎮城上張家口 秋命卞鼎駐宣喂

養嗣后每秋盡到宣次年四月出口歲以為常計

二十四圍

十四年兵部尚書張元錫來督軍務

宣化縣志

卷之十七

武畧志

共

封典身故一品二品文武官員子孫照伊各祖父
 原職品級退納封典者捐米二百石或捐豆一
 百二十石或捐草五千束三品四品官員捐米一
 百二十石或捐草五千束五品官員捐米一百
 五十石或捐草三千五百束六品官員捐米一
 百石或捐草三千五百束七品官員捐米八十
 石或捐草三千五百束八品官員捐米六十石
 或捐草三千五百束九品官員捐米四十石或
 捐草三千五百束十品官員捐米三十石或捐
 草三千五百束十一品官員捐米二十石或捐
 草三千五百束十二品官員捐米十石或捐草
 三千五百束十三品官員捐米五石或捐草一
 千五百束十四品官員捐米三石或捐草一千
 五百束十五品官員捐米二石或捐草一千五
 百束十六品官員捐米一石或捐草一千五百
 束十七品官員捐米半石或捐草一千五百束
 十八品官員捐米半石或捐草一千五百束
 十九品官員捐米半石或捐草一千五百束
 二十品官員捐米半石或捐草一千五百束
 二十一品官員捐米半石或捐草一千五百束
 二十二品官員捐米半石或捐草一千五百束
 二十三品官員捐米半石或捐草一千五百束
 二十四品官員捐米半石或捐草一千五百束
 二十五品官員捐米半石或捐草一千五百束
 二十六品官員捐米半石或捐草一千五百束
 二十七品官員捐米半石或捐草一千五百束
 二十八品官員捐米半石或捐草一千五百束
 二十九品官員捐米半石或捐草一千五百束
 三十品官員捐米半石或捐草一千五百束
 三十一品官員捐米半石或捐草一千五百束
 三十二品官員捐米半石或捐草一千五百束
 三十三品官員捐米半石或捐草一千五百束
 三十四品官員捐米半石或捐草一千五百束
 三十五品官員捐米半石或捐草一千五百束
 三十六品官員捐米半石或捐草一千五百束
 三十七品官員捐米半石或捐草一千五百束
 三十八品官員捐米半石或捐草一千五百束
 三十九品官員捐米半石或捐草一千五百束
 四十品官員捐米半石或捐草一千五百束
 四十一品官員捐米半石或捐草一千五百束
 四十二品官員捐米半石或捐草一千五百束
 四十三品官員捐米半石或捐草一千五百束
 四十四品官員捐米半石或捐草一千五百束
 四十五品官員捐米半石或捐草一千五百束
 四十六品官員捐米半石或捐草一千五百束
 四十七品官員捐米半石或捐草一千五百束
 四十八品官員捐米半石或捐草一千五百束
 四十九品官員捐米半石或捐草一千五百束
 五十品官員捐米半石或捐草一千五百束
 五十一品官員捐米半石或捐草一千五百束
 五十二品官員捐米半石或捐草一千五百束
 五十三品官員捐米半石或捐草一千五百束
 五十四品官員捐米半石或捐草一千五百束
 五十五品官員捐米半石或捐草一千五百束
 五十六品官員捐米半石或捐草一千五百束
 五十七品官員捐米半石或捐草一千五百束
 五十八品官員捐米半石或捐草一千五百束
 五十九品官員捐米半石或捐草一千五百束
 六十品官員捐米半石或捐草一千五百束
 六十一品官員捐米半石或捐草一千五百束
 六十二品官員捐米半石或捐草一千五百束
 六十三品官員捐米半石或捐草一千五百束
 六十四品官員捐米半石或捐草一千五百束
 六十五品官員捐米半石或捐草一千五百束
 六十六品官員捐米半石或捐草一千五百束
 六十七品官員捐米半石或捐草一千五百束
 六十八品官員捐米半石或捐草一千五百束
 六十九品官員捐米半石或捐草一千五百束
 七十品官員捐米半石或捐草一千五百束
 七十一品官員捐米半石或捐草一千五百束
 七十二品官員捐米半石或捐草一千五百束
 七十三品官員捐米半石或捐草一千五百束
 七十四品官員捐米半石或捐草一千五百束
 七十五品官員捐米半石或捐草一千五百束
 七十六品官員捐米半石或捐草一千五百束
 七十七品官員捐米半石或捐草一千五百束
 七十八品官員捐米半石或捐草一千五百束
 七十九品官員捐米半石或捐草一千五百束
 八十品官員捐米半石或捐草一千五百束
 八十一品官員捐米半石或捐草一千五百束
 八十二品官員捐米半石或捐草一千五百束
 八十三品官員捐米半石或捐草一千五百束
 八十四品官員捐米半石或捐草一千五百束
 八十五品官員捐米半石或捐草一千五百束
 八十六品官員捐米半石或捐草一千五百束
 八十七品官員捐米半石或捐草一千五百束
 八十八品官員捐米半石或捐草一千五百束
 八十九品官員捐米半石或捐草一千五百束
 九十品官員捐米半石或捐草一千五百束
 九十一品官員捐米半石或捐草一千五百束
 九十二品官員捐米半石或捐草一千五百束
 九十三品官員捐米半石或捐草一千五百束
 九十四品官員捐米半石或捐草一千五百束
 九十五品官員捐米半石或捐草一千五百束
 九十六品官員捐米半石或捐草一千五百束
 九十七品官員捐米半石或捐草一千五百束
 九十八品官員捐米半石或捐草一千五百束
 九十九品官員捐米半石或捐草一千五百束
 一百品官員捐米半石或捐草一千五百束

宣化縣志

卷之十七

武畧志

七

再有多捐者以此計美復還降級仍照原職補用
 其在外告病道員捐米二千石或捐豆一千二百
 石并草五萬束知府副將捐米一千七百石或捐
 豆一千二百石并草四萬三千束同知運同參將
 判知州知縣遊擊都司捐米一千石或捐豆六百
 石并草二萬二千束州縣佐二等官守備捐米二
 百五十石或捐豆一千五百石并草六千束以原
 官補用一無品筆帖式烏林人捐米六十石或捐
 豆三十石并草一千五百束給與八品頂帶不推
 食俸亦不論旗民例監廩生捐米七十石或捐豆
 四十五石并草一千八百束增生捐米一百石或
 捐豆三十石并草二千五百束附生捐米一百二
 十石并草二千五百束俱准作歲貢至
 有捐納山草者每谷草一束折收七觔重山草二
 束此捐納俱于本年七月初一日停止其所捐米
 豆草束行文直隸山西巡撫差委賢能道府等官
 米豆照倉斛草每束俱七斤重收受照例出給實
 收該撫將米豆草束收倉月日註明冊內咨報戶
 部查核俟命下之日通行入旗包衣佐領并直
 隸各省遵行可也

三十一 頌到功神威將軍軍炮四十位
 上諭每寸霜降日濬放十五日以期純熟以備禦
 武其需火藥炮子文官代備交送武官先備累宣
 化後十州縣輪辦始少蘇累共計每年用藥二千
 五百六十五斤鐵子三百七十四個鉛子五百一
 十六個需用硝磺二千一百一十五斤礮四百五十
 斤灰二百一十二斤半仍有布作袋線鋼盆等雜
 費

三十二年改衛所為府縣仍置總兵官統轄
 是年既改府縣其總兵與麾下駐防武職在宣邑
 者俱仍舊制惟裁深井堡守備宣化驛把總二員

詳載建
革志中

三十五年春 上領諸王暨八旗官兵躬討噶爾丹

按噶爾丹久為臣服外藩與噶爾丹
怨屢蒙 天語諭和噶爾丹逆命不恭致屢怒出

師遣由獨石
應如 駕臨幸故紀

三十四年停止喂養 御馬知府范時崇詳允也

四十五年皇姑來朝道經宣化

嗣後 必由 能

宣化縣志

卷之十七

武畧志

六

論曰邊謀之成局何紛紛也漢於月頓處以姻唐於

頡利處以盟宋於東遼西夏處以金幣而明則不

姻不盟不金不幣惟日督軍務以

季始有款市之舉至我

皇朝蒙古臣服中外一家其往來絡繹皆如畿內直龍

遠邁前人然治益求治耀德弗觀密勿之垂裳端

拱固 拱固 拱固 承乏邊陲共膺保障之任者可勿

鏡往昔切沐就矢桑土而奠於衽席哉

宣化縣志

卷之十七

武畧志

九

宣化縣志卷之十八

秩官志

設官原以固圉固圉必兼文武明

先設三衛旋置總兵又設巡按又置萬全都指揮

與僉同又設巡撫置遊擊將軍與分守叅議蓋文

武兼理而武重于文我

朝定鼎文武職多裁革近又改衛為縣而文重于武

因時制宜于固圉之義可謂法良意美若不逐員

紀載荆董正治官之謂何故為作秩官志

宣化縣志

卷之十八 秩官志

巡撫

李儀 順大深州人 正統元年任

羅亨信 順大深州人 五年任

劉連 字汝器 順大深州人 二年任

李秉 字統 順大深州人 四年任

王越 字世昌 順大深州人 五年任

林聰 字李聰 順大深州人 九年任

張頤 字養正 順大深州人 十四年任

秦紘 字世纒 順大深州人 十八年任

盧睿 浙江東陽人 二年任

任寧 陝西臨潼人 元年任

李巨 字輔之 浙江黃巖人 六年任

葉盛 字與中 崑山人 八年任

郭寧 字以道 河南祥符人 七年任

殷謙 字進德 涿州人 十年任

郭鐘 字廷進 山東息縣人 十七年任

李岳 字惟鎮 大名垣人 二十年任

張錦 字尚綱 陝西崑州人 二十二年任

強珍 字國寶 滄洲人 二年任

陳紀 字叔振 閩縣人 七年任

雍泰 字世隆 陝西咸寧人 十二年任

劉聰 字守愚 蘄州人 十五年任

張龍 字用和 歷城人 正德元年任

劉璟 字全卿 長洲人 五年任

陸完 字示文 岐山人 七年任

楊武 字示文 岐山人 七年任

宣化縣志

卷之十八 秩官志

趙璜 字廷實 江西安福人 九年任

孟純 字時元 澤州人 十一年任

王純 字而文 慈谿人 十三年任

甯泉 字仲升 蓬萊人 十五年任

張縉 字元素 巴縣人 十八年任

劉源清 字汝登 山東人 十六年任

路迎 字賓陽 汶上人 四年任

楚書 字國寶 陝西人 十八年任

孫錦 字義中 陝西人 二十五年任

李介 字守貞 高唐人 字治元 年任

楊證 字文寧 龍封人 四年任

馬中錫 字朝陽 陽曲人 九年任

張縉 字朝陽 陽曲人 十四年任

李進 字仲馨 石州人 十七年任

車寔 字仲馨 石州人 二年任

鄧璋 字士宏 涿州人 四年任

馬炳然 字聯汝 句容人 六年任

燕忠 字夏臣 蘄州人 八年任

王雲鳳 字應詔 山西和順人 十年任

張槍 字汝吉 平谷人 十二年任

劉達 字文顯 涿州人 十四年任

李鐸 字孔教 萊陽人 嘉靖元年任

周進 字武庚 武進人 四年任

韓邦奇 字汝節 陝西朝邑人 十二年任

郭登庸 字自徵 山西人 十年任

王儀 字德隅 文安人 二十年任

郭宗臯 字德隅 文安人 十八年任

李良	字遜伯山東人 二十九年任	劉璽	字國符保定人 三十年任
遲鳳翔	山東人 十九年任	趙孔昭	直隸刑部人 四十一年任
王遴	霸州人 慶二年任	孟重	陝西人 進士十四年任
吳兌	字環洲山陰人 未進士五年任	王一鷗	直隸曲周人 進士萬歷五年任
張佳允	湖廣孝感人 戊進士七年任	蕭大亨	江西吉水人 戊進士九年任
許守謙	彙城人 乙丑進士十五年任	郭四維	山西興縣人 進士十七年任
王世揚	廣平人 丁丑進士十九年任		
王象乾	字壽宇山東人 進士二十二年任	馬鳴鑾	四川人 甲戌進士三十二年任
彭國先	信化人 庚辰進士二十九年任		
宣化縣志 卷之十八 秩官志 三			
連標	禹州人 癸未進士二十五年任	薛三才	定海人 丙戌進士三十八年任
汪道亨	婺源人 癸未進士四十年任	趙士諤	吳江人 辛丑進士四十六年任
張紱世	子惟才潯南人 乙未進士四十七年任		
解經邦	字憲吉韓城人 乙未進士天啓三年任	徐良彥	字季夏新建人 戊進士三十年任
王之臣	字憲伯潼關人 乙未進士天啓五年任		
張曉	字大照山東人 丁未進士二年任		
秦士文	字質之蒙陰人 甲辰進士天啓六年任		
李養冲	永平人 丁未進士七年任	郭之琮	蒲州人 丁未進士崇禎二年任
楊述程	字道南四川人 辛丑進士三年任	沈際	烏程人 癸丑進士五年任

焦源清	三原人 丁未進士五年任	陳新甲	四川人 壬子七年任
張維世	大慶人 丙辰進士九年任	劉承祚	隴州人 己未九年任
江禹翰	杞縣人 辛丑進士十四年任	李鑑	字成進士十五年任
朱之馮	號勉齋順天大興人 乙丑進士十六年任		
馮聖兆	直隸東鹿人 丙子舉人順治二年任	李鑑	順治二年任
巡按	自明		
邵宗	字承之湖廣人 宣德元年任	劉信	字成甫南直隸人 二年任
王聰	字德夫江西人 三年任	章宗信	字以實會稽人 四年任
宣化縣志 卷之十八 秩官志 四			
張驥	字惟德安化人 五年任	高超	字以林陝西人 六年任
楊士敏	字周臣湖廣人 七年任	施慶	字篤之四川人 宣統八年任
張清	字以登巴縣人 庚戌進士正統元年任	孫昌	字天祥山東人 二年任
周濟	字惠之陝西人 三年任	孫毓	字汝秀商河人 四年任
周銓	字玉山人 五年任	上官受	字益之浙江人 六年任
虞禎	字國禎吳縣人 七年任	王琳	字深陽人 八年任
汪澄	字原清浙江人 九年任	劉克彥	字西人 十年任
周紀	字理之吉水人 十一年任	劉懷	字以德大興人 十二年任
張冕	字嘉人舉人 十四年任	鄭韶	字舜聲宛平人 十五年任

王珉	陝西人 二年任	張登	華亭人 三年任
璩安	字以靜 陝西人 四年任	張鵬	字南翼 涇水人 五年任
賈恪	字汝敬 通許人 六年任	呂益	字德昭 濮州人 六年任
吳珣	字德驍 山陽人 七年任	馮昱	字德昭 濮州人 八年任
展毓	右衛人 化元任	馮徽	鳳翔人 二年任
宋鞅	字一之 壽縣人 三年任	馮買	字一之 壽縣人 五年任
吳珣	字文裕 人 六年任	楊溥	德州人 七年任
曹宏	字文裕 人 八年任	劉必賢	潯州人 九年任
葉茂	字本深 福建人 十年任	李瑒	字廷璋 江西人 十一年任

宣化縣志 卷之十八 秩官志 五

何鑑	浙江人 二年任	于大節	江西人 三年任
劉瓚	字獻卿 山東人 十四年任	劉壁	字光人 十年任
楊純	字誠成 大竹人 十七年任	劉綸	乾州人 十八年任
程春震	湖廣人 進士 十九年任	唐韶	常熟人 十一年任
文貴	字惟良 廣寧衛人 二十年任	許銳	字仲元 登州人 二十年任
曹英	字德揚 獻縣人 二十二年任	張璵	字德器 彭城人 二十三年任
劉翔	字宗堯 盧龍人 二十四年任	陳震	字東伯 慶陽人 二十五年任
茹欽	字德徵 西安人 二十四年任	郭鏞	字安人 七年任

宣化縣志 卷之十八 秩官志 六

夏景和	字時雍 秦州人 九年任	楊繪	字大觀 陝西人 十年任
邊憲	字一之 人 十年任	趙鑑	字光人 十年任
韓春	字一之 人 十年任	胡希顏	字一之 人 十年任
臧鳳	字一之 人 十年任	高允先	字一之 人 十年任
夏時	字一之 人 十年任	王時中	字一之 人 十年任
郭東山	字一之 人 十年任	孟醇	字一之 人 十年任
孫瑄	字一之 人 十年任	羅絃	字一之 人 十年任
曹岐	字一之 人 十年任	許鳳	字一之 人 十年任
于鏊	字一之 人 十年任	張經	字一之 人 十年任

劉澄甫	字子靜 山東人 十年任	賈啟	字一之 人 十年任
章綸	字一之 人 十年任	楊秉中	字一之 人 十年任
吳秉葵	字一之 人 十年任	張欽	字一之 人 十年任
訖宗虛	字一之 人 十年任	王宦	字一之 人 十年任
張錄	字一之 人 十年任	杜民表	字一之 人 十年任
任淳	字一之 人 十年任	陳邦敷	字一之 人 十年任
廖自顯	字一之 人 十年任	李宗樞	字一之 人 十年任
張祿	字一之 人 十年任	李朝綱	字一之 人 十年任
蘇祐	字一之 人 十年任	周道	字一之 人 十年任

桑壽	字惟高揚州人十五年任	閻隣	字德夫東城人十六年任	董學	字海人四年任	周詠	字慶元人任	燕儒臣	字用道河南盧山人二年任	姚維可	字光父河南襄城人四年任
皮東山	湖廣攸縣人十七年任	江濬	字子泉東城人十八年任	蔡科	字子初河南人任	陳聯芳	字以城閬縣人任	劉良弼	字實卿江西人五年任	孫綜	字之粟浙江餘姚人六年任
譚學	廬陵人二十年任	候度	山東人任	胡宗憲	字汝欽績溪人任	李逢時	字德州人任	陳文燧	字汝相江西臨川人五年任	陳文衝	字惟平江西鄱陽人三年任
金城	字衛之歷城人任	李天寵	字承之孟津人任	程軌	字信甫山東人任	王楠	字子材德州人任	沈涵	字惟敬浙江德清人四年任	黃應坤	字惟簡直隸欽縣人五年任
谷嶠	字惟升豐潤人任	黃如桂	字德馨江西人任	董學	字海人四年任	周詠	字慶元人任	郭汝	字子齡河南杞縣人六年任	茹宗舜	字子孝直隸遵化人六年任
徐鳴鶴	字子稱山東濟寧人六年任	孫愈賢	字可聖雲南人任	陳文燧	字汝相江西臨川人五年任	陳文衝	字惟平江西鄱陽人三年任	徐申	字惟嶽長洲人六年任	林文英	字德甫山東黃縣人十六年任
王之棟	字養直隸寧晉人十五年任	吳禮嘉	字會之浙江鄞縣人任	陳文燧	字汝相江西臨川人五年任	陳文衝	字惟平江西鄱陽人三年任	連標	字孟華河南禹州人十七年任		

宣化縣志

卷之十八

秩官志

七

于永清	字源慶山東人二十年任	林實賢	字實人任	李九官	山東萊蕪人任	張鯉	字翼若人任	蕭重望	字仰卿貴州恩南人任	徐元正	字景文直隸吳縣人任	黃吉志	字常德直隸內黃人任
何熊祥	字乾亭廣東新會人任	何爾德	字敬先山東曹州人任	胡士奇	直隸天長人任	張素養	字桐如福建安人任	蕭重望	字仰卿貴州恩南人任	湯兆京	字伯閣直隸定興人任	喬允升	字吉甫河南洛陽人任
蕭重望	字仰卿貴州恩南人任	何爾德	字敬先山東曹州人任	汪裕	字未進士河南商水人任	方大任	字崇禎河南辰州人任	吳允中	字定云山東博州人任	劉策	字范東山東武定人任	潘珙	字子璧廣東南海人任
徐元正	字景文直隸吳縣人任	黃吉志	字常德直隸內黃人任	胡志藩	字平玉合肥人任	胡良棧	字志鬱江西人任	吳亮	字采予武進人任	周師旦	字孫碩湖廣應城人任	蕭毅中	字元恒湖廣公安人任
湯兆京	字伯閣直隸定興人任	喬允升	字吉甫河南洛陽人任	白志麟	字懷勛山西平定人任	米國助	字慶辰廣西人任	魯之先	字四洲湖廣麻城人任				
吳允中	字定云山東博州人任	潘珙	字子璧廣東南海人任	梁雲博	字眉居河南蘭封人任	林銘琰	字業濤福建漳浦人任						
吳亮	字采予武進人任	周師旦	字孫碩湖廣應城人任	張鵬霄	字培自福建晉江人任	蔡廷泰	字聖直隸曲陽人任						
周師旦	字孫碩湖廣應城人任	蕭毅中	字元恒湖廣公安人任										

宣化縣志

卷之十八

秩官志

八

張鳴駿 字廣慶 福建人 順治元年任

朱廷翰 陝西人 二年任

甯承勛 順天舉人 三年任

高景 號似斗 直隸滄州人 六年任

金 遼東人 五年任

劉達 號淇濱 濬縣人 六年任

薛陳璋 號形許 河南人 七年任

焦毓瑞 山東章邱人 九年任

翁祖望 號渭公 浙江錢塘人 十二年任

俞鐸 字天木 江南泰州人 十四年任

董衛國 遼東人 順治十五年任

陳洪柱 北直巡按 監臨 十七年任

學院 先是巡按代理 學政至是始設 崇寧

程方紹 字 熊伯龍 字次侯 湖廣人 已丑進士

宣化縣志 卷之十八 秩官志 九

蕭維豫 山東人 進士

蔣超 字 吳國對 江南人

王澤宏 湖廣人 乙未進士

吳珂鳴 江南人

董 訥 號庵山 東人 丁未進士 探花及第 有德政碑

李應鷹 禮名宦 山東人 崇 顧藻 江南人

朱 卓 浙江人 楊大鶴 江南人

李光地 福建人 轉巡 楊名時 字真賈 江南人 陰人 辛未進士

梅之珩 江西人 乙未進士

監儲 自明始

羅通 字舉古 江西人 宣德五年任

章繪 號 縣人 三年任

李俊 保定人 六年任

劉連 號 縣人 八年任

李秉 中 縣人 十年任

徐行 單 縣人 景 二年任

張春 真 定人 五年任

龐勝 號 縣人 七年任

張遂 祥符人 成化二年任

曾會 號 縣人 五年任

劉顯 湖廣人 八年任

馬孝祖 昌平人 十年任

南 鈞 湖南人 十年任

李進 號 縣人 十年任

李恭 濠 縣人 十年任

汪洪 號 縣人 十年任

鄭炯 號 縣人 十年任

趙潤 號 縣人 十年任

宣化縣志 卷之十八 秩官志 十

馬秀 號 縣人 十年任

郭緒 號 縣人 十年任

溫 璽 號 縣人 十年任

李傑 號 縣人 十年任

錢敬 號 縣人 十年任

姚珩 號 縣人 十年任

鄧明 號 縣人 十年任

楊志學 號 縣人 十年任

李誠 號 縣人 十年任

張秀 號 縣人 十年任

高選 號 縣人 十年任

張錦 號 縣人 十年任

蘇琰 號 縣人 十年任

秦偉 號 縣人 十年任

李志學 號 縣人 十年任

曹驍 號 縣人 十年任

馮曾 號 縣人 十年任

劉希龍 號 縣人 十年任

高奎 長清人 四年任	於敖 字伯度 五年任	程巨 歙縣人 七年任	李錄 臨邑人 九年任	陳璣 字在之 僱師 十二年任	楊銳 房山人 四年任	劉繼先 永清人 七年任	趙國良 八年任	褚寶 鳳陽人 二十三年任	邱玳 廬州人 十六年任	張習 字汝悅 寶應人 二十八年任	范充瀾 霸州人 十年任	王如綸 安平人 十九年任	張天馥 澤州人 十一年任	韓取善 字克從 濰州人 萬曆十一年任	陳載春 字子元 號澄渠 山東歷城人	戴紹科 進士	寶子稱 進士	宣化縣志 卷之十八 秩官志 十一	王成德 臨清人 進士	黃蘭芳 號綺石 湖廣應城人 進士	杜詩 山東濱州人 進士	王畿	楊述臣	黃道亨	毛維騫 薊州人 進士以上 俱萬曆年任	葛汝麟 山東德平人 進士 天啓元年任	王化貞 清進士 山東臨沂人	李澍初 號客天 湖廣新州人 進士	王瑄 字漱生 山東濰縣人 進士	白聯芳 真定人 進士以上 俱天啟年任	張抑之 字崇禎 元年任 山東崇禎元	張梧 號掖垣 山東平陰人 進士	畢拱宸 字湖目 山東掖縣人 進士	張美舍 河南南陽人 進士	董光	張碩抱 山西官生
------------------	------------------	------------------	------------------	-------------------------	------------------	-------------------	------------	--------------------	-------------------	---------------------------	-------------------	--------------------	--------------------	-----------------------------	----------------------------	-----------	-----------	---------------------------	------------------	---------------------------	-------------------	----	-----	-----	-----------------------------	-----------------------------	---------------------	---------------------------	--------------------------	-----------------------------	----------------------------	--------------------------	---------------------------	--------------------	----	-------------

張襄 字仍雲 江南宣城人 進士 崇禎年任	皇清	唐之秀 四川舉人 順治元年任	馮瑾 北直人	徐兆舉 字羽卿 浙江山陰人 進士	陸元龍 浙江人 進士	郭熙 河南夏邑人 進士 九年任	賈壯 字弱候 河南杞縣人 進士 十一年任	明分守口北兵備道	張鏞 嘉靖人 三十五年任	郭邦光 山東人 十七年任	張時 易州人 三十八年任	祝天保 唐縣人 十九年任	宣化縣志 卷之十八 秩官志 十二	孟官 西安人 四十年任	劉珂 開州人 嘉十年任	劉欽順 湖廣石首人 二十年任	蘇志卓 固安人 二十年任	辛童 章邱人 二十年任	尹編 齊河人 二十年任	侯鉞 東阿人 三十年任	楊順 德州人 三十年任	王重光 新城人 三十年任	朱天俸 濰縣人 三十年任	許用中 三十七年任	楊巍 字伯謙 海豐人 三十八年任	王維寧 四十年任	朱裳 隆慶人 六年任	許希孟 萬曆人 三年任	王象乾 號濟寧 山東新城人 隆慶府人 巡撫	孫維城 字宗甫 山東東章人	馬崇謙 道調任
----------------------------------	----	----------------------	-----------	---------------------------	------------------	--------------------------	----------------------------------	----------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	---------------------------	-------------------	-------------------	----------------------	--------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	--------------------	--------------------	--------------	---------------------------	-------------	------------------	-------------------	-----------------------------------	---------------------	------------

郭吉士

吳宗英

陝西高陵人

張我續

由赤城道任

杜承式

武定州人

王之臣

陝西潼關人

張曉

陝西宣府人

張宗衡

山東臨清人

范鑛

崇禎六年任

張維世

陝西宣府人

賀鼎

陝西武定州人

何騰蛟

字雲

江禹緒

陝西宣府人

李鑑

陝西宣府人

何謙

陝西武定州人

吳嵩

北直真定人

存清

宣化縣志

卷之十八

秩官志

三

程紹孔

陝西畧陽人

張大任

三年任

趙崇秩

四年任

寶蔚

山東章邱人

于清廉

九年任

蔡興周

字姬貞遼東人

朱廷瓌

號山輝陝西富平人

安世鼎

遼東人

吳允謙

號春平四川內江人

潘超先

字維宗遼東貢生

方瑞士

號寄菴江南桐城人

俞鐸

字天木泰州人

趙之麟

遼東人

袁州佐

號夢菴山東濟寧人

徐元琪

號荆山武進人

祖澤深

滿州人

李如桂

直隸舉人

楊維喬

號岱麓山東寧海人

岳登科

山海衛拔貢

盧崇魁

遼東人

孔興洪

字聖壽

王騰

號人岳山東福山人

祖文明

滿州人

楊霖

江西人

董景祚

遼東人

常名揚

遼東人

周士賢

奉天人

李發甲

字瀛仙雲南舉人

李錫

字培大奉天人

分巡

宣化縣志

卷之十八

秩官志

四

趙縉

河南人

賈時

歸德人

彭程

福建人

侯重

華亭人

黃偉

潼關人

錢俊民

宛平人

姜佐

賓州人

盛鵬

襄城人

倪璣

陝西人

王誦

西安人

樊準

南昌人

周允中

金鄉人

趙迎

洛陽人

劉耕

蘭州人

張愚

天津人

程綬

通州人

馬時雨

景州人

趙文耀

三十人任

朱笈 <small>桃源人三十一一年任</small>	許用中 <small>山東人三十四年任</small>	范大儒 <small>山東人三十七年任</small>	王惟寧 <small>興平人三十八年任</small>	牛山木 <small>周人四十年任</small>	監稅 <small>順治三年置土康熙年間始修不列考惟四十一一年有監督冬者趙審道謀重慶監以</small>	德之後以遺仍歸重 <small>征故商民益念待公云</small>	李應芳 <small>蘇把禮</small>	鄔黑 <small>拜禮</small>	希格 <small>馬飛</small>	鵬鷹 <small>法塔哈</small>	宣化縣志 卷之十八 <small>秩官志</small> 圭	叟色 <small>臧應選</small>	泰 <small>康熙十七年任以增稅缺額十八年復任自是以後兼理官府門稅</small>	達布 <small>喀爾喀</small>	巴爾胡 <small>額爾德</small>	陶喀 <small>杜喀禪</small>	郎來柱 <small>佟</small>	理節通判	許廷用 <small>靈邑人正德元年任</small>	戴聰 <small>濟陽人五年任</small>	黎廷弼 <small>四川人十年任</small>	任希淵 <small>堂邑人十五年任</small>
--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	------------------------------	---	--------------------------------------	---------------------------	-------------------------	-------------------------	--------------------------	--	--------------------------	--	--------------------------	---------------------------	--------------------------	-------------------------	------	--------------------------------	-----------------------------	------------------------------	-------------------------------

皇清	呂鳴夏 <small>陝西人</small>	程兆孔 <small>陝西畧陽人俱崇禎年任</small>	胡士棟 <small>山東冠縣人選貢</small>	沈諫 <small>人</small>	簡懋爵 <small>以上俱天啓年任</small>	張守約 <small>原舉人</small>	孫可僕 <small>湖廣崇陽舉人俱萬曆年任</small>	朱家民	劉中正	高體金 <small>浙江臨安進士</small>	劉必紹 <small>山東文登人由恩貢</small>	陳王道 <small>山東寧鄉舉人</small>	耿繼武 <small>山東沂水人七年任</small>	任秉乾 <small>陝西廉州人</small>	羅士英 <small>貴州普安歲貢萬曆元年任</small>	劉希舉 <small>陝西保安舉人二年任</small>	馬循義 <small>雲南昌明舉人</small>	邊拱 <small>河南舉人俱隆慶年任</small>	趙應豐 <small>山西人三十八年任</small>	在城同知 <small>係更通判仍列銜真定</small>	尚際可 <small>山東人三十四年任</small>	高天衢 <small>鳳翔人三十五年任</small>	劉凍 <small>湖廣麻城人四十年任</small>	孟良弼 <small>兗州人二十九年任</small>	楊永譽 <small>山東人三十五年任</small>	郭連 <small>亳州人二十四年任</small>	蔡椿 <small>廣寧衛人二十六年任</small>	文淵 <small>四川人十八年任</small>	魏琦 <small>山西人二十一年任</small>	侯寧 <small>東平州人十一年任</small>	王謨 <small>陝西人十四年任</small>	葉春 <small>山西人七年任</small>	黃官 <small>四川人嘉靖二年任</small>
----	---------------------------	----------------------------------	-------------------------------	------------------------	-------------------------------	---------------------------	-----------------------------------	-----	-----	------------------------------	--------------------------------	------------------------------	--------------------------------	-----------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	----------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	------------------------------	-----------------------------	-------------------------------

桂繼華 河南貢生順治元年任

薛 由史員二年任

辛炳翰 陝西貢生三年任

吳道遇 河南舉人四年任

趙建祚 西貢生八年任

陳經濟 河南貢生十年任

廉介 河南拔貢十三年任

周崇謙 河南吏員十五年任

汪麗日 河南陸安州拔貢十六年任

吳盛藻 河南和州拔貢康熙二年任

邱宗文 遼東人九年任

鄭潤中 福建莆田人十四年任

甘國均 旂下廩生十八年任

程塔 江南徽州人二十年任

汪宗豫 江南江都例監二十二年任

崔涵壁 山西高平貢監二十九年任以後缺載

宣化縣志

卷之十八 秩官志

七

理刑推官 自明始列銜河間府

王伊

薛應麟 山西河間人文清公之後

張應泰

張執 陝西富平舉人

姜一鳴 陝西蒲城人上供萬歷年任

李士養 號舉峯山西安邑舉人天啟年任

唐光耀 天啟四年任是為改推官

李師聖 山東人崇禎四年任致仕寓保安州甲戌死難

升之偉 字起凡山東進士

樊耀 江西南昌舉人

姚珙 字心翼山東進士

吳孳昌 字子夜河南周始進士

李之華 字果山四川巴縣進士

皇清

沈宐 字大啓湖廣孝感貢生順治二年任

吳道遇 河南舉人三年任是年裁直隸

徐化龍 江陰人四年任復置

方畿 字運清江南桐城拔貢九年任

孫錫齡 山西絳州人十五年任

陸濟 浙江平湖人十六年任

沈漢 字天河南進士康熙元年任是年裁直隸理刑

皇清

知府 康熙三十二年設

秦毓奇 黃旗人康熙三十二年任

范時崇 字自牧蕪陽人三十三年任

祖延泰 黃旗人三十六年任

申奇貴 字炳文濟陽人三十八年任

宣化縣志

卷之十八 秩官志

六

呂猶龍 字爾霖紅旗人四十四年任

知縣

周德榮 字苑伯三韓人三十二年任

胡玠 浙江人四十四年任

陳坦 字文度湖廣黃陂舉人四十四年任

宣化縣志卷之十九

秩官志

絕歷

趙龍 浙江山陰縣人

張其烈 江蘇人

開國柱 山東鄒縣人

徐應乾 山東禹城縣人

彭作霖 山東文登縣人

司獄

李廣生 河南人

典史

宣化縣志 卷之十九 秩官志 一

段綸月 河南人

徐朝展 浙江人

薛瑛 紹興人

典教 萬全人

劉準 山西人

王輝 日照人

于信 浙江人

姚瑾 封邱人

常禮 沙河人

龔政 武陽人

王勳 秦州人

周信 光山人

李迪 徐安人

李端 浙江人

張昇 遼東人

王恪 化州人

田錫 東阿人

曾葵 江西人

解昇 文水人

陸琮 泗州人

趙瑞 通山人

張清 館陶人

李寅 治平人

丁仁 浙江人

劉益 山西人

李玆 寧都人

任干之 東莞人

董楫 德寧人

姚總 曲阜人

華盛 宛平人

段文弼 延平人

劉瑛 遼東人

孟宗仁 延安人

陳玘 寧遠人

宣化縣志 卷之十九 秩官志 二

文明 海州人

孫銳 河南人

王慶 山東人

王璽 山東人

郝義 聊城人

張威 景州人

閻禮 山西人

孫瑛 東阿人

袁璽 武台人

孫經 昌平州人

姚鳳 東鹿人

宋安 朔州人

張雲 延平人

何偉 山東人

徐來夏 德封人

徐首 山東人

張順之 順天人

郭世威 安定人

王挺	潞安人三十一任	周錦	山西人三十二任
郝仲傑	涿州人三十五年任	曹奉先	遼東人三十六任
李國珍	東陵縣人	于收	山東新城人
程九万	遼東寧遠人	程之書	北直清豐人
王之俊	陝西清西人	柴慧	大同右衛人
朱楨	南直繁昌人	賈僕	陝西鳳翔人
李大植	南直繁昌人	陳所學	北直樂城人
孫惟淵	浙江餘姚人	趙采	陝西鳳翔人
許汝忠	陝西咸陽人	李應	北直安州人
宣化縣志 卷之十九 秩官志 三			
盧濱	山西朔州人	閔應楨	陝西隴州人
李廷光	河南汝州人	賈師顏	直隸慶雲人
劉令美	山東夏津人	郭桂芳	北直高邑人
劉自誠	北直新安人	韓明望	山西襄陵人
劉大益	北直保定人	董文樸	順天涿州人
周希舜	山西玉林人	衣袍	北直肅寧人
耶位	北直極歲人		
王清教授	康熙八年更爲宣化府前衛學		
焦文華	直隸趙州人	毛允中	廣平人

蔣爾敬	大興人	郝天任	大興人
王永命	行唐人	劉泰祥	蠡縣人
高居於	普寧人	劉培	通州人
陳聖芳	河間人	左印	滄州人
府教授	年改設	羅珩	大興人
馮紹京	順天丙午舉人		
縣教諭			
王登植	舉人	趙東暄	順天丁卯舉人
宣化縣志 卷之十九 秩官志 四			
趙	大名甲子舉人	縣醫學訓科	
李		李銳	
府陰陽		縣陰陽學訓術	
王		賈世文	
府僧綱司都綱		縣僧會司僧會	
普		福遜	
府道紀司都紀		縣道會司道會	
宮澤宏		武德馨	

白爵 陝西人 十九年任	郝鏡 宣府人 十七年任	劉淵	潘浩 大同人 十六年任	祁承 龍門人 十六年任	傅鐸 陝西人 嘉靖三年任	白玉 正德二年任	阮興 興州人 十一年任	馬儀 大同陽和人 十五年任	宣化縣志	李杲 陝西人 宏治元年任	周玉 鎮人 十二年任	顏彪 鹽城人 八年任	陳友 京衛人 順四年任	過興 涿州人 五年任	楊洪 涿州人 五年任	譚廣 平上人 五年任	章安 山東人 七年任	總兵 始自明
雲冒 二十一 年任	江桓 宣府人 十八年任	張鎮	朱振 大同人 十四年任	劉暉 廣寧人 八年任	趙瑛 陝西人 五年任	劉淮 宣府人 五年任	張俊 十五年任	莊鑑 遼東人 九年任	卷之十九	侯謙 大同人 三年任	神英 陝西人 九年任	董興 南直隸人 六年任	楊能 洪從人 七年任	紀廣 泰元人 景泰元年任	朱謙 蔚州人 五年任	薛祿 山東人 五年任	秩官志	五

盧抱忠 字貞一 宣府左衛人 崇禎七年任	張全昌 號機之 榆林人 六年任	候世 字之 榆林人 六年任	楊應瑞 字揚名 廣陽人 四年任	江應詔 字得思 陝西寧夏人 四十八年任	劉孔印 字伯振 懷來人 有直隸圖說	盧居智 字希舜 宣府左衛人 萬曆四十四年任	孫邦熙 字進士 齊開平衛人 三十八年任	王國棟 號忠卷 陝西榆林人 三十四年任	宣化縣志	梁秀 字朝用 宣府前衛人 二十八年任	李東賜 字光甫 大同高山人 十九年任	李如松 字龍甫 遼東鐵嶺人 十五年任	王國勳 字邦佑 開平衛人 十二年任	馬芳 字世屏 大同右衛人 十年任	歐陽 字平衛 人三十二年任	吳鼎 陝西人 十年任	趙卿 山東人 十四年任	趙國忠 廣寧人 十六年任	
	董繼舒 字漢儒 龍門人 三年任	張安 字秉恩 大同前衛人 天啟七年任	黑雲龍 字從吾 宣府人 七年任	孫邦熙 字復 人四十七年任	孫仁 字子壽 大同右衛人 三十七年任	王學書 字道政 陝西榆林人 四十四年任	姜顯祚 字鶴洲 陝西榆林人 三十三年任	麻承恩 字承恩 大同右衛人 十九年任	李迎恩 字天龍 萬全人 十七年任	董一元 字仁夫 宣府前衛人 十四年任	趙崇璧 字謙齋 山東濟寧人 十一年任	趙奇 字慶西 人隆慶四年任	李賢 字西人 三十二年任	趙崇璧 字謙齋 山東濟寧人 十一年任	趙崇璧 字謙齋 山東濟寧人 十一年任	趙崇璧 字謙齋 山東濟寧人 十一年任	趙崇璧 字謙齋 山東濟寧人 十一年任	秩官志	六

皇清

李國樸 字鴻修 榆林人 八年任

楊國柱 字棟如 遼東義州衛人 九年任

楊忠 號西泉 昌平長陵衛人 十二年任

羅俊傑 號靖寰 陝西甘肅州人 十二年任

張登 號德池 錦衣衛人 十五年任

唐鈺 號健城 南直隸州人 十六年任

王承印 號仰承 宣府前衛人 十七年任

王應暉 號耀川 宣府左衛人 順治元年任

胡章 字開生 南光州人 二年任

剛阿太 原姓李 名延壽 藍旗人 六年任

佟學文 字習之 藍旗人 十一年任

劉永亨 號貞吾 陝西榆林人 十六年任

拜音達禮 原姓何 滿洲人 康熙九年任

閻可權 號宜巷 廣寧人 十四年任

藍理 福建人 二十六年任

宣化縣志

卷之十九 秩官志

七

許盛 福建人

白斌 滄州人

尚宣 陝西章武人 加提督銜 給勅印仍管總兵事

康泰 字棟輔 陝西臨洮人

協守總兵 明舊設 本朝裁

楊信 洪從子 景泰五年任

董斌 六年任

張瑪 八年任

董瑄 龍門人 天順八年任

劉寧 昌平人 十年任

康永 十三年任

江山 萬全人 十五年任

盧欽 北直人 二十二年任

阮興 宏治五年任

韓玉 九年任

白玉 宣府人 十四年任

董鎮 龍門人 正德三年任

許泰 五年任

時臣 陝西人 嘉靖元年任

江桓 宣化人

劉淵 山海衛人 六年任

陶杰 懷柔人 九年任

張鎮

劉江

李胃

崔天爵 二十一年任

張達 陝西人 二十三年任

錢濟民 二十五年任

孫頤 陝西人 二十七年任

郭都 三十一年任

田世威 河南人 三十三年任

焦澤 大同人 三十四年任

張琮 大同人 三十五年任

宣化縣志

卷之十九 秩官志

八

郝承恩 遼東人 三十六年任

劉漢 大同人 三十八年任

馬芳 三十九年任

張國 懷安人 隆慶二年任

閻守信 由世襲任 督標參將 駐馬蘭峪副總兵

遊擊將軍

許寧 北直人 成化三年任

張俊 大同人 九年任

宋澄 大同人 十年任

柳春 永平衛人 二十二年任

張澄 宏治三年任

張俊 九年任

張雄 懷安人 十四年任

李琮 懷安人 正德元年任

李興 萬全人 三年任

白春 萬全人 五年任

劉漢 大同人 十一年任	裴濟邦 年任	曹鎮 年任	楊鉞 年任	張輝 年任	王鎰 年任	全江 年任	杜輝 年任	張勳 年任	宣化縣志	寶淮 年任	夏泉 年任	邵邦 年任	齊元臣 年任	公鎮 年任	張助 年任	章鎮 年任	魏祥 年任	邢岳 年任
黑曉 宣府人 世襲萬曆九年任	張問政 大同人 十年任	姚冕 年任	葉節 大同人 十六年任	張四教 山西人 八年任	張問政 大同人 十年任	白欽 大同人 十年任	張四教 山西人 八年任	張問政 大同人 十年任	卷之十九 秩官志	賈英 大同人 四年任	張瑤 宣之前衛人 十二年任	王鎮 宣之前衛人 十年任	周爵 山東人 六年任	倪鎮 宣之前衛人 九年任	李懋 宣之前衛人 七年任	張鎮 宣之前衛人 五年任	倪雲 蔚州人 三年任	

藍殊 福建漳 州府人	丁延祥 年任	吳良賢 年任	張萬程 年任	張學堯 任中營	王啟元 年任	宣化縣志	丁承忠 宣府人	郝鳳儀 深井人	皇清鎮標左營遊擊	孫獻策 年任	丁承忠 宣府人	郝鳳儀 深井人	師宗舜 年任	張世忠 柴溝堡人	齊景耀 年任	鍾汝達 年任	蔣顯宗 年任	唐文夔 皆左營兼管中營	周一元 宣府人 十三年任	蘇澄 蔚州人 十三年任	丁堅 年任	郝英 年任	陳議 大同人 十九年任	孫獻策 年任	丁承忠 宣府人	郝鳳儀 深井人	師宗舜 年任	張世忠 柴溝堡人	齊景耀 年任	鍾汝達 年任	蔣顯宗 年任	唐文夔 皆左營兼管中營	周一元 宣府人 十三年任	蘇永 龍門人 十四年任	楊璋 年任	李世臣 陝西人 十八年任	李世臣 陝西人 十八年任	周一元 宣府人 十三年任
------------------	-----------	-----------	-----------	------------	-----------	------	------------	------------	----------	-----------	------------	------------	-----------	-------------	-----------	-----------	-----------	----------------	--------------------	-------------------	----------	----------	-------------------	-----------	------------	------------	-----------	-------------	-----------	-----------	-----------	----------------	--------------------	-------------------	----------	--------------------	--------------------	--------------------

牛化麟 陝西延安府人

張登第 陝西咸陽縣人

皇清鎮南右軍遊擊

蕭永爵 京衛人

郭承印

王有福

王有道

姚永芳 宣府人

張允重

程鳳

宋傳世 京衛人

耿如掄 通州人

吳高 福建人

吳明輝 福建人

宣化縣志

卷之十九 秩官志

十一

鄭位 福建人

陳天培 湖廣人

陳堂 山西人

萬全都指揮使司 明始 專印自

馬昇 宣化人 正統

馬銘 京衛人 八年任

李徽 宣化人 正統

董斌 七年任

陳智 宣化人 正統

周全 景泰二年任

張壽 七年任

周玉 八年任

傅巖 成化三年任

周隆 八年任

朱謙 開平衛人 正統

鄭祥 十七年任

董鎮 龍門人 宏治

張俊 十年任

宣化縣志

卷之十九 秩官志

十一

王祥 懷安人 正德

王本 十七年任

李珍 正德三年任

御承 五年任

慕勳 宣化人 六年任

張輔 十五年任

祝隆 蔚州人 嘉靖

徐英 中 四年任

沈某 懷安人 五年任

張楫 廣來人 七年任

趙卿 山西人 正德

三柱 武功人 十年任

許國 東人 正德

馬鐘 九年任

李瑋 河南人 正德

楊鉞 開平衛人 十二年任

殷順祖 陝西人 正德

趙承懋	保定人 十五年任	鄒九鼎	宣府人 十九年任
陳力	三十一 年任	郭承勳	三十二 年任
嚴範	三十三 年任	汪廷	大同人 三十四年任
高遷	天啓人 三十五年任	謝復	三十五 年任
東賜	三十七 年任	孫繪	三十八 年任
福時	三十九 年任	姚龍	四十 年任
應朝宗	四十二 年任	許南金	慶元 年任
王化熙	四十五 年任	周一元	以署都指 揮使陞東路參將
閻守忠	宣府人 二年任	王江	
孫獻策	廣昌人 四年任	陳思明	
楊彞		張成	
陳國侯		劉子印	
孫會	字甫 取	王國柱	以上俱萬 曆年任
嚴必端		李應詔	
余世卿	俱天 年任	謝命詔	
岳可			

吳選		董成儀	
馮源淮		黃鼎元	以上俱崇 禎年任
王懷仁		徐學易	
皇清	康熙八 年裁缺	王迺	俱順 年任
嚴爾植		李朝儒	
楊祺	康熙年任 自此裁缺	都指揮同知	自明 始
宣化縣志	卷之十九 職官志	李信	宣德五 年任
李信	宣德五 年任	毛翔	八年 任
武興	正統二 年任	王良	四年 任
林深	河內人 七年任	李忠	泰二 年任
王英	五年 任	周三	天順三 年任
張璽	十七 年任	楊榮	二十 年任
宋輔	治十 年任	胡壽	十七 年任
薛明	正德 年任	李懋	十五 年任
宋贊	九年 任		

周命新

天津監生俱
順治年任

肇邦畿
遼東拔貢

嚴我公

號瑞溪浙江人由戶部
補俱順治年任

五營中軍守備

宣府人

傅雁祿

譚九壽

楊貴

胡聚

劉範

侯才

河南人

王銀

宣化縣志

卷之九

九科官志

五

喬丹忠

京衛武進士

王天寵

王天寵

綏新縣人

張國翰

山東東昌府人

蘇才位

河府人

陳宣

山西人

恩

陝西人

皇清前衛守備

金國政

李英秀

京衛武進士

江嘉瑞

江南人

沈廷棟

福建人

皇清前衛守備

王懷忠

濟陽人

常君

司日收

石明久

州武進士

嚴宏

常熟人

張劍

山人

安區

功以後

宣化縣志

卷之十九

九科官志

五

論曰宣在秦漢時有牧與弓相刺史等官又有官撫

經畧 係以職封疆節度招討防禦以為將帥然

昔荒遠難稽今斷自有明 以傳信 及

光化籍池師濟在位之 此也然薰藉不可同器

涇渭豈無真形孰妍孰媸姓氏俱在按籍攻之能

但流芳遺臭之懼哉

宣化縣志卷之二十一

選舉志

走大司馬選士造士官唐幽境升者當必無遺迨
漢之辟召茂才唐之生徒鄉貢宋之設科制舉宜
亦未必無人然皆文獻難任惟明之三途可稽而

科舉其著者游自有月以及

初凡文武之士咸一代濟濟之盛也為作選舉志

明進士

宣化縣志

卷之二十一

倪岳

字舜杏萬全都司進士
生天順甲申進士

李經

字而宣府前衛進士
生天順甲申進士

王質

字尚古萬全都司進士
生天順甲申進士

熊佐

字彥卿全都司進士
生天順甲申進士

百之

字允成興和籍都司進士
生天順甲申進士

葛鳴

字子中萬全左衛衛籍辛巳進士

孫世芳

字承萬全都司進士
生天順甲申進士

郭志選

字舜舉萬全右衛衛籍丙辰進士

景嵩

字惟中中都司學生
生天順甲申進士

胡載道

字文甫都司學生
生天順甲申進士

皇清進士

王天鑑 歙州萬全都司學生
生天順甲申進士

明以顯 公署都司學生
生天順甲申進士

元烈 之田都司學生
生天順甲申進士

六鑛 石麟龍門學生
生天順甲申進士

姚文 吉士兵部督捕主事
員外禮部儀制郎中

黃鼎 巨公前衛學士
生天順甲申進士

引廷理 公前衛學士
生天順甲申進士

周濟 字釜民左衛衛籍
生天順甲申進士

智聰 字德前衛衛籍
生天順甲申進士

趙良 字元之左衛衛籍
生天順甲申進士

林 字舜卿右衛衛籍
生天順甲申進士

侯佐 字舜卿右衛衛籍
生天順甲申進士

馬璽 左衛籍都司
方圓 字體乾前衛籍都司
董昇 左衛籍衛學
三貞 字聘之左衛籍都司
董昇 左衛籍衛學

馮王 字公光前衛籍都司
田宅 字秀民左衛籍
王 前衛籍都司
孫 左衛籍都司

陳 字辛酉都司
沈應奎 都司學生
潘大綸 都司學生
張鳳翼 字來儀都司學
宣化縣志 卷之二十一 選舉志 三

胡守 都司學生
董際昌 字美若都司
劉溥 都司學生
王 都司學生

宣化縣志

卷之二十一 選舉志

三

胡守 都司學生
董際昌 字美若都司
劉溥 都司學生
王 都司學生

岳徵 都司學生
王國輔 左車都司
王國輔 左車都司
王國輔 左車都司

岳徵 都司學生
王國輔 左車都司
王國輔 左車都司
王國輔 左車都司

岳徵 都司學生
王國輔 左車都司
王國輔 左車都司
王國輔 左車都司

楊燮春 廣生都司學生
李九標 廣生都司學生
王 廣生都司學生

郭 廣生都司學生
陳正 廣生都司學生
褚 廣生都司學生

張 廣生都司學生
郭 廣生都司學生
池 廣生都司學生

明 廣生都司學生
孫 廣生都司學生
門 廣生都司學生

宣化縣志

卷之二十一 選舉志

四

張 廣生都司學生
郭 廣生都司學生
池 廣生都司學生

明 廣生都司學生
孫 廣生都司學生
門 廣生都司學生

孫 廣生都司學生
門 廣生都司學生
明 廣生都司學生

孫 廣生都司學生
門 廣生都司學生
明 廣生都司學生

范廷介

郭旗

白紳

蕭斌

趙應武

李彬

張緯

李松

孫餘慶

蘇內民

胡紳

蘇內民

莫天祿

宣化縣志

卷

十一

七

梁鳳舉

邢守仁

袁宗仁

張希杖

張希杖

張希杖

梅永年

梅永年

張廷椿

張廷椿

陸玉

張廷椿

節應期

張廷椿

張一春

張廷椿

易象

張廷椿

胡銳

王天祺

王維坦

王維坦

姚椿

姚椿

王維坦

王維坦

姚椿

姚椿

文奇

文奇

張如相

張如相

閻志學

閻志學

楊如洞

楊如洞

宣化縣志

卷

十一

八

程高第

程高第

茹可

茹可

師道尊

師道尊

孫耀

孫耀

謝命賞

謝命賞

曹大成

曹大成

杜居敬

杜居敬

杜居陽

杜居陽

褚堯翼

褚堯翼

字疑一拔貢山府

州知

州總督共巡撫孫

州長吏

閻可筠

姚之妻 友任廣西 授

王廷蓋

夫 廣東

蘇猶賦 完子 子 賦 考 授 訓 導

李昌齡 任 廣 化 知 縣

張楚才 賦 貢 用 看

高承武

士錡

楚卿 賦 貢

郭延澤 任 鐵 嶺

玉 賦 貢

郝性

宣化縣志

卷十

十一

姚 賦 貢

姚之 子 和 歲 貢 封 中 憲 大 夫

之益 萬 新 丙 貢 知 縣

姚之牧 若 采 知 縣 長 樂 縣 知 縣 恩 貢 任 定 府 教 授

姚文 賦 貢 考 授 教 諭

仇 淳 賦 貢

董裕昌 賦 貢

陳明揚 子 明 任 唐 縣 訓 導

卸文獻 賦 貢 考 授 教 諭

張炳 字 叔 六 由 貢 監 任 貴 州 清 遠 外 縣

張可傳 賦 貢 考 授 教 諭

張栢齡 考 授 教 諭

史廣譽

張如旭 賦 貢 任 廣 化 知 縣

賦 貢

劉 冕 賦 貢 考 授 教 諭

郭鼎建

周 璇 賦 貢

郭家棟

董志昌 賦 貢

楊毓

褚 毅 賦 貢

王 文 賦 貢

孫枝茂

馬名騰

王天錫 子 侯 選 布

張 煥

賈聯珍

王文獻

姚文德 賦 貢 考 授 教 諭

王文獻

祖 璽 任 湖 廣 荆 州 通 判

伯 謙 侯 選 縣 丞

趙 賦 貢

張 煥

王 文 賦 貢

張 煥

賈 賦 貢

張 煥

姚文德 賦 貢 考 授 教 諭

張 煥

賈 賦 貢

張 煥

姚文德 賦 貢 考 授 教 諭

張 煥

賈 賦 貢

張 煥

姚文德 賦 貢 考 授 教 諭

張 煥

<p>倪祖經 <small>字正 侯</small></p> <p>姚文昭 <small>字正 侯</small></p>	<p>張雲翰</p>	<p>張 <small>聘之 侯</small></p> <p>王 <small>敬諭 侯</small></p> <p>國輔 <small>侯</small></p>	<p>姚文璧 <small>侯</small></p> <p>子 <small>監典簿</small></p>	<p>李來時</p>	<p>韓從信</p> <p>廣西 <small>字獻之</small></p>	<p>魏相聲</p>	<p>劉士彦</p>	<p>姚廷棟</p> <p>邵嘉謨 <small>字有</small></p>	<p>馮 <small>字</small></p>	<p>美園貞 <small>字</small></p>	<p>頗時鼎</p> <p>茹光德</p>
---	------------	--	---	------------	---	------------	------------	---	---------------------------	-----------------------------	-----------------------

<p>李士秀</p> <p>胡世輝 <small>任保定</small></p>	<p>胡維桂 <small>任</small></p> <p>張素明</p>	<p>雷 <small>字子法</small></p> <p>胡憲祖 <small>字子法</small></p>	<p>胡世倬 <small>任廣州</small></p> <p>姚興 <small>任</small></p>	<p>胡 <small>字</small></p>	<p>胡 <small>字</small></p>	<p>胡 <small>字</small></p>	<p>胡 <small>字</small></p>	<p>胡 <small>字</small></p>
--	--	---	--	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------

宣化縣志

選舉志

趙原

王珪

李納

張鎮

王

王

耿琦

王

劉楫

馬

李天壽

李

崔

成

馬一

宣化縣志

文錦

高遷

司傑

王勝

王

王

卷之二十一

何

王尚恩

王麟

李六

茹鐘

李秉中

耿祿

張學

際春

霍

都

李

秦

李英芳

霍

馬應奎

許

賈志諒

宣化縣志

倪尚仁

劉三省

姚世卿

閻可大

靳文炳

劉光正

閻

閻可久

解紹社

川

李

王世臣

沈志賢

邢官

陳國保

孫超慶

劉世臣

靳光祖

卷之二十一

胡宗夏

黃鉞

陳以忠

白尚采

閻正乾

甄奇英

劉嗣美

閻師周

劉維坤

任 穎	同可陞 <small>字維勝任尉衛 守備丁丑科</small>
奚 譽 <small>丁丑科任 守備</small>	陳萬奇
馮邦茂 <small>守備</small>	李維新
齊承業	施以敬
劉芳聞	郭世揚
姚元烈 <small>庚辰升任洗 馬林守備</small>	閔 煌 <small>任湖州 參將</small>
祝承年 <small>巡撫標下守 備加陞都司</small>	
明武舉人	
濮超咬	趙 棟
宜化縣志	選舉志
孫承祖	薄從周
馬之麟	李 邠
郭永祚	王國俊
閔正乾	王道振 <small>字鳳羽任山 西行都司</small>
閔可久	姚應麒
李尤春	王大猷
韓 圖	馬千乘
張承恩	嚴以成
王三重	張孔道

馬世榮	張 棟
姚禾兼 <small>庚午 科</small>	劉九錫
李承志	范九敘
花 寵	栗 瑞
劉九經	陳守節
高三元	于時化
劉繼址	彭繼先
趙希鼎	范 寵
姚世揚	賈師龍
宜化縣志	選舉志
馬三麟	賈守憲
劉維坤	董振周
翟從禮	袁昌明
李增葵	周國維
王福民	孫承祖
喬世新	趙 熙
許光國	陸鴻任
褚堯封	姚維仁
郭君都	奚紹英

曹應化	栗瑞	劉鎮國	閻時孔	郝九阜	馬逢樂	劉景堯	閻天印 <small>任白陽 助守備</small>	朝野安	王之翰	李時新	徐安	李繼膺	張武	馬貴	李蔚然	樊桂芳	馬上錦	宣化縣志	卷之二十一	選舉志	五	周洪獻	李維華	高承憲	胡見可 <small>任深井 堡守備</small>	姚時和	王國賓	趙都正	何其賢	任襄	李先春	張良知	張國士	史光泰	李茂華	史文毓	郭昌明	潘宮柱	劉光啟
-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----------------------------------	-----	-----	-----	----	-----	----	----	-----	-----	-----	------	-------	-----	---	-----	-----	-----	-----------------------------------	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

王之熙	李時培	高捷	鄒時孟	劉三傑 <small>字位</small>	陳國瑞	李紹收	皇清武選士	張三才	張昇鏞	郭承德	閻時芳 <small>任守備</small>	王偉 <small>任守備</small>	孫德灝	唐之彥	馬進國	宣化縣志	卷之二十一	選舉志	六	周茂賢	甄洪畧 <small>任廣東 州都司</small>	徐烈 <small>丁酉科任湖廣 武昌鎮守備</small>	陳洪範 <small>字九疇 任參將</small>	鄧承懋	郭世彙	馬雲龍 <small>已丑科初授延安 衛守備陝浙江 温州中軍 守備值海寇作 亂總兵撥守磐 石有功題加</small>	姚之元 <small>任德州 衛守備</small>	解經世 <small>字安公任河南 都司</small>	張士俊	王天錫 <small>字叔公任河南 都司</small>	王天合 <small>乙未科任 湖廣守備</small>	顏君德 <small>字前</small>	馬瑞麟	張士昌	劉嗣俊 <small>任湖廣天 柱都司</small>
-----	-----	----	-----	--------------------------	-----	-----	-------	-----	-----	-----	---------------------------	--------------------------	-----	-----	-----	------	-------	-----	---	-----	-----------------------------------	---------------------------------------	-----------------------------------	-----	-----	---	-----------------------------------	-------------------------------------	-----	-------------------------------------	-------------------------------------	--------------------------	-----	-----	------------------------------------

李毓芝	王邦正
蔣永吉	楊麟
蕭固	閻時升 <small>戊子科</small>
田	薛潤
朱繼	賈效諄
楊崇印	姜啟龍
閔奇志	白士宏
甄洪勳	王世昌
張坤	楊奇才
宣化縣志	選舉志
卷之二十一	九
劉延祚	李森
閻思賢	王所賓
李世斌	袁信
梁凌霄	李毓綸
喬杰	李自道
張楚琳 <small>任德州衛</small>	馬士鴻
李源	馮高第
楊登	張毓
蕭昌	靳宦

曹世照	李國英 <small>字培華丁酉科</small>
胡永寧	卞定邦
俞元勛	李毓經
范可師	郝光瑋
馮國選	范安民
田興	王家爵
黑啟采 <small>字榮我</small>	劉嗣榮
鄧廷輔	楊登
李恒炯	趙天錫
宣化縣志	選舉志
卷之二十一	十
劉澆	馬繼立
徐烈	梁凌雲
閔奇謀	張方晉 <small>字麗明戊子科</small>
何文寶	王日然
戴時耀	陳宗昭
梁進芳	李淙
任傑	解振世 <small>字武侯任陝西行都司</small>
王世爵	顏君政
王應世	李瑜

附明恩蔭

滿國棟 殉難總兵

金 鎮 殉難總兵

甄洪猷 殉難總兵

倪 顯 字日華 國初出仕歷官 鑾儀衛陪河元軍使登萊總兵官之孫

皇清恩蔭

劉大慶 宣鎮總兵 永亨之子

張進箕

張問明

閻達禹 任寧波府知縣

劉 泗 宣鎮總兵 永亨之孫 任知府

劉 遵 任山東德州衛千總

附滿籍

宣化縣志

卷之二十一 選舉志

十三

張鳳儀 深井堡人 任至山東巡撫

武超眾 宣人 任太醫院掌院

張得用 任江蘇知縣

附人才

王福民 萬歷年間因祖贊靖寇有功 世襲昭信校尉之職

王 臣 城兵 札佐營慈惠恤下 操榷有方 為木

李業宏 由効用陞 馬顯琦 由効用陞 雲州守備 封明遠將軍

張良臣 由開墾陞 陝西 顯君佐 由功加陞 浙江

李遇春 由効用陞 陝西 黑山賓 授守禦所

周巖龍 由武生効勞考授千總 是明忠義周冕之六世孫

陳國英 由効用陞 姚之稷 字稷生 由開

王昇華 由武生効用陞 江 張 遴 公枚任 江南督標

馬 琪 字伯玉 由劍監開 白 玘 由効用陞 張

趙 麟 由効用陞 大 趙輝毅 由効用陞 陽遊擊

馬懷仁 由効用陞 陞 碧山守

姚永芳 字芬之 由世襲陞 許 容 仕副兵

張國勛 字葵軒 由行伍陞 任

田 雄 字明吾 由行伍陞 任

王 森 字御輔 由吏員 郭家治 字瑞之 由吏員

宣化縣志

卷之二十一 選舉志

十四

張 祥 字瑞菴 任山東濟南衛守備陞 直隸龍門路

胡雲龍 由効用任 張 陳 綸 任懷來

楊兆林 江南 褚國柱 浙江鎮

胡循慧 由開墾 紹 郭大受 湖廣

王 臣 由効用任 廣 趙廷棟 廣西總兵官

陳堯澤 任桐柏知縣 孫光先 廣西總兵官

程三才 由將材任 張華國 字龍光 任九江

孫 旻 字秀挺 由吏員任 浙江衢州府經歷 上憲檄

以殺衛人公 王鳳鳴 營堡守備

陳鳳岐 字鳴山由効用仕口

劉芳昇 由効用仕張家口劉應文 難鳴

元 由世襲子黃歷年開

宣化縣志

卷之二十一 選舉志

主

論曰自安石經文之法行而所學非其所用致言皆

引孟行輒暴棄于國家任使全無裨益識者所以

憤嫉科目追咎大明祖之作俑宜懲也然考明祖

詔自洪武二年特設科舉以超怪才抱德之士務

在經明行修名實相稱後之踵斯制者言才不言

德務經明不務行修以致有名鮮實甚或奔競貽

玷為士林所羞而科舉之法乃以大壞浸假倣成

周鄉舉里選行于此際吾恐鑽刺鄉鄰賄賂當途

其形穢當亦同轍又何咎夫作備于前者哉嗟嗟

宣化縣志

卷之二十一 選舉志

主

廉恥道喪士習難言振興濯磨是所望于主持風

教者

宣化縣志卷之二十三

名宦志

士君子顧聖賢苟得策名通顯卽宜大法小廉
恪共厥任如或習孫吳家言膺職封疆卽當訓練
精銳誓節疆場以爲師武臣光昔岳忠武有言文
臣不愛錢武臣不怕死此二語尤爲邊鎮箴規也
彙諸往蹟並挹時芳其堪垂模範者豈忍歸于漸
滅乎爲作名宦志

韓制心幽州安次人也統和中爲歸化州今鎮刺

宣化縣志

卷之二十二 名宦志

一

史數以不曲法不虐民不受官自箴州民苦歲不
登奏免租賦被兵奏發廩賑之開泰中拜上京留
守進漢人行宮都部署封漆水郡王以皇后外弟
恩遇日隆嘗內宴遇歡洽時輒避之上及后恠問
對曰寵貴鮮能長保臣以是爲憂耳太平中歷南
京留守徙王嘉年五十三卒

粘割貞西南路招討司次也金大定二十八年進

士丞教授主簿用薦舉除德興府今保安州治中宣德

州今鎮刺史廉明剛毅吏畏而民愛之貞祐元年

遷禮部郎中改戶部侍郎興定二年詔拜工部尚
書權元帥左都監守晉安府三年冬城破貞與府
官十餘人皆死之

張特立東明人也泰和三年進士爲宣德州侯州
多金國威號難治有五將軍督家奴劫民羣羊特
立潛使人索其後庭得之遂縛其奴繫獄其子匿
他舍捕得之以近族得減死論豪貴由是遵法民
賴以全正大初遷洛陽令已而拜監察御史疏請
出皇族幽囚者其宰執非才及大臣諂事近習皆

宣化縣志

卷之二十二 名宦志

二

論劾不憚由是要津諸人陰擠之左遷邳州軍事
判官尋歸田里入元窮經教授學者宗之世祖賜
號中庸先生所著有書易集說歷年彙事記
常遇春懷遠人也賦性剛毅膂力絕人初從太祖
征伐無堅不摧至於平吳越帖荆楚取齊魯汴洛
皆有成功洪武元年幽燕山後諸處雖已歸附而
上都遺孽尚擾邊難爲守禦二年其將野速復侵
通州上命遇春以部軍征之由遵化鹿兒嶺敗元
將江文清於錦川至大寧野速逆戰敗走進破開

平分兵據守元君又北奔迨至北河俘斬其宗王
慶生等遂進攻大興遇春與副將軍李文忠度其
必走出兵千餘伏其歸路果夜遁遇輒大破之
斬其將帖住兒得軍士萬人車馬輜馬三千牛羊
五萬全師還燕遇春至柳河川鎮城北十五里以疾卒追
封開平王謚忠武

湯和字尚臣鳳陽人也甫冠身長七尺偶儻饒智
畧從太祖征伐累樹奇勲拜中書左丞又遷平章
洪武二年同徐武寧王達襲元帥擴廓帖木兒取

宣化縣志

卷之二十二 名宦志

三

寧夏東勝大同武寧師還和東至宣德拔其城守
臣遁走吏民悉降因上言宣德近已歸附然去穹
廬甚邇戎馬或不時出沒保聚為難請畫久便計
詔徙吏民關南配居固安永清順義諸處歲遣將
卒來守規置武衛是歲都督汪興祖取興和叅政
華雲龍取雲州左副將軍李文忠取應昌山後郡
縣悉入中國版圖云和卒封東甌王謚襄武
劉重廬州合肥人也累從征伐有功陞都督僉事
洪武十年傅友德守燕上言關外諸新附地方宜

厚加存撫其要害處所置設險守之太祖命其父
指揮使李彬往視且商確行事真至躬親勞苦日
夜不遑寢食於是東遼古大寧北連開平興和石口外舊八城非今開平與和也西連大同俱築長垣間為寧障
配兵卒戍守宜人得寧居焉三十一年復奉勅守
北平因備懷來衛城池民不告勞績用丕著進左
都督仍賜諡俾子孫世襲云

劉璟浙江青田人誠意伯基仲子也少靜朴峻厲
博通經書究兵畧太祖愛之欲令在左右做朱制

宣化縣志

卷之二十二 名宦志

四

授璟開門使且金書除素摘倭四字於鐵簡賜之
令糾正不法者時都御史裏察奏事件旨璟當大
廷擊其項舉朝憚之成欲其遽去共薦投谷王長
史之國宣府凡恢拓城隍修築壇社安輯護衛官
校皆其謀畫蕭難兵起獻十六策不能用以疾辭
歸成祖登極璟附家不起怒誣以罪逮繫焉臨行
所厚勸戒之曰皇上神武過唐文皇先生忠良允
為魏徵可也璟睜目曰爾謂我學魏徵邪吾先生
之分已決矣至京授以官不受對上語猶稱數下

遂大忤旨下獄辨髮自經歎

薛祿山東人也永樂中以軍功拜左都督進封陽武侯宣德初年佩鎮朔將軍印鎮守宣府建議徙開平內地以便戍守又築獨石陘慶等城一日帥師巡邊至奇黃嶺遇敵進戰悉斬之盡獲其家口孳畜捷聞加太保祿為將勇智兼備紀律嚴明所過秋毫無犯善撫士卒裹創赴闕有進無退故所向成功卒追封鄴國公諡忠武

譚廣字仲宏鎮江丹徒人累立軍功由列校進秩

宣化縣志

卷之二十二 名宦志

五

都督僉事王文皇北征嘗命為先鋒所至奏捷時號為譚家軍每遷左都督宣德正統間佩鎮朔將軍印鎮守宣府繕甲兵治臺墜立壇燼建學校憫士卒貧苦為增置營房外事者為義塚藏之又以各衛所隸後府軍情不便請設都司統治焉尋陞永寧伯在鎮二十餘年威加萬里邊人賴之李儀順天涿州人正統初以右僉都御史巡撫是地是地有巡撫自儀始創建開張多可法守而又履廉迪正邊徼信畏然權貴人所不喜也坐是被

繫次嘉靖二年巡撫李鐸因採民情作昭德祠俾有司春秋俎豆焉

劉建應天江寧人也永樂壬辰進士由監察御史歷官戶部侍郎正統初總督宣府凡二十八年公勤廉謹恪有定守不畏權要正統己巳之變調度方殷璉平日區畫周詳糧芻充足人賴以安及請致仕歸合鎮吏民保留廷臣亦多言者璉竟浩然去景泰三年卒于牖下葉文莊公盛奏請褒恤加祭塋贈諡云

宣化縣志

卷之二十二 名宦志

六

羅亨信廣東東莞人永樂甲辰進士正統五年以右叅都御史巡撫練士卒時糧芻清刑獄修城墉邊人畏服己巳帝用權宦言北伐因致土木之敗時邊城多陷宣府孤危既而朝議復召宣府總兵官領兵入衛京師人心益皇皇或欲遂棄其城眾紛然爭就道亨信乃以忠義激勸人心且仗劍坐當門拒之下令曰取有出城者手斬狗眾始定城中老稚歡呼曰吾屬生矣因設策捍禦督將士誓歃以守敵知有備不敢攻北門鎖鑰賴以保全皆

其功云後陞右副都御史去

李秉字執中山東曹縣人也正統丙辰進士景泰三年以右僉都御史總督軍務兼理巡撫至則舉廢政革科徵贖屯種借爵賞皆毅然為之邊人久而益頌焉累官吏部尚書太子少保

葉盛字與中崑山人正統乙丑進士天順八年以左僉都御史巡撫初盛為宣府叅政尋改命赤城兵備時獨下等八城堡失守盛招撫流亡修舉廢墜擗勁卒要害諸怯懦弗任戰者悉驅之農畝

宣化縣志

卷之二十二 名宦志

七

官給牛種專力耕獲苻收其餘糧為市牛馬器械之信置戶儲蓄醫藥建鄉校設義塚均疏圃自是邊境寧謐歲亦屢豐有同穎嘉禾之異至為巡撫一如獨石時墾田益廣所收餘糧益多宣人至今思之官至吏部右侍郎卒

余子俊四川青神人景泰辛未進士累官右副都御史巡撫延綏卓有成績成化間詔以太子太保戶部尚書總督宣大凡弭寇綏民之策選將厲兵之方日夜圖維務底詳盡然後疏上以請請必允

行至於設墩臺築城堡備戰具修馬政通鹽鍋之利定屯種之規皆如在延綏時所行宣大人便之惜為忌者沮撓志未大究爾

秦紘山東單縣人景泰辛未進士初為御史侃侃奉職綽有風裁成化十八年奉命巡撫北便利軍民事必力為之權官諸請求皆謝絕不行鎮城樓櫓衙署版庫久而敝者一易為新官不費貲民不告病丸制人以為焉官至少保戶部尚書卒謚襄毅紘平生剛直廉介歷官四十餘年至大司徒沒後

宣化縣志

卷之二十二 名宦志

八

家無遺財子孫有貧乏不能存者張錦民西人成化己丑進士二十二年以右副都御史巡撫公廉勤慎地方軍民利病一一訪求必力為興革龍門萬全左衛學曾以兵燬奏請重設學中子弟時簡勸焉累官刑部左侍郎

李介字守貞山東高密人成化己丑進士宏治元年以左僉都御史巡撫忠信宏厚明達正直政暇輒請學宮與諸生行鄉射禮為行伍倡諸生有勤於誦習暨行伍中有勇於戰鬪者必出公資激勸

之用是文武士翕然感奮焉後陞兵部左侍郎仍

留鎮經畧竟卒于鎮贈兵部尚書子昆亦為兵部

左侍郎云

楊謚字文寧河南儀封人成化己丑進士宏治三

年以左僉都御史巡撫乘廉宅公日夜勤理政務

凡大小文移必自起草所區畫邊防事期在經久

可行如復團種之制革馬政之弊要皆便利宜人

者陞陞兵部侍郎

劉大夏字允雍湖廣華容人天順甲申進士累官

宣化縣志 卷之二十二 名宦志

九

戶部侍郎治初北邊糶糶類多中貴子弟經營

射利儲司深問以致告乏至是簡命經理召

邊上父老日夕講究遂得其要領一日揭榜通衢

云某倉場缺糧芻若干每石束給官價若干封圻

內外官員客商之家但願告報者米十石芻百束

以上俱准雖中貴子弟不禁也夫幾倉場流積蓋

往時市易法有來告報必種百千石芻千萬束方

准以致中貴子弟爭相轉買沿邊軍民糧芻陸續

運至自此法立有糧芻之家自行告報中貴子弟

無從市易矣邊人謂三十年前僅此一見云仕至
太子太保兵部尚書

陳紀字叔振福建閩縣人成化己丑進士宏治七

年以右僉都御史巡撫亭岸凝查內和外剛鎮

中將吏以下有不法事雖假權要人請之一毫無

所假借服則躬詣學宮呼師生庭下講說經史又

甚樂易宜庠大成殿丁祭舊無樂舞因為奏設君

子孫其政道愛人者

馬中錫字六祿河間故茂人成化乙未進士宏治

宣化縣志 卷之二十二 名宦志

十

九年以右副都御史巡撫下車之日奏劾諸姦貪

將至自是無敢有一撓法者一時風紀肅然

又為復祀田正牧地畫馬價增團種設官店公私

皆便之或曰公所為府怨奈何中錫曰余生乎不

敢負君民即有是又何顧焉後陞右都御史竟以

忤權貴歿獄中云

按官府之設鎮城共有五區區各有屋百十間馬公奏行蓋為客商居貨之所或取其課備官用也時有旨刻石垂示永久嘉靖年間邊臣改為別項公署

雍泰字世隆陝西咸寧人成化己丑進士宏治十

二年以右副都御史巡撫剛直果決不恤已私嘗

有狀參將不法者欲劾奏參將詭乞受責即杖之
培下於是三軍股慄然參將與權者聞威乃遂以
此罷官後又以言官薦起為南京戶部尚書然未
幾又以忤權貴去

王雲鳳字應韶山西和順人成化甲辰進士累官
國子祭酒以權闖用事告歸都御史石邦秀通政
丁鳳等交薦其賢命巡撫茲鎮至則戢猾宵劫貪
帥理預信保甲法恤窮問急訓士以孝悌忠
信其疏寧張銳之喪天下尤壯之尋以憂去

宣化縣志 卷之二十二 名宦志 十一

不復仕

姚行廣東人幼博學善為文辭成化甲辰舉
進士宏治十二年以戶部尚書郎奉命總理宣府
糧儲志尚廉潔倉庫傾圮重為建置甫三載以病
卒于官斂無餘衣囊無餘蓄官給路費柩始得歸
蓋士大夫思之

李寅字敬之河南豫州人成化丙午舉鄉進士任
萬全都司教授謹架度尚德化厲廉耻且詣公堂
列諸生於側臺臺講繹不倦因材質高下俾各有

所成諸生無敢作戲言惰行者錄是為科難仕和
望後先開學以來罕儼其益後以疾辭

劉源清字汝澄山東東平人正德甲戌進士授江
西進賢知縣宸濠謀逆遣親臣論縣起兵源清轉
斬之事平擢監察御史陞大理丞尋命巡撫宣府
甫下車繩豪猾吏劾貪汚官黜怯懦將領軍民稱
快既乃賑恤貧窮旌獎忠烈表厲風俗興起序庠
汰冗食之濫用之弊廢舉隆修遠近寧謐在
鎮七年部左侍郎總制宜大偏保大同軍叛

宣化縣志 卷之二十二 名宦志 十一

奉詔統兵兵征之功垂成會有以老師費財言
者詔下直放歸田里

韓邦奇字汝節陝西朝邑人正德戊辰進士歷官
坊庶以程文字誤外補嘉靖癸巳擢巡撫是方檢
吏弊申官常察邊情訪兵畧清曠役之成省虛費
之財增城築以扼衝修馬政以備其厚以恤民而
勸之耕獲豐以饒士而教之行能宜人允有依賴
焉在鎮三年召入內臺視事仕至南京兵部
王重光字延宣號濼川山東新城人嘉靖辛丑進

士由部郎分守口北道時威寧侯仇鸞上書出征
統兵屯扎宜府恃寵驕橫公以理折服之其部兵
強橫輒繩以法鸞脚之借口備給不足引軍恐嚇
所司其實鸞兵皆以糧鬻于市公察知之乃謂鸞
日與其賤鬻孰若與之金金亦縣官物也于是鸞
許半折支省公私費數萬總兵吳鼎者其所部士
卒殺平民冒功公抵之罪邊人深德之遷貴州左
叅議三載不以積勞終於任事聞予祭贈官黔
省建祠與三陽明先生並祀焉有忠勤錄
行于世

宣化縣志

卷之二十二

名宦志

七

王象乾字子廓號舜蒙山東新城人隆慶辛未進
士萬曆己丑任分守口北道叅議甲午擢陞巡撫
都御史時欵市歲糜金積溢額公堅持如往例市
馬槩索重價公令以美惡上下其值計省邊費凡
四十萬史車二部請保塞久之安免誘去公囑順
義王執之歸貫其款二部始畏服無他中使來權
稅宜鎮成例且一萬公力爭窮邊卒定四千金在
鎮增修亭障繕具器械跨洋河為石梁長千尺廣
五軌又修萬全學宮建尊經閣貯書萬卷會播州

平進秩兵部左侍郎往督川貴軍務就道之日邊
人積其車至不得行建祠河橋上天啓三年察汗
駐宜府塞外聲音與威兀慎構兵意殊巨測朝議
謂非公不能定時已歸老于家乃乘板輿飲乳而
至察汗偵知惶恐詣塞下謝乃申盟約披帳去君
子謂是役也汾陽不得專美于前云

汪道亨懷寧人萬歷癸未進士由南大京兆巡撫
宣府因欵責時久創置來遠堡于張家口又因滴
水崖地震上書執政極言災異之由得發帑金三

宣化縣志

卷之二十二

名宦志

十四

十萬以餉軍饑蓋嘗屢疏不報至是乃得請同時
直指周師曰目為社稷臣殆不虛云
耿繼武山東沂水人由北直灤城令擢保定府通
判駐宜府陞延慶州牧器宇純雅政事敦龐首問
俗于稱紳父老子惠困窮力除奸弊優禮學博殷
殷愛士于養生時加周恤其徵糧嚴論里老不憚
諄諄話言荆楚不庸而逋欠者寡詞無妄准問理
幽隱畢徹由是獄無淹滯囹圄屢空民俗幾至無
訟矣

沈榮號彥威浙江烏程人萬歷癸丑進士宣府巡撫賦性慈良持躬廉潔有清畏人知之風然政敦寬大不喜苛察尤不喜迎合用是忤監視貂璫被逮出城之日香煙水孟填溢街市男婦老少傾城號泣幾不得行紳衿軍民擁送者接踵于途因詣闕上書迺得論為民

劉永祚字錫仲陝西韓城人萬歷己未進士宣府巡撫榜門一聯云謹關梁完要害千里長邊幸一烽之未起省刑罰薄稅斂六年鎮撫愧五技之已

宣化縣志

卷之二十二

名宦志

五

窮宜人至今以為寶錄

楊昌柱字廷石遼東義州人幼精騎射由百夫長不十年間晉秩副帥以軍功擢佩鎮朔將軍印來總兵宣鎮一以廉靜慈惠為務後調懷標練兵總兵嘗談及邊事輒扼腕長太息曰兵法知彼知己百戰不殆今之持廟算者徒驅百萬生靈以入春開之妻飲天下脂膏以填渤海之波子恐邊方未靖而揭竿者已達國門矣歎何足惜但惜歛而無濟于封疆耳後與我兵戰於松山以眾寡不敵遂

身被六鎗面中三矢歎焉時明崇禎十五年也事
周瀾太子少保榮祿大夫庶一子錦衣百戶諭祭
賜葬葬在保安衛孝文山之原仍建祠歲祀額曰
旌烈

梁雲樞字眉居河南蘭陽人崇禎戊辰進士巡按
宜雲兼督學政激揚之餘尤以興學造士為己任
其在宜則立勸起社于所蒞察院之東進俊髦而
謀育焉亦時至社中鼓舞備至而風雅逸韻迄今
有餘

宣化縣志

卷之二十二

名宦志

六

秦廷奏北直曲州人崇禎戊辰進士以巡方兼學
使公明廉威將吏奉法唯謹至加惠後學邊士稱
為良師三載拮据憂形于色遂暴終焉
岳可字德義號若所陝西延安人晉攻鉛紫涉獵
詩古文詞既而習孫吳兵法萬歷壬子癸丑間聯
以武舉進士大司馬推轂守備山西河保營晉陽
和遊擊將軍以勞疾告歸里崇禎中起復為宣鎮
萬全都司清操彌勵多惠政民至今稱之
郭都遼陽人少以忠勇自負為衛指揮行功晉都

指揮僉事充副總兵協守宣府嘉靖癸丑歲秋七月蒙古由張家口入過懷安抵順聖東西城南及蔚廣攻段堡寨殺掠人物甚衆既折而東將犯保安至鎮城東南地名谷村都領兵二千餘相值方為陣以待敵四面圍之用精騎突陣兵勢不能支都厲聲曰毋懼第直前不來此即無生理也于是領哨應襲千戶王國乃身先士卒督令血戰士卒半已死傷都與國畧無憚色各中矢被刃無數乃亡事聞詔褒贈如例云

國宣府人

宣化縣志

卷之二十二

名宦志

七

張紘陝西人也素以忠義自許薦陞都指揮同知充延綏遊擊將軍嘉靖乙卯春江總督檄召紘兵來鎮備禦秋七月蒙古十餘萬衆毀垣入散掠保安東西川紘因領所部三千兵往擊之猝遇於張家堡南敵衆來衝紘令我軍開壁縱千百騎入乃合壁殺所縱入者敵怒圍之重匝紘領妹歛戰歛歛者無數紘待援不至以力盡歛士卒盡覆沒自後被擄逃回人述 中追談是役猶咬指云 宋之馮宇德止號勉齋宛平人天啓乙丑進士崇

禎癸未二月由河東參政來巡撫絕苞苴謝請託不期年賊軍利民城池軍壘諸賊守具尤綜理周密邊人安之甲申春流寇過太原大同相繼陷寇氛震及宣境公集文武紳士軍民于城上申說大義矢死相守在城樓月餘一燈達旦時監視宦官與鎮帥握精兵遣偵卒密約降賊數以賊衆惑公及語洩復立坑一弁脅公公密謀執二人佯招計事伏健卒伺之會游寇突至鎮帥等揚言出禦脫身去歸即擁衆自防公知事不可為出衣取紅公

宣化縣志

卷之二十二

名宦志

大

服日以此殮我足矣獨與民守之踰日賊薄城下公將發礮擊賊而砲眼已為監鎮所塞矣監鎮乘間開南門賊遂入公在北門開變欲自刎左右泣擁公行公口去此一步非歛所矣遂服紅公服登城樓拜遺疏而縊焉越歲辛丑邑人祠于鎮城王宗伯為之記 王承印字仰承宣府前衛人幼驍勇善騎射屢以功歷陞宣鎮總兵號令嚴肅馭衆少恩卒有犯者輒立斃宣人有八棍王之稱甲申流寇掠地至大

宣化縣志

卷之二十二

名宦志

九

奉

同承印先期令營將白廣恩密表約降許以城獻
暗傳號衣為記與巡撫朱分守各門乘間暗令人
將砲線收去塞以鐵釘寇兵至城下巡撫朱發礮
無稟念知為所賣自縊死承印遂開南門迎入賊
凌轢縉紳設置偽官引兵東向以承印隨去後賊
敗不知所終鄉賢因多世無凶德此有
開國體用存之以屬後人
沈宜字大悟湖廣孝感人順治二年由官生銓授
河間府推官宜鎮理刑精明敏練請托不行雍容
都雅道氣照人忽有訐奏其為公子不階刑名者

旨解任赴吏部考試人素知其長于詩古文詞不以命
題而試八股欲難之也公詞理兼優初不知其有
名舉子業也得以原官用兩補杭州鎮江執法如
前竟解官歸

陸濬齋號未菴浙之平湖世族也由鄉舉銓授宜
鎮理刑推官溫柔敦厚凡聽斷一本平恕不喜深
文巧詆有古循吏之稱以墨誤調用宜人惜之
劉永亨號貞吾先為浙之青田人徙西安世食采

宣化縣志

卷之二十二

名宦志

十

榆林衛父登瀛於明崇禎時官宜鎮葛峪路叅將
兄永恩官柳溝副將公早歲蹶起戎行歷宜鎮之
青泉雕鴻儀田靖安諸堡操防守溝葛峪叅將左
翼營副將因家于宜 清興起補遵化副將尋陞
紹興加都督僉事晉都督同知擢鎮守宜府總兵
官其久在上谷習曉邊事如王公霸其推誠布信
人多感悅如于公翼其躬勤早暮紀律嚴明如薛
公祿其繕甲兵治城隍脩祠祀如譚公廣且性篤
孝友敦故舊尤折節為恭儉可謂昇平福將
者矣

拜音達禮滿洲人康熙十二年 簡任鎮守宜府
總兵官時未踰強仕之年端重老成儼如宿將不
苟取一物不妄撻一人軍民安之惟恐其不久仕
也會有
旨調赴南征去之日民為之罷市軍為之永矢弗護
徐元珙號荆山江南武進人順治乙未進士康熙
十二年分守口北其虛懷正已不以詭隨為能清
約儉素不以封禪是尚沉幾先物慮以下人不以
聰明自見勞勩自矜下車之始值滇黔告變能謀

定神開法令畫一夜思早作彌篤忠狀而雉堞則
先破堰則復學校則新徭稅則清與一切供億須
至新令者靡有後期洩茲四載事

旨內陞蓋口北所僅見者

李騰祖遼東人任直隸山東河南總督康熙二十
五年直撫從 畿內士民請檄行崇祀名宦

朱昌祚山東高唐州人任直隸山東河南總督謚
勤懇康熙二十五年直撫從 畿內士民請崇祀

格爾古德滿洲人任直隸巡撫歲癸亥 題請永

宣化縣志 卷之二十二 名宦志 三

禁圍占民田經部覆准至今人無失業之苦尋卒
謚文清康熙二十五年 畿內士民請直撫檄令

崇祀

于成龍山西永寧州貢生任直隸巡撫端慤老成

正已飭屬地方利弊多所興革十九年 題罷宣

屬七處鹽商令民煎銅包引至今便之又 題賑

宣屬饑民計口授米沿途設粥贍之多所全活八

府善政累累未幾陞江南江西總督卒謚清端康

熙二十五年直撫從 畿內士民請檄行崇祀其

孫準任直隸守道來宣餉養三旗馬駝有風力民
以不擾後陞貴州巡撫

于成龍遼東人任直隸巡撫時口外鹽宣民惟自
相貿易康熙三十七年張家口商人告行引如長

蘆例奉

旨差部使查詢邑人稱不便部使左袒乃叩

關上請公抗奏罷之民為建祠草市東其它善政流及
幾輔者甚多不具載實為 本朝第一賢撫後陞總

河從

宣化縣志 卷之二十二 名宦志 三

駕征噶爾旦督餉有功尋卒 賜謚予祭葬

楊維喬字岱禎山東寧海州人已亥進士歷庶常

侍御出為叅議分守口北道會歲在庚申自鎮城

迤西南二三百里野苧相望公奉

旨發粟蠲租戴星踏雪不避勞瘁務使匹夫匹婦無不

被堯舜之澤者且接壤雲中饑饉同患甚至鬻子

拆婦遂有居奇質遷絡繹出于宜之塗公下令逆

旅主人凡挾子女來者輒止之以告為擇置空廨

戒嚴守關備極存郵俟其少甦而還定之暇則進

諸生課藝品其甲乙秋試京兆則為之實與春赴
禮闈則為之祖餞皆張樂餽贖不費公帑一錢是
科辛酉遂獲售三人明年會試中式一人皆公承
流宣化所致也去官之後闔鎮人民為勒墮淚碑

王隲字人岳山東福山人順治乙未進士來分守
口北未期年以前任四川松威僉憲之卓異膺內

名去其滯宣時遇事之震撼糾纏粹來紛至獨能不
動聲色莫邊隅于磐石之安俾斯民有生養之樂
從容區畫處難者若易蓋優入乎經濟名臣而勒

宣化縣志 卷之二十二 名宦志 三

史房基力詳盜種隱匿之誣合城士民戴德詳見
看語及碑記中

閻可權號宜菴廣寧人康熙間由叅領擢鎮守宣
府總兵官洩鎮十三年修舉軍政未嘗輕劾一人

亦不輕舉一人雖值邊境清晏不敢以無事自逸
修城垣排積沙完隄壩修津梁與文庠武廟及諸

神祠梵刹之傾圮必多方贊襄樂觀其成歲荒捐
米遇早祈雨凡有需費從未擾及商民亦不卸責

有司公餘退食食不喜後終日必束帶整衣亦

不擇華美軍牙嚴肅不令家衆外出年五十餘頭
顛黑如少壯因冢嗣不祿憂傷填胸遂成不起之
症宜人為建祠肖像

黃永臣字丹衷陝西龍州堡人以騎射素嫻選守
榆林之新城其威遠寧邇之效雖往來寧夏西涼

之商旅猶歌頌之康熙間晉秩遊戎來將宣鎮左
軍兼理中軍時值邊境寧謐從容安靜不多生一

事不濫役一人其部曲糧餉絕無虛冒侵蝕陋弊
即令節生辰餽遺概行屏却公餘退食門庭寂然

宣化縣志 卷之二十二 名宦志 二

且性喜簡約日用所需甚少亦必給時價遇路
將員闕委令代庖不得已往至其地則館于僧舍

始終不易其介性潔操竟引疾去
尚宣陝西人由行伍歷陝蘭鎮三屯營副將康熙

間陞總兵官宣府後加提督銜頒易勅印在鎮整
飭營伍約束士卒俱馭以嚴先是宣屬各營汎積

玩生驕兵多不法有一字鄉紳之目自公蒞之有
與民爭鬪者雖小過必加重懲凡守千以下稍有

縱弛輒重撻無恕其各營兵一入轅門成股栗色

變往往有犯卽斃杖下故宜屬伏路之兵偵緝奸
宄至嚴且密而盜息民安四境謐然四十四年以
將弁相構免公去後兵仍弗戢防禦益弛其驕橫
成習匪類潛滋宣人士乃愈思尚提臺尚提臺不
置云

李發甲字瀛仙雲南人康熙甲子科舉人由真定
靈壽縣知縣行取授監察御史歲癸未山左大饑
公奏稱人民相食 上問其狀並發部議部以所

言過懇革職蒙 上特恩命藩口北蒞任之始卽

宣化縣志

卷之二十二 名宦志

五

裁革一切陋規以省州縣費且加意培養學校課
士覈爲衡品捐俸以定獎格文風丕變民有耕種
無力者設法辦種均給窮乏得補助遺意至山民
砍畝多爲旗棍土豪霸佔公悉其弊詳請永禁論
民報認民業以安其秉性恬靜廉正凡整屬馭吏
冰雪自持洞悉驛遞供億之苦從不擅騎一馬尤
加意軫念自奉恒薄市價從無虧短至若修橋築
壩類倡捐徧募不以派民滋戾也宣城舊有朱勉
齋姚權我忠義祠公慨其傾圮捐貲重新之俾縣

之廣文署其後不時省視用意遠矣又修養濟院
俾孤貧不至露處善政縷縷于乙酉冬陞調天津
閩邑士民爲立碑以志弗諼云

李公諱錫字培元遼東人閱關名家簪纓繼世三
韓望族也抱經濟雄才歷任畿輔所在有聲

上念鎖鑰重地特簡蒞宣公愷悌慈祥坦夷鎮靜十
屬之民若不知有監司者至其剔弊釐奸統御察
屬當寬當嚴又毫髮不爽殆裁其鋒而不露者歟
跡其大政如詳革出門一稅宣人永食其福詔云

宣化縣志

卷之二十二 名宦志

美

仁人之言其利溥哉嗣此建樹正未有艾宣人士
將執筆以俟虛其左以紀它日之設施云
秦毓奇遼東人先任涿州知州康熙三十二年改
宣鎮爲郡縣直撫郭 題陞宣化府知府聰察強
幹威稜服物時值建革因人稀而里甲不設念地
瘠而田賦從省亦有裨益者蒞任未幾卒于官
范時崇字自牧遼東瀋陽人父承謨浙閩總督耿
精忠煽逆抗節死 今上褒恤予祭葬賜諡忠貞
歲甲戌郡守缺 上以宣新置非才猷夙著者不

可素知公賢乃由順德特調茲土奉養右衛騎馬
多厥斃皆却不受旗丁啗之後赴交大同有以瘡
言者奉 旨來京閱視受卸賴公得直

皇上駕幸口外經臨宣化府中使至皆素善公修道
路備帳殿一切供億毫無苛求更民倚重焉及駐
蹕累荷 寵眷 召對行宮直陳地方事宜宣

人食其福者夥至賜之堂額曰親民迄今 宸翰
輝煌旗下有點者曠義旗告圍宣地部使查勘凡
民糧田公力爭其誣卒得免其它和寮屬禮紳矜

平訟獄省冤滯政一切崇寬大人稱愷悌君子殆
不誣云後陞天津道去

祖延泰遼東人由霸州知州 特陞通州路同知
越數月再擢宣化府知府仁慈廉潔鎮靜中和有
古循吏風視篆未久民方想望措施遽嬰危疾卒

於署人至今思之
呂公諱 猶龍字爾霖遼東人初令平湖丁艱補傅
白最有聲譽卓異 賜蟒特擢遼州牧癸未 舉

與幸陝過晉省荷蒙 召對以才能再擢宣化知

宣化縣志 卷之二十二 名宦志 三

府越一歲 六飛自口外經幸除官治道無阻越

在郡博通經術熟練典故凡判署據案灑灑切中
察要人服其神表帥十城文移無妄發胥吏無私
援讞獄明矣茲政勤敏過蒙獨輒繩以法雖權貴

請托不少徇至接賢士大夫則藹如春温諸如建
義學舉資與通錢法平斗斛嚴禁奸商請革濫稅
裁抑驕弁戢治橫兵次第設施皆大有造于宣今

李撫軍趙撫軍屢登荐剡 天子心識之宣民惟
恐一日或去云

宣化縣志 卷之二十二 名宦志 三

周德榮字苑伯遼東人任宣化令有幹局當建革
初官署城池倉廩營創補葺多勞績斷獄慈祥蒞
事勤慎一邑稱治其請罷行鹽今猶食其福至詳

革門稅雖未行詳修北壩雖未久尤見經濟宏遠
為人樸實少文在邑十餘年拊循保護民愛之如
慈父士敬之如嚴師丁內艱解組任內有因

聖駕屢臨丈應浩繁費倉儲若干欲變產以足宣人
聞之咸樂輸代償不移時而具去宣之日民為之
立石建祠焉

陳坦字文選，伊蒿楚之黃陂人家，世詩禮敦孝友。曾祖龍伯先生，祖太村先生，皆宿學明經。父義臣先生，抱異才，成名進士。由司李改縣令，陞郡司馬。政績烜然，其詩文著作尤典茂，可傳。陳公以淵源家學，又負穎姿，號神童。年十二，即受知于司理祝山公先生，補弟子員。屢試輒冠，聲名大播。壬子中式，經魁屢入南宮，未售。遂筮仕廣文。漢上諸士，欽其師範，執經問業者，環程門諸上憲。凡論文校藝，必檄公為專席。禮遇特隆。歲庚辰，陞河南鄆城

宣化縣志

卷之二十二 名宦志

无

縣。例多私，派公嚴禁之，絲毫無取。官箴清肅，士民愛戴，與誦。聿興大司農徐公青來時，撫河南，聞公廉走人，密偵之，具得其狀，方列荐剡，詎以丁外艱去。鄙人遮留，碍例未允。徐中丞慕令之賢，亦具奠于太翁，以致敬。蓋踰常格，以待云。服滿，補銓令。宣宣邊郵瘠壤，民生凋敝，公軫念維艱，凡撫字催科，悉竭心力。民困大蘇，抵任三月，值

聖駕經臨，公拮据，欽差任勞任怨，上無隕越，下無謗言。且負性詳敏，諸凡宗牘，悉經已裁，故無留贖。

亦無究民，焉重故衙，要其也。供億勞煩，送迎受至。公曰：披風灑沙，支持情墊，辦給皆告無缺。而眷屬在楚三年，無一贖給，自舉儉約，食無味，衣必屨浣。於重民膏，庸未嘗妄取一絲一粟也。公嘗自嘆曰：讀聖賢書，不能履布四體，稱自取，遂乃勞心瘁神折，屢周道，執若繩，黜明之賊，導山水之盟，以遂我初志。即現在總管亦盡吾心，完吾職而已。蓋公之淡泊寧靜如此，為人和厚，高舉尤喜獎屬人才。作養士類，至于操行持躬，不遺不隨，而初終弗渝。

宣化縣志

卷之二十二 名宦志

三

前任觀察李公瀛，仙嘗手書青天白日以宅心冰清玉潤，以操行數語用况其品。今觀察李公培元，郡伯呂公爾霖，巡憲李公卓庵，亦交相品題。君為君子，不置口。蓋公之德望，領人又如此。任宣三年，嚴匪類，抑無賴，禁賭博，懲奸猾，詳修城垣，改築河堤，考課生童，以培文教，請裁門稅，以憂民困。嚴禁旗人煤竈，以靖地方。又建義學，修忠義祠，建育嬰堂，善政縷縷，其緒餘也。復于簿書之暇，留心典故。見縣志久缺，遠稽近考，編緝成書，捐俸刊板，以備

贈將之採宜之文獻類公弗堅說者謂公之澤殆與燕山比高洋水比長云

宣化縣志

卷之二十二

名宦志

三

論曰宜一邑耳乃文自巡撫武自總鎮而下咸官于

此其德惠洋溢忠貞彪炳之員宜例得而書之故

明時羅東莞葉崑山劉東平以及我華容劉時雍

十餘公其撫循利濟遺愛昭垂他如朱景昌譚仲

宏張世良十餘公之將畧亦增輝史冊而廉明剛

毅有若粘招討讞決彈劾有若張司候其職卑望

重者亦接踵而山迨我

皇朝應運之才文經武緯駁駁蔚起即官制不同而勳

名各立誠前型可範宐式來茲者後之君子誠能

宣化縣志

卷之二十二

名宦志

三

貌美彘徽則後之視今亦猶今之視昔而奉為法

守天茲終譽亦操券之易耳豈必謂古今人不相

及耶

宣化縣志卷之二十三

鄉賢志

古者用人闡胥升諸族族師升諸黨黨正升諸州
 州長升諸鄉鄉大夫論秀升之司徒蓋其始重鄉
 評如是迨後服官致仕為三老為五更故鄉先生
 殺而祭於社蓋其終繫鄉望如是甚矣鄉之難以
 襲譽也宣以山川之秀誕毓多材又培植養育代
 有其恩致文章華國黼黻王休者有人熊羆之士
 不二心之臣又往往鵠起故宦積人品煥于簡冊

宣化縣志 卷之二十三 鄉賢志

皆可垂式人倫為作鄉賢志

潘澤字澤民宣德府人也少讀書壯遊魯齋許先
 生門用太保劉文貞公薦由太府監陞奉議大夫
 知宏州獄前係疑盜八人榜掠百至無跡公明其
 非辜出之無幾盜果得治最召為御史時刑部官
 有倚要官行不法者召按不能致公從卒至部捕
 之論如律轉山北遼東按察司或言高麗王謀逆
 召近臣偕公治公謂王今尚主王舉事必上變安
 得噎嘿以從他臣求竟、獨輕平主果馳使上明

制使多得罪公尋入都御史臺出為淮西按察
 轉江南肅政廉訪使卒官

劉敏字有功宣德府人也年十二元將驍而收發
 之帝宴諸將於行營敏隨入帝見其貌偉俾留宿
 衛習國語聰慧遂得帝心授安撫使兼燕京路等
 使初耶律楚材總裁都邑契丹人居多其徒往往
 中夜拔弓矢掠民財官不能禁敏戮其渠魁令諸
 市又豪民冒籍良民為奴者衆敏悉歸之興學校
 薦名士為之師己丑太宗即位授行尚書省憲宗

宣化縣志 卷之二十三 鄉賢志

即位命與牙魯瓦赤同政未幾歸病卒

盧孝儉宣德府人也天眷二年進士累官太原少
 尹大定二年陝西用兵尚書省發本路稅粟赴平
 涼充軍實期甚嚴迫孝儉輒易以金帛馳至平涼
 用省而不失期并人稱之進官二階遷同知廣寧
 尹廣寧大饑民多流亡失業乃借僧粟賑其一歲
 之用使平其價市與貧民既以救民僧亦獲利累
 遷山東轉運使所至有德政云
 武格字伯威宣德府人也初以神童遊學江南吳

澄為江西儒學副提舉入國學明宗在潛邸選為說書秀才及出鎮雲南恪在行明宗欲起兵恪諫曰太子北行於國有君命於家有叔父之掄冷若向京師發一箭史官必書太子反也右憲恪言遣還京師居陋巷教訓子弟文宗知其名除秘書監典簿秩滿丁內艱屢薦不起陽為瘖瘖若不能應命者恪好讀周易每日堅坐或問之曰先生之學以何為本恪曰以敬為本所著有木雲集若干卷

宣化縣志

卷之二十三

鄉賢志

三

江福宜鎮人也正統中都督同知土木之變中官喜寧隨英廟北狩兩引眾寇薄索金帛無厭中外苦之景泰改元福為萬全右衛守備寧遣腹心高塗來邊伴言和好實欲誘我軍出而襲之福覺因與塗結權動以忠義鑿頗泄其情福遂以圖寧事密告塗塗應諾福尤慮賊情詐請總兵朱謙楊俊各領兵伏野狐嶺左近至期寧果遣塗先來會盟福令壯士十餘人皆衷甲外飾常服各執候具出關迎寧遊寧奉酌寧引有難色塗從傍贊勸遂

下馬相勞苦如平生酒行福目壯士因就擒之關內伏兵皆疾馳而出喊聲動地敵見墮計皆遁去並擒其酋火力火孫英廟旋得回鑾福之功不可少焉惜為當時有勢者攘冒而福亦竟無言尤見其善處功名云

周玉字廷璧宣府前衛人父賢成於忠授玉都指揮同知成化壬辰充遊擊將軍援延綏斬獲甚眾癸巳寇據黃河套玉與都督許寧合兵直抵賊壘焚其巢穴進都督僉事還復敗寇於馬營赤城還

宣化縣志

卷之二十三

鄉賢志

四

副將丁酉佩鎮朔印庚子拒敵柴溝天城連捷佩征西印鎮寧夏丙午復佩平羌印移鎮甘肅先是番賊劫哈密王母金印至是復殺都督寧慎朝廷下其議玉請因外使還使齎詔往諭之已而果遣人入貢獻金印城池請老許歸明年卒上為輟朝賜祭葬謚武僖玉公廉嘗大書不敢負朝廷處六字揭之有武僖功榮錄傳於世

李經字士常宣府前衛人成化戊戌登進士由庶吉士授雲南道御史出按河南湖治豪強扶植良

善吏民畏而愛之懷慶彰德諸府早炊徒殆數萬計卽慨然上疏請球之賴全活者甚多然勞於視事遂致疾卒於官

張俊字世良宣府前衛人成化末歷赤城龍門葛峪馬營守備尋充遊擊安治已未敵寇大同俊領兵往援卒遇賊數萬合圍數重俊血戰一日夜身被重傷殺賊無算竟破走之陞都督同知尋佩征西印鎮大同明年改鎮于宜佩鎮朔印極力軍心捍難備至賊遠遁降勅獎勵正德中詔入中府分

宣化縣志

卷之二十三

鄉賢志

五

番宿衛武宗眷顧甚隆呼張總兵不名俊為將寬簡能以寡覆衆經二十餘戰身被三十餘創未嘗敗劬以老疾歸養卒於家

門寧字靜之宣府左衛人成化五年貢入太學授直隸南和縣令抵任卽慨然曰吾所學正在今日首詢民利病而興革之凡百所需不擾民財民有貧而婚衣量為資助尤能防備旱澇積麥採荒政通人和百廢具舉及考最民為立石縣廳後以疾

辭

張濂字景周宣府人正德丁丑登進士授河南鹿邑令以才調浙之海鹽百姓嚮之政成擢山西道監察御史多所論建已而清理江北諸衛班軍會歲祿濂計慮先給軍樂於行還復往監陝右瀕行權要人示意某可舉某可刺至則濂之歎曰吾能枉是非媚人取大官耶卒以實狀上因憾之以事改大理評尋進山西按察襄民周朝者妖人也糾黨破縣城殺令濂雨夜馳至捕之事旋平向權要人復指為罪遂落職濂一無所辯浩然歸歸卽徇

宣化縣志

卷之二十三

鄉賢志

六

祥林登訓子課農時事概置不問鄉士大夫高之年七十六卒

楊百之字允成性敏睿日誦數千言為文操觚立就登正德甲戌進士授行人戍寅擢山西道監察御史一時風裁獨著江彬者鄉人也得幸毅皇權傾天下每因人誘致百之婉詞以謝竟不一及其門已卯奉命巡京通二倉袁官猾吏無敢滋為弊棄辛已出按遼東遼東故邊陲武吏多依勢干犯巨宗多橫虐良民文士曠學至則廉武吏勇怯

貧廉者升沉之別巨宗以愚者旌罰之稽文士勳

情尤甚者進退之遼東人稱頌焉嘉靖癸未遷擢

廣西按察上疏曰臣親老誠不能迎養炎燭願賜

歸既歸日侍親堂下務求有以娛樂其心少暇輒

與張儀制鐘詠觴鐘亦恬靜狷介人庚寅劉中丞

源清李御史宗樞並薦二人百之堅不出銜出為

山西憲副旋亦乞休歸復結社如曩昔人之

葛鴻字子高宜人也勵志問學與其弟鳴自相師

友日研究聖賢經傳往復辯正必底洞徹乃罷正

宣化縣志

卷之二十三

鄉賢志

七

德已卯同薦順天鄉闈辛巳鳴登進士鳴不偶旋

歸書舍奮修倍恒鳴仕為給事中詒書諷以剛直

任事為郡守諷以恤民無任情為憲副諷以持大

體不苛於正鳴亦忻忻樂從之曰兄教我嘉靖壬

辰春其業不合有司者五未幾病卒鳴性好古其

學篤尚躬行茹服不求有麗居家能養親友愛弟

昆待賓客儉素誠欵與人交無一偽飾人有慕者

往造初若近迂久之必加欵服或歎為

真若子焉

董一奎字天宿號北山宣府前衛人父賜屢立戰

功陞遊擊歿于陣一奎生有神力勝千鈞能挽勁

弓善射聲洪而貌偉貧不能襲父職巡按胡宗憲

資給之始獲如例嘉靖乙卯以功陞指揮僉事歷

官宣大寧武古北延綏洮岷總兵萬歷壬辰佩征

西將軍印鎮守寧夏時叛兵許朝序劉櫻城拒守

即子城外任事晝夜不解甲者八十餘日鎧葉被

汗蝕孔殆遍癸巳調五軍六營右副將冬調一營

左副將時倭酋關白遣使求封兵部尚書石星以

一奎曾援朝鮮備知倭情將奏封倭正使遊擊沈

宣化縣志

卷之二十三

鄉賢志

八

惟敬暗與倭勾連往謁問何處倭事一奎曰馳至

釜山視其情形或真或偽當詳實具奏耳惟敬懼

阻之乃言于石曰倭素能詩恐非董所長石惑其

言遂以臨淮侯往而倭竟敗盟乙未陞鎮山西辛

丑致仕歸宜鎮固將藪一奎與其弟一元尤出類

拔萃者

董一元字天象號少山宣府前衛人父賜兄一奎

皆號將公善技射膂力過人且矯健能越屏風履

危城若平地以軍功由守備歷任副將陞昌平宣

府剡鎮延緩遼東備倭各鎮總兵官身經百戰屢立奇功高平大捷摧敵破膽督撫疏論公功部議加伯爵副臣趙沮之奉旨董一元振起積衰大收奇捷功可嘉尚著陞左都督加太子太保歷一子本衛世襲都指揮使人以李廣不侯為公惋惜後積勞屢疏乞休遂泛舟歸里與兄北山公優遊田園年八十七卒

解一清字汝澄號竹泉宣府人祖鏞以功陞指揮

同知父福早卒一清寓食外家能自愛及襲職巡

宣化縣志

卷之二十三

鄉賢志

九

按李有池選管衛屯時年二十餘衛黠者窟穴于其間一日醜金為壽冀噤不敢問乃大發其姦置諸法擢迎恩堡守備請金增修雉堞迄為堅城調滴水崖守備監築長城費省而工舉奏最陞山東都司歷遊擊叅將戊子陞薊鎮副總兵調寧夏時每冬修墻河上士多凍歿一清曰銳氣挫于險塞糧食竭于築邊甚非策也條議罷之部院臺省交薦再陞山西總兵調薊鎮甫任事三屯營卒叛將甘心于減餉者諸將倉卒不知為計一清單騎追

止之日若受朝廷養恩奈何為亂我為若復其餉丞馳至遵化言於中丞亂遂止擢昌平總兵居二年復以寧夏兵亂再調寧夏彈壓之一清為將性寬大至鎮寧飭以嚴嘗曰不明威而用恩恩將不固也殫力助勦精神耗損竟致疾力請歸逾月而卒計闕賜祭

黃明臣字國瑞號吉菴先世江右之彭澤人洪武初從軍北上有功世襲千戶遂家於宣公甫二齡

乃祖與父皆謝世祖母馬母江撫養成立后兩臺

宣化縣志

卷之二十三

鄉賢志

十

使者脫其英發有度擢寧遠堡防守歷承寧叅將累官至昌平總兵官屢疏以疾辭閉門謝客二十餘年天啓二年朝廷咨求老成人入佐前籌復晉中府僉書尋以市駿之任屬公前後奔趨市口櫛風餐雪者三年天啓乙丑甫當報命乘傳至榆林驛而公忽病輿疾至里不半月而齋志以歿訣絕之日目于鑑鉉曰吾歷官都督銜王命提大軍數犯矢石乃得身事五朝貴為一品錫玉賜麟榮分四代人臣未易避也獨我方寸隱隱有不釋者為

爾長兄繼戰歿風樂神兒鉉戰成開原吾以老身
半落東西二市口父子成國乃不能生見烟塵之
息為可恨爾遂長逝年七十八公生平事母孝雖
武人雅愛文士好為善幼嘗捨庫金百數十兩跡
其人還之其他皆類是蓋多陰德云

張國柱字君用號磐石宣人也生有異兆嘗卧一
所咄咄作彪形與韓世忠事相類甚奇久之以世
曹起家守備雲州薦請崇顯凡三總大鎮兵初山
西次薊門最後佩征西將軍印守雲中跡其生平

宣化縣志

卷之二十三 鄉賢志

十一

老成壽國善撫士卒居家事繼母孝處鄉黨若宗
戚人侍以緩急推為長者天啓初宣士科名阻抑
直指疏陳之是科得中三人張甚有力焉年七十
六終崇祀鄉賢子名世中書舍人工行楷書孫光

烈順治乙未進士

張支霄字雲翼宣府人幼失怙食貧茹荼攻舉業
督學每試必魁其曹餼于廩有年不獲一雋京兆
授徒里中養母孝以節孝顯明崇禎末由歲貢任
襄強訓導值流寇亂歸欲倡道臺上有梅斯吟一

編人多莫能解遂益專志著述其為人剛方言有
條理平生博覽尤邃于堪輿星命年八十餘猶不
杖而行鬚髯雪皚飄飄如地仙無疾而逝

姚世卿字獻吾宣府前衛人明萬歷戊戌武進士
歷官鎮守大同掛征西將軍左都督天啓四年察
汗與敖木諸部擁眾雲鎮邊外及款市復通矢謨
為多崇禎己巳丙子以在籍宿將兩經入衛及解
嚴之日褒勞孔嘉推轂方殷無何遭疾終有司以
聞追錄事功特予祭葬其論祭文有云講誓矢勉

宣化縣志

卷之二十三 鄉賢志

十二

而烽烟息警嚴疆收樽俎之歡損貲易贏而星夜
兼程都門重金湯之寄蓋紀實云

張邦奇夔吉之父由鎮撫登辛未科歷任總鎮薊
昌山西等處狀貌魁梧氣量恢廓明神宗謁陵甚
奇之賜蟒玉及僕眷注甚隆薊鎮功績積最且雅
好吟咏號盛世福將云卒賜祭葬

王天鑑字近微宣府前衛人順治乙酉舉人登丙
戌進士除恩縣令時流寇遺孽常竊發公至治樓
檄游匪並按鄉鄰立十九寨募鄉兵掩捕賊渠邑

以寧他邑查警檄公往屢捷盜賴以息政聲大著
 民立祠肖像祀之舉卓異 賜袍服進儀制主事
 陪籍田家 殊遇甲午轉員外典試山東稱得人
 再遷郎中乙未 擢河西參議絕餽遺肅吏治按
 討軍實嚴禁賂削人歌頌之尋因忤于時遂謝歸
 構別墅顏曰墨莊藏書數千卷惟事嘯詠甲寅少
 司農魏公象樞疏薦有上馬殺賊下馬草露布之
 方之語堅以疾辭公性孝友仁厚痛母劉早逝每
 掩泣丁父承德公艱居喪盡禮叨榮

宣化縣志

卷之二十三 鄉賢志

十三

幼命撫胞弟遊府天錫理問天錫皆成立壯歲懸車林
 廿二十餘年非公事不涉官府後門人蕭侍讀視
 學上谷屏書弗通其介如此自奉儉樸輒徒行恂
 恂鄉里邑人皆稱其賢年六十卒公舉崇祀
 姚永康字晉侯宜府都司人順治五年拔貢任遂
 安令慈祥大著尤請行社倉力新文昌大成諸祠
 廟綽有成績陞判平涼奉職 欽案餽遺卻不受
 獨持平具報得如法能聲蔚起後以矮屋莫展遂
 拂袖歸鄉居二十餘年與賢士大夫詩酒咏酬人

此之香山洛下德望傾動人比之彥方太邱至危
 填津梁一切義舉多解囊不吝二十六年壽彌高
 行彌邵值鄉飲衛官宋公之傑教請大賓堅以疾
 辭殆彬彬退讓君子焉公仲嗣之牧任長樂令在
 邑濬陳塘港惠民頗如先公令遂安時今以母老
 牒請終養里人僉稱其孝云

姚永熙字載熙宜府都司人功苦力學丙午舉于
 鄉受真定教授陞令新繁邑方數燬于兵原野蕭
 然至撫流亡舉荒蕪輕刑薄賦民居稍定秩滿陞

宣化縣志

卷之二十三 鄉賢志

十四

濟寧牧州當水陸要衝時公年已七十餘白髮隨
 然衰牘旁午猶早晏勤敏無發勝者未幾以老疾
 辭年八十三卒邑人張喬年輓之云先生何忍遽
 騎箕緬想手神若在茲歷下空傳遺愛頌蜀中猶
 護去思碑詞壇樹幟虛宗匠直道何人更主持和
 句寄來無幾日俄吟一曲淚如絲
 馬瑞麒號祥芝宣府前衛人由順治乙未進士推
 授濟寧守備陞長沙都司值寇李來恒竊據西山
 討平之全活被擄婦女無筭後以裁補萊州都司

因兼轄註誤降補江右千戎三藩叛逆寧邑土賊
據城協軍恢復擢授寧州營守備賊圍艾城倉卒
定亂立有戰功題陞遊擊賊再攻城東門發火藥
神鎗立斃却之復會同官軍一擊賊于白茅衝再
擊賊于九都斬俘甚衆賊喪膽遁去寧民樂業建
碑記之再陞任四川冕山營遊擊癸酉休致年七
十四卒

姚之夔字龍友宣化縣人由廩生入國學授柳州
判灘河名三十六斗七十二灘者水石險扼壞舟

宣化縣志

卷之二十三

鄉賢志

五

數輩往皆咋舌中丞施公檄視之請遷還築隄以
之稱凡府州盤錯者輒屬公在南寧詳免省餉遠
解在東蘭冒險詣蠻洞諭輸積通丙寅調太平按
偽劄時爰協從公言於上官令自首付火保全者
衆尋陞廣東提舉清理場電疏通脚引恤商輯民
鹽政以舉丁父艱歸旋丁母艱常悒悒終養不獲
請遂不仕鄉居葺祖塋旁置廬舍肅祭掃兄弟友
愛宗族輯睦凡義舉必身先之曾貸衆議楊公金
數百不責償有告行鹽者甚不便倡請奏罷勒碑

怨家誣訐公中使薄責力辯得直性寬和與人無
城府花朝月夕俱吟酬放蕩以寄傲云

姚之愷字子和宣人也祖熙吾以明經歷任陝西
興安牧父永濬借隣邑郁陽被流寇失守父老奔
興安托命熹代為訓練保障鄉民後總鎮康康其
才題授興安中營都司越十日丁外艱去幾竹山
劉二虎圖興安嚴裝往援中礮而歎母杜矢節訓
子延師課讀公性嗜學自幼即博覽羣書尤精時
菴屢試冠軍人以名士稱之數上公車不售乃閉

宣化縣志

卷之二十三

鄉賢志

六

門著書講德論業執經問字者甚夥其領鄉薦推
一宮而以尊顯者都諫黃鼎楫中翰褚絳他皆受
所建樹咸公之流澤也其課子尤力卒得成各邑
人張喬年錄成語贈之曰有子已成天下士無人
不美地行仙之句及除翰林庶常得馳封公堅卻
不受曰吾撥青紫直分內事焉用是為耶姻姬勸
慰再四方額之三遇
覃恩初封徵仕郎再封奉政大夫三封中憲大夫蓋異
數云公游蹟貴顯從無驕倨容足跡不履公府出

入不御車馬恂恂若諸生時年彌高德彌邵監司
李發甲廉其賢請充鄉飲大賓力以疾辭人頌其
謙德壽七十五卒子文光戊午舉人壬戌進士授
翰林院庶吉士由兵部職方主事管禮部儀制司
員外郎中陞思恩府知府考績報最陞雲南驛鹽
道副使未任卒于途人咸惜之

倪顯字日章號雲巢宣化人幼聰穎隨祖太保公
讀書望海樓時年十六以祖廕授錦衣衛西司祖
歿失怙家居養親值大帥駐宣利其賞謀中以飛

宣化縣志

卷之二十三 鄉賢志

七

禍母楊慮一綫孤危促之補官遂任鑾儀衛整儀
戶歷任勤勞每考皆最尋陞冠軍使先是遵例陳
言直指兵民疾苦獲俞旨直聲振一時屢奉覃恩
母楊妻黑皆封淑人後以塋親陳情給假遂絕意
仕進告病弗補日與姻友看花命酒吟哦不輟凡
所題咏手錄成帙號數音草年躋古稀道貌崖然
壽七十九卒

張名世字時可別號五雲征西將軍國柱公之子
博涉書史兼精琴旨善行草書崇禎辛未考授文

華殿中書舍人以征西病告歸適已屬穢哀毀除
禮服闋不仕惟徜徉山水彈琴賦詩自號愛雲老
人又稱東臯野叟我

朝定鼎中丞馮公欲登薦剡公固辭隱去人以此高
之為人慈厚亦多義舉如待異乳妹適劉氏及外
弟趙某資給極厚又龍門倪氏嘗貸五百金不能
償即焚其券皆為人所難以子光烈貴贈奉政大

三崇祀鄉賢祠

胡慧可字竺人號槭室鎮城人啓禎間士學詭異

宣化縣志

卷之二十三 鄉賢志

八

獨究心程朱抉性理諸書故文氣光昌詩慕七才
子句尚奇警

本朝丁亥拔貢庚寅授江西吉安府推官未幾菁葉
竊發奉檄按捕其渠乃尚藩下戚屬求釋不遂幾
中危禍遂移疾歸年方三十餘也初公甫生即孤
家業凋零事母甚孝生平慷慨重氣誼亦多駟恤
晚年謝絕交遊杜門教子今其家彬彬蔚起四子
以濟領壬午鄉薦亦庭訓之報也
張光烈字觀揚號芝田順治戊子舉人乙未進士

宣化縣志

卷之二十三

鄉賢志

九

知夏邑多狡獪聚置之法羣奸屏息其夙連難
征者立限期勤勸諭得無終遭又煮粥活饑禁民
鬻子邑紳梁方伯卒於秦家有六櫬子幼難舉公
為代墓馬鬣纍纍人咸義之擢同知平陽府肅紀
綱絕饋遺時榮河臨晉上官械通糧者付公治之
公盡去其械勅縣緩比次第報完蓋民不忍負公
也臨汾缺令撫軍以公才委署其篆公為革火耗
宗雜派除衙齎懲幫貼省民財約萬有餘金典史
丁某歿代補解餉所折銀百有餘兩脫其內弟於

戒痛之

姚時中字權我宣府人性端方言行無所苟雖布
衣草履潔如也其教人以德行為先大家巨族爭
延為師時中處之又淡如也學官上其事於督學
屢蒙優禮崇禎甲申聞流寇將至輒語人曰寇深
矣余無補擊賊當事有或無二者朱中丞一人而
已余當從其後三月流寇入城時中獨從容肅衣
冠自縊于學宮正殿之西偏窳然如生時風日慘

宣化縣志

卷之二十三

鄉賢志

十

淡懷中刺刺作聲探之有所書詩曰報國無權偷
生不義竊比夷齊乾坤正氣何用此身惟有一
妻子無知付之不計夫舉世情慚生獨擔負正氣
又稔知捍大患以成勤事者惟朱中丞一人而願
從其後歲辛丑郡士庶合祠以祀與朱中丞同馨
俎豆故忠臣義士之名并垂不朽云
申以孝原任山東鄒城縣丞致仕家居聞流寇破
城投井歿其子都司學生旺見父投井亦觸柱歿
有兩忠貫日門額

李承鐵鎮城人由順治己丑進士八年授湖廣郎
房縣令時川賊未靖房以隣壤數被寇城郭邱
墟官署無存頓居羊角山上賊出沒無時領鄉民
控禦未及一載羣賊蜂擁圍城外援不至城遂陷
力屈被執罵不絕口賊怒支解之後鄉人公舉其
事經在城廳廉公介口北道朱公廷環核實時批
有云以春月之官抵方張之寇屢戰不勦一蹟而
殞顏常山之激烈視歿如歸張睢陽之捍禦雖敗
猶榮古有其人今逢其事因具詳學院總督允崇

肥鄉賢

肥鄉門限 續云在縣民家及朔月川賊為害甚大

劉廷祉字

宣化縣人康熙丁未武進士孝友

性成事祖父竭力承歡至疾侍藥必親嘗乃進後

得俸必遺奉親供甘旨家居時有胞兄弟六人推

衣讓食極其友愛鄉人李姓者家貧鬻子祉惻然

與衣濟之且捐募贖其鬻者俾完聚人高其義康熙

十年任湖廣南漳守備祉親視險要嚴飭部伍

行會同縣令督民壯防禦賊屢犯境城得不陷十

三年襄陽總兵楊來嘉從吳逆背叛遣人來誘祉

宣化縣志

卷之二十三 鄉賢志

三

叱之曰吳逆負國來慕不思盡節報效乃我不共

茲天者尚敢以口舌惑人耶即斬使焚書漳人咸

奮是年八月內賊犯南漳祉領本部兵接救於土

地嶺賊挫衄追入重圍奮殺過當帶傷陣亡奉

旨諭祭塋後崇祀鄉賢祠

論曰鄉賢有祠蓋以俎豆馨香申其美好即以鼓舞

後人也然亦有曩古之英人骨已朽享祀缺如而

姓氏芬芳者又有近代忠良未經崇祀而人望咸

傾者曩為鄉賢同式來茲誰曰不宜至于俗尚弗

古名實多乖往往餘風節襲令聞而行乖品陋或

汲聲干權勢或假譽于財賄或濁流附和眾口鼂

然者比比皆是嗚呼是尚得為直道之行與論之

八哉

宣化縣志

卷之二十二 鄉賢志

三

宣化縣志卷之二十四

人物志

天地絪縕之氣山川誕毓之靈產有人類必有秀異特鍾軼羣邁俗者以為宇宙光矧宜地雖邊徼實古聖人名壤其涵濡履戴既蓄精華軒昂盤礴更蔚魁梧故力學敦古之儒剛勁雄畧之才與夫重彝倫矢節烈碩彥闢媛後先接踵俾之增輝卷帙洵萃美之煥煥也為作人物志

忠義

宣化縣志

卷之二十四 人物志

一

周賢字思齊宣人也襲父蔭為副千戶累立軍功迭秩後軍都督僉事充叅將鎮守開平敵寇陝西詔賢領所部兵援之至野馬澗等處與敵力戰六日生擒斬馘甚衆尋復戰於榆林安邊營以援兵不繼遂歿于敵事聞上甚悼惜遣官諭祭仍令有司立祠皇太子亦憫其忠自為文慰之追贈都督同知蔭其子玉為都指揮僉事云

孫剛宣府前衛人也由軍功陞都指揮僉事守備永寧正統十四年秋敵寇獨石馬營守臣楊俊棄

城遭敵陷獨石馬營遂及雲州剛領永寧兵援之

至中途遇賊數萬計且戰且行我兵寡不能當陣

遂陷剛之上聞遣官諭祭加褒贈仍陞二級後

葉文莊公復奏建義烈祠祀之著為碑記

周冕字文中宣鎮人狀貌雄毅志行不苟官都指

揮僉事坐團營嘉靖戊戌夏六月敵由萬全右衛

入至鎮城西北二十里時總兵郝都督鏜甫代張

真佩朔將軍印方數日軍令尚未申聞報先令冕

以本營精銳兵禦之至姚家莊遇敵布陣敵縱騎

宣化縣志

卷之二十四 人物志

二

亂之遂不得陣兵潰冕被刃而歿比鏜出師敵去

已遠矣於是監司劾奏鏜而以冕為屈云今候補

千總嚴龍是為公之六世孫

丁璋字文佩宣鎮人少有奇畧膂力過人善挽強

弓馳奔馬遇敵無眾寡輒勇毅當之有敢戰名嘉

靖丁酉被薦陞永隆叅將戊戌八月朵顏潛師夜

抵隆慶瑯倉卒出戰部曲多未至戰輒不利身被

數創尚手斬八級自解去辛丑陞署山西副總

兵秋七月俺答阿不孩領大兵由陽武峪掠寧偏

雁門璋領部兵往禦猝遇與戰敗其先鋒已而北

衆擁至環圍數重戰十餘合不得出力竭而斃山

西士大六義之疏狀以聞上深悼惜賜諭祭祭廟

董賜字子昇宣人少有力勝千鈞勇毅敢戰與都

指揮江瀚齊名嘉靖辛丑秋俺答阿不孩領十萬

衆寇山西陣太原城下賜時為遊擊將軍領所部

兵往援遇之突入其陣即斃數賊已見敵四面合

山揚奮臂大呼躍馬舞劍而出萬衆辟易以上八

見者歎美久之甲辰以事坐廢尋總軍營已酉敵

宣化縣志

卷之二十四 人物志

三

寇隆慶永寧鎮守總兵趙鄉在論且計得代遂付

六三千於賜瀚曰若姑為我禦 賜瀚遂領其兵

禦之敵營一值前一出背後夾攻之 鄉猶揮

刃力戰殺十數賊而歎遇大同總兵周尚文援兵

至始敗遁至今邊人稱驍將猶必曰賜瀚云

祁勉宣鎮人由千戶中嘉靖庚戌武舉累陞葛峪

參將因愆往日玩寇數致債事乃亟為扼塞計未

及行敵常常往來長城下擾之勉曰不盡殲此我

土人安能牧耕我安能飭邊備未幾敵果下輒督

兵直前士卒反為所殺戮監司勦奏之將罷官候

代去會敵又寇邊勉曰我國將去然義不得避難

仍引兵往迎及與戰以兵寡勢不相當因被困圍

力屈而逃事聞上賜贈祭廕其後為指揮命事

滿桂宣府人偉幹虬鬚猿背善射拔起行伍智勇

特著明天啓時由遼東中軍副戎陞寧遠總兵尋

命鎮守山海節制四鎮加太子太師行都督復

以軍功特進元祿大夫左柱國賜上方劍命事

事屢建奇績戰歿贈少師謚忠愍諭祭葬仍崇祠

宣化縣志

卷之二十四 人物志

四

祀之廢子國棟錦衣指揮

雲龍字從晉先世大同管家堡人父曉字三

擄心識之後長乘間脫歸充伍為軍 鄉

殘掠每戰奮歎嘉隆間由把總有功世襲揮命歷

官宣府遊擊時稱驍將至萬歷歿公襲職彎弧橫

槊勇畧嗣其家天啓七年果官至宣府總兵索賄

者摘其微告許奏因濟職崇禎己巳都中震警公

從大將軍滿桂仗劍赴援召對矢奇策帝知其能

時起山海總兵命統新募兵鎖鑰都門

馬林芳之子官至總兵克嫻韜畧雅善鍾王有古
儒將風初鎮遼東後守開原殉城

宣化縣志

卷之二十四 人物志

五

紹鈴素裕馳塞外而摧堅獨羨子龍之膽守孤城
以効水誰歸先軫之元恨沉瀚海忠表陰山洵為

三章定論也

頗廷相字公燮宣府人明萬歷壬寅

朝龍興之初克遼瀋時相引兵三千往禦見勢去諭

之日我受國殊恩三賜璘玉誓以效報爾兵衆有

願回者令吾子收屍沙場足矣勿同盡也衆皆感

泣願致死無一肯還者因聞一歸報會我 兵至

相持數日俱戰歿報至子重光年甫十九大慟日

為臣水忠為子不宜水孝乎隨集家衆往兵子弟

各號泣願從選精銳三百星馳尋父屍不獲亦與
衆血戰死我從

龍將憫其一門忠孝恤其家屬給口糧送還事聞神宗

命本處巡撫諭祭仍賜忠臣孝子匾額世襲都指

揮會書贈廷相重光等官塑像褒忠祠饗祀春秋

國朝定尚蒙祀如舊緣祠宇倒塌祀典始缺云

祝國忠字秉直宣人也世襲指揮

七月與弟國良從劉挺杜松黃鉞等援遼

清河對陣兄弟先後力戰陣亡奉旨俱以原官加

宣化縣志

卷之二十四 人物志

六

陞三級追贈加謚世襲仍崇祀褒忠祠先是其祖

曾者字殿侯以世襲千戶于嘉靖三十

月隨總兵歐陽安勦賊于龍門

與世襲蓋一門三忠云

許國忠宣人也由萬全都司仕至南路蔚州參將

萬歷二十二年奉調征倭進攻開城北帝尚州全

羅遇敵力戰而死

黃鉞字龍門大將軍吉庵公冢子由世襲任陝西

寧夏中衛參將因拔遼戰歿于鳳集

黃鉞字禹門萬歷乙未武進士初授守備累擢前鎮東協副總兵從總兵馬林戰歿三岔口追贈總兵官愷忠愍人祀褒忠祠

甄奇傑崇禎年武探花初授保定前營遊擊累陞鎮守保定總兵官總督部院孫黎陽題稱本官一身是膽熟歷邊疆端於戰陣又有保疆護餉斬賊

全城之功率自特陞鎮守南陽

總兵官左都督因征勦關賊乙亥七月內河

宣化縣志 卷之二十四 人物志 七

有公族諱祥者官塔山副總兵亦戰歿塔山可謂

一門忠烈矣

馬勝龍字雲生宣人也明大州總兵之長子

齡年卽究心陰符中壬午武舉及

國朝定內撫鎮康其才授職守備嶺山轉維揚揚州

守備屢定南王屢立戰功特陞廣西桂林遊擊時

聞寇會竊猶熾賊首李定國聚眾數萬犯桂林龍

集部卒勉以忠義閉門堅守奈賊眾我寡救援不

至糧盡力竭城遂陷仍奮勇巷戰殺賊百十人遂

遇害繼妻郭聞之執義自刎其仲弟從龍時隨任見兄畫節亦慷慨赴闕歿于難事

特賜半葬褒恤忠克蓋闔門盡節云季弟武舉猶龍

萬里尋骸遵例殯葬人咸稱其孝友焉

黃鉞字九玉以明經授閩鄉知縣凡四年閩部史

可法題授准漕監紀累晉兵部郎中同史閣部督

帥陞兵備道時我

朝三聘維揚失陷公大呼仗劍歿其忠烈為

黃洲字閔仙號子喬宣化人由武進士初任宣鎮

宣化縣志 卷之二十四 人物志 八

道標中軍守備尋擢山西平魯衛遊擊時大同總

兵姜驥叛勸公從已公曰吾家世篤忠孝

逆耶然慮不能脫禍乘間宵奔

隨營効力逆平晉陝西固原城守參將時靜寧州

大盜劫掠地方公奉檄往勦適與賊值遂憤擒賊

首侯生友等五人殺傷無算餘賊敗走公單騎追

至田鋪橋堡賊眾萬弩齊發公面中流矢越三日

殞此順治十二年十二月終事也先是公見賊勢

猖獗屢請益兵當事皆不之救及聞報提督王一

正恐不利已捏報病故匿不

上聞致五十餘年來褒揚久缺其鄉賢名宦均未邀組
豆之光今吏垣都諫鼎楫是為公之冢君時懷遺
鐵祝

天顏開霽即欲陳情但河清難俟潛德幽光尚難表著
茲為訪請輿論登諸邑乘以備他年輶軒之採云

宣化縣志

卷之二十四 人物志

九

孝友

殷禮宣德人性至孝嘗薪自給猶日求甘美養親
金貞祐宣德陷蒙古元帥董驪居民出城父盡
及禮俱與焉俄而下令凡老者殺無留士卒聞命
方以殺為嬉勢將向盛遂潛往代伏其父於身
下以兩手據地俛而延頸待之士卒辨視未審禮
項購因中二刃至夜半始甦禮二子一子下無老
力老殺時禮已以善舞劍被選而行次蔚
聞其父歎謂侶伴曰我且逝歸墓父遂歸求父尸

宣化縣志

卷之二十四 人物志

十

而得之負以涉河水傷脛至血出發母塚下屍封
訖之乃還後以從征有功與二子俱為顯
林茂鄉宣德人年四歲父母俱歿八
之甫卅角時詣塚墓前號慟欲絕新有果蔬必薦
後伯父為商贏于財年五十無子委茂鄉家事日
與其妻懇伯母前曰林氏單弱誠不忍伯父絕傳
也伯母信為置二妾未幾伯父母亡遺孕生二子
彥卿俊卿夫妻保抱護視之及壯有室欲析居茂
卿力勸不可乃傾囊悉歸二弟自領田百畝屋一

區為生厥後二弟交游匪人日喪所有茂卿仍加
賜給畧無憤辭嘗曰我無伯父何以有今日也二
弟尋亦感化為善人而茂卿二子植構並能趾美
科第顯仕于朝

劉德淵宣德人性類異童亂失父母已若成人執
喪禮三年事大父孝疾病湯液必親雖躬溲矢弗
厭鄉人蓋以比古黔婁云大父年九十一益一夕
誤入其席大父曰此無足異誤耳然猶勝一也
久之且詣學宮講肄歸或夜戒叩戶者勿亟曰大

宣化縣志

卷之二十四 人物志

十一

父方甘寢爾毋攪之也洪武三年湯平章和來取
宣德德淵迎而泣曰小人有父老不能一

一兵入吾家即驚歎矣平章笑曰一我軍

應不至是當為爾再申之事平章召孝孫來因

厚有餽遺乃去

朱冕字景文宣府右衛人父卒事母孝養備至
務得憫心母年至九十三病篤冕晝夜憂懼每夜顛
天祈以身代母病尋愈後冕患項疔醫者望之驚
走冕子俊泣曰吾父病竟不能瘥耶百方訪詢

告之保定有良醫可治此俊七日夜去其家得藥
歸進病即愈鄉人稱其孝有所自云

郭宗興宣府右衛人幼失怙事其母林備竭孝誠
朝夕侍側必候顏色憂喜喜則自適憂則極意娛
之林病宗興躬理藥粥至不起乃為治喪塋具務
盡力曰舍此復何以用情也既窆結有服者強之
返宗興跪泣曰歸無母宗興必一皆親能
德宗興即宗興歎于此尚復奚憾邪諸有一
不能強皆歸於是宗興取數椽自為屋墓側居之

宣化縣志

卷之二十四 人物志

十一

夜則悲號晝則封殖比及三年林木蔚森縱橫俱
成乃指而望之無不知為孝塚也有司上一

旌表里閭焉

宋傑字宗賢宣府左衛人每讀經史見古聖賢忠
孝大訓及身能忠孝者輒矢志效之宏治十三年
以貢卒業太學登選籍即北旋養父母朝夕奉承
惟謹惟恐少失親懼父有疾無頃刻不在傍湯藥
必躬治衣帶浹旬不解有呼輒應比卒復哀毀至
羸瘠既葬日候母寢室清晨必焚香祈天願滅已

年益母率以為常又親撰孝願歌梓之遍給鄉人
囑其體踐其學尚躬行如此卒後劉都御史源清
聞之俾有司祀于學宮以為鄉先生云

劉鸞字鳴盛宣府左衛人少攻經史為庠生業蒸
蒸進可大成年二十餘父母俱在貧不能娶躬為
朝昏候飲以養備極敬誠母病疽口吮瀆處勢就

愈他病復乘取糞嘗之差其語竟不為天號慟
屢輕健爾善事於家分我守母可矣遂居墓傍陪

宣化縣志 卷之二十四 人物志 十三

時上食如其生存晝負土築塚夜則伏苦悲鳴山
魁野魁擾之益置弗顧遠近哀憐共取菟兔

三年喪畢甫入城居養父無何

趙弼字良卿宣府右衛人嘗讀書敦尚孝義父昇

疾侍醫藥不違卒哀毀踰體比葬臨其母李請守

塋母曰爾去我必念爾遠或不能至奈何且爾知

有父矣爾不知有母耶爾悟而止既襄事每日蚤

暮輒向靈筵致哀奉養其母比平素尤至母卒一

如喪父哀毀合窆之日即結廬其傍悲號無間三

年歸設牀几養韓懸父母小像其內如常定省歲
節偕妻子祀之盡誠信焉事聞詔旌其門

孟文恭宣府左衛人父老奉事甚謹有疾輒憂懼

夜向天祈以身代後竟卒文恭以禮葬之即日結

廬其傍朝夕哭奠親負土石築為墳臺遠近稱孝

焉三年有司上其事詔優恤令樹坊

胡載道字文甫宣府人幼孤事親至孝友愛

兄弟不問資產隆慶丁卯舉順天亞元

成進士授廬州府推官條上均賦役通制錢抑刀

宣化縣志 卷之二十四 人物志 十四

訟清屯田嚴保甲限皂快覈追徵恤軍吏八事皆

見施行獄獄恥為深文多所平反河決高

浦繼之全淮之水注高寶諸州

司空李馴檄督河工築堰濬淤河歸故道薦進一

級署中松結異花產雲芝廬人歌詠其事矣未行

取郡國第一以忤當道僅補駕部主事巡視皇城

肅清禁旅胥猾不利作奸搆飛語出判兩浙鹽運

司大有興革商甯稱便轉南戶部主事未幾致政

歸敝袍卑廬泊如也跡其行事真誠退讓終身不

事雖飾可謂篤行君子矣

陳國寶宣人也任前衛指揮使性孝友國人稱之
兩弟同居煦煦如也究心兵書至營陳奇門詩文
掌故靡弗通曉然沉摯寡言而貌若不知萬歷甲
戌以武舉高第晉秩都指揮同知歷任專城暨為
關司為京營所在有聲穆陵升附時冬方駿國寶
預令十二羽林備衛寒之具諸不備行或僮指裂
不所部如凍續焉謝政里居叢藁蕭然行到
餌與瘡痍者共之以疾問者無虛日感宗支塗人

宣化縣志

卷之二十四 人物志

五

常制為譜牒藏于家

三黃仔字思容都司學生明威毗天瑞叔也居馬
第生母景氏蚤逝事繼母劉克盡子職愉色婉容
一若生母妻劉繼逝或勸其續粒蹙然曰吾子女
皆足倘遇一不類婦奈吾母何終身不再娶士大
夫高其義稱為孝同曾閔生子三長天鑑其元配
張恭人系出名門上事舅姑承顏體志無敢少懈
亦以孝稱人謂思容以孝子而得孝婦有天
胡遠可字仲正本術茂才未冠失怙諸弟多在疆

祿躬自教育婚娶以畢及析箸于田產器物獨取

瘠且敝者為妹擇婿奩具極一時之盛人謂與汝
南薛包久後媿美握家稌廿載分饑無私惟殷殷
以積德惜福自持垂老不倦早歲力學欲續父祖
之緒乃竟不遇資志而卒其子以溫孫顯祖俱髫
年獲雋亦似天有默酬之者

周延基宣化縣人家貧艱於衣食與弟延厚日備
作得貨貴輒易甘旨養父永爰及母馬曲其心
順治戊戌母馮病甚屋朝夕慟哭香祝天願以

宣化縣志

卷之二十四 人物志

六

身代竟不起呼天捨地聲慟隣里遇荒年貧日
益甚基屋俱亦有室躬持爨或有勸其娶妻者皆
曰繼祀事誠大願目前老父年逾八十非肉不飽
奉養事亦大值此凶歉力供菽水尚不給奚敢他
望竭力承惟遇父逃贖欲加挺責基等即伏地俛
從不敢違責已仍曲求娛之至父歿亦如喪母時
康熙辛酉里人公稟參議楊公給銀八兩代之娶
復場區曰孝行可風參將宋守備姜亦區曰百善
之先曰菽水承歡丁亥今撫軍趙又錫孝毓雙珠

額以旌之

張萬祚宣府前衛人行居次幼孤其長陞祚已授室父遺以爲婚娶遭年荒陞祚拮据供炊終莫給終不欲啟緘萬祚愀然曰肉可判尚啖母令饑而有室將安忍且年豐娶未晚也泣請用之終身兄弟怡怡和樂奉母無間言及歿哀毀骨立葬之日廬於墓側畚土成墳至朔望疊號曰野終三年焉宣州守府馬公嘗以善孝可風額其門今有待旌獎云

宣化縣志

卷之二十四 人物志

七

甄國忠宣化庠生事母孝聞學公其孝行于督學公允給扁旌表焉

文學

劉昂字子昂興和人大定十九年進士會高而下七世登科昂天資警悟律賦自成一家作詩得晚唐體尤工絕句李純甫故外傳云昂早得仕年三十三爲尚書省椽調平京路轉運副使時衛士有言昂官止五品昂不信俄以母憂去職連蹇十年卜居洛陽有終焉之志有薦其才於章宗者泰和中自國子司業擢爲左司郎中會言者有所劾衛連昂降上京留守判官道卒昂衡者之言

宣化縣志

卷之二十四 人物志

八

梁樞字子極宣德人七歲學古詩多奇語稍長從師習詞賦輒棄不肯爲已而聞楊維中建太極書院于燕京請德安趙復講周程張朱學授徒其中卽負笈往從歲餘恍然有得因辭歸杜門不出日與鄉中子弟演說四子全書山是從學者甚衆或勸之仕輒曰仕而無益于世釣名媒利耳竟不出晚幅易以觀象名軒人稱爲象軒先生倪岳字舜咨本上元人父文傳公謙以翰林學士言事簡成直府岳隨而家焉讀書日數千言不筆

為文輒精奇警拔敏健如神十六遊萬全都司學
試輒占首天順壬午舉順天甲申登進士授編修
陞侍讀元講官晉侍講學士修英廟實錄及憲宗
文華大訓出為禮部侍郎尚書時議者欲改定孔
庭從祀諸賢及七十二子之祀岳言馬融王粲諸
儒行多可貶顧六經出自焚棄賴其專門講授得
以復存安得不加報祀其七十二子名字自史遷
後世治已久今孰敢臆定於是成仍其舊加太子
少保改南京兵樞既而召入掌印卒贈少保謹

宣化縣志

卷之二十四

人物志

九

文毅生平撰述主於疏通如節用屏異端慎邊
防珍貢謹天戒守舊章諸封事皆辭叢理正深
得古大臣告君體李文正嘗曰國朝文集惟金華
王文忠及公僅一再見若父子學士均謚曰文則
又自倪氏始其為一代間人羨慕如此
熊偉字彥卿宜人也少就警史宏治己酉擢順天
鄉科丙辰登進士選兵科給事中凡所建白多見
採行己未拜通政叅議每奏事身如嶽峙聲如鐘
吐上眷注之甲子小王子求貢甚急已而不來適

有被擄人言其議捨黃裏黃裏指京城也又言朶
顏頭目可兒乞蠻往北地通和小王子與一女寄
養似有引誘入寇之跡於是並擢九卿衙門頭才
望者邊關經理以偉往至居庸紫荊邊關即進十
議一簡將帥二增甲卒三別勇怯四核功罪五時
芻糧六習騎技七設險阻八明斥堠九慎機權十
任間諜上稱善命以次舉行正德丙寅還朝當進
於會大同巡撫缺員復遣往方欲有為以中官怙
寵竊權不得如志歲餘中官亦去需求偉無以

宣化縣志

卷之二十四

人物志

十

應之因落職既歸著書土自耶及鄉魯下逮
言子百家隨序課闕一葛一裘而坐靜室者靡間
用是發為詩文清雅腴暢直逼古人或勸曰公老
何乃自苦如此則應曰吾固不知天地間何樂可
易此地年八十六卒有雙溪詩文集梓行
孫世芳字克承宜人也天資穎異書一覽輒成誦
弱冠舉於鄉嘉靖丁未會試主者見其文大奇之
曰此天下才也擬元後置第六人選館試敬一箴
詩稱旨明世宗欽擢第一改翰林庶吉士陞檢討

分校會試所取多知名士侍穆宗講讀於潛邸撰
進講義多有起沃晉右中允纂修實錄有良史才
轉國子司業以興起斯文為己任甲子借汪翰林
鐘主試應天程文咸出其手所取皆知名士以先
期卒于場例不書名錄出人爭傳誦之生平於典
籍無所不窺最喜讀左國諸書數千百言頃刻立
就尤邃於理學凡古今註疏語錄折其是非多發
前人所未發至於地方關說利弊不避權貴蓋以
文章為經濟者也有孫太史蓮才一府鎮誌行于

宣化縣志

卷之二十四 人物志

三

世

門下訓字六守宣府都司人萬歷壬子經魁探源
理學肆力於子史發為文章直逼先秦西漢詩詞
沉雄藻麗有大家風字江歐顏書法各處碑板記
序多所撰述今洋河橋記河南閣疏難鳴山香社
記遺筆尚存其代直指劉公策上代王書字挾風
霜尤為千古不磨未仕卒著有在茲堂稿存於家
胡以温字公嶠號書巢其先忻州人洪武中占籍
宣府公年二十二舉順治丙戌進士尋除江西樂

安縣居官廉明先是邑有巨豪殺人令不敢問至
是持千金為賂却不受竟抵其罪邑子有不善者
其族請置於死公召至反覆曉譬因叩首乞改後
竟自新項之總兵金聲桓反南昌所在多殺長吏
應之樂安數十人操刃擁公出有兩人左右護持
因得免難問之即向却金以直其冤釋罪以新其
過者也後部議罷職年方二十有八家居絕竟仕
進門戶著書有辨學編洙泗言仁錄補道因集彙
測編文章具體山堂清玩騷體多一書論世管見

宣化縣志

卷之二十四 人物志

三

見山堂詩稿文稿續宣鎮志四十一 年著作甚富

宣化縣志卷之二十五

人物志

流寓

宣化縣志

卷之二十五 人物志

一

洋朋江西臨江進士以事謫萬全都司斷事時
 萬歷丙申宣府巡撫王象乾延課士於上谷誓院
 壽朋素工字學有文名宣士甚尊禮之有選梓古
 今文集十餘種皆大家正派
 需弗山人姓黃名 江西撫州人明崇禎末來
 燕京上書值流寇亂遂出居庸關黃剋道納止于
 鎮城朝元觀與淳朴之士講性命之學先著有心
 要聞要兵要三書及在宜題咏諸詩稿臨終時悉

焚之日身既隱焉用文

李良年字武曾浙之嘉興文學也順治初來客宜
 府與宜之名下士胡東旣等唱酬往來詩稱雋雅
 古作具磅礴浩瀚之氣人多推其淵博焉

林盛字大林號海岳楚黃人爲諸生尤受知葉忠
 節公拔爲八郡第一人以明經爲 簡藩師傅入
 推董賈再見所歷皆發爲詩有此遠堂詩集文集
 卷又著有經世錄雖未卒業然大約以井田
 不必泥古要以限田爲主八股耳 法乖習敝須

宣化縣志

卷之二十五 人物志

二

復鄉舉僧道亦不必火書焚居上 其披剃不許
 佛事供香火自然漸滅又俗侈風衰如倡
 優色目人等淫巧貨物諸項惟禁之自上正本澄
 源乃可斷絕諸如此類人皆以爲名言歲乙酉來
 宜往來西寧龍門諸邑丁亥夏延緝宜邑志其詩
 文甚夥藝文志不能備載惟畧登詩數首其人行
 實詳西寧龍門等志
 貞烈
 吳氏興和人父爲都水監官蚤亡從母命配其里

士人胡鸞為妻大德四年鸞既歿吳年尚幼母虞其貧不能守欲更嫁之吳氏泣曰一身二夫烈婦所耻兒可無生可無耻乎且姑老子幼兒去當令誰視也即刺面自誓母知其志篤乃不忍強守三十年姑歿而殯子亦成立有官歲五十八卒朝廷因有司請旌之

劉氏順寧人順寧改宣德名臺叔齡妻粗知書克修婦道

一七地震屋窳壓叔齡不能起家復失火叔齡母前救不得欲就焚叔齡望見呼曰已不可得出

宣化縣志

卷之二十五 人物志

三

當亟救吾母劉謂夫妹曰汝健否母汝兄必歿三不月復生矣即自投火中滅家人得二屍爐中猶手相握不開官嘉其烈上于朝命旌之仍錄付史臣

嚴氏宣府前衛人年十八歸指揮高偉男永三載永卒遺腹生子寧家四壁立躬為人剪製濯浣自給朝夕取旨味以供姑李李甚宜之一旦李疾醫輒不效嚴急而呼天曰夫遺少婦抱此兒存香火尚賴老姑同與育之也今若此天其絕高氏乎乃

割股為羹進李李疾隨瘳相與育寧襲其祖職寧氏宣府前衛人年十六歸舍人李衍衍有疾嘗侍其傍調治湯粥晝夜不安寢者四閱月餘衍將屬纊執寧手語之曰若為我妻道竭矣我歿無後若不宜守守之是我負若益多也寧曰謔語何為獨不念有姑邪衍死誓無他志奉姑克盡婦職孀居四十餘年壽七十八而卒

宣化縣志 卷之二十五 人物志 四

至于死雷勉營喪具靡不盡心甫意欲以身殉之親族護視惟謹志不獲遂未幾夫塚被發乃閉戶整衣抱夫木主自縊以死年僅二十九遵近聞者無不稱歎都御史孟春上聞詔許旌門廟俗

趙氏宣府前衛人少端莊族人未嘗見笑齒年十六父母擇所宜歸得鄴子弟高文秀喜曰是稱吾女夫也既歸高氏無長幼胥賢之七閱歲文秀疾不起適子登未周歲趙處空閨中日懷恹抱一息哺育焉比登成長能服賈致贏資食必旨甘趙方

笑曰天今日酬我矣守節四十餘年而卒

韋氏宣鎮人年十七歸郡中軍校賀榮正德甲戌敵寇順聖東城榮隨遊擊將軍張勛往勦之遇賊千家營與敵榮力戰而死寇退韋親詣其遺壘尋榮骸骨負以歸塋自是朝夕傍徨謀死殉者百端姻隣密為防護之已乃給其衆曰若輩勸我是矣是矣弟吾以憂渴覓火淪茗庶少解將漸漸為生

顧氏宣鎮人生而端莊不輕言笑十六適庠生

宣化縣志 卷之二十五 人物志 五

朱敬敬卒遺男甫四歲家甚貧窮以縫績為生其子成人又卒遺孫又止周歲顧乃自養育艱苦五十餘年病革日呼孫前囑曰吾所以勤勞百出矢心不易者有爾也倘爾為善人我見爾祖地下無愧矣卒年七十四

陶氏宣府前衛人幼歸郡人秦通通病死曲方十九歲謂其姑曰婦有二息婦不能鞠育之姑取而哺焉可矣姑異其言伺其夜果自縊為殉塋計姑持之仍婉曲訓諭賴得不死鞠育二息至成人事

其姑亦盡孝宗黨稱為曲節婦云

高氏宣府右衛人少歸指揮周雄病殆顧襁褓子語高曰我祖父艱難百戰傳金紫子孫今所賴止此一豚耳汝善撫之功在周氏者世世矣高泣曰吾為若配數年尚不知心邪既卒誓以不貳撫兒成立襲為指揮閩門內外稟如也年七十卒

宣化縣志 卷之二十五 人物志 六

周氏宣府前衛人生有淑質女紅俱精年十六會其夫歸娶之鵬卒遺孤方一歲每日蚤莫焚香祝于成立後其子果為善人宗親童輩不得至庭闕家之幼婢亦無敢作嚙嚙聲也六十餘卒

陳氏宣府前衛人幼歸國學生褚佐佐病亟呼陳訣曰我有父母不能養子不能救虛負此生矣汝能守志代我所欲為我將感恩地下也陳泣而諾之免喪畢乃謝膏賦屏綺錦甘旨以奉公姑詩禮以訓子息四十餘年無間焉嘉靖己亥旌表

陳氏宣府前衛人少有姿容精於剪製嫺嫻以佳婦稱夫百戶霍文病卧陳侍之久而彌勤既卒人

有以再醮者即潛然出涕曰禽獸行我能甘之

耶自是絕葷味屏錦衣不出相限撫訓其子鎮至成嘉靖庚子監司舉狀上聞上允而旌之

李氏宣府前衛人年十六歸軍校武銘宏治十三年銘病卒李方二十七歲子得海亦甫能言李鞠育備極艱苦人見之無不憐而哀者嘉靖甲辰所司上其事詔令旌門

門氏宣府左衛人生而柔笄而禮歸旗校張鉞鉞行賢行門佐之恭肅以承祀溫順以事尊冲厚以字幼相內外稱宜鉞病卒門哀毀疾所親以別

宣化縣志 卷之二十五 人物志 七

適探之門泣曰吾足能履他人闕下儻愛我勿復言矣曰是衣不飾錦食不嗜珍稱未亡人者四十年嘉靖初有司狀上詔扁其門曰旌節云

申氏宣府前衛千戶海女年十六歸開平指揮楊璽璽昌平侯洪孫世稱華胄申配而宜之璽有疾申護視惟謹夜額天自代後竟不起申年方二十六誓死不再黥撫男繼聰成人繼聰又亡又撫襁孫鉞官至叅戎鄉人稱賢能所自皆以歸申云嘉靖辛丑有司奉詔旌表

邢氏宣府前衛百戶洪女甫笄歸開平千戶潘鉞鉞遭疾邢侍湯粥昏旦無倦容比卒邢年二十八誓不二天鉞所遺孕三月生得男子邢鞠育之長名珙襲其父職嘉靖丁巳珙戰死邢泣而歎曰吾堇其父又堇其子邢以憂思卒年八十餘

孫氏宣府前衛人父達鄉稱善人素賢開平白昇娶之昇寢疾醫藥罔功孫憂惶無措夜禮北斗祈保昇孫年二十矢死靡他奉其姑張孝謹訓育子文明成立終身未嘗有燥容年七十卒

宣化縣志 卷之二十五 人物志 八

張氏宣府左衛人年十五歸庠生王椿椿病卒張引刀欲自頸以殉所親抱掬乃止已復婉曲曉譬曰二孤在汝死奈何王氏一脉固重也張因而守之撫訓其子臣為庠生民為順天鄉進士發處二十餘年足不踰闕監司奏而旌門壽五十八卒
褚氏宣府前衛人年十五適郡庠佳士曹濂濂病卒褚欲以死殉姑勸百端乃已自是卻粧屏飾茹苦服盆事姑之暇輒呼幼子桂卿訓之少長為求師講受俾成父志焉守三十餘年撫按奏門旌

劉氏宣府前衛人都督淮女也年十六歸都督江桓男世勛勳病卒無所遺惠或以難守為言劉凝然曰奢獲巨族乃有不義女婦邪自是人不敢言布衣蔬食垂五十年婚葬卒得其面鄉人賢之

王氏宣府前衛人年十六歸縣丞李繼勳男松茂方期即生子鉞無何松卒王矢志不移撫育其子成立教之詩書貢入太學自謂可償夙心無憾也守三十五年有司覈實具奏詔許旌門

馬氏宣府前衛人年十五歸保安千戶周麒麟正

宣化縣志 卷之二十五 人物志 九

德中入衛見逆彬侍奕武皇不恭面責之尋為逆松誣以時馬僅二十歲無子止女二人所親苦其難守馬曰老姑在安適也守之生事死葬以禮女亦有歸年六十二歲卒

郭氏宣府前衛人年十五配舍人楊雲生子仲春甫三歲雲卒劉哀受命禮以死自誓事舅姑孝誠撫子仲春長且為延師教訓之其子亦仰體其心不敢有惰行年六十一庭內外無間言

張氏宣府前衛人年十六歸舍人葉慶生子棠方

歲餘度卒張矢志靡愆夫繼母任溺愛所生子嘉張張益勤恪侍奉惟謹任亦不能奪志也棠成立克裕其家後亦病卒乃又撫其孫輝卒年七十

孫氏宣府前衛人年十四歸舍人郭實生子二長萬臣四歲次萬忠五閱月餘實以病卒孫年甫十九即謝膏沐守之上事孀姑下睦姻黨無不得其志意垂四十年二子能與家皆不負其母氏云

宣化縣志 卷之二十五 人物志 十

前氏宣府鎮城人生而婉麗尤善女紅京有王都圖駐宦宣聞而欲之百方所懇竟得以歸王嫡妻死計處其家長幼恭肅柔與長幼咸宜王後病亟由所蓄錦綺以貽曰持此可為嫁資也計曰安用哉安用哉王卒計踞泣柩前歷七晝夜餓死

郭氏宣府鎮城人年十六歸軍校張鎮嘉靖己未敵寇薊州鎮隨營往禦力戰而死傳聞於家郭與古定泣弗勝已而古先手謂曰爾舅氏遺爾夫五歲吾守之乃復罹此今幼兒女又以累爾邪郭善言慰之因謂姑曰家穀可春為米供朝夕比舍有

惟禮可共往至方就春又給姑曰吾遺箕帚矣須

取之姑且携兒女停此也姑候良久不至回視其家已閉戶極歎宣人無貴賤少長咸哀憐焉

李氏宣府人翰林經其叔祖也子歸張重燦早逝

李年甫廿六歲而力盡家故情貧重以蕪饑率

日一飯即再飯亦鮮飽飽舍居嘗一歲至五徙寒

夜課孤讀燈燭不繼燃蔴繼之舅姑令更嫁誓無

他志歷三十餘年卒崇禎丙子直指梁雲構疏聞

名姓同焉孤各凌霄以歲貢任棗強縣訓導

郭氏宣人也父祺泌陽令茂才濟士奇妻士奇侍

宣化縣志 卷之二十五 人物志 十一

父大綸孝廉家學未嘗違遊及奉父命送郭往省

其親偶感時症遂卒于泌陽官舍郭年甫廿有餘

歲遺孤皆幼矢志守節教子成名巡按御史李九

官疏請建坊旌表享七十餘壽有妹亦以節顯

李氏宣府人知州李某女年十五適開平庠生王

承誼甫八月而承誼有重腹探心泣血再絕復甦

五越月而生子之鳳及鳳補弟子員受室生子未

週而鳳又喪李復為育孫提學御史表其門曰水

葉全操

劉氏宣府人左軍都督一奎女適胡守謨年甫十

七而夫死無子矢志守節養夫所生母身享年七

十餘卒監司旌之

甫廿宣府人牛其金守節妻年未三旬而夫歿守

節終身

李氏宣府人守備應元女生員胡兆可之妻其夫

亡時年甫二十有孤僅數齡其一則遺腹子也克

勵栢力之志上孝舅姑下撫二孤成立巡撫益司

屢旌其門

宣化縣志 卷之二十五 人物志 十一

江氏宣化人幼適邵士俊生子祚昌甫六歲而士

俊故氏年方二十五歲家鮮活計一飯不飽可勸

之再嫁者則曰婦人從一而終義也若再適此禽

獸行吾寧餓死靡他日藉女工撫育孤兒守節五

十三歲而歿有司旌之

其氏即江氏息也三十八于歸祚昌間二載昌亡

遺子顯謨甫週齡氏身紡績上事孀姑下撫幼子

備極茶苦時值歲荒姑憫婦年少又知婦不可諭

以改適因備書苦狀欲懷之自縊蓋不忍以已累

婦也氏偵知哀哭極諫而姑亦痛絕已止里紳士

而其行義公捐銀九十兩為置西門外糧戶庄地

一項使取租贖給至今焉前奉內陞口北道王給

補天津道李給匾兩代完貞撫軍趙給匾以旌

董氏盧准民妻王氏盧育民妻皆總兵盧袍忠媳

也甲申流寇陷宜二氏俱在芳年恐其受污連糧

日縊其節義貞烈有於越吳士樓云懿方二八篤

秉坤德松栢比貞水霜擬潔寇逼門廷投環矢烈

宣化縣志

卷之二十五

人物志

七

巾幗丈夫匪席匪石幽泣鬼神明皎天日汗載

芬迺在闔閭不愧家風節烈斯續舍節入真刀埋

乃妯娌稟生氣諸賢女牘

趙氏封夫人總兵盧居智之母年二十七守節子

居智方七歲撫養教訓恩勤備至壽至九十七卒

月知史明姓

毛氏都督盧抱忠之妻年甫三十即失所天當流

寇破城之後家道中落自甘荼苦撫幼子育民卒

得成立名列膠庠年七十餘卒至今猶未蒙褒鄉

人傷之

楊氏王希賢妻年二十五孀居止生一女雖係宦

族家道中落殮養不繼氏矢志守貞撫女長成擇

西引如丸今中第其弟氏壽登六十猶云

劉氏文學黃元禧之母意副鉉之妻以夫貴得封

恭人順并乙酉鉉盡難惟揚劉青年矢志育子禧

卒得成立後康熙庚午禧早歿恭人拮据茶苦婆

媳相依勵節五十餘載年八十歲卒

張氏王馨妻馨早逝氏守節課子以承先祀撫之

宣化縣志

卷之二十五

人物志

七

秀民弱冠遊泮以孝聞孫謙三週喪母晨復竭力

撫育遂其長成日睹子孫並入貴官年八十卒

閻學舉其節學憲給匾旌之曰操稟水霜

王秀民直府前衛庠生少喪父母張劬勞百端撫

其成立秀民深念罔極孝養竭力母疾延醫祝禱

長不身代節

曰孝能致樂

楊氏千戶王登舉妻貧人也崇顏壬午登舉隨鎮

兵戰歿羅山家衰恤楊氏青年守節

子成立壽至七十一卒都司黃公旌其閭曰忠節可嘉

王氏武進士劉光弼妻結髮事夫克嫻婦道上事

舅好以孝聞年方十五夫劉見逝矢志守節拮据

度日撫二子俱獲成立闈學公舉其節孝呈請登

志容俟著表云

單氏三家棟妻翁直指旌其門曰黃鶴嗣音

孫氏知縣謝命賞妻翁直指旌其門曰節操

李氏王道妻

宣化縣志 卷之二十五 人物志

五

袁氏王國侯妻

張氏王牧民妻

郝氏與廷妻

楊氏冀東妻

安女名二姐

李氏王天爵之妻二十三歲夫故矢志甘貧堅貞

守節生子卿五齡撫之成立八十六歲卒學使吳

公旌之曰節屬松筠云

孫氏樊其妻也衛守備張劍旌其門曰栢舟矢志

一熊氏陣亡總兵甄奇傑之妻御史熊偉之女

世襲錦衣衛甄洪猷守備甄洪勳之母年二

十八歲守節流寇入城投井未死後至七十

三歲而卒

一李氏生員甄奇才之妻把總甄洪功之母十

八歲守節流寇入城投井未死後至七十一

歲而卒

一馮氏陣亡都司使甄洪謀之妻二十四歲

節流寇入城投井而卒

宣化縣志 卷之二十五 人物志

十六

一梁氏遊擊梁震朝之女世襲錦衣衛甄洪猷

之妻候推守備甄國壽之母三十二歲

流寇入城投井未死後至七十一歲而卒

一劉氏遊擊劉光正之女都司使甄洪暑之妻

生員甄國珠之母三十四歲守節甘貧撫幼

凌至八十一歲而卒

一門三烈女家大姑年十七歲二姑十六歲三

姑十五歲俱係御史熊偉外甥女陣亡總兵

甄奇傑幼女流寇入城三人同投井而卒

江氏故明陣亡參將追贈總兵官崇祀褒忠祠江萬仞女捐俸使陳文獻妻也年方廿九夫亡一子尚穉祿家貧族單更值流寇焚掠之餘幾無生理氏茹荼啖草不事女紅以自給閱三十年足不窺戶雖至戚罕覩其面卒撫藐孤成立壽六十四而終至今子姓蕃盛書相繼氏之力也

李氏宣府前衛人玉山李公之女也年十四歸太學王家楨琴瑟穆如事舅姑以孝聞姑疾侍藥蓬首垢面形神為悴舅再娶事之如親姑丁未舅

宣化縣志

卷之二十五 人物志

十

疾氏晝夜不遑處如事姑時至丁巳大學公臥

氏延醫問卜冀有瘳乃龍蛇運厄卒不救氏

而後魁者數四時年二十八歲遺子其甫七齡照

方襁褓氏口授熒三字經孝經諸書畢延師教之

庚午得遊泮孀居三十餘年歲時蘋藻必虔至姻

姪謙集常射勿主佳長齋繡佛誦經樂善庚寅子

樊具呈

督學周公求獎額公欲棄

題樊以力弗勝再呈陳情乃給節勁松均字旌其門

余亦賜額曰白首完貞云

雍正元年九月初五日欽奉

恩詔內開一旌表節義乃彰善大典每見直省地方

有力之家信而鄉村貧窶之人則湮沒無

聞深可憫惻着該督撫學臣及有司通加採訪務

使苦寒守節之家同霑恩澤由禮部 題請旌表

給銀建坊設立祠宇已故者標題姓氏牌位于

祠中春秋二次祭祀以闡幽光而垂永久

到日閣學廉增附生員李天壽等公將王家楨

宣化縣志

卷之二十五 人物志

十

李氏具呈蒙本道江 諱鼎金加看 語云公舉

婦李氏青年矢志白首完貞竭履以奉高堂

敬以致哀婦道克兼子道勞瘁以撫二子既課耕

亦課讀慈親不啻嚴親守夫柩廿一年遇新必薦

仲孤燈三十五載諸苦備嘗其節操之堅貞可借

金石而年劬乞 寺合允甚表揚吞呈 督學吳公

諱襄會同 直督宜 諱兆熊彙題奉

旨依議欽此遵照 恩詔建石坊于本氏門首牌位

奉入祠中春秋祭祀 督學吳公亦賜額曰節孝

垂芳旌其門

王氏國學生公浩女也幼孀內則尤工女紅父母不忍輕字入至十九歲擇配本縣拔貢姚之益伉儷甫七載夫即歸人間世王念翁姑垂白遺子將週未敢身殉毅然以養老拊孤為己任一日姑罹疾臥於牀王調藥餌履扶持衣不解帶者累月比翁如後先即世王克襄大事哀毀盡形汝子以義方撫姪輩無異已出躬親縫紉有敬妻風云

二年開郡紳士公舉所司上其事 詔賜建坊

宣化縣志

卷之二十五

人物志

十一

閻王感謝 天恩手持其子文耀囑曰予為爾

婦苦歷四十餘年實吾分內事今溷邀曠典

之以其在子乎越明年文耀以外翰除長河南羅

山令克次感辭而王年逾七十至今猶矍鑠不

閻氏順治戊子科武舉閻師稷次女也年十四

適本縣舉生 告元子婦職于念八歲夫以疾故

時上有祖姑孀姑以及其姑一堂三寡並氏為四

下遺二子一女俱屬呱呱俯仰四世係責一身氏

悼夫之亡垂死者幾三姑抱孫泣曰爾欲從彼地

下乎無論吾老耄如此弱根何於是元作欲亡人
 糟糠不厭而菽水承顏三姑繼終咸竭力致葬如
 夫在然中辛長嗣早逝氏治奩嫁女撫次兒成立
 舉博士弟子以慰姑心成夫志於泉壤康熙五
 十七年口北道江額表曰壽母貞操時已七旬矣
 越明年 天歷冰霜四十四載至雍正三年蒙
 上諭 勅 勅 立 祀 祀 闕 校 公 呈 學 政 吳 公 稟 題 於 五
 年四月奉

旨恩給建坊並令入祠云

宣化縣志

卷之二十五

人物志

十一

袁氏廬通州撥補到宣化茂德之妻也幼多女

連歸仇年至念三夫忽見遺子僅三歲氏以

祀戶關怨作求亡人時家計蕭然翁姑早世號號

妻守寡其子為錫成立為貴官佳士後子亦病卒

遺孫二氏仍自養育二孫皆能仰承厥志長淳以

明禮授官 年次博亦貢入國學僕選一日氏

呼孫前謂曰吾為爾家保孤兩代備嘗艱苦幸爾

輩克紹先業嗣胤繩繩再死可告爾祖於地下矣

卒年八十有五雍正三年所司據贖 旌 奉

旨建坊併 予入祠君子以為母德之報固不爽也

張氏醫官定業女也年二十歲歸拔貢高聯捷事

舅姑唯謹易夫子以義克敦婦道有古賢媛風閱

九歲而夫逝以澆夫不食欲以身殉舅姑慰之曰

汝志誠烈其如我二人及幼子無依何氏屈于義

勉從之是時兩孤俱孩提而二老則逾耆艾矣氏

以如職兼子職十餘年如一日于大事亦極盡禮

焉二子稍有知日教以義方故俱童年遊泮

以文行聞鄉黨氏飭躬甚嚴方茹芡自曰吾未

宣化縣志

卷之二十五 人物志

二

人不可以見親族歷四十五年不渝也年七十

而終雍正五年六月

世宗 其閭列主節孝祠以時紅豆云

王氏侯選州同衮女也生稟慧質舉止淑慎年二

十歲歸本縣庠生張元惇居甫六稔夫即棄世王

哀毀踰情幾不欲生時年方二十有六遺子楚俊

僅四週所執憐其青春令更適王潛然出涕曰台

所以偷生視息不即死殉者以有翁姑弱子在也

若易志他從其何以報亡夫於地下耶于是屏卻

紹華永矢栢舟奉堂上人生事死葬改敬盡禮拊

菽孤雖極慈愛而督課逾嚴俊亦祇承厥訓補博

士弟子員學入成均識者以為母德之報云王固

世貞婦而性 澹泊躬親繼絃子姪輩咸資其力

卒以勤勞罹疾壽五十一終雍正九年總制督學

上其事 詔賜建坊並予入祠春秋享祀以勵將

來

吳氏郡城氏人光發女也年十六歸庠生曹

克修婦道無何夫以病卒時氏年方二十有五

宣化縣志

卷之二十五 人物志

二

姑垂白二子鐔鎖俱黃口家四壁立人難其守

曰去姑不孝去子不慈我忍為耶乃誓死靡也

事姑好以縫紉易糶殮比歿哀毀踰禮世有二孤

備極艱勞欽補博士弟子員雍正壬子歲總制

督學蒙題奉

旨建坊旌閭郡 馬亦類其額曰金萱勁翠歷守三

十八年壽六十二終所司遵 詔製主入祠以時

如豆鄉里咸榮重之

邢氏宣人愷女也稟性溫恭親躬淑慎年十四適

通州擄補到宣民人仇禹量色養孀姑備物致志
宗黨內外咸稱之越數稔禹量以病卒氏哀毀骨
立誓不再燕遺子二長泓年甫十一次洵尚在襁
褓兼以家計艱窘氏飲冰茹荼苦志撫孤二子亦
仰體其心俱獲採芹贊序守四十二年壽六十七
終雍正癸丑歲問學公舉各憲題請奉 詔建坊
旌門入祠享祀而督學吳公亦扁其門曰節孝流
薇云

劉氏歲貢生冕女也生而端莊精於剪製所親

官化縣志

卷之二十五 人物志

五

器之年十六許媿理藩院知事姚文德子廷極
未則年延極病且殆手劉與訣曰我無嗣爾可
守我父母春秋高爾能代我養九原之下感且
不可劉泣曰君珍重後來事天監茲母過慮也
矧劉哀毀羸瘠從容就義孝事翁姑備得歡心而
翁姑終以青年無倚憐之其小叔廷桂初生一子
即與過繼梓里莫不稱頌以為節義孝悌萃於一
家自是劉喜夫嗣有承彌勤拊育其子天成竟以
髦齡遊類水雍正甲寅歲劉年五十有二以問學

公舉詔賜建坊旌閭迄今劉尚康強而其小叔亦
有子是善行所積彼蒼固不負云

鄒氏歲貢生曰偉女也生而柔嘉四德兼備年十
五父母許媿孀生馬祥圖事舅姑終始惟謹相夫
子琴瑟穆如齊眉未久夫以病卒肯氏年甫廿七
以遺子在均馬氏僅此一脈遂封髮自誓忍死拊
孤或以家徒四壁難其守者氏一志冰清不辭艱
窘日以女紅給薪米督課其子點和丸晝夜無
過之其子天行亦克奮志芸窓潛心韜鈴掇甲

官化縣志

卷之二十五 人物志

五

鄉科擄報之日氏輒然開霽曰是可以酬吾苦
矣雍正十年國學公舉 詔賜建坊旌閭逮
將六歲女履優游里人咸奉為閨閣女師
陳氏宣人重安女也年十六匹本縣庠生楊承恩
唱隨十一載夫忽遭疾氏侍奉湯藥晨夕無倦容
及病革氏呼天泣血痛不欲生親族以遺子待乳
勸諭之方止無如家無生產薪米維艱幼婦弱息
笑焚骨立氏乃日以女工資衣食力拊其子成立
孀居三十八年雍正甲寅歲奉 旨旌表建坊壽

七十二卒

劉氏生員韓霖妻雍正三年奉

旨旌表給銀建坊

莫氏民人武宅妻雍正四年奉

旨旌表給銀建坊入祠

烈婦穆氏民人李智妻雍正十年奉

旨旌表給銀建坊

康氏民人王之喬妻雍正十二年奉

旨旌表給銀建坊

宣化縣志

卷之二十五

人物志

論曰鳥有鳳獸有麒麟有蛟有龍說者謂麟鳳醜于

和氣蛟龍則多蛇蝎所化魚亦鍊氣成龍夫和氣

所醜猶之瘠望天生也若伏修變化則如學利勉

之造登道岸杰豈必鍾靈淑質哲姿優入鳴長

哉茲方山勢崇崖洋流浩蕩文武特出類多雄才

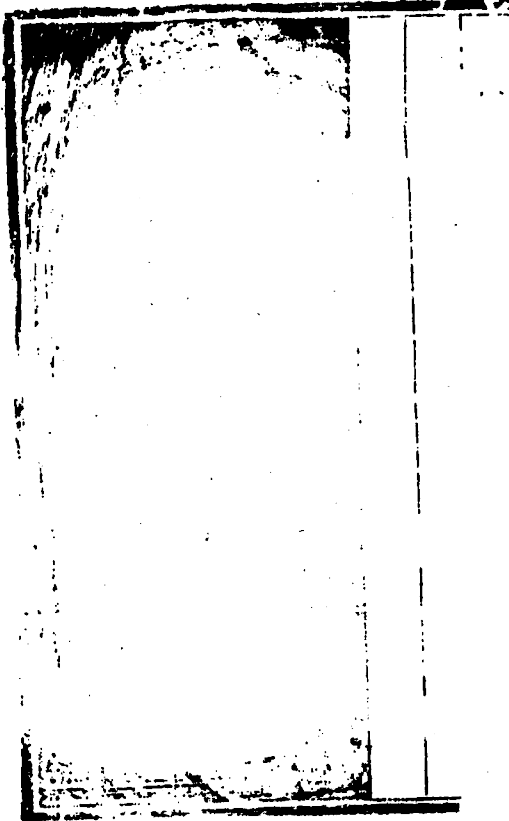
偉也人羣其餘委藉自甘弗能濯磨于德藝

者亦不然而有豈伏修變化不宜矢志爭芳乎官

教誨善類傳

各其類與古昔並光詎非鶴起

二十一



以居士卒甲戌展築

四里關七門以

通耕牧東曰定

秦新

宣德曰承

安北曰廣靈曰高遠歲次己卯太宗舉靖難之師王

慎所守永樂甲辰秋仁宗嗣分遣將臣大飭邊防命

承寧伯譚公廣胤襲朔將軍印充總兵官來其於斯

脩營壘繕甲兵嚴斥堠復命工登團四門創建城樓

元

二

安

亦不

其城土不堅雨輒傾墜非直人疲於修築遇

利戰守因封章上聞特命都指揮使馬昇督兵分

伐石陶甃煉石為灰以包砌之自辛酉夏啓工時則

劉公璉同負協恭左右贊理己丑秋又得令總戎武

定侯郭公珪以

夙夜孜孜督同都指

屬賢勵士卒殫

力竭誠至丙寅秋九月

登石三層餘用

尺通高三丈有五尺面濶則減基之一丈七尺四門

墻作門設釣橋遇警則起以絕姦路陞墜淺狹尚有

待於濬濬復即城京偏之中築重臺建高樓七間崇

厚四丈五尺址

八尺雉堞崇七

城之外又築

四丈七尺餘五寸深四丈五尺廣則加深二丈五尺

元

節

知修營之難最因速于為記于惟城池者古今保民

之深屏也自月公營洛邑其制乃備後世臣之以

基太平之治我國家列聖相承措天下於泰山磐石

邊塞乎諸公汲汲於斯慮慮及萬世而不負重任矣

繼自今始人望之

城天府亡外侮是憚也

共勞允宜慎脩

元

節

元

節

元

元

元

元

元

俾更有圯壞亦前復也

卷其本末初之

貞石以昭示無_レ_レ焉亦以詩_レ_レ有_レ日維上谷

原隰衍_レ彝山川清淑三邊扼塞斯為要衝內衛中

都城匪堅鼎新砌營_レ石運甓大載而成諸將効勤

衆工畢力手足併_レ一勞百逸金湯鞏固穹_レ長威

海宴河清共樂_レ熙我作詩歌紀功載政萬_レ無慮

四_レ長

都御

四

則元浙_レ以_レ初_レ之_レ清

事

東萊園之中以脩祀事盡當東流一勝處也_レ在城

北_レ里外居人作_レ隄引入城以飲以灌以_レ灌

草木_レ疏_レ之區雖旱暵不枯侯_レ書_レ偕將吏躬_レ奮_レ從

神司之則有應者曰_レ昔_レ鄉先生副使潘公嘗_レ為_レ鄉郡

即今之宜府善_レ在_レ八有_レ祠_レ之_レ柳城姚文

公_レ燧見_レ之子文幸有_レ之_レ舉_レ而以_レ記

來請按姚文公所為_レ德公_レ道_レ神_レ澤澤字澤氏宜

德府人以太保劉公薦_レ發身_レ江_レ浙_レ西_レ道_レ肅_レ政

廉訪司副使早及游_レ魯_レ齋_レ先生司徒許文正公門與

固非_レ祠_レ龍_レ一事而已惜乎今昔事殊朝市遷革求其

子孫邱隴漫不可_レ知所_レ知者獨_レ賴_レ斯_レ文_レ之_レ傳_レ耳嗚

乎潘公勤民之績偉矣而特_レ賴_レ夫_レ文章_レ以_レ傳_レ之_レ公之

言_レ矣_レ固_レ其_レ公_レ當

止是亦_レ知_レ雖_レ使_レ文_レ配_レ泉_レ而_レ同_レ垂_レ不_レ其_レ矣

宣化縣志

卷之二十八

五

然而有志之士即是之所_レ謂_レ文章_レ事_レ功_レ欲_レ夸_レ以_レ足

其_レ乎_レ親_レ夫_レ司_レ文_レ止_レ其_レ于_レ鄉_レ則_レ足以_レ正_レ家

而_レ善_レ俗_レ其_レ發_レ之_レ為_レ言_レ敘_レ之_レ為_レ書_レ則_レ足以_レ垂_レ世_レ而立_レ教

其_レ乘_レ時_レ奮_レ庸_レ直_レ道_レ六_レ行_レ進_レ而立_レ乎_レ天子_レ之_レ廷_レ則_レ足以

尊_レ主_レ而_レ庇_レ民_レ光_レ明_レ正_レ大_レ器_レ磊_レ落落_レ百_レ世_レ而_レ常_レ存_レ司徒

徒_レ文_レ正_レ公_レ者_レ庶_レ乎_レ其_レ近_レ之_レ矣_レ夫_レ近_レ世_レ官_レ室_レ亭_レ臺_レ之_レ作

往往_レ續_レ言_レ成_レ文_レ意_レ亦_レ古_レ昔_レ戶_レ庸_レ之_レ銘_レ目_レ警_レ心_レ之_レ謂

爾_レ予_レ記_レ龍_レ泉_レ祠_レ亦_レ得_レ因_レ潘_レ公_レ一_レ推_レ本_レ乎_レ許_レ公_レ之

道如此吾黨之士其或因之而興焉則人及初之利將不止乎一泉之云而已

雅軒記

葉盛

皇上繼任以至今四越暮矣屢建功臣飭封疆精士馬于時宜府則自鎮朔將軍前軍都督顏君與其副都指揮黃君協心比力祗體宸衷躬勤風夜時其訓練益其完固亦既備已又以自公退食養其精神而復佐之延接使命任之當必有其所也適即帥府之東圍為屋一間周遭四楹儉朴不華行其

宣化縣志

卷之二十六

藝文志

六

狀有若車廂然因署其楹曰雅樂軒蓋東園自守帥府疏茹區分輓道並水一江疏所增則又引泉為渠紫烟漫流而花卉果蔬之植紛雜乎其中軒之中園書尊俎外可壺可棊可篋凡樂客之具靡不有焉樂之者以為窮邊之勝事而地亦人世之小瀛洲也二君之一日有請於余曰雅樂軒以厚過臨顧不得一言記之可乎余聞而喜躍而起曰美哉雅乎若人之為樂其在是乎夫雅者正樂之歌詩周樂章有大小雅皆周公所論定今音節雖亡辭文具在可以

悉羣下之情可以明先王之德雅且可樂乎故諸君出武弁而習統袴日從事軍旅且當蒙古出沒之切

階要衝而其志尚如此其真有得乎祭類陽之遺風歟抑亦謂禮樂而致詩書有同而各執之為將者歟若然則明天子有萬里長城之樂相君有許謨論道之樂吾徒有同事待人之樂然則吾奚為而遏其樂惟恐其或不樂而樂之不能以久也二君於見相借而謝且曰是非虎等所當不亦所當勉哉幸為我書之則又止之曰未也昔之人不有云軍中苦樂繫

宣化縣志

卷之二十六

藝文志

七

於所從之人者乎誠以將者三軍之所倚毗得其人則樂不得其人則不樂是不可以不慎也若後宋范文正公言先天下憂後天下樂程先生則云仲尼顏回有樂處不知所樂何事之樂也有非軍中所得而專願并許之質於軒中之客亦因以告無窮焉

改巡撫部察院題名記

宣化縣志

宣府古上谷地我朝宿重戍彈壓北邊鎮以命帥而都御史實撫治之正德已卯予承乏在焉適臺府無事予因詢往考昔尚論其世則題名之碑未有立也

間或以所及知者問焉曰某某何如也則曰不知也
 又或以所不知問焉曰某時其人為誰某事其始為
 誰某見毀譽于八其實孰證則又皆曰不知也乃于
 是而浩然歎焉夫都御史古中云職而巡撫則古節
 度宣撫使也國朝永樂初勅大臣巡行天下或名巡
 撫或名鎮守以礙於行事因專任之都御史兼軍務
 者加贊理各其體則貞僚肅度其責則宣德達情其
 上之負托則靜疆圍強口兵實錢穀黜陟奸良叙安
 黎庶其下之責望則饑者欲飽寒者欲煖塗炭倒懸
 者欲扶植而拯濟之是則身兼將相寄總安攘蓋中
 朝執憲之司四海繩違之地也而上谷巡撫之設自
 正統初范陽李公儀始受是命迨今歲百年越數十
 人而事功懋聲望著勲階崇者固後先相望至於敗
 度偵事詎敢謂無人乎况夫人建功立業者初無心
 於後傳然思其人必求所以為賢非徒賢之而好心
 生焉其人之不肖積戾奸慝以為人莫我知已而厭
 其人者亦必求其所以不肖而戒之惡之惟恐其或
 似焉故殷鑒不遠而往事可師也今若是其遂泯滅

宣化縣志

卷之二十六

藝文志

八

漸燼可乎乃以暇日歷考前政姓名畧具出處久近
 之迹附刻于石而虛其左方以俟後之君子於戲石
 一日不朽則指議之論或因是而有所寄焉石雖泐
 而論之不泐者將與天壤終始可畏也哉可畏也哉

巡撫 霖 泉

盤堂記

上谷行臺自體國堂西有隙地可周二百武有奇引
 水自城北而來經流其間可汲可畦其旁出匯流居
 人共利之故嘗有屋三楹居其內雖荒蕪而材不甚
 美屋北植杏一株歲久扶疎柯樾茂密亦公暇憩地
 也余已卯夏來撫于此時多事倥傯竊想慕乎如流
 之决以為古今人不相及既而事稍有序乃有事損
 益可否者材武可進拔與其可罷易者邊機可及時
 為之備利病可興革者則宜靜以思退以憇焉仰見
 大木知求材之難俯視流水契通融之妙往往有思
 而得者于是自公退舍以為亭游他日築基于杏之
 北而移屋于其上取土於屋之陰而伐土五尺乃得
 故池規為廣狹視屋為中其甃石廉隅儼然備具因
 復之以儲水于是歎夫地之興廢若有數為之者求

宣化縣志

卷之二十六

藝文志

九

幾而復成則方池湛明重軒翼頰虛靜洞鑿光景上
下狂憇思補其益安多遂有取于古人水鑑之義以
扁于堂已而歎曰天下之事其盡于此水哉然鑑之
而無不可者孰有愈於止水者昔人有言人不鑒於
流水而鑒於止水惟止無私故衆止聽焉不然萬物
各有其情孰甘于鑑哉今夫萬事無一可而已者無
一不可而已者而况用人立政惟此心之無私者能
別之此水之止者能鑑之而已矣雖然水之體本靜
故此則可鑑至於波濤淪漣非水之故也昔人以水
立化縣志

卷之二十六

文志

十

觀心故以無私觀止所惡于宋襄公房瑄馬設者豈
非謂不觀水之本體者哉

重修 巡按察院記

巡按 許宗魯

予既重脩宣府察院矣其為屋之次第開拓之步武
工作之始末皆所當書也迺伐南山之石豎碑以紀
之曰宣府察院舊置海清坊今仍其地西拓六步後
拓十步有奇東偏半之南為大門次為儀門門東為
題名碑亭西為重脩碑亭次為觀風堂六楹為清永
堂得月軒于東為深靜堂借陰軒于西東西翼以廊

東處吏胥西則皂隸居也次為自公雨翼如前廊以
備衆賸而庖廚別處其西最后為後樂軒東園圍三
畝許中有山有池有亭有堂有樹山隄之池曰環清
二亭相望曰稻秀獨坐知味堂參乎其間惟良隅隙
可以射故游藝樹終焉總命曰張圃凡為屋六十二
楹工始於是歲二月望迄六月晦告畢凡歷期及閏
計六閱月云先是窳幕不庭邊用裨驛教皇親御六
師止蹕于宣迺命工八作行所未訖事而宮車弗朝
今上卽位慨茲宣衆之億也詔易行所以實邊儲材

卷之二十六

文志

十

木山積篔瓹填委市有弗售者風雨毀蝕將棄於無
用迺予觀舊院之敝念力之廢因詢諸衆咸曰事
可舉而不濫也時可為而不嘗也工可興而不勞也
材可用而不費也於是謀新之巡撫都御史李公鐸
曰是予所宜申令也提督侍郎臧公鳳曰是予按郡
時之夙心也力贊其議則有分巡僉事倪君璣焉規
度以就工則有都指揮僉事張輔同知馬經焉載致
鎮志舊院之設肇跡於宣德五年至去治四年重脩
又至今歲迺為今院凡歷御史蓋九十又二人矣維

古天子歲巡守四岳以觀諸侯之政以興慶讓之典厥後供億不給民用匱竭遂寢格不行我祖宗軫念民隱歲命御史出按四方體民生之休戚察吏治之隆污凡所作爲皆惟巡守是代惟茲宜鎮內翰外藩實唯重地而糾察之所顧使久廢弗治邪矧惟工才俱宜厥費惟省哉嗚呼厥居之修惟時之良矣乃若修我彝憲以副朝廷之重寄則予懼且愧爲是深望於后之君子

重 巡按察院記

巡按 李宗樞

宣化縣志

卷之二十六

文志

七

嘉靖己丑秋八月上谷察院寢序災冬十有二月御史李宗樞來按次于外庚寅春三月御史大夫司公及李子會于院謀役焉李子曰公其已夫公曰具矣而曰然吾懼其勞且費也曰四郊弗量力有餘成迭進而時役之又焉勞遷其業且暨其遺舉而植之又焉費而曰然吾懼其靡也曰吾惟治而寢茸而序以寧而居且而能崇約以弗居也政興能無聽乎夏四月乙酉使指揮劉輔黃鳳儀監之秋八月戊午成越三日舍焉李子遂言曰止其居弗修其任則夫觀斯

居也者將謂之何吾聞之也君子履道而行宅性而處故其行裕如也其處廓如也夫仕學一而已矣樞魯人敢不夙夜恐懼對揚以承辟之大命而慙詒公辱小子識之

部行司題名記

郎中 褚寶

題名有記傲有位也續題名記懼無傲也今天下政莫要於邊儲而總理之司自英皇復辟時始錫璽書著令甲今迨百年未之有易也嘉靖庚子言者以私奏寢公議非之越二年聖天子用元老請復焉乃命

宣化縣志

卷之二十六

文志

七

大司徒簡其屬大家宰考其成得臣寶俾蒞于宣上命若日頻年北兵猖獗芻秣是急爾欽哉往焉毋怠寶聞而懼曰可畏哉方今九邊爲華勢限勢莫重焉若宜鎮則又北門鎖鑰地也視諸邊不尤重乎總理之司三軍休戚所關任莫難焉若今日則政靡力詘兵患方熾視昔日不尤難乎地重任難如之何其可也此至則登堂視事有石立於座右大書其首日總理題名記寶讀焉其建立之由沿革之故歷歷凡若干言至所謂同事君子指其名而議其人之所以賢

否得失矣從而取舍之則疎然懼曰茲固題名之旨
歟及觀其名氏得貫址之詳仕履之迹歷歷又凡若
千人則又悚然懼曰茲非題之人歟夫繹其旨以自
省也觀其人以自考也則石之助於寶者多矣寶懼
其後無所於考也乃復勤數語于斯石置諸座右朝
夕視為警焉且虛其下方以俟來哲噫安知后之視
今不如今之視昔也夫

宣化縣志

太史 孫世芳

嘉靖戊午秋御史樂君尚約承明辟休命監我上谷

宣化縣志

卷之二十六 文志

十四

適奉使近臣舍止于郊君出勞焉適見候館就敝無
以贈事展物於制弗恭因語理戎憲大夫郭君邦光
曰朝之募典地有武郵實隆賓禮君子庸以視國君
亟圖之郭君曰如教已乃誦吉揣功量期就事取費
公贏不以剝下徵役冬隙不以病農召藝工償不以
縮直委吏政殿不以妨官旬而謀度旬而斷還旬而
巧漫旬而熟堊規制肆閭條理森密有胥路有尹
除門有卒詰姦有徒備器有虞人入材有甸人積薪
有木人監漚有火人監燎有膳人授粢有委人獻饌

有聞人陳芻有隸人省乘候館之政靡不具舉御史
君觀成讓美憲大夫憲大夫亦罔敢居歸御史首畫
自謂勉協于懿恐愆賓禮於是邦之耄耄踵太史門
諗曰我御史公夙知我憲大夫材我憲大夫式克體
我御史公志茲惟一事可樂餘政焉夫屏蕪備華氓
用輯睦師用振揚邊隅肆有寧宇上之賜後也願太
史紀焉太史芳曰我土有善政哉嗣今而監者宜跡
我今御史嗣今而理戎者宜跡我今憲大夫乃昇此
俾登諸金石用昭垂永祀云

宣化縣志

卷之二十六 文志

十五

具堂記

明巡 王象乾

堂址當都察院東偏衙舍之南而廳事之北也舊有
宇若干楹經畫不協度鳩吻衝射廉隅側地湫隘闊
暗有牖弗生白者材植之屬疊置蘊崇日就窳欲撤
而更之懼勤民中止者再竊計愈沉愈圯滋費滋勞
庸詎視若傳舍然而姑置之於是進執事者與謀量
期鳩工計備審勢什七因其舊棟有餘則裒上礪不
足則益下甃未及陶則代以甃堂上度筵室中度几
檢而不履動中得趣期不墮墜而已經始於乙未之

仲春夏既孟而落成中堂凡五楹縮左右為腋室而
厥其三循階兩序南引為翼室楹亦各五高廣視堂
稍遜延西爽者宜書簾承朝旭者為溫室迴廊十步
拱于南榮庭有木芍藥豐叢者二栢而四之南榮之
南文杏二及諸雜卉移而植之庭品列而點綴焉引
圃中渠環庭間而沼之瀟芙蓉而牽荇藻堂之東別
為砥室啟闕結疏樹以瀟激清流為檻泉噴珠霏雪
恍若遊稷下而沂濼源也者於是向之衝者射者側
者跑者湫隘而開曉者若徙若匿若翼若拱若登豐

宣化縣志

卷之二十六

藝文志

七

藪而遊廣莫若出幽谷而升陽若巖師阿保設科樹
型而斯地同適之子蕭蕭乎屏息而斂容也目所堂
也不選而勝弗程而材易瑕以空維新以舊薄薄翠
旋清流帶榮桴軒翱翔篇帙靚朗衆美備矣矧維上
谷今日克罕奉索谷蠡叩關時和歲豐以戈甲疊壁
之餘力備詩書禮樂之偉觀乘伏鉞鞮帷之宴閒脩
投壺散帙之雅致蔚乎都哉寧獨輪奐請顏之曰具
美余惟達人欵附仰馮漢德聖天子之寵靈也前甲
丞之訐謨也貪天之功則吾豈敢顧讓以素稅當保

障無令聞而室是美繁豈敢厭縱其耳目以勤吾民
而怡淫是即惟是退食自公凝神滌慮步欄而籌畫
憑几而緜闕撫蕭茂思本實臨清流圖澍濡觀堂簾
峻內對庶幾哉以輔吾所未逮也伯樂有云委土可
為師保余將羨墻于斯矣謂之具美也亦宜于是客
請勒之左壁

說堂記

明口北道 杜承式 渤海人

凡我有官君子公餘皆有遊息之所惟予所蒞道署
闕焉然署後故有蔬圃喬木蔚蔚時有珍禽異鳥鳴

宣化縣志

卷之二十六

藝文志

七

集其上且一線流水濼迴其下二三門弟往往遊
覽謂可以堂予始難其請迨至再三不得已而真之
爰于仲夏之下浣出俸市材構屋為三俾兒呬唔其
中間與二三君子過從雅歌投壺談及勒燕然石封
狼居胥竊私心嚮往之今仰藉聖天子聲靈斥埃無
警邊吏所戮力者僅申飭跗住脩理屯堡彈壓市事
而已嘗讀斯千之什曰風雨攸除鳥鼠攸去夫輩飛
跋翼之堂尚戒外侮若此况左右賢王耽耽蠢動患
大于風雨鳥鼠縱國家戎索之長寧易一震寧之正

預視其魄哉子益思陶士行常邊烽煖焚躡踣偏安

兵間寧無所事事而乃甄離自鞭策誠恐且暮間精

神鼓竭迨邊陲告急而先自辛綿耳邊更誠奮乎剔

歷之務即埏埴榘榘煇工核食朝經夕營無異多壘

庶亦可磨勵助骨一附糊糶之末乎七月七日落成

斯構門弟子跪請而頽之日敦說堂夫子自拊駑鈍

不得一當馳驅以邀勝于城濮然非卻穀也亦鼓舞

于埏埴榘榘之用以張遠覽之神而已詩書禮樂何

敢望焉予故誌月日以俟後之師敷而臨吾堂者無

宣化縣志

卷之二十六

藝文志

六

謂翠樾竹樓僅鼓吹風雅云耳時萬歷戊午暢月長

至之吉

宣化縣志卷之二十七

藝文志

記

賢
字暖鋪記

葉盛

今宣府將臣於綠邊孔道在在有暖鋪之設暖鋪云

者郵舍便益之名亦唐人邊鋪之謂義兼巡邏且有

成周候館廬宿之逸意焉其為處六十九為屋八百

二十一間為之者肇於者督孫安撫於顏彪積十有

五年乃成而盛固始終與聞其事者矣宣府故上谷

宣化縣志

卷之二十七

藝文志

一

郡北陲第一邊鎮也自昔周道既衰蒙古猾夏城築

於秦降于漢和于唐沿于宋元并極矣我高皇帝

上膺天命元之子逸奔就故壤於是乎異時中國封

疆之大悉復其舊垂百年于茲矣由今而觀塞翁邊

吏知田食井飲生養死祀以子以孫以恬以嬉而已

其於祖宗功德之大有問焉而不知亦有知之而能

道其萬一者乎如盛者亦嘗以暇日偕其同事諸公

登高而望遠東指元苑樂浪北俯陰山其西顧則平

城馬邑飛狐之口未嘗不悼夫昔之生齒不幸而連

遣兵饗於斯時又從而追慕古來傑之士有不得而見之為之低徊惋惜焉乃若仰瞻京國於天光日華五雲輝奇之表意夫明良相違唯諾吁俞政教所敷騎夫人於雍和隆平之世使人感切教恭之無已即一暖鋪其上之德澤溥涵乎萬物寧有既乎哉編第暖鋪之序初以三物四教不足復益以杜甫上韋見素詩語所謂賢宇暖鋪在馬頭山下泥河之上審邇宜府之城東且加飭於天詔下必由之也願獨有亭此焉其中為勝日來恩并為之記使邊人

宣化縣志

卷之二十七 藝文志

二

皆知上之恩有如此不敢怨云爾

卷二十七原書缺第 3 而。

宣化縣志

卷之二十七 藝文志

四

魏臺記

今名曉連

鄭中

程 旦

邊郡侯望有臺古也而今著之令所以伺變警衆預為之防戰守皆有資焉者也宜府為京師北門而密邇北敵特甚歲戍子實我大中丞劉公源清作鎮之明年春公乃偕諸寮衆登北山以覽形勝論衆曰敵自東西路入抵鎮皆百餘里且諸衛宿有重兵彼懼躡後其不敢肆然而長驅也吾知之矣惟北距邊一舍許耳敵茲毀垣而南頂刻狎至視二路勢特劇何距城東西數里故皆有臺而柳河之南扼兩山之隘

顧謂焉茲非前人之所遺以有待者乎既乃度地鳩工諏日庀事榘榦既具奮錡如雲並手偕作不日而成堯以礪石激以聃琨廣若干尺高益廣若干尺四面如之穴其百為門而入左折穴其北累不級而登焉其顛為樓二層以楹計者若干樓之制下方而規其上簡卒之壯且健者俾日夕處而守望焉扁其額曰鎮朔又以其贏架臺於城南演武臺之前以閱士制如鎮朔稍劣而卑焉是鎮城以守之制以備先是占有地者過宜曰亥子丑歲皆有兵患備北門亟宜化縣志

卷之二十七 藝文志

五

前鋒乃獸駭宵遁明年駐牧北邊連絡數十里小抄掠輒挫駟以去迄春夏莫敢逞焉蓋名臺之義於是為稱而天人之有待而相際者亦不偶然矣於是邦之耄耋踵部使者之門而請曰惟茲北山我材孳之所取給焉其麓我數世之體魄藏焉其原膺膺我所佃而稼焉昔吾朝出而事事惴惴焉未竣而歸疾行亟顧而恐其及焉言數矣繼自今我奠于墀我牧我薪我往于田築我場園子行而舒子畢事而徐徐吾休諸途而于于公之賜後矣願紀其實俾後之人知宜化縣志

卷之二十七 藝文志

六

為浮屠以厭勝之否且莫測丁亥我師再失利宜人歷數往歲被兵適茲三平以方維城之柳河正宜鎮城亥子丑三宮山勢至此為河所迫抑若頰若縮凹然而滂舒然而空如人坐審室而為隙風薄寒所中則立以致疾術者之言其或然乎公之意則惟形勝之據以扼其要衝令典之稽以飭我武事不惟其術以感眾也然臺既成敵知我有備不復循柳河深入宜有所懲以為防亦皆作其憤敵之氣以故是歲北酋領眾六萬騎自大白陽結陣南下我師迎敵破其輔等伐石而勒之

高都司學記

大學士楊士奇

記曰先王之世大臣君子皆身兼文武之用至霸國簡師猶取悅禮樂而教詩書者蓋古者習射受成獻賦皆於學文武一途也自周以降王化衰而教法弛厥詩書者耻言兵執干戈者不聞道而岐爲二焉然具文武之才者世未嘗乏人漢唐儒臣往往出任邊寄而武弁所至能興學崇教者史屢有書我國家治教天下一用先王之法東師至海隅郡縣皆建學校立廟以祀先師若邊徼軍旅防戍之所非直其時

宣化縣志

卷之二十七 藝文志

七

咸協贊之遂簡將士子弟俊秀者聚習其中奏請學官建先聖之廟於學之左像位成飭作祭器置學田凡百所需靡有遺闕既成之明年士奇扈從巡邊經宣府祇謁廟空顧瞻製制之安壯儀物之完具蓋自大江以北名邦會府鮮有及之方歎嗟嗟譚公之功而公使教授劉準求書其成夫王政之本在養與教有遂其生必正其性譚公起武功而重文教非其達政本祇德意而能然將見是邦教學之成其人皆明於詩書之旨勉於仁義道德之行事親爲孝子

宣化縣志

卷之二十七 藝文志

八

有不暇亦知力有不逮也宣府古上谷郡在居庸西北二百里城垣外累累一接皆燧候編氓之所下處北兵之所不時出沒窺竊蓋重塞也朝廷常宿兵戍守其師既不可斯須忽傲備而選伺捍禦晝勞夕勤矧有餘力他及哉自左都督譚公佩鎮朔將軍印總兵於此畢力殫慮圖惟厥政期月之間聲威宏振敵迹遠遊疆場千里繼塵不作遂作社稷山川等壇春秋行事數歲軍中庶富壯少勤事迄倪恬逸公日不可無教也即白于朝乃出私帑爲倡建學而好義者

事若爲忠臣而高城深池不足爲固甲冑干櫓不足爲威人心之堅踰於金石矣又將無感慕德教而革心歸化於陰山瀚海之外如有苗之至者乎此固本於上之峻德而實公之賢積有以彌成也公名廣鎮江人忠勤仁厚明於大體自洪武中建軍功歷事四朝累官至中軍都督時左都督在宣府十餘年威惠咸著隱然國之長城云廟學經始於宣德七年三月成於八年九月記作於九年十月其殿廡堂齋器物之數及朔贊者氏名具刻諸陰使來者有考是年十

二月既望刻石

科題名記

太史孫世芳

宮保廣波楊公博以兵部尚書建節燕代董制三軍
 撫柔萬姓邊陲鎮靜無警武功肆張爰及文教詣宣
 鎮學宮晉博士弟子講王化焉顧瞻堂側無科第題
 名之石意甚病之語憲副郭君邦光曰周制鄉大夫
 論秀升諸司徒曰選士司徒論秀升太學曰論秀升
 諸司馬曰選士咸以名也今鄉舉祿古升司徒太
 學者同進士祿古升司馬者同及其名梓于天府勒
 宣化縣志

卷之二十七 藝文志

九

于國雍矣若所自出之地實而弗紀其何以示來者
 其圖之母徐於是郭君往牒咨者次其年之後
 先稽其人之貫址久其品位之崇卑琢貞珉於焉而
 屬其記於世芳世芳曰懿哉公之誥教遠也夫正標
 於樹望者易蔽藻鏡弗懸觀者易眩公於學宮樹標
 而懸鏡矣博士弟子曰游息其間相與望焉相與觀
 焉孰為才孰不為才孰為賢孰不為賢灼然辨的然
 真誠然自勵莫之能禦也是故論其才得所謂道
 備者則有窮今古盡事變之思論其賢得所謂德行

備者則有順性命尊道仁淳彝則之思論其才賢得

所謂功業備者則有經理方輿幹施元運之思馬而

學學而成成而為選士俊士進士以服休采以獻飲

為將廟社是安而生民是庇旂常書之冊史榮之名

永永弗晦也科第其階乎是宜修明曠典宣魁嘉聞

俾凡後世學成者咸知所錄始則公之誥教也無疆

哉

學社記

孫世芳

記曰嘉靖己未夏六月增置社學于宜之鎮城始宏

宣化縣志

卷之二十七 藝文志

十

教也迺維茲城式雄以闢屋聯巷比相隔軋迂往年

置學牖蒙僻在吳地生遠不克自業多就荒及是

監察御史樂公尚利聞而病之乃以屬憲大夫郭公

光圖焉郭公乃詢之鄉耆委之幹吏相地得三區一

在坎位可為宜府左衛學一在城兌位可為宜府右

衛學一在關城中可為宜府南關學其舊學則宜府

前衛可緝也繼召其諸衛使至命之曰來取材吾為

爾遷隙宇矣次而曰來取工吾為爾徵師與矣次而

曰來取徒役吾為爾出罪夫不任謂成夫不任戰者

矣於是諸術使各精屬庀其事中為堂各三楹東西各為序五楹傍各為廚庫一楹各樂其垣墉各壯其門開凡既備矣御史公簡儒士明經旨者為師學一人簡官民子若弟俊秀者為弟子學若干人師防於堂正席而教焉弟子環列于序鼓篋而受學焉於是示之少儀俾謹其容詔之內則俾嚴其範申之弟子職俾端其趨俎豆簫管弧矢式殺始為備藝能之官發性命之理脩倫紀之禮謂小成大成詩謂有造有德易謂養正為聖功胥此乎賴而我宣士人彬彬

宣化縣志

卷之二十七 藝文志

十一

濟濟可與聞哉定洪猷矣育而首介而身戈矛而左右手曾是為武乎於身而術使相與走太史所請曰是不忍不以告來世也太史記之其毋辭太史曰鄭僑之誨子弟也是以有與人之誦也宋子罕之役不病民也是以有邑中之歌也嗟二子古之史記之矣芳也其何敢泯御史公之教而遐憲大夫之嘉聞

狂書院記

戶部侍郎 張 璉

記曰我武皇居贊御者閱撫按凡幾人矣嘉靖戊子

劉東園大中丞李石壘大柱史撫按宣鎮佑啓斯文詢謀僉同建坊書院中堂兩序前後翼分外塾二座東西血德且將營隙地之殖以屬都養之供恢宏規度次第舉行所以風示之者端矣所以與進之者周矣於戲休哉余不敏頃以督餉來乃揖諸士子與之言性出于天情原于性夫性一而已而情奚有二乎學者亦惟是之審身心性情之統也幾善惡之萌也取認於夜氣之清體察於平旦之必諫道不謀食也喻義不喻利也由是而進脩脚跟剗定不錯由是而

宣化縣志

卷之二十七 藝文志

十一

造就工夫填補不虧小成而大成希賢而希聖擬言者德言也舉業者相善之體用兼該隱微無間窮則性諸我達則福諸人夫然後諸士子之責盡矣乃若碌碌於朋從汨汨於故習徒事咕嗶而不離鉛槧之末階科第以自慶陳車馬以為榮猶夫學也猶夫人也余不敏不為謹將不為諸士子誤乎諸士子不為誤將不為二執事醜乎於是諸士子冷然若有醒繼而恍然若有所得也是舉也秋九月戊戌度工冬十月乙酉訖事貫惟舊而意惟新勞則暨而名則永

時政治適會歲豐內無所虞外無所警吏願走於其
役士願出於其塗爭先洗磨驪忻交暢厥兆嘉矣良

可書也

昭祠記

學士 李廷相

都察院右僉都御史萊陽李公鐸既莅宣鎮二年所
除苛刻蠹惇學強兵敵愾其威人飲其德而公亦用
其暇搜羅欣賞嘗以諸巡按監察御史咸寧許君宗
魯曰鎮有巡撫蓋自正宣初始自一統迄今垂九十
年中間功業彪炳者固無幾也而適日就湮沒吾二
宣化縣志 卷之二十七 藝文志 三

人始有責焉吾將采錄其事合而祀之何如許君忻
然曰吾志也則又白請制刑部右侍郎曲阜孟公
鳳孟公亦如許所云公與許遂檄僉憲倪君璣令稽
載籍參輿論凡得十二公焉蓋開張事務摧抑權貴
卒被繫以歿有若涿李公儀外患方殷恩固士卒城
賴以完有若京苑羅公亨信執法罔撓貪墨斂跡甚
得宣人心有若曹李公秉興學墾田專務息民有長
者風有若崑山葉公盛公先以參政督糧于宣比貧
獨石招撫流移振舉廢墜至迺有嘉禾之異焉剛明

幹濟弗憚權勢有若單秦公紘興革利弊建設衛
有若岷張公錦正直不阿練達治體有若高審公

介復圖種之制革馬政之弊有若儀封楊公謹學優

識遠被服儒者有若閩陳公紀首黜羣姦風紀大振

有若故城馬公中錫剛直自信弗恤人言有若咸寧

雍公泰疾惡恤窮姦貪畏縮有若和順王公雲鳳其

功未大究及見宦朝者且弗與焉於是公與孟公

泊許君議以行臺之東官舍一殿改作祠堂祀恢

其制中奉十二公木主前為碑亭左右雜植松栢堂

宣化縣志

卷之二十七 藝文志

十四

宇軒轅若有待者定制以每歲春秋丁祭之後具牲
祝一再祀焉每月朔望考所屬必先祇謁十二公迺
後臺參蓋示尊崇亦仰異有所風廟云爾已復公自
孟公泊許君曰茲不可亡傳于遠迺走諸生謁廷相
紀其事謹按禮有功德于民則祀能禦大菽捍大患
則祀今茲十二公後先被簡命鎮撫邊城殫厥心力
坐銷外患俾朝廷無北顧之憂士卒有飽嬉之頌其
捍禦之功豈淺鮮哉然就十二公論之崑山協撫之
時其功尤偉東筦已巳之歲其勢愈難而首事蒙庇

如涿州迺至今猶泣諸父老鬱於士論勞久功著如
高審迺至竟斃於宣其他遭值平世各就其資大抵
皆震耀一時而故城肯斂眾怨和順抗論權奸斯亦
近所卓然者矣三先生採諸公議並祀一堂上以報
十二公之德下以慰宣人之思庸詎非禮歎若夫十
二公行事之詳具呂太史柙傳茲蓋其大凡云是為

記

忠
袁祠記

許成名

都憲劉公受天子命撫于宣未遑他務首舉宜之忠

宣化縣志

卷之二十七 藝文志

五

義及茂厥功德者曰吾聞英烈之氣死而不亡凝而
不散生德于人而沒躬之厥土禮謂之闕且奚以激
頽風彰往躅也乃誦祠以祀詔嘉之著為令典俾春
秋俎豆焉既手輯為錄矣復馳問其友曰禮不祀非
鬼神不散非祀祭非鬼非禮歎非祀非神以非禮導
俗吾不為以非神待忠義吾不敢吾將揭諸石俾後
有考余從而歎曰於乎孔子盛鬼神之德以明教也
公之舉其大有所裨乎夫教急於使臣知忠與使民
向義故鑒往則趨端知方則氣奮而教之道畢矣言

嘗觀天地之氣塞於兩間有正有邪有和有沴鍾而

入散而物流行而不息惟正以和則為端人為吉士

為忠為烈窮則守其道達則俾其功變則弗挂其節

邪以沴則為奸人為亂孽為頹僻陰險爾凡皆氣之為

也夫氣行於天地而主於人藏於機發於變聖人參

之賢人相之而後災害不生禍亂不作是故君子審

時之變握氣之機扶其正遏其邪導其和消其沴正

人心端士向非教之大不神耶今宣京師之巨防所

以控諸曩莫中夏則用武之區也我國家表勵忠義

宣化縣志

卷之二十七 藝文志

六

人知向方百餘年來其懋勳樹猷抗節死難炳炳耳
日若薛譚孫關者吳曾也百而公必質之父老博於
見聞覈其烈猶考其人苟功揚而行劣亦弗取焉故
賢雖賤必收否雖貴不錄侯伯而下卒成婦女而上
僅數十人俾肖像而血食焉於乎君子植教之嚴用
心之密匡翼之術神明之化或非眾人之所得盡識
也公經亮端貞沉謀英識其慷慨風節已赫然負海
內之望故褒忠曠典特舉於下車之初可以觀其人
矣其將屹大業於寡儔垂鴻名於無數後之褒今不

有猶今之褒昔者乎祠建於都臺之右方則改非祀
為之者中為正殿取功高位鉅者居之翼兩廡亦以
官序而戊卒得附焉尚其忠也兩廡之外別為小廡
烈婦專焉遠嫌也工於嘉靖七年五月迄八年正
月乃告成公名源清汝澄其字號東圃甲戌科進士
山東兗之東平人

文祠記

孫世芳

記曰御史大夫定興張鏞奉天子命撫于宣德玩
振頽明威布惠平險途以通餉起塚亭以嚴防毅甲
宣化縣志 卷之二十七 藝文志 七

胃以戒戎簡曉毅以捍侮既奏功矣迺猶律將吏鏞
俊髦輯餘烝庶凡可以邊人俾無逸于懿軌日就
旋靡寧也暇嘗於撫院右方見褒忠祠往謁顧瞻祠
後有文昌神像在焉拜而曰孔子盛鬼神之德不將
以明教乎神忠孝文武萬代所宜俎豆乃其堂後於
諸忠烈且非以康忠烈之靈也而何以教邊人於是
相于上谷書院左進官屬畫示日茲地可以祠文昌
矣于是第舉序施底于純滿蓋自戊午四月廿四日
興工閏六月告成申命官屬昇神像位堂中置神侍

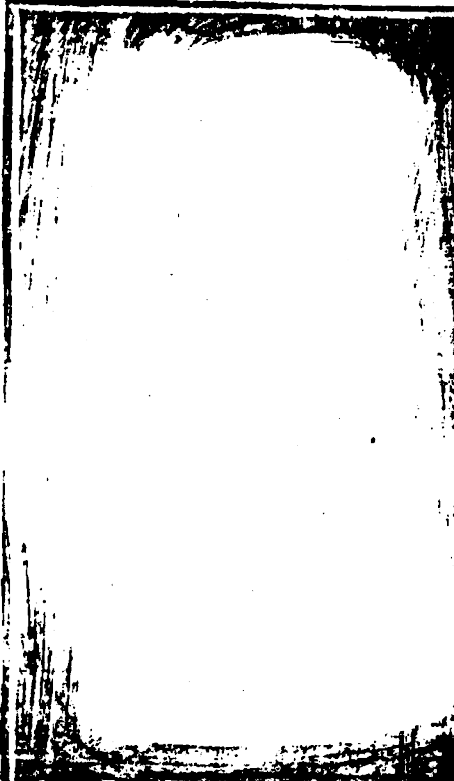
位堂左右召神祝日焚脩屋于堂前饅門南香具置
盛冠裳之飾薦沼沚之馨忱焉惚焉如神獨數障而
錫之繁祉也公因呼將吏前教之曰神以靈武著往
代而忠孝實先之有差于神神弗爾相其懋故毋忽
呼俊髦士前教日神左列帝垣帝命以司桂籍古今
共聞也爾無玷于忠孝神牖之矣懋哉毋自慙呼烝
庶耆艾前教之曰爾惟忠孝可迓神庥爾以是懋子
孫俾作文武士光顯也自隕爾身爾既設祀爾若
將吏若俊髦若烝庶耆艾諸世芳所述日公實

宣化縣志

卷之二十七 藝文志

六

何政忘我欲記之石詒世世程太史毋辭焉遂記



宣化縣志卷之二十八

藝文志

記

修八蜡廟記

王質

稽古蜡祭肇伊耆氏其見於周禮以醜率祭四方百
物為地示之祭郊特牲曰四方年不順成八蜡不通
又曰蜡祭主先齊以歲十有二月合聚萬物而索饗
之即其事也其率於燕亡國索鬼神而祭祀則以禮
屬民飲酒于序以正齒位禱者謂稱國命祀也蜡而

宣化縣志

卷之二十八

藝文志

一

飲所以休老勞農申之以孝悌之義蜡禮亦大矣乎
故自姚虞以後稱秩不齊夏后氏曰嘉平殷曰清祀
周復為蜡秦漢俱稱臘其神先齊一也司齊二也先
農三也郵表噉四也猫虎五也防六也水庸七也昆
蟲八也祭必歲終或以貢以服服則素服黃冠樂則
土鼓簣桴迄今海內諸司咸致重其祭而以禮教民
如周黨止所掌或未必然宣府廟制出南關東門外
約二百餘武叢爾一區區止二三舍燕穢失治不知
越幾稔矣正德己巳會遇盛暑蝗作稼穡卒蕩而畝

濯濯我邊人厄之莫不悒孟賊懷鬱陶朝吟夕咨聲

聞於道鎮守大監陳公不忍地方遼艱縉謀於借事

諸君子以弭災舉神莫先於蜡今之廟制尚何以安

輯神明而回穰於歲即商物土量事期計徒庸慮材

用以令役於行伍據舊更新是謀是度中為堂三楹

翼為廂者倍之後復構數室正則延賓之所旁則居

者炊者所歸崇墉以限外嚴扃以蔽內塗丹繪紫尤

陛廣庭升降便於周旋精優於算置祈報告虔有

其地矣且其位大軒爽制作傑出雖非大費大役者

宣化縣志

卷之二十八

藝文志

二

比而一鎮勝狀所萃亦甚快於人心觀其北接東望
南莅燕然其中潺湲而不息者洋河也數峯斂秀一
碧呈奇鳥韻林聲頻頻絲竹山花野卉在在莖芬及
夫紅日方昇百壑趨偃不殊乎鳳集高岡鯨吞陸海
時乎演武則雲錦千羣馳騁萬隊駿奔走於戶外或
有時而結聚者又若恭聽命於指揮將匹勒於燕然
也於是乎遊者往焉饒者往焉負戴而憇息者往焉
暑而風寒而暄者往焉迓詔旨而候顯宦者亦於是
焉以集則坐者忘歸飲者忘醉心暢神怡而塵慮為

之頓釋者亦於是焉輪蹄旁午風景蔚然吾人契止寧不樂乎敬鬼神召康年樂吾人之樂又諸君子之餘事也謂蜡爲仁之至義之盡夫豈多讓工始子已已七月之秋終庚午六月之夏欲堅珉而傳遠者陳也樂而書此者長眉翁也

彌陀寺記

楊士奇

宣府古上谷地今爲國家西北重鎮所以控制朔漠屏衛畿甸故恒宿重兵而簡勳臣之有才智者蒞之日左都督譚公佩鎮朔將軍印總兵於此城墉益壯

宣化縣志

卷之二十八 藝文志

三

兵甲益修士馬益強而邊境肅然乃以餘力修彌陀寺爲國祝釐爲衆祈祐既成上親巡邊駐蹕宣府予時忝扈從偕禮部尚書金公幼孜太常卿姚公友直寓寺中周覽崇臺廣宇巍焉真焉顧二公歎曰佛宮布在四方不啻千數觀諸內地求一盛刹若此未易多得而近畿邊壤乃能有之豈非難哉其寺之主僧曰是皆都督公之心上在國家下在生民而爲也明日其主僧求書寺之成將勒石垂後問寺之所始無所於考寺有勝國時斷碣僅存其半所可考者曰都

功德主金紫光祿大夫中書右丞相安童建寺既竣

於元季之兵僅存彌陀殿已徹都督公至乃脩其敝

廓其規而一新之世謂佛之道以濟利爲用而利國

利民益其用之大者大臣秉仁愛之心惟國家生民

是利是圖苟衆以謂可爲則從之以盡吾心安童元

賢相也其意非出於此乎都督公今賢將也其意非

同於昔之人乎然則都督公之用心可書僧而克知

大臣之所以用心而固不泯亦可書寺中爲三世佛

殿殿之東觀音殿次爲寶光堂西爲地藏殿次爲普

宣化縣志

卷之二十八 藝文志

四

庵堂三世殿之北爲彌陀殿殿前四隅爲四壇塲東

西序爲僧寮西序之西爲禪堂彌陀殿之北爲昆盧

殿藏經附皮昆盧殿中殿前左右爲東西方丈殿後

爲法堂三世之南爲天王殿殿之前東爲清源堂次

爲鐘樓西爲崇寧堂次爲大悲閣又前爲三門庖廡

賓客之位咸備寺成於宣德八年云

鷄山永寧寺記

元學士

歐陽元

大師右丞相秦王伯顏答剌罕以已貴復建雞鳴山

永寧寺既成皇帝有旨命臣元紀其續于石惟雞鳴

山在居庸關北勢連雲中雄據上谷為燕代巨鎮舊史言唐太宗嘗駐蹕茲山夜聞雞鳴因以名之山絕秀麗有寺屹於山之巔是為永寧建於遼聖宗太平四年歲久隳壞累朝屢勅有司修之至元丁丑八月地道失寧寺臨陷危其屋盡壓鐘及山王祠僅存太師秦王扈從南還目視其變思克復之乃捐已貲命工構材備力除去瓦礫埋塞陵壑治為大途以運木石重作正殿四楹伽藍聖僧各一室僧房齋廚寔為三間又建大小浮圖各一俱在山頂設為欄楯以捍險山之腰作救度觀音殿一所山之麓作堂八間塑文殊普賢像各一獅子吼觀音像一自在觀音像一造于大都華嚴寺輦而致之各置堂殿延請西域土士宣演佛法為國祝釐自至元戊寅八月鳩工明年已卯三月落成大都路達魯花赤答罕出實董其役一椽之直一簣之資皆太師力也官助軍士三百之外秋毫無預焉臣竊聞之雞鳴為山當大駕經行之途永寧為寺有列聖修營之積國家閑暇固無坐視其廢而不加修葺之理然事出於官則上耗國用下

宣化縣志

卷之二十八 藝文志

五

勞民力郡縣供億徵求百端其弊有不可勝言者今太師身為元勳務自撙約出其贏餘或足茂舉遂使國無錙銖之耗民無刻剝之苦可謂難矣跡其體國之誠愛民之切自佐命大臣未見有若是者異時大駕時巡皇覽萬目有山川宏麗之美無陵谷變遷之虞聖心亦可怡然而釋慮矣抑太師尚義好施有不可盡述者其賜田泮梁以五百頃供帝師賜田武清以二百頃捨人大都慶壽禪寺其志皆以集禧皇家上報人主又自奏陳請以私帑鈔十萬錠賑濟居庸以北至於朔漠驛戶之匱乏者無非紓國裕民事也

宣化縣志

卷之二十八 藝文志

六

附著於斯為宜

洋建廣惠橋碑記

明侍讀學士

郭正域

江夏人

洋河來自塞外南入桑乾雲谷及漠北諸水皆歸焉流沙善潰莫利往來前開府吳公創為木橋時修時圯夏秋水漲橋與水沒秋冬之交役四營士數千人囊沙障之鶴立才水中裸衣負土偃臥流澌手龜指植橋又與水沒河水一合冠蓋往來商賈奔走自冬及春曳輪濡尾舉裳沒趾履薄恐墜中丞王公以已

丑冬治上谷兵行部蔚羅飛狐間夜分渡河河水覆
覆幾輪走沙咫尺莫辨盤旋竟夜東方既白始循水
橋望郭門而趨慨然歎曰使者擁旄列騶前呵後從
猶苦於河其如小民何令津吏揭竿懸炬以照夜行
越明年夜發市臺走七十里肫明暴漲曷中乃渡迨
旋之日前旌先登河水大至公與從騎屹立中流波
盪如山浪鼓如雷蓋厄于洋者三矣又慨然歎曰居
恒猶可有如敵人渝盟祇神河伯交相為虐一葦一
刁可渡師乎洪蔚之警往事可睹已遂一意為橋凡

宣化縣志

卷之二十八

藝文志

七

一瓦一甍一木一石指恒屈而首恒奠蓋念茲殫茲
惟河之故也明年檄下所司造舟為梁凡數十艘而
河徙靡用麻大將軍建白鏡鐵盤柱連鑲構欄願浮
沙不能載公乃與孫方伯議石工眾曰河流無涸河
沙無底今且十萬力且十年未議病涉也公念塞上
無可與計者直指崔公至同心殫力捐廩金助之會
妙上人福登有戒行從寧武董將所來曰大事在心
勝緣非偶欲橋而橋勿與俗同公乃為長錐直鉤鉅
穴沙得石錯落如豆沙盡石出如卵如甕布滿中河

羣譁乃定度地之日有鬼自南來直入河東吃為異
占者曰免於辰為卯木土水下其象為橋遂定基焉
乃發八路工匠及河南戍卒之半昇沙布橋以礫實
之為層者二為級者六為門十有七橋長千尺廣並
數軌高不及廣者尺有咫基之濶九丈有二濶四丈
有八樹華表者四標題者二檻楯高六尺有五岸南
北鏐金為犀者四以厭水怪橋南聚沙為長隄凡千
二百武濶視橋以通往來橋巨二千武以遏狂瀾之
美使不得決決而南隄北種柳數萬株俾不侵防而

宣化縣志

卷之二十八

藝文志

八

橋以無恐公被命入蜀中丞彭公至復為北岸石壩
長丈百有六十一南為小橋二直指黃公計部即黃
公守道郭公經理之以迄于成凡始自己亥仲夏越
明年孟冬而落之匠之工三十萬卒之工七十萬椿
之株十萬石之丈三萬金之兩萬有一千常平子錢
十之二士民捐助十之八是役也宦茲土者自計部
大將軍三兵使以及諸將吏人協其謀隸茲土者自
兩董倪黃張五將軍劉牛刺胡孝廉以及纓弁閭閻
之間人輸其力董其事者則參將陳國保分其務者

則守備邢官寧國棟姚應龍千戶敬忠等乃王公實
 始終之崔公贊之彭公黃公郭公繼之妙上人
 經營之為橋之初水漸徙而南下吉導水先一夕雷
 雨大作破堤應期直奔橋下厥工告成地祇從之水
 哉水哉昔趙之石橋成唐大定間默毀破定州南奔
 石橋馬伏地不進見橋上青龍獐獲奮怒敵恐遁去
 夫精神之極土石效靈神明呵護寧只利涉且以捍
 患矣矧洋河為中國鎖鑰夏門戶壯觀中朝控制
 百猶茲固疆場之功社稷之利乎其在周易宏濟艱
 宣化縣志 卷之二十八 藝文志 九

維城山東邱縣人大叅郭公名士吉直隸人懷
 隆兵備大叅馬公名崇謙山西安邑人副使馬公名
 維駟山西陽曲人分巡道大叅張公名國璽直隸任
 邱人副使張公名我續直隸任邱人王副成尚忠宣
 府前衛人
 重宣府儒學桂林橋坊碑記 明 運 標
 宣詎天子之都僅十餘舍而近雖重閣限闕列在西
 陲然贊序雖容橫經講藝懷尺牘而應弓旌與都人
 士雁行而旅進斯亦何讓于王國克生者哉往歲余
 宣化縣志 卷之二十八 藝文志 十

難必曰利涉大川雲雷亨屯既濟未濟與易終始夫
 有能濟之具必有能濟之人開物成務利見大八公
 家世忠孝有文武才雲雷事業如此橋矣王公名象
 乾山東新城人開府彭公名國光江西德化人馬公
 名鳴鑾四川內江人侍御崔公名邦亮直隸東明人
 黃公名吉士內黃人湯公名兆京直隸宜興人計部
 郎王公名成德山東臨清人黃公名蘭芳湖廣應城
 人杜公名詩山東濱州人大將軍麻公名承恩大同
 右衛人梁公名秀宜府前衛人分守道方伯孫公名

以直指攝學使者事于茲地所掄備茂置前矛者類
 多脫穎去而是時薦紳趾錯並蒸蒸盛也嗣是清不
 振二三君子因德懋形家者言議更創而在事諸公
 次第興舉學宮之東故有魁星樓謂不當勝處闕司
 稟成議為稍從而前拮据凡十稔矣逮余奉中丞節
 至而樓始成余為之增其所未備其桂林橋坊則令
 悉撤其故而新之役既竣因又于其所標額而重有
 感也夫齊諧者流有味乎廣寒玉虛之譚以為士之
 附青雲者比此嫫褻怪誕不經甚矣然柱固在

士者亦稱鳳舉為諸生勉可乎夫桂舍英孕被拂毒
發繁而結幽芳于晚歲有君子之貞焉孤根抱夫寒
石而夏草自除有君子之介焉導性引和岐黃家大
百藥而推之為長有君子之義焉避炎敵而飲實聖
葉昊而舒容代謝從天清標獨賞有君子之時焉士
兼此四德者乃亡媿于桂而可列于士之林此桂誠
有當于士也且爾多士之附光景燦茲亦其時矣紀
曰君乘金而王其政訟平則芳桂叢生今上聖躬御
宇道久化成用致翩鴉食椹輸誠貢琛蓋邊塵不擾

宣化縣志

卷之二十八

藝文志

十一

者四紀于斯矣故以余之謏謏猶得于韜戈韓矢之
餘為譽髦薪樵計爰又于橋坊之敝圯自非是詩也
而胡暇有此爾多士幸當寧謐志一而不分以近甸
涵濡積為憤排蓄極而章正芳桂叢生之日振藻吐
芬仰追蹤先達何難匪直以文詞相彪炳已也東方
曼倩目頽淵為桂馨一山陳季方稱其父太邱芳桂
樹生于泰山之阿夫踰驥而騏矣踰顏而顏矣即復
云何敢望回若泰邱之標表人倫敷詒印嗣遂至于
象緯而聲施到今吾師乎吾師乎惟爾多士取鶴焉

此亦所由幾幸于踰顏乎不然而徒以文詞彪炳焉
者即却說以對策為天下第一猶不過桂林之一枝
何足誇多于海內余固不以此為諸生美也又不然
而托根非所競艷銜奇而蝎生乎其中則所稱桂以
蠶而成疾者余猶不以此為諸生願也其尚慎之哉
是為記

修宜府馬神祠記

宜府推官 孫錫齡

鎮城馬神祠作于明洪宗正統六年重修于正德戊
辰再修于崇禎丁丑凡二百餘載迨入我

宣化縣志

卷之二十八

藝文志

十一

皇朝又廿餘年于茲祠則大圯都督劉公來鎮茲邦凡
祠祀之關于戎事者尤加甚爰更是祠而新之經
始于康熙二年癸卯夏四月明年甲辰孟秋告成公
揖余曰盍記諸余按周禮春祭馬祖夏祭先牧秋祭
馬社冬祭馬步蹇乎博士家皓首窮經尚鮮知周禮
者矧棘韋之附注君子哉請因而解之馬祖天駟房
星也天文辰為馬精蓋龍與馬同氣云若失先牧始
養馬者嘗觀秦趙史記自益為舜虞調馴馬獸其後
費昌仲行世為御有功列為諸侯而造父為周穆王

御八駿日馳千里由是得封于趙秦非子以善養馬
 孝王封之大即蓋上古聖賢多神靈通于萬物不可
 以後世測度者為所制先牧非耶馬社始乘馬者世
 本日相士作乘馬馮沙者神之能灾害馬者也故春
 夏秋所祭者以祈福也冬所祭者以禳灾也祭必戊
 庚剛日見雅詩牲用少牛月以四仲具隋誌唐宋因
 之明定為春秋二仲禮令不改則尤為得中云惟是
 怪幻不經至有謂歲六月下弦前期為馬神降臨者
 惟欲如其禮將令所禱先牧以下宜各有二誕辰何
 宣化縣志 卷之二十八 藝文志 三

得問為一日也無寧以能驅我馬者雖神之降臨有
 不暇論其能火害我者始攝日月而禱祠之分如
 人世有低昂厚薄子其間乎夫使神而無知也則可
 神而有知其世之矣且世俗凡所謂聖誕者非神之
 誕之謂也乃天子萬壽聖節例應于應祀禱神祠觀
 置世人不知悉誤以神實有誕日則不考典禮之過
 也然則六月之誕可以已乎曰何必已也古有夏祭
 先牧之文季夏肅詎知非其時也但執以為神之降
 誕則証矣矧宜為古冀之北邊多產良馬國家駉騁

驍驍自塞外來其麗不僊用以捷戰陣而迎郵傳雖
 牧養乘馭之得宜而神實陰相之公與沾河潤則益
 加虔恭誰曰不立耶
 明大學士 葉向高
 經閣記

萬全都司之有儒學始自宣德七年學宮故居城東
 南隅地稱雄勝二百年來人文蔚起甲於邊陲矣其
 後以增俾蔽塞青衿之士進取絀焉乃羣請于今中
 丞王公願新之以完風氣公躬履周視見堂宇頽隘
 且圯廟前路橫縮縱龐大不相當橋門迫窄潢汙圍
 宣化縣志 卷之二十八 藝文志 十四

旋無所乃謀之督府王公直指何公咸謂宜如諸生
 請亟檄從事諸度費易工則僑兵使者孫公都憲麻
 公協殫厥心百凡胥傍櫛星以內闢為廣術又移泮
 池以便趨踰廟貌堂宇赫然改觀矣顧堂後有隙地
 蕪其中丞公曰盍不葺而築之建尊經閣乎僉曰善
 乃為閣五楹高可悉覽河山縈繞如帶如屏左右為
 室藏書數千卷其東築臺于堞榜曰魁樓象文明也
 既落城鎮之人奔走駭矚安得臺下有此偉觀諸生
 亦更相勸業自今以始若猶是不就也將安所委咎

因復聚族而謀碧石而屬子文之子惟五帝開天軒
轅為盛稽自阪泉營于涿鹿功化翔浹萬國合符維
茲上谷固神靈之與宅而赤縣之首區也戰國而後
弊于邊疆石晉淪沒且數百載至高皇帝乃孳而還
之中華錦京再奠遂為國北門沐潤依光比于三輔
茲亦軒轅以來之一時已諸生誦說詩書雅稱帝世
今幸身親值之雲蒸龍變亦惟此時豈其厄塞自甘
上孤明聖必不然矣獨此也北來雲中上谷仁歲
不中邊患鉅鼓之聲殷于絃誦今敵人馴伏近塞安

宣化縣志

卷之二十八

藝文志

五

堵督府中丞代興建節紆畫周防諸生得雍容俎豆
藏修不廢茲又明興以來之一時已頃者主上上士
習日非屢詔申飭而愈挽愈流文極而衰固其數也
上谷士質樸深沉有軒轅氏遺教勸之以象指迪之
以尊經毋感異端勿趨流俗此如登高順風招呼甚
易庸知夫海內士之不以此邦為嚮哉中丞齊魯世
家文學天性兵憲由各御史遷俱在塞上久洞敵情
振士氣參以都護沉毅好文功並足述云昔魯人誦
僖謂既作泮宮淮葵攸服今敵服而泮宮成宜有頌

不佞不文姑愛而記之

萬全都司儒學尊經閣藏書記

王象乾

今上單敷文德皇澤既於遐方塞上父老子弟緩帶
嬉遊鉅鐸之聲易為絃誦益自昔所未有余鎮撫之
明年諸博士弟子以學宮開曉請以餘力新之余謀
之制府王公直指何公檄下所司鳩徒趨事堂宇煥
然又勅為尊經閣五楹既觀厥成都護麻公屬太史
福唐葉公記其事余之徵藏羣籍蓋闕如也多一購
于士民之家乃唯督下落間事武畧文家曼胡而人

宣化縣志

卷之二十八

藝文志

六

藜韃士抱一經而外語以往昔圖牒若謂非元衣赤
鵲之靈莫能觀者籍中郎會稽而在安所披二方
聞遺舉以滋益其奇夫士不稽古猶舍燭光而行晦
室也復謀諸制府直指捐金購之自五經子十三經
三十一國史秦漢而後諸文章家立言垂世與夫掌
故諸書計得八千九百五十七卷會少司馬梅公與
直指何公肅公徐公相繼而來人復益以數卷而滄
州合肥清源三計部麻都護孫方伯馬張兩大叅梁
副戎人各出笥中所攜合之共得萬餘卷疋篋設鑰

印識其簡端付藏史而儲之開以待博士弟子繙閱
畢則還之庠俾學官博士董其事月朔望學官博士
具繙閱歸還之日以聞于兩臺期於勿損今而後凡
遊茲土者無論經史子集人以數卷日增歲益雖不
敢侈言東壁夫安知不與洛塵荆架抗顏行也者或
言開以尊經名附贅之謂何余曰否否夫經載道者
也諸子百氏翼道者也史記事者也夫事亦道中之
事也有經而又有子亦史有百氏揚鑣分繙岐而
執所以翊戴聖經而成其尊者也爾多士登斯閣也

宣化縣志

卷之二十八

藝文志

七

葱欄而望巍然在目者非恒山也耶其高三千丈周
迴三千里灑雨興雲位二儀而伏萬物尊矣不
冀諸山歸扈峯嵩礪礪環拱孰與成其尊乎故曰高
以下為基子史百家聖經之巍扈峯嵩也夫士也砥
志耽精坐擁羣籍異日一朝遇合元覽幽宏權古證
今是何異執鑑以寫形而持衡之品物孰得以微塞
士少之余猶有歎焉上谷重塞為國北門環堵而外
皆甌脫也魯侯泣泮鴉懷好音唐人興學蠻貊君長
遺子弟列序鼓篋者八千餘人今躡林以北駃騠蒙

駝銜尾入貢奚啻象齒元龜諸部漸易耗芻糶稍穀
行且改外俗而從華風天子文德益覃益敷有如自
題滑歷代弗賓之國慕義來王後袂方履觀禮樂衣
冠文物之盛余將于多士觀博識矣爾多士其勉之

宣忠臣義士祠記

王崇簡

祭法能捍大患以死勤事皆所宜祀士大夫遭時之
阨勢窮力竭志不克就死以報國祀于其土禮也况
時移物換使人景企慕于十數年之後經營勉
以堂以構伏臘徬徨無所為而為之於戲豈易致哉

宣化縣志

卷之二十八

藝文志

六

右宣鎮士庶之立祠祀明巡撫宣府都察院右僉都
御史朱公及文學姚君也豈非其風烈貫金石昭
日月足以感奪乎人心而維萬世之綱常乎朱公於
崇禎壬午十二月受命巡撫宣鎮之餉關軍怨司饑
而譁公多方補足斬首亂七人併糾司饑者亂遂定
鎮帥跋扈論列其狀上之司敗一軍肅然亡何流寇
破潼關渡黃河為綢繆之計具備而大原寧武大同
相繼陷公遂集文武紳士軍民於城上申說大義矢
死守出一篋衣取紅公服屬從官曰以此殮我餘悉

宣化縣志

卷之二十八 藝文志

九

克擒軍衆皆感泣未幾監視宦官與鎮帥降賊復說
 公降公念擒之或為變乃招鎮帥伏徒卒伺之未至
 而賊聲言監鎮許巡撫何獨不降公大罵拒之激勵
 將士相持兩日夜賊多死傷監鎮乘門閉門賊遂
 入公守北門聞變命轉火器南向欲手燃擊賊左右
 泣擁公行公曰去此一步非死所矣遂服紅公服登
 城樓拜遺疏而縊賊至歎其忠殺斂于僧舍甲申三
 月十一日也嗚呼捍死事公可無媿矣昔唐定
 之亂張巡許遠死守睢陽以遮蔽江淮身雖死而賊
 宣化縣志

亦困雁助據徐城泗當江淮之衝賊所急爭杜悛以
 孤城捍之卒致泗完而賊旋滅使賊鋒狂突之監
 軍不叛鎮帥不降與公死守宿將義旅出奇擣間以
 遏阻其銳以擁蔽神京遠近聞風奮起未必無郭子
 儀張存誠之倫出其間奈何叛閣逆帥望風送款公
 力既竭飲恨致身嗚呼此一鎮紳所共當時
 而興思異代也公諱之焉字德止號勉齋世籍完平
 登天啓乙丑進士時各之裔授戶部主事以辭劾逆
 闖魏忠賢左遷浙江布政司理問歷遷行人司副刑

宣化縣志

卷之二十八 藝文志

十

部郎中浙江僉事青州叅議河東副使晉叅政別歷
 中外皆以清方誠恪聞至大者河東宗室朱金宇為
 羣盜囊棄人不以問且與察寇犄角公計擒之大患
 潛弭當宁器其才由叅政授節鉞公為人直濬介
 發言有則不隨人為好尚少博羣書即宗旨理學持
 是道造次不變官青州時入賀道便留家濟南既而
 濟南被兵公配馬安人墜死母李大安人不食死公
 徒步扶襁歸葬廬於墓側布衣蔬食終身不易馬
 安人節烈遂不復娶訓其子持正以忠敦厚以讀書
 踐履為本務卒年四十有三所著有在疚集講學諸
 書持正于其年六月葬祖兆先是公遇變從懷
 遺疏間奔京師始知公死節褒卹之命甫下而都城
 旋陷恭逢我

世祖章皇帝憫明都城殉君諸臣核實賜諡祠祭田宣鎮
 士庶感盛世之褒忠前代以其所著志祠公
 于十數年之後豈有所為而為乎撫按道廳諸公相
 與執議觀成益勵忠節維風化官其止者之職也姚
 君郡人各時中城破肅衣冠從谷自經于學宮君篤

學知大節儀範修整寇至知監鎮有異謀泣歎曰捍
大患而以死勤事者惟朱中丞吾將從其後矣已果
死以從祀焉鄉士大夫以予知公屬為之記

三槐亭記

大中丞

宣鎮制府西可數百武曰槐棚者故叅將王某宅也
宅後有槐甚奇子孫不能守前撫會稽吳公不忍令
此槐再辱於不能守者發墓石之美贖易之遂稱官
署云今年四月既望分與大將軍麻君坐三槐門而
樂之相顧曰必亭之而槐始勝大將軍退而庀材鳩

宣化縣志

卷之二十八

藝文志

三

工更翼以東西二軒各三楹越數日告成戶部趙君
守巡二劉君治具遊於亭且以名請余徘徊六中
見一槐而南者亭亭獨立鐵幹盤雲如虬龍鼓舞奔
越巨浸又如飛蓋擎天散綠成蔭其二槐而東西者
左立右對扶疎爭奇偃產相繆可藉而倚下則曲徑
流泉名花珍果種種勝矣而六
因以名其亭又記之曰惟上谷為 京陵右肩外隄
蒙古天子設重臣備寇以余所聞往事日困於羽檄
之交馳而何所事樂三槐故二百餘年物也開笑

而對之者幾何哉今賴天子威靈諸軍于忠順奉珍
稱臣妾者且十一年所吾輩相與治事之暇歌咏其
中如三槐者一旦脫數更之主而尊之為在公之物
不令不守者甲往而乙來槐斯非
爾槐不能自勝而以質暨者勝質暨者不能必勝而
以時勝今日優游太平幸勿忘帝德使茲亭長有其
樂而主上無北顧之懷吾輩之責也余嘗讀李濟南
洛園記云天下治亂係於洛陽洛陽盛衰候於
今之上谷孰與洛陽重哉諸君唯唯請記之石麻君

宣化縣志

卷之二十八

藝文志

三

諱錦大同右衛人趙君博以康大理人劉君
保定人劉君諱葵通引人作記者銅梁張佳月也
雞鳴山香社碑記 明澤人 胡守訓 宣府人
鎮城東南六十里柱天直上雞鳴山也飛梯隆隆若
層若磴永寧寺也巍然南向帶洋河揖卧雲榻福若
響應碧霞元君也再折而西
尉三楹禮懺之尺資也旗沾梅雨旂飄麥浪車騎忽
駐簫鼓凌虛于是乎有行指息者掖者挽者推者
者窮援鳥道俗所稱元君誕會若或使之也仙梵微

微與響亦冷冷迢遞相應鐘聲從天而下則聚石談
 經時也饌之者易食渴之者易飲虛而往實而歸其
 波及者皆神之除也竭歷修繕實牛耳以似以積
 亦事之可書也代石盤峭鬼神訂時一低制
 不欲去則余之紀載考既往而厥來茲者也於戲余
 昔登雞鳴西望恒山北窮瀚海想黃羊之洞口憶金
 關之精廡呼殿帝座永符不爽然自失也故釋回者
 及其所蔽增美者庸一所明景星慶雲在供奉一
 轉耳不然即薦膈脈貧猶然利念也人其無忽孟氏
 宣化縣志 卷之二十八 藝文志 三

草草之訓哉

卷二十八原書缺第 24-25 面。

朝天觀記

明大學士楊榮

宣府古冀州之域秦為上谷郡後魏號西京元為山
 西東路總督府今當京師西北之衝實為重鎮地
 鮮居民惟卒伍之士以耕以守一朝天
 觀殿于元季蕪廢有年矣洪熙收元中軍都督府左
 都督譚公廣以雄武長才恭被仁宗皇帝命佩鎮朔
 將軍印出鎮于茲今皇帝嗣位寵任益隆於是邊備
 具修士卒安於無事公惟內地郡邑皆有浮屠老子
 之宮為祝釐之所以致臣僚歲時之恭以備羣庶水
 宣化縣志 卷之二十八 藝文志 三
 早疾疫之禱而茲境乃闕焉遂因農暇以士卒餘力
 具羣材即觀之故址中建三齋殿左右翼以廊廡而
 龍虎臺玉皇閣居其後繚以周垣樹以重門高卑位
 次各得其所金碧輝煌規模偉壯像設鼓鐘方丈庖
 廩莫不畢具經始於歲辛亥之七月畢工於癸丑之
 九月斯役亦大矣蓋人之德公一也
 義故其於役也人不以為勞而復請設萬全道紀司
 如內郡授道士蕭志淵為都祀且度其徒以闡其教
 以維持于永久其用心不亦至乎况公之為政可書

者不特是而已關外諸軍衛舊屬都府邊務緩急稟承非便公請立萬全都指揮使司以統臨之社稷山川則為壇壝以時其祀武臣子弟則建學立師以專其教茲於文事武備可謂兼之矣

三靈侯廟記

舉人胡守讓

吾宣城中稍東南為大市蓋百貨之所聚也市稍南道西建有關公祠得非以熙熙攘攘如狂瀾東注不

宣化縣志

卷之二十八

藝文志

五

障不止邪忠義者障之具也歲久之廟後故屋圮矣得隙地寬可十武許長可二十武許道人王演壽遇而遲留者久之市人詰之曰道人寧有意邪道人曰然夫富足者淫逸罪實梯於趨利經營者退讓義有重於斷金市人所少者非利也義也吾其市義乎言甫出爭輸之金道人庀工鳩材三楹以廊中構三靈侯殿三楹地窄屋少後構樓三楹翼如前轉後精舍在焉空洞八極虛舍萬有晨風夜雨聲隱隱出窓間蓋人間洞壑也殿堂門廡黝亞丹漆金

碧莊嚴凡五歲而工訖云余過而謁之道人屬余為記余惟三侯義至高不少概見弟俎豆到今猶足廉頑起懦說者所稱讓財卻祿之事或不誣矣舉世混濁清士乃見道人建廟於市猶

宣化縣志

卷之二十八

藝文志

天

令智昏也夫當易昏之時感動提醒以禮義防於利所以遏貪鄙之俗而醇至誠之風也豈與梵宇娑祠汎然無關風教者同乎哉嗟呼習筑為琴者誤也陽以推之陰以餌之巧耻名而厚收利抑何詭也計贏收直者藝也誦說孔孟敗德珍義名陷饕餮貞介所差又何鄙也醜窮美富者貧也肆其漁獵以充苞直又何汚也繇此觀之物豈可全哉顏回糟糠俗雖謂之窮榮也盜賊多財俗雖謂之富辱也君子之榮辱固有異於俗也夫固有異於俗

也夫

關王廟記

岳

予讀三國時史望王列傳未嘗不廢書而歎曰嗟哉

悲乎惟王誠以乎忠義以植再

傲乎烈日而凜乎秋霜也其成敗利鈍又安足論哉

王祠宇遍寰區祀載盡史冊詩詞傳記其出於鴻儒

巨卿騷人墨客者何可勝數竊予小子敢曰知言茲

因善士秦奉先輩之請題為之言曰載昔桓靈之時

漢室鼎沸羣雄逐鹿曹操則挾取中原孫權則竊據

宣化縣志

卷之二十八

藝文志

三

江東先主乃中山靖王之後帝室之胄也偏安西蜀

王起而從之間關險阻誓死靡他心切為劉志存興

漢卒能輔翊昭烈克紹漢統其與一旅而與夏一申

而存楚者何異哉論者每以王攻城野戰訓士練兵

曹仁為之喪膽呂布為之受首斬將五關刺顏夏萬

眾降于禁戮龐德謂王勇蓋一

之得賞却孫膚之請婚謂王之胸次如嚴冬冰凍萬

草俱靡而青松勁節挺然獨秀又謂王克定南郡成

震華夏雖以孟德之強盛猶欲徙都以避其鋒為王

之勲業車冠一時羣雄莫及以予言之斯晉王之

歎非王之具體也於戲曹操稱魏孫權稱吳六時號

為王佐如荀文若者且臣事僭竊而周瑜魯肅咸為

時英皆蹈一轍王獨明于春秋

之節終始不渝死生不二是以精神靈爽在霄壤間

萬古如一日雖前乎千百年之前後乎千百載之後

王公大人兒童婦女中國外邦莫不尊而事之敬而

禮之此豈人力之所能為哉天也王姓字家世載在

國史相傳玉泉山化千丈潭為平址作法師智顛道

宣化縣志

卷之二十八

藝文志

三

塲及驅陰兵破蚩尤池水盡赤其事甚神容或有之

亦不敢以為極也二十四年火二十六年又火皆至

王廟反風滅焉鎮人翕然神之乃捐金飾廟不日而

成托之貞珉亦崇德報功之大端云

藥王廟記

進士

胡以溫

鎮城舊無祠藥所里人因廢署

臺迺經始焉曰初嘗味草木藥物具自神農氏采問

難經托始于黃帝而醫方出君子觀於諸編下藥

之不可以已也即秦燔六籍所不去者醫藥與卜筮

種樹才數種豈非以大有功於民生莫不欲壽之
哉奈何昧養生家言為一切醫方食技術之
之樂報即飲食男女有勿省霜露寒暑有勿時
若屬匍匐丐生活乃飲未上池
慮亡不三折肱嗟呼使肺腑而能語若屬匍匐如土則
何益矣夫古扁鵲氏非所稱得傳於長桑君者哉兄
弟皆善醫魏文侯時獨顯名諸侯間此其所從來矣
太史公亟錄賡理腸胃骨髓三論又謂過邯鄲洛陽
關中凡三易醫與救魏太子事亡論漢涪翁程高郭

宣化縣志

卷之二十八

藝文志

三

王佗諸人即巫咸醫和復出何以加此要不易所傳
三十方識彌高取彌精矣蓋軒岐之道於是為中天
夫人苟非稍知養生飲食男女有勿省霜露寒暑有
勿時則安得借口吾命乃在天難扁鵲何益乎知藥
之不可已祠可已哉余曰此固所宜崇報豈無鄉之
社易為黍肉無國之稷易為求福下
生使人長有壽心適余惟里人之誼事必溯所始禮
必豐所報而因有感於理必要請至當而不可易特
云救藥書曰臨眩禮載君藥臣膏春秋譏許世子其

他散見于傳記中不可殫述則凡所以忠君孝親左
右而定省之宜無不至孰與割股求代君子之謂
於理奚當乎以至慎起居節嗜慾忿怒體受主歸
不敢毀傷以酬厥劬勞之恩以對

朝廷仁壽斯民之意以答皇天好生之德何至如今醫
方食技術之流動胃人以六不治名陰為重精陽為
名高也者彼不識藥王又何知炎帝所嘗草木之味
之性十全為上此皆扁鵲氏之罪人矣不然則嵇叔
夜所論以葭爾之軀而攻者非一塗千人所指神弗

宣化縣志

卷之二十八

藝文志

三

福也祠為扁鵲氏稱藥王者何從封號云是役也經
始於庚寅閏己亥而告成又閱數月適為之記道士
段真學實關斯宇其徒何常禮嘗稱真學少學道崆
峒山來遊東土凡建修若干所在鎮城者若九天廟
與茲祠其尤著名真學先數年羽化去今常禮又將
授其徒介守寬欲抱琴方外遊云
此碑胡東隱撰文
為三絕云
武成王廟記
進士 胡以溫

宣聖廟學並峙於鎮城所謂有文事者必有武備也

自明正德間改建於茲不知幾經傾圮至順治壬辰
都督李公甫感衷一修越

今上康熙甲寅子奉 命總戎茲土展禮廟庭見

廢之狀非所以妥神靈也且僅一新予言居廟身
以肅觀瞻况國之大事惟祀與戎而邊方又用武地
苟坐視荒榛其何以建威消萌仰副

朝廷簡任之意乎于是捐俸以圖修舉而諸將領及武
紳衿好義者亦皆有捐以助工迄已未而役竣凡殿
廡台階以及門路墻垣無不起築維新乃更延道士

宣化縣志 卷之二十八 藝文志 三

住持其中因置廟旁隙地為蔬圃以備香火即以資
道士薪水之需蓋前此住持來去不定皆無贍給故
也殿後舊有老子之像並加修飭亦踵事之勝緣非
增華之過舉也賈雖仍舊意則加虔從此以妥以侑
時啓時閉鳥鼠攸去風雨攸除鐘鼓常聞香火不絕
亦點綴太平之端也凡我有官君子其此月念之
公以下暨古名將之所必不可無庶亦知余修廟乃
不忘職之意為必不可少者矣

城隍廟泰山殿記 胡以溫

道士脫陽憲既創黃籙閣於城隍神祠之東偏其西
偏舊有所謂泰山殿者年久而圯陽憲念其圯也出
所節用於衣食及募眾所助乃大修之殿仍舊二果
前申以厦如殿數中祀泰山眼光子孫三官一日歷
以泰山特稱亦仍舊也殿之東西廡為間各有五其
所繪壁畧如吳道子地獄變相又前為太尉殿神左
右向而虛其中為門皆仍舊也而莊嚴則一新於是
陽憲來請記經始之歲時為康熙戊午二月至庚申
歲之四月役竣記已而陽憲之鬚髯張子心知其

宣化縣志 卷之二十八 藝文志 三

嫌少也乃語之曰夫泰山在禹貢兗州之域禮諸侯
祭封內山川故魯季氏旅於泰山孔子責冉有以弗
敢謂泰山之神不享非禮之祭也况城隍祠中可祠
泰山於其偏乎夫城隍也隍池也則城隍之義可知
也泰山為東嶽東方主生於時為春於五行屬木在
地為五嶽在天為五星所為質見於也而氣於天
者歷代以來五嶽皆封帝號尊可知矣乃今殿雖泰
日泰山而中所奉祀者則曰聖母世俗遂有泰山娘
娘之稱久矣名實之不辨也聖母不知生於何代按

道書所載年甫高即棄家入山三年丹成受帝冊為女青真人以鎮泰山乃

天仙聖姥碧霞宏德靈應元君也則殿宜為碧霞元君

殿今城東六十里雞鳴山殿額所書是已

嶽大帝絕不相蒙則知鎮城凡所稱泰山廟者皆愚

俗之人名實不辨不可不有以正之也於是陽意作

而言曰然則與東嶽祠之規制較若畫一之謂何曰

汝不觀兩廡所繪者乎無非針愚砭俗使之為善以

去惡云爾無如世人不知善之當為與惡之當去也

宣化縣志 卷之二十八 藝文志 畫

惟一意邀福於神神豈佑之耶若謂泰山高遠不能

人人皆至見此如登岱宗而禮明神亦甚便乎獨不

思季氏以魯卿猶不得放况凡人哉又况婦人女子

哉故孔子曰非其鬼而祭之諂也然是役也雖仍舊

貫而陽憲與其徒劉維福住持此廟歷有年所凡事

勤潔故能剝未曾有而又起敝維新

大悲寺記 進士 胡以温

鎮城草廠里乾隅有大悲寺歷年久而門額靡存周

垣頽而蕩然行路殿廡不堪以支風雨僧寮不足以

樓徒眾雖通衢古刹每晝陰夜靜非偷兒出役則

物作果有里中諸善男子來官於予予謂寺為棲神

之所有中祝

聖之位而圯陋至此茲時無可展禮地上身

能興起頽敝助流政教萬一揆之分誼于心未安况

佛教流行至今不廢則莊嚴淨土亦非禁所不得為

于是聞之鎮守都督閻公公慨出囊奉仍勸諸宰官

居士皆樂施捨適于

今上康熙丙寅春三月望經始迄閏四月望俾百餘年

宣化縣志 卷之二十八 藝文志 美

敝寺收觀兩月之中夫寺非加高地非加廣也規模

仍舊義取維新而已僉謂予不可以無記予未有以

應是秋八月都督公捐館宣人殂豆公于大雄殿後

復申前請予唯唯竊念城中供奉大士無慮十數夫

總此大士也類稱觀音罕稱大悲者按楞嚴二十五

門觀世音答佛問圓通與法華普門品佛讚觀世

音者大都慈悲二義言大悲不言慈言慈疑於佛

佛亦稱慈氏也言悲則足該夫慈爾昔蘇文忠公作

成都大悲閣記雖官於汴京猶想見其概矧茲寺

通子居毋從中南望見湖山之外時有浮教積至
助於釋解雲開之際而後山一脈如藕絲馬跡隱躍
而來門外三合水歸溪方近半崖沙棘林成
儼若關鎖固知此寺有必興之勢且于髫髻年從先
大人遊茲屢矣今藉大檀那之力以畢四十年前之
願俾里中清謐得從容為

主上祝釐敢無一詞以示將來乎都督公諱可權號宜
菴廣寧人來棺戎符凡十有三載為德宜人者甚多
此特其一云

宣化縣志

卷之二十八 藝文志

七

九天行宮記

文學 胡以誤代姚

粵稽府治之坎隅舊有九天行宮載覽前碣所紀稱
有羽客石守慶者募造六尺金身像成而樓神猶未
有宇權奉之於朝元觀內之傍靡不終所事遂資志
而去閱三十餘年復遇道士段真學與其徒何常禮
徘徊廟左顧瞻輿嗟謂有像無祠善果弗用是訪
募副戎制紳善尤而施助之遂鳩工屯才刊修廟
一區精術之填要皆檀那力也然師之勞若功積亦
歷年所矣稽其所建有正殿者三抱覆者一東西

廊二鐘樓捲棚者各一至若道房客舍無不具備
今又幾寒暑六十經矣而風雨飄搖棟宇催折大改
昔觀賴有全真道人任清瀟昆弟者善於走善更
規模充潤以便晨鐘而暮鼓乃聚沙雜眾憑之
川修緣廣起募檀那深美善田易鐘勝業同襄輕財
樂施者比比而是于是重新位置另為鼎新完缺補
廢藻繪丹刻美輪奐而善塗麗者遍祠前而九天行
宮又已重新九天神靈又已安侑至于位置之精補
造之密具存廟貌無容鏤悉矣行見天人悉協降福

宣化縣志

卷之二十八 藝文志

七

賜祥其福庇一方而長養萬姓者皆神之力量也其調
順風雨而栽培萬物者皆神之賜也其仁壽父老而
遂長孤幼者皆神之德也其在經曰人有善念天必
從之吾知九天之神之永庇宜人者將億萬斯年矣
是役也蓋經始于甲戌歲之三月告成于癸未之十
月若夫續任道之志而使貌之終不至于或廢者仍
望諸後之同志云余因丐類考之殷不能詳故
顛末而勒其事於左列諸姓氏于陰是為叙

大正宣化縣志

文學 胡以誤

吾城之有大三元宮也創始於明正統之初元其規模廣狹誌諸石者惟詳且悉去緒修後又幾歷年所催風蝕雨殿傾亘圯壞於廟祝之非

有眈眈心傷瞻容太息者皆怯於功費之煩欲肩其役卒終止者蓋數數輩也有羽士武劉趙三人者雲遊吾地息庵於茲周覽上下歎歎久之日以若茲之名勝而令其頽者頽覆者覆尸香火者其誰責耶爰是口商心計圖復舊規一如當時馬公初葺郭公繼修之故事而力有未逮自念如踵托鉢之風沿門僕

宣化縣志

卷之二十八

藝文志

禿

僕縱鐵鞋踏破奚益也慨然夫閉關之願期以三年乃智者笑之愚者排之蓋迂其徒苦實甚乃無何而樂成之者比比皆是甫及三年凡諸物費不勞而辦即庀工掄材笑者効謀排者効力朽也易以美矣破也易以完矣功將成而羽士武終抱還山之志飄然携琴以去其劉趙二侶復謀諸檀越日整其內而敗其外新其前而若其後不令人譏予之謀我吾其畢之有晉陽李公應之日然將思所以代若謀也而幸得其道吾為之募十人而人各三金可

乎已竟倍其數者十於是復葺其兩廡暨後殿以及丹房配室無不就理焉外復繞堵其周墻塗至修整之餘煥然改觀云乎哉仍舊貫耳然亦力也蓋不易矣工始於康熙庚午菊月逾四載而工成有近居之檀越劉公者余之尊姪也遣力遲余而商所以記口幸有總戎劉公舊施之榻在其文誠予之責也惜吾老矣憊其代余筆之甚勿苦以越俎辭余日有其誠則有其神有其神則有其靈矧三官之為神也其生成覆載長養吾人者又非可以幽明空虛論也然

宣化縣志

卷之二十八

藝文志

翠

神之威靈大德已具於前人記載之中而師之勞績功果又存於宣人口碑之內余小子何足以誌之哉姑為之書其工之顛末而詳其功德者之姓氏於陰蓋望數百年後之續其志者知前功之不可泯用是不慚達人笑余頽之禿而僭筆云

四賢祠記

進士 胡以溫

稽古碩人君子其車轍所經或遊蹤偶工人仰其流風令德時無輪久暫地不擇通僻往往為祠以禱頌有五賢四賢三賢之日然人皆名各一方也官不

必同地也時有先後不必相距僅六七載間也正如
伊傳周召代異世殊而君子道古稱先必連類及之
者誠以其人有聖賢之德豪杰之材非常身狷其
也矧地鍾海岱之靈類百里而近猶同堂比肩又官
於一土而後先相望無多歲月哉此宣人所以有四
賢之祠也四賢謂誰曰三韓于公也福山王公也平
原董公也寧海楊公也何為乎賢之也楊公來分守
口北道

今上康熙十九年歲在庚申以壬戌解組癸亥去去之

宣化縣志

卷之二十八 藝文志

聖

日香烟如霧雖三尺之童無不扳卧且為之堂顏伯
起碑題墮淚究莫解其所以然焉謂不賢而能之乎
惟賢至莫能解所以去久而思之益不忘夫非民德
自厚要由上之教化漸摩使之莫知其然而自不得
不然由今乃知九畝歌而稱頌周成之美甘棠詠而
益彰姬文之聖所從來遠矣楊公去宣之卒董公以
較士至恒言有之康公有威微獨闢鑿仁子仰為明
師即商賈百姓無不欽若神君夫墮宇崇奉其師此
自鄒魯洛閩家法何與商賈百姓事而口碑不已至

勸之郊原遠路此足徵我

皇上廣屬臣工而清慎勤之效首具於畿輔學臣若昆
其深且遠也夫吳為司徒固善於其職使不遇放勳
之主則勞來匪直輔翼振德之訓何以昭垂至今哉
吾儕小民沐浴聖德之澤敢忘帝臣之賢乎若夫王
公守璠於茲曾未踰歲即膺內召其去之日宣民扶
老携幼揮淚拜咽若赤子之免於懷及去之後復為
之肖像祠禱大書云民艱力達於中朝若大經綸由
大經術帝澤宏敷于上谷以真仁政暢真仁心時入

宣化縣志

卷之二十八 藝文志

聖

展禮較昔臨蒞之日更為虔恭亦究莫名其所由也
于公保釐畿輔其精誠體國具於貞度肅僚安民弭
盜諸大政非我直民所得知及奉
命來察荒屢濟減贖從禁送迎日用絲粒不以煩民民
亦不覺為飾似障邊者及見其回奏一疏敷災傷勝
李東陽之剴切遺官分賑拯凍餒有召信臣之才賢
咸舉手加額曰此
皇上特簡之撫臣也斯能上徹天聰俾得廣被蠲養各
安閭閻從來主聖則臣賢

聖天子之德不敢忘而賢卿貳之宣德遠情又可忘乎然則今茲之舉非徒表四賢正以聖一人將播之海內傳之後世咸推為昭代一盛事以咏江浙粵閩從來諸祠萃異代為一堂者果孰切近耶王公諱騰冷官大司農董公諱訥今官總漕使者于公諱成龍今回都察院事都統加一級吾儕祠之弗因其官以其人不然視長安猶在天上况長淮之渺渺乎楊公諱維喬今晦跡滄洲海澨間聞其草冠力耕之餘每以君恩未報自責云

宣化縣志 卷之二十八 藝文志 聖

公誅胡東甌文 處士 張喬年

天生哲人必錫之以昌明特達之材使家國得之而綱紀文風藉之而不振則羣推為當代之儀型一邦之文獻豈不聲實流天壤有光今曩哉然士之蔚為儒宗望隆遐邇者人固不乏適當吾世而難之當吾地而更難之求其起衰濟溺可以不待生而存不隨死而亡者蓋不易遭也緬觀我東甌胡公則有大異于人者以公為古之今人而未嘗有矜乎古之行以儔乎今也以公為今之古人而又未嘗有違乎今之

稱以貌乎古也然則公之存心制行固不可以古今時局限其為人而又安能超于可立可知之外以別著其為人乎感既生平事變之遭相與進退存亡以不失其經權常變之道而能抱其全以還之造化者公亦自成其人于人世間耳公舞象登壇即潛心性命之學以程朱為楷模凡六經子史天文地志道藏釋典罔不探討幽渺含咀英華故其論辯侃然若視天下無不可為之事之時者嗟夫世之士焉者若公則可矣年甫弱冠即掇巍科出令樂安惟以冰蘖自

宣化縣志 卷之二十八 藝文志 聖

矢却重賂化愚頑招流亡載美養廉聲大震于江表去之日邑人感泣攀轅為之建祠勒碑以志不忘嗟夫世之官焉者若公則可矣垂髫失恃擗踊哭泣即如成人之禮迨事繼慈李太君邑養備至菽水承歡即菜衣李表何讓乎嗟夫世之子焉者若公則可矣泊拂衣東山絕意仕進守先人之敝廬娛親課子閉門著書耳不聞戶外事其孝友旅退鄉人皆感而化之冠蓋往來慕高風而每欲一見不能也頻年著述汗牛充棟而續鎮誌尤其經濟之大者是書適成于

公卒之年人皆媿春秋之絕筆不其然乎且四十年

邱壑之靜存于親于友無不灑然光天白日之下而

煦然春風化雨之中不止于儉嗇之穰寒冬之續人

資人資以見德也嗟夫世之鄉大夫焉者若公則可

矣嗚呼公果何修而致此耶在一家則為孝子在一

邑則為循吏在一鄉則為長者在一代則為名儒公

果何修而致此耶蓋公于德無不全于學無不備其

取之也博故其用之也廣其積之也深故其發之也

裕天生哲人而錫之以昌明特達之材獨能抱其全

宣化縣志

卷之二十八

藝文志

異

以還之造化者舍公其誰與歸耶雖然公死矣而不

死者則公之文章德業常與日月而俱存今公冢君

幼膺鄉薦已分滇南之符諸君食餼膠庠立際風雲

之會其所以紹家學而裒大之者且未艾也則公之

聲實流天壤有光今曩寧有量哉公亦可以不死矣

奏疏

倪顯

奏為遵 諭陳言直指兵民疾苦以蘇積弊以固根

本事臣一介武弁荷蒙

皇上隆恩於順治九年題授今職日夕供事不敢少懈

伏讀

上諭許滿漢文武七品以上官直陳時事臣感激涕零

謹就兵民之利弊敬為我

皇上陳之一兵餉之積弊宜聚也臣籍隸宣鎮竊見鎮

兵左右八路各營兵丁約以萬計歲費餉銀以數萬

計夫邊防戰守不可無兵而養兵不可缺餉臣見今

日之營兵每每鳩形鵠面半菽不飽而日費

朝廷之餉額如故其弊安在在於司餉衙門之扣減與

將領各營官私領也 國家一兵帥有一兵之餉一

宣化縣志

卷之二十八

藝文志

異

日有一日之餉何故此營缺餉若干月彼營偏領若

若干月則措而不發正所以便於扣減也一遇支領司

領司餉衙門或三七對除或四六對除不等而營官

領餉到手直認為已有即稍散給兵丁亦不知所給

之餉屬何年月窮兵枵腹以需一旦得此涓滴即可

積命誰敢向本管官問多寡乎一鎮如此他鎮可知

臣請

皇上嚴飭督撫轉飭司餉并營將各官凡遇餉銀解到

之日即大張榜示分給各營明示現餉若干兩給發

若干月准給某營兵丁嚴禁不許分毫那借并剋減
私扣仍取實領實散甘結俾兵丁曉知餉數月分便
得實銀宿飽藉以查戰守之用無揭竿之慮矣伏候

上裁

一民蠶之積弊宜清也 臣目擊時艱民不聊生而 臣

鄉之最苦者莫甚於各衙門之衙蠹凡衙門設立員

役自足供一衙門之用嚴禁朋克之令不啻三五申

飭矣而牢奸巨猾每每盤踞衙門凡遇一差輒呼朋

引類如風雨之驟來素詐金錢如狼虎之無厭民未

宣化縣志

卷之二十八 藝文志

畢

有不傾家蕩產者甚而奸輩事敗尋訪又鑽入別衙

門以為護身之符復肆瀆民之術若每一衙門朋役

動以一二百名計此輩既無工食又無常例何所事

而為之無非虛張聲勢以小民為魚肉即以一處推

之各處可知 臣請

皇上嚴勅各督撫清稽各衙門員役悉照原額定數不

許朋充仍查撲實無過犯之民里甲保結方肯投應

庶奸宄不叢而民生甦矣伏候

上裁

以上二款係 臣居鄉時素所聞見者今蒙

皇上廣開言路冒昧披瀝如果 臣言可採伏乞

乾斷嚴飭施行 臣無任激切惶悚待

命之至為此具本謹具奏

聞

奉

旨該部議奏

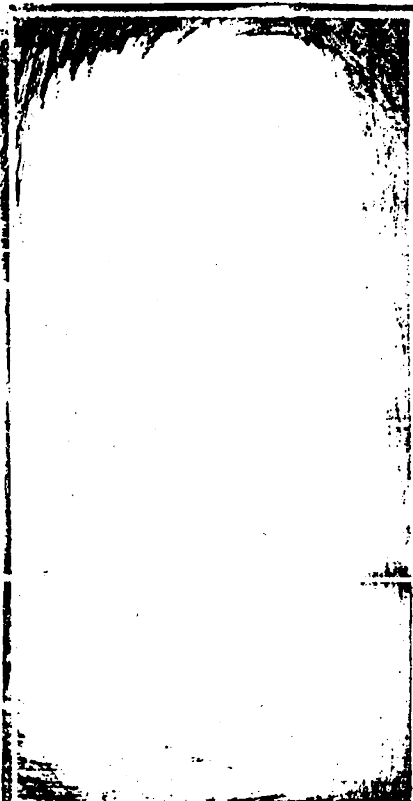
吏兵二部議覆嚴飭奉

旨依議嚴飭行

宣化縣志

卷之二十八 藝文志

畢



宣化縣志卷之二十九

藝文志

記

重修龍王堂及建樂樓碑記

文學 李長年 嘉興人

宣府鎮城之北有所為龍王堂其異隅為眺遠臺下設僉寮四室香積居左宜之人以遊以游于是焉憩其從來舊矣頃者守備整而新之有加于昔復建樓于其南名之曰樂樓胡君東隱為子言土人之有事于農者以季夏之六日集倡優祀龍神于此其事多

宣化縣志

卷之二十九

藝文志

一

不近古子為文以正之嗟乎禮樂之由世運為升降也豈不信哉三代盛時上自廟邱方澤社稷山川之祀下至田歌野賽闔閭巷疇莫不有一定之則暨乎世衰道微風移俗改于是有不古不今之禮不風不雅之樂雜然橫出皆其故事而不變此亦學古者之議也龍之祀不著于載籍然吾聞物有功德于民者皆可祀意者龍之奠安海若出為霖雨其足以歆俎豆居廣廈而無作乎吾獨有異乎所為樂樓者夫報賽之禮莫詳于詩古者祈谷以孟春而報賽必于秋

冬今以季夏則非其時也且其所祀者方社田祖共

工氏之子勾龍能平水土故祀以為社今如世俗之

所為龍王則非其神也周禮祈年吹幽雅擊土鼓以

樂田峻詩亦曰琴瑟擊鼓蓋以主伯亞旅之屬歌載

芟良耜豐年甫田之章而今且梨園代之又其時佛

未入中園安所得附麗焉而今且以緇流主之則非

其人并非其地也然則樓之義何所昉而樓之建又

何所取耶宜胡君之不自為文而以屬子也吾嘗出

郭門過眺遠臺覽上谷之山川形勢徘徊不能去茲

宣化縣志

卷之二十九

藝文志

二

樓之制較臺為卑踵而登焉亦可以盡邊庭之勝羈人驩客臨風憑弔亦庶幾怡神適志之一助樓之可尚或在此而不在彼也事之不合于古者奚止一樓奚止一報賽昔子貢欲去告朔之餼羊孔子猶欲存羊以奠禮之復安知不有學古之士因斯樓也慨然思三代之制焉則返倡優為耒耜以塲圃為亭臺季夏之易而秋冬龍之易而方社田祖是將有待矣則所藉于茲樓者又豈小哉雖然世之躋高位足以移風而易俗者其視古禮若胡越人不相識也子與胡

君有志于古而徒咨嗟歎息于空言又况于後之人乎予之所伺固謂夫有其志而又操移風易俗之權者也寺僧某某人並有功釐建者是宜書

學田記

督學洪馬 李應廌

關外地瘠士貧誦習悉補於力而前衛為宣鎮附郭每三歲秋試宣屬額錄二名前衛獲雋者恒多蓋其文風較諸州衛差勝云歲已巳余三核士茲土矣閱其莠多粗疎不文問之則歲比不登益艱於學此地舊有義學一區而苦無田諸生不能枵腹授生徒也

宣化縣志

卷之二十九

藝文志

三

余為惻然乃諭本衛教授左印喆選青年力學者充義學師得一生曰石巖因物足田足以餬八口者閱數月得水田十六畝三分為值白金四十四兩二錢五分捐俸如數購焉以授石巖代諸受業者為束修之資且與教授約嗣後義學師有缺即選文行優者為代即業此田以餬口如石生爰鐫之石期以鼓舞諸生向學之意傳之永久并以告後之同志者

陽邵公棠蔭記

康熙二十九年三月

進士胡以温

康熙己巳歲又大旱宣民阻饑幸賴

皇上預加軫念諭戶部差賢能司官同直隸撫臣通行察勘用是宣鎮被災之形始得以 上聞幸蒙

聖諭勸各處積谷以正供錢糧賑濟猶慮有未周又發

內帑三十萬以補遺漏 恩至沃也而仰體 德意

實為直隸撫臣遴遣多官出關分賑其賑在城隍屬

為清苑令邵公至即開倉領待哺之眾望

關謝恩按籍唱籌給無停器口無冒濫時方祁寒公水

髭塵面日昃不遑暇食至老齋經行道路則為之設

飲湯煖具達於倉前風霜匝片來每戴星出入而所

宣化縣志

卷之二十九

藝文志

四

寓僧房布被半肩無他長物聞有以輕裘餉者亦好賢如緇衣耳公惻然謝曰磬罄石體無完衣

主上為之宵旰予獨何心輕暖哉人見公為饑民禦寒

計厥費孔艱聞有小補之者則悉付鄉耆經理未嘗

假手胥役宣倉貯有京運漕糶公恐年久味變不可

食乃先飯而後散之且與發未幾值大雨雪公慮窮

人或凍餓以死則為文祈晴于城隍之神雪果立霽

冬日可親迨使宣事竣行次榆林正值賢撫于公補

賑又獨留公以賑延慶衛凡此足見公平日誠信有

以乎神人而其介有守其才有為非第於宣府為然矣吾儕感使君之能救

皇澤稱任使無力可報德爰藉道院精舍置有龕位又募得片石以誌弗忘如右公諱嗣堯山西猗氏人庚戌進士

論

財論

兵部員外尹耕

嘗謂國家財用生殖有定數支用有定方會計有定程區畫有定制正統之末豐豫之時度支經費往往

宣化縣志

卷之二十九

藝文志

五

告雖英朝北征供給大困景泰多事費額四增內則十二營之團操賞賚踰制外則八城堡之經理工役不費易涿真保屯營皆有行糧河南山東班軍舉給花布而亦賦不加增民不重困且且取給如出故常其實何也財用之在天下如水之行地省于此則溢于彼足乎近則歉乎遠一定之理也正統之時以亨大為良嗣以甲兵為不急戚里之驕恣踰制中官之奢侈相高都城宅第競新西山寺宇日盛通弊漏卮其所以為度支病者蓋非一端也故雖承平其不繼

宜也景泰多事則國勢危疑人心恟懼四方之貢賦

咸領于度支籍沒之繼微悉入于軍賞上下兢憂于

乏匱內外闕回于節省計日足月積贏補虧其所以

為度支利者亦非一端也故雖多事其不匱亦宜也

於戲財用無豐歉其要在於為政之約侈為政無約

侈其機原于人心之警懈職度支者不自得師邪

疏

務疏

侍講

劉定之

其一曰戰陣臣親昨者之戰但知閉營堅壁假托持

宣化縣志

卷之二十九

藝文志

六

重之說而不能出奇盡力以收全勝之功甚至前隊敗而後隊不救左哨出而右哨不隨宜倣宋吳玠吳玠兄弟三疊陣前一行兩楯騰伏以伺其陣最低第二行矛戟大鎗立地以俟其陣稍高後一行奇兵弓矢其陣最高敵至迭為救護庶幾不至狼狽矣寇騎之來奔騰蕩突必資刀以制之昔郭子儀破安祿山用八千人執刀而進韓世忠破拐子馬用五百人執長斧而前由此言之刀斧揮霍便捷優于火鎗之遲緩趨起也二曰守禦昨者紫荆居庸等關既不能禦

敵之入又不能退敵之出敵騎之來若長風之驅雲霧蓋兵士寡弱亭障缺敗蹊隧疎漏非朝夕之積也今宜增兵士繕亭障塞蹊隧因其陸地則縱橫掘塹名為地網因其水泉則遇處停蓄號曰水櫃或多植榆柳以制奔突或多招土兵以助官軍此皆古所嘗為必有效驗今武夫悍將多云古不可泥者妄也三曰通使夫通使之職欲其內蘊忠信之心外有言語之才昔漢文帝遣陸賈使南越用能屈趙陀之膝以去僭號宋仁宗遣富弼使契丹用能結華夸之盟以

宣化縣志 卷之二十九 藝文志 七

息戰爭奈何往時專以譁人駟夫為之哉今後宜用文武賢臣備正使之選令通敏者為之介紹錄其動靜言語纖息必載庶幾不致招釁起戎矣四曰降服往年降服皆留居京師授以官職給以全俸夫非我族類其心必異故昨者或衝破關塞奔歸故土或乘伺機便寇掠旬今宜遷徙其眾遠居南土禁其種落不許自相婚媾變其衣服不許仍遵其俗或以為兵使與中國之兵部伍相錯或以為民使與中國之民里甲相雜况又省全俸之給減清曉之勞乎五曰

練兵夫農夫出粟紅女出布輸納公上多以養兵也兵之受粟受布而練習武藝者所以衛國也向者兵士納月錢公私室于是手不習攻伐擊刺之法足不習坐作進退之宜目不識旗幟之色耳不聞金鼓之節但見其或負販貨財以為商或習學技藝以為工而工商之所得僅足以補月錢之費蓋民之膏血軍之氣力皆變而為金銀以惠奸宄一旦驅以臨敵如驅牛羊以當狼虎幾何矣不敗誠今宜痛革月錢之弊作新操練之政將帥有躓舊弊者誅之息新政者

宣化縣志 卷之二十九 藝文志 八

降之士卒練習既久拔其勇銳汰其罷軟擅賞有厚薄費用可節縮矣六曰養民夫養兵之費既出於民而兵敗之禍民當其慘民其何辜乎今之守令宜於常年考覈之所黜落三年朝覲之所彈糾者悉加嚴法而不寬縱至如大臣舉官有犯贓私者必連及舉主夫恩下口行貪吏則貪者寡罰不貸於舉主則舉者慎民豈不蒙其惠乎民安本固此保國永世之良圖也七曰選將夫天之生將材豈專在於將門乎販糴屠狗之夫而漢賴以王被褐捫虱之人而秦賴以

伯至於趙括者豈非趙奢之子然殞首於白起王離者豈非王翦之孫然繫頸於項羽今國家用將有出於將門之中者若石亨楊洪是也有出於將門之外者若于謙楊善是也然將能知將宜令各舉所知不拘門第或以勇力或以計策其餘公卿侍從亦令各舉所知量能而任之庶乎將材由此而充矣八曰賞罰夫有兵將而無賞罰猶無兵將也將非賞罰無以將兵君非賞罰無以將將非賞罰無以將兵禦敵未聞其摧陷敵兵迎回轡輅但迭為勝負不足賞也今

宣化縣志

卷之二十九 藝文志

九

亨自伯陞侯無功而賞豈不怠忠臣義士之心乎昔漢之圖恢復也所恃者葛亮宋之圖恢復也所恃者張浚其人皆忠義素著功業久立及至銜亭之戰不勝而亮降丞相之號符離之役未捷而浚解都督之職待收後效乃復前官今宜使亨等但居舊職勿受新陞以去厥耻之節以作敵愾之氣他日勲名盛而爵賞加亦何晚乎至於昨日有臨陣而死者有棄關而生者亦宜急加賞罰庶幾恩及卑賤而人知所效法行貴近而人知所戒矣

訓練

明總督 方逢時

臣聞訓練者治兵之良法也不可一日忘所事事時當無虞尤易廢弛其在今日訓練雖勤實效未臻則臣等之責也謹推本言之國初三鎮之兵隸之衛所統以行都司都司之官即主帥也衛所之官即偏裨也惟有重大征討則特命大將掛印總兵而行事寧則將歸京師兵還衛所將無專擅兵無久勞法莫善焉洪永以後邊患日熾將之設遂成常員鎮守權重都統勢輕衛所精銳悉從抽選於是正奇參守之

宣化縣志

卷之二十九 藝文志

十

官設而衛所徒存老家之名此邊兵之初變所由以始弱也歷年既久大將不得其人訓練無法紀律舛謬士馬之死亡者不補逃散者不復戶籍徒存部曲虛耗間有健將急治目前或扣官餉或捐私財召募勇壯其多者千人少者數百名為家丁名為營軍鮮堪戰事此邊兵之再變所由以遂弱也今建白之臣建為合營操練之舉臣愚以為此正奇參守之兵又將變而邊兵將益弱矣夫合營可暫而不可久可施之於新集召募之衆未可施之邊方鎮守之兵且

非能盡一鎮而合之也蓋正兵馬步幾五千餘奇兵馬步幾四千餘參遊馬步各三千餘正奇三鎮各一參將則大同八宣府七山西六遊擊則大同四宣府三山西一鎮之邊西起偏老中紆雲谷北極獨石東連薊鎮延袤幾三千餘里各營之兵畫地分守遠近不同有四五百里者有二三百里者近者亦六七十里每遇合營除存留防守之外亦惟抽取壯健千百餘人操弓矢赴期會戰令受約束而已况百里合營數往數反人痛馬瘡飲食安宿靡所資託將無

宣化縣志

卷之二十九 藝文志

十一

久駐之士士有速散之心勞逸形殊榮辱情異如是而望士馬之精強非臣所能知也為今之計衛所之制不可復矣正奇參遊法制俱存惟在加之意耳夫一營之士不能皆強也亦不皆弱也分配得宜教習有方其心既一其力自齊臣愚以為營不必合也惟當慎擇其可參遊之官授以專責各將本營之兵不論軍卒家丁通行較其勇怯老弱疾病悉行汰革逃亡空缺悉行選補量才器使弓矢戈戟劍楯火砲挺刃因能而授擇其善者為之師以教之日省而月試

將領之賢能者則久其任雖至十年可也崇其秩雖至督帥可也如是則將有定志士有定伍器有定習而軍威可振矣其稽察試驗則屬之守巡兵備就近舉行總之鎮之臣於春秋之隙間調通閱以耀武揚威視之而行賞罰如此訓練舉矣

增疏萬歷乙卯科

明舉人 胡守訓

伏惟自銜求售昔人耻之臣等寧忍搖尾乞憐無謀進取自干罪戾哉惟是聖朝不興武功不競軍國大計亦臣等桑梓之隱憂也敢不避斧鉞為我皇上陳

宣化縣志

卷之二十九 藝文志

十一

之國家定鼎燕京左遼右宜儼然兩重鎮焉故遼額之增固人心也遼宜周宜亦在所宜固遼額之增惜人才也遼有才而宜更不得謝無才曩自萬歷已酉科上俞撫按之請許其五額于遼豈真謂一二鹿鳴之士已足于十萬師哉正以見朝廷軫念邊防俾人心興起其勇悍之習作忠作孝恒必由之慮至深遠也臣等伏思先臣尚書黃鑑倪岳之經濟都御史王質熊偉之勳猷翰林倪謙孫世芳之文章給事中張廷槐王致祥之封駁御史李經張濂之濬清耶

中張鍾岳倫之直諫進士胡載道張紹魁之魁元宜

士亦何負于科名又何後于遠哉竊聞禮部會試常

以南北中卷為別宜即不望額增于遠謂宜另編字

號俾臣等得同八府之士庶戰于新增六名之中是

亦宜遼一視之仁也或以為分卷之請不能得之於

江北乃欲得之塞北萬無真者不知臣等固自有說

也陛下試下京兆尹問之關中執事員役取之關外

乎抑取之八府乎即請公公矢慎萬無他私然臣

等銖卷每入于四千名之後歷科以來偶稱相同此

宣化縣志 卷之二十九 藝文志 七

臣等所不解之惑也蓋本鎮十三學嘉靖以前隸之

北直提學御史邊腹不、之獲舉者多隆慶以後

隸之宜大巡按御史邊腹既分士之獲舉者甚少此

則科場之大可異者徒使慷慨悲歌之士槁項黃馘

靡能一、金馬門誰能鬱鬱久居此哉伏乞勅下禮

部比照遠東等例每科得中式五名毋以肩臂兩地

過分輕重之形毋以薪樵一途互開廣狹之路俾朔

漠子矜不終老岩穴得如諸先臣效用于園家而相

望于後先風俗益醇綢繆益固臣等歌咏太平共祝

聖壽于無疆矣

看語

闕丈城內房基看語

看得宜、稱重鎮在城紳士兵民不止數億人所

住房屋、止數億間衛巷填滿連接城限從無額徵

錢糧繼而年久朽敝易頽難理且淫雨地震饑饉頻

仍既無起蓋之大力思得開濶之小利漸次調彫成

哇或種烟麥或種菜蔬、餬口之資驚作僦居之

費在城數千家戶口數萬人性命俱賴此生活也若

宣化縣志 卷之二十九 藝文志 七

失此則宣府不特甚無居人且即野有餓莩矣衝庄

頭得隴望蜀利其膏沃、大並有之遂以奸民益種

具告蒙戶部檄本道會察于本月二十四日本道隨

帶地方廳衛公同庸郎中穆員外以及庄頭等遍履

大小街、神廟祠壇無處不到丈出二十五頃有零

踏看其、處所多在民居斷續之間趨空栽種其

墻垣有尚存者有半缺者亦有墻垣無存基址微茫

者或係舊壘或係新開雖濶狹蹟異遠近年殊其為

房基則一也房基有無徵收錢糧天下通例本道不

得周知但宜府房基不納錢糧是其從來匪自今日何云奸民顯在城中萬耳萬目何云隱匿祖遺房基非同稅私何云益種部員亦所曉然詞文亦俱從實且捧讀者亦包衣官員護庇庄頭之

旨其情早矣 蔭鑿士民只宜靜聽奈當察報之際彼視爲死生之關男婦老幼家陳巷哭蜂擁道署具狀稟稱非憲臺不能出彼湯火本道以未奉

明旨從何措辭不敢冒昧 言出牌諭止斷不遵從本

道出則攔馬入則喊門匍匐喧啼實難觀聽竊以此

宣化縣志 卷之二十九 藝文志 五

情狀亦應 上聞

引

修八蜡廟引

邑令 陳 坦

自古立國必重乎農而重農必重乎司農之神神妥則農之報不爽此伊耆氏設八蜡以厚農也顧報賽之典神行專司乃大蜡有八一先帝二司甯三先農四郵表噉五猫虎六防七水庸八昆蟲索嬰紛紛亦疑於瑣瑣則濫攷之於古敦行是祭者皮弁素服禮用大割樂用六變鄭重行之而不虞其濫者凡以

農事爲重耳我

皇上御極以來留心民瘼軫恤三農比年稍雨查蝗乖爲令甲凡有關農功之神守土官吏必躬享祀以答宸慈爾分地宜荒服將土八蜡之重亦與上壤無異蓋地有肥而農不以穉薄輕神亦不以穉薄廢也宜邑蜡廟之立自有明成化始今踵其舊殆百有餘年矣予以乙酉夏來令茲邑秋未大獲今年春亢陽如故余隨詣上臺散齋致 禱夫境內諸神也數日如茲而誠敬之心轉爲焦勞抑鬱之思正有慨夫靡

宣化縣志 卷之二十九 藝文志 六

神弗舉莫可如何矣頃蜡廟僧者適以募修蜡廟請並以序爲之請焉夫蜡 行于歲終而蜡之神關于歲功藉曰蜡廟可以不修豈歲功可以弗重乎哉重歲功因以修蜡廟是固古昔重農之遺而亦今日聖天子垂 農務之意矧當雨暘愆期民生告瘁之日而廟貌就頽不祀忽諸于守土之職何予因踴躍執筆繪繪農事以爲合邑之勤于農者告並爲資夫農身夫農者告農之待命於蜡也急而獨可恕意乎靡乎衆擎斯舉跋余望之矣

修火神廟引

陳坦

宣邑舊無火神廟明崇禎十七年有僧正興將大佛殿之前三楹改塑火神像其餘佛殿及東西廡俱仍厥舊宣邑之火神廟自茲始開今六十五年廟貌漸頽像亦屋蒙去冬今春焚燬兩示微警而禳祀維虔神用弗吐廬舍遂以無虞某等戴此福庇意欲重新爰募諸善信而丐余以引之余維國家羣祀之典三辰而外即重五行如社山川風雲雷雨蜡厲旗纛諸神皆以分司木金水土者而火神獨或無祀缺典孰甚焉且先王制禮原以功德及民祭享無愆以云報也百姓日用所資非不生其功最大故古聖以火正有功封為上公或配食于大火之心星或配食于鶉火之柳星典云鉅矣矧宣邑屬在邊疆烟火萬冢造者中明之赫奕人猶戴而弗知今者兩警如彼而禳即獲福如此則神之精靈儼然在矣使神所棲止廟貌不輝且復瓊華缺如凡厥士民于食功戴德之義能無歉然弗安乎哉抑予聞明時都知監韓諱政者專掌神鏡凡火器火藥却敵有功因子神鎗潭

宣化縣志

卷之二十九 藝文志

七

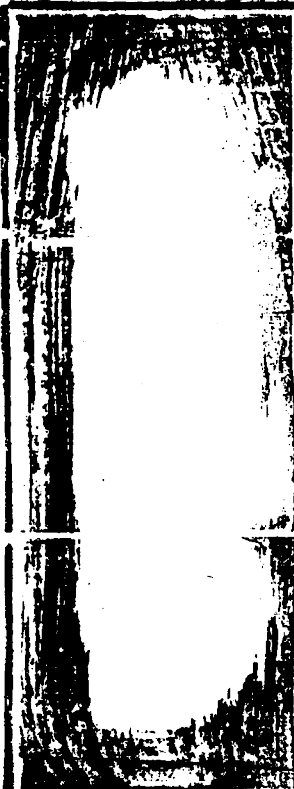
建廟以祀天威神機火雷無敵大將軍歲時祭獻以答神佑今者

聖天子中外一家烽燧無警即火藥火器咸措弗用則火之潛銷外患默祐我師武臣者功更難忘如欲繕修茲廟豈獨士若民宜勸其揮耶傳曰有其誠則有其神無其誠則無其神誠于何展亦展于輪負之宮宇展于莊嚴之神像而已同志君子如不以余言為謬則踴躍共成異日所憑依既妥厥靈將見降祥錫祉捍患禦災其為功于宣者尤未可量也

宣化縣志

卷之二十九 藝文志

七



宣化縣志卷之三十

藝文志

示

觀示

口北道 楊維喬

蓋聞玉京山輝不韜光于和氏珠藏淵藪每煥采於
鯨人諸生能舒黃絹之詞本道雅有緇衣之好矧茲
口北雖屬邊隅然數百年來多士踵興英才間起正
今日作養時也除檄行 州衛並教官就試本邑
以省奔走之勞仍將各生卷解道親閱以定優劣之

宣化縣志 卷之三十 藝文志

一

序外其宣府前衛學諸生本道親行考試為此示諭
前衛儒學教官並諸生 本道擬於三月初七日
觀風至期諸生齊集貢院聽候本道親臨考試務盡
一日之長用結三秋之契將本道秉育深懷作養至
意庶幾一相須以有成也各圖實益毋襲虛文

季考示

邑令 陳 坦 魏 黃

照得士居四民之首文為多士之華故徵行尤必論
文而程材本于課士本縣蒞任伊始屬意斯文幾欲
聚首英流共為講貫祇以折腰孔道徒事奔馳兼之

勘輒捕蝗外無暇曷催科課決內若紛麻用是鞅掌

風塵竟爾久耽文教頃者紅杏枝頭吐春華之絢爛

碧桃樹下鋪繡宇之芬芳大塊皆是文章正好筆歌

墨舞墨香試其機軸當有宋麗班香且歲賦匪遙芸

窓自當一碼而鄉闈有待宿學亦宜切磋本縣業即

久荒愧難添鑑而更豈終俗癖欲觀摩除牒移儒學

外台行晚諭為此示仰合邑生童知悉擇於本月某

日黎明齊至書院考試 捐貲設饌敢云適館以

授餐局試括題猶之入學而鼓篋爾多士生茲上谷

產重名邦襟清水而帶洋河舞虹蕩影擁鰲頭而負

天德雲霧騰空左挾龍 紹夔龍之侶石函靈嶺

應饒冰雪之姿或籍列文庫宜展翠書之風養或才

嫻武藝當揮翰畧之新篇或國學儲英同來敲金戛

玉或儒童利穎咸為倒峽翻瀾或躬負長才經書擅

多篇之勝或兼人妙手詩歌寫韻士之懷行以目前

之品題定其甲乙佇看生平之器識卜爾飛鳴是用

引領觀光毋得臨期却步特示

箴

宣化縣志 卷之三十 藝文志

二

五箴

法星懸象大微之旁責專獻晉職在激揚埋輪都亭
 漢稱張綱攬轡澄清亦有范滂於維二公克端素履
 風聲所及如草斯靡啓我後人太山仰止繫欲効之
 厥功曷以毋明於責人毋昏於怨已毋自剛愎而欲
 人已從毋自媚嫉而欲人已容毋自爲詐而責人之
 直毋自多忿而禁人之愚毋作威而作福毋揚已而
 露才毋巧避嫌疑以免 苟毋承望風旨而徼福
 於回毋以遠在沙漠而忘廟堂之憂毋以職專彈刺
 而忽同舟之謀大公順應恍若虛舟肅綱振紀凜然
 霜秋正已飭物孰敢不 此匪懈聖哲同流

宣化縣志

卷之三十

藝文志

三

宣化縣志

卷之三十

藝文志

四

牌

簡代爲押印牌

楊維喬

爲嚴飭事照得賣妻鬻子原窮民不得已之事而撫
 綏安全責在司牧不意該衛身爲民牧竟將所屬赤
 子任其鬻賣而且代爲押印烏符甚爲民父母也至

隔省隔屬與已何妨賣印一類所值幾何而甘心牛馬可耻孰甚焉合行嚴飭為此聚仰萬全右衛守備慢不遵依稟贖如故見今大都發審賣身事案多該行印信其口頭文契者乃向該衛賄買改年換月情弊多端不但有玷官守且有傷陰陽也軍政在即賢否隨之仰立將經承解究如有護庇定行揭參慎之慎之

銘

燕然山銘

班固

宣化縣志

卷之三十 藝文志

五

鏢王師兮征荒裔勦凶虐兮登海外復其邈兮巨地界封神邱兮建隆碣巖 兮振萬世

詩

燕然山別李陵

蘇武

黃鶴一毛別千里顧徘徊塞馬失其羣思心常依依
請為游子吟冷冷一何悲絲竹屬清聲慷慨有餘哀
長歌正激烈中心愴以推欲展清商曲念子不得歸
俛仰內傷心淚下不可揮願為雙黃鶴送子俱遠飛

蘇武

李陵

夏時不再至離別在須臾屏營衢路側執手野踟躕
仰視浮雲馳奄忽互相踰風波一失所各在天一隅
携手上江梁遊子暮何之徘徊蹊路側恨恨不能辭
行人難久留各言長相思安知非日月弦望自有時
努力崇明德皓首以為期

李陵

唐劉灣

宣化縣志

卷之三十 藝文志

六

李陵不愛眾心存歸漢關尚欲報國恩不為蒙古屈
身辱家已無長居虎狼 天無春風朔地多積雪
窮陰愁殺人况與武別發聲天地哀執手肺腸絕
白日為我愁陰雲為我結生為漢宮臣死為北地骨
萬里長門思終身望南月

元許有壬

李陵臺下駐分臺紅藥金逆偏地開斜日一鞭三十
里北山飛雨逐人來

雞山

金學士趙秉文

燻蒸山腹晴猶濕河帶冰漸暖漸流獨立雞鳴

五重多處是皇州

雞山絕頂永安寺

趙秉文

碧霄洋河衣帶敷洪濤閭浮國土迷華

藏切利了官跨妙高塵世幾回擒走鹿長竿何代釣

雷驚打頭半世蓮茅底九萬天風散鬱陶

宣化縣志

卷之三十

藝文志

七

鳴道中

明楊士奇

北斗初高月未斜五更

淨塵沙道邊叢繞爐香

立立多是耆人候

山出望雞鳴勢入雲下檐仄徑棘紛紛不辭涉險觀遺

碑石重是

春僧房猶見菊花新特平雨冠巡邊

寒宜鎮回鑾只二旬

途中感興

明楊溥

策馬登崇岡一覽洞八荒山川限南北華髮有心疆

猶與商周盛以德為保障秦隋勤遠畧禍亂起

昔年鑄寶劍自許千將同登山可刺虎入水可屠龍

加來方一試縮手避前鋒撫劍三歎息百鍊無全功

乃逐東行人迂途良苦辛世事恒類此感歎徒勞神

雞晴嵐

明俞憲

晏璧

保安東鎮號雞鳴

色峯嶄蒼筍插秋冥蛟

氣清山後八軍歌永樂將軍武振山靈

宣化縣志

卷之三十

藝文志

八

鳴晚月

明熊偉

一棹難唱月東生塞上

落落空蒙嵐氣持孤

似新欲待朝陽穿蝶履閑凭絕頂望瑤京

雲嶺

雨遠為年荒徧作霖觸起自能呈瑞彩

頂陰莫隨浮鷲遮紅日不見長安思不藥

德山曉霞

熊偉

熊偉

疊陣層巒碧倚天
晚來霞彩爛盈巔
肯隨江上飛
惟屬山中不老仙
臺迥好乘明月嘯
巖深堪共白雲眠
幽棲有地違心事
恨殺紅塵未了緣

金記室 劉迎

馬虺隤兮殼觶山
行紫紆車輻輳路傍
指點是官人
老矣一翁雙鬢禿
汝牛幸可耕汝馬幸
可騎有此可載琴書
歸胡為弄琴道白髮
牢騷被人笑

沙漫漫草班班
南山北對看我行
乃在山之間
行人仰不見飛鳥
樹木足知邊塞少
沙漫漫草班班

宣化縣志

卷之三十一

藝文志

九

我行欲赴西風還
僕夫汝莫恣衣單
我但着衣思汝寒

元 李溥光

撼撼寒沙沒馬蹄
蕭蕭角吹襲征衣
水堅石齒河聲斷
霜落川芽樹影稀
長路幾經行客老
青山長見白雲歸
行緣債卓箇茅菴
冷翠微

楊溥

車告脫輻後車屢却
行幸爾出險途丞徒
發懽聲為語推車人
戒慎宜有恒不見平
陸上覆轍方橫

其二

門寂無聲回首歌
載道不歷跋涉難
誰知在家好易使
飲濁流饑馬嚼枯
草翹首望征鴻
高飛白雲表

馬吉士 王崇獻

嶺頭香野雲屯有
客經過日欲昏
山勢如屏愁礙馬
人家依堡自成村
行囊冷落風霜早
往事荒涼父老存
雪耻百三話不
原應起五侯論

燕山

王崇獻

閱武場中倚將壇
燕然山勢老龍盤
寶君出塞三千

宣化縣志

卷之三十一

藝文志

十

里寄語英雄仔細看

熊偉

燕然形勝枕長三
萬人臂萬疊寒日
射平瀾翻石壁雲
蒸靈雨濕螺鬟
猿愁陡絕牽蘿上
人愛空濛拄笏看
老我憂時思漢將
憑誰勒石照噴噴

孫世芳

空嶽山色對孤城
那有黃羊浪得名
但取蒸雲蘇萬勿
無須叱石驗初平

東郊尋友踏春青
遙望山巔雨細零
牧子荷蓑小訊

慶為古旗旆蓋驂停

年來山下舞商羊每過田疇稔白傷荆石可移山頂

七千人為我且鞭陽

雲向碧空春農忻得雨濛濛常將政理孚元

幸不羨當年晉曠聰

河臘口洗馬

熊偉

十萬疆場汗血駒全驅不腦冷寒漪敲冰尚憶交河

夜蹴浪真疑渥水滑百戰腥塵齊蕩滌五花雲錦盡

淋漓千金駿骨無人識惟許郊苜蓿知

宣化縣志

卷之三十 藝文志

十一

水舖

楊士奇

屯堡人家住不多屯邊屈曲是洋河寒裳濡足不計

數河上行人愁奈江

兼湯

孫世芳

神斧何年琢山根暖噴泉派疑炎帝淪溜訝火龍穿

波涵旭蒸蒸氣幕煌翻流如乳滑洩濺似珠圓

身堪類宜滌痾沉幾賴捐紅塵千慮潔白畫一心禪

交潔華沉月澄清碧醮天歸來強卧榻魂夢遶潺湲

東臺舍東園劉中丞

熊偉

眼底秦城限北荒樓臺鼎建為周防臺高睥睨星

樓迥炎蒸生雪霜仗鉞兩年風颺颺峴烽萬里草

芒芒自今夕暇延賓從覽勝籌邊共激昂

強景多和恨賞心違九天麗日憑欄近三伏炎威入

庫微幾見令公開壯蹟不勝吟望思依依

肩肱傑閣起口口地陵入望高保障正須千載

固經營何憚一時勞羣彘窟伏開刁斗上相登臨駐

節旄老在江湖驚壯氣欲拚力縱詩豪

宣化縣志

卷之三十 藝文志

十二

老來非是厭登臺臺上愁將老眼開白骨戰場堪墮

淚黃花時節忍啣盃烽烟蒼莽諸彘近草木蕭條萬

壑哀更苦浮雲插不天南何處望蓬萊

李宗樞

璿臺曠曠倚丹暉繡斧遙登歷翠微百道晴流浮野

峯千巖宿霧上春衣雲間宮樹天猶隔花外邊塵晝

不孔更羨令公開壯蹟朔方長此具瞻依

戴時宗

百尺高臺雄塞北登臨萬里思寥寥威誇夸夏之開

劍勢瞰山河影動搖何地請纓漸弱冠殊方位以憶
超峯頭日暮催歸興遙見丹霞上紫霄

戴金

將星占何用問招搖三軍閱實無輕舉五爵懸名待
吳超好是北門真鎖鑰手扶日轂上層霄
萬家煙火動時輝鎮鎮臺近紫微最喜轅門稀露
布快瞻楓陛坐垂衣隊開比伍翔雲陣勢捷搏空鷲
鳥飛浪笑棘門兒戲輩等閑令更誰依

宣化縣志

卷之三十一

藝文志

十三

毛鵬

八月邊城禾黍收登臺遙望思悠悠河流曲瀉蒼羸
鳥山勢還依鐘鼓樓
羽書頻送急關南人馬併
防秋千年鎖鑰今猶在綬帶時尋黃石籌

府城樓夜坐

明龍門岳 可陝西人

吹角邊城片月明夜深酒罷坐談兵星河倒映清池

傳古堞聲瀚海未標劍柱動風塵空老玉

關情於今塞上多烽火碌碌無緣效請纓

宣忠義祠拜姚全我先生主

曹天錫 昌平人

稟稟英魂鑒在茲青衫舊采芹時能興士節無如

子得共祠裡更許誰數字春秋終古恨一縷風雨畢

生怡衡茅飄有文丞相當日山知不知

宣化縣志

卷之三十一

藝文志

十四

鳴道中

明總督 方逢時

雞鳴山色鬱嵯峨山下河流湧雪波奔走十年成皓

首山靈應解笑廉頗

秋廿一日試宣士幕中懷延劉延政以詩來政倚几

和之

明巡撫 梁雲構

颺輕寒誰道霜生鏡關防鸞盈前捺柱

更尊鱸何處憶張翰丹鉛筆上春知盡波渤籠中貯

自寬鳴鏑已束約送欸羽書旋作試文看

秋深徼外偃妖虹匣裏清霜劍影雄蟲篆此中

技驚車何處定行踪揀金風貯雙南價相馬能
北名以爾晚成應大器一番延埴敢居功

校士上谷

明巡按 秦廷奏

碧天空桃李春陰綻 叢菁野無勞問牝

壯毅中早喜得英雄龍沙塵靜千門口鯤海中垂萬

里風我自傳經揚聖化時人莫漫避桓驄試題凡三小學居一

運功

星文烏奕瑞光浮五色紛披恣較管內外兩簾懸北

斗江河一柱障東流起衰自若社綸事持斧肯同汗

宣化縣志

卷之三十 藝文志

五

漫遊願與斯文留大雅乘鉛艾浪說瀛洲

演武場與孫治齊大將軍觀射 明巡撫 薛三才

林光山色散郊坰射圃一開入眼青慣是中雕稱絕

技果然驚雁陸修翎旄頭久暗荒沙月箕尾常懸漢

將星怪道戟門多整暇君家兵法有傳經

玉捲簾山迥坐開屏蓋穿楊葉睥睨堪豁試拂圍花血

尚屢留取燕然一片石當磨楯鼻為君銘

巡察至上谷書院

皇清刑部尚書 魏象樞

當年文戰此關中桃李栽培荷兩公巡按御史 驚
管取言空冀北鳳鳴竊幸附河東再磨題句心增感

回想師門道不窮五十餘年承簡命重來故里一觀

宣府署書所見

曹心簡

地據中原盡天垂大漠荒雲多終日白草不待秋黃

任水稀魚蟹衝途但馬不自憐年四十今始歷茲方

其二

驅車纔入郭笑兀俗風新比相傳塞北風勁之故

宣化縣志

卷之三十 藝文志

六

元餉麵人七月十五日以麵蒸為人形相餽 因前代舊業自近時

貧莫漫愁彫瘵生全在大臣

登北山堂

明中翰 張名世 邑人

盤空梯石不辭艱擗翠分烟任引扳一望綠陰開遠

槩四圍青靄落平山雲中西逼鯨鯢穴日下東臨虎

江總歸擗俎內幾回時老蒼顏

環溪園雅集次岳孝廉韻

張名世

潭梁水漲碧波深遙縱扁舟向夕陰明月娟娟調雅

韻溪雲拂拂濕幽襟清尊欲覓中山味綠綺常太

古心濯足滄溟人去遠
蓬萊魚鳥笑狂吟

夏日躬履各村堡
查雨稍燥慨然感
邑令 陳坦

邊邑膠膺撫字疎
星島鴻濤集羽子
覆田堯堯憐荒

馳念比聞昇火幸
幾也去地讓耕還
祝雨

成渠幾回中夜難
酣枕惟冀三農化
日舒

乙酉九日恭迎

聖駕扈從兩日夜幸邀

琴顏爰賦小詩二首
恭紀 邑令 陳坦 楚黃人

百里巖疆輦路清
小臣何幸覲霓旌

宣化縣志 卷之三十 藝文志 七

天顏咫尺看雲日

龍表端凝識聖明
禁旅夜深殿玉洞
翠華曉發指神京

喜從扈蹕千官裏
聯輝邀霽色榮

鑾輅迎風拂面塵
就就清道寡微臣
泮河水繞旌旗耀

藥嶺特和草木春
駐蹕花圍連玉帳
構橋虹影見勞

是支脩一橋 欣看

龍馭從容去遙望
依依戴主仁

春日幸試文武生
童因賦一律 邑令 陳坦

兩載塵襟媿不文
偶乘餘暇試羣芬
戰酣應似步停

日揮就須如紙落
雲尺玉田間
碧有識有珍席上豈

徒勤春風上谷蘭
生吮簇簇江花蔚
早暉 邑令 陳坦

八蜡廟迎候有感

一官辛勤豈但說
三難份勞直作郵
亭

看民牧翻如候吏
親呼馬竟誰堪
倒屣折腰無那且

憑欄季鷹舊有尊
鱸與何事生涯日
轉九

昌平門外同友看
迎喜神 明經 林盛 楚黃人

喜迎南郭外並馬
出昌平日月搖
鑿素貌引萬旌

風迴入而勁春暖
正邊晴却笑
剛無賴茫茫逐隊行

宣化縣志 卷之三十 藝文志 六

洋河橋 時已傾圮數丈 林盛

廣惠橋聞久披風
一往觀長虹懸日
午刻缺斷雲端

遠水融新漾平沙
漲看輿梁成有
待太息倚闌干

宜署辰日 林盛

冉冉流光轉茫茫
歲月新天涯憐故
我日暮尚閒身

酒難留過眼春
不堪引鏡短髮
老儒巾

平湖石 在柳河側旁有 陳坦

花山迤北涓流清
片石欹嵌雨字
明沙積竟誰傳盛

烈邊疆猶自震威
名雙峯肆帆如
迴壘一水潺湲為

洗兵晴日徘徊風蕩漾東潭遺筆不勝情

柳河懷古

陳坦

明祚方開肇造基元勳櫛沐憶當時可憐馬革如晞

圖值數奇草牧有墓君從控旆裘何處尚

撐支將軍已曠忠魂目此地誰等墮淚碑

四百餘年山後地廓清何遽忍騎箕柳河不斷泉聲

咽沙嶺難開霧影垂恭政三千連虎賁高皇尺一感

驢兒于今塞草空含綠陵谷妻妾入望悲

春日文廟西廡觀姚全我死難遺碑 陳坦

宣化縣志

卷之三十 藝文志

九

狂飈初斂跡春氣吐晴旭坐久發興新振衣出芸局

僕夫導城東先師謁芳躅展拜俯官墻流覽恁洞屬

俄下西廡塔豐碑遺繡綠拂拭耗眼看煌煌義士錄

義士繁維何姚生益殿曲不忍儒巾污不受么麼辱

乾坤雷正氣一死信道篤遺詩凡八語字字砭末俗

宮幽魂光玉燭六籍言無慙青松挺秀沃

又有申生旺見父叔并促哀號觸柱死芳名登鬼錄

附載姚生碣允垂忠孝鶴吁嗟明祚終証遺遭荼毒

小醜醜微薰竟焚崑岡玉顧乃片時撲祇留陽精燭

增取宇宙輝煌為流品昂昂竟先師澤興起後賢

不見朱勉齊季充義勇足履彼星嶺好大兼負軍者

惟餘吾道馨景仰重薰浴

日六宜

林盛

是時何時春將畢睡起空白涵虛壁驚看雉毛綴千

行遼颯端葉紛六出天際黃雲渾欲墮樓頭坐鷓埋

到膝瓦雀巡檐拍拍飛樹枝凝凍垂垂密奚兒撥火

貯寒鑪老夫縮手捧細帙俄時興發起高哦高哦拂

紙還濡筆欲寫瑤天玉宇圖姑為碧落瓊葩述真呀

宣化縣志

卷之三十 藝文志

十

邊城氣候殊將夏還教風景粟回憶荆南明媚天峰

開園花崖釀蜜秧田嫩綠蒲塘青兒童赤膊曝紅日

吁嗟苦寒塞風寒雪車何當增慄慄意前滴溜響妻

妻校警無那換甲乙

眺遠臺

林盛

北郭雄登臨送目杳長空鎮城一幅楸枰

近譜式曾經幾局工

草場廢址

林盛

須垣斷巷草場殘翠雨劒雲廢畝中邊警已銷揚牧

散防秋空憶馬嘶風

俎豆名宦所以章往風來宣府在舊誌者六人焉止後遂闕然詳舉徵論甲申以前即我

皆未採訪於萬一非闕文獻之無徵也如前任直省總督懋愨朱公鐵嶺李公巡撫于清端公格文清公皆節錄中大賢其令德善政波及於吾圉者匪淺渺也茲奉巡撫中丞臺檄行書所統制一體崇祀厥典甚盛凡我有官君子無不樂為奮動置主割牲饋奠

宣化縣志

卷之三十

藝文志

三

唯謹皆事之可書者也謹續彙纂誌矢音如左

胡以溫

畿輔節度古扶風職任視昔較更隆神皋望郡屬有八

宣塞千里亦在中若乃督府控更遠大河以南太行

東當年總制誰卓絕懋愨朱公最忠烈體國憂民不

氣不折燕市琤飛六月霜

皇上親政始昭雪李公英英出 帝鄉前此持節多聲

望執法如山莫敢撼時雖年少性直方湍川巨壑一

力剪略灼宦蹟此尤芳清端撫泣由

特拜番除害馬拯凋瘵成周保釐召康公往代南畿海

忠介後果江表藉澄清流風不與公俱邁猶憶辛酉

對涕漣洏自公去後繼者誰謚同河津文清師厥施

未竟遂已矣民到於今總繫思思之不已請崇祀抱

牘連章接踵至 當事核實傳檄行修墜舉廢意良

是行政原欲達下情億兆心中好惡明連帥職在宣

上德興起教化此其則事關立懦與廉頑特書宣乘非

宣化縣志 卷之三十 藝文志 三

等閒

御書萬世師表已昭懸於闕里廟庭仍允禮臣議頒行

天下學宮摹勒匾額一如闕里式宜鎮九學屬在畿

內而附郭前衛學宮瞻仰獨先恭紀四十韻

胡以溫

乘輿南巡日闕里經幸時崇儒修贖典牢祀展殊儀停

輿留

御蓋異數絕等威迺更灑

如日星垂幽遐受範斯文永在茲

張翰勝曰萬世師曾歷藉往代匪不極褒詞文宣頌常
謚王爵殊非宜於皇惟

聖制兼總義無遺寥寥二千載表彰固有期偉哉臣僚

後內欽瞻得弗遲遜從勾畫下運墨仰多姿問架與結

搆布置兩備之鍾錄及義獻毫端供臨池世南公權

章肘後聽指塵文皇唐名蹟望之應奔馳宋仁善飛

白未免覺有疵幾無可舉似請况以鼎彝商周之法

物供御時追隨古器狀識篆

宣化縣志 卷之三十 藝文志 三

帝楷沙畫雄勝成日維吉聯觀寔路遠仗隊肅前導佳

氣靄朝曦戰門皆洞啟輕塵遍履綦松柏森如迆風

濤靜其枝匠氏丁丁處聲響動鱗鬚物感尚若此於

人復奚疑拜稽崇臺下盈盈溢雨墀

中和極懋建厥猷洵克稜武功已莫競文治益加釐凌

優入聖域奧盡挾百家籙誠乃由天授靡復經人思

天章時煥發

蒼藻每淋漓思將書請續譏嫌寶晉癡再閱古檜賦位

宗普照碑是皆同時事其由中管窺况乃歸典籍攷
掌浩無涯聊將簾曝意擬上早麓詩

宣俗以四月一日傾城遊於北山笙歌鼎沸良可樂

候無軍閱去坐北門了夕不至起駕往觀

適遇富平劉麟伯與共眺焉 楚黃沈宜大 悟題

忙中偷得折腰工暫領流雲肆碧瞳不意遭遊冶

會如相期有壑邱公綠垂萬戶沉烟裏翠約千峯入

檻中我愛此山逢此日融融猶見故園風

生平不厭為遊忙又際晴窗正艷敷是處輕謳潮細

宣化縣志 卷之三十 藝文志 三

管千峯秀色遶迴廊烟霞到試顏如電塵土驅人髡

易霜半刻僧房無限好隨風又下北山堂

乙酉季夏予以三院之薦乃被彈劾杜門請斥長日

無事遊北山用積前韻

青蠅假我看山工窺覺邯鄲積舊墮逼面巉岩存骨

定中最是含沙不到處柴桑一枕庶人風

道回差不為遊忙躑躅山頭狎野牧賡有清風陪靜

坐絕無媚草點迴廊天涯覆手千巖雨世事於今六

月霜一望白雲何處是傷心重步北門堂

宜府八景

燕然登翠

庚石徑通和入峭壁出以石云思發粟盈三

萬無敢磨崖自紀功

雞鳴春曉

絕塞參天一柱奇東南城闕拾相宜峯頭日出應先

見莫是司州起舞時

北山高寺

宣化縣志

卷之三十

藝文志

五

假嶺樓臺次第高羣峯如畫沿周遺山房夜半西風

起疑捲寒江百丈濤

洋河冬泮

塞北先寒春到遲軍城十萬說前時洋河臘月水盈

尺一道中開飲馬池

馬柳盈街

萬戶千家柳垂迎風着雨弄青絲枯中合抱千霄

立知是經霜百歲枝

響泉夏蛙

城外城中接小泉爭將一脈灌桑田畦墻粵粵

第寥落輕黃麥浪前

黑峯殘雪

容山色兩斑爛野鳥重來失故山北望長城萬餘

里寒林浩照有無間

箭嶺晴煙

鎮城今見曉煙稠山色氤氳入畫樓一帶平岡三百

里真成天險護神州

燕然登翠詩

步熊中丞原韻

王天鑑 近獻

宣化縣志

卷之三十

藝文志

美

東南鼙鼓罷江干對孤峯萬仞寒地擁金湯蟠虎

踞天開煙霧出螺鬟邊風浩渺飛沙暮嶺樹蒼涼帶

月看車騎將軍今在否燕然千載尚噴訕

前題

胡以溫 書巢

合追周雅作斯千出塞三千事已寒那有石踪留漢

月長疑雲無撼山巖人深萬仞餘人隔層城不

厭看安用臨風懷謝眺此中亦自有青岷

前題

陸濬齋 未應

蚩尤稽顙格虞千此日燕然烽火寒門雪吹孔

髮雨嵐空翠滿爐髮岩銷戰氣征鴻茂樹帶寒

馬看弗閉玉關開戌卒何須募碣勒噴阮

前題

高聯捷 達衡

素娥翠袖刻長干仰見清光氣從行彩漸消山露

骨披蘿錯翳曉垂髮煙飛絲樹崖初合風逐歸鴻天

半看憑吊那堪詢往事空餘碧水瀉蟾蜍

前題

姚承照 戴熙

燕然翠色映河干一望平流澗水寒石壁接天凌漢

氣蒼嵐如帶雜雲鬟山開鳥道憑人上碑有龍文勒

宣化縣志

卷之三十 藝文志

王

馬看莫謂征西成故事留將几石在噴阮

前題

王之佐 左之

當年車馬蕩河干今日仍留劍氣寒石磴連崖遮日

影翠屏着雨亂雲鬟遙瞻草色千秋冷獨弔荒碑萬

古看誰道燕然稱上將空教遺賦寄噴阮

前題

長洪鐘 金聲

南山劈立鎮河干夏日陰崖風雨寒遠聳秀峯使碧

漢近呈翠色卧雲鬟脉來恒嶽氛衝斗形勝宜疆景

絕看莫道金城成鐵鑄全憑玉塞列重城

前題

碧峯翠嶽近城干影入洋河澗水寒鹿野月明空石

前題

穴玉關秋色點螺鬟屏收寒雨于層出壁破天光萬

前題

石壁蒼茫似鏤干秋風颯颯水聲寒漫思絕塞三千

前題

里疑對巫峯十二襲鳥道長從雲外過龍堆好在雪

前題

中看漢跡勦萊猶堪溯為訪遺碑到碧阮

前題

龍盤形勢起長干雲樹蕭森塞氣寒萬壑奔泉流夜

前題

月千峯插漢動爐鬟須教可汗聞風道莫使英雄帶

前題

淚看勒碑朔方成往事書生空自對噴阮

宣化縣志

卷之三十 藝文志

天

萬歲同聲聲挾雷邊城倉庫一時開

前題

長至後五日雨雪新晴

前題

聞言子半見天心此日天心不何禁早是饑民寒切

前題

膚何當白雪到山岑

前題

萬歲同聲聲挾雷邊城倉庫一時開

前題

長至後五日雨雪新晴

前題

聞言子半見天心此日天心不何禁早是饑民寒切

前題

膚何當白雪到山岑

前題

萬歲同聲聲挾雷邊城倉庫一時開

雪中喜弄

陰消旭日上城闌臘月陽和類小春一飽休忘經歲

饑天將盡意覺斯民

一官牢落竟三年不信城南寺有蓮柳帶拂雲青欲

滿萍衣蓋水碧於煙若添舟是秦淮上那記身居絕

塞前勝地最宜人寂寞嘉游莫謂老夫傳

洋河橋

吳盛藻

何以最愁余長橋人影疎應許公莫渡豈歎食無魚

宣化縣志

卷之三十 藝文志

无

岸柳青燐外邊沙白骨餘遊人徒悵望雙鯉不傳書

環溪園感廢

處士 張喬年

知魚亭下魚何在先月軒中月自圓春燕不知人已

去年年猶繞舊堂前

北山堂

張喬年

既醉忘真作狂吟任品題最憐深柳外猶有亂鶯啼

贈清苑令邵子昆父母

張喬年

十月霜飛驛路寒雙鳧忽下萬人歡六歲久播神

譽邊塞欣同召伯看破格推恩周士類從權普服

民養每思借寇援餒溺又恐長才庸彈丸

丙子嘉平西郊迎 駕恭紀

張喬年

行間 聖澤深無極惟情仰報艱

雪歌

小春十日見三白屋上堆來過一尺片片水花撲面

飛寒風如整復如磔莫謂來年主歲豈可憐目下邊

張喬年

宣化縣志 卷之三十 藝文志

无

民窮鶉衣百結薪如桂十室之邑九室空可惟党尉

情性別烹羊煮酒云賞雪獸爐煖閣倚紅粧由今思

之真作華人言風韻數陶家我道寒酸喬作衙一生

碌碌無他事喫得盧仝我梳茶更笑腐儒孟浩然何

處 梅在雪天假饒凍死驢背上較比蘇卿孰值錢

歌此中大意人知否君不見古人有言實可親天下

人安共我安起視當今民牧者肥馬輕裘良足歎

論曰日星河獄天地之文章煥垂千古人乘天地之

靈吐層英華或為疏議則演緒據懷或為傳記則

暢采畫形或為咏歌則敲金戛玉或為頌為禱為

記述兵戰禮樂等疏議山川樓榭等咏歌以及禱

神募衆詳移公務按類紀之豈惟就文徵考可備

黍稷而飾如編貝粲若貫珠文蔚藝苑足寶菁芳

卽與日星河獄并煥千古寧非不朽之盛事哉

宣化縣志

卷之三十 藝文志

三十一

附雍正十三年詔免宣化府門稅碑記及此碑記理
宜積在賦役志後但賦役志僅積乾隆元年永華門
稅之部文滿清雍正十三年免稅碑始之
古按次積入才先以首作是碑失餘段滿清不積實有
百

小黃孫十男皆批行免刻錄入藝文志後以備異日
稽查湖源之微意云

興研定內初年宣化並無稅項嗣緣中外通衢蒙古進口

貨為其益馬牛羊有不在張家口上稅者始立城稅

每年額征銀七百六十三兩七錢六分萬全都司經

收都司奉裁稅歸衛守康熙十六年因軍需缺之增

宣化縣志

卷之三十一

藝文志

三十一

銀一百五十二兩七錢六分二厘共徵銀九百一十

六兩五錢一分二厘康熙十七年城稅歸並張家口

監督府衛守姜際龍濫行倍徵即以倍徵私例交送

通同監督議立四門稅項分佈巡攔人役橫征暴斂

南來各商關已稅貨物北來張家口已稅貨物進城

入宣化府志卷之三十一 藝文志 賦役志 賦背負以至

民間日月服食零星等物逐件抽收織悉無遺宣民

之害實自此始積久弊深額征逐漸加至二千七百

六十餘兩之多賦役任意苛剝一貨二三其稅以致

商賈稅城廓為畏途避跡潛踪別投勢可憐城市
荒涼地方了無生氣茲蒙 張家口稽查軍需兵科
給事中尚韓德目擊宣郡沙漠之區百物不產唯藉

致令血脉不能流通上無加於

賦下有壞於地方痛惜民艱奏請豁免奉

旨督李 查明妥議具奏行文布政使王 韓 慕口北道

谷詳確宣化府 韓守會署宣化府董 詳怡會宣化
孫馮 詳宗 詳恩 詳遠 詳款 詳確 詳查 詳除 詳弊 詳端 詳通 詳詳 在案督

宣化縣志

卷之三

藝文志

三十一

憲具奏奉

大都會議得宣府門稅原曰蒙古牛羊馬
駝考益並商民綉緞茶蓋布疋等物往來貨易不赴
張家口納稅在外宣府私自貿易是以從前行令監
督稽察征收其在張家口者庸關已經上稅驗放者

征收若已在張家口者庸關上稅驗放宣府止令驗

票毋許重徵其南北商貨不由張家口者庸關上稅
驗放竟到宣府市賣應行上稅者遵例公平徵收不

許系亮奇案至宣化府庸關二處小民肩挑背負
以及日用廉食零星等物均係小民糊口之計不在
則例之內然依山海關則例亮奇案其征收應令該監

府庸關之例一槩毋其征收請

百飭部將現在徵收則例查明較對頒發新例遵照刊刻木
榜豎立四門勿得以別樣告示粘貼掩蓋再小民肩
挑背負日用零星等物先其抽收徵稅亦令照例刊
刻木榜豎立街市務使商民共曉除設立稅課大使

宣化縣志

卷之三

藝文志

三十一

監收外仍飭地方文武官員不時巡查毋使巡捕人
役額外苛索影射侵收倘奸商將應稅貨物拆卸分
担捏充肩挑背負至口希圖漏稅等弊該監督即行
稽察照依罰征收例等目於雍正十三年六月初二

職欽此欽遵在案奉 部令各侯開列則例一體遵行

是為記
時則例未下往來商賈有挑背負者一進一出逐物

抽收商賈與監役吵嚷控告不一而是宣邑舖商高
榮等又具呈請示蒙

川鹽驛道署... 口北道呂... 會分...

具

起請革無益之門稅等事奉

該部議奏 大部議得南有居庸關北有張家口往來商

賈已附貨稅至宣化門稅監督既稱馬無益之稅應

如所請永行革除其所缺稅額仍於張家口居庸關

宣化縣志

卷之三十一

藝文志

三十四

二嚴盈餘項內補足報解奉

日未奉宣化府門稅仍着直督李 行文地方官出示布告

悉令商民共曉通行在案然門稅雖經永行革除實

係雍正十三年

皇帝詔免馬之關其端也於是宣化舖商却振民高

惠德欣謂宣化門稅一節盡沐

殊恩仁同天覆德並地生憫造微之窮苦除百年之大害

各屬大人忠公仁國恤商愛民仰見聖俞呼嚮明良

不慶聞耶... 不辭敢巷弄權... 勢極皆願捐...

勒石... 文政林... 精神文... 績志... 殊恩於萬世...

示來... 從此... 息... 文... 治... 功... 也...

之... 林... 澄... 澤...

月... 日... 主...

分... 口... 北... 道... 整... 飭... 宣... 化... 事... 業... 獲... 獲... 傳... 事... 務... 按...

審... 便... 司... 副... 使... 郭... 輝... 昌... 驗... 准... 刊... 刻... 續... 志... 勒... 碑... 二... 碼... 在...

南門... 苑... 城...

宣化縣城內... 煙... 商... 和... 振... 民... 雜... 貨... 商... 高... 榮... 謹... 續...

宣化縣志

藝文志

河北府州縣志總目錄

第一冊	平谷縣志
鹿縣志	良鄉縣志 密雲縣志 東
第二冊	晉州志 新修高
邑縣志	元氏縣志
第三冊	樂城縣志
平山縣志	平山縣新編鄉
土志	西寧縣志
第四冊	懷安縣志
宣化縣志	
第五冊	撫寧縣志
東安縣志	
第六冊	大城縣志
霸州志	固安縣志
第七冊	容城縣志
蠡縣續志	涿鹿縣鄉土志
阜平縣志	廣昌縣志
第八冊	易水志 滿城縣志
第九冊	東光縣志
興濟縣志	直隸深州志
棗強縣志	
第十冊	武強縣新志
武邑縣志	故城縣志
第十一冊	重刻館陶縣志

鷄澤縣鄉土志略	隆平
縣志	任縣志
第十二冊	大名府志
新河縣志	清河縣志
第十三冊	廣宗縣志
平鄉縣志	元城縣志
第十四冊	邢臺縣志
南和縣志	涑水縣志

第四冊目錄 [乾隆]懷安縣志目錄

序	一
凡例	五
姓氏	六
輿圖	七
目錄	一二
卷之一	一三
卷之二	一五
卷之三	一六
卷之四	一七
卷之五	二一
卷之六	二三
卷之七	二四
卷之八	二六
卷之九	三一
卷之十	三五

[乾隆]宣化縣志目錄

卷之十一	三六	卷之六	一四〇
卷之十二	四二	卷之七	一四六
卷之十三	四三	卷之八	一五五
卷之十四	四五	卷之九	一六二
卷之十五	四六	卷之十	一七四
卷之十六	四七	卷之十一	一八三
卷之十七	五〇	卷之十二	一八八
卷之十八	五九	卷之十三	一九五
卷之十九	六五	卷之十四	二〇五
卷之二十	六七	卷之十五	二一〇
卷之二十一	七〇	卷之十六	二一四
卷之二十二	七二	卷之十七	二二四
卷之二十三	七四	卷之十八	二三四
卷之二十四	七六	卷之十九	二四三
序	九五	卷之二十	二五三
凡例	九八	卷之二十一	二六〇
目錄	九九	卷之二十二	二六八
宣化府縣城圖	一〇一	卷之二十三	二八四
卷之一	一〇六	卷之二十四	二九五
卷之二	一一三	卷之二十五	三〇六
卷之三	一一九	卷之二十六	三一九
卷之四	一二三	卷之二十七	三二七
卷之五	一三〇	卷之二十八	三三六
		卷之二十九	三五九
		卷之三十	三六八